

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

にしひらない
西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2017

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

西平内 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して、平成26・27年度に発掘調査を行った九戸郡洋野町西平内Ⅰ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、本遺跡からは縄文時代後期初頭から前葉にかけての大規模な配石遺構とその内側に列石が確認され、さらにそれらを覆う2枚の整地土の存在も明らかとなりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成29年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内に所在する西平内Ⅰ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号は「IF48-0041」、遺跡略号は「NHⅠ-14・15」である。
- 4 野外調査・室内整理に関わる期間等は、以下のとおりである。

野外調査…期 間：平成26年6月2日～11月28日 対象面積：5,500㎡ 終了面積3,250㎡
平成27年4月20日～10月2日 終了面積：2,250㎡
担当者：平成26年度 濱田 宏、宮内勝巳、藤田崇志
平成27年度 濱田 宏、高木 晃、村上 拓、米田 寛、川村 均、藤田崇志、
南野龍太郎、中浜洋介、伊東 格

室内整理…期 間：平成26年10月1日～10月31日、12月1日～平成27年3月31日
平成27年11月1日～平成28年3月31日
担当者：平成26年度 濱田 宏、宮内勝巳
平成27年度 濱田 宏、川村 均、藤田崇志
- 5 報告書は、第Ⅰ章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第Ⅱ章以下を濱田が執筆した。本書の構成・編集は濱田・川村が行った。
- 6 野外調査時には青森県階上町、岩手県久慈市・洋野町の野外作業員、室内整理では当センターの期限付職員が諸作業に従事した。
- 7 試料の分析・鑑定は次の機関に依頼した。

放射性炭素年代測定（AMS）…株式会社加速器分析研究所
石質鑑定…花崗岩研究会
ヒスイの成分分析…糸魚川市フォッサマグナミュージアム
- 8 調査および報告書作成にあたり、次の方々からご指導をいただいた（順不同・敬称略）。

小林達雄（國學院大學）、富樫泰時（秋田県在住）、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、菊池徹夫（早稲田大学）、岡村道雄（東京都在住）、山本暉久（昭和女子大学）、鈴木保彦（日本大学）、戸田哲也（株式会社玉川文化財研究所）、熊谷常正（盛岡大学）、高田和徳（御所野遺跡博物館）
成田滋彦・永瀬史人（ともに青森県埋蔵文化財調査センター）、関根達人・上條信彦（ともに弘前大学）、古谷渉（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、植田真・秋本雅彦（株式会社パスコ）、山田しょう（株式会社加速器分析研究所）、長内和則（岩手県久慈市在住）、中澤秀男（岩手県一関市在住）、井上雅孝（滝沢市教育委員会）、小保内裕之（八戸市博物館）、千田政博（洋野町教育委員会）、中澤秀男（一関市在住）、
- 9 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 2カ年の調査成果は、それぞれ当センターホームページ、現地説明会資料、概報に公表しているが、記載が異なる場合は本書の報告がすべてに優先する。

凡 例

- 1 遺構図の縮尺は1/40を原則としたが、焼土遺構および埋設土器は1/20、陥し穴状遺構は1/60で掲載した。これに依らないものについては、それぞれにスケール等を示している。
- 2 層位の表記は、基本層序にローマ数字を、遺構の埋土に算用数字を用いた。
- 3 遺構図版中の石器は「S」と表記した。
- 4 遺物図は、土器と石器のうち礫石器が1/3、土製品・制片石器・石製品が1/2、石皿などの大形の礫石器は1/4および1/5の縮尺で掲載した。
- 5 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に基づいている。
- 6 国土地理院発行の地形図は、図中に図幅名と縮尺を付して掲載した。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	周辺の地形	2
2	地 質	2
3	基本層序	2
4	周辺の遺跡	4
III	野外調査と室内整理の方法	8
1	野 外 調 査	8
(1)	グリッドの設定	8
(2)	試掘・表土除去	8
(3)	遺構の検出と精査	8
(4)	写 真 撮 影	8
(5)	調 査 経 過	9
2	室 内 整 理	10
(1)	作 業 経 過	10
(2)	遺物整理の方法	10
(3)	遺構図面の整理	10
(4)	写真撮影と整理	10
IV	検出遺構と出土遺物	11
1	検 出 遺 構	11
(1)	竪穴住居跡	11
(2)	竪穴状遺構	13
(3)	土 坑	13
(4)	陥し穴状遺構	21
(5)	炉 跡	24
(6)	焼土遺構	26
(7)	埋設土器	28
(8)	掘立柱建物跡と柱穴	29
(9)	配石遺構	30
(10)	整地層	49
2	出 土 遺 物	50

V	自然科学分析	185
1	平成26年度西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	185
2	平成27年度西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	191
3	ヒスイ製垂飾品の鑑定結果	195
VI	総括	198
1	調査経過のまとめ	198
2	各種遺物の出土状況	198
3	配石遺構群構成礫の石質	199
4	遺構の重複関係とその内容	203
	報告書抄録	295

表 目 次

第1表	周辺の縄文時代後期の遺跡	6	第4表	土製品観察表	180
第2表	柱穴状土坑一覧表	50	第5表	石器・石製品観察表	182
第3表	土器観察表	174			

図 版 目 次

第1図	遺跡位置図	1	第19図	25～27号土坑	65
第2図	周辺の地形区分図	3	第20図	28～30号土坑	66
第3図	土層概念図	3	第21図	31～34号土坑	67
第4図	周辺の遺跡	5	第22図	35～37号土坑	68
第5図	グリッド配置図	7	第23図	1～3号陥し穴状遺構	69
第6図	1号竪穴住居跡	52	第24図	4・5号陥し穴状遺構	70
第7図	2号竪穴住居跡	53	第25図	6・7号陥し穴状遺構	71
第8図	3号竪穴住居跡	54	第26図	8～10号陥し穴状遺構	72
第9図	4号竪穴住居跡	55	第27図	11～13号陥し穴状遺構	73
第10図	5号竪穴住居跡	56	第28図	14-1～16号陥し穴状遺構	74
第11図	1号竪穴状遺構	57	第29図	1～3号炉跡	75
第12図	1～4号土坑	58	第30図	4・5号炉跡	76
第13図	5～8号土坑	59	第31図	6～8号炉跡	77
第14図	9～11号土坑	60	第32図	9・10号炉跡	78
第15図	12～14号土坑	61	第33図	1～4号焼土遺構	79
第16図	15～18号土坑	62	第34図	5～8号焼土遺構	80
第17図	19～21号土坑	63	第35図	9～12号焼土遺構	81
第18図	22～24号土坑	64	第36図	13・14号焼土遺構	82

第37図	1～4号埋設土器	83	第84図	出土遺物(8)	130
第38図	1・2号掘立柱建物跡	84	第85図	出土遺物(9)	131
第39図	3・4号掘立柱建物跡	85	第86図	出土遺物(10)	132
第40図	5号掘立柱建物跡	86	第87図	出土遺物(11)	133
第41図	柱穴位置図	87	第88図	出土遺物(12)	134
第42図	1・2号集石	88	第89図	出土遺物(13)	135
第43図	3・4号集石	89	第90図	出土遺物(14)	136
第44図	5・6号集石	90	第91図	出土遺物(15)	137
第45図	7号集石	91	第92図	出土遺物(16)	138
第46図	8・9号集石	92	第93図	出土遺物(17)	139
第47図	10・11号集石	93	第94図	出土遺物(18)	140
第48図	12・13号集石	94	第95図	出土遺物(19)	141
第49図	14・15号集石	95	第96図	出土遺物(20)	142
第50図	16・17号集石	96	第97図	出土遺物(21)	143
第51図	18・19号集石	97	第98図	出土遺物(22)	144
第52図	20・21号集石	98	第99図	出土遺物(23)	145
第53図	22・23号集石	99	第100図	出土遺物(24)	146
第54図	24・25号集石	100	第101図	出土遺物(25)	147
第55図	26・27-1・2号集石	101	第102図	出土遺物(26)	148
第56図	28・29号集石	102	第103図	出土遺物(27)	149
第57図	30・31号集石	103	第104図	出土遺物(28)	150
第58図	32・33-1・2号集石	104	第105図	出土遺物(29)	151
第59図	34・35号集石	105	第106図	出土遺物(30)	152
第60図	36-1・2号集石	106	第107図	出土遺物(31)	153
第61図	37・38号集石	107	第108図	出土遺物(32)	154
第62図	39・40号集石	108	第109図	出土遺物(33)	155
第63図	41・42号集石	109	第110図	出土遺物(34)	156
第64図	43・44号集石	110	第111図	出土遺物(35)	157
第65図	45・46号集石	111	第112図	出土遺物(36)	158
第66図	47・48号集石	112	第113図	出土遺物(37)	159
第67図	49・50号集石	113	第114図	出土遺物(38)	160
第68図	51～53号集石	114	第115図	出土遺物(39)	161
第69図	54・55号集石	115	第116図	出土遺物(40)	162
第70図	56・57号集石	116	第117図	出土遺物(41)	163
第71図	58号集石(1)	117	第118図	出土遺物(42)	164
第72図	58号集石(2)・59号集石	118	第119図	出土遺物(43)	165
第73図	内帯の石列	119	第120図	出土遺物(44)	166
第74図	整地層断面図A・C	120	第121図	出土遺物(45)	167
第75図	整地層断面図B	121	第122図	出土遺物(46)	168
第76図	整地層断面図D	122	第123図	出土遺物(47)	169
第77図	出土遺物(1)	123	第124図	出土遺物(48)	170
第78図	出土遺物(2)	124	第125図	出土遺物(49)	171
第79図	出土遺物(3)	125	第126図	出土遺物(50)	172
第80図	出土遺物(4)	126	第127図	出土遺物(51)	173
第81図	出土遺物(5)	127	第128図	遺物毎の出土分布(1)	200
第82図	出土遺物(6)	128	第129図	遺物毎の出土分布(2)	201
第83図	出土遺物(7)	129	第130図	遺物毎の出土分布(3)	202

写真図版目次

写真図版1	平成26年度調査 航空写真……………209	写真図版38	1～4号集石……………246
写真図版2	調査区近景……………210	写真図版39	5～7号集石……………247
写真図版3	基本層序・整地層の堆積(1)……………211	写真図版40	8～10号集石・作業風景……………248
写真図版4	整地層の堆積(2)……………212	写真図版41	11～13号集石……………249
写真図版5	1～4号土坑……………213	写真図版42	14～17号集石……………250
写真図版6	5～8号土坑……………214	写真図版43	18～22号集石・作業風景……………251
写真図版7	9～12号土坑……………215	写真図版44	23～26号集石・作業風景……………252
写真図版8	1～4号陥し穴状遺構……………216	写真図版45	27～30号集石……………253
写真図版9	5～8号陥し穴状遺構……………217	写真図版46	31～34号集石……………254
写真図版10	9～12号陥し穴状遺構……………218	写真図版47	35～38号集石・作業風景……………255
写真図版11	13～16号陥し穴状遺構……………219	写真図版48	39～42号集石・実測作業……………256
写真図版12	1号埋設土器、 1～3号焼土遺構……………220	写真図版49	43～45号集石……………257
写真図版13	4～7号焼土遺構……………221	写真図版50	46～49号集石……………258
写真図版14	平成27年度調査 調査区近景……………222	写真図版51	50～54号集石・現地説明会……………259
写真図版15	内帯全景・外帯の状況ほか……………223	写真図版52	55～58号集石……………260
写真図版16	1号竪穴住居跡……………224	写真図版53	59号集石・遺物出土状況……………261
写真図版17	2号竪穴住居跡……………225	写真図版54	出土遺物(1)……………262
写真図版18	3号竪穴住居跡……………226	写真図版55	出土遺物(2)……………263
写真図版19	4号竪穴住居跡……………227	写真図版56	出土遺物(3)……………264
写真図版20	5号竪穴住居跡・作業風景……………228	写真図版57	出土遺物(4)……………265
写真図版21	1号竪穴状遺構・作業風景……………229	写真図版58	出土遺物(5)……………266
写真図版22	13～16号土坑……………230	写真図版59	出土遺物(6)……………267
写真図版23	17～20号土坑……………231	写真図版60	出土遺物(7)……………268
写真図版24	21・22号土坑・作業風景……………232	写真図版61	出土遺物(8)……………269
写真図版25	23～26号土坑……………233	写真図版62	出土遺物(9)……………270
写真図版26	27～30号土坑……………234	写真図版63	出土遺物(10)……………271
写真図版27	31～34号土坑……………235	写真図版64	出土遺物(11)……………272
写真図版28	35～37号土坑、1・2号炉跡……………236	写真図版65	出土遺物(12)……………273
写真図版29	3～6号炉跡……………237	写真図版66	出土遺物(13)……………274
写真図版30	7～10号炉跡・作業風景……………238	写真図版67	出土遺物(14)……………275
写真図版31	8～11号焼土遺構……………239	写真図版68	出土遺物(15)……………276
写真図版32	12～14号焼土遺構、 2号埋設土器……………240	写真図版69	出土遺物(16)……………277
写真図版33	3・4号埋設土器・ 調査区からの眺望……………241	写真図版70	出土遺物(17)……………278
写真図版34	1・2号掘立柱建物跡……………242	写真図版71	出土遺物(18)……………279
写真図版35	2号掘立柱建物跡・現地公開……………243	写真図版72	出土遺物(19)……………280
写真図版36	3号掘立柱建物跡……………244	写真図版73	出土遺物(20)……………281
写真図版37	4号掘立柱建物跡……………245	写真図版74	出土遺物(21)……………282
		写真図版75	出土遺物(22)……………283
		写真図版76	出土遺物(23)……………284
		写真図版77	出土遺物(24)……………285

写真図版78	出土遺物 (25)	·····	286	写真図版83	出土遺物 (30)	·····	291
写真図版79	出土遺物 (26)	·····	287	写真図版84	出土遺物 (31)	·····	292
写真図版80	出土遺物 (27)	·····	288	写真図版85	出土遺物 (32)	·····	293
写真図版81	出土遺物 (28)	·····	289	写真図版86	出土遺物 (33)	·····	294
写真図版82	出土遺物 (29)	·····	290				

I 調査に至る経過

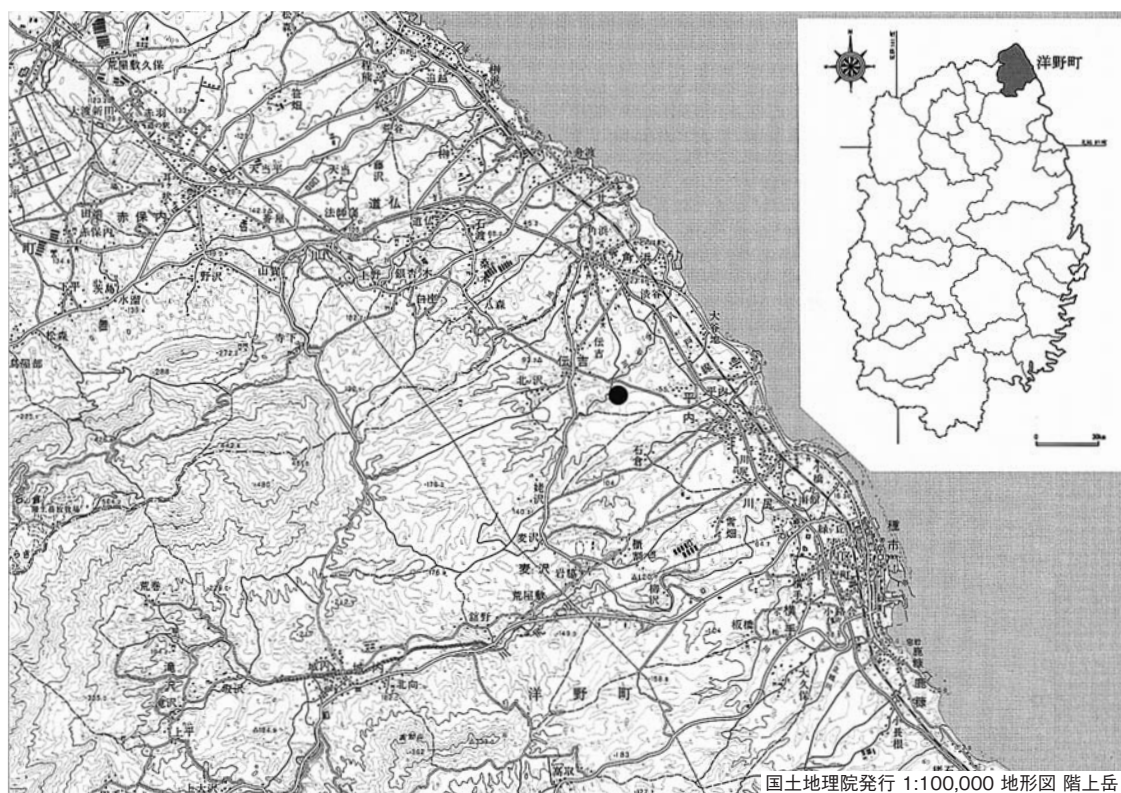
西平内 I 遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業(洋野～階上)の事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年2月6日付け国東整陸一調第1027号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年2月13日に試掘調査を行い、平成25年3月22日付け教生第1776号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成26年は4月1日付け、平成27年は4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 遺跡位置図

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 周辺の地形（第2図）

九戸郡洋野町は岩手県北沿岸、青森県境に位置し、北は青森県階上町、南は久慈市、西は九戸郡軽米町・九戸村などの市町村、東は太平洋に面している。西平内Ⅰ遺跡は、最寄りの太平洋岸からおよそ2km、青森県境からも同程度の距離をもつ北向きの丘陵上に立地する。

従来この地域の段丘・丘陵は、高位から九戸段丘、白前段丘、種市段丘、玉川段丘に分けられてきたが、松山力氏は種市段丘を種市段丘と川尻段丘に細分（松山：2004）し、その後更にこの川尻段丘を白前段丘の低位面に組み入れ、高位の白前段丘とともに白前段丘として区分し直している（松山：2013）。

本遺跡は、遺跡の西側を北流する渋谷川と20mほどの比高をもち、白前段丘高位面から低位の川尻段丘にかけて広がる。今回の調査範囲における標高は61.4～63.2mで、配石遺構群北側の調査区域外は北向きの広い緩斜面となる。また、調査区西側は段丘崖の急傾斜面となっており、遺跡範囲は確実に渋谷川で区切られている。

2 地質

洋野町（旧種市町）の地質は、町東側のJR八戸線と海岸線の間を除き花崗閃緑岩で占められ、それ以外の上述した地区は、角浜から渋谷川河口付近までがデイサイト～流紋岩質溶岩や火山砕屑岩、その地域から有家川河口付近までは礫岩や凝灰岩を伴う砂岩（種市層）を基盤とする。これら基盤岩上には、段丘堆積物の砂礫層・砂層・泥層などがのり、さらにこの上を火山灰や軽石起源の褐色火山灰層群と黒色土（クロボク）が覆う。

褐色火山灰層群は、下位から九戸火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層の3つに区分される。九戸火山灰層は、旧種市町域では2m以上の厚さをもつが、軽石層の分布や層序は明らかでない。高館火山灰は、後期更新世の火山砕屑物などから構成された地層で、主に十和田火山起源のものから構成される。

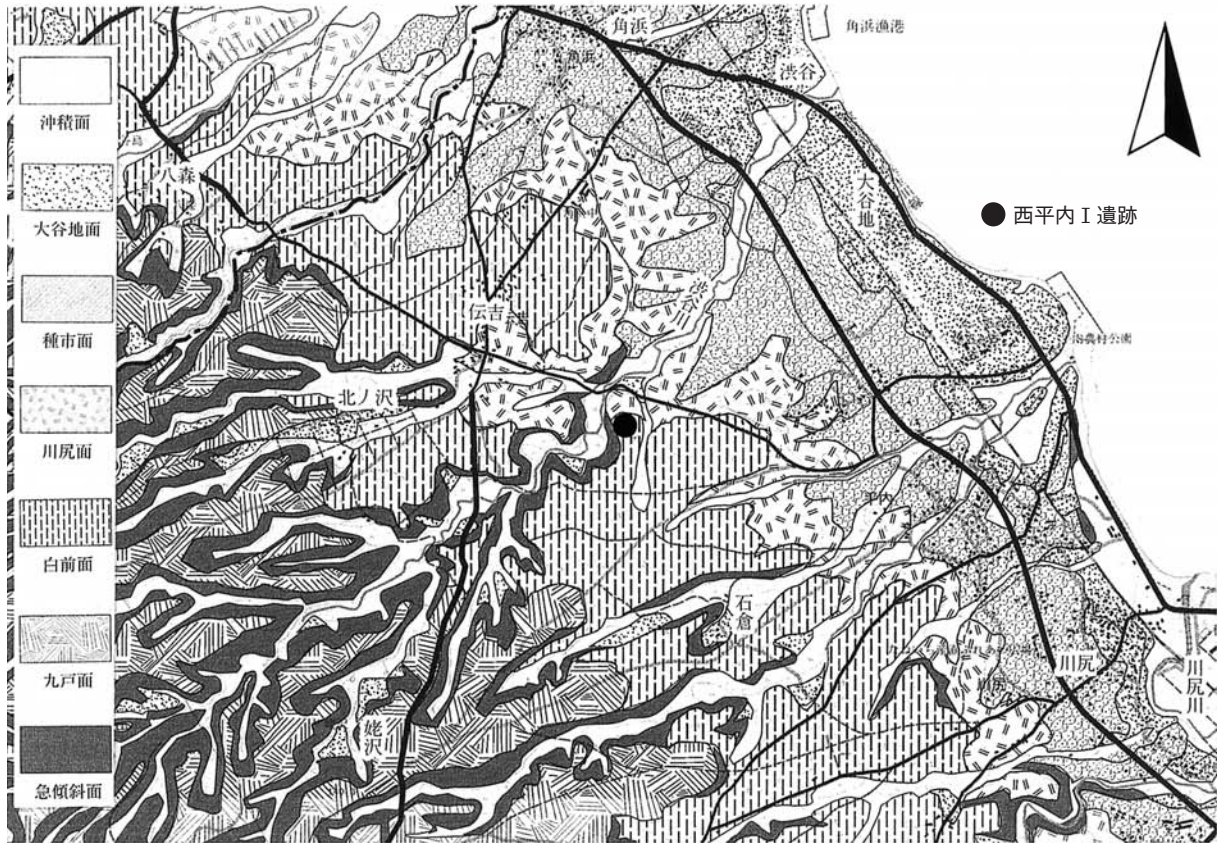
八戸火山灰層は、火山砕屑物層とその上の火砕流堆積物の2つから構成され、従来12,000～13,000年前に噴出した火山砕屑層と言われてきたが、最近では約15,000年前とされる。青森県南東部では、火山灰層と軽石層が互層となり、下位から6層に区分されるが本遺跡での対比は出来ていない。

岩手県北から青森県東南部にかけての完新世火山砕屑物の状況については、下位から南部軽石層、小国軽石層、中振軽石層、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層などの十和田火山起源のものと、それより新しい苫小牧火山灰層（従来白頭山苫小牧と言われたもの）がある。

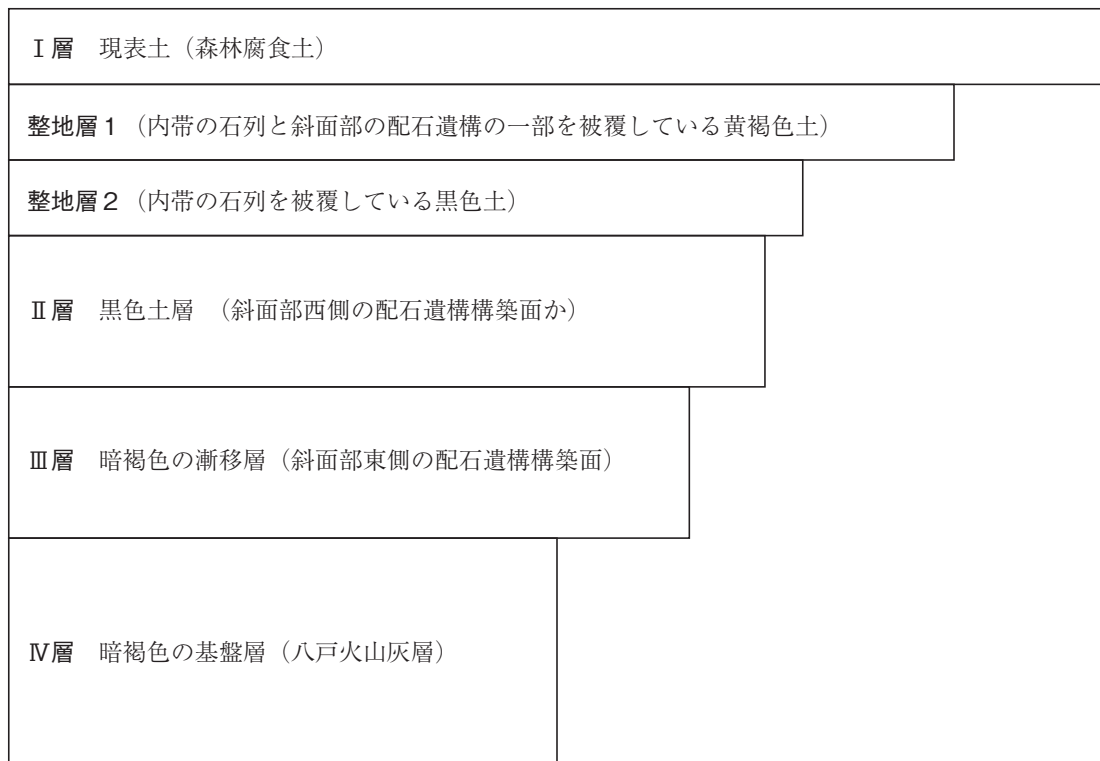
3 基本層序（第3図）

調査前の調査区の状況は、昭和に入り植林された杉林と雑木の生い茂る山林で、地権者によると地形を大きく変えるような土地造成は行っていないとのことである。

小さな尾根状をなす当初の調査区中央部と東側ないし南端付近では、整地層の有無により若干層位に違いがあるが、概ね以下のような層序をなしている。なお、整地層1・2は、基本層序ⅠとⅡの間に介在し、上に間層を挟んでいない。



第2図 周辺の地形区分図



第3図 土層概念図

第Ⅰ層：10YR2/3 黒褐色 シルト 現表土及び森林腐食土で層厚15～20cm。
 (整地層1：10YR4/4 褐色 粘土質シルト)
 (整地層2：10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト これを基調とするが上面は黄褐色との混合土に見える)

第Ⅱ層：10YR2/1 黒色 シルト 橙色の火山噴出物を全体的に含む。層厚20～25cm。
 第Ⅲ層：10YR3/3 暗褐色 シルト 漸移層で層厚10～20cm。本層上面が配石遺構構築面。
 第Ⅳ層：10YR3/4 暗褐色 シルト 八戸火山灰層で層厚は50cm以上。

整地層1については、第Ⅳ層以下のいわゆる浮石粒を含む地山(暗褐色土)とは異なり、まったくそれを含まないという点から、人手により持ち込まれた土壌と解釈した。また、整地層2は、第Ⅱ層の黒褐色土が平らに造成され、その部分が整地された土壌のように見えている可能性があるが、調査時には判断をつけられなかった。

4 周辺の遺跡(第4図・第1表)

平成27年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録される洋野町内の遺跡は207箇所、平成16年度には、現洋野町教育委員会により角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢)地区を対象とした詳細分布調査が行われ、その際に43箇所もの遺跡が追加登録された。それ以後、町内をいくつかの地区に分け分布調査を実施する予定だったが、実施されていない。この中では特にも、旧大野町に未発見の遺跡が多く存在するものと考えられている。以下、時代毎に町内の遺跡について記載する。

旧石器時代では、鉄山遺跡・有家遺跡が紹介され、いずれからも石刃・剥片が出土しているという。ともに高館火山灰層から出土したと言われる。

縄文時代の遺跡は143箇所を数えるが、草創期のものは確認されていない。早期には大平遺跡・ゴッソー遺跡・大宮Ⅰ遺跡などがあり、当埋蔵文化財センターが調査したゴッソー遺跡からは日計式・寺の沢式土器の他、魚骨回転文を有するものも出土している。また、当時岩手大学の草間教授によって調査された大宮遺跡からは貝殻文土器が多く出土し、中でも貝殻文が施文される尖底土器が復元されたことは大きな成果とされた。前期では、上のマッカ・平内Ⅰ・藤好沢などの他、上述のゴッソー遺跡からは前期初頭の遺物が多く出土した。中期では、千敷平・北ノ沢Ⅰなどが挙げられる。

本遺跡と同時期となる後期の遺跡は、平内Ⅱ・たけの子・上岡谷・長坂・上のマッカ・石倉・上水沢Ⅱなどの遺跡があり、当センターが調査した上水沢Ⅱ遺跡からは後期中葉を主体とする住居跡が11棟見ついている。本遺跡の周辺2km圏内にあつて後期の遺物が採取できる遺跡には、田ノ端(後期前葉?)・笹花Ⅱ(後期初～前葉)・伝吉Ⅰ(後期前葉)・平内Ⅱ(後期前葉)・北平内Ⅴ(?)・姥沢Ⅰ(後期初～前葉)・姥沢Ⅲ(後期前～中葉)など7遺跡がある。晩期では、たけの子・大平・戸類家などがあり、中でもたけの子遺跡は町内を代表する晩期の遺跡として有名である。また、戸類家遺跡は、昭和32年当時慶応大学の江坂教授によって発掘調査された遺跡である。

弥生時代の遺跡では、上水沢Ⅱ遺跡からは弥生時代後期の住居跡1棟が見つかり、この他に荒巻・大平・大宮Ⅰ・大宮Ⅱ遺跡などある。洋野町内の貝塚としては、ホックリ貝塚・八木貝塚・小子内貝塚・黒マッカ貝塚の4遺跡があり、また製塩関連と目されるものには、4遺跡に加えゴッソー・たけの子遺跡などが挙げられよう。また、古代の製塩遺跡として、二十一平遺跡からは製塩土器とともに土製支脚片が多く出土しており、一連の作業場であったことを窺わせる。

4 周辺の遺跡

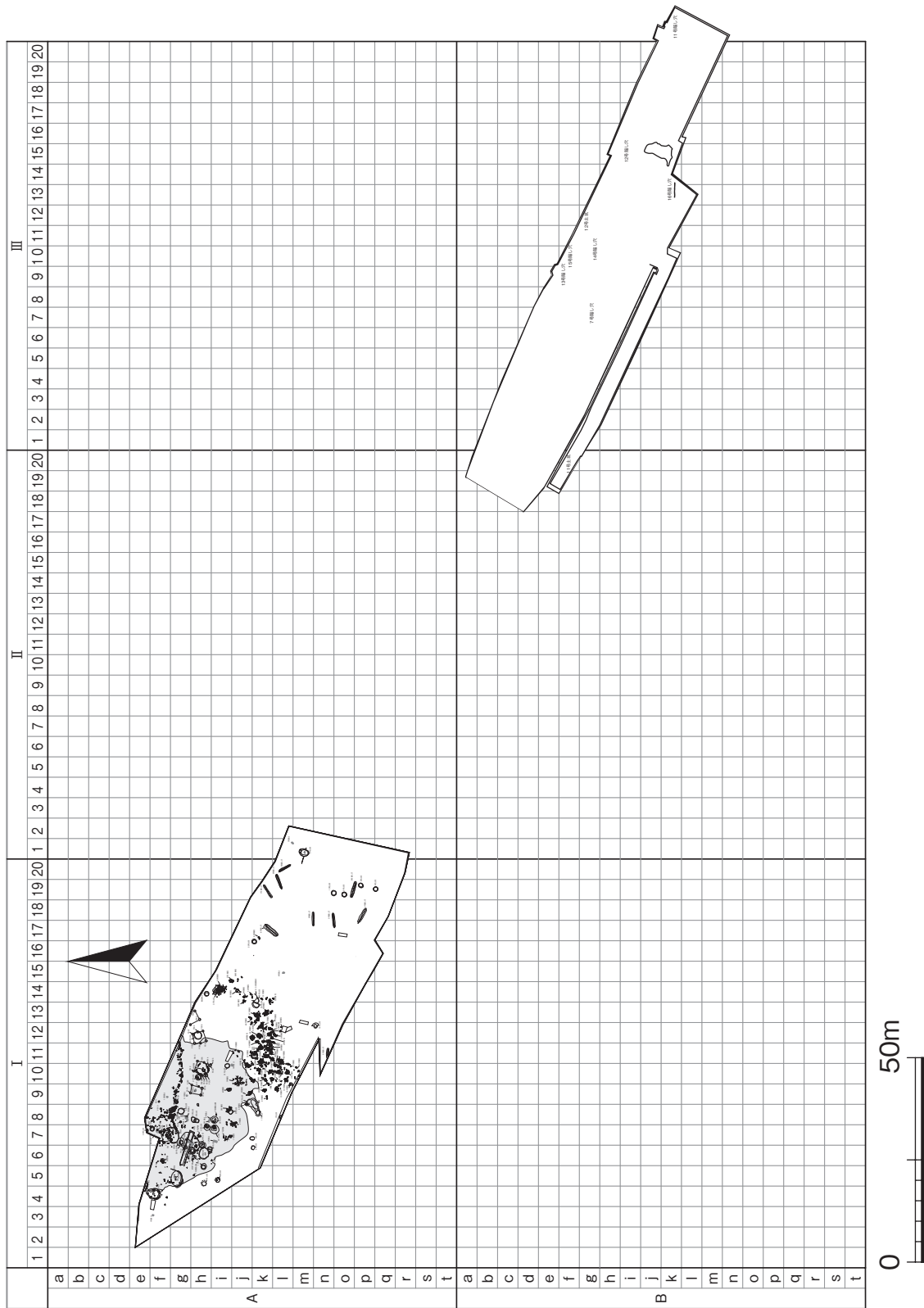
古墳時代以降については、「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集に詳しいので参照されたい。

洋野町の北側には青森県階上町が隣接するが、若干こちらの遺跡の状況について触れておく。

なお、縄文時代後期の祭祀に関わるであろう本遺跡の性格・内容から、周辺における同時期の遺跡について、第4図・第1表に掲載した（洋野町教育委員会提供）。洋野町内に限らず青森県階上町内の遺跡も加えたが、丸囲み数字は後期初頭から前葉の遺物が出土している遺跡を示している。近年、当センターが実施したこの地区の復興調査では、当該期の遺跡が複数確認されているが、サンニヤⅠ遺跡からは「コ」の字形に組み込まれた石囲炉が設置される後期初頭の竪穴住居3棟が確認されており、本遺跡との関連が強く窺われる。また、平成26年の階上町下天摩遺跡の発掘調査では、本遺跡の事例よりも小規模ではあるが、海側に向く尾根の緩斜面から同時期の集石遺構が7基確認されており、同種の遺構が検出された遺跡として注目されよう。

第1表 周辺の縄文時代後期の遺跡

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	446010	程熊(2)	ほどくまかっこに	散布地	縄文(前・後)	階上町	
2	446009	程熊(1)	ほどくまかっこいち	散布地	縄文(前・後)	階上町	
3	446070	浜久保(2)	はまくほかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
4	446027	浜久保(1)	はまくほかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
5	446075	荒谷	あらや	散布地	縄文(後)	階上町	
6	446083	藤沢(1)	ふじさわかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
7	446078	道仏鹿糠	どうぶつかぬか	散布地	縄文(前・後・晩)	階上町	
8	446025	榊山	さかさやま	散布地	縄文(後・晩)	階上町	
9	446014	鹿藏窪(2)	かくらくほかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
10	446013	鹿藏窪(1)	かくらくほかっこいち	散布地	縄文(後・晩)	階上町	
11	446019	横沢	よこさわ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
12	446088	大草里窪	おおぞうりくぼ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
13	446081	下天摩	しもてんま	散布地	縄文(後・晩)	階上町	H26調査
14	446004	泉田窪(2)	いずみたくほかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
15	446003	泉田窪(1)	いずみたくほかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
16	446089	下平窪	しまたいくぼ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
17	446068	上野前	うえのまえ	散布地	縄文(後)	階上町	
18	446021	白座	はくざ	集落跡	縄文(早・前・中・後)	階上町	
19	IF38-2053	笹花Ⅱ	ささはなに	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新規
20	IF37-2343	田ノ端	たのはた	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新規
21	IF48-0017	平内Ⅱ	ひらないに	散布地	縄文土器(中期末～後期前葉)	洋野町	H11～13・H23～25調査
22	IF48-0110	北平内Ⅴ	きたひらないご	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	H23新規
23	IF48-0121	北平内Ⅳ	ひたにらないよん	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新規
24	IF47-1360	姥沢Ⅲ	うばさわさん	散布地	縄文土器(前・後期)	洋野町	H23新規
25	IF47-1390	姥沢Ⅰ	うばさわいち	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新規
26	IF48-1025	石倉	いしくら	集落跡	縄文土器(後期)	洋野町	
27	IF58-1006	たけの子	たけのこ	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	
28	IF48-2128	サンニヤⅠ	さんにやいち	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H27・28調査
29	IF48-2283	トチの木	とちのき	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	
30	IF58-0341	ゴッソー	ごっそー	集落跡	縄文土器(早～晩期)	洋野町	H8・12調査
31	IF58-1205	大久保	おおくぼ	散布地	縄文土器(前・後・晩期)	洋野町	
32	IF58-1354	鹿糠浜Ⅱ	かぬかはまに	集落跡	縄文土器(後期)	洋野町	H25新規
33	IF37-2396	伝吉Ⅰ	でんきちいち	散布地	縄文土器(早・前・後期)	洋野町	H23範囲変更



第5図 グリッド配置図

Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査

(1) グリッドの設定

調査では、3級基準点2点と区画付杭4点の打設（世界測地系）を測量業者に委託し、その成果を使用した。以下に成果値を記載する。

基準点1	X = 47,781.729m	Y = 71,792.544m	H = 62.228m
基準点2	X = 47,750.172m	Y = 71,860.005m	H = 62.148m
付杭1	X = 47,790.000m	Y = 71,800.000m	H = 62.736m
付杭2	X = 47,780.000m	Y = 71,820.000m	H = 62.977m
付杭3	X = 47,780.000m	Y = 71,840.000m	H = 63.118m
付杭4	X = 47,750.000m	Y = 71,840.000m	H = 61.415m

(2) 試掘・表土除去

調査は、県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査結果に基づいて、その箇所をあらためて人力で掘削し、遺構が検出される層位や土層の堆積状況を観察した。その後、試掘トレンチを新設し、遺構の分布状況を確認した。その後の表土除去については、大まかには重機を稼働して行い、部分的には人手も用いながら進めた。

(3) 遺構の検出と精査

今回の調査における遺構検出作業だが、配石遺構と整地層に関する区域では、表土直下の造成土である整地層1（黄褐色土）、その下の整地層2（黒色土）、その下層に基本層序第Ⅲ層の暗褐色土、基盤層である第Ⅳ層暗褐色土の各上面で都合4回実施した。また、それ以外の整地層1・2が認められない地点では、第Ⅲ層下位もしくは第Ⅳ層上面で1回行い、この箇所では土坑や土墳墓、陥し穴状遺構などが検出された。

遺構の精査は、二分法・四分法を使い分けたが、陥し穴状遺構については、土層断面を横断面で、遺構の縦方向はエレベーション図を作製した。個々の遺構は、堆積状況を観察後に遺構の全景を撮影し土層断面図は人手によって、平面図は電子平板で作製した。

なお、配石遺構については、対象となる遺構にポイントを入れて写真を撮影し、その後電子平板でその座標を計測、写真上で重ね合わせてデジタルトレースを行った。撮影の際は、礫の稜線を白チョークで描き、明瞭に写るよう心がけた。

(4) 写真撮影

野外調査時の写真撮影には、平成26年度は6×7判モノクロームフィルムカメラ1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）1台を、平成27年度にはマミヤ645なども使用した。撮影では、日付や遺構名、方角などを記したカードを写し込み、室内整理時の作業に活用した。

なお、平成26年7月17日（木）にはセスナ機による航空写真撮影を、同年8月8日の現地説明会の

際には、無人撮影機ドローンによる当センターホームページ掲載用の空中写真撮影を行った。

(5) 調査経過

平成26年6月2日(月) プレハブ・駐車場用地の整地工事を行い、調査開始。次週9日(月)より作業員稼働。

- 6月9日(月) 登録作業員33名で資材を搬入。
- 6月11日(水) 重機による表土掘削作業と環境整備を実施。
- 6月11日(水) 基準点設置作業開始(株式会社ダイヤ)
- 7月17日(木) 空中写真撮影実施(東邦航空)
- 8月8日(金) 現地説明会開催(午前11時から)参加者約80名。
- 9月2日(火) 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全衛生教育受講(於:洋野町役場の一施設)
- 9月3日(水) 登録作業員20名に減る。
- 9月17日(水) 調査区域外の工事施工箇所にて陥し穴状遺構2基確認。試掘調査を行うこととなる。
- 9月24日(木) 試掘調査実施。
- 9月26日(金) 事業地内に工事が入ることから、プレハブ・駐車場用地を平内駅隣接地に移設する。
- 10月2日(木) 調査面積の増加について委託者・県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる協議。
- 11月4日(火) 勤務時間が冬時間となる。
- 11月21日(金) 終了確認。
- 11月26日(水) 資材の積み込み・撤収。
- 11月27日(木) 地権者並びに洋野町教育委員会に終了の挨拶、調査終了。

平成27年4月20日(月) 登録作業員20名で資材を搬入し、調査開始。

- 5月11日(月) 業者による切り株処理作業開始。
- 6月11日(木) 県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる現地協議。
- 8月3日(月) 県生涯学習文化課との現地協議。
- 8月18日(火) 外部委託による配石遺構群の三次元計測実施。
- 8月25日(火) 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全指導。
- 9月2日(水) 現地公開日(午後1時30分から)参加者約80名。
- 9月14日(水) 花崗岩研究会による石質鑑定作業。
- 9月15日(火) 当センター室内作業員研修(午前11時から)。
- 9月18日(金) 国外の地震による津波注意報発令。影響なし。
- 9月29日(火) 終了確認。
- 10月2日(金) 搬出準備・資材整理・積み込みを行い、すべての調査を終了。

2 室内整理

(1) 作業経過

平成26年12月1日（月）平成26年度室内整理作業開始。1月31日まで作業員1名、それ以降3月31日まで2名体制で実施。調査員は1月中旬より2名体制となる。当該年度の作業を実施。

3月31日（金）平成26年度の室内整理作業を終了。

平成27年12月1日（火）平成27年度室内整理作業開始。3月31日まで調査員3名、作業員5名体制で実施。

3月30日（金）平成27年度の室内整理作業を終了。

(2) 遺物整理の方法

出土した遺物は、年度毎に現場の段階で水洗と大まかな仕分けを完了し、室内では更に土器類と石器類に分類、その後重量計測を行った。掲載遺物は、登録作業後に実測、点検・修正、トレースを行い、それらをスキャナーで読み込んでデジタルデータとし編集した。

(3) 遺構図面の整理

遺構図は、電子平板で作製した平面図と作業員が人力で作製した断面図（縮尺1/20）をデジタルデータ化して、修整を加えた後にデジタル編集した。

(4) 写真撮影と整理

野外調査時に撮影した遺構写真のうち、6×9判モノクローム写真はネガフィルムとともに紙焼きをアルバムに貼付し、デジタルカメラで撮影したRAWデータは、遺構ごとに個別のフォルダーにまとめ収納要綱に従って収納した。

遺物の写真撮影は、当センターの撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 Mark II）を使用し撮影している。なお、平成26年度分の遺物撮影は27年度にあわせて実施した。

IV 検出遺構と出土遺物

1 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

平成27年度調査により、調査区西側の平坦部から緩斜面に5棟検出した。調査区外に延びる1棟を除く4棟は石囲炉をもつ。住居の共伴遺物や内帯の石列との重複関係から、いずれも縄文時代後期前葉かその直前期に属するものと思われる。今回炉跡として報告する遺構も竪穴住居であった可能性は高く、これらも含め、内帯の構築とそれ以前の住居群との時期的な様相も明らかとなった。

1号竪穴住居跡

遺構（第6図、写真図版16）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北西寄りのIA6g・6f・7g・7fグリッドに跨がる。第Ⅲ層下～Ⅳ層上面において、本遺構の南壁で重複する14号土坑とともに検出した。

〔重複関係〕 上述の14号土坑との新旧関係は、土坑の方が新しい。また、28号・32号・37号土坑とも重複するが、32号土坑は本遺構より新しく、トレンチ北側にある他の2基は新旧が不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は北東－南西方向に長い楕円形状で、想定される規模は400×520cmである。

〔埋土〕 焼土ブロックや黄褐色土浮石粒をまばらに含む暗褐色土が主体である。

〔床面・壁〕 第Ⅳ層を床面とし、概ね平坦である。壁は壁溝から外反しつつ立ち上がる。

〔炉〕 南側に礫が置かれないうの字形の石囲炉がある。石囲いの外側にまで明赤褐色の焼土が形成され、内部にある燃焼部焼土も発色の良い赤褐色をなす。32×43cmの不整形、厚さは10cmを測る。

〔その他の付属施設〕 柱穴や土坑は確認出来なかった。

遺物（第77・78・83図ほか、写真図版54・55・58ほか）

縄文時代後期初頭から前葉の土器が7,901g出土したほか、土製円盤、鐸形土製品、石器類では石鏡、石錐、石斧、磨石、石錘のほか、有孔石製品などが出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

2号竪穴住居跡

遺構（第7図、写真図版17）

〔位置・検出状況〕 平坦部の西端付近IA5gグリッドに位置する。2号炉跡とともに第Ⅳ層上面で検出した。最寄りの遺構は、北西側にある3号竪穴住居跡で、2.5mほどの距離を置く。

〔重複関係〕 上述のとおり、本遺構の埋土中に2号炉跡が確認された。本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 円形ないし楕円形をなす。円形と想定しての推定規模は、直径400cm前後である。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色土の単層。炭化物粒は10mm前後と大きく、また混入量が多かった。

〔床面・壁〕 第Ⅳ層を床面とし平坦である。壁は低い。床面南西側に石皿が見られた。

〔炉〕 床面中央付近に3個の炉石がコの字形に配される石囲炉を確認した。炉の西側が開く。燃焼部焼土は21×30cmの不整形で厚さは最大6cm、明褐色の焼けの良い焼土である。

〔その他の付属施設〕 柱穴や土坑類は検出されない。

遺物（第62・104図ほか、写真図版72・89ほか）

1 検出遺構

縄文時代後期の土器片786gと石斧が1点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

3号竪穴住居跡

遺構（第8図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕 調査区西端部の I A 4 e・4 f にあり、第Ⅲ層下～Ⅳ層上面で確認した。

〔重複関係〕 重複は認められないが、整地層1の広がり端部が本遺構の東側の一部を覆う。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形で、壁の凸凹が激しい。規模は252×346cmを測る。

〔埋土〕 浮石粒をまばらに含む暗褐色土の単層で、黄褐色のブロックを部分的に含む。

〔床面・壁〕 床面は第Ⅳ層の傾斜方向に下がり平坦である。壁はいずれも緩やかに立つ。

〔炉〕 床面中央に燃焼部焼土と炉石4個が出土した。焼土は27×31cmの不整円形をなす。

〔その他の付属施設〕 Pit 1～8が壁際に巡る。規模は直径20～40cm、深さは6～60cmと幅がある。

遺物（第83・112図、写真図版58・76）

369gの縄文土器と2点の敲石が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

4号竪穴住居跡

遺構（第9図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 調査区北西隅の I A 4 e・5 e に跨がり、遺構の北側2/3以上は調査区外に延びる。

検出面はⅣ層上面で、本来はⅢ層かそれに相当する層で確認出来る。〔重複関係〕 認められない。

〔平面形・規模〕 不整円形あるいは楕円形をなし、計測可能な規模は直径252cmと標準より小さい。

〔埋土〕 上位は炭化物粒や焼土粒を含む黒褐色土、下位も黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。

〔床面・壁〕 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。東壁は途中段状をなす。

〔炉〕 確認出来なかった。

〔その他の付属施設〕 精査できた箇所にはなし。

遺物（第83図、写真図版58）

縄文時代後期の土器片782gが出土した。土製品、石器類は出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

5号竪穴住居跡

遺構（第10図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 調査区北西部、内帯から延びるヒゲ状の石列下でプランが確認出来たもので、I A 7 f・7 g に跨って位置する。検出面は配石遺構構築面相当、第Ⅲ層である。

〔重複関係〕 複数の柱穴（P032など）・トゲ状の石列と重複する。石列より古いことは確実である。

〔平面形・規模〕 円形基調であるが不整で、東西方向の規模は直径380cmを測る。

〔埋土〕 褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。焼土粒や炭化物粒は混入しない。

〔床面・壁〕 床面は細かな凹凸をもつ。西壁のみ緩やかに立ち上がる。

〔炉〕 東寄りに石囲炉を確認した。10×30cmあまりの細長い磔二個の間に厚さ6cmの燃焼部がある。

〔その他の付属施設〕 貯蔵穴と考えられるPit 1（60?×94cm）を床面で検出した。深さは26cm。

遺物（第58・62・110図、写真図版75・83・89）

縄文中期末から後期前葉の土器片282.5gが、石器類では石皿が床面から出土した。

時期 出土遺物と重複する石列から、縄文時代後期初頭から前葉を含むそれ以前の住居跡である。

(2) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

遺構 (第11図、写真図版21)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部西側の I A 6 h グリッドに位置し、1号竪穴住居跡とは北東側で隣接する。整地層の土層観察ベルトで確認した。検出面は第Ⅲ層下位～Ⅳ層上面である。

〔重複関係〕 本遺構の南東側で33号土坑と重複するが、新旧関係が定かでない。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形、規模は238×300cm、壁高は29cmを測る。

〔埋土〕 上～中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位は黒褐色土と黄褐色土が自然堆積している。

〔床面・壁〕 床面は極めて平坦で、そこからの壁の立ち上がりは緩やかである。

〔付属施設〕 確認されない。

遺物 縄文後期の土器片97gが出土したが、石器類、土製品は見られない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に属する遺構と思われる。

(3) 土 坑

平成26年度に検出した土坑の総数は12基で、当初分と拡張部箇所には10基、追加箇所に2基確認した。土壙墓と考えられるものが1基ある。平成27年度の総数は25基(13～37号)で、平面形は円形と楕円形が主体、断面形はフラスコ形、浅皿形、円筒形などがある。土壙墓と思しき15号土坑からは、海岸付近から持ち込まれたと思われる夥しい量の小円礫が出土した。これに似た円礫は、調査区の中央部から西側と南側に分布(第129図)しているが、これらの出土状況等は別記する。

1号土坑 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出状況〕 当初の調査区中央部南端 I A 8 1 グリッドに位置し、遺構の南側ほぼ半分は調査区域外に延びる。第Ⅲ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなすか。規模は開口部径107×?cm、底部径81×?cmである。

〔埋土〕 自然堆積で2層に分層される。上位が浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土が基調となる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもつ。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは最大で44cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属するものであろう。

2号土坑 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出状況〕 当初の調査区南緩斜面 I A 6 k グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形。規模は開口部径81×98cm、底部径75×80cm。深さは19cm。

〔埋土〕 上～下位は浮石粒を含む褐色砂質シルトが、その両端には黄褐色の地山崩落土が入る。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で細かな凹凸を有する。断面形は皿状をなし、深さは最大で19cmを測る。

〔遺物〕 埋土から縄文土器が3.5g出土している。

〔時期〕 縄文時代後期前葉頃に機能していた可能性があるが、断定できない。

3号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A 19 o グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形を呈し、規模は開口部径112cm×底部径109cm、深さは105cm。

〔埋土〕 軟質でしまりの無い黒色土やロームブロックとその粒子を多く含む暗褐色土が見られる。壁周辺には崩落土が入り、下位には黒色土が堆積する。人為的な埋戻しであると考えられる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で中央部がやや深くなる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

4号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A 19 p グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、規模は開口部径107cm×底面径107cm、深さは52cmである。

〔埋土〕 1～3層ほぼ水平な堆積状況であることから、人為的な埋戻しと考えられる。壁周辺には崩落土を含む黒褐色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面は平坦で壁の近くで緩やかに立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

5号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 2号土坑の東側に隣接し、第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 不整楕円形をなし、規模は開口部径86×120cm、底部径69×112cmほどである。

〔埋土〕 浮石が混入する暗褐色土の単層であるが、人為的に埋め戻されたような感じを受ける。

〔底面・壁〕 底面は平坦で断面形は皿状をなす。深さは最大で11cmである。

〔遺物〕 縄文土器の破片約13gが出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉頃に属する可能性がある。形状から土壙墓であった可能性も否定できない。

6号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 I A 5 i グリッドに位置し、北側3mには7号土坑がある。第IV層上面で検出。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、断面形はいわゆるフラスコ形をなす。遺構上部は削られており、当時の形状、深さは残っていない。開口部径100×110cm、底部径113×119cmの規模をもつ。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含むにぶい黄褐色土、下位は地山崩落土主体の黄褐色土に分層した。

〔底面・壁〕 底面は平坦で壁は若干反る。深さ27cm。底面には10～15cmの角礫6個が散在する。

〔遺物〕 敲石と思われる石器1点と、縄文土器の破片102gが出土した。

〔時期〕 埋土に礫を含んでいるほか、堆積状況が人為的であることから、土壙墓に転用された可能性がある。機能していた時期は、縄文時代後期前葉頃の可能性があるが断定できない。

7号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 6号土坑の北側3m、I A 5 h グリッド西端に位置する。第IV層上面で確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、断面形はフラスコ形を呈する。これも遺構の上部は大きく削られているものと思われる。規模は、開口部径99×100cm、底部径123×132cm。

〔埋土〕 ボサボサとしまりが無い人為堆積を思わせる明黄褐色土の単層で、浮石粒を疎らに含む。

〔底面・壁〕 底面は平坦だが、壁は丸みを持ちながら立ち上がる。深さは最大62cmである。

〔時期〕 人為的堆積であり、土壙墓に転用されたフラスコ土坑と思われる。縄文時代後期前葉頃か。

8号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19qグリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部径127cm×底面径109cm、深さは23cm。

〔埋土〕 上位にローム粒を含む黒褐色土、下位には黒褐色土が堆積する。人為的に埋戻される。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

9号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜部のI A1mに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部径247cm×底面径113cm、深さは67cm。

〔埋土〕 上位から黒色土と黒褐色土が堆積し、1層の下には焼土が形成される。人為的な埋戻しか。

〔底面・壁〕 底面中央部はほぼ平坦だが、丸底になり壁の立ち上がりは不明瞭である。

〔遺物〕 土器片3.4gのほかに、敲石と磨石、石斧の未製品がそれぞれ1点ずつ出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

10号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19mグリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部径118cm×底面径104cm、深さは100cm。

〔埋土〕 上位から暗褐色土、黒褐色土、黒色土が堆積し、壁の近くに崩落土がみられる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、中央に直径15cmの小ピットがある。壁は内傾しながら立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

11号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 II B20fグリッドに位置し、南側半分は調査区域外にある。III層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形。規模は開口部径211×?cm、底部径63×?cm。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土小ブロックを含む褐色土が自然堆積する。

〔底面・壁〕 底面は大きく波打ち、壁は丸みをもつ。検出面からの深さは最大で82cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細な時期は不明である。

12号土坑（第15図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 III B12gグリッドに位置する。第IV層上面で検出した。西側は攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸長方形をなす。規模は開口部径72×135cm、底部径61×133cmである。長軸方向はN-22°-Wである。

〔埋土〕 3層に分層したが、いずれも人為堆積層と思われる。上位は浮石粒を含む黒色土、上～中位は黒褐色土、下位は1層よりも黒味の強い黒色土からなる。

〔底面・壁〕 底面は全体に平坦である。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは40cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代の土壙墓と思われる遺構である。

13号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 5 h グリッドに位置し、第Ⅲ層下上面～Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径136×151cm、底部径82×91cmである。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含む暗褐色土が、下位も地山の崩落ブロックを含む暗褐色土からなる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に底面から立ち上がる。断面形は円筒形で深さ95cm。

〔時期〕 詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属する貯蔵用と思われる土坑である。

14号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 6 h グリッドに位置する。検出面は第Ⅳ層上面である。

〔遺構間の重複〕 1号竪穴住居跡より本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形をなし、規模は開口部径138×158cm、底部径140×159cmである。

〔埋土〕 6層以上に分層される自然堆積層であるが、下位の堆積状況は不明である。上位は浮石粒をわずかに含む黒褐色土と壁際に暗褐色の地山崩落土が、中位は地山の崩落ブロックを含む褐色土が主体である。3層の上部には長さ50cm、幅20cmあまりの礫が1個入れ込まれる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内湾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは165cmを測る。

〔遺物〕 土器片1265gのほか、石鏃と搔削器が1点ずつ出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉の土坑と思われるが、礫が入ることから墓に転用された可能性がある。

15号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 調査区西側 I A 8 h グリッドにあり、北側には23号土坑が重複する。いずれも検出面は第Ⅳ層上面であるが、23号土坑は本遺構の底面を精査中にプランの一部を確認した。

〔遺構間の重複〕 本遺構の方が23号土坑よりも新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は四隅が角張る楕円形。規模は開口部径、底部径とも90×127cm。

〔埋土〕 7層に分層される人為堆積層である。上～中位は先述した小礫を含む暗褐色土、下位は地山のブロックを含む暗褐色土が壁際に堆積、他は浮石粒を全体に含む黒褐色土である。小礫は、粒径0.4～7cm、総重量1,865g、総数1,058個を数える。海岸付近から持ち込んだものと思われるが、本遺構を主体とし、第129図に示した範囲に満遍なく出土した。これらがこの土坑を供給元となるとすれば、ここから小礫を振りまくなど、何らかの儀礼に使われた可能性がある。

〔底面・壁〕 底面は凹凸を有し、壁は内湾する。断面形は台形、検出面からの深さは44cmである。

〔遺物〕 上述した小礫のほか、土器片が100gほど出土した。土製円盤も1点見られる。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する特殊な用途をもつ遺構であろう。

16号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 12 n グリッド、第Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形か楕円形、規模は開口部径94×120cm前後、底部径49×82cmを測る。

〔埋土〕 8層に分層される自然堆積層で、上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、壁際に地山崩落土の褐色土、中～下位は浮石粒を含む暗褐色土が主体となる。最下部には厚さ5cm程度の黒色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は深い円筒形、深さは110cmである。

〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、用途は不明である。

17号土坑（第16図、写真図版23）

- 〔位置・検出状況〕 I A 8 k グリッドにあり、検出面は第IV層上面。〔遺構間の重複〕 炭窯に切られる。
 〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部径95×140cm前後、底部径64×110cm前後。
 〔埋土〕 炭化物粒を含む暗褐色の自然堆積層の単層である。
 〔底面・壁〕 底面には凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿形、深さは60cmである。
 〔遺物〕 土器片が207g出土した。
 〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

18号土坑（第16図、写真図版23）

- 〔位置・検出状況〕 I A 9 j グリッドに位置、第IV層上面で検出。〔遺構間の重複〕 炭窯に切られる。
 〔平面形・規模〕 平面形は楕円形基調の不整形、規模は開口部径90×151cm、底部径62×111cm。
 〔埋土〕 17号土坑と同じ、炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。
 〔底面・壁〕 底面には多くの凹凸をもつ。壁も同様である。断面形は浅皿形、深さは30cmである。
 〔遺物〕 土器片が175gと土製円盤1点出土した。
 〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

19号土坑（第17図、写真図版23）

- 〔位置・検出状況〕 I A 12 h グリッドで、2号掘立柱建物を構成する柱穴とともに第IV層上面で検出。
 〔遺構間の重複〕 2号掘立柱建物跡のP002と重複する。本遺構が古い。
 〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径191×202cm、底部径158×180cmを測る。
 〔埋土〕 4層に分層した。上位は浮石粒を含む黒褐色土、中～下位は褐色土が堆積する。
 〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿形で、深さは32cmである。
 〔時期〕 2号掘立柱建物跡との重複関係から、縄文時代後期前葉以前の土坑と思われる。

20号土坑（第17図、写真図版23）

- 〔位置・検出状況〕 I A 14 h グリッド、58号集石の北側1mに隣接する。第IV層上面で検出した。
 〔平面形・規模〕 平面形は略円形をなし、規模は開口部径117×120cm、底部径69×93cmを測る。
 〔埋土〕 上位は浮石粒を含む黒褐色土、中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位には褐色土が見られる。
 〔底面・壁〕 底面は壁際が高く壁は直立気味に立ち上がる。断面形は円筒形、深さは83cmである。
 〔遺物〕 土器片4gと石斧が1点出土した。
 〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと思われる。

21号土坑（第17図、写真図版24）

- 〔位置・検出状況〕 I A 10 h グリッド、柱穴P021の北西側に隣接する。第IV層上面で検出した。
 〔遺構間の重複〕 P021とは重複関係にない。
 〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径110×116cm、底部径138×145cmである。
 〔埋土〕 8層に分層したが、人為堆積の様相をみせる。上～中位は、浮石粒や地山のブロックを含む黒褐色土と壁際に暗褐色土が、下位は黄褐色土や褐色土などの明るい色調の土壌が堆積している。
 〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形はフラスコ状、深さは115cm。
 〔遺物〕 底面直上には一括土器があり、総量で1,042g出土した。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものであろう。

22号土坑（第18図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕 I A 16 k グリッドにある。第IV層上面で検出できた。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径90×95cm、底部径117×125cmを測る。

〔埋土〕 上位は暗褐色土、中位は褐色土、中～下位は浮石や炭化物を含む暗褐色土が主体である。

〔底面・壁〕 底面は北側に傾斜し北壁は内湾気味に立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは76cm。

〔遺物〕 土器片等16 gが出土し、石斧も1点見られる。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと考えられる。

23号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 h グリッドに位置する。前述のとおり15号土坑を精査中に検出した。

〔遺構間の重複〕 15号土坑と重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形状で、規模は開口部径115×142cm、底部径97×131cmを測る。

〔埋土〕 上位は浮石粒を含むにぶい黄褐色土、下位はしまりのある褐色土が自然堆積している。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは45cmである。

〔時期〕 重複関係・検出面の検討から、縄文時代後期初頭～前葉以前、早期に属する可能性がある。

24号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i のグリッド杭を中心に土坑3基が集中する I A 7 i に位置する。第IV層上面で確認した。土坑内に入るための施設なのか、足をかけるステップ状の掘り込みを有する。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、規模は開口部径84×97cm、底部径は209×222cmである。

〔埋土〕 自然堆積と思われる。上位は浮石粒や炭化物粒を含む暗褐色土、中～下位は地山の崩落ブロックや浮石粒を含む黒色土主体、最下部には暗褐色や褐色のブロックが薄く堆積している。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾し立ち上がる。断面形はフラスコ形で、壁の崩落も少なく形が整っている。深さは174cmほど、括れる部分は底面から120cm、その箇所径は50cmである。

〔遺物〕 土器片等1,492 gのほか、ミニチュア土器と棒状の石製品、敲石が1点ずつ出土した。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

25号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 7 h グリッドに位置し24号土坑同様、第IV層上面でプランを確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部径98×116cm、底部径は150×153cm。

〔埋土〕 概ね5層に分層した。上位はしまりのある暗褐色土、中位は浮石粒を含む黒褐色土で人為堆積の様相、下位には炭化物粒を含む黒褐色土が見られ、最下部には黒色土が薄く堆積している。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形状、上下が対称形で砂時計のようにも見える。検出面からの深さは162cm。これも最小径は50cmと狭い。

〔遺物〕 土器片252 gが出土した。他に、土製円盤と敲石が1点ずつある。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

26号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッドに位置し、第IV層上面で確認。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は開口部径100×117cm、底部径は172×182cmを測る。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色土と北側の壁際から浮石粒を含む暗褐色土が入り込む。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり窄まる。そこからは若干開きながら開口部に続く。

断面形はいわゆるフラスコ形で、検出面からの深さは115cmを測る。

〔遺物〕 土器片が776g出土した。石器類は、石鏃1点である。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴もしくは墓に転用された可能性がある。

27号土坑（第19図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッド、3号集石の南西側に位置する。第III層下面で検出した。

〔遺構間の重複〕 3号集石と重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径117×118cm、底部径90×100cmである。

〔埋土〕 4層に分層、自然堆積と思われる。浮石粒の混入割合が異なるにぶい黄褐色土2層からなる。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、北壁は凹凸を持つ。断面形は浅い円筒状で、深さは最大で50cmを測る。

〔遺物〕 土器片が60gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑であるが、3号集石の下部土坑の可能性もある。

28号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 7 g グリッドに位置、1号竪穴住居跡床面の第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 1号竪穴住居跡との重複関係は、検出状況から本遺構のほうが古い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径183×207cm、底部径73×87cmである。

〔埋土〕 上～中位は、黒色土の混入割合の異なる黒褐色土2枚、下位は暗褐色土が堆積する。

〔底面・壁〕 平坦な底面から壁が立ち上がり開口部で開く。断面形は逆台形状で、深さは110cm。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑である。

29号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 14 k グリッドに位置し、30号土坑とともに50～54号集石に囲まれる。

〔遺構間の重複〕 30号土坑とわずかに重複するが、本遺構のほうが古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形。規模は開口部径90×120cm前後、底部径84×110cm前後。

〔埋土〕 2層に分層したが、浮石粒をわずかに含む黒褐色土の単層で自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状をなす。深さ25cm。

〔遺物〕 土器片が48gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

30号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 29号土坑で記載のとおり。〔遺構間の重複〕 29号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形、規模は開口部径124×184cm、底部径97×154cmである。

〔埋土〕 29号土坑に同じ。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状で、深さは35cm。

〔遺物〕土器片が30gほど出土した。

〔時期〕縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

31号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕I A 10 i グリッドにあり、14号焼土遺構に隣接する。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は円形、規模は開口部径111×120cm、底部径96×109cmを測る。

〔埋土〕人為堆積か。上～中位は褐色土ブロックを含む黒褐色土、下位は褐色土が堆積。

〔底面・壁〕底面には凹凸をもち、壁は直立気味。断面形は浅皿状、深さは44cmである。

〔遺物〕土器片が92gほど出土した。

〔時期〕縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

32号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕I A 6 h グリッドに位置し、1号竪穴住居跡の西側でそれと重複する。当初はこれに伴う柱穴を想定し精査したが土坑規模となった。検出面は住居床面の第IV層上面である。

〔遺構間の重複〕検出状況から、本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しいか。

〔平面形・規模〕平面形は円形、規模は開口部径146×154cm、底部径150×183cmである。

〔埋土〕土層図を作製し忘れたため不明。自然堆積だったと思われる。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは145cmを測る。

〔遺物〕土器片等が732g程度出土した。

〔時期〕重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑と思われる。

33号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕1号竪穴状遺構とともにI A 6 h グリッドにある。第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しいか。

〔平面形・規模〕平面形は円形基調で、規模は開口部径123×125cm前後、底部径96×100cm前後。

〔埋土〕2層に分層したが人為堆積と思われる。褐色土ブロックを含む黒褐色土が見られる。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は直立気味に開く。断面形は浅い円筒状、深さは47cmを測る。

〔遺物〕土器片38gのほか、1号集石出土の破片と接合した石製円盤が1点出土した。

〔時期〕重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑だが、詳細は不明である。

34号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕I A 8 g グリッドに位置し、6号・13号焼土遺構に隣接。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は円形、規模は開口部径136×150cm、底部径145×158cmを測る。

〔埋土〕上位は褐色土ブロックを含む黒色土、中位は褐色土、下位は炭化物を含む黒色土が堆積する。

〔底面・壁〕底面は平坦、壁はオーバーハングする。断面形はフラスコ形、深さは47cmである。

〔遺物〕土器片等が265g出土した。

〔時期〕縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

35号土坑（第22図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕I A 7 f グリッドに位置し、36号土坑が北側に隣接する。第IV層上面で検出した。

- 〔平面形・規模〕 平面形は崩落のため不整。規模は開口部径104×114cm、底部径103×111cm。
 〔埋土〕 3層に分層される自然堆積層で、粘性の弱い黒褐色土が主体である。
 〔底面・壁〕 底面は平坦、壁はいったん括れて広がる。断面形はフラスコ形、深さは70cmを測る。
 〔遺物〕 土器片がおおよそ100g出土した。
 〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

36号土坑（第22図、写真図版28）

- 〔位置・検出状況〕 I A 7 e グリッドにあるが調査区外に延びる。第IV層上面で検出した。
 〔平面形・規模〕 平面形は円形か隅丸の長方形。規模は開口部径？×74cm、底部径？×46cm。
 〔埋土〕 4層に分層される自然堆積層で、上部の黒色土より下は3枚の黒褐色土が主体となる。
 〔底面・壁〕 底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がり大きく開く。断面形はラッパ形、深さ72cm。
 〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

37号土坑（第22図、写真図版28）

- 〔位置・検出状況〕 I A 6 g グリッドに位置し、精査時に床面（第IV層上面）で検出した。
 〔遺構間の重複〕 本遺構が1号竪穴住居より新しいか、それに付属する土坑である。
 〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形、規模は開口部径89×106cm、底部径56×60cmを測る。
 〔埋土〕 黒褐色土の単層（自然堆積）で、壁際に地山のブロックを含んでいる。
 〔底面・壁〕 底面は丸みをもち、壁は直立して立ち上がる。断面形は円筒形、深さは52cmである。
 〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、1号竪穴住居跡に付属する可能性もある。

（4） 陥し穴状遺構

遺構名		1号陥し穴状遺構	2号陥し穴状遺構	3号陥し穴状遺構
位置		I A 19 k	I A 18 n	I A 18 o 付近
検出状況		第III層下面	第III層下面	第III層下面
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形	V字形
規模	開口部径 (cm)	40～52×362	42～52×334	64～66×333
	底部径 (cm)	4～10×368	4～10×326	4～12×358
	深さ (cm)	137	101	139
長軸方向		N-57°-E	W-E0°	N-84°-E
埋土		上位は白色粒子を含む黒色土、上～中位にかけては黄褐色小ブロックを含む黒褐色土、下位にも地山崩落小ブロックを含む黒褐色土が見られる	上～中位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中～下位には浮石含む暗黄褐色土と黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は浮石粒が目立つ黒褐色土、下位は暗褐色土主が体で、最下部にはしまりのない黒褐色土が見られる
底面		緩やかな凹凸あり	ほぼ平坦	東側に傾斜する
図		23	23	23
写真図版		8	8	8
特記事項		・埋土より縄文土器片21.5g出土	・遺物なし	・遺物なし

1 検出遺構

遺構名		4号陥し穴状遺構	5号陥し穴状遺構	6号陥し穴状遺構
位置		I A17p・18pに跨る	I A11n	I A17k・17lに跨る
検出状況		第Ⅲ層下面	第Ⅲ層下面	第Ⅲ層上面
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形	Y字形
規模	開口部径 (cm)	56~73×372	250前後	106~117×403
	底部径 (cm)	13~31×419	4~10×190	10~19×413
	深さ (cm)	141	124	166
長軸方向		N-58°-W	N-89°-W	N-40°-E
埋土		上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は浮石粒を含む暗褐色土と地山崩落土の明黄褐色土、下位には暗褐色土、最下部にはフカフカとしまりのない黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子を含む黒色土や浮石粒の混じる黒褐色土、中位は暗褐色土と黒褐色土、下位フカフカとしまりのない黒色土である	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は地山崩落土を含む暗褐色土と黄褐色土、中~下位にはしまりのない褐色土が堆積
底面		若干凹凸があるがほぼ平坦	平坦だが、東壁は段あり	平坦
図		24	24	25
写真図版		8	9	9
特記事項		・底面直上付近から器台が1点出土しており配石遺構群と同じ時期と思われる ・異質とは異なる用途の可能性あり	・埋土より縄文土器片85g出土	・17基中最大規模の陥し穴で当初は2基の重複に見えた ・埋土より縄文土器片85g出土

7号陥し穴状遺構	8号陥し穴状遺構	9号陥し穴状遺構	10号陥し穴状遺構
ⅢB7g・8gに跨る	I A19o	I A19l	I A20l
第Ⅲ層上面	第Ⅲ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層
なし	なし	なし	なし
溝状	溝状	溝状	溝状
V字形	V字形	V字形	V字形
38~44×376	65~73×404	44~59×366	45~53×300
9~13×397	3~13×342	5~9×375	5~11×340
86	124	124	103
N-88°-W	N-72°-W	N-70°-W	N-29°-W
上位は浮石粒を含む黒褐色土、上位の壁際から暗褐色土が入る	上部の浮石が混入する暗褐色土が入り、以下黒褐色土・暗褐色土なども見られる	上位に黒色土や黒褐色土が入り、底面近くにも黒色土が堆積	上位には黒色土と黒褐色土が、底面近くにも黒色土が堆積
平坦	東側にわずかに傾斜する	ほぼ平坦	平坦で中央部やや深い
25	26	26	26
9	9	10	10
・遺物なし ・遺構上部に削平及ぶ	・遺物なし	・縄文時代後期前葉の土器片が117.58g出土	・遺物なし

遺構名		11号陥し穴状遺構	12号陥し穴状遺構	13号陥し穴状遺構
位置		IVB1k	III B15i	III B9e
検出状況		第Ⅲ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	Y字形	Y字形	Y字形
規模	開口部径 (cm)	69~81×331	90~102×271	98~117×402
	底部径 (cm)	10~13×340	20~23×269	10~26×412
	深さ (cm)	130	147	146
長軸方向		N-68°-E	N-45°-E	N-89°-W
埋土		上位は黒色~黒褐色土、上位の壁際から中位には暗褐色土、下位には地山崩落土であるにぶい黄褐色土が堆積する	上位は褐色土粒を含む黒褐色土が、上~中位は地山崩落土である明黄褐色土主体	上位は混入物のない黒色土、中位は地山崩落土の黄褐色土、下位も黄褐色土などがみられる、最下部にはフカフカしたしまりのない黒褐色土が堆積する
底面		細かい凹凸あるもほぼ平坦	北側が下がり気味だが平坦	西側わずかに持ち上がる
図		27	27	27
写真図版		10	10	11
特記事項		・縄文時代後期前葉の土器片が76.4g出土 ・本遺構北側に後期前葉の土器集中区あるが関連不明	・遺物なし	・遺物なし
14号陥し穴状遺構-1・2		15号陥し穴状遺構	16号陥し穴状遺構	
III B10g・10h・11hに跨る		III B10f・10g	III B13k・14k	
第Ⅳ層上面		第Ⅳ層上面	第Ⅳ層上面	
陥し穴間の重複あり		なし	なし	
溝状		溝状	溝状	
U字形		V字形	V字形	
60×?		37~67×348	58~103×386	
11~17×166		4~9×367	6~12×359	
50		87	130	
N-73°-W		N-6°-W	W-E0°	
上位は浮石粒を含む黒色土、中位は地山崩落土主体の暗褐色土、下位は褐色土ブロックを含む黒色土、最下部に暗褐色土が自然堆積する		上~中位は混入物のない黒色土が堆積し、その下には地山崩落ブロックを含む暗褐色土が主体となる	上位中央部は黄褐色土粒を含む黒色土が、上位壁際は褐色土や暗褐色土のブロックが、中位には黒褐色土、下位には地山崩落土が堆積している	
西側で持ち上がる		ほぼ平坦	ほぼ平坦	
28		28	28	
11		11	11	
・遺物なし		・遺物なし	・遺物なし	

(5) 炉 跡

平成27年調査で10基を精査した。本来竪穴住居に付属したものが大半であろうが、周辺に柱穴等は確認できず単独の炉跡として扱う。石囲炉と土器埋設炉の2種があり、8基確認された前者には、炉石が全周するものとコの字形などに配されるものの2種がある。土器埋設炉はともに焼土を伴う。

1号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 I A 17 k グリッドにあり、IV層上面で検出した。

〔形態・規模〕 コの字形をなす石囲炉である。大小6個余りの炉石があるが、使用時の状況が保たれているかは不明。礫の抜き取り痕はない。焼土は20cmほどの不整形をなすが、不明瞭。

〔焼土の様相・厚さ〕 明褐色焼土粒を含む黒褐色土で、焼け具合は極めて悪い。厚さは8cmである。

遺物 炉跡周辺から55gの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

2号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 I A 5 g グリッドに位置する2号竪穴住居跡内にある。その炉跡の北東側で確認。

〔重複関係〕 上述のとおり、2号竪穴住居跡と重複する。検出状況から住居よりも新しい遺構である。

〔形態・規模〕 北側を開けるコの字形の石囲炉で4個の炉石からなる。最大の炉石は13×34cm。焼土は20×30cmの不整形をなす。規模は45×47cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼成の良い明褐色の焼土であるが脆い。厚さは10cmである。

遺物 炉内から土器片17.5gが出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

3号炉跡

遺構（第29図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 I A 6 f グリッドに位置し、2号炉跡の北東側5m付近に位置する。

〔形態・規模〕 小さめの炉石15個あまりが全周する石囲炉で、最大の炉石は10×25cm。焼土は円形に配される炉石の内側に30×43cmの不整形をなす。全体規模は66×70cmを測る。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼け具合は良いがやわらかい、褐色のものが厚さ20cmほど形成されていた。

遺物 周辺から11gの縄文土器が出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

4号炉跡

遺構（第30図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 I A 6 h グリッドに位置し、竪穴住居跡や土坑に囲まれるようにある。

〔重複関係〕 本遺構が住居跡に付属する炉と仮定すれば、上述した各種遺構とは大半が重複する。

〔形態・規模〕 これも北側の礫を欠くコの字形の石囲炉で5個の炉石からなる。最大の炉石は18×40cmほど、焼土は25×40cmの広がりをもつ。全体規模は62×68cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 燃焼部で厚さは5cmほど、形状は不整な菱形で、規模は45×47cmを測る。

遺物 炉内から10gの土器片が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

5号炉跡

遺構（第30図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 1号竪穴状遺構の南西2mあまり、IA6iグリッドの北西隅に位置する。

〔形態・規模〕 L字状にある残存する炉石2個と燃焼部焼土からなる石囲炉で、炉石はそれぞれ16×28cm、5×28cmを計る。本来は炉石が全周するかの字をなすものであろう。焼土は直径22cmあまりの円形基調で、全体規模は40×40cm前後か。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼成が極めて良好な明褐色焼土が、厚さ14cmほど形成される。

遺物 55gの縄文土器片が出土した。

時期 周辺の状況等から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

6号炉跡

遺構（第31図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 IA7hグリッドに位置、1号竪穴住居跡の南東側に接する。

〔重複関係〕 住居に伴うとすれば、1号竪穴住居跡など周辺の遺構と重複するが、新旧は不明である。

〔形態・規模〕 全体規模62×67cm、炉石13個あまりがコの字状に配される石囲炉で、南東側が開く。長さ20cm、幅15cm前後の炉石が多いが、それらが組まれる中に燃焼部焼土は形成されない。

遺物 出土していない。

時期 遺物は出土していないが、縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性が高い。

7号炉跡

遺構（第31図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 当初調査区西端部のIA7iグリッド中央、24号土坑南側に隣接する位置にある。

〔形態・規模〕 炉石6個が二の字状になる石囲炉で、遺構の東西側には礫が配置されない。燃焼部焼土の発達が悪い。全体規模は60cm前後、炉石は最大で13×26cm、最小は6cm角である。

〔焼土の様相・厚さ〕 断面では焼土ブロックを含む褐色土が厚さ5cmあまり観察出来た。

遺物 この周辺から縄文土器が35g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

8号炉跡

遺構（第31図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 IA10hグリッドの3号掘立柱建物跡内に位置する。整地層2下暗褐色土で検出。

〔重複関係〕 上述のとおり、掘立柱建物の中にあるが新旧は不明である。

〔形態・規模〕 全体規模は直径75cmあまり、形状はコの字状で東側の礫を欠く。全体としてみれば円形をなす石囲炉である。礫の抜き取り痕はない。炉石は最大13×30cm、最小は長さ10cmほどである。

〔焼土の様相・厚さ〕 30×40cmの不整形の燃焼部がある。厚さは12cm、焼け具合は良好である。

遺物 130gほどの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属すると考えられる。重複関係は不明である。

9号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 I A 8 g グリッドに位置する。埋設される土器はその東隅に斜位に置かれる。

〔重複関係〕 本遺構の位置づけによるが、検出状況では重複が認められない。

〔形態・規模〕 全体規模は56×77cmの円形基調で、炉石はなく抜き取られたような痕跡もない。

〔焼土の様相・厚さ〕 土器周辺から中央部は明赤褐色を呈し、厚さは10～18cmである。

遺物 炉内の埋設土器を含み、722 g の土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する。住居付属の炉というよりは祭祀に関わるか。

10号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドに位置し、焼土内に粗製の深鉢形土器が斜位に設置される。

〔重複関係〕 これも本遺構の解釈によるが、検出状況では新旧関係のある遺構はない。

〔形態・規模〕 埋設土器を含む規模は55×97cmで、形状は長楕円形基調である。

〔焼土の様相・厚さ〕 土器の胴部に沿う焼土が形成される。厚さは10cmほどである。

遺物 1 個体の埋設土器とその他の土器片、総量3,338 g 出土した。粗製深鉢（111）を掲載した。

時期 出土遺物と炉の形態などから、縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものとしておく。

（6） 焼 土 遺 構

平成26・27年度とも7基ずつ検出した。それらの遺構確認面と検出数は、整地層1上面2基、整地層2で2基、基本層序Ⅲ層面が3基、Ⅳ層上面が7基である。

1号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 調査区西端の緩斜面部、I A 3 f グリッド第Ⅲ層上面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は37×48cmの不整形。燃焼部は明褐色をなし、厚さは7cmを測る。

〔遺物〕 縄文土器の破片13 g が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

2号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 整地層1の中央部、I A 7 g・7 h グリッドで3号焼土遺構とともに検出された。

〔平面形・規模・厚さ〕 57×74cmの不整形をなし、燃焼部焼土は最大9cm。色調は2種に分かれる。

〔遺物〕 土器片16 g が出土した。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）の結果は $180 \pm 20\text{yrBP}$ であり、近世以降の新しい焼土遺構と判断した。

3号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 整地層1の中央部、I A 19 o グリッドで検出された。

〔平面形・規模・厚さ〕 38×43cmの不整形円で、燃焼部焼土の厚さは6cm。炭化物粒を多く含む。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）を行ったが、結果は $80 \pm 20\text{yrBP}$ で近世以降の焼土遺構と思われる。

4号焼土遺構（第33図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 I A 15 l グリッド第Ⅲ層上面で検出。付近に柱穴等を探したが検出できなかった。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は35×56cmほどの不整形、最大厚は9cmを測る。

〔遺物〕 縄文土器片24.1gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

5号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 I A 8 h グリッドの整地層1除去後、同2の上面で検出。付近に柱穴等は未確認。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は28×58cmの不整形、燃焼部の厚さは4cmである。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）で、測定値は $870 \pm 20\text{yrBP}$ 。古代末から中世初頭と判断される。

6号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 整地層2の上面、I A 8 g グリッドに位置する。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は40×66cmの不整楕円形、燃焼部焼土の厚さは8cmである。

時期 年代測定（AMS）値は $3,630 \pm 30\text{yrBP}$ で、縄文時代後期前葉頃と判断される焼土遺構である。

7号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 II A 1 1 グリッドにおいて、9号土坑の北側第II層下面～III層上面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は33×64cmの不整な長楕円形で、燃焼部焼土は厚さ5cmを測る。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、後期前葉に属する可能性が高い。

8号焼土遺構（第34図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 I A 9 h グリッドに位置し、本遺構自体は4号掘立柱建物跡内にある。

〔形状・規模・厚さ〕 平面形は不整楕円形で33×65cmの範囲に広がる。最大厚は8cmである。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

9号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 I A 8 h グリッドで26号土坑とともに、第III層面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 36×60cmの不整楕円形で、燃焼部は最大17cmほど形成される。燃焼良好。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

10号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 I A 9 f グリッドにある数少ない内帯内側の遺構。検出面は第III層中である。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は25×33cmの不整楕円形、燃焼部は最大13cm。焼けは良くない。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

11号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 I A 9 g グリッドに位置する。検出面は第III層である。礫の抜き取り痕はない。

〔平面形・規模・厚さ〕 25×30cmを測る台形状で、燃焼部は最大7cmの厚さで形成されている。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

12号焼土遺構（第35図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 I A 7 i グリッド北西に位置し、検出面は整地層2下の暗褐色土上面である。

1 検出遺構

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は34×93cmの不整形、厚さは最大7cm。〔遺物〕 土器片34g。
時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

13号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドにあり、第Ⅲ層面で検出されるべき遺構である。
〔平面形・規模・厚さ〕 40×?cmの円形をなすものか。燃焼部は最大12cmの厚さをもつ。
時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

14号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 I A 10 i グリッドの、31号土坑の南側に隣接する。整地層2下暗褐色土中に検出。
〔平面形・規模・厚さ〕 36×48cmの不整形で、燃焼部は9cmの厚さに形成。燃焼部は締まっている。
時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

（7） 埋 設 土 器

1号埋設土器

遺構（第37図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 I A 5 h グリッドに位置し、整地層1の広がりとともに、第Ⅳ層上面で検出。
〔規模〕 検出時に確認出来た土器の大きさは直径42cmほどで、これよりも若干大きめの掘り方をもっていた。検出時には欠損しているように思えた口縁部だったがこれも復元できた。
時期 遺物の特徴から、縄文時代後期初頭～前葉に属すると思われる。

2号埋設土器

遺構（第37図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッドにあり、26号土坑が隣接する。整地層2下の暗褐色土で検出。
〔規模〕 埋設される土器は全周しない。この土器よりも10cmほど大きめの掘り方をもつ。
時期 出土した土器から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

3号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕 I A 8 g グリッドで、内帯から南西方向に延びるトゲ状の石列の付け根付近にある。整地層2下の暗褐色土上面に相当する層（Ⅲ層相当）で確認された。
〔規模〕 埋設土器の大きさは直径48cmでこれも全周しない。両側に10cmほどの掘り方をもつ。
時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

4号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕 I A 12 k ・ 12 l グリッドに跨がる付近、38号集石と40号集石の中間に位置する。
〔規模〕 埋設土器は直径30cmあまりで全周する。両側に10～20cmの掘り方をもつが、これは土坑状をなす。この規模は開口部で36×50cm、底部で19×24cm、深さは30cmを測る。
時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

(8) 掘立柱建物跡と柱穴

内帯の石列が環状に巡ると仮定して、それに沿うように、かつその中心方向に軸を揃えて並ぶ掘立柱建物跡が5棟見つかった。これらは4ないし6個の柱穴を使用するが、縄文時代の土器片が出土するものもあり、5棟とも配石遺構（内帯とした石列）に何らかの形で関わる遺構と考えられる。これらを構成する柱穴内から出土した炭化物のAMS年代測定を行ったが、その結果からみても配石遺構と同様、縄文時代後期初頭から前葉に属するものであることはほぼ間違いなからう。

柱穴は総数で35個確認されたが、掘立柱建物を構成するもの23個、それ以外のもの12個である。これらについては、第3表に一覧を掲載した。

1号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A 12 h・12 g・13 hの各グリッドに跨る。柱穴群は第VI層上面で検出した。

〔建物方位〕 1間×1間の掘立柱建物で柱穴は4個使用する。長軸方向はN-29°-Wである。

〔柱間距離〕 短軸P005-P009 237cm、長軸P001-P005 254cm。

〔面積〕 9.3㎡前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

2号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A 11 h・12 hに位置し、1号掘立柱建物に隣接する。第VI層上面で検出。

〔重複〕 19号土坑とP002が重複するが、後者が新しい。

〔建物方位〕 1間×2間の柱穴を6個使用する建物で、中間の柱穴が外に張り出す所謂亀甲形、あるいは六角形タイプと呼ばれるものである。長軸方向はN-18°-Wである。

〔柱間距離〕 P004-P007 221cm、P003-P006 252cm、P004-P008 142cm、P008-P003 148cm、P007-P002 140cm、P002-P006 136cm。

〔面積〕 10.5㎡前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

3号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕 I A 10 h・11 hグリッドに跨る。6個の柱穴はいずれも第VI層上面で検出した。

〔重複〕 8号炉跡は付属するものではない。他に柱穴が見られるが、いずれも新旧は不明である。

〔建物方位〕 2号掘立柱建物跡と同じ、1間×2間の六角形タイプである。長軸方向はN-21°-E。

〔柱間距離〕 P012-P015 258cm、P013-P026 248cm、P012-P021 173cm、P021-P013 164cm、P015-P016 162cm、P016-P026 168cm。

〔面積〕 13.3㎡前後。

遺物 P021から土器片が15.3g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

4号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕 I A 9 g・9 h グリッドに跨る。3号掘立柱建物に隣りあう。第VI層上面で検出。

〔重複〕 本遺構内に8号焼土があるが、伴う可能性もある。P017は本遺構には絡まない。

〔建物方位〕 1間×1間柱穴4個使用の建物で、長軸方向はN-15°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P019-P028 253cm、P022-P018 255cm、単軸P019-P022 196cm、P028-P018 177cm。〔面積〕 7.3㎡前後。

〔付属施設〕 上述のとおり8号焼土が炉となるか。

遺物 P022から土器片が10.6 g 出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

5号掘立柱建物跡

遺構（第40図）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドの礫群が散乱する付近に位置する。

〔重複〕 5号竪穴住居跡と重複するが、本遺構のあり方から住居よりも新しい。

〔建物方位〕 1間×1間、柱穴4個使用の建物である。長軸方向は1号・4号掘立柱建物と逆となり、その方向はN-72°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P033-P035 270cm、P031-P034 240cm、単軸P033-P031 200cm、P035-P034 220cm。

〔面積〕 6.6㎡前後。

〔付属施設〕 柱穴などが周辺にあるが、本遺構には伴うものではない。

遺物 P031から7.8 g、P033から5.1 g、P034から33.1 g、それぞれ土器片が出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

（9）配石遺構

平成26年度調査の開始直後から大量の礫が確認され、日を追うごとにその広がりも拡大した。調査の中ほどにはその全貌が明らかとなり、最終的に確認できた礫の総数は1,000個以上を数えた。この礫群の性格については、これらとともに出土する土器が縄文時代後期初頭から前葉を主体とすることから、いわゆる「縄文時代の配石遺構」の可能性が高いことが明らかとなった。礫が配列される状況の違いから、60基あまりの石の集合体と捉えられる外帯と、弧状をなす石の列とみられる内帯という二重構造をとることを確認したが、初年度の調査はその時点で終了を迎える。

平成27年度は、これら内帯・外帯からなる配石遺構の詳細を調査すべく「三次元計測」なる方法も使いながら、「配石遺構の一部移設・復元」を念頭に置いた調査を実施した。対象とした配石遺構は、内帯の礫700個あまりと外帯の配石遺構5基の礫群で、調査の終盤に洋野町立角の浜小学校の旧校舎の校庭に運び込んでいるが、これら実物の礫と三次元計測時の位置データにより、内帯のすべてと外帯の集石5基については復元が可能な状況にある。それ以外の礫については、石質鑑定のみを行った。

外帯の集石群

配石遺構のうち、外帯を構成する礫群に対しては「石の集合体」という意味合いで「集石」と呼称し、全体で62基を登録した。他の遺構名に付け替える案として、「集石」と「配石墓」を区別する、

あるいはすべてを「配石遺構」と変更するなども考慮したが、墓である証拠として人骨が確認されなかったことなどもあり、ここでは調査時の遺構名をそのまま用いることとした。

外帯の集石群は、石が配置される状況によって二つに大別される。いわゆる「配石墓」のように石の集合体として捉えられるものとそうでないものの二種である。さらに前者には、下部土坑を伴うものと伴わないものがあるが、これらの別については、それぞれの遺構の記載項目の中に示す。

1号集石

遺構（第42図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 7 i グリッドに位置し、他の集石とともにⅢ層暗褐色土で検出した。

〔規模等〕 長さ220cm、幅75cmに大小9個の礫からなる。北西から南東方向に直線状に延びる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃緑岩が数個混じる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑等は確認できない。

〔性格〕 下部土坑は伴わない。外帯の南西端にあり、その一部を構成するものと思われる。

遺物 土器片が647g出土したほか、33号土坑出土の破片と接合した石製円盤が1点ある。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

2号集石

遺構（第42図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 1号集石の東側、I A 7 j・8 j グリッドなどに跨がる。Ⅲ層で検出した。

〔規模等〕 およそ2m四方の範囲に30個強の礫が検出された。このうち、集合体として捉えられる礫はS 9～27で、長さ170cm、幅100cmほどの規模をもつ。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩が主体で、他にデイサイト・ハンレイ岩が見られる。円礫は全体の1～2割程度混じる。

〔下部土坑〕 礫の配置に沿って61×109cmの下部土坑が検出された。底面には凹凸があって、北側と南側の2箇所は深く大きい。埋土は褐色土としまりのない暗褐色土である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、埋葬施設の可能性も否定できない。いずれ、外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,735gのほか、ミニチュア土器や土製円盤、石器類では砥石と石製円盤が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

3号集石

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッド南東隅に位置する。他の集石とともにⅢ層で検出した。27号土坑と重複するが、本遺構の方が新しい。

〔規模等〕 長さ170cm、幅110cmあまりの範囲に大小20個弱の礫からなる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃緑岩が数個混じる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できないが、上述のとおり27号土坑と切り合う。

〔性格〕 下部土坑は伴わず墓とは認められない。外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,840gとミニチュア土器が2点出土した。石器は出土していない。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

4号集石

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 9 i グリッドの南東隅に位置し、Ⅲ層下面で検出した。本遺構の上には整地層1は被らない。斜面方向である南北側が長い。

〔規模等〕 10個の礫が楕円形に配され、長さ122cm、幅60cmほどの広がりをもつ。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩が主体で、角閃石ヒン岩が混じる。円礫は全体の2割混入する。

〔下部土坑〕 礫の広がりに沿って55×122cmの下部土坑が検出された。これも底面の凹凸が著しい。埋土はしまりのない暗褐色土である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは言い切れない。下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,937 g 出土した。石斧の未製品も1点見られる。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

5号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 8 j ・ 9 j グリッドに跨がって位置し、18号土坑と重複する。いずれ本遺構の方が新しい。Ⅲ層あるいはその相当層で検出したが、斜面の上方は整地層1ないし2が被っていた。

〔規模等〕 80×140cmの範囲に7個の礫があり南北方向に長い。いずれの礫も検出面より浮く。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕 重複するとした18号土坑が、これに伴う下部施設であった可能性は否定できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する集石としておく。

遺物 土器片635 gのほか、異形石器が1点出土している。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

6号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 9 j グリッドに位置し、整地層1の広がりを含む。Ⅲ層下面で検出した。

〔規模等〕 10個の礫が長さ192cm、幅90cmの範囲に配される。立石と思える細長い礫も観察される。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・デイサイトが見られ、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 礫の広がりとは異なる向きに84×98cmの円形基調の土坑が見つかった。埋土は暗褐色土の単層で、ブロック状の黄褐色土を含む。底面には凹凸が目立つ。深さは最大32cmである。

〔性格〕 人骨は出土せず墓とは断定できないが、土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,742 gのほか、ミニチュア土器と土製円盤が、石器類では石鎌と小形の石斧未製品が1点ずつ出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

7号集石

遺構（第45図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 9 j ・ 10 j グリッドに跨がって位置する。Ⅲ層で検出した。

〔規模等〕 90×285cmほどの範囲に30個あまりの礫が検出された。集合体をなす礫は6個あまりで、長さ150cm、幅90cmの規模である。

〔構成礫の石質〕 砂岩主体で花崗岩・花崗閃緑岩・デイサイト・凝灰岩がある。円礫は全体の1割。
 〔下部土坑〕 6個からなる礫の周辺に85×148cmの南北に細長い土坑を1基確認した。底面の凹凸が目立つ。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で、深さは31～40cmである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。下部土坑を伴うことから、墓の可能性もある。
 遺物 土器片7,634gのほか、ミニチュア土器や不明土製品、石器は搔削器、敲石、磨石が見られる。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

8号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k グリッド中央付近に位置し、検出面はⅢ層上面である。礫とともにその外側に楕円形の暗褐色土のプランを確認した。下部土坑内にも数個（S14・15など）礫が混入する。前者の礫群のうち中央に並ぶものは、長辺側を東西に向けて置いているように見える。
 〔規模等〕 検出時の広がり84×102cmほどの規模で南北に長い。
 〔構成礫の石質〕 砂岩を主体とし、他は花崗岩・花崗閃緑岩がある。角礫がほとんどである。
 〔下部土坑〕 ほぼ検出プランどおり、114×140cmの土坑を確認した。礫の下部と底面が密着しており凹凸が目立つ。礫はいずれも土坑内に落ち込むように入り込んでいる。埋土は上位がしまりのない暗褐色土、下位は第Ⅳ層に似る褐色土が人為堆積している。深さは35cmほどである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、埋葬施設を下部に残す配石墓の可能性もある。
 遺物 土器片が824g出土した。石器は見られない。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

9号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k グリッド、8号集石の西側1mに位置する。Ⅲ層で検出した。
 〔規模等〕 50×90cmほどの範囲に5個の礫を検出、S2～4の下に小さい土坑を確認した。
 〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩からなり、すべて角礫である。
 〔下部土坑〕 上述のとおり42×66cmほどの小規模な土坑を有する。
 〔性格〕 埋葬部の土坑とするには小規模であり、他の下部土坑とは性格が異なるだろう。
 遺物 土器片は611g、石器では搔削器などが出土した。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

10号集石

遺構（第47図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 l グリッドの北東側に位置し、Ⅲ層面で検出。整地層1には覆われない。
 〔規模等〕 110×215cmの範囲に11個の礫を検出、構成礫6個は長さ90cm、幅100cmに広がる。
 〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。円礫はS9のみである。
 〔下部土坑〕 構成礫の下に、70×76cmの隅丸形状の土坑を確認した。これらはいずれも土坑内に落ち込むように入るが、底面には届いていない。埋土は暗褐色土の単層で、深さは20cmを測る。
 〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。
 遺物 土器片が229g出土したのみで、石器は見られない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

11号集石

遺構（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10k グリッドの南西側に位置し、これもⅢ層上面で検出した。18個の礫うち、配石と見なせるものはS 1～3を除く15個である。S 5は長さ1mを計る巨礫で立石であったか。

〔規模等〕 15個の礫は60×160cmの範囲に広がる。S 5が立石であったとすれば若干小規模となる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ハンレイ岩などからなる。円礫は2割混じる。

〔下部土坑〕 S 5が立っていたと思われる掘り方を伴う楕円形の土坑を検出した。礫の並びと同じ方向を長軸としている。規模は85×138cm、深さは40cm弱で、埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 下部土坑を伴い遺物も含まれることから、配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片636gのほか、下部土坑から土製円盤と石斧の未製品、この他には石鏃が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

12号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k・10k グリッドに跨がる。集石の外側に楕円形のプランを伴いながら、すべてⅢ層上面で検出した。本遺構は大小7個の礫からなり、一部は整地層1に覆われる。

〔規模等〕 55×92cmほどの規模をもつ。S 1は立石であった可能性もある。

〔構成礫の石質〕 S 1が花崗閃緑岩で、他は砂岩である。円礫は1個含まれる。

〔下部土坑〕 楕円形土坑1基を検出した。規模は76×106cm、深さは20cm。埋土は暗褐色土の単層。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片437gと石製円盤などが出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

13号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10k・101 グリッドの西側に跨がっており、12号集石同様これも礫の外側に楕円形の黒褐色土プランが確認できた。検出面はⅢ層の暗褐色土である。

〔規模等〕 8個の礫があるが、大きめのS 1～5・7の5個で配石を構成する。斜面に対して上下左右に礫が埋め込まれ、その中央の隙間にも礫が入る。規模は70×105cmを測る。

〔構成礫の石質〕 S 3が花崗閃緑岩で他は砂岩である。円礫はS 2・8、ハンレイ岩である。

〔下部土坑〕 検出プランと異なり、不整な楕円形に掘りあがった。規模は92×118cm、深さは15cmあまりと浅い。底面には細かな凹凸がある。埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片484gと石製円盤が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

14号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッドの北西端に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ160cm、幅60cmほどの範囲に4個の礫が散乱する。一連のものとは捉えにくい。

〔構成礫の石質〕 すべて砂岩である。〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片84gのみ出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものであろう。

15号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッドの南西隅に位置する。III層上面において、礫の外側に黒褐色の楕円形プランも確認した。14個の礫のうちS10以外で配石をなすが、整然と組まれている。

〔規模等〕 13個の礫は74×108cmの範囲に広がる。長軸は南北方向からは若干ずれている。

〔構成礫の石質〕 13個の礫は砂岩とデイサイト2個からなる。円礫は1個のみである。

〔下部土坑〕 礫の並びと同方向に長軸をもつ下部土坑が確認できた。規模は70×124cm、深さは25cm。それぞれの礫は底面まで届いておらず、底面の凹凸は小さい。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片355gと石鏃が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

16号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A91・101 グリッドの南端に位置する。III層下～IV層上面で、下部土坑の円形プランとともに検出した。この4個の礫だけで集石をなしていたかは不明である。

〔規模等〕 48×75cmの範囲にあり南北方向に長い。

〔構成礫の石質〕 砂岩1個、花崗閃緑岩3個。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出した。規模50×74cm、深さ30cm。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、小規模ながら下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が63g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

17号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッド中央の南寄りにあり、III層～IV層上面で礫11個とその周りに土坑のプランを確認した。長軸方向は西側に振れる。配石と見なせる礫はS1・2を除く9個であろう。

〔規模等〕 9個の礫は90×115cmほどにあり、楕円形をなしてまとまる。S5は立石であったか。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ヒン岩・凝灰岩が見られる。角礫が主である。

〔下部土坑〕 立石状のS5が埋まる土坑を確認した。不整楕円形をなし、規模は80×115cm、深さは10～35cmを測る。底面は礫の掘り方と思われる大きな凹凸をもつ。埋土は暗褐色土が主体である。

1 検出遺構

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が454 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

18号集石

遺構（第51図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッドの南東隅に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ150cm、幅65cmの範囲に5個の礫があり、中でも2個の細長い円礫は並列する。

〔礫の石質〕 3個の砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩1個ずつからなる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が218 g 出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

19号集石

遺構（第51図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A10mグリッド北側に位置する。III層下～IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ330cm、幅150cmあまりの範囲に7個の礫が散在する。まとまりはない。

〔礫の石質〕 砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片486 gのほか、石器類は、2種の敲石計2点と石製円盤1点などが出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

20号集石

遺構（第52図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A10j グリッド南東隅に位置する。III層面で礫26個とともに、外側に不明瞭な楕円形のプランも確認できた。長軸方向は東側に振れる。配石と見なせる礫は大小20個あまりか。

〔規模等〕 配石をなす礫は85×155cmの範囲にあり、他の配石よりも小礫が多く密集した状態である。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・花崗岩にデイサイトや凝灰岩が見られ、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕 S3～8、21～26などの下部に、楕円形の土坑を確認した。礫の広がりよりは小さく、規模は55×94cm、深さは12～15cmを測る。底面には大きな凹凸がない。埋土は黒褐色土の単層。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,418 gと石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

21号集石

遺構（第52図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A11j グリッド北側に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 およそ180cm四方に4個の礫が散在する。

〔礫の石質〕花崗閃緑岩や珪質頁岩からなる。

〔下部土坑〕確認できない。

〔性格〕外帯の一部を構成する礫群であるが、まとまりは認められない。

遺物 土器片が58g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

22号集石

遺構（第53図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッド北側に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。長軸を北西－南東方向にもつ。12個の礫を確認したが、原位置を保っていないS3～8は集石から外れる。

〔規模等〕塊をなす6個の礫は80×142cmの範囲にあり、特にS2は深く差し込まれている。

〔構成礫の石質〕花崗岩とヒン岩からなり、円礫はS7のみである。

〔下部土坑〕不整形の細長い土坑状の掘り込みを伴う。規模は64×115cm、深さは35～40cmを測る。底面は丸みを帯び比較的平坦である。埋土は土器片を含む黒褐色土の単層である。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が1,283g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

23号集石

遺構（第53図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A10k・11k グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層上面で円形に確認できた。

〔規模等〕130×164cmの範囲に丸く広がる。礫間には適度な隙間が保たれている。

〔構成礫の石質〕花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩で、デイサイトが1個混じる。赤みをもつ礫が多い。

〔下部土坑〕礫の広がりに沿うように、円形の土坑が確認された。規模は94×136cm、深さは30cm前後である。いずれの礫も底面には達しておらず、比較的平坦である。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片649gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

24号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 23号集石の南西側、I A10k・11k グリッドに跨がる。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕礫は120×240cmの範囲に散らばる。S11と他の2つの礫で70×100cmの広がりをもつ。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩から構成され、すべて角礫である。

〔下部土坑〕規模75×104cm、深さ20cmあまりの不整形円形をなす土坑が1基確認された。埋土は粘性のある暗褐色土で浮石粒を含む。底面は礫の凹凸もなく平坦である。

〔性格〕まとまりのない礫の配置だが、土坑を伴うことから墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片503gのほか、ミニチュア土器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

25号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A10k グリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。15個ほどの礫は、木根に若干押されているものもある。検出時には石刀の欠損品もこの周辺から出土した。

〔規模等〕 礫は90×95cmの範囲に三角形に広がり、そのまともは比較的密である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ヒン岩などからなる。円礫はS8のみである。

〔下部土坑〕 長方形の土坑が1基確認され、規模は70×94cm、深さは30cm強である。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で底面には凹凸がある。長軸方向は西側に45度前後振れている。

〔性格〕 人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が869g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

26号集石

遺構（第55図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A10l グリッド中央からわずかに北東側に位置し、Ⅲ層上面で黒褐色土のプランとともに集石を検出した。S8～10を除く15個あまりの礫の集まりは極めて密である。

〔規模等〕 15個の礫は110×115cmの楕円形に広がる。S11は最も大きく目立つ礫である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩が主体で頁岩を数個含む。円礫は1個だけであった。

〔下部土坑〕 楕円形基調の土坑状の掘り込みが認められた。規模は107×130cm、深さは15～32cmを測る。底面は、礫の掘り方なのか凹凸が著しい。埋土は土器片を含む褐色土の単層でしまりが無い。

〔性格〕 人骨は出土しておらず断定できないが、墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片が546g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-1

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A10l グリッド北東隅に位置し、20個以上の礫の集合をⅢ層上面で検出した。当初は長さ2m、幅70cmに及ぶ1基の集石としたが、後日中央から二つの集合体に分けた。

〔規模等〕 S1～6・16～19など10個あまりの礫からなり、85×87cmほどの範囲に広がる。S6はまともに入らない。S19は磨石である。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・デイサイトなどで、円礫は数個混入する。赤化した礫も混じる。

〔下部土坑〕 楕円形基調の不整な土坑が見つかった。規模は112×63cm、深さは10～30cmである。底面は凹凸があり、埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が1,576g出土した。27号集石として取り上げたもので、2との区別は出来ない。また、土製円盤が1点出土したが、土器片同様いずれかは分からない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-2

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 上述のとおり、I A101 グリッドの27号集石-1北東側に隣接する。

〔規模等〕 S7～14など10個あまりの礫からなり、55×116cmの範囲に広がる。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種がある。これにも赤みのある礫を含む。

〔下部土坑〕 掘り込みがあるが、規模は55×110cmで、深さは1030cm弱である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

28号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A101・111 グリッドに跨がる。周りの集石とともに、Ⅲ層上面で30個以上の礫と土坑状の楕円形プランを検出した。S8・17～22・37などはその塊から外れる。

〔規模等〕 礫は110×176cmの楕円形に広がり礫間の隙間は小さい。長軸は北東から南西方向にある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体にデイサイトなどが見られ、円礫は全体の1～2割ほど混入する。赤化した礫も数個あるが、置かれる前に被熱したものか。

〔下部土坑〕 不明瞭ではあるが、不整な楕円形の土坑が確認された。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕 断定はできないが墓の可能性はある。残存状態が良いため、移設対象とした遺構である。

遺物 土器片が666g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

29号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A11k・111 グリッドに跨がり、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 礫は72×164cmの範囲に広がり、長軸は北東-南西方向にある。S1・2は墓標や目印か。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩・砂岩が主体で、デイサイト・アプライトが混じる。円礫は2割程度。

〔下部土坑〕 台形基調の不整な土坑が1基確認できた。規模は80×118cm、深さは18～25cmである。底面は礫の形状にあわせて凹凸をもつ。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が253g出土した。石器は出土していない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

30号集石

遺構（第57図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッド中央からわずかに南寄りに位置する。Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。20個あまりの礫を確認したが、S1・13～17などはまとまりから外れている。

〔規模等〕 塊をなす礫は70×140cmほどの範囲にあって、中央部は礫が密集している。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩を主体とし、閃緑岩やはんれい岩が1個ずつ入る。円礫は混入しない。

1 検出遺構

〔下部土坑〕不整形の土坑が確認された。規模は82×101cm、深さは10～42cmを測る。底面は斜面下方に深くなり、礫の凹凸も若干認められる。埋土は黒褐色土の単層でしまりに欠ける。

〔性格〕下部土坑の状況から埋葬に関わる遺構とは考えにくいだが、墓であった可能性も残る。

遺物 土器片430gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

31号集石

遺構（第57図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッドの北東寄りにあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。30個以上の礫からなるが、S 1～3などの大きい礫は墓標であったか。S 5はまとまりから外れる。

〔規模等〕礫は120×160cmの範囲にあり、その中央部は小さめの礫で占められる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体に、デイサイト・凝灰岩・はんれい岩・頁岩などが1つずつ入る。円礫は全体の2割ほどである。赤化した礫が数個混入しているが、被熱したものか。

〔下部土坑〕不明瞭ではあるが、不整な楕円形の土坑が確認された。規模は106×158cm、深さは5～25cmを測る。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が273g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

32号集石

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出。礫が落ち込む様相。

〔規模等〕礫は85×90cmの範囲に密集している。礫同士が重なる箇所も見られる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩・はんれい岩の4種があり、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕円形基調の土坑が1基検出された。規模は81×98cm、深さは最大30cmを測る。底面はわずかに波打つが礫の凹凸は見られない。埋土は単層でしまりが無い。

〔性格〕人骨は出土していないが、下部施設を伴うことから墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか35g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-1

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッドの南西隅に位置し、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。全体規模等が不明確であったが、木根を境として東西二つに分かれる集石と判断した。ここでは33号集石-1・2として記載する。本遺構は15個あまりの礫からなる。

〔規模等〕 S 5～8、10～14など95×132cmの範囲にあり、うちS 7は立石と思われる。

〔構成礫の石質〕砂岩と花崗閃緑岩を主体に花崗岩やハンレイ岩が入る。円礫は1～2割程度混入。

〔下部土坑〕楕円形基調の不整な土坑が確認出来た。規模は72×100cm、深さは10～30cmを測る。底面には細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層で、ほぼしまりは無い。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が322g出土したが、2とは区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-2

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッドの南西隅、上述のとおり、33号集石-1の東側にある。

〔規模等〕 礫はS1・2のほか、15～22・26～28などからなる。これらは94×180cmの範囲にある。

〔構成礫の石質〕 砂岩を主体に花崗斑岩などが入る。円礫は認められない。赤化した礫が目立つ。

〔下部土坑〕 楕円形基調の掘り込みがあるが、規模は55×110cm、深さは数cm～最大40cm弱である。底面は礫の掘り方の細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 322g土器片が出土したが、1と区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

34号集石

遺構（第59図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッドの北西隅にあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕 70×82cmに広がる。大きめの礫4個が長方形をなし、その中は2つの礫で充填される。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩で、ホルンフェルスが1個入る。すべて角礫である。

〔下部土坑〕 円形基調の土坑が検出された。規模は79×100cm、深さは15～34cmを測る。礫の形状に合う凹凸が見られる。埋土は黒褐色土の単層でフカフカとやわらかい。

〔性格〕 人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか40g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

35号集石

遺構（第59図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド西端に位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 45×100cmの範囲に4個の角礫があり、2個は上下に重なる。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩2個と砂岩2個からなる。

〔下部土坑〕 確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が110g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

36号集石-1

遺構（第60図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 当初は幅70～80cm、長さ250～280cmに広がる14個の礫から構成される1基の集石として登録したが、途中S1～7、S8～13の2基の集石に分けることとした。本遺構はI A12k グリッド南西隅に位置、Ⅲ層上面で検出した。集石内を区切るように配置される礫がある。

1 検出遺構

〔規模等〕 90×122cmに広がり、S 7は若干外れる。S 1は目印的な使われ方か。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・閃緑岩からなる。円礫はS 6のみである。

〔下部土坑〕 不整な楕円形の土坑を検出した。規模は64×112cm、深さは最大30cmである。底面は礫の凹凸が目立ち、斜面方向に傾く。埋土は黒褐～暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が50 g出土したが、2との区別はできていない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

36号集石-2

遺構（第60図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 I A121グリッドの基点杭を遺構の中心に置く。これもⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕 6個の礫が50×94cmの範囲に重なるようにある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・ヒン岩などで、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 礫の掘り方が残る箇所があるが、下部施設は認められない。

〔性格〕 埋葬施設は持たないが、配石墓に類する配石遺構の可能性はある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

37号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 I A12k・121グリッド、Ⅲ層上面で検出した。10個の礫が楕円形に密集する。

〔規模等〕 礫は58×70cmほどの範囲にあって、礫間は密集している。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩を主体とし花崗斑岩がひとつ入る。円礫は2個である。

〔下部土坑〕 円形基調の土坑で、規模は74×78cm、深さは10～18cm。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が40 g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

38号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 I A121グリッド北端に位置し、これもⅢ層上面で土坑プランとともに確認した。

〔規模等〕 長軸方向を北東-南西にもつ集石で、74×114cmの範囲に広がる。礫は密集していない。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・石英斑岩などからなり、円礫は2個混じる。

〔下部土坑〕 楕円形の土坑を検出した。規模は82×88cm、深さは最大35cmである。底面は小さく波打ちいずれの礫も底面には届かない。埋土は黒褐色土の単層でやわらかい。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片のみ、105 g出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

39号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッドの南端に位置し、Ⅲ層上面で検出した。三角形に配置されるか。

〔規模等〕 礫は一辺が120cmの三角形に広がり、礫間は密集した箇所とそうでない箇所がある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ハンレイ岩などからなる。円礫は見られない。

〔下部土坑〕 方形基調の不整な土坑を礫下に伴う。規模は90×92cm、深さは10～40cmを測る。底面は地形面に沿って傾斜し、部分的に礫の凹凸を有する。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片107gのほか、石斧の未製品が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

40号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド南東側、Ⅲ層上面で礫と楕円形のプランを確認した。

〔規模等〕 62×117cmの範囲にあり、他はその中を区切るように配されている。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗岩がほぼ半数で、他に花崗閃緑岩や閃緑岩がある。円礫はS12のみ。

〔下部土坑〕 85×111cmの楕円形の下部土坑を検出した。細長い礫が縦に埋め込まれる部分の底面には、その形状に伴う凹凸が見られる。埋土はやわらかい暗褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部に土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片は79g出土し、石器は異形石器が1点見られた。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

41号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k・13k グリッドに跨がってある。Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ135cm、幅50cmあまりの範囲に6個の礫があり、二つの塊をなす。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアプライトからなる。〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が370g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

42号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド東寄りに位置し、Ⅲ層上面の暗褐色土で検出した。

〔規模等〕 礫が155×188cmの範囲に広がる。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩とアプライトが主体で、花崗岩・砂岩・ハンレイ岩などが見られる。

〔下部土坑〕 掘り上がりが不整な楕円形をなす土坑を確認した。規模は125×210cm、深さは14～28cmである。底面は大きく波打つが凹凸は少ない。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨等が出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が828g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

43号集石

遺構（第64図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A12 j・12 k グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 比較的大きめの礫が直径120cmほどの範囲にあるが、集合体として捉えやすい。

〔構成礫の石質〕 花崗岩と花崗閃緑岩がほぼ半数で、これらはすべて角礫である。

〔下部土坑〕 集合体の外周に沿う不整形をなす土坑を確認した。規模は直径130cm前後、深さは25cmを測り、底面には大きな凹凸がない箇所もある。いずれの礫も周囲から落ち込んでいる。

〔性格〕 墓とは断定できないが、円形の下部土坑を伴う配石墓の可能性はある。

遺物 土器片がわずかに12 g 出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

44号集石

遺構（第64図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッドに位置し、これもⅢ層上面の暗褐色土で検出した。南北に長い。

〔規模等〕 楕円形をなす礫12個は70×94cmほどの範囲に広がり、S 1・13・14はそれから外れる。

〔構成礫の石質〕 花崗岩を主体に、砂岩・花崗閃緑岩・デイサイト・ひん岩・アプライトがあり、円礫が全体の1割程度含まれる。S 4～7などは赤みの強い色調を見せる。

〔下部土坑〕 楕円形をなす土坑が確認された。規模は100×130cm、深さは25cm前後で、底面は皿状をなす。礫が底面に至らないためか、凹凸は見られない。埋土は炭化物粒を含む暗褐色土の単層。

〔性格〕 人骨や副葬品と思われる遺物は出土していないが、下部土坑を有する配石墓の可能性はある。

遺物 土器片73 gのほか、ここでは数少ない石匙が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

45号集石

遺構（第65図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A13 k グリッドの中央から南寄りに位置する。Ⅲ層上面およびそれに相当する層で検出した。礫20個強の礫を確認したが、S 20・21は集石部分から若干距離を置く。

〔規模等〕 それらを除く広がりには110×180cmになるが、礫どうしが重なり合っている。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩とアプライト・デイサイトが主体で、円礫は1割ほど混じる。

〔下部土坑〕 集合体よりも小さめの楕円形土坑を1基確認した。規模は100×172cm、深さは最大で20cmを測る。底面には目立つ凹凸がない。埋土は黒褐色土の単層でやはりしまりが無い。

〔性格〕 下部土坑を伴う配石墓の可能性のある遺構である。

遺物 土器片661 g と石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

46号集石

遺構（第65図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕 I A12 l グリッドに位置し、Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 礫 2 個からなる。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩と花崗岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が204 g 出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

47号集石

遺構 (第66図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A13k グリッドの北側に位置し、検出面はⅢ層上面の暗褐色土である。礫17個とその周辺に円形のプランも確認した。軸方向は斜面に沿うが不明瞭である。

〔規模等〕 比較的大きめの礫は140×140cmの範囲にあるが、密集した感じではない。

〔構成礫の石質〕 花崗岩が主体で、花崗閃緑岩と砂岩が1個ずつ混じる。円礫は1個である。

〔下部土坑〕 S 9～12を除く箇所に、不整な楕円形をなす土坑を1基確認した。規模は95×130cm、深さは10～15cmを測る。底面には大きな凹凸が認められず、比較的平坦である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,328 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

48号集石

遺構 (第66図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A13k グリッド北西隅に位置し、検出面はⅢ層上面である。S 4 など立石状か。

〔規模等〕 残り7個の礫は74×82cmの範囲に円形に密集している。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩のほか、溶岩と閃緑岩が混じる。円礫は3個程度。

〔下部土坑〕 幅80×長さ100cmの概ね台形をなす土坑を検出した。深さは10～25cmで、底面には礫が埋まる深さの凹凸が認められる。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片が411 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

49号集石

遺構 (第67図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A12j・13j グリッドに跨がりⅢ層上面で検出。S 2 は台石からの転用である。

〔規模等〕 4 個の礫は60×100cmの範囲にあり、S 6 と S 7 は重なる。

〔構成礫の石質〕 花崗岩が4個、アプライトが1個で、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 S 6・7の外側に、幅75×長さ85cmの不整円形の掘り込みを確認した。礫の据え方に関わるもので、埋葬施設とは思われない。深さは30cm前後で、底面には凹凸が見られる。

〔性格〕 この状況から埋葬に関わる集石ではないと思われる。外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片が314 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

50号集石

遺構（第67図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A 14 l グリッド杭付近にある。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 110×150cmの範囲に礫7個が散乱している。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアプライトの他、風化の進んだ蛇紋岩（石斧の未製品）が見られる。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片398g、石器では石斧の未製品が1点出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

51号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A 14 k グリッドにある。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ150cmに礫2個のみ。

〔礫の石質〕 2個とも花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 なし。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群としておく。

遺物 わずか4gの土器片が出土したのみである。

時期 縄文時代後期に属するものである。

52号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A 14 j グリッドの南西端に位置する。Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 70×140cmあまりの範囲に大きめの礫が2個。

〔礫の石質〕 ともに花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片375gと敲石が1点出土した。

時期 縄文時代後期に属するものである。

53号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A 13 j・14 j グリッドに跨がり、Ⅲ層上面で検出した。8個の礫を確認した。

〔規模等〕 6個の礫は40×70cmの範囲に広がる。礫間には隙間が見られる。

〔構成礫の石質〕 すべてアプライトであったが、石質が1種類であるのは本遺構の礫群だけである。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出したが、礫の形状に伴う凹凸はその掘り方そのものと言える。深さは最大で45cmで、埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。

遺物 土器片が464g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

54号集石

遺構（第69図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 53号集石の東側、I A14 j グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 50×92cmの範囲に細長く並ぶ。S 1・6は配石からは外れるか。

〔構成礫の石質〕 アプライト主体で、花崗岩・ホルンフェルスが混じる。すべて角礫で赤く変色する。

〔下部土坑〕 幅48cm×長さ92cmの長方形をなす土坑を1基検出した。深さは15cm程度で、底面には礫の形に沿う凹凸が認められる。埋土は黒褐色土の単層でしまりが無い。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片197gのほか、石斧が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

55号集石

遺構（第69図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 I A14 j グリッドに位置し、これもⅢ層上面で検出した。9個の礫を確認した。

〔規模等〕 4個の大きめの礫は82×96cmの範囲にあり、S 7にS 2が重なる。S 2は墓標的か。

〔構成礫の石質〕 アプライト・花崗岩・花崗閃緑岩・デイサイトなどがあるが、円礫は2個である。

〔下部土坑〕 幅56cmほどの掘り込みを確認した。深さは最大で33cmを測る。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片が457g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

56号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 I A15 j グリッドにあり、Ⅲ～Ⅳ層で検出した。

〔規模等〕 小礫1個を含む礫3個が散乱している。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアプライトの他、蛇紋岩（石斧の未製品）あり。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帯を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片が294g出土した。石器は石籠が1点見られた。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものである。

57号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 I A15 j グリッド杭を中心に4つのグリッドに跨がる。Ⅲ層上面で検出した。9個の礫を確認しているが、S 1・6以外は小さめの礫が並ぶ。

〔規模等〕 85×120cmの範囲に広がる。いずれの礫も構築面より高い位置にある。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩1点と他はすべてアプライトで、いずれも角礫である。

〔下部土坑〕 なし。

〔性格〕 下部土坑を伴わず、配石墓とは言い難い。外帯を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片592gと異形石器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

58号集石

遺構（第71・72図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕本遺構は、数多くある集石の中で最大規模をもち、かつ調査区内で最も標高の高い地点につくられたもので、当初の調査区北東側 I A14 i グリッドに位置する。これもⅢ層上面で、50個以上の大小の礫の広がりを確認した。S 1は30～65cm×120cmほどある巨礫であるが、途中で折れ原位置は保っていない。検出時、周辺には土坑等のプランは確認されなかった。

〔規模等〕50以上を数える礫は300×370cmあまりの範囲にあるが、上述の密集した箇所は130×185cm前後で、最終的に検出できた下部土坑もほぼこの広がり重なっている。

〔構成礫の石質〕花崗閃緑岩とアプライトを主体とし、ホルンフェルスやチャートが含まれる。円礫は全体の1～2割混入し、赤みを帯びる礫も中央部に目立つ。

〔下部土坑〕礫を除去後、不整楕円形をなす幅1.8m×長さ2.5m、深さ35～40cmの下部土坑を検出した。一見2つの土坑に見えたが、上段部底面の堆積土と下段部北西側の底面に同じ堆積土が分布していることから、掘り込みが2段となる1基の土坑と判断した。1～3層はしまりがなく、他の下部土坑堆積土と状況は同じである。ブロック状の黄褐色土がモザイク状に分布し、人為堆積と考えられる。

〔性格〕下部土坑は、土壙墓としては規模が大きすぎるようであり、また埋土は重複と捉えられるような堆積状況ではなかった。このことだけから埋葬行為があったかどうかは判断できない。敢えて墓と捉えるならば、主体部が下段部となり、配石設置に関わる範囲が上段部と捉えるのが適当か。

遺物 土器片1,021gと鐸形土製品、土製円盤、石器類では砥石、敲石がそれぞれ1点ずつ出土した。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構である。大形の下部土坑を伴う最大規模の配石遺構であり、外帯の中でも特別な遺構であったものと考えられる。

59号集石

遺構（第72図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕I A10 j・10kグリッドの西側に跨がって位置する。整地層1が施される範囲の境界付近にあるが、それを除去後にⅢ層上面で検出した。下部土坑のプランは不明瞭であった。

〔規模等〕礫は50×150cmの範囲に広がる。S 2は立石であった可能性がある。

〔構成礫の石質〕砂岩に花崗閃緑岩が1つずつ混入する。S 9のみ円礫である。

〔下部土坑〕幅94×長さ112cmの楕円形をなす土坑を検出した。深さは最大で40cmを超える。埋土は、土器片をわずかに含む黒褐色土の単層でしまりがなく、底面には大小の凹凸をもつ。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片2,241gと土製円盤1点、石器類では石皿からの転用品、有孔石製品が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

内帯の石列（第73図、写真図版15）

本遺構は、調査区北側の中央部に確認された総数180個の礫からなる石の列で、整地層1の除去作業を開始したところ、第Ⅲ層からⅣ層上面あるいは整地層2の上面で徐々に多数の礫が顔を出し、最終的にはその数を数えることとなった。全体規模は不明であるが、階上岳のある西南西方向にトゲ状の石列が4mほどまっすぐに延び、弧状をなす本体は、北側の調査区域外に広がることが予想される。

構成礫の石質は、花崗岩がおよそ65%を占め、次いで花崗閃緑岩が10%弱、花崗斑岩・デイサイトが3%ずつで、他にはハンレイ岩・ペグマタイト・斑岩などが見られる。全体としてみれば環状ないし弧状に配されているが、途切れ途切れの箇所も見受けられる。重なり合う礫もあるが、あまり密集した感じは受けない。礫の大きさは、拳大より小さいものから直径80cmほどの巨礫もあり、角礫・亜角礫が主体ながらも、2～3割ほど円礫が混じる。重複する遺構に5号竪穴住居跡があるが、確実に本遺構の方が新しい。また、3号埋設土器とは隣接するが重複関係にはない。本遺構の内側に検出された遺構には、P010・011の二つの柱穴と10号焼土遺構があるが、本遺構との関連は掴めていない。

この遺構全体を、弧状あるいは環状の円環をなすものとして線形を描いてみたが、直径は約25～30m前後と想定され、平面図からは多少いびつな楕円形を呈するものと考えられる。これから判断して、調査区域内では全体の約1/4～1/5程度が調査できたことになるが、予測の域を出ない。地形的に見ると、南側から北側に向けて緩く傾斜している様子がわかるが、自然地形がそうであったのか、あるいは人の手による土地造成によるものかは判断が付けられなかった。

(10) 整地層

整地層1・2

遺構（第74～76図、写真図版3・4）

〔位置・検出状況〕 調査区北西部の東西方向 I A 4 f～I A 14 h グリッド、南側は I A 8 k グリッド付近にまで広がる約750㎡の2枚の整地層で、調査開始直後、表土掘削時にその直下で黄褐色土の広がり確認された。その面には黒褐色土が見え隠れする部分があり、当初はこの二つの上下関係がよく掴めなかった。

〔精査の状況〕 上述したように、整地層1は黄褐色、2は黒色から黒褐色をなす。いずれも調査区外の北側にも延びることは断面観察から明らかである。前者は内帯の石列を完全に覆うが、後者は石列の構築面との区別がつきにくく、これも人為的な造成によるものと判断はしたが確証はない。しかし、整地層1・2とも施されている範囲は概ね同じように広がり、厚さも10～20cm程度とこれにもほとんど差が見られないことから、造成作業時には土壌の色調の別や土量などが当然意識されていたものと考えたい。また、整地層1については、平面的に掴んだ範囲と調査区北側の南面向きセクションで観察される範囲が異なり、断面で見ると東側への広がり、58号集石の直前までであった可能性が高い。このことは、集石内で最大規模をもつ58号集石が整地層1で被覆されず、これだけが地表に露出していたことを示すのではないかと考える。

〔重複関係〕 整地層1・2とも、内帯の石列すべてと外帯の集石遺構のほとんどを覆う。すべての集石が被覆されたか否かは不明である。

〔平面形・規模〕 検出した平面形状は円形基調で、推定される直径は50m前後である。内帯の石列および掘立柱建物の曲線状の並びとも同心円状をなす。石列と整地層間の間隔は15～18mほどで、各種遺構が集中している。上述のとおり、いずれもこれよりは古い遺構群である。

遺物 ともに縄文時代の土器片等を数点ずつ含んでいた。このことから、整地造成作業は縄文時代後期前葉以降に行われたと思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

時期 集石遺構群を覆うことから、縄文時代後期初頭から前葉以降に何らかの意図で行われた人為的作業である。3点行った年代測定だが、縄文時代晩期中葉（2790±30yrBP）が最も古い値である。

第2表 柱穴状土坑一覧表

柱穴名	グリッド	開口部(cm)	断面図深さ(cm)	平面図深さ(cm)	検出面標高(m)	遺物	備考
P001	I A12g	51×47	65	65	62.4		1号掘立柱
P002	I A12h	56×52	35	26	62.5		2号掘立柱
P003	I A12h	58×49	42	38	62.5		2号掘立柱
P004	I A11h	54×46	30	31	62.4		2号掘立柱
P005	I A13h	60×57	53	59	62.4		1号掘立柱
P006	I A12h	46×38	60	60	62.5		2号掘立柱
P007	I A12h	45×40	30	33	62.4		2号掘立柱
P008	I A11h	38×37	—	22	—		2号掘立柱
P009	I A13h	52×48	56	55	62.5		1号掘立柱
P010	I A8f	44×39	27	33	61.8	有り	
P011	I A9f	39×34	20	31	61.8	有り	
P012	I A10h	57×46	22	26	62.4		3号掘立柱
P013	I A10h	71×62	45	51	62.4		3号掘立柱
P014	I A10h	69×56	40	42	62.4		
P015	I A11h	52×43	15	16	62.4		3号掘立柱
P016	I A11h	44×42	76	77	62.4		3号掘立柱
P017	I A9h	34×33	17	21	62.4		
P018	I A9h	64×60	56	60	62.4		4号掘立柱
P019	I A9g	46×41	53	56	—		4号掘立柱
P020	I A10h	53×48	—	39	62.4	有り	
P021	I A10h	50×35	88	92	—	有り	3号掘立柱
P022	I A9h	44×41	50	51	62.4	有り	4号掘立柱
P023	I A8g	63×35	—	57	—		
P024	I A10h	61×58	—	31	—	有り	
P025	I A10h	50×47	48	58	62.4		
P026	I A10h	53×46	46	53	62.4		3号掘立柱
P027	I A9g	51×43	46	49	62.4		
P028	I A9h	57×53	60	66	62.4		4号掘立柱
P029	I A8g	50×46	—	58	62.2		
P030	I A7f	36×33	—	66	—		
P031	I A7g	68×51	90	96	—	有り	5号掘立柱
P032	I A7f	45×40	92	35	62.2		
P033	I A7f	64×53	—	69	62.2	有り	5号掘立柱
P034	I A7f	66×60	—	52	62.1	有り	5号掘立柱
P035	I A7f	67×57	—	15	62.0		5号掘立柱

2 出土遺物

(1) 土器の分類と土製品について

平成26・27年度調査で出土した土器・土製品の総重量は260kg弱を計る。縄文時代後期初頭から前葉にかけての遺物がそのほとんどを占め、他は縄文時代早期の貝殻文、早期末から前期初頭、中期末から後期初頭、弥生時代後期の交互刺突文をもつ一群に限られる。器種には、深鉢・鉢・浅鉢・大小の壺・釣手土器などがあり、特に後期の土器は器種のバリエーションが豊富である。

土器については、遺構内外とも以下のように分類し、主体をなす後期初頭から前葉の土器群は、榎本(2008)の当該期の編年に拠り細分した。なお、土器観察表への掲載は、それぞれの群(類)にお

いて、遺構内→遺構外の順としている。

- A群→縄文時代早期中葉に属する貝殻腹縁文が施文される一群（白浜式・寺の沢式相当）
 B群→縄文時代早期末葉から前期初頭に属する胎土に植物繊維を含む一群（赤御堂式相当）
 C群→縄文時代中期末葉から後期初頭に属する一群（大木10式～門前式相当）
 D群→縄文時代後期初頭から前葉に属する一群（前十腰内式および十腰内Ⅰ～Ⅱ式）
 ＊Ⅰ～Ⅵ類の6つに細分。土器観察表にはDを省略、ローマ数字のみを記載
 Ⅰ類…前十腰内Ⅰ式「牛ヶ沢式」など、隆帯による文様主体のもの
 Ⅱ類…「湯舟沢A式」など、方形区画文等の沈線文主体のもの
 Ⅲ類…「薬師前・小牧野3期」など、巴状入組文主体の十腰内Ⅰ式直前段階
 Ⅳ類…連結する円環状の入組文など、十腰内Ⅰ式古段階
 Ⅴ類…種類豊富な入組文や帯縄文が見られる十腰内Ⅰ式新段階
 Ⅵ類…複数の沈線からなる多重沈線文が見られる段階
 E類→弥生時代後期に属する一群（天王山式もしくは赤穴式）
 F類→縄文時代後期と思われる無文土器
 G類→縄文時代後期を主体とする粗製土器

土製品は、土偶（4点）、土版？（1点）、鐸形土製品（15点）、ミニチュア土器（22点）、土製円盤（86点）、耳飾り（1点）、紐状土製品（1点）、不明土製品（2点）を掲載した。この他に、鐸形土製品やミニチュア土器の破片など約80点の不掲載遺物があるが、図化できない細片であった。

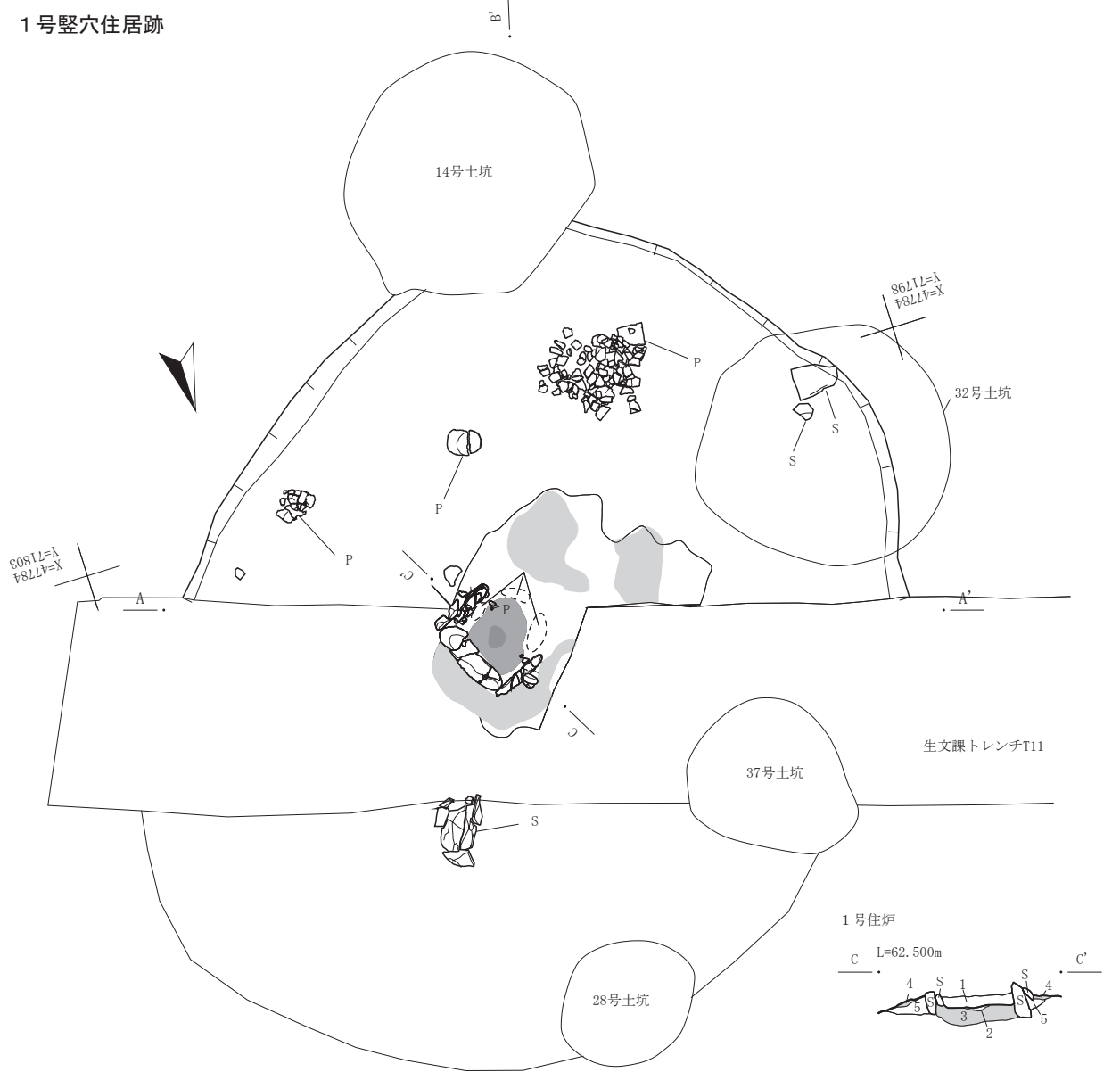
（2）石器・石製品について

2カ年の調査で出土した石器・石製品の総重量はおよそ170kg、点数は500点弱を数える。全体における器種毎の出土点数等の詳細は、第128～130図に示したとおりである。剥片石器の種類には、石鏃・石匙・石篋・異形石器・搔削器などが、礫石器には石斧およびその未製品・砥石・石皿台石類・敲磨器類があり、前者の特徴としては石匙が少なく、異形石器が比較的多いことが挙げられる。後者では石斧とその未製品および敲石が多いという傾向が見られたが、石斧の未製品については、須原の分類（2014）に拠り、1～4段階の別を第4表の備考欄に記載した。敲石は渋谷川流域から得られるハンレイ岩を素材とし、円形のものと同形状のものがある。いずれも素材縁辺の一部あるいは全周が使われ、円形のものでは側面が薬研状をなすものも見られる。ハンマー的な使用が想定されるが、石斧製作工程の研磨以前の作業に関わる遺物と考えられる。

石製品（括弧内は掲載点数）には、石製円盤（18点）、有孔石製品（5点）、ヒスイ製垂飾品（1点）、石刀・石剣（6点）、石斧のミニチュア製品（2点）とその未製品（4点）、棒状石製品（1点）があり、全点掲載した。

第129図右上の石器類出土分布から分かるように、これらは外帯の集石遺構周辺からの出土が多く、このことは土器・土製品類にも同様に認められる。また、第15号土坑からまとめて出土した小礫についても、第図左下に見るように分布傾向は変わらないようである。

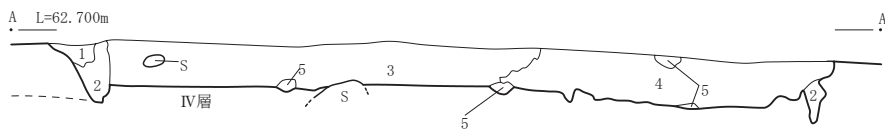
1号竖穴住居跡



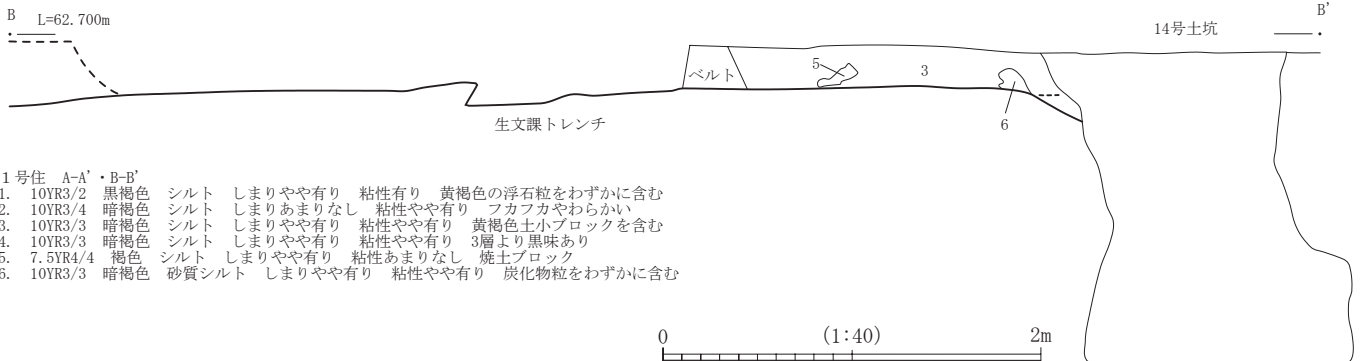
1号住炉 C-C'

1.	10YR2/3	黒褐色	シルト	しまりあまりなし	粘性なし	焼土ブロック10%
2.	5YR4/6	赤褐色	シルト	やや還元色	硬化	
3.	2.5YR4/8	赤褐色	シルト	強変焼土		
4.	2.5YR4/6	赤褐色	シルト	焼成面	焼土	
5.	7.5YR4/4	黒褐色	シルト	しまりあまりなし	粘性あまりなし	

1号住A

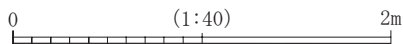


1号住B



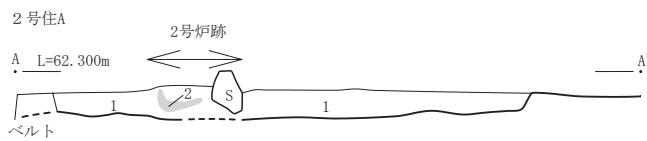
1号住 A-A'・B-B'

1.	10YR3/2	黒褐色	シルト	しまりやや有り	粘性有り	黄褐色の浮石粒をわずかに含む
2.	10YR3/4	暗褐色	シルト	しまりあまりなし	粘性やや有り	フカフカやわらかい
3.	10YR3/3	暗褐色	シルト	しまりやや有り	粘性やや有り	黄褐色土小ブロックを含む
4.	10YR3/3	暗褐色	シルト	しまりやや有り	粘性やや有り	3層より黒味あり
5.	7.5YR4/4	褐色	シルト	しまりやや有り	粘性あまりなし	焼土ブロック
6.	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	しまりやや有り	粘性やや有り	炭化物粒をわずかに含む

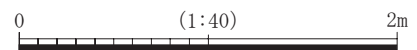


第6図 1号竖穴住居跡

2号竪穴住居跡

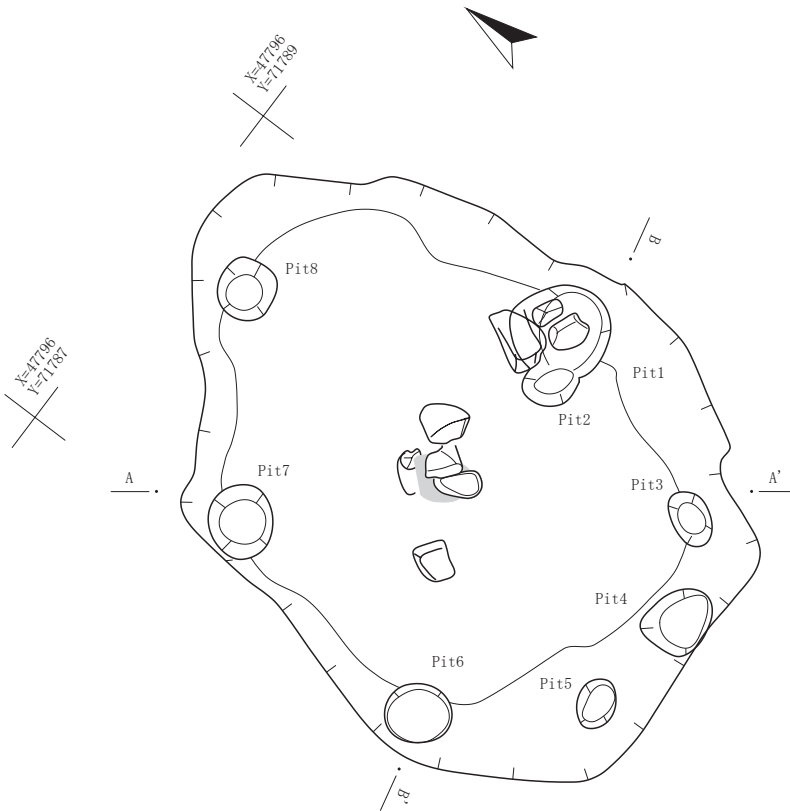


- 2号住 A-A'
- 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 炭化物(φ10mm大)を多く含む
 - 7.5YR5/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り ガリガリに焼ける燃焼部焼土

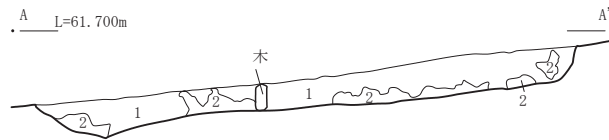


第7図 2号竪穴住居跡

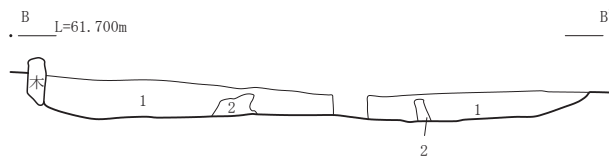
3号竖穴住居跡



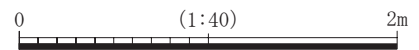
3号住A



3号住B

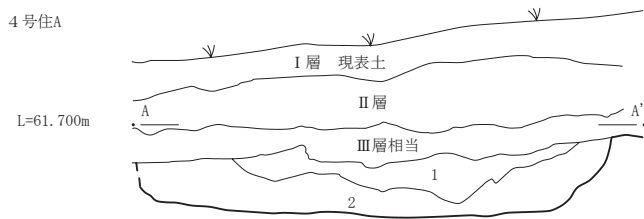
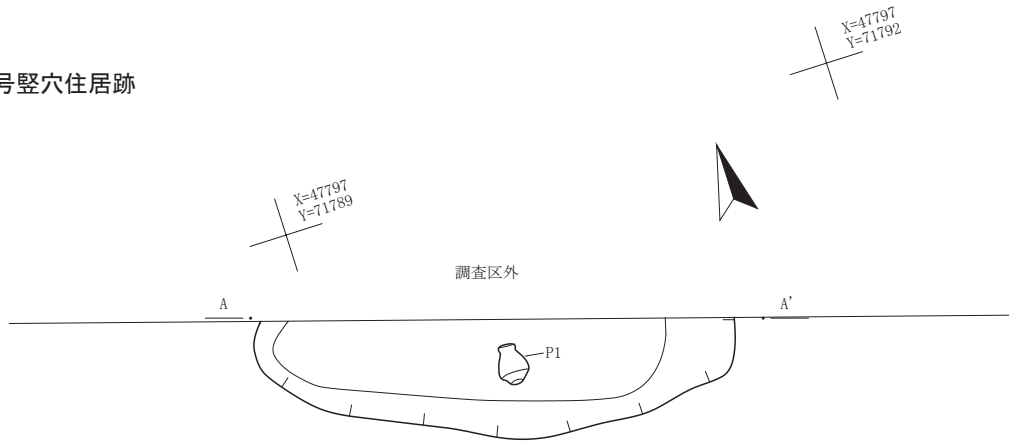


- 3号住 A-A' B-B'
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|--------|------------------|
| 1. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り | 浮石粒をまばらに含む |
| 2. | 10YR5/6 | 黄褐色 | シルト | しまり有り | 粘性やや有り | 全体に浮石粒を含むブロック状の土 |



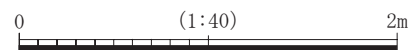
第8図 3号竖穴住居跡

4号竖穴住居跡



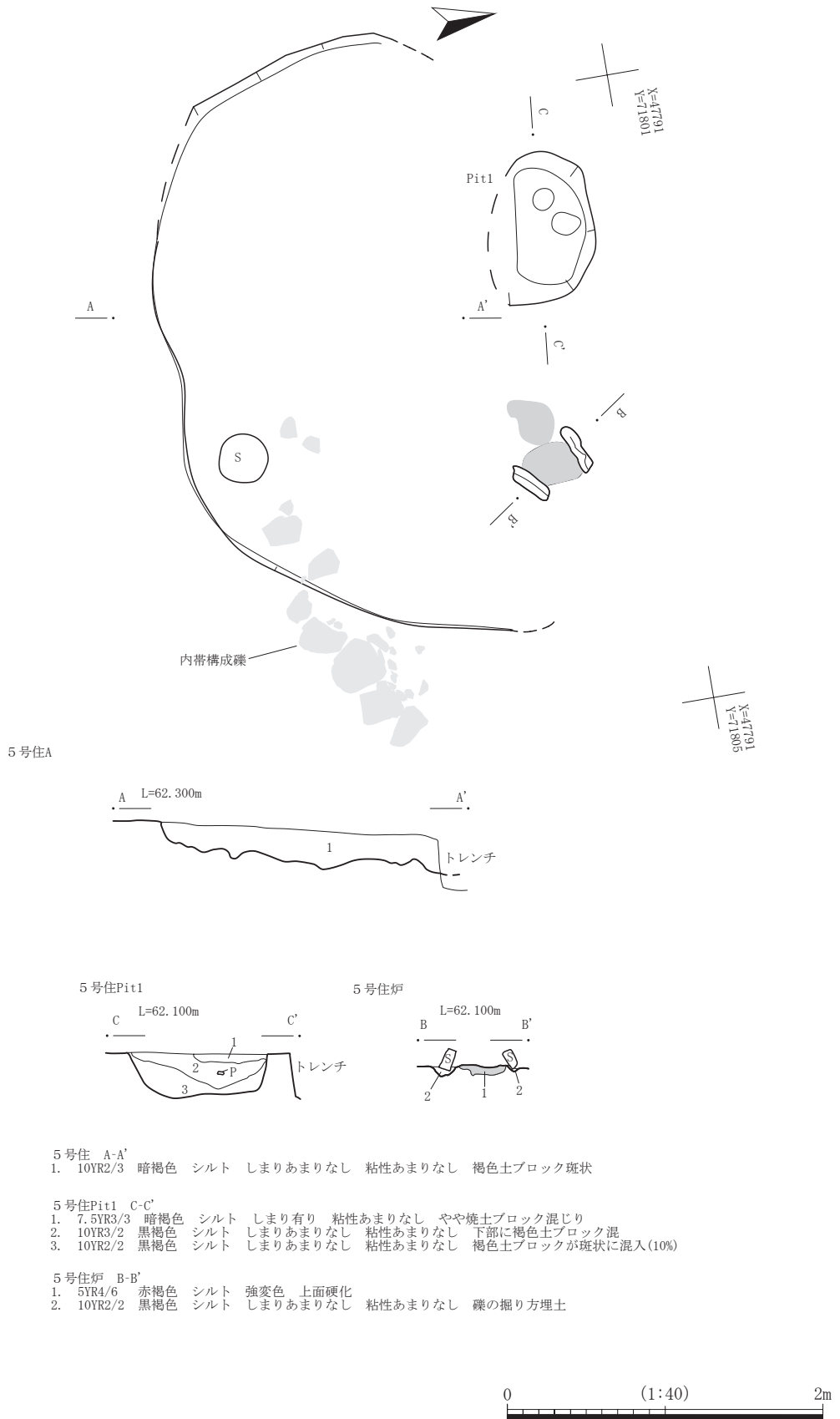
4号住 A-A'

1. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 炭化物粒・焼土粒を全体に含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り 黄褐色土粒をまばらに含む



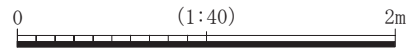
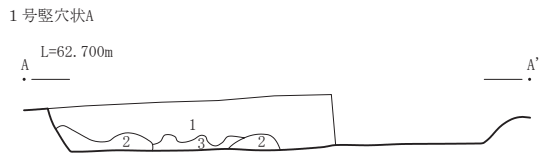
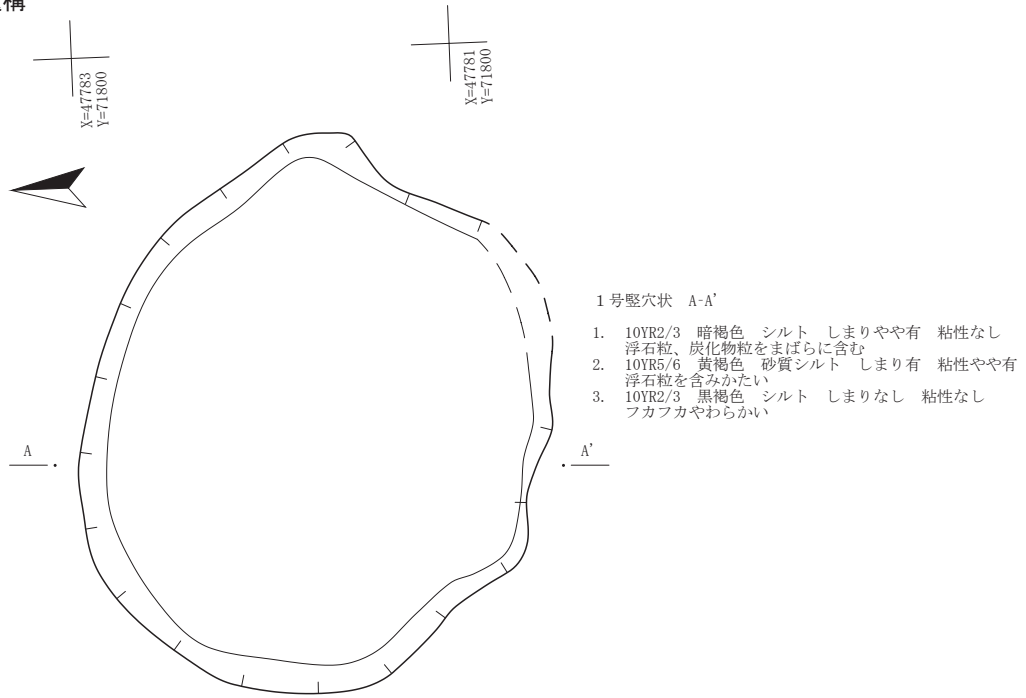
第9図 4号竖穴住居跡

5号竖穴住居跡



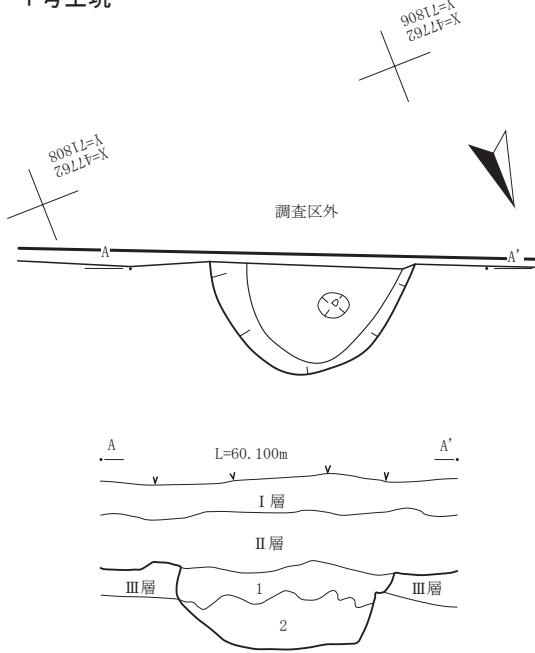
第10図 5号竖穴住居跡

1号竖穴状遺構



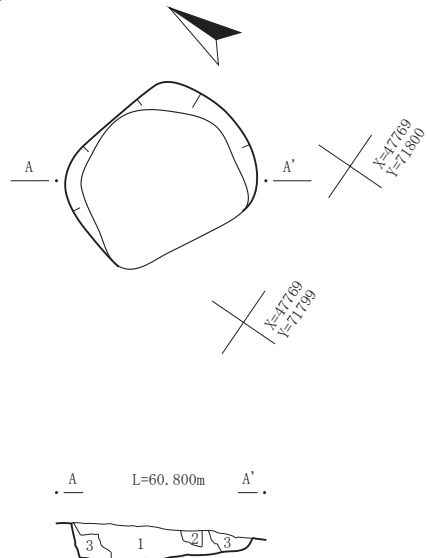
第11図 1号竖穴状遺構

1号土坑



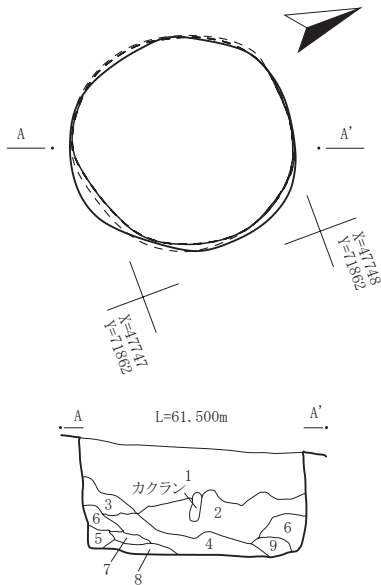
- 1号土坑
 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 φ1~5mm大の浮石粒を含む
 2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
 黒褐色土と黄褐色土の混合土

2号土坑



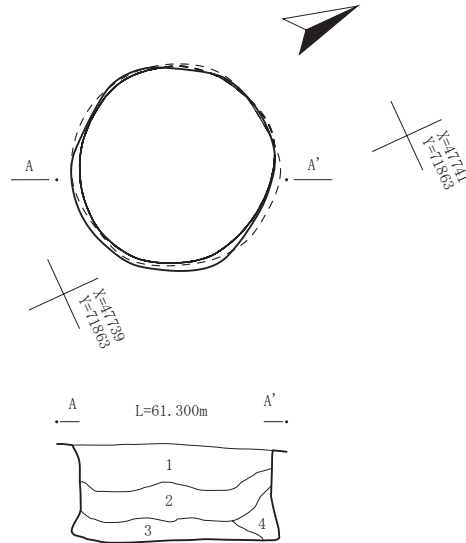
- 2号土坑
 1. 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 浮石粒を全体に含む。検出面はIV層上面であり最も古い土坑
 2. 10YR4/6 褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 1層より浮石粒目立つ。ブロック状の堆積土
 3. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
 壁際にのみ堆積する

3号土坑

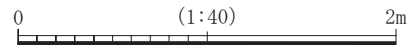


- 3号土坑
 1. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子は少なく軟質
 2. 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロック、粒子を多量に含む
 3. 10YR2/3 黒褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を多く含むが、ブロックは少ない
 4. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を僅かに含むサラっとし軟弱
 5. 10YR5/6 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黄褐色ブロック（壁体崩落土）を多く含む
 6. 10YR5/6 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黄褐色ブロック、粒子を多く含む軟質
 7. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性やや有り
 黄褐色ブロックを全体に含む 軟質
 8. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 4層と類似し黄褐色粒子は少ない
 9. 10YR2/3 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黄褐色ブロック、ローム粒子を含み軟質

4号土坑

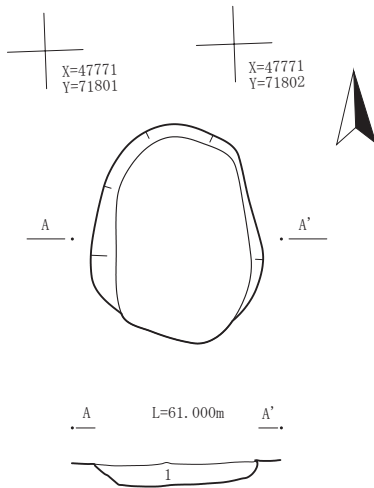


- 4号土坑
 1. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロックを僅かに含む軟質
 2. 10YR3/1 黒褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロック、粒子を多く含む軟質
 3. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を僅かに含む軟質
 4. 10YR3/1 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黄褐色ブロック（壁体崩落土）、ローム粒子を多く含む軟質
 ※3号土坑と同様に覆土は軟質



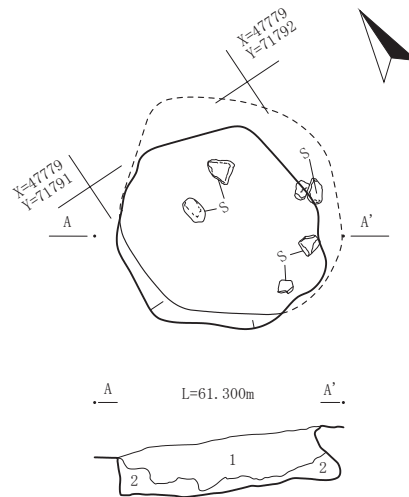
第12図 1~4号土坑

5号土坑



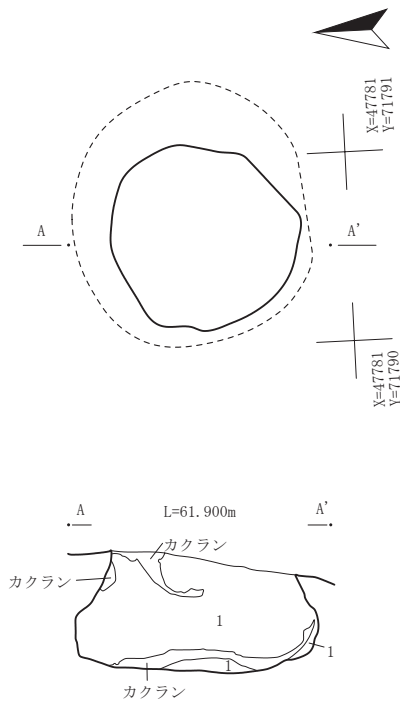
- 5号土坑
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 人為的埋め戻し? 1~30mm大の浮石が混入

6号土坑



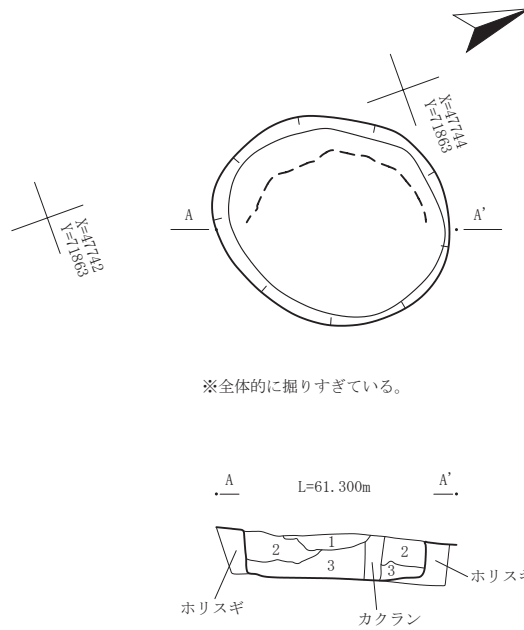
- 6号土坑
 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 浮石粒をわずかに含む人為堆積層
 2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り(強)
 地山崩落土

7号土坑

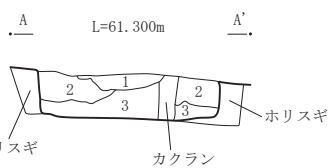


- 7号土坑
 1. 10YR6/6 明黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り
 人為堆積層でボサボサする

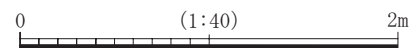
8号土坑



※全体的に掘りすぎている。

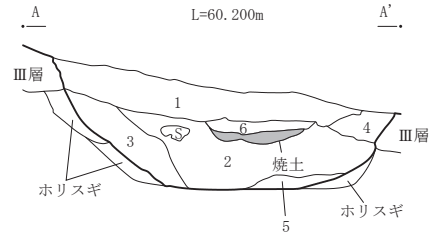
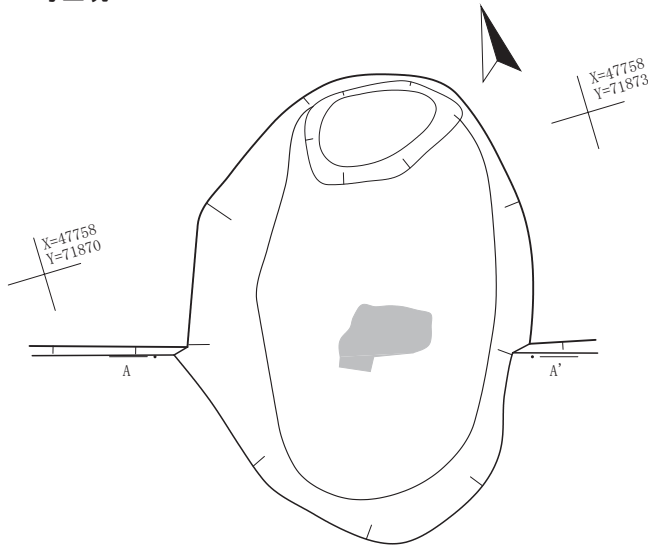


- 8号土坑
 1. 10YR5/6 黄黒褐色 しまり有り 粘性なし
 黄褐色ブロック層に黒褐色土が混在
 2. 10YR3/1 黒褐色 しまり有り 粘性なし
 黄褐色ブロック、粒子を少量含む
 3. 10YR2/3 黒褐色 しまり有り 粘性なし
 黄褐色土と黄褐色粒子が2層より多い
 ※覆土は全体に固くしまり、10号土坑と同様に
 上部にローム粒(ブロック)層がみられる



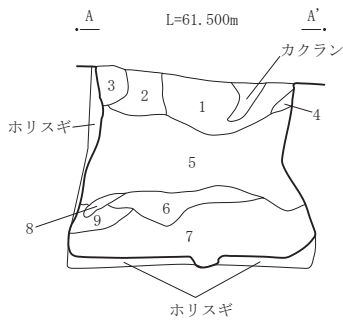
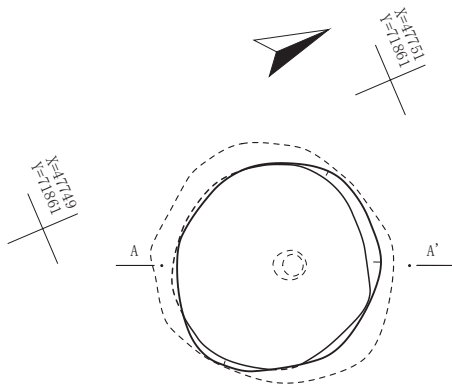
第13図 5～8号土坑

9号土坑



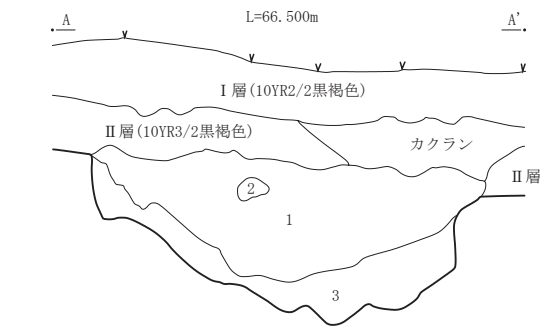
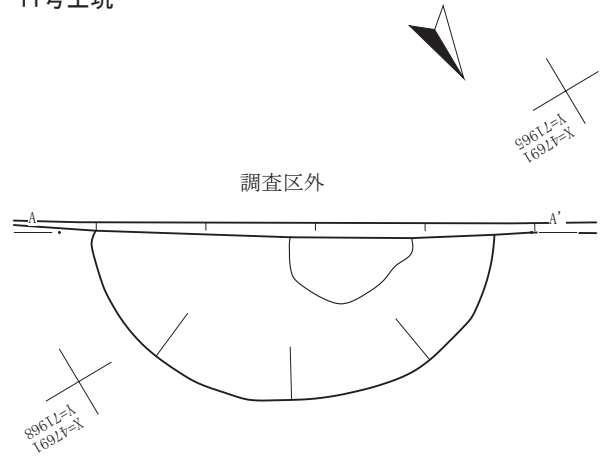
- 9号土坑
- 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
II層の黒色土に黄褐色粒子を少量含む
サラツとして
 - 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
I層と類似するが黄褐色粒子が少なくなる
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし
III層の黄褐色粒子、ブロックを多く含む
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし
I層と類似するがやや明るく黄褐色粒子が多くなる
 - 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
II層と類似するが黄褐色粒子、ブロックを多く含む
 - 10YR3/4 暗褐色 しまりなし 粘性なし
焼土化した黄褐色微粒子を多く含む
- ※覆土は全体にしまりなし ブロックと粒子は基盤層のIII層に含まれるもので、中位までは自然堆積か

10号土坑

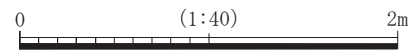


- 10号土坑
- 10YR3/4 暗褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子を多く含む硬くしまる (異質)
 - 10YR2/2 黒褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子は非常に少なく硬くしまる
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子とも多く壁体崩落土か
 - 10YR5/6 黄褐色 しまりなし 粘性なし
黄褐色土 (壁体崩落土)
 - 10YR3/4 暗褐色 しまり有り 粘性なし
I層とほぼ同一でやはり硬くしまるが壁近くは軟弱
 - 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
僅かに黄褐色粒子を含む サラツとして基盤層のII層のように軟質
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
6層と類似するが黄褐色ブロック、粒子が多くなる
 - 10YR5/6 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り
黄褐色土 (壁体崩落土)
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
黄褐色粒子を多く含む軟質

11号土坑

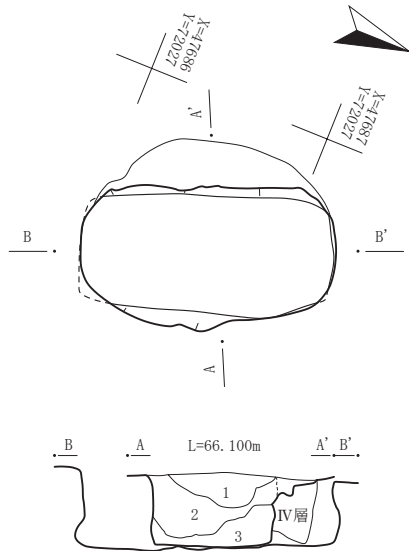


- 11号土坑
- 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
暗褐色土ブロックとの混合土で浮石粒をまばらに含む
 - 10YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
暗褐色土小ブロック含む
 - 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
ブロック状



第14図 9～11号土坑

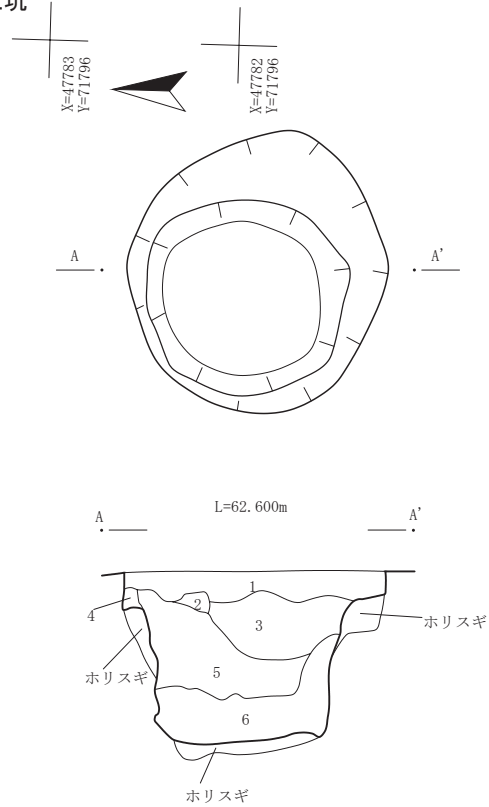
12号土坑



12号土坑

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒を全体に含む
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より黒味ぬける
3. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より浮石粒の混入多く黒味も強い

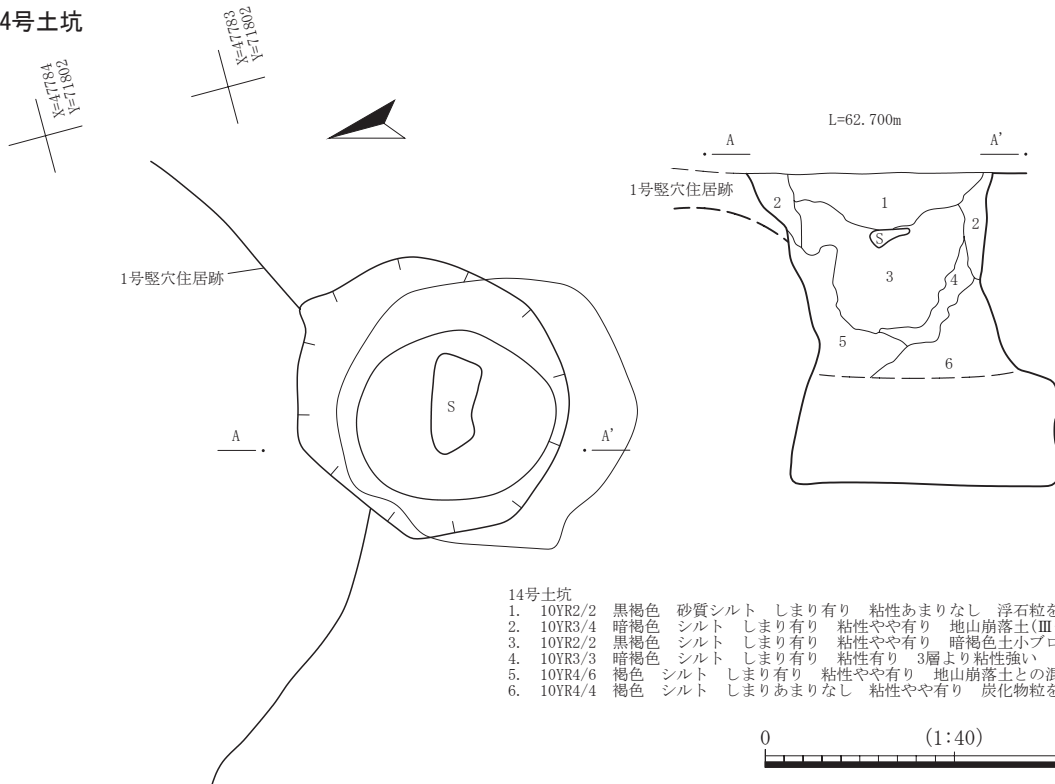
13号土坑



13号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし φ5mm大の浮石微量含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り φ1~5mm大の浮石10%含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り φ2~3mm大の浮石20%含む
4. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 3層と類似するが浮石の混入率が3層より少ない
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 黄褐色土ブロック(φ2~3mm)を3%含む

14号土坑

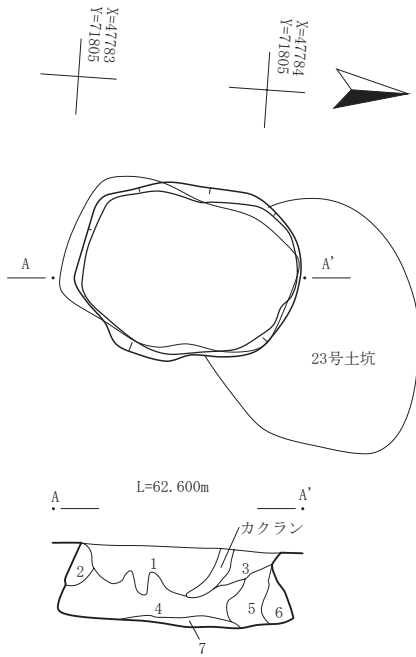


14号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性あまりなし 浮石粒をわずかに含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土(III-IV層起源)
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 暗褐色土小ブロックとの混合土
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性有り 3層より粘性強い
5. 10YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土との混合
6. 10YR4/4 褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 炭化物粒をわずかに含む

第15図 12~14号土坑

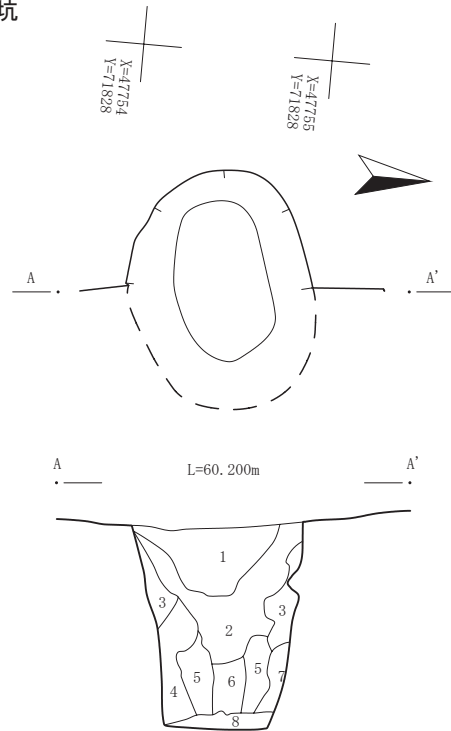
15号土坑



15号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
小礫(礫石状のもの)含む
2. 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落土
3. 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
白色の浮石粒を全体に含む
4. 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄色浮石粒を全体に含む
5. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄色浮石粒、黄褐色土粒を含む
6. 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
地山崩落ブロック
7. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
フカフカやわらかい

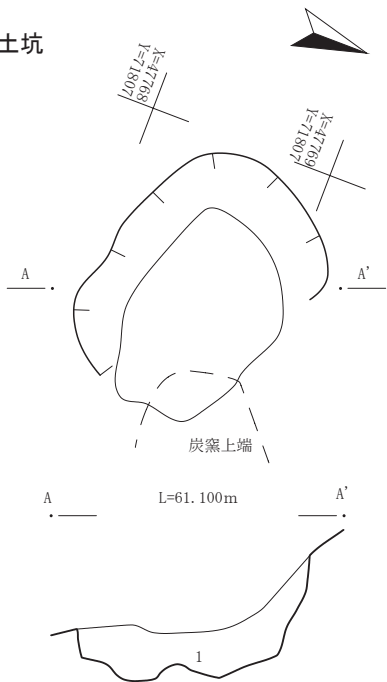
16号土坑



16号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄褐色浮石粒を全体に含む
2. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
1層より黒味を帯びる 浮石の混入は1層より多い
3. 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落土で粒径の大きい浮石粒を含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
黄褐色浮石粒をまばらに含む
5. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
粒径のごく小さい浮石粒と5~10mm大のものを全体に含む
6. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
杭跡と見られる 若干フカフカしている 細かい浮石粒混入
7. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
地山崩落土。(IV層より下位層)
8. 10YR2/1 黒色 シルト しまりなし 粘性有り
最下部の黒色土で5cm前後の厚さ

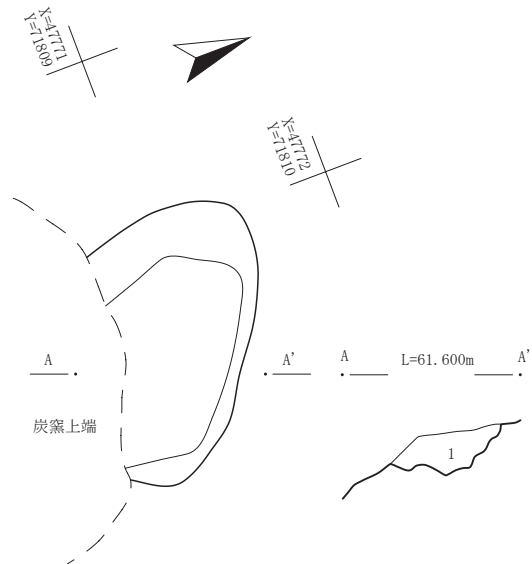
17号土坑



17号土坑

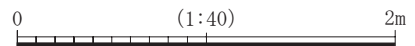
1. 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性あまりなし
炭化物粒をまばらに含む

18号土坑



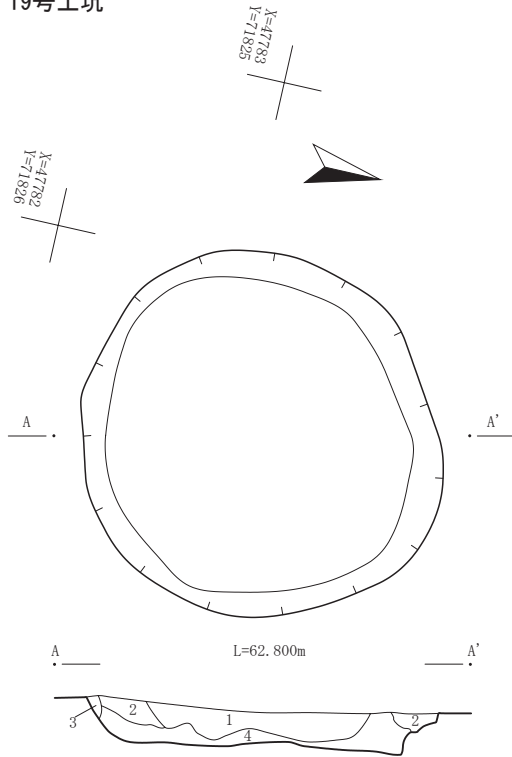
18号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色浮石粒と炭化物を含む



第16図 15~18号土坑

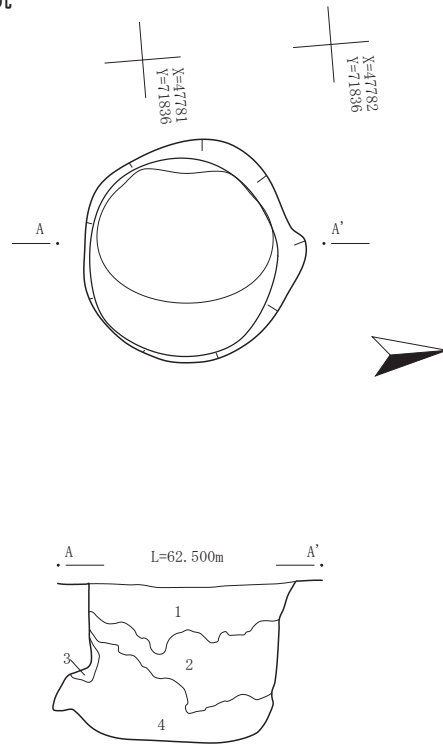
19号土坑



19号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性なし
浮石粒をまばらに含む 中央部分は暗褐色土混入
2. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒わずか
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
地山崩落土
4. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒を全体に含む

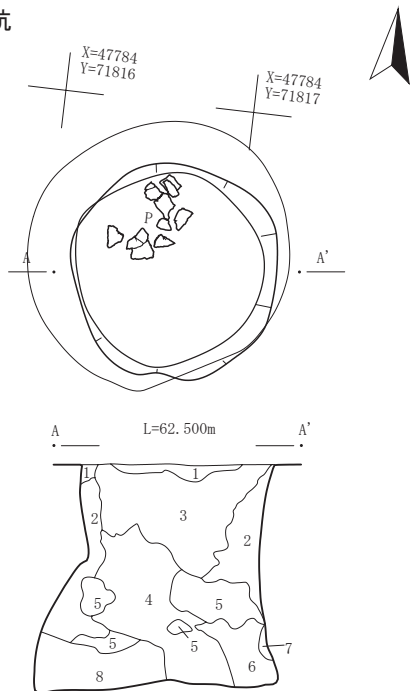
20号土坑



20号土坑

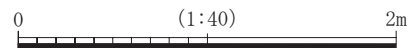
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
黄褐色土浮石粒を全体に含む
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし
1層より黒味が抜ける 炭化物粒わずかに含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
地山崩落ブロック
4. 10YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
1~3層と異なり混入物が少ない

21号土坑



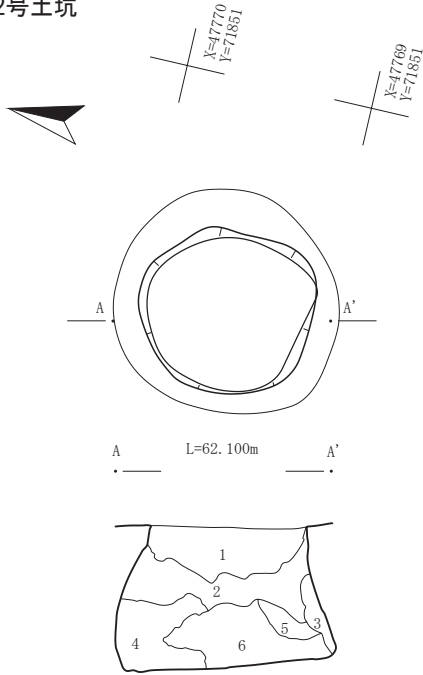
21号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物粒をわずかに含む
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性有り
浮石粒を全体に含む
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り
粒径の小さい浮石粒を全体に含む
4. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
ロームブロックなど
5. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
ロームブロックで大小あり
6. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
数も黒味を帯びる
7. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落ブロック(浮石層下3枚程度)
8. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
明黄褐色土の小ブロックを全体に含む



第17図 19~21号土坑

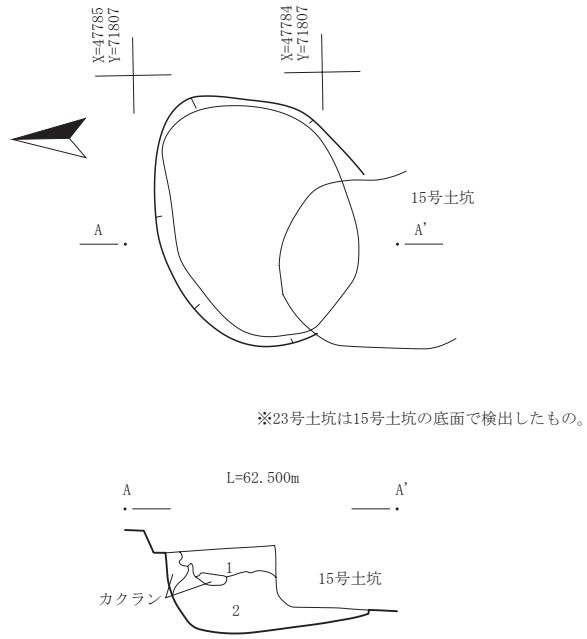
22号土坑



22号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
黄褐色浮石粒を全体に含む
2. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
浮石粒、炭化物粒をまばらに含む
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
地山崩落ブロック
4. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
炭化物粒をまばらに含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
ブロック状の混合土
6. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
浮石粒(粒径小)を全体に含む

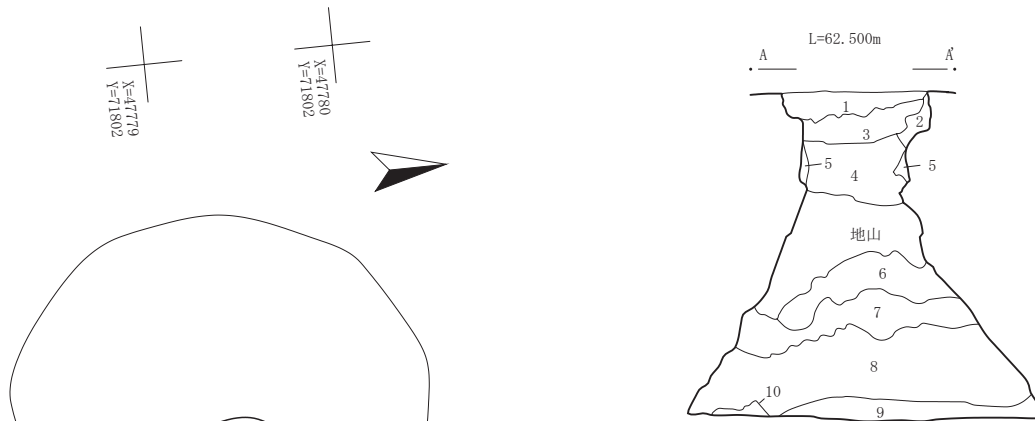
23号土坑



23号土坑

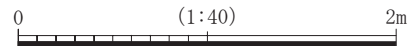
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
黄褐色浮石粒をまばらに含む
2. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
1層より黒味を帯びる 混入物はいずれも硬く締まる

24号土坑



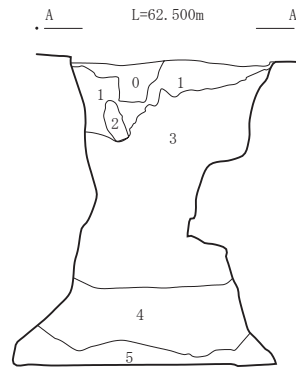
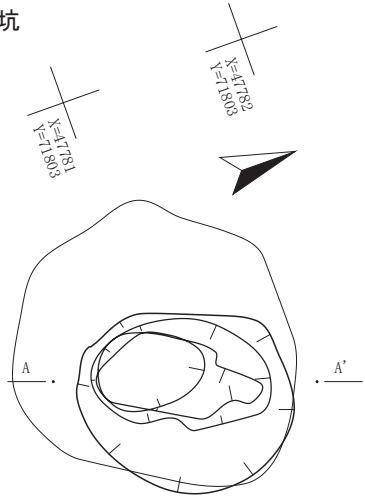
24号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
粒径の小さい浮石粒含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物粒をわずかに含む
3. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
φ3~5mm大の浮石粒含む
4. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
他より攪りが強く浮石粒の混入も多い
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
ロームの小ブロック含む
6. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性なし
浮石粒5%黄褐色土ブロック5%
7. 10YR2/1 黒 シルト しまりなし 粘性やや有り
壁際に黄褐色土ブロックあり
8. 7.5YR2/1 黒 シルト しまりなし 粘性やや有り
9. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
10. 10YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
崩落ブロック



第18図 22~24号土坑

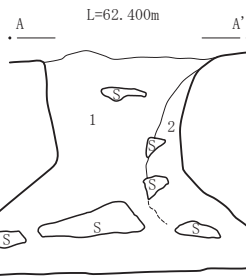
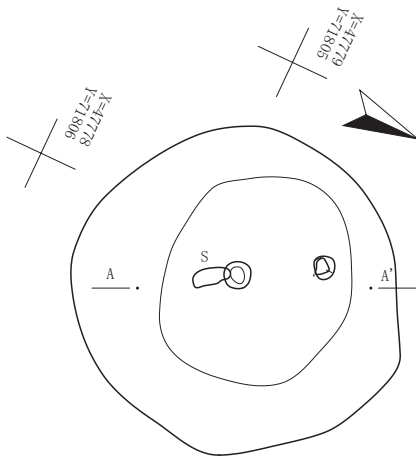
25号土坑



25号土坑

- 0. 10VR3/4 暗褐色 カクラン
- 1. 10VR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む
- 2. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
ブロック状
- 3. 10VR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り
浮石粒を含む人為的堆積層
- 4. 10VR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
炭化物粒を全体に含む
- 5. 10VR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
水平に堆積する最下部の黒色土

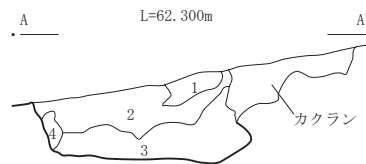
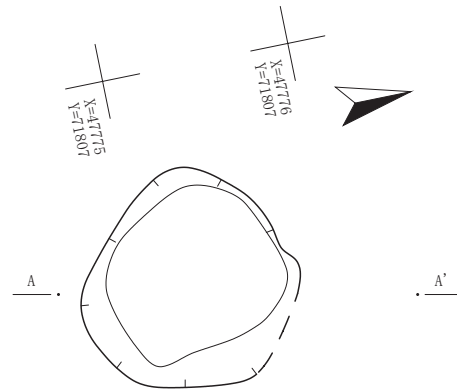
26号土坑



26号土坑

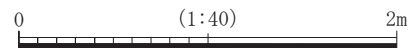
- 1. 10VR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
炭化物層
- 2. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
浮石粒5%

27号土坑



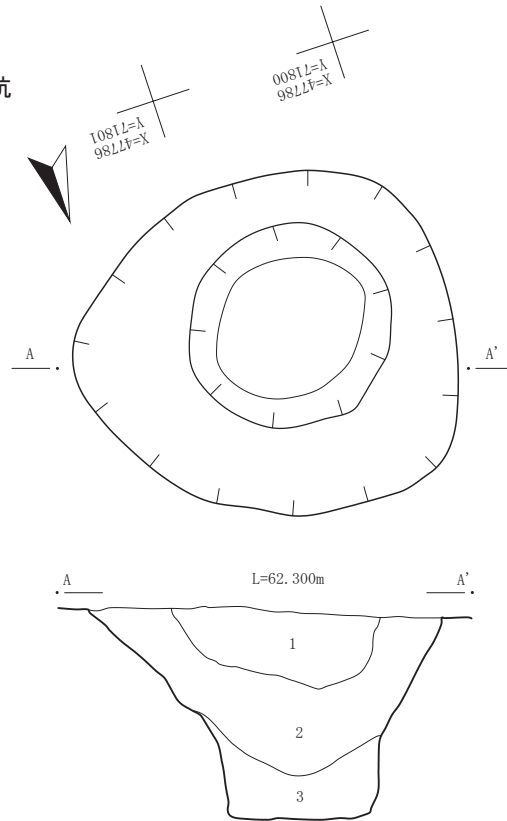
27号土坑

- 1. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
- 2. 10VR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土粒5%混入
- 3. 10VR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
黄褐色土粒7%
- 4. 10VR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
黄褐色土粒10%



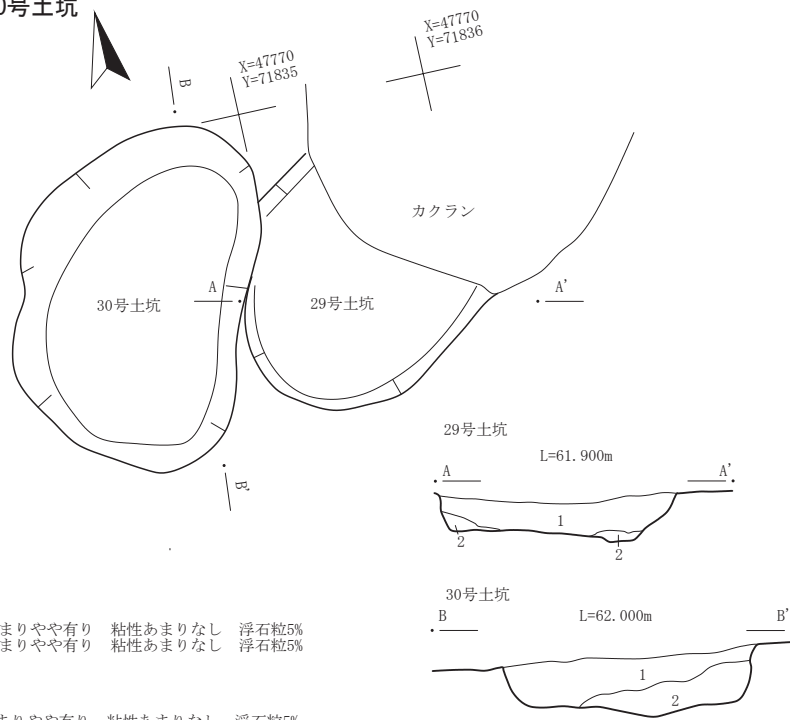
第19図 25～27号土坑

28号土坑



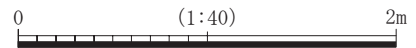
- 28号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|----------|---------|------------|
| 1. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし | |
| 2. | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし | 黒色土ブロック20% |
| 3. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石粒5% |

29号・30号土坑



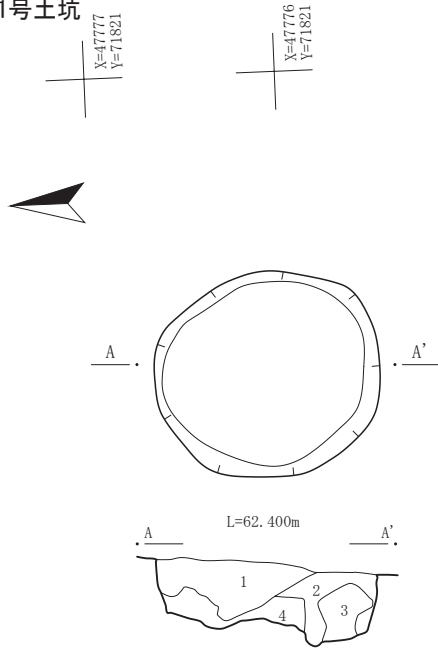
- 29号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|-------|
| 1. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石粒5% |
| 2. | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石粒5% |

- 30号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|-------|
| 1. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石粒5% |
| 2. | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石粒5% |



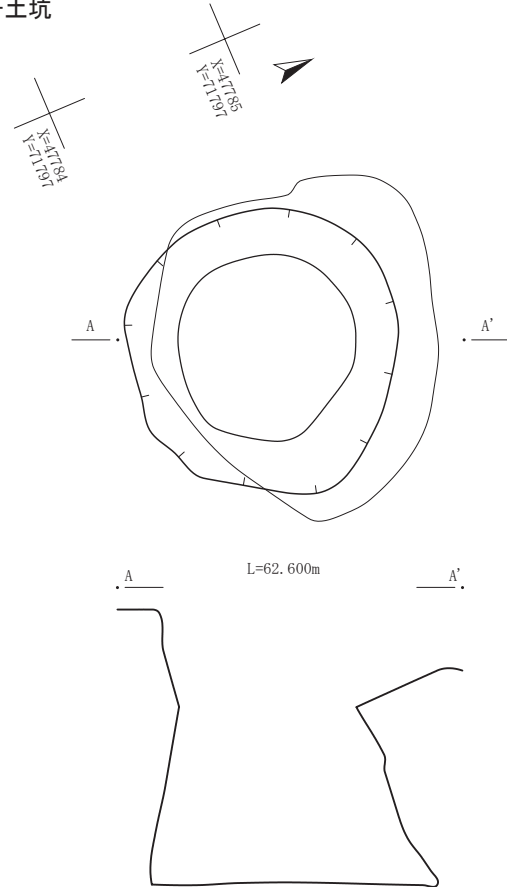
第20図 28~30号土坑

31号土坑

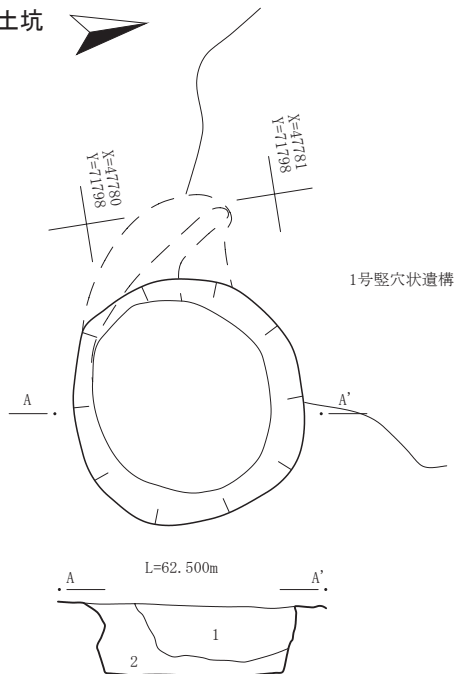


- 31号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
褐色土ブロック5%
 2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
均質
 3. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
浮石粒5%
 4. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性あまりなし

32号土坑

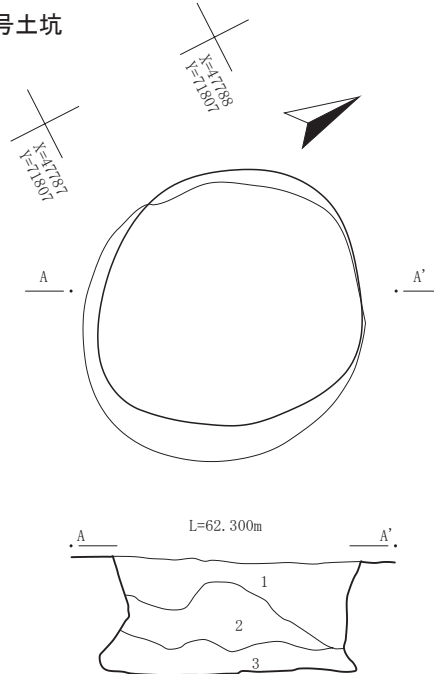


33号土坑

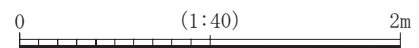


- 33号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
褐色土、黒色土ブロック含む
 2. 7.5YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

34号土坑

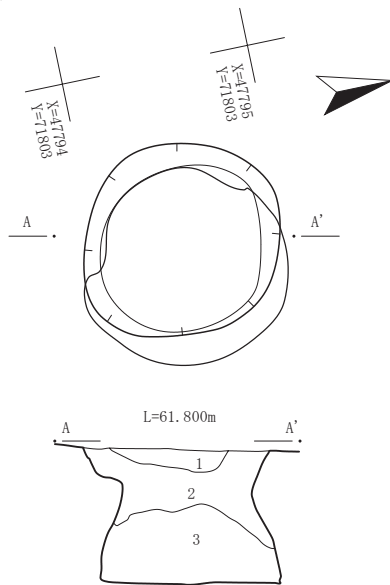


- 34号土坑
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
下半分に褐色土ブロック10%
 2. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性やや有り 崩落ブロック
 3. 10YR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
炭化物含む



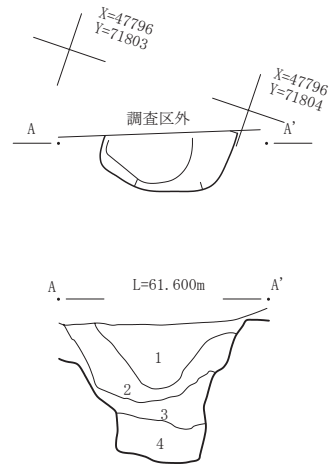
第21図 31～34号土坑

35号土坑



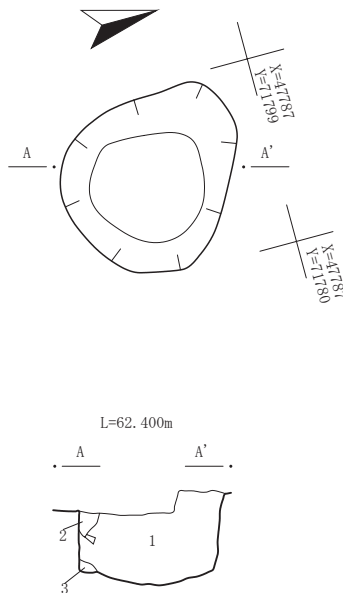
- 35号土坑
- | | | | | | |
|-----------|----------|-----|-----|----------|---------|
| 1. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし |
| 2. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 褐色土ブロック5% | | | | | |
| 3. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 均質 | | | | | |

36号土坑

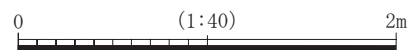


- 36号土坑
- | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|----------|---------|
| 1. | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 2. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 3. | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし |
| 4. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |

37号土坑

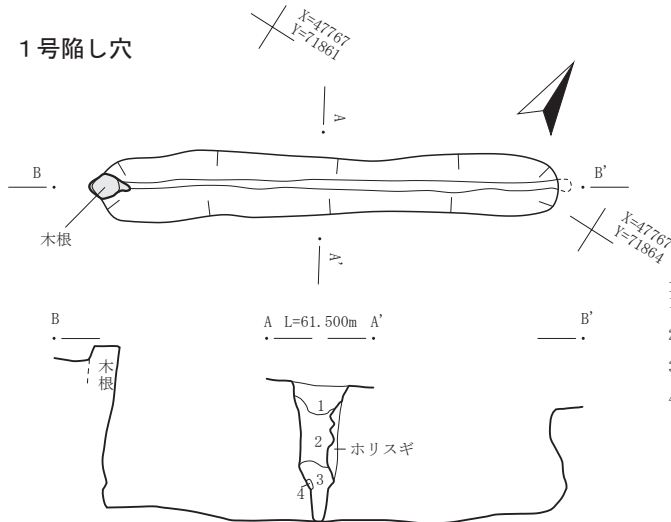


- 37号土坑
- | | | | | | |
|----|---------|--------|-----|----------|--------|
| 1. | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り |
| 2. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性やや有り |
| 3. | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト | しまり有り | 粘性有り |



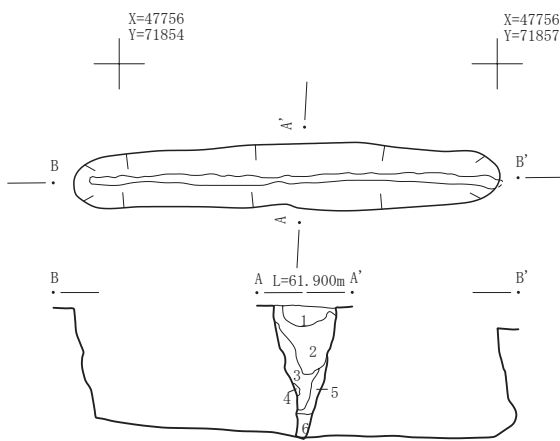
第22図 35～37号土坑

1号陥し穴



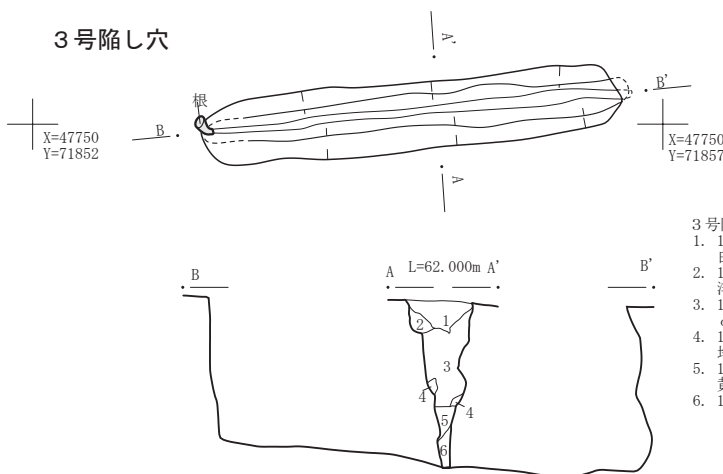
- 1号陥し穴
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り
粘性有り 白色粒子含む
 2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土小ブロック含む
 3. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
黄褐色土小ブロックを全体に含む
 4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性有りロームブロック

2号陥し穴

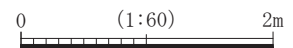


- 2号陥し穴
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし
黄褐色土や白色粒子含む
 2. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
φ5mm大の浮石粒を全体に含む
 3. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
若干2層より黒味ぬける
 4. 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
ロームブロック
 5. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
φ5~10mm大の浮石粒含む
 6. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
5層より黒味帯びる

3号陥し穴

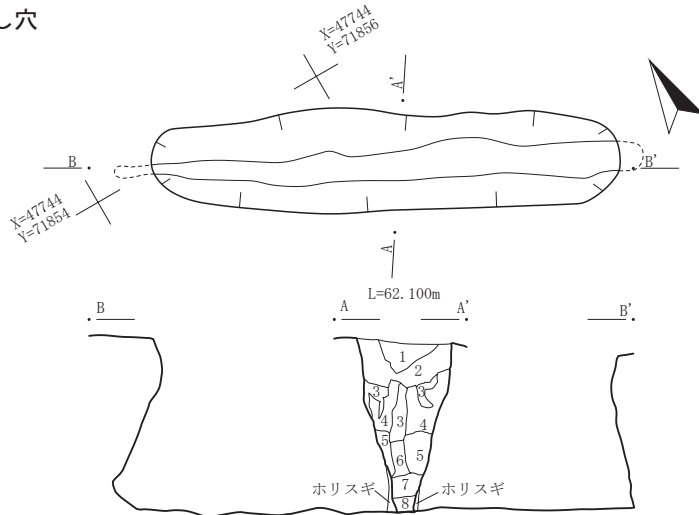


- 3号陥し穴
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし
白色粒子と細かい浮石粒を含む
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石粒の混入が1層より多い
 3. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
φ5~10mm前後の浮石粒が目立つ
 4. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落ブロック
 5. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土ブロックを全体に含む
 6. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性有り 黒味強い



第23図 1~3号陥し穴状遺構

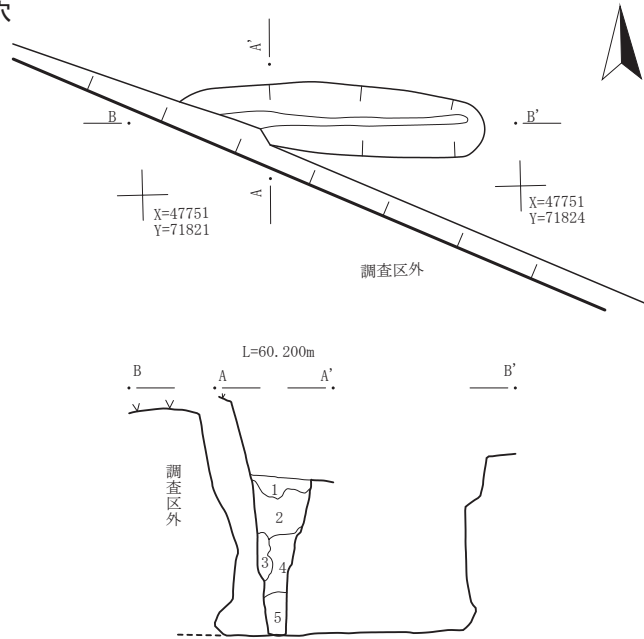
4号陥し穴



4号陥し穴

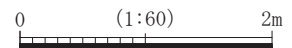
1. 101R2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし 白色粒子をまばらに含む
2. 101R3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土粒 黒色土小ブロックを全体に含む
3. 101R2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 2層よりしまりなく黄褐色土の混入多い
4. 101R5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 地山崩落土で明黄褐色の浮石粒を含む
5. 101R6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り マルクチョコレート色の浮石粒を含む
6. 101R6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 棒状になる部分で色調が明るめ
7. 101R3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り フカフカやわらかい 浮石粒わずかに含む
8. 101R2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性やや有り 最下部の黒褐色土

5号陥し穴



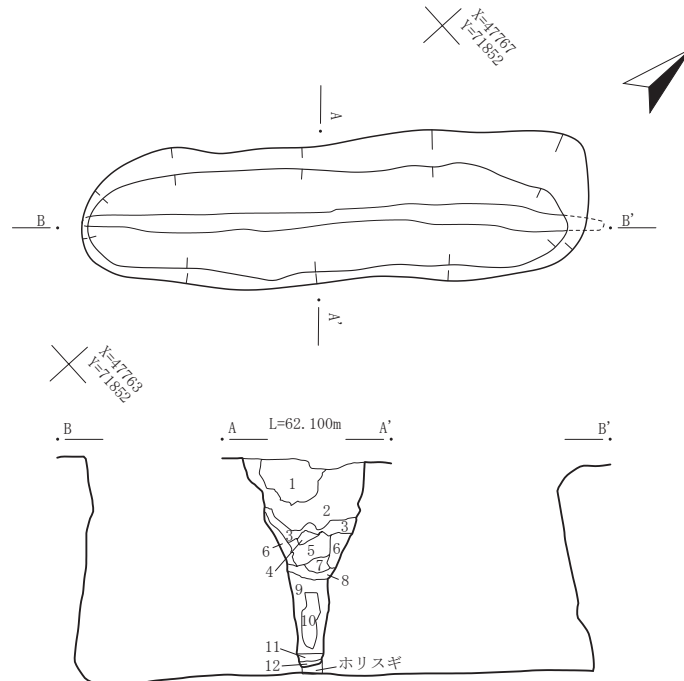
5号陥し穴

1. 101R2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色の粒子を全体に含む
2. 101R2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り φ1~3mm大 浮石粒を含む
3. 101R3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒の混入が3層より多い
4. 101R2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り 3層より黒味を帯びる
5. 101R2/1 黒色 シルト しまりなし 粘性やや有り しまりのないフカフカした最下部の黒色土



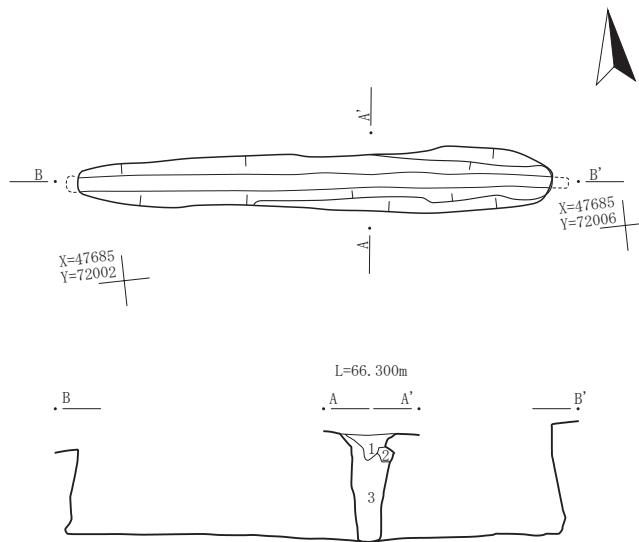
第24図 4・5号陥し穴状遺構

6号陥し穴

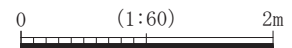


- 6号陥し穴
- 1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 白色粒子、黄褐色土粒をまばらに含む
 - 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし φ2~7mm大の浮石粒を含む
 - 3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り ミルクチョコ色の小ブロックを含む 浮石粒主体の層 IV層崩落土
 - 4. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り ブロック状
 - 5. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 浮石粒 (φ5~10mm) を全体に含む
 - 6. 10YR5/6 黄褐色 粘土 しまり有り 粘性有り (強) 地山崩落土 ミルクチョコ色の崩落土
 - 7. 10YR6/8 明黄褐色 浮石粒のブロック しまり有り 粘性有り (強) Nb-PかHA-Pの浮石粒主体。
 - 8. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り フカフカやわらかい 層状をなす
 - 9. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落土
 - 10. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 棒状 (枕状) にフカフカやわらかい
 - 11. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り しまりなくやわらかい
 - 12. 10YR4/6 褐色 粘土 しまり有り 粘性有り 最下部の地山崩落土

7号陥し穴

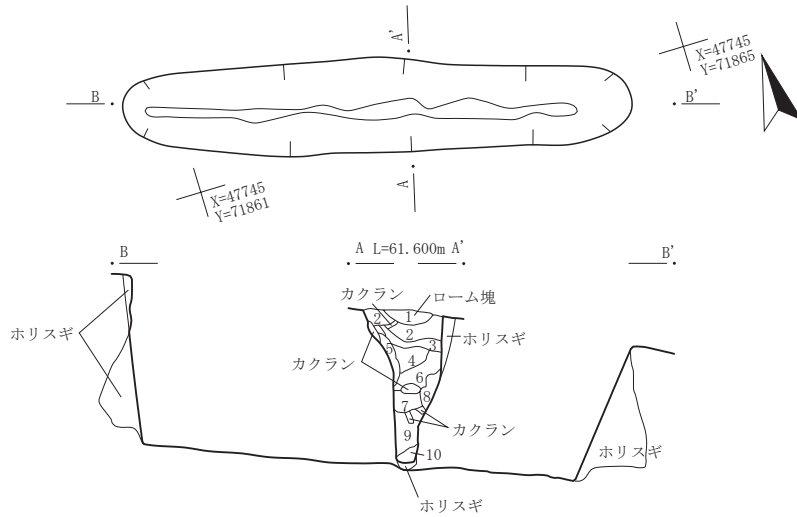


- 7号陥し穴
- 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土粒 (浮石粒) まばらに含む
 - 2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒を含むブロック状の地山崩落土
 - 3. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 浮石粒を全体に含む



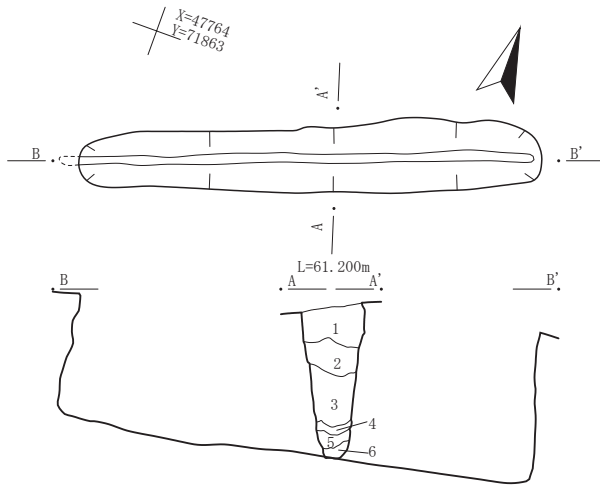
第25図 6・7号陥し穴状遺構

8号陥し穴



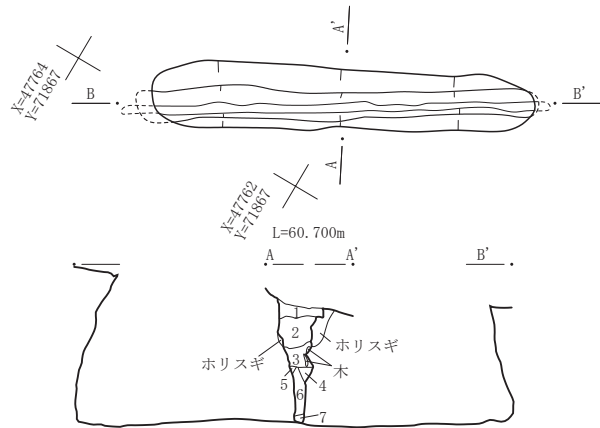
- 8号陥し穴
- | | | | | |
|-------------|-----|-------|--------|---------------------|
| 1. 10YR6/8 | 黄褐色 | しまり有り | 粘性なし | 黄褐色ブロック層 |
| 2. 10YR2/1 | 黒色 | しまり有り | 粘性なし | 黄褐色ブロックを少量 |
| 3. 10YR3/3 | 暗褐色 | しまり有り | 粘性やや有り | 黄褐色粒子を非常に多く含む |
| 4. 10YR2/2 | 黒褐色 | しまり有り | 粘性なし | 黄褐色粒子を僅かに含む |
| 5. 10YR3/3 | 暗褐色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色粒子を多く含むがブロックは少ない |
| 6. 10YR3/3 | 暗褐色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色ブロックが多く、粒子は少ない |
| 7. 10YR3/3 | 暗褐色 | しまりなし | 粘性やや有り | 6層と類似するが黒色土が混在する |
| 8. 10YR6/8 | 黄褐色 | しまりなし | 粘性有り | 黄褐色ブロック層 (壁体崩落土) |
| 9. 10YR6/8 | 黄褐色 | しまりなし | 粘性有り | 黄褐色ブロック層 (壁体崩落土) |
| 10. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性有り | 黄褐色ブロックを多く含む |

9号陥し穴

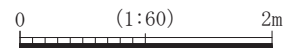


- 9号陥し穴
- | | | | | |
|------------|-----|---------|--------|----------------------------|
| 1. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性なし | 黄褐色ブロックを僅かに含む |
| 2. 10YR2/3 | 黒褐色 | しまりやや有り | 粘性なし | 黄褐色ブロックと粒子を少量含む1層に比べるとしまる |
| 3. 10YR3/3 | 暗褐色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色を多く含む、ブロックと粒子は2層に比べると多い |
| 4. 10YR3/1 | 黒褐色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色を多く含む |
| 5. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色ブロックと粒子を僅かに含む |
| 6. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性有り | 黄褐色土を多く含む (底面近くの壁体崩落土) |

10号陥し穴

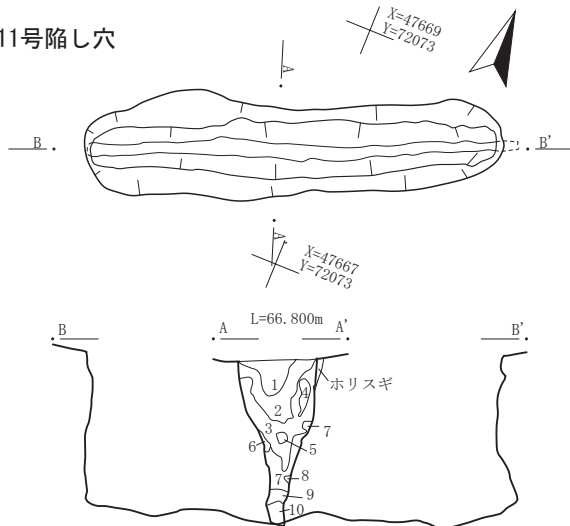


- 10号陥し穴
- | | | | | |
|------------|-----|-------|--------|--------------------------|
| 1. 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりなし | 粘性なし | 黄褐色粒子を少量含む |
| 2. 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりなし | 粘性なし | 黄褐色ブロックを多く含む、粒子は1層より少ない |
| 3. 10YR2/2 | 黒褐色 | しまりなし | 粘性なし | 黄褐色粒子を僅かに含む |
| 4. 10YR2/2 | 暗褐色 | しまりなし | 粘性有り | 基本土層III層の崩落土が主体、黄褐色粒子が多い |
| 5. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性なし | 黄褐色粒子を僅かに含む |
| 6. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色土を斑状に含む |
| 7. 10YR2/1 | 黒色 | しまりなし | 粘性やや有り | 黄褐色ブロックを多く含む (壁体崩落土) |



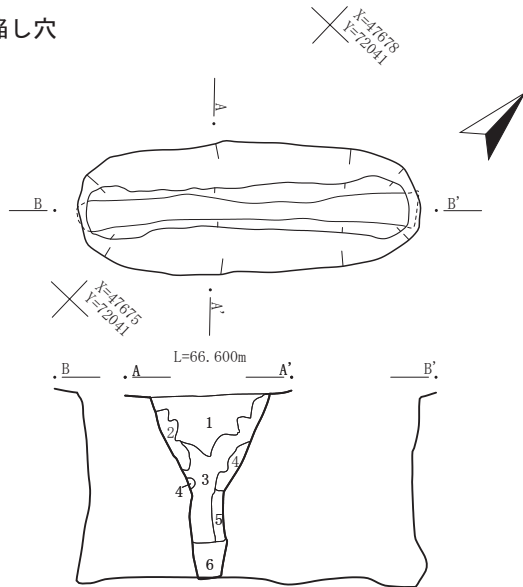
第26図 8~10号陥し穴状遺構

11号陥し穴



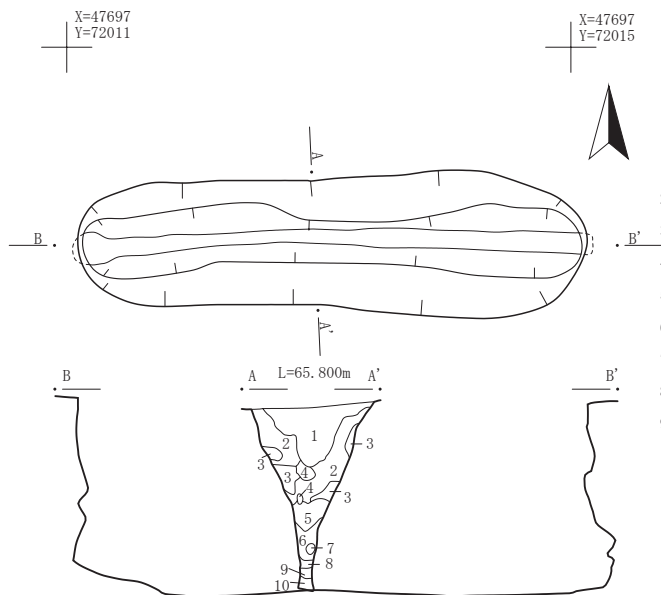
- 11号陥し穴
- 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性あまりなし 混入物なく真っ黒い
 - 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り ϕ 1~3mm大の浮石粒を全体に含む
 - 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落ブロックを含み2層より色調明るい
 - 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り 地山崩落ブロック
 - 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り ブロック状
 - 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り 3層より地山崩落ブロックの混入少ない
 - 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 地山崩落土
 - 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り ブロック状
 - 10YR6/5 にぶい黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り (強) 粘性の極めて強い堆積土
 - 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 最下部の堆積土でフカフカやわらかい

12号陥し穴



- 12号陥し穴
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 褐色土粒を全体にまばらに含む
 - 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 浮石の小ブロック等崩落土混入する
 - 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り 2層に似るが黒味が強い
 - 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 地山崩落ブロック (ロームブロック)
 - 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 黄褐色土小ブロック含む
 - 10YR6/8 明黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り フカフカした最下部の土 最下部にあるはずの黒色土は不明瞭

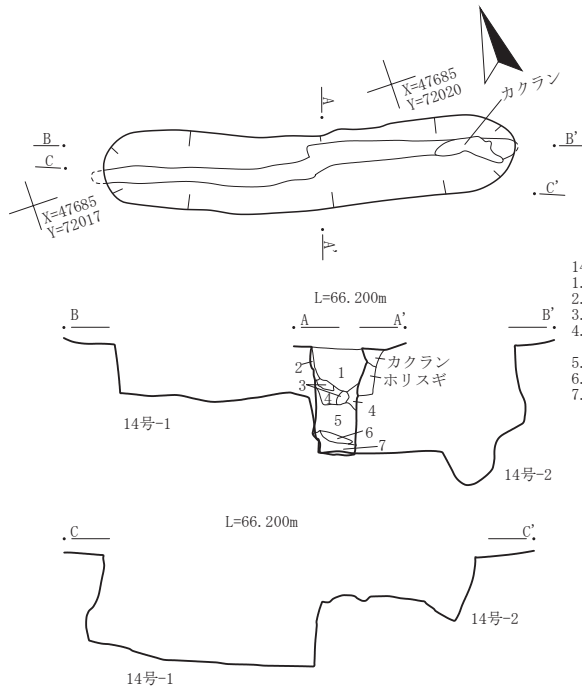
13号陥し穴



- 13号陥し穴
- 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 混入物ほとんどなし
 - 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 1層より黒味がぬける
 - 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り ロームブロックで浮石粒を含む
 - 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り ロームブロック 3層より暗い色調
 - 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り 浮石粒をまばらに含む 黒褐色土と褐色土の混合土
 - 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落土
 - 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り ブロック状
 - 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 地山崩落土で暗褐色土小ブロック含む
 - 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 - 記載なし

第27図 11~13号陥し穴状遺構

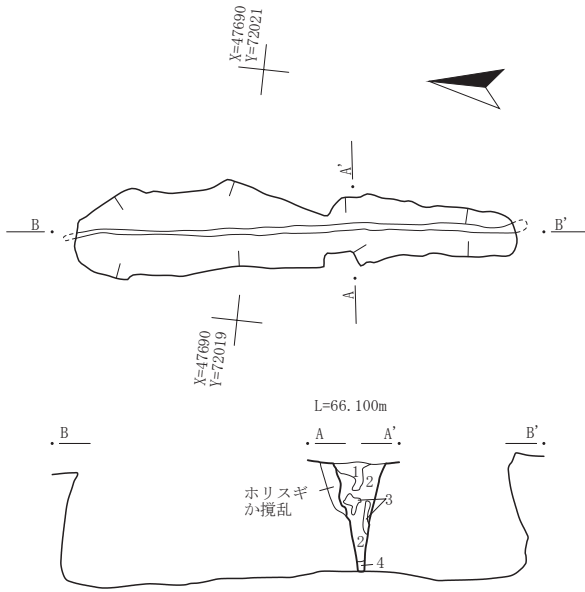
14号陥し穴-1・2



14号陥し穴

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土浮石粒まばらに含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土
3. 10YR5/6 黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り ロームブロック
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黒褐色土と浮石粒などの混合土
5. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り 浮石粒を全体に含む
6. 10YR4/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落ブロック
7. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性有り 最下部の黒色土

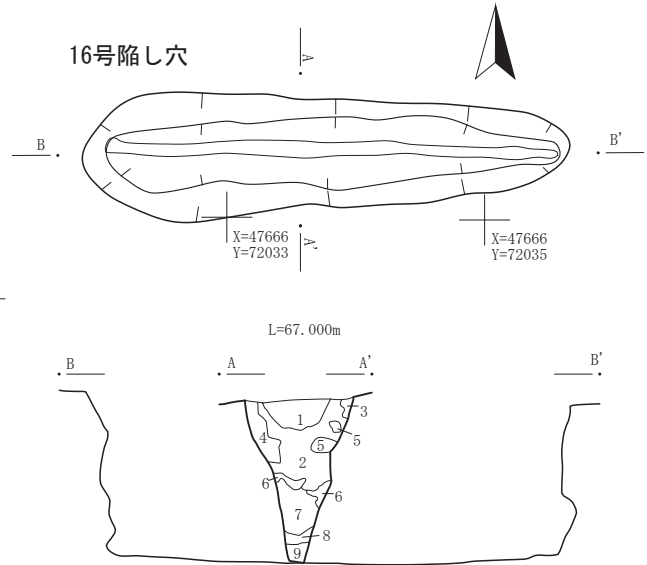
15号陥し穴



15号陥し穴

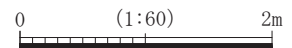
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り
混入物なし
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
地山崩落ブロック含む
3. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
ロームブロック
4. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り
最下部の黒色土でしまりなくフカフカ

16号陥し穴



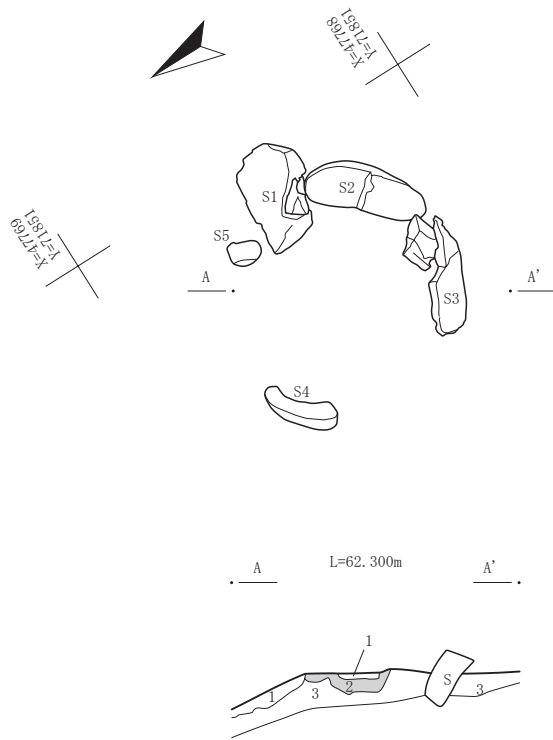
16号陥し穴

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色浮石粒をまばらに含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
1層より浮石粒の混入多く黒味ぬける
3. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
地山崩落土
4. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
2層に似るがそれより黒味ぬける
5. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落ブロック
6. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
下位層の基盤層 崩落ブロック
7. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
しまりのない黄褐色土と黒褐色土の混合土
8. 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒を多量含む地山崩落土
9. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
最下部の黒味のある土だが黒味は強くない



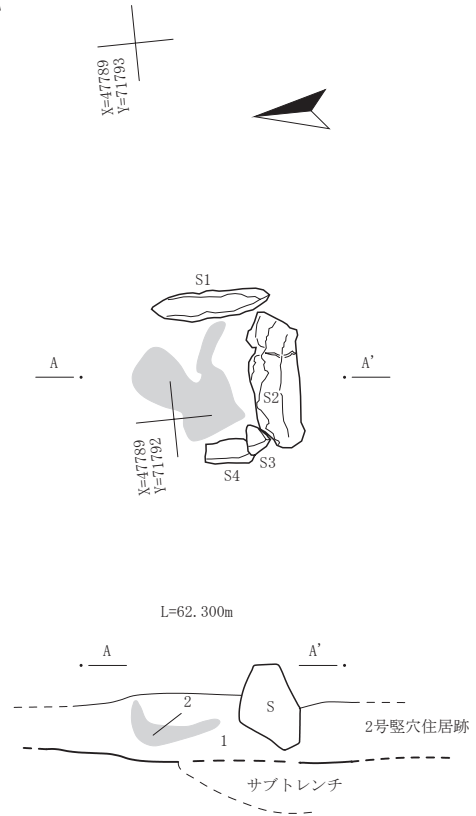
第28図 14-1~16号陥し穴状遺構

1号炉跡



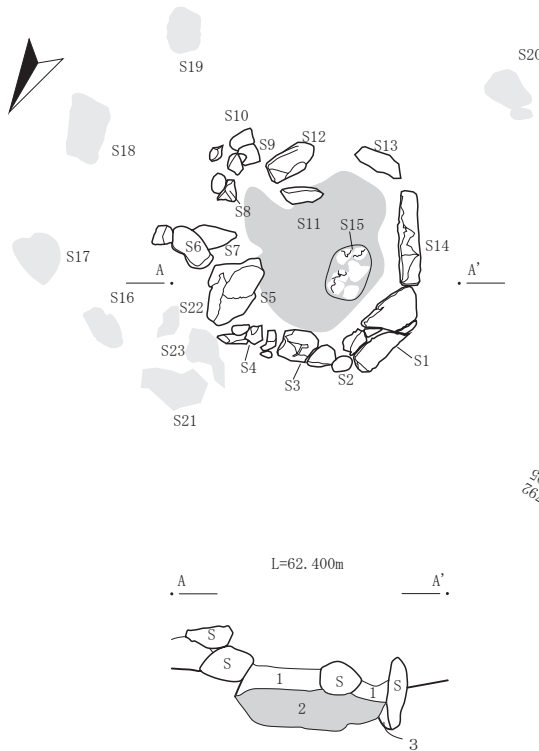
- 1号炉跡
- 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
焼土粒をわずかに含む
 - 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
明褐色焼土粒を全体に含む
燃焼部焼土相当
 - 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
整地層2層下暗褐色土下層

2号炉跡

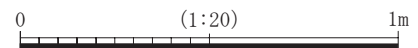


- 2号炉跡
- 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
炭化物(φ10mm大)を多く含む
 - 7.5YR5/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
焼けのいい焼土

3号炉跡

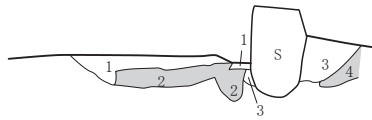
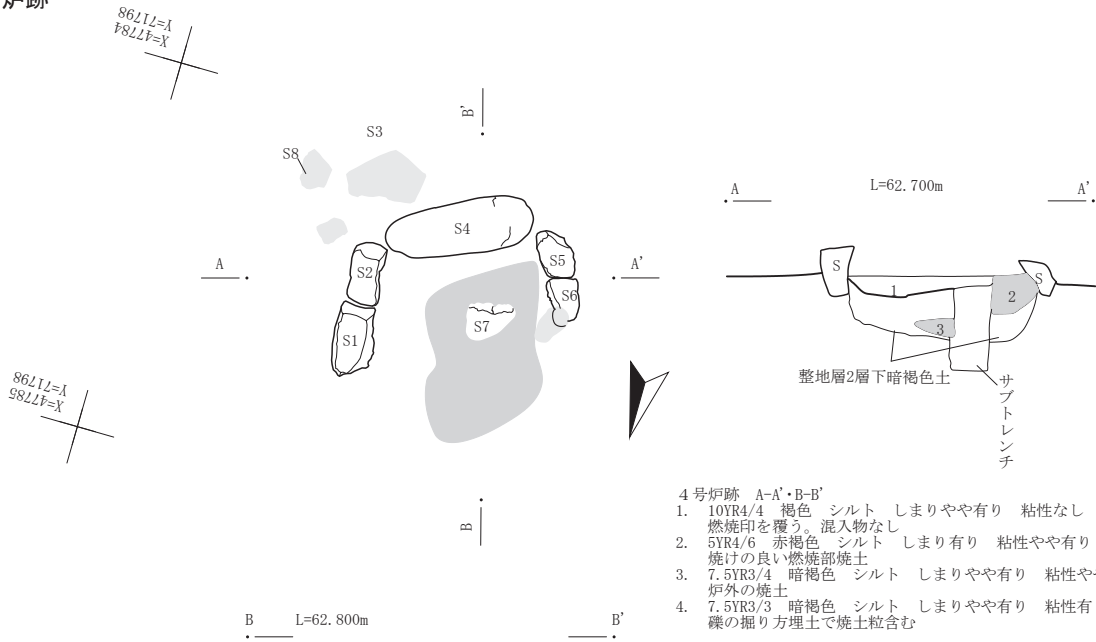


- 3号炉跡
- 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
白色粒子を全体に含む
 - 7.5YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
焼けの良い焼土で、フカフカやわらかい
 - 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
礫の掘り方理土

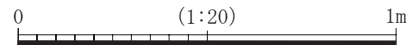
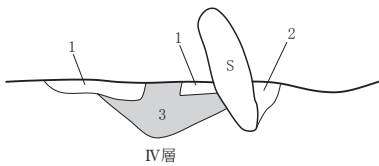
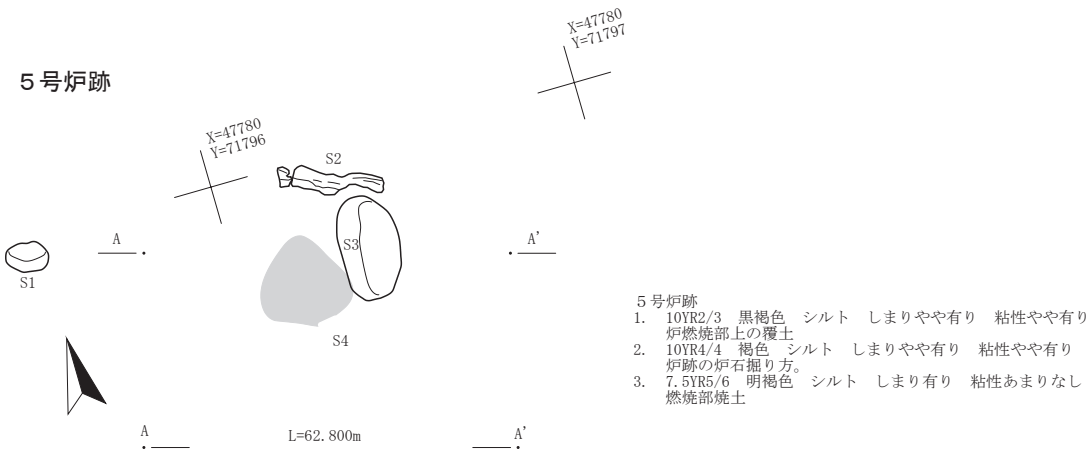


第29図 1～3号炉跡

4号炉跡

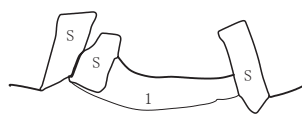
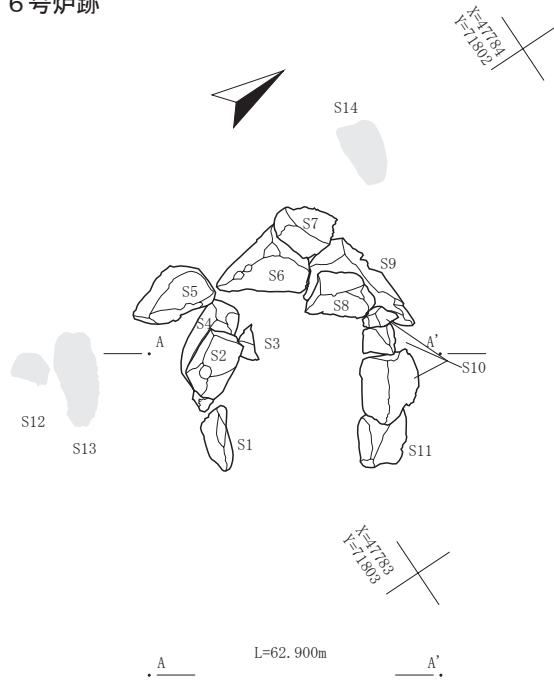


5号炉跡



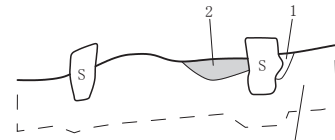
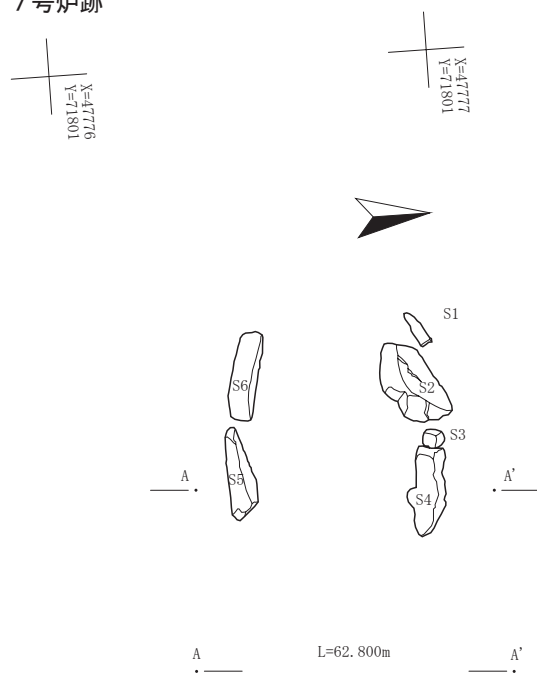
第30図 4・5号炉跡

6号炉跡



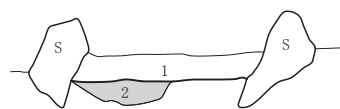
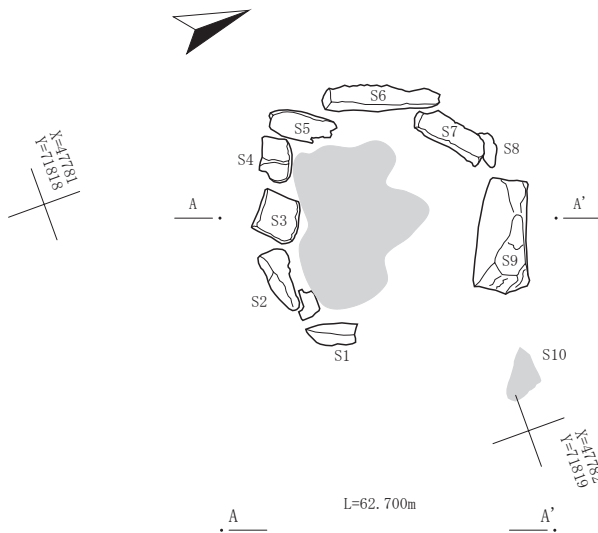
- 6号炉跡
 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 炭化物粒、灰の粒をまばらに含む

7号炉跡

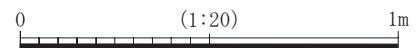


- 7号炉跡
 1. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 炉跡の掘り方で不明瞭ではある。
 2. 7.5YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性なし
 焼土ブロックで燃焼部と思われるが規模は小さい

8号炉跡

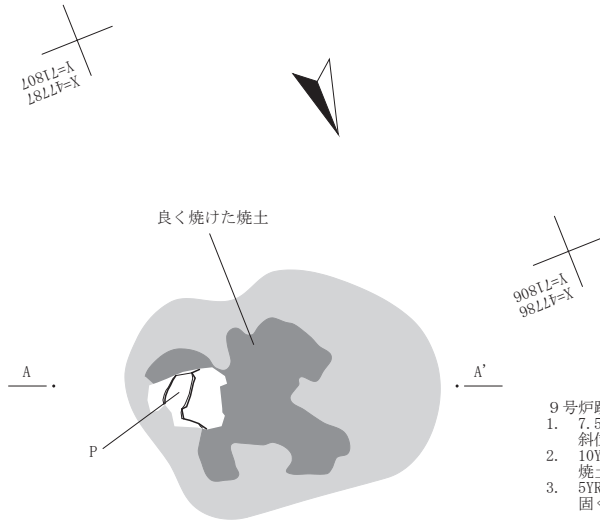


- 8号炉跡
 1. 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
 浮石粒含み、焼土粒は含まず
 2. 7.5YR5/6 明褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
 燃焼部焼土で固く縮まり焼けはやや良好



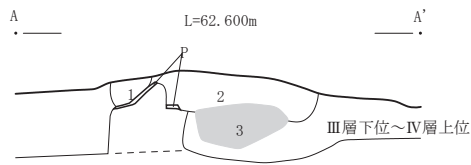
第31図 6～8号炉跡

9号炉跡

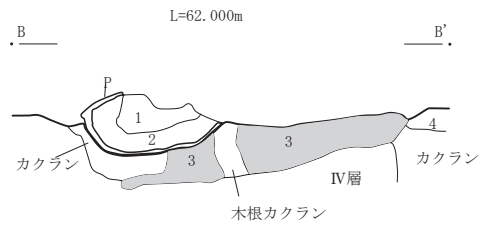
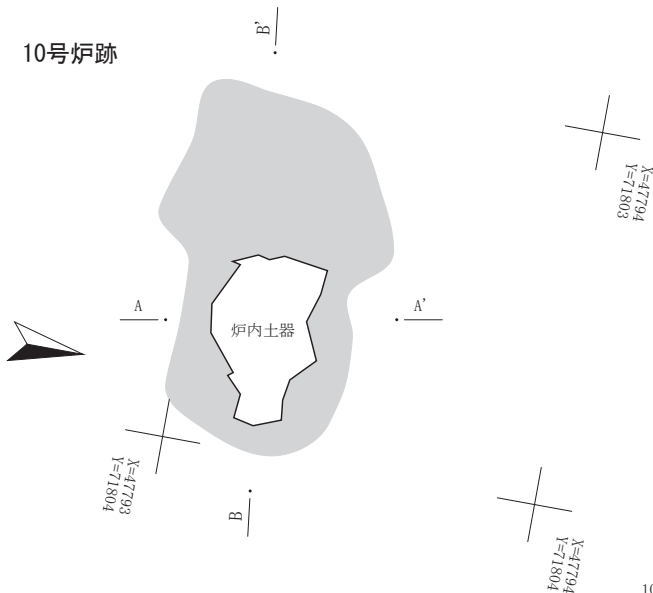


9号炉跡

- 7.5YR4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
斜位にある土器を覆う土で肌色を帯びる。焼けた粘土層で焼土粒含む
- 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
焼土粒をまばらに含む
- 5YR5/6 明赤褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
固く焼けの良い焼土で厚みがある

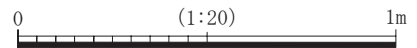
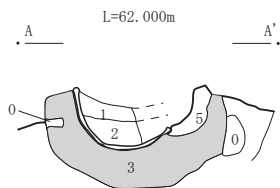


10号炉跡



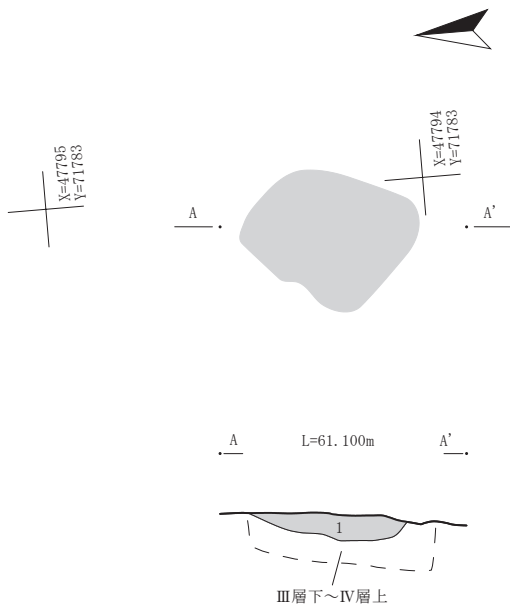
10号炉跡

- 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
土器内の土で焼土粒をまばらに含む
- 7.5YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
- 7.5YR4/8 赤褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
極めて燃焼が良い焼土
- 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
III・IV層に似るが、焼土粒をわずかに含む
- 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
土器を被覆している土



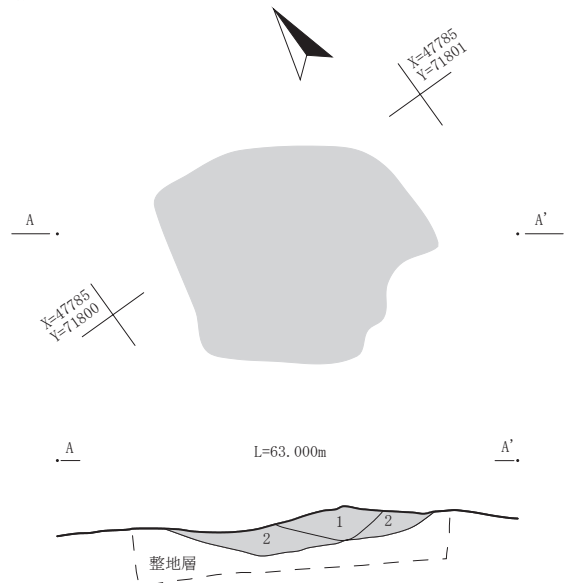
第32図 9・10号炉跡

1号焼土



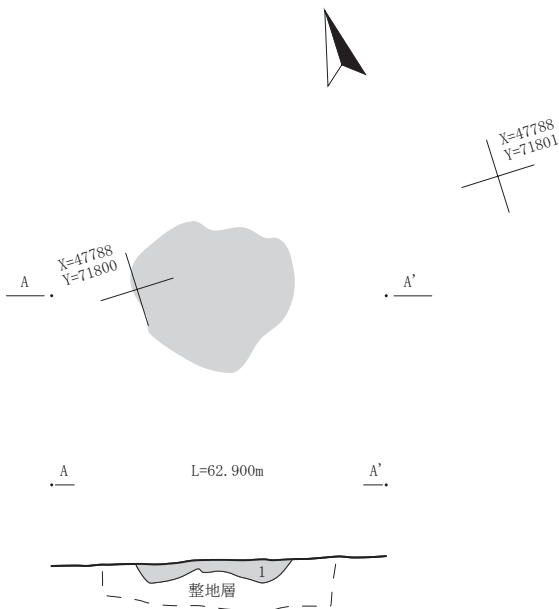
- 1号焼土
 1. 7.5YR5/6 明褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 焼けの悪い燃焼部焼土

2号焼土



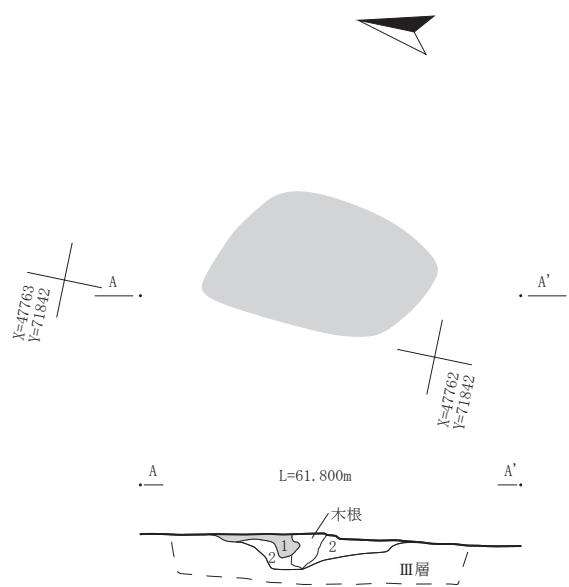
- 2号焼土
 1. 5YR5/8 明赤褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
 焼けは良好な燃焼部焼土
 2. 7.5YR4/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
 整地層の褐色土が被熱した状況 くすんだ色調

3号焼土

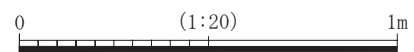


- 3号焼土
 1. 7.5YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 整地層が被熱 炭化物粒を多く含む 焼けは良好

4号焼土

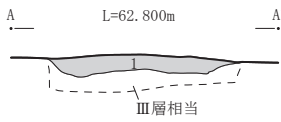
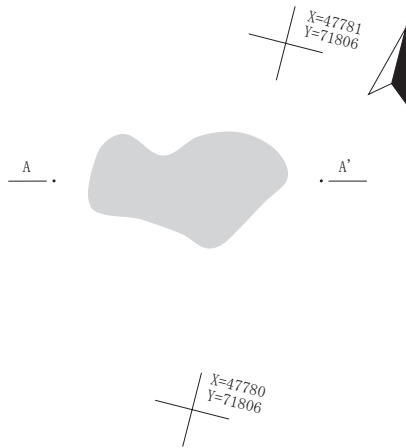


- 4号焼土
 1. 5YR4/6 赤褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 比較的焼けの良好な焼土
 2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 III層が被熱した部分 1層に比べ焼け方が極めて弱い



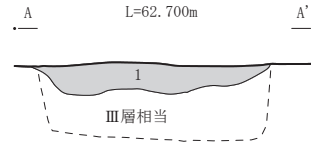
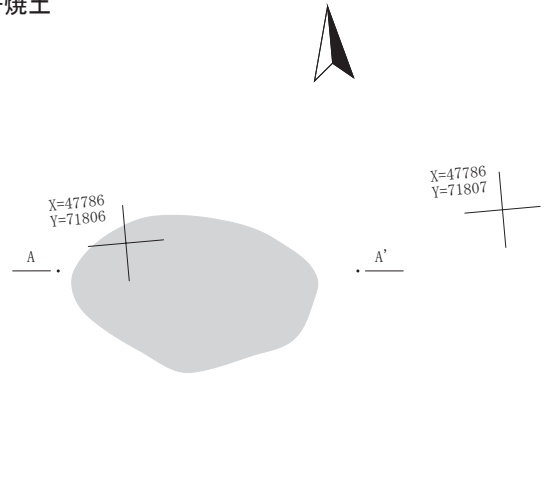
第33図 1～4号焼土遺構

5号焼土



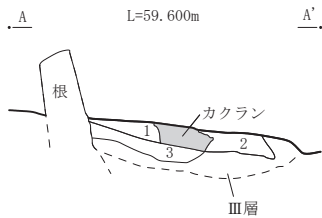
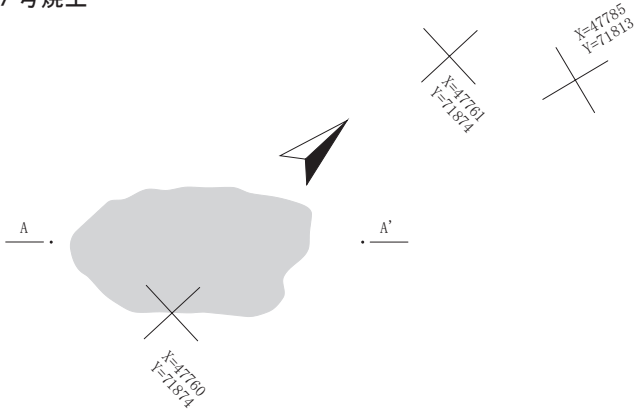
5号焼土
1. 7.5YR3/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
部分的に粘土粒含むが少ない

6号焼土



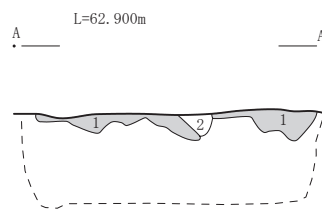
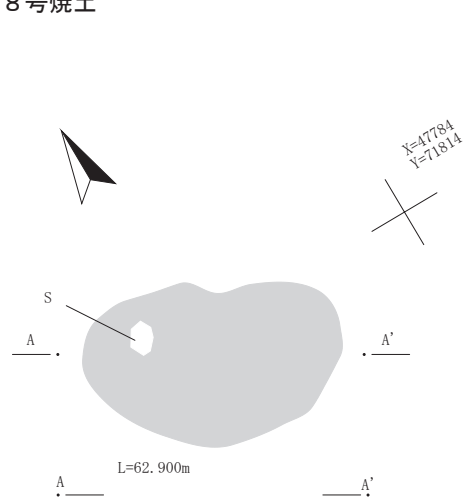
6号焼土
1. 7.5YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
焼けの悪い焼土で部分的に橙色焼土粒含む

7号焼土

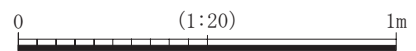


7号焼土
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石粒を僅かに含む
2. 10YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性有り
3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り

8号焼土

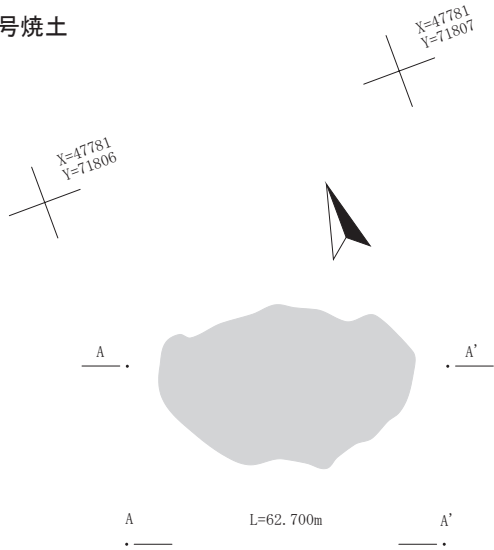


8号焼土
1. 2.5YR4/8 赤褐色 焼土 しまり有り 粘性なし
斑な部分がある
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
木根によるカクランか



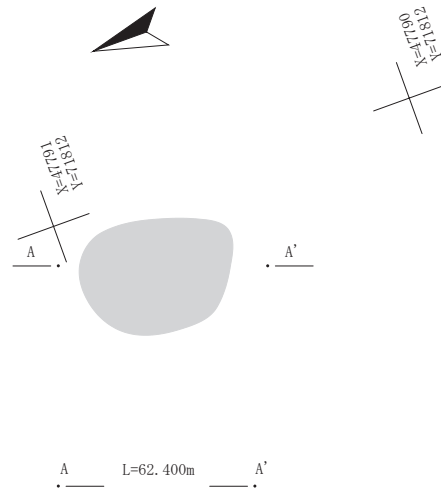
第34図 5～8号焼土遺構

9号焼土



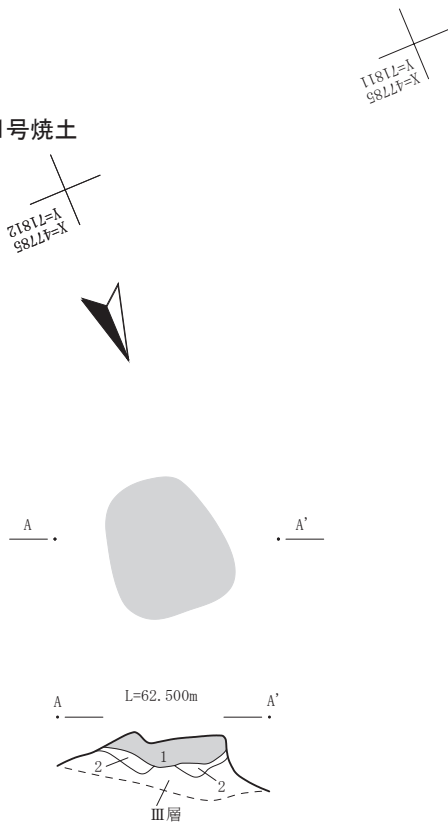
- 9号焼土
1. 2.5YR4/8 赤褐色 焼土 しまり有り 粘性なし 固く締まっている
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 木根による攪乱?

10号焼土



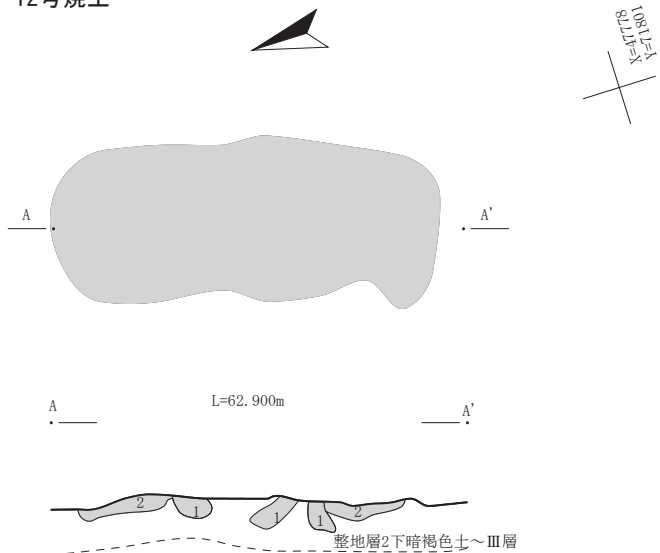
- 10号焼土
1. 7.5YR5/4 にぶい黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし ブロック状の焼土

11号焼土

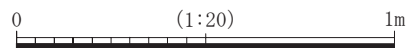


- 11号焼土
1. 7.5YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 焼けの極めて良い焼土
 2. 7.5YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし III層の変色したもの

12号焼土

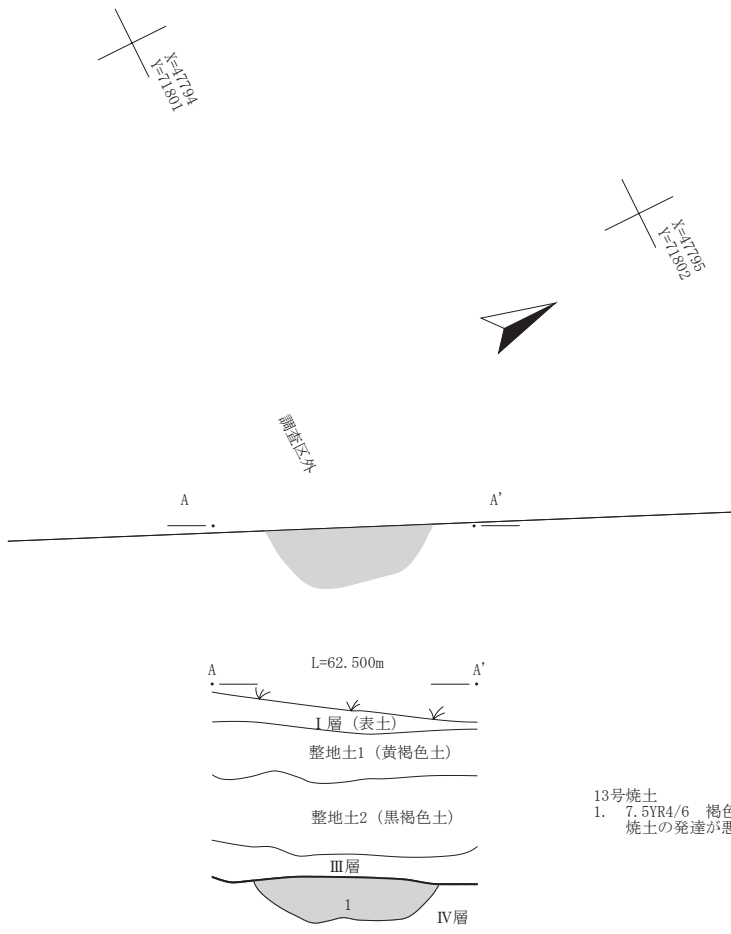


- 12号焼土
1. 7.5YR5/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り ブロック状の焼土
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 橙色焼土粒をわずかに含む



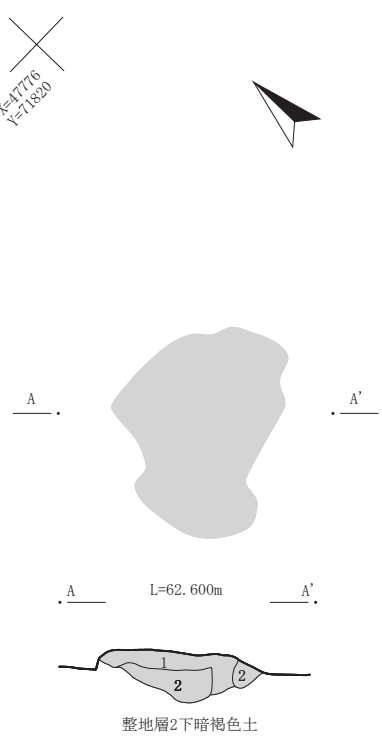
第35図 9～12号焼土遺構

13号焼土

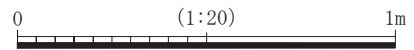


13号焼土
 1. 7.5YR4/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 焼土の発達が悪い

14号焼土

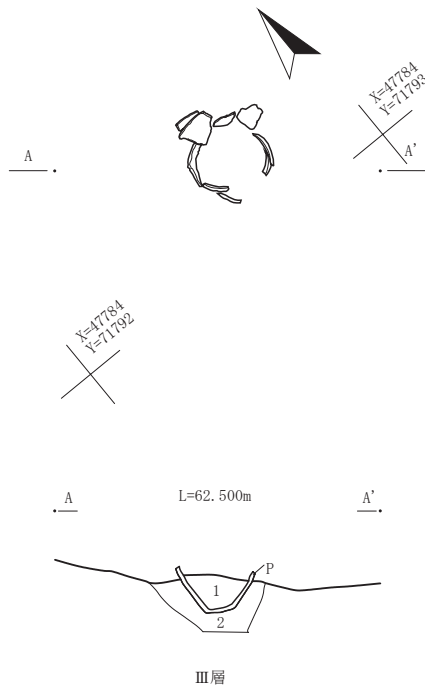


14号焼土
 1. 7.5YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 褐色焼土粒を全体に含む
 2. 5YR4/6 赤褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 燃焼部焼土で固く締まる



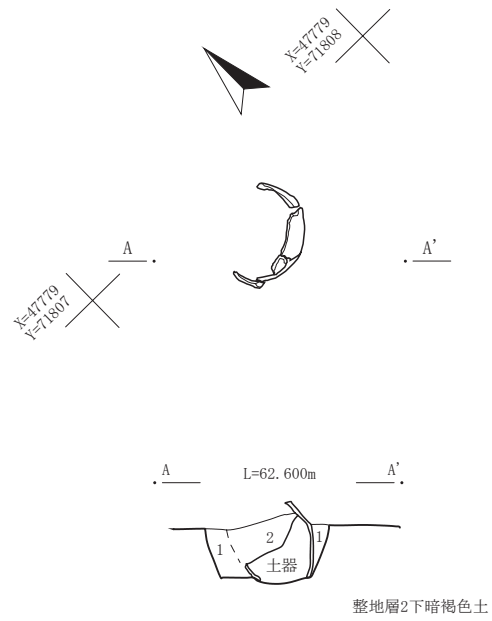
第36図 13・14号焼土遺構

1号埋設土器



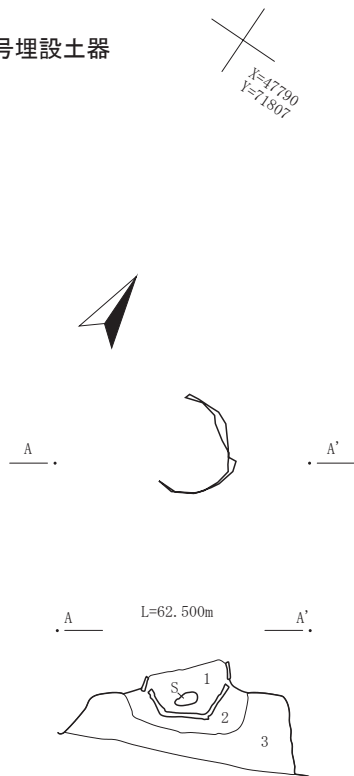
- 1号埋設土器
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
土壌内に炭化物 焼土粒等認められない
 - 10YR4/4 褐色 シルト しまりあまりなし 粘性なし
掘り方埋土でフカフカしている

2号埋設土器



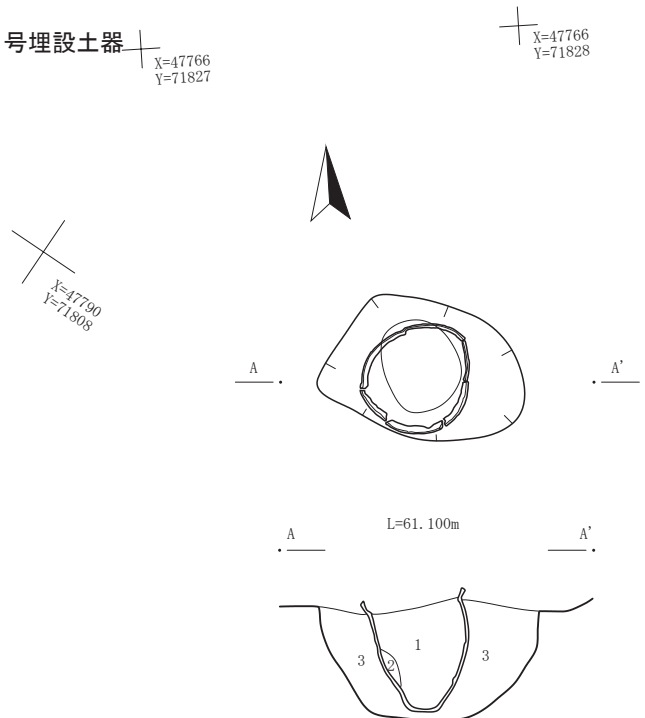
- 2号埋設土器
- 10YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性なし
土器の掘り方埋土
 - 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
土器内の土壌

3号埋設土器

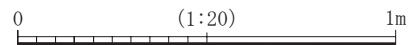


- 3号埋設土器
- 7.5YR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
黒色土に暗褐色土斑状に混入
 - 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 - 10YR2/3 黒褐色 シルト III層相当

4号埋設土器

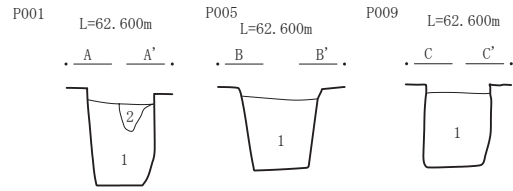
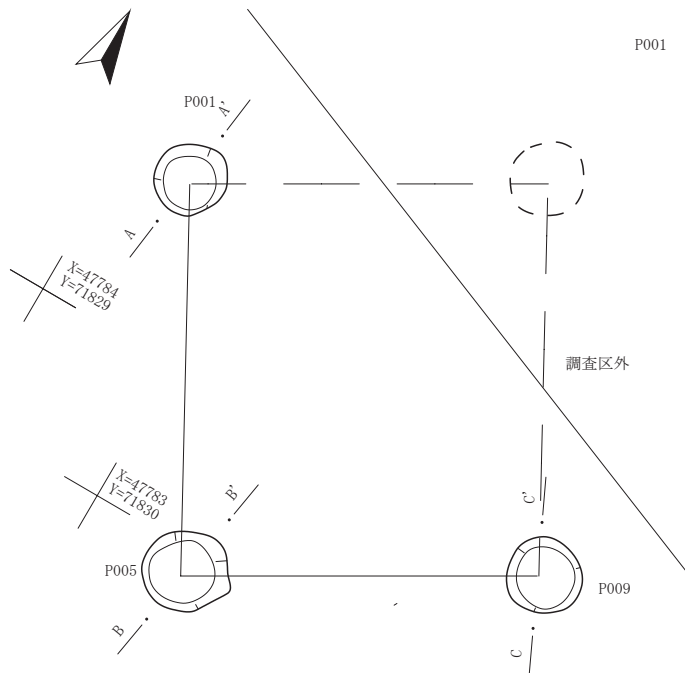


- 4号埋設土器
- 10YR3/3 暗褐色土 しまりなし 粘性あまりなし
炭化物粒1%、黄褐色火山灰粒1%
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまりあまりなし 粘性あまりなし
ブロック状に黄褐色土10%
 - 10YR3/4 暗褐色土 しまりなし 粘性あまりなし



第37図 1～4号埋設土器

1号掘立柱建物跡

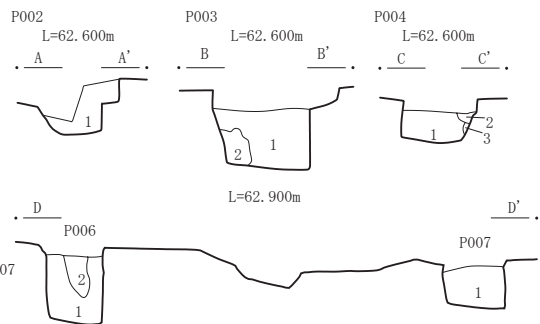
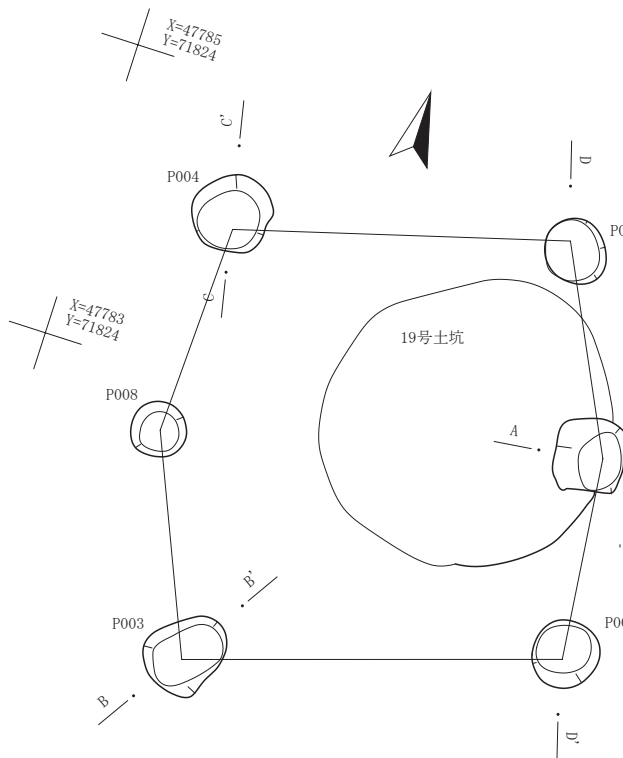


- P001
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む
 - 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒を全体に含む

- P005
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む

- P009
- 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒を全体に含む

2号掘立柱建物跡

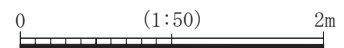


- P002
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む

- P003
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む
 - 10YR5/6 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
ブロック状

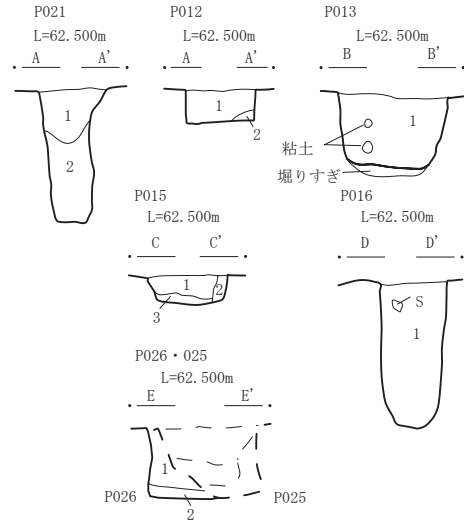
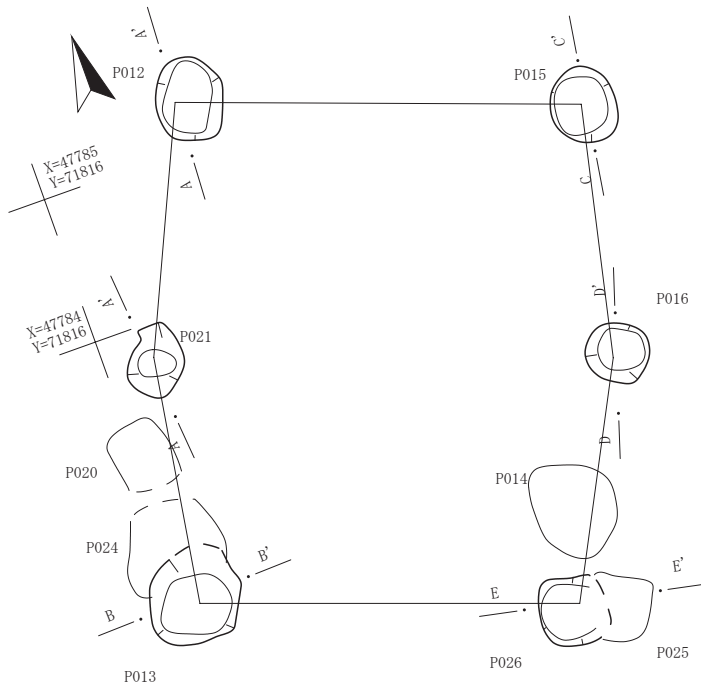
- P004
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む
 - 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒を全体に含む
 - 10YR5/6 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
ブロック状

- P006・007
- 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒をまばらに含む
 - 10YR2/1 黒 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より黒味あり



第38図 1・2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡



- P012
1. 10YR3/3 暗褐色土 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質土 しまり有り 粘性有り

- P013
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り にぶい黄褐色土粒20%混入

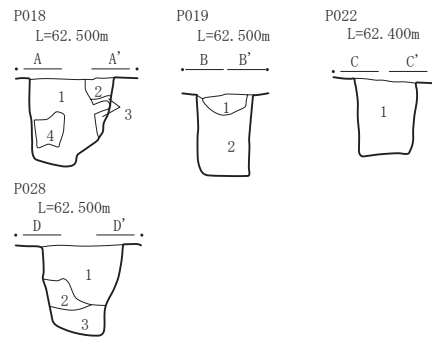
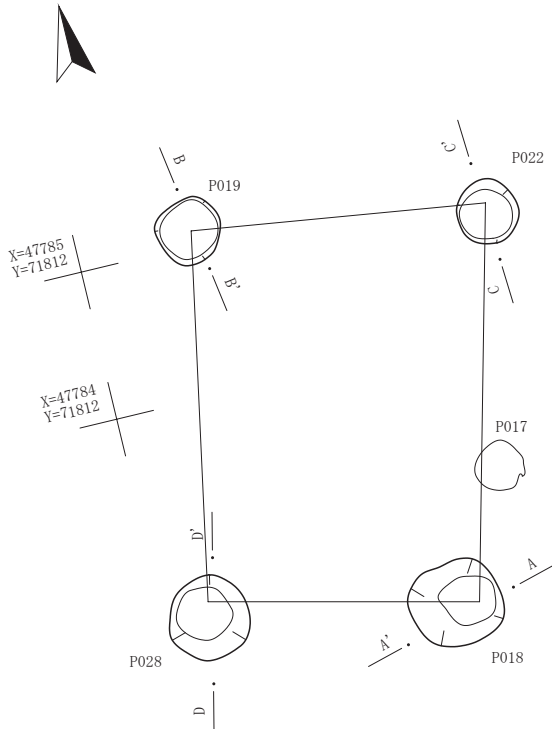
- P015
1. 10YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 2. 10YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし
 3. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし

- P016
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り にぶい黄褐色土粒5%混入

- P021
1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 炭化物少量
 2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 褐色土ブロック5%

- P026
1. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 2. 10YR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 炭化物含む

4号掘立柱建物跡

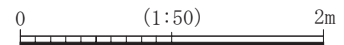


- P018
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り にぶい黄褐色土粒10%
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り にぶい黄褐色土粒50%
 4. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り

- P019
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 炭化物混入
 2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 黄褐色土粒5%

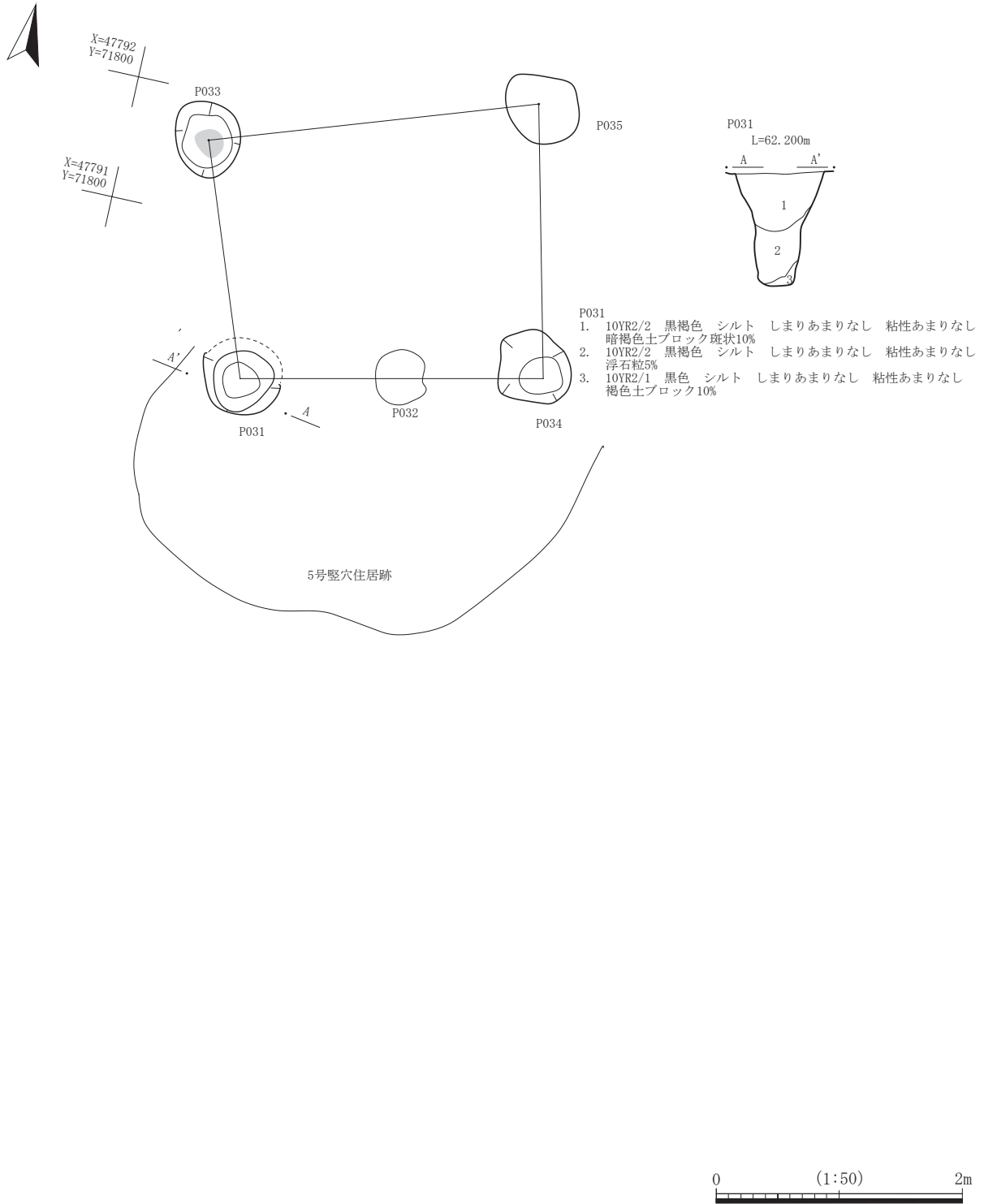
- P022
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし

- P028
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 3. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

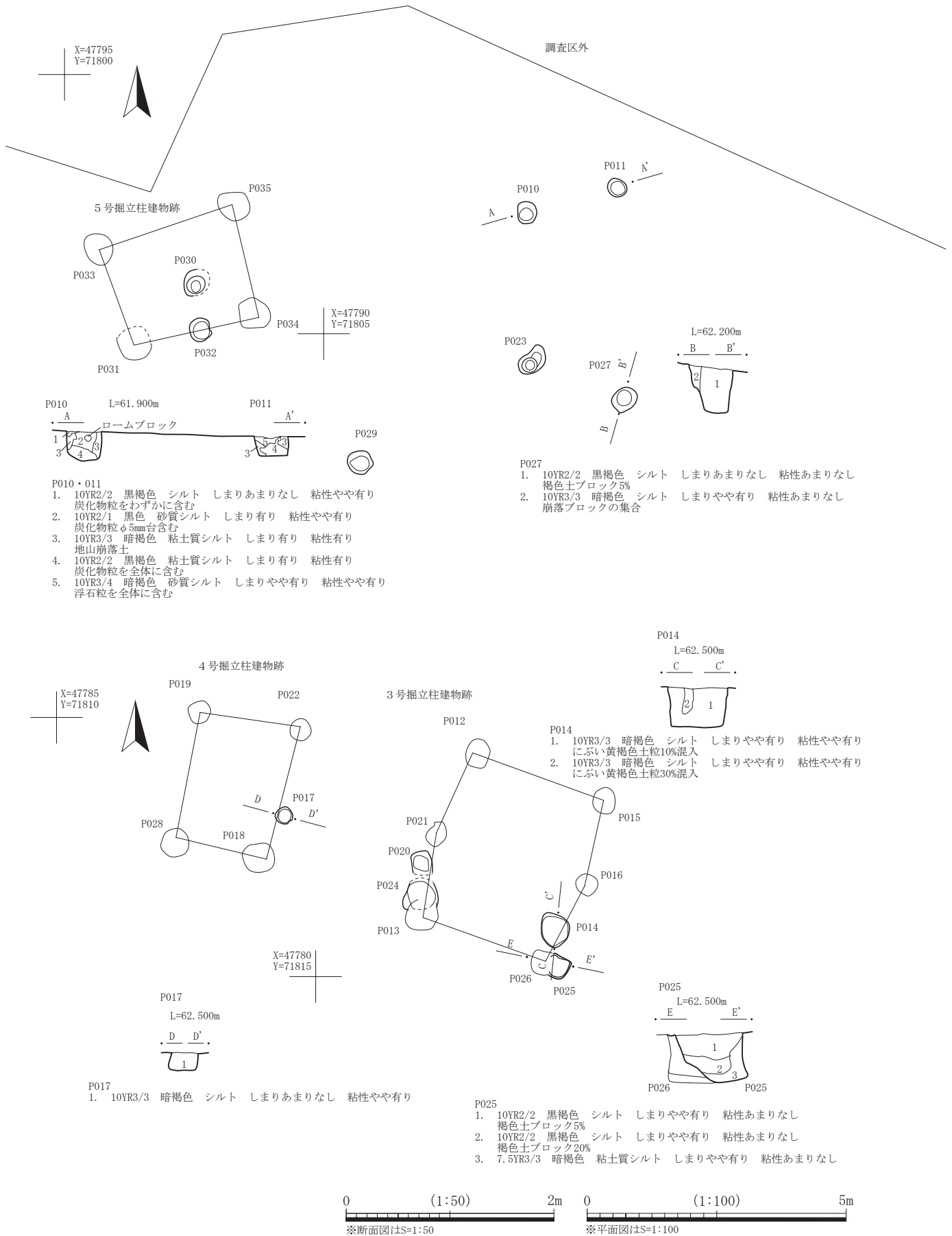


第39図 3・4号掘立柱建物跡

5号掘立柱建物跡

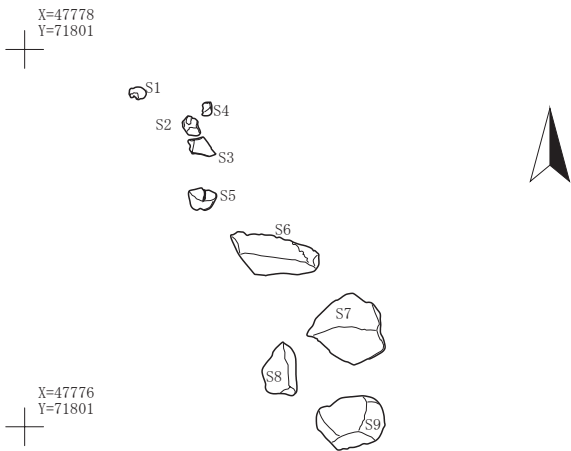


第40図 5号掘立柱建物跡

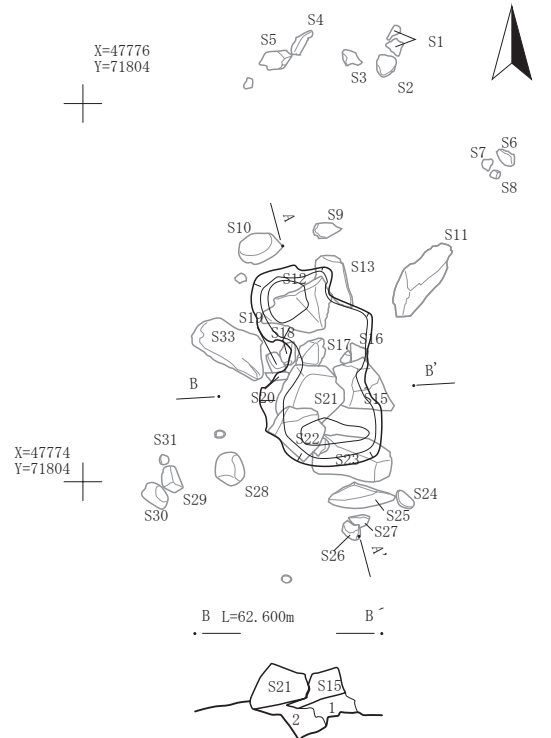
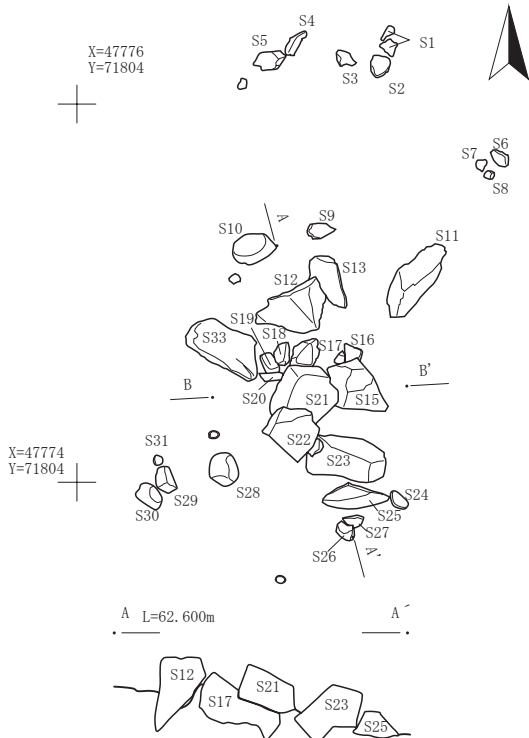


第41図 柱穴位置図 (建物構成柱穴以外)

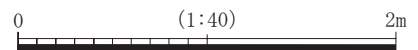
1号集石



2号集石

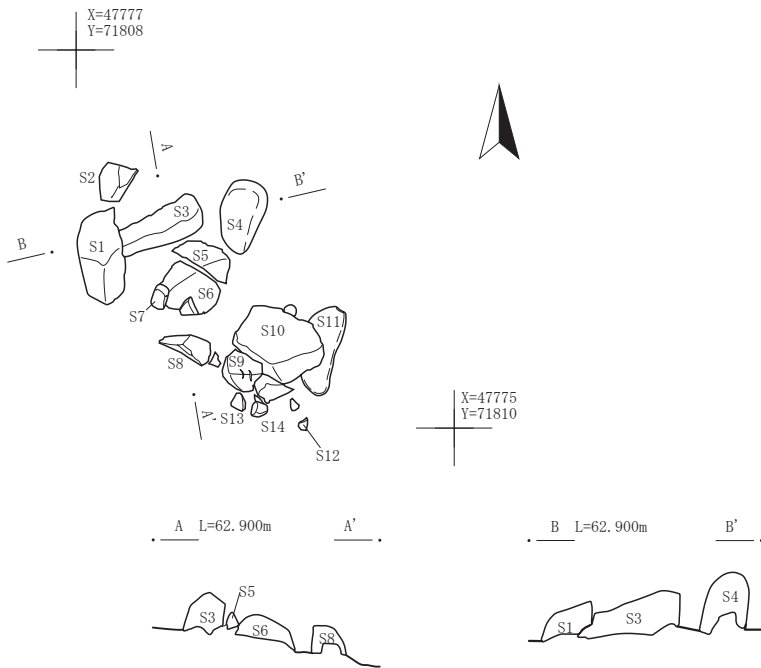


- 2号集石
 1. 10VR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 混入物なし
 2. 10VR3/4 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り

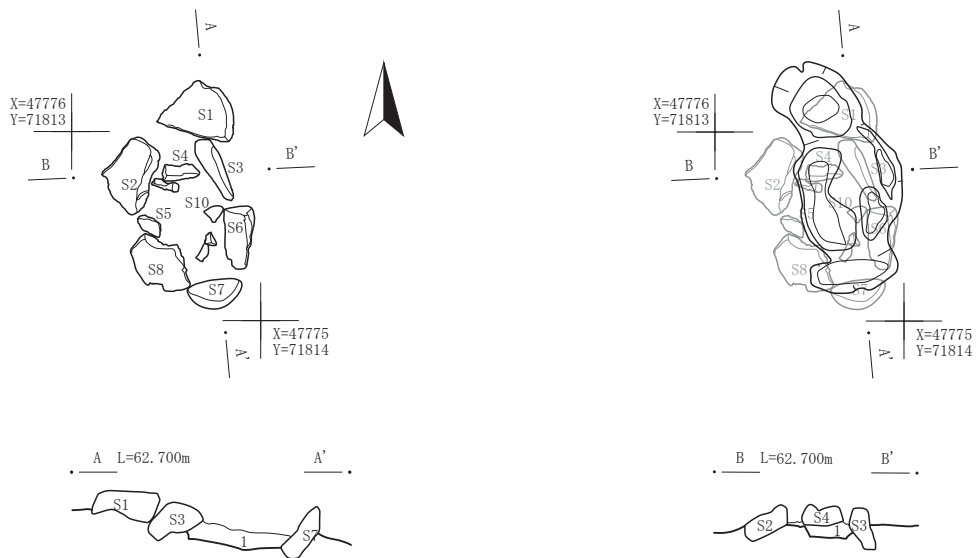


第42図 1・2号集石

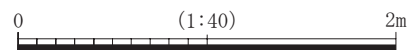
3号集石



4号集石

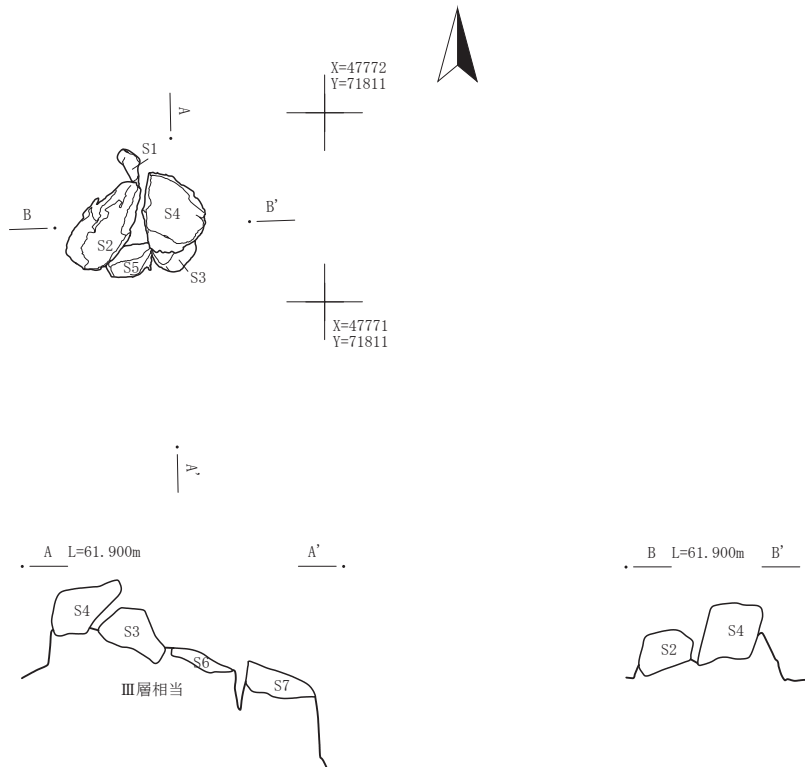


4号集石
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り フカフカやわらかい。

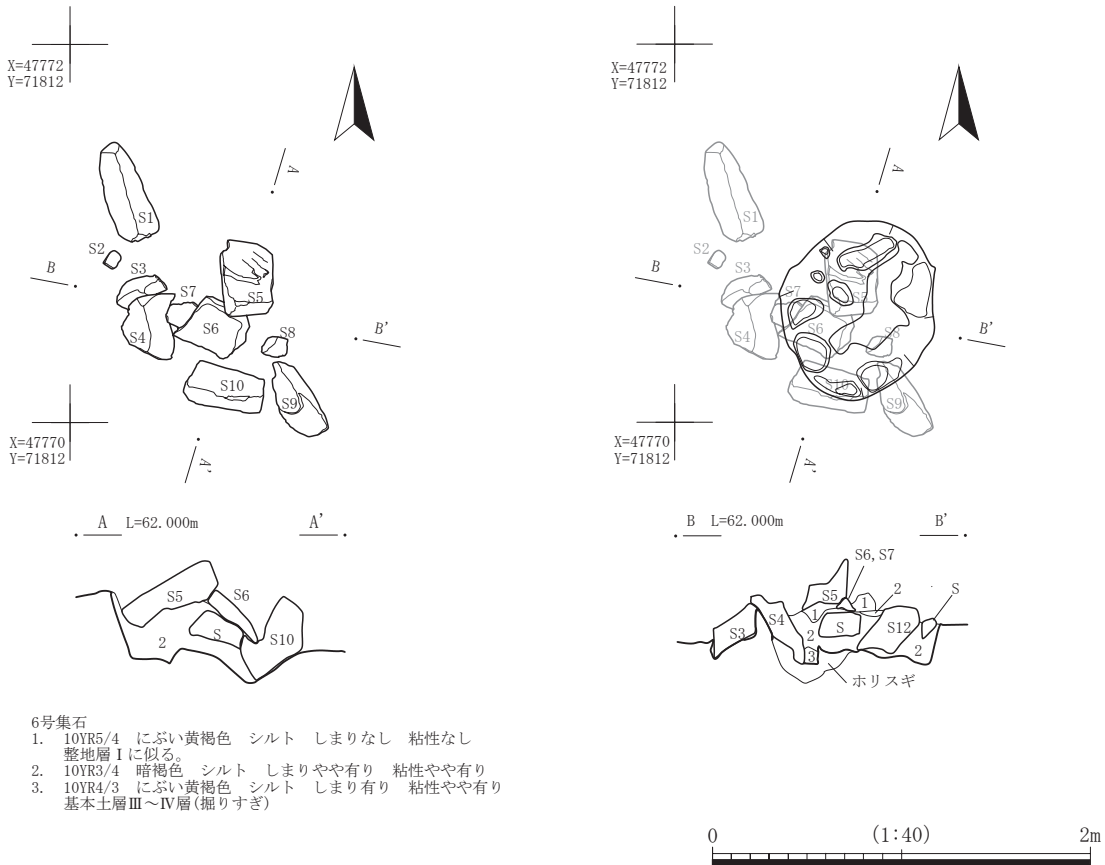


第43図 3・4号集石

5号集石



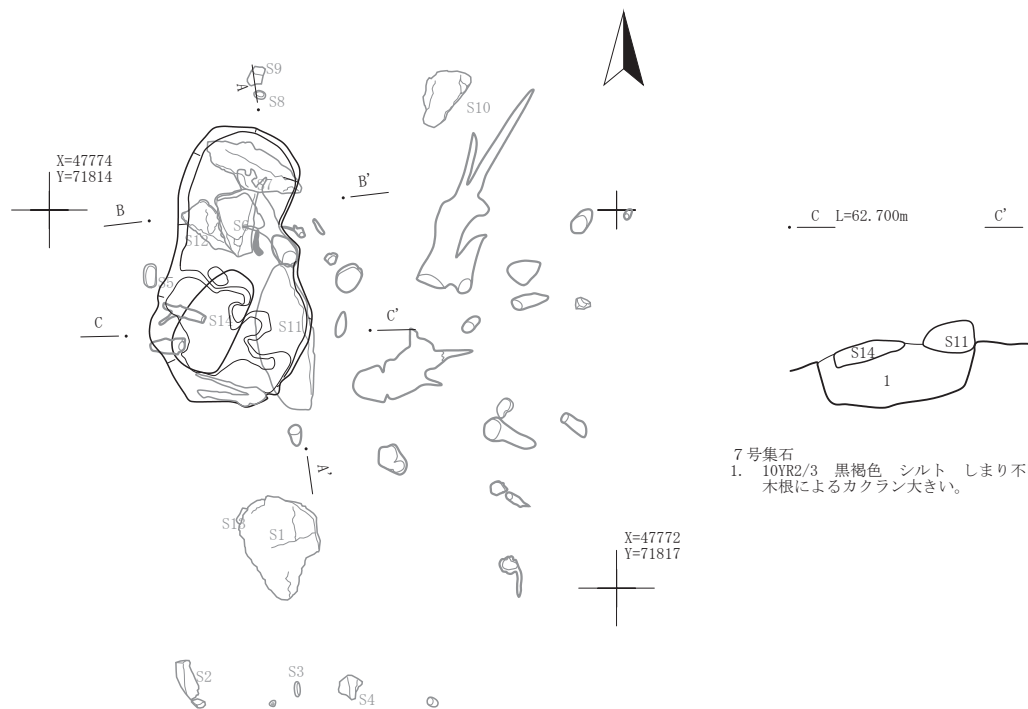
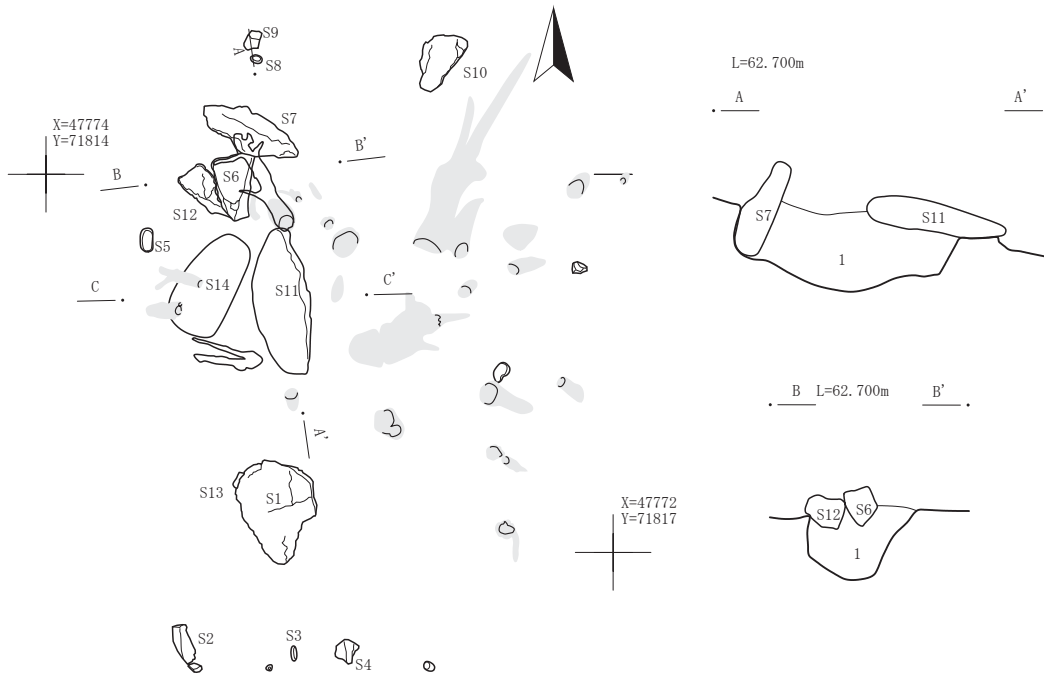
6号集石



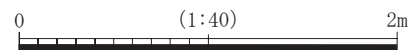
- 6号集石
 1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト しまりなし 粘性なし
 整地層Iに似る。
 2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 基本土層III～IV層(掘りすぎ)

第44図 5・6号集石

7号集石

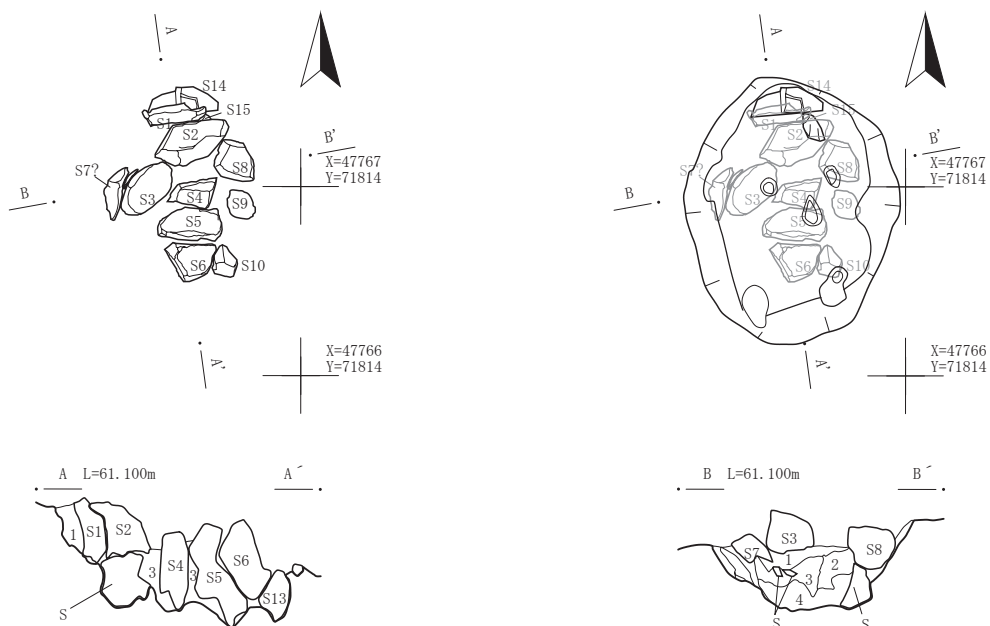


7号集石
 1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまり不明 粘性やや有り
 木根によるカクラン大きい。



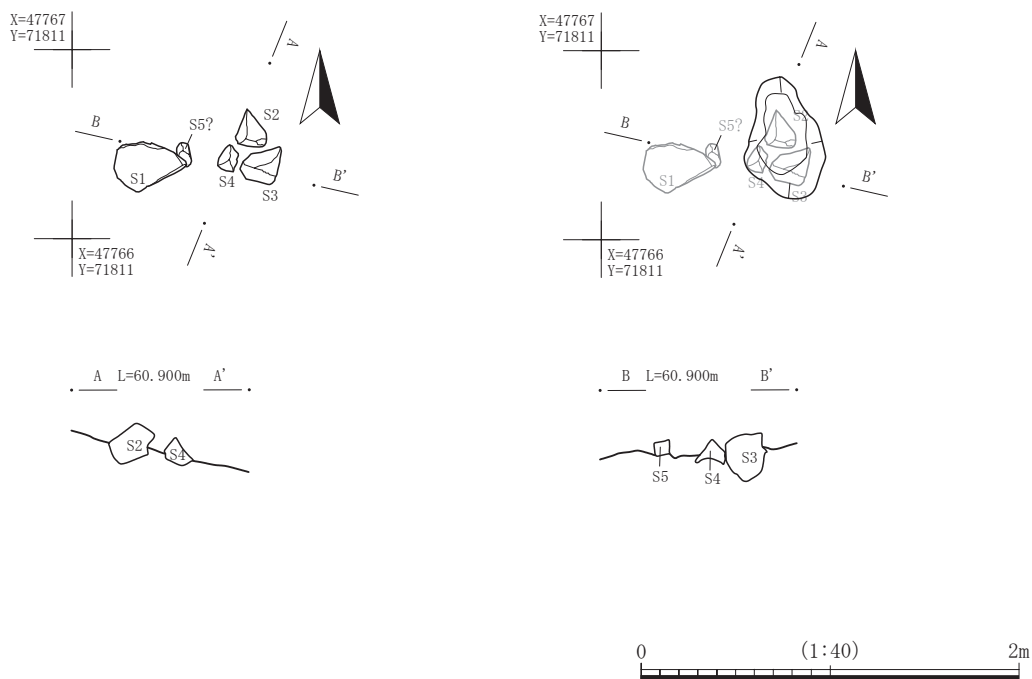
第45図 7号集石

8号集石



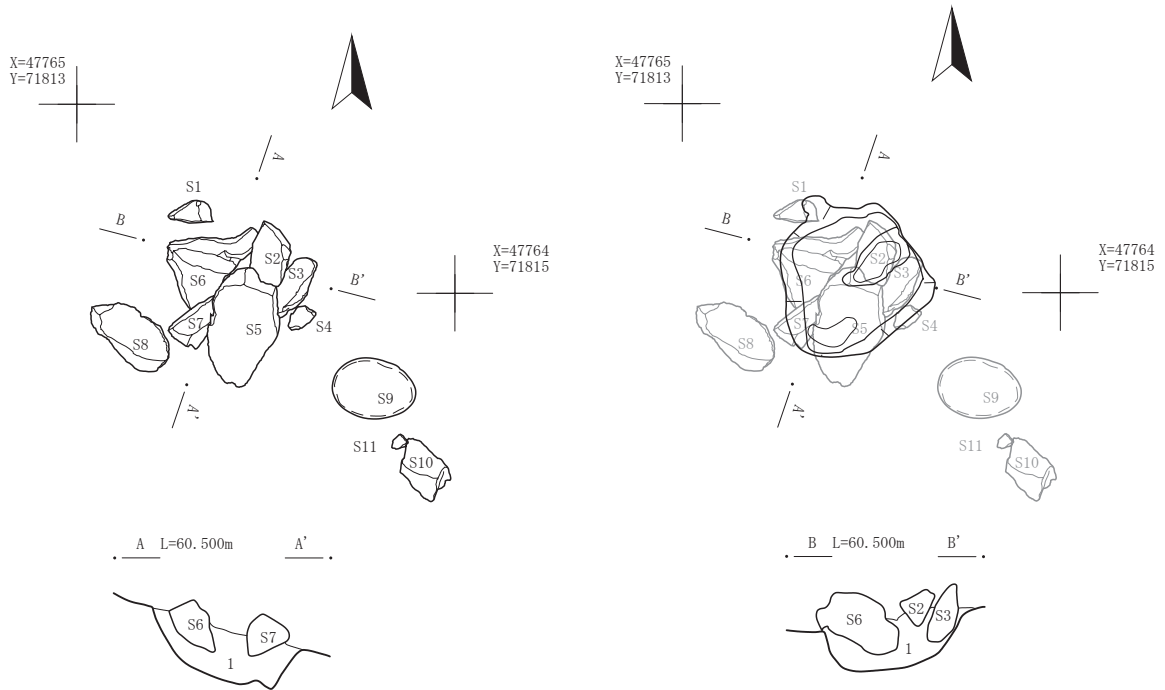
- 8号集石
1. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
あまりしまりなくフカフカ
 2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土粒をまばらに含む
 3. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
小礫を含む。III層より黒味ない
 4. 10YR4/6 褐色 粘土シルト しまり有り 粘性やや有り
III or IV層に似る

9号集石



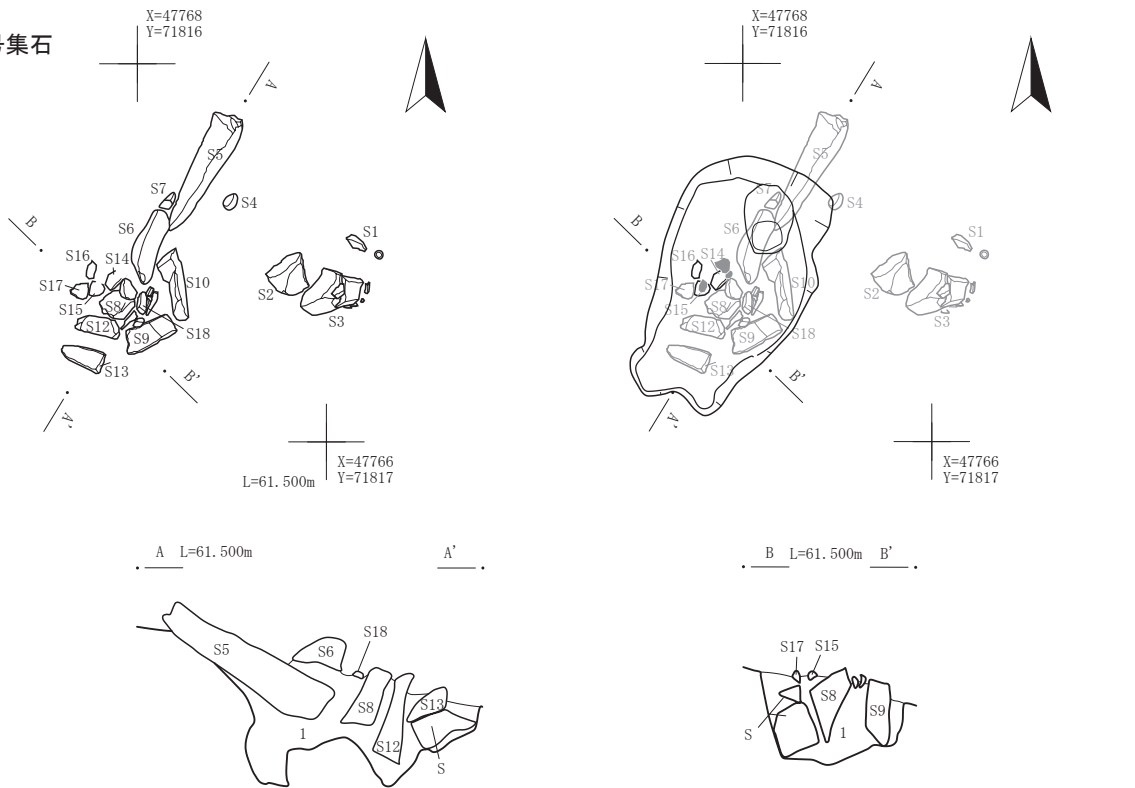
第46図 8・9号集石

10号集石

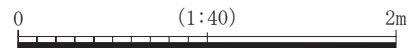


10号集石
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 混入物なし

11号集石

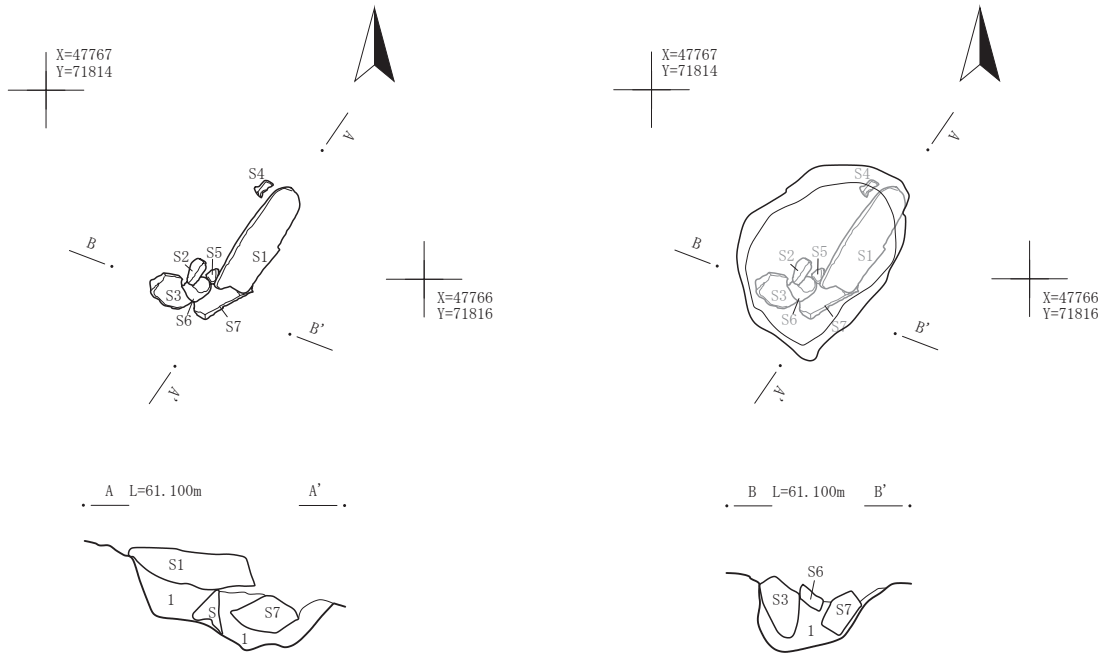


11号集石
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
 土製円盤、石斧、石錐等あり



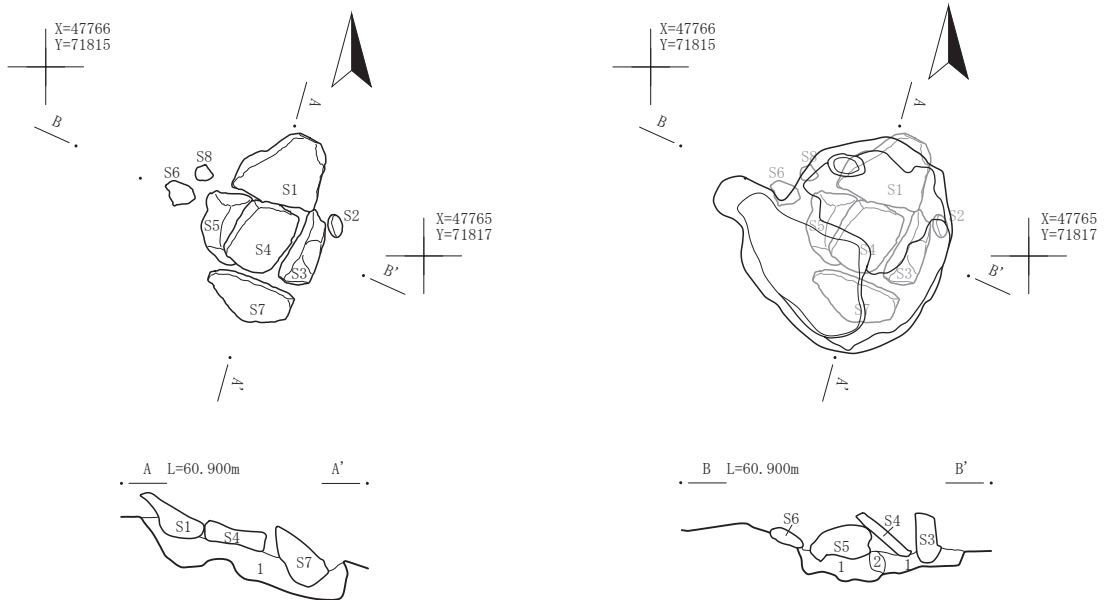
第47図 10・11号集石

12号集石

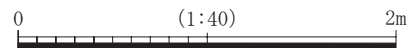


12号集石
 1. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り

13号集石

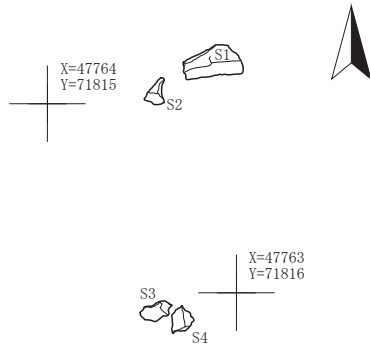


13号集石
 1. 10VR3/2 黒褐色 シルト しまりなし 粘性なし
 φ1~3mm大の浮石粒含み、フカフカしている
 2. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし

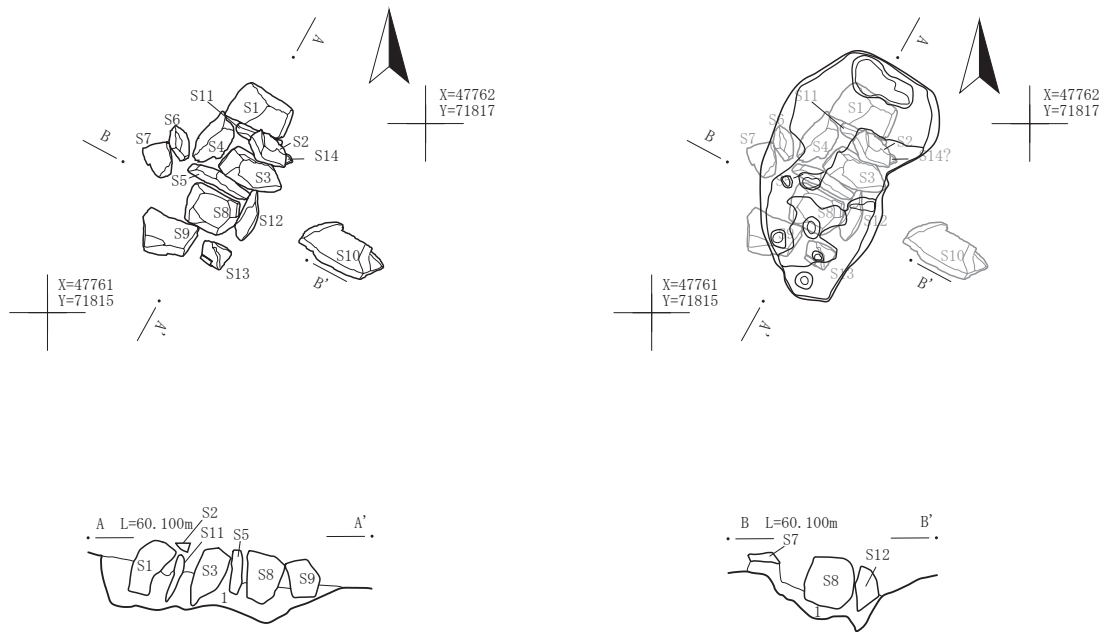


第48図 12・13号集石

14号集石



15号集石



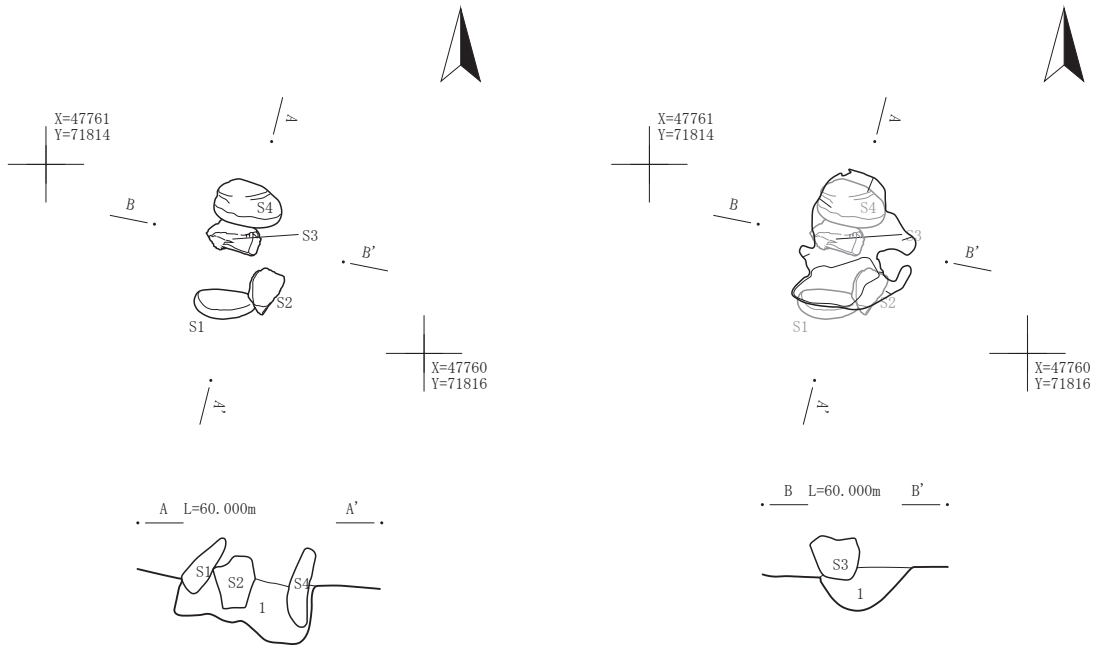
15号集石

- 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
混入物なし



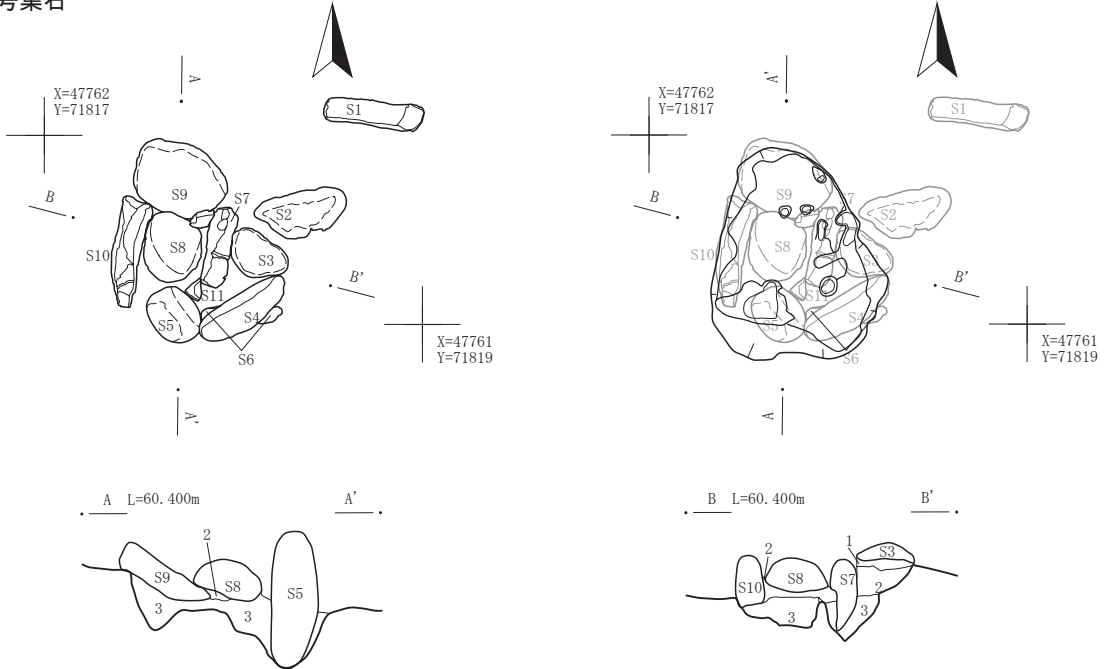
第49図 14・15号集石

16号集石

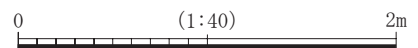


16号集石
 1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
 フカフカやわらかい

17号集石

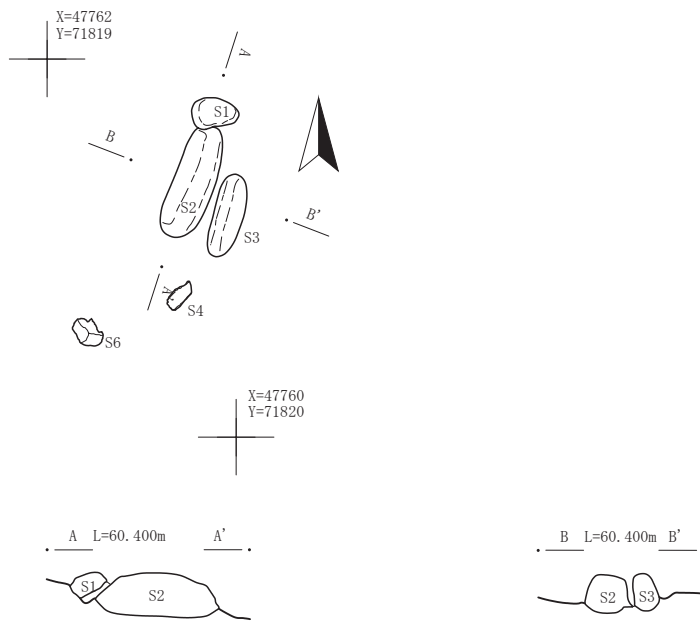


17号集石
 1. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 2. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性なし
 橙色の浮石粒含みⅢ層に似る
 3. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりなし 粘性やや有り

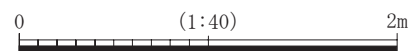
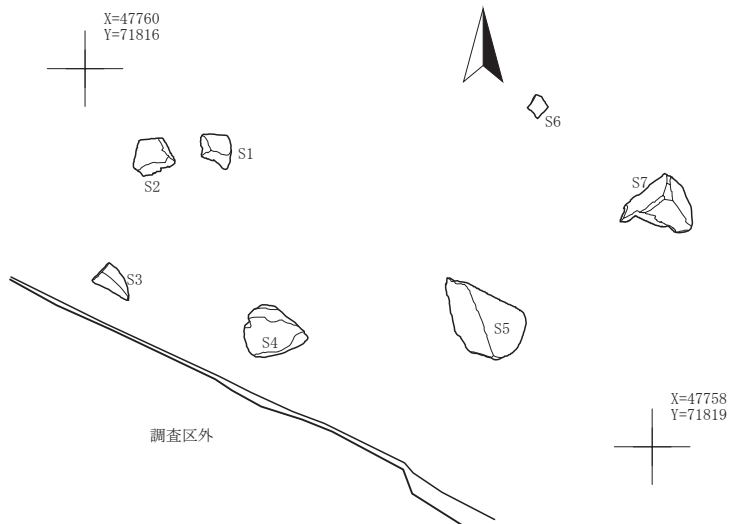


第50図 16・17号集石

18号集石

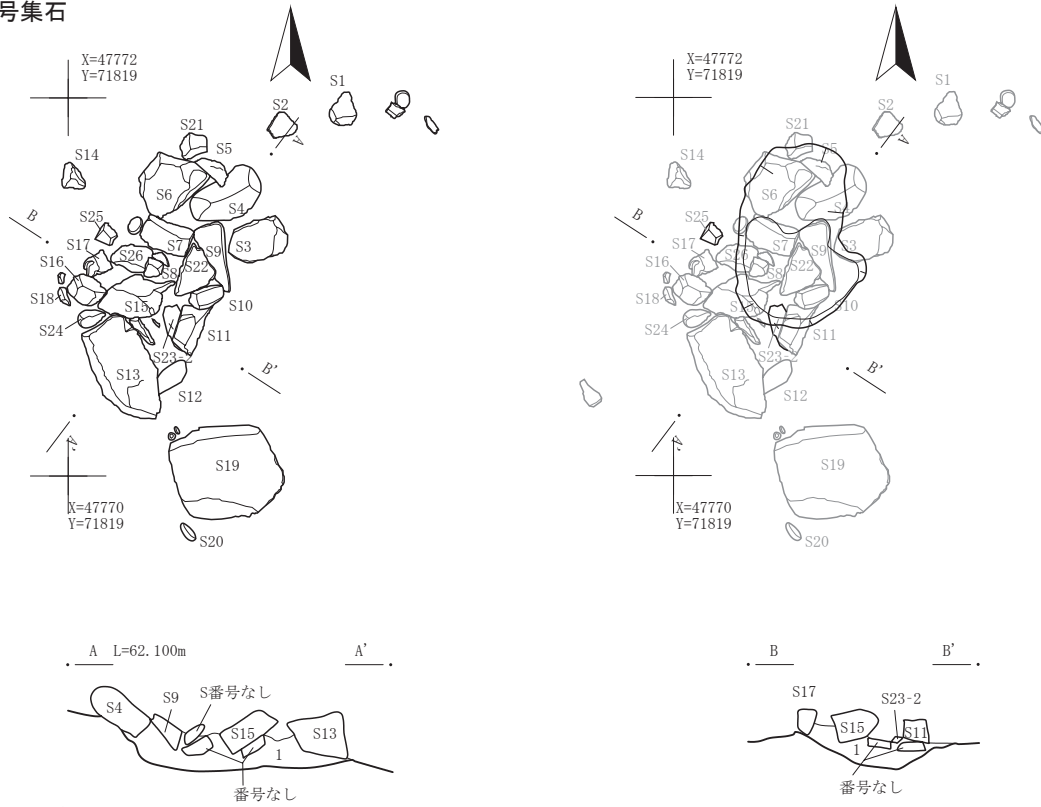


19号集石



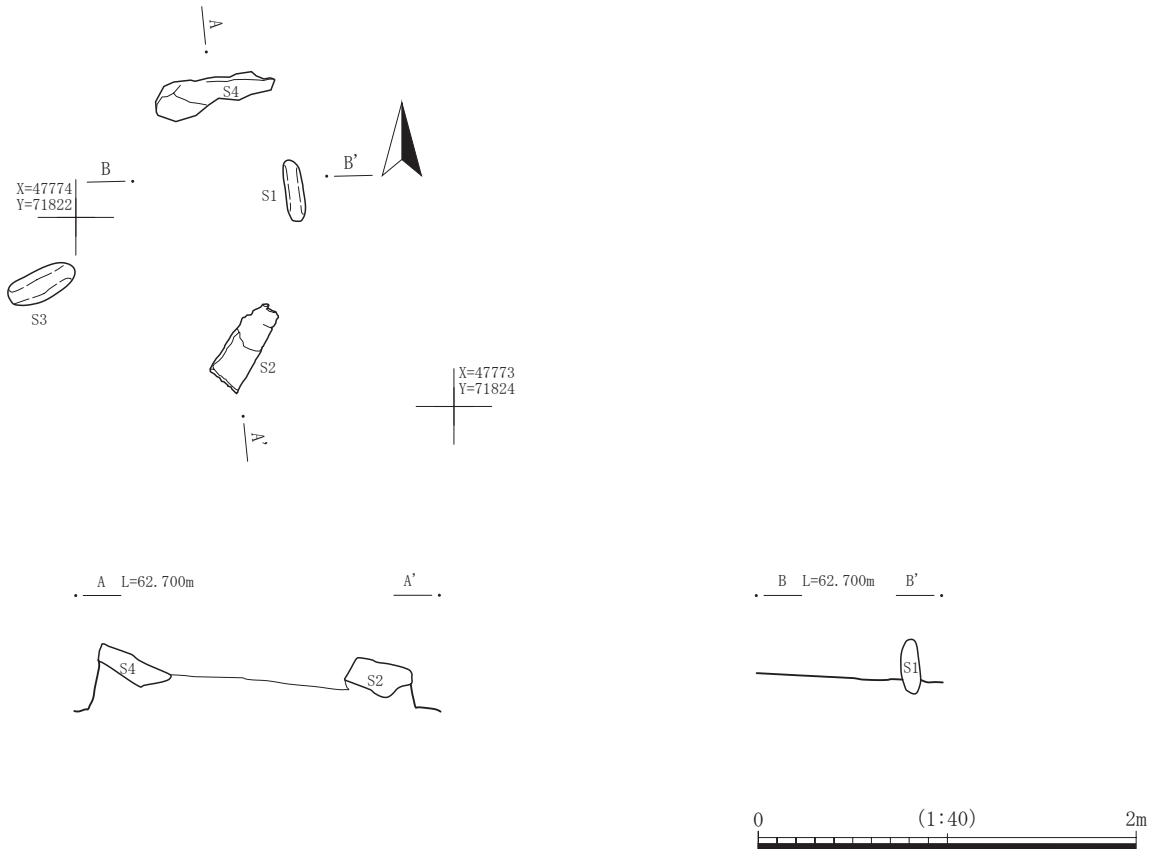
第51図 18・19号集石

20号集石



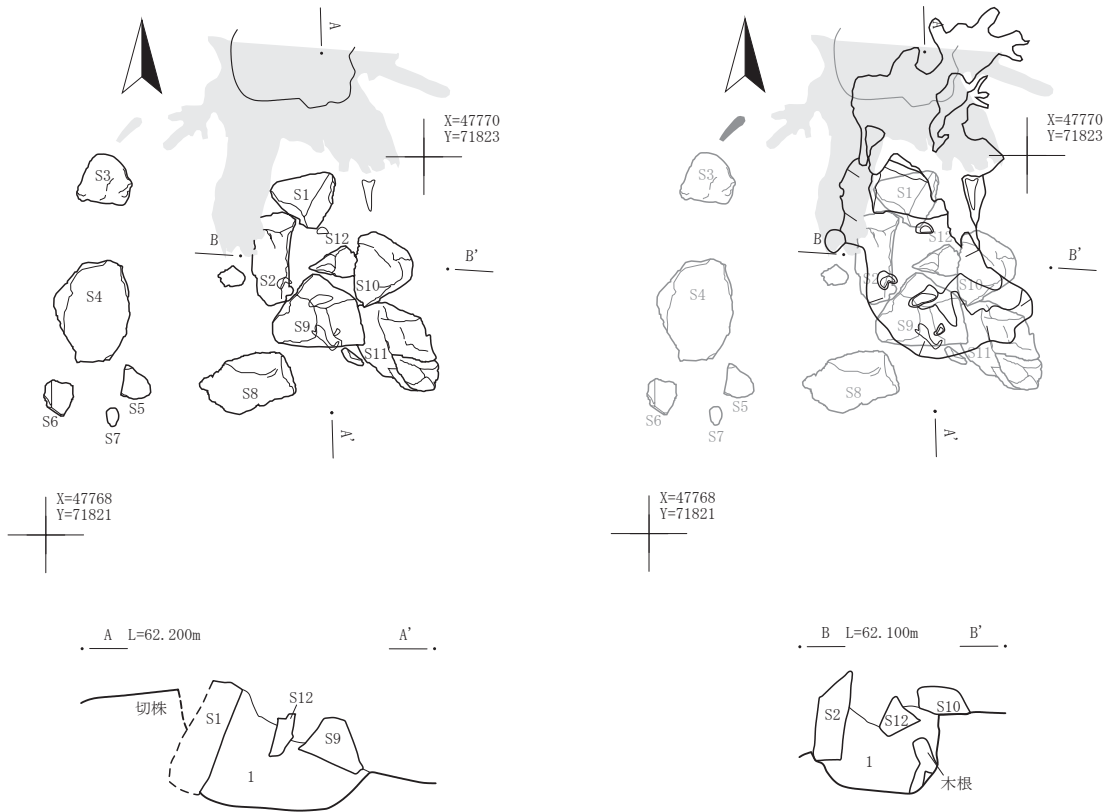
20号集石
 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 フカフカでなく若干しまった感触

21号集石



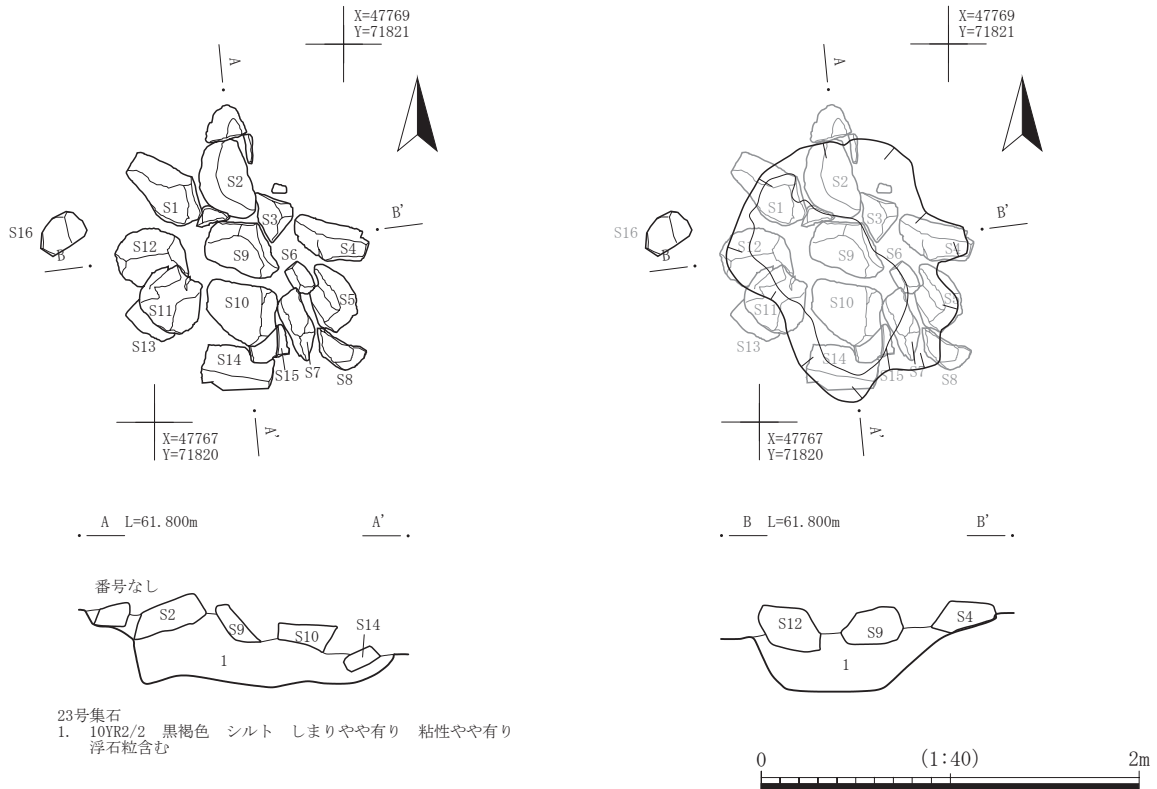
第52図 20・21号集石

22号集石



22号集石
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 遺物含む

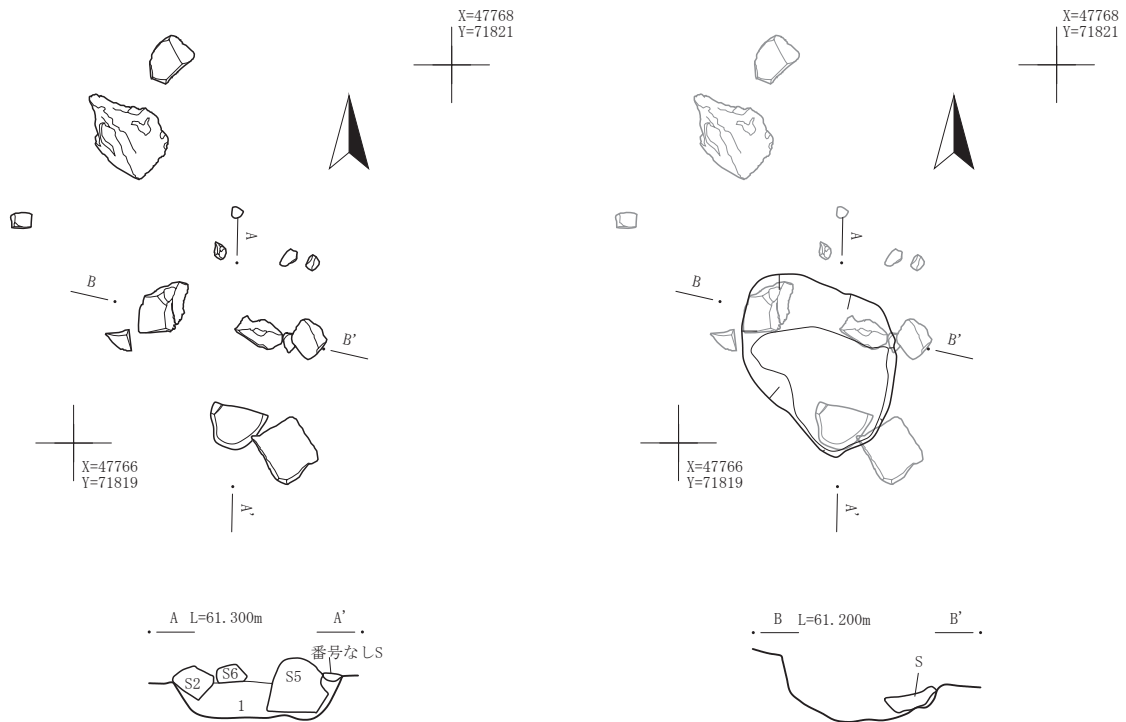
23号集石



23号集石
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒含む

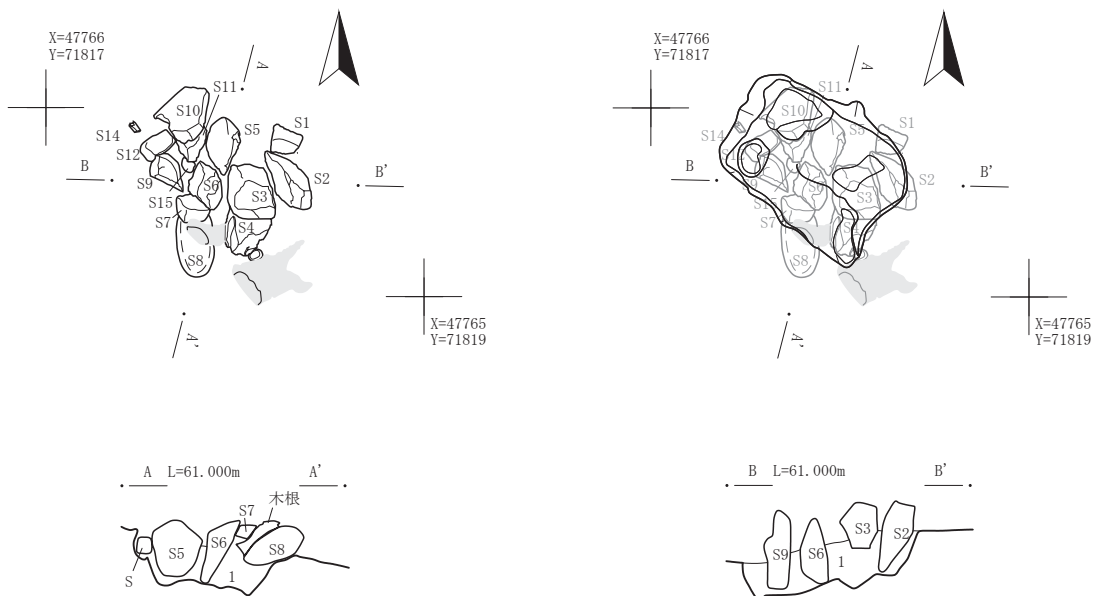
第53図 22・23号集石

24号集石

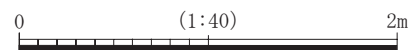


24号集石
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 浮石粒まばらに含む

25号集石

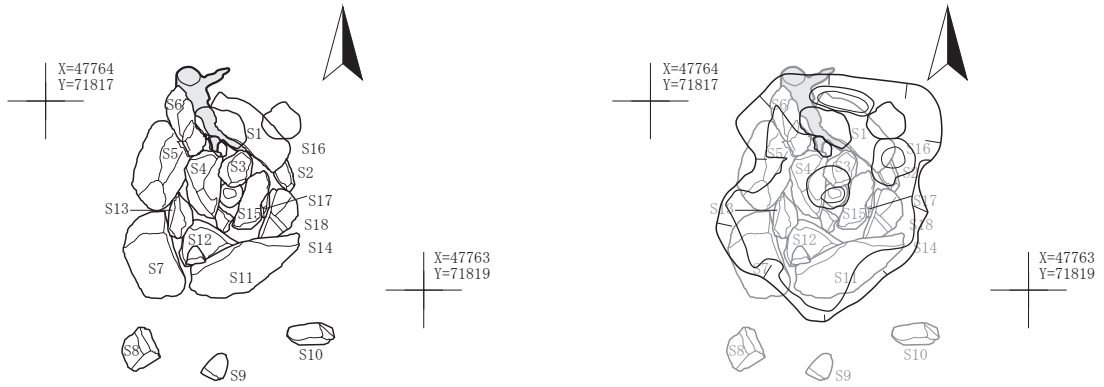


25号集石
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 しまりなくフカフカ

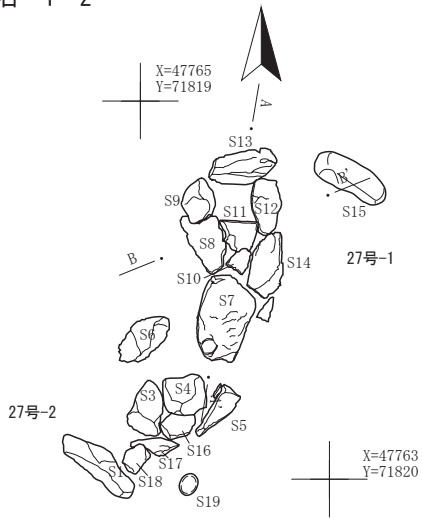


第54図 24・25号集石

26号集石

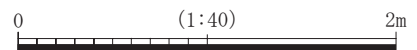
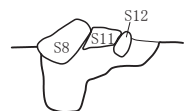


27号集石-1・2



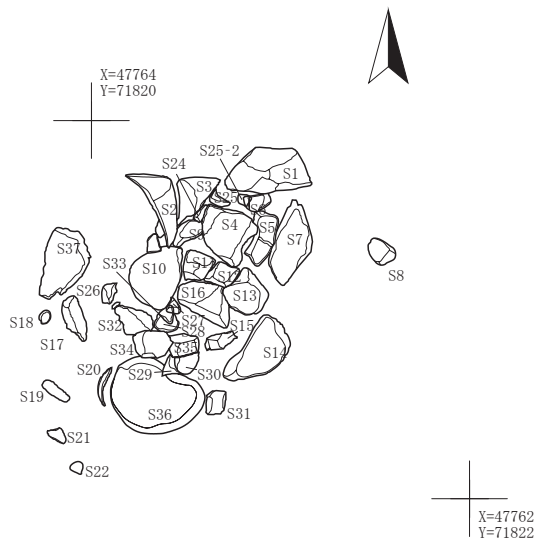
A L=61.000m A'

B L=61.000m B'

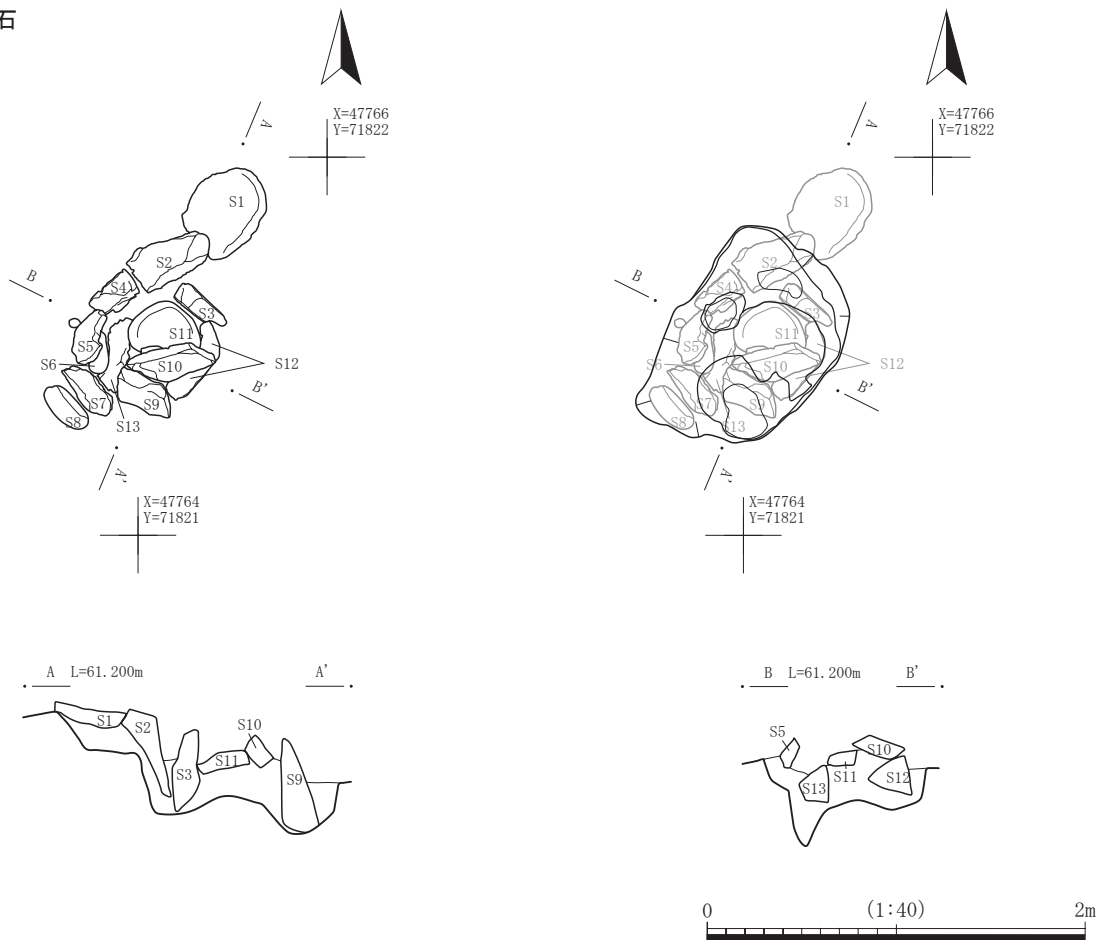


第55図 26・27-1・2号集石

28号集石

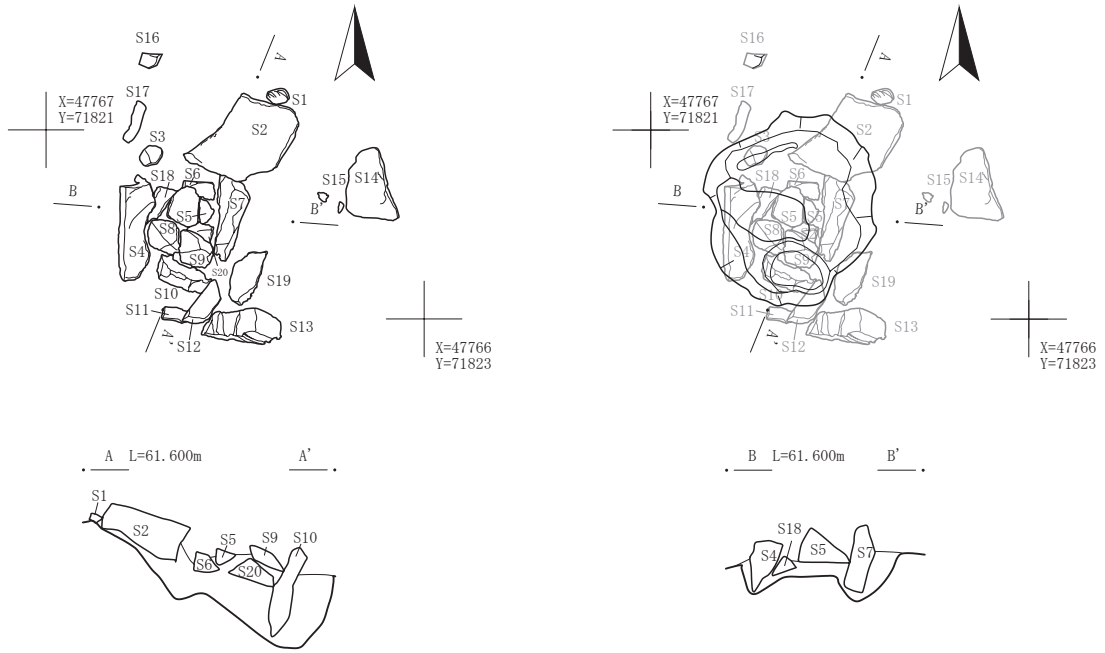


29号集石

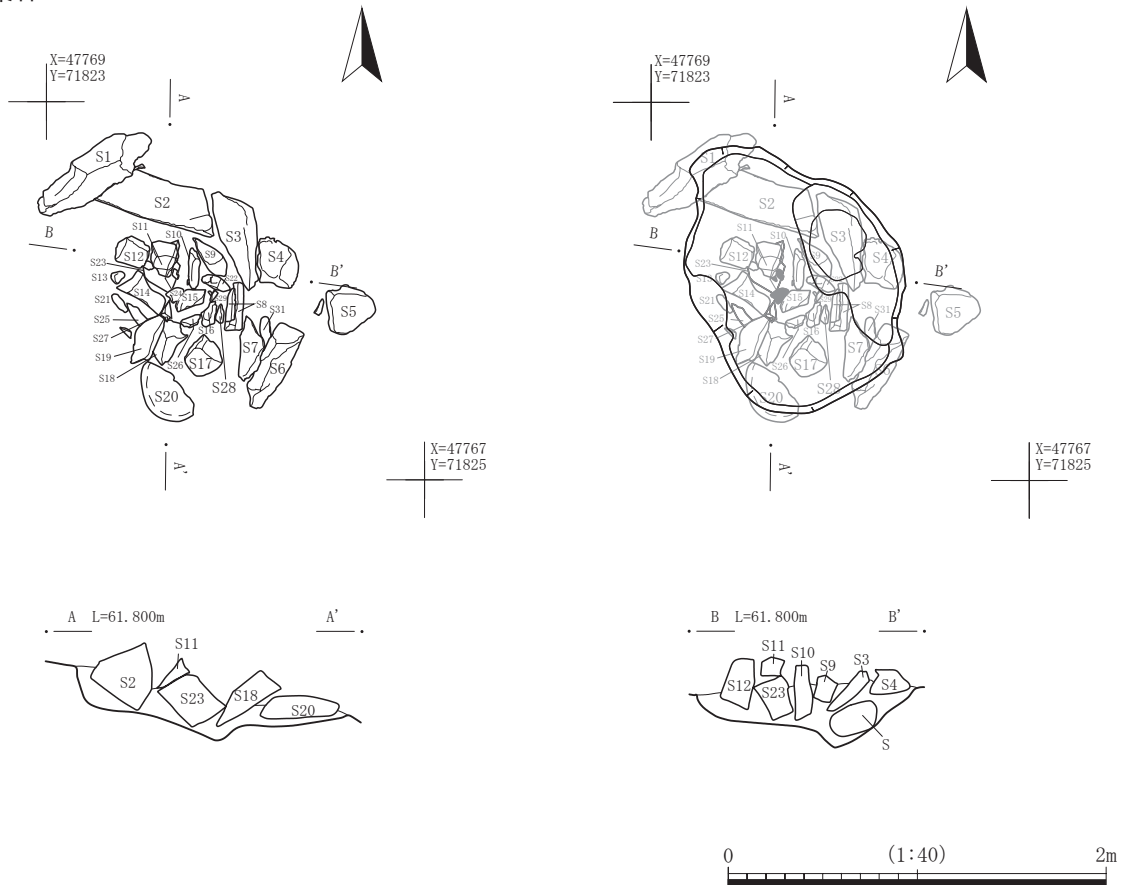


第56图 28・29号集石

30号集石

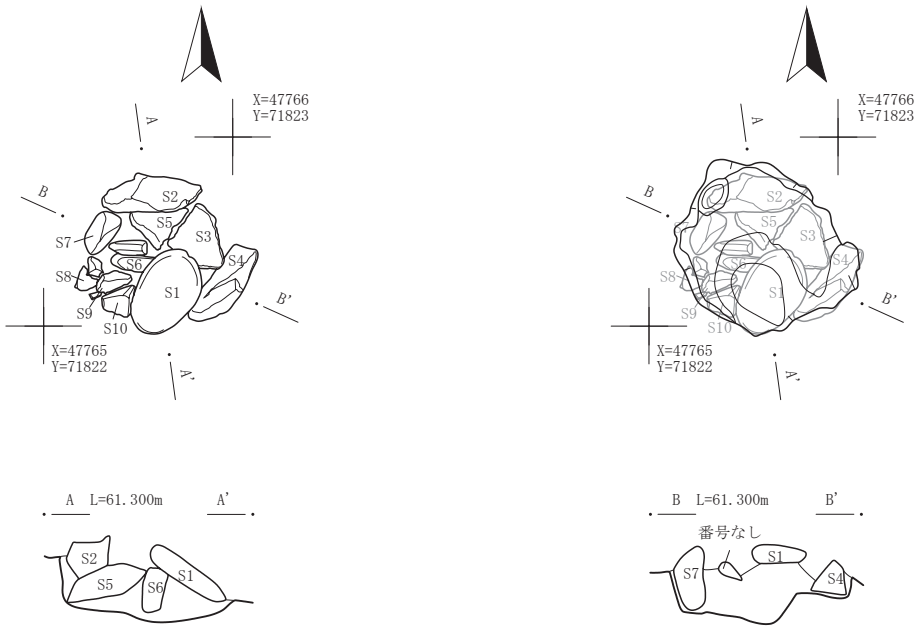


31号集石

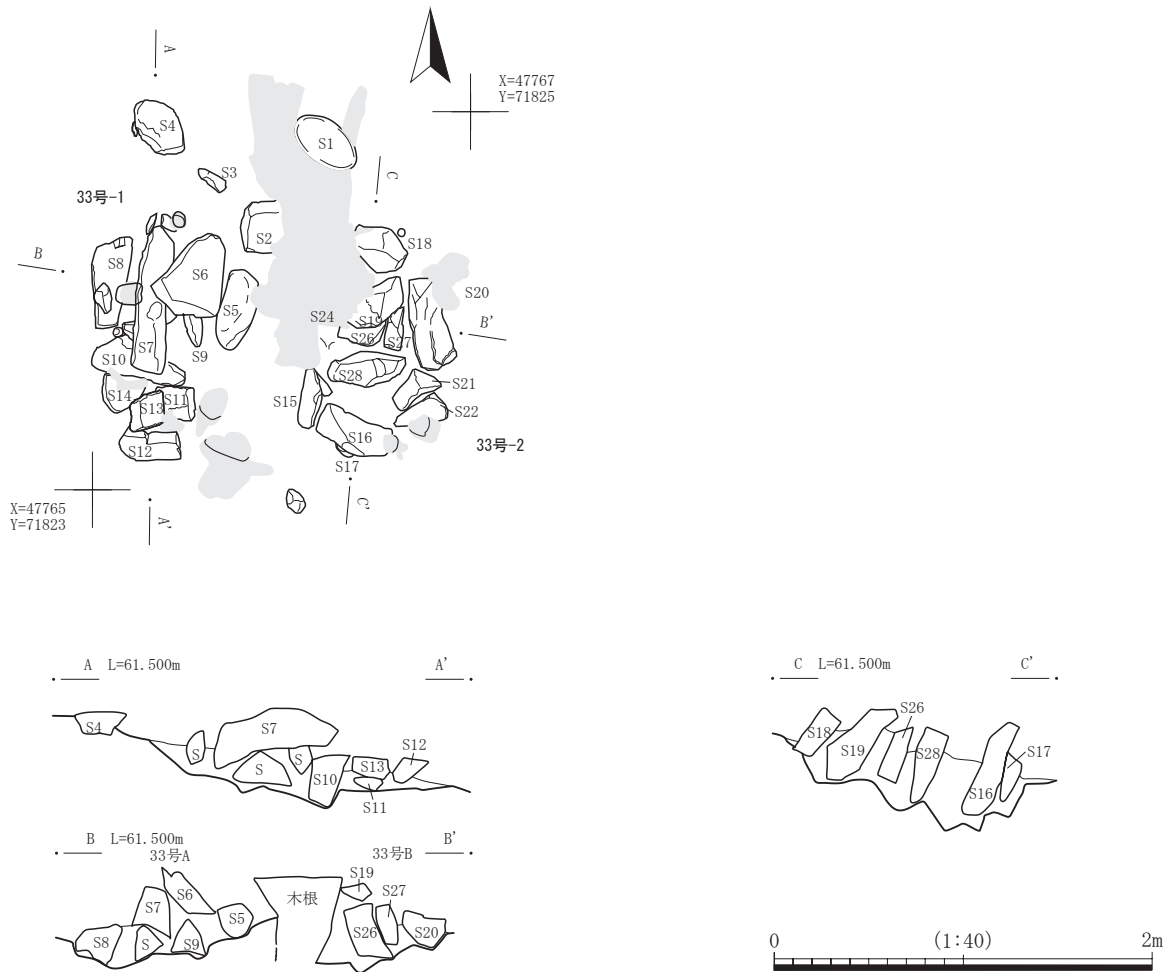


第57図 30・31号集石

32号集石

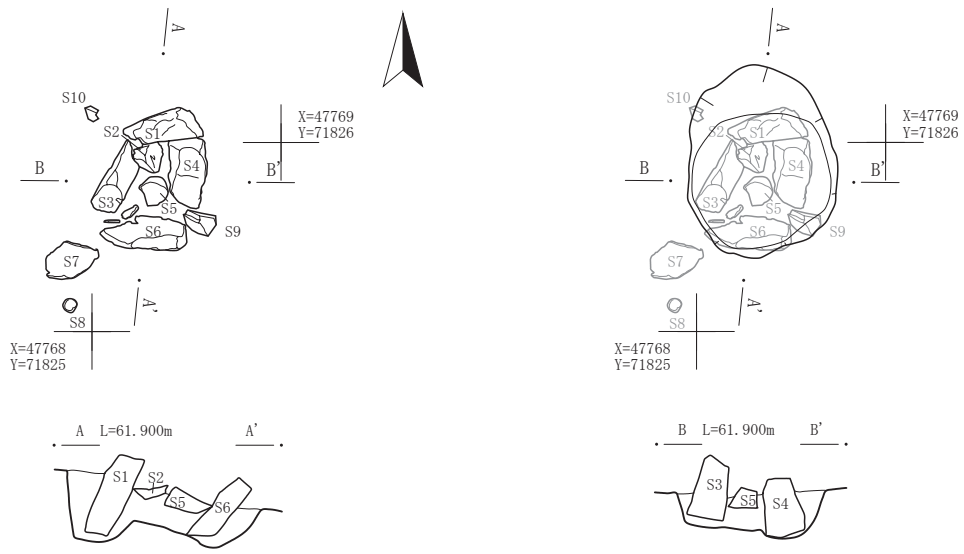


33号集石-1・2

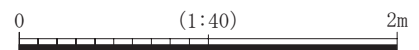
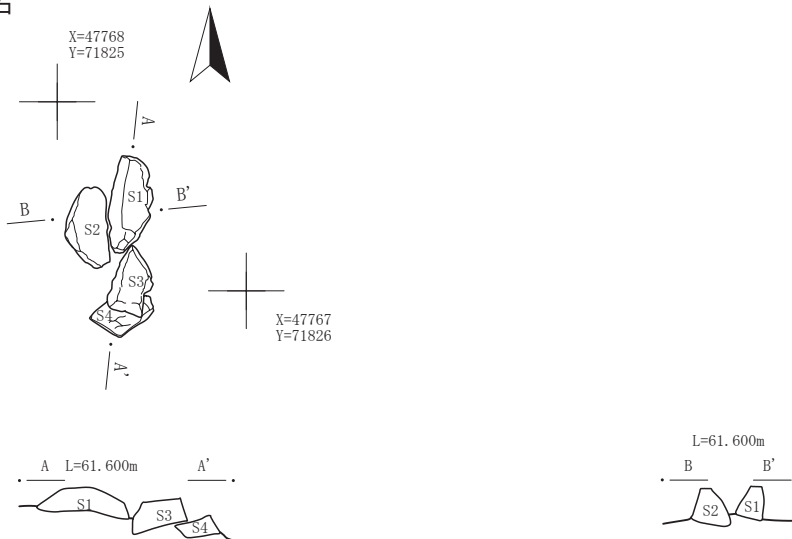


第58図 32・33-1・2号集石

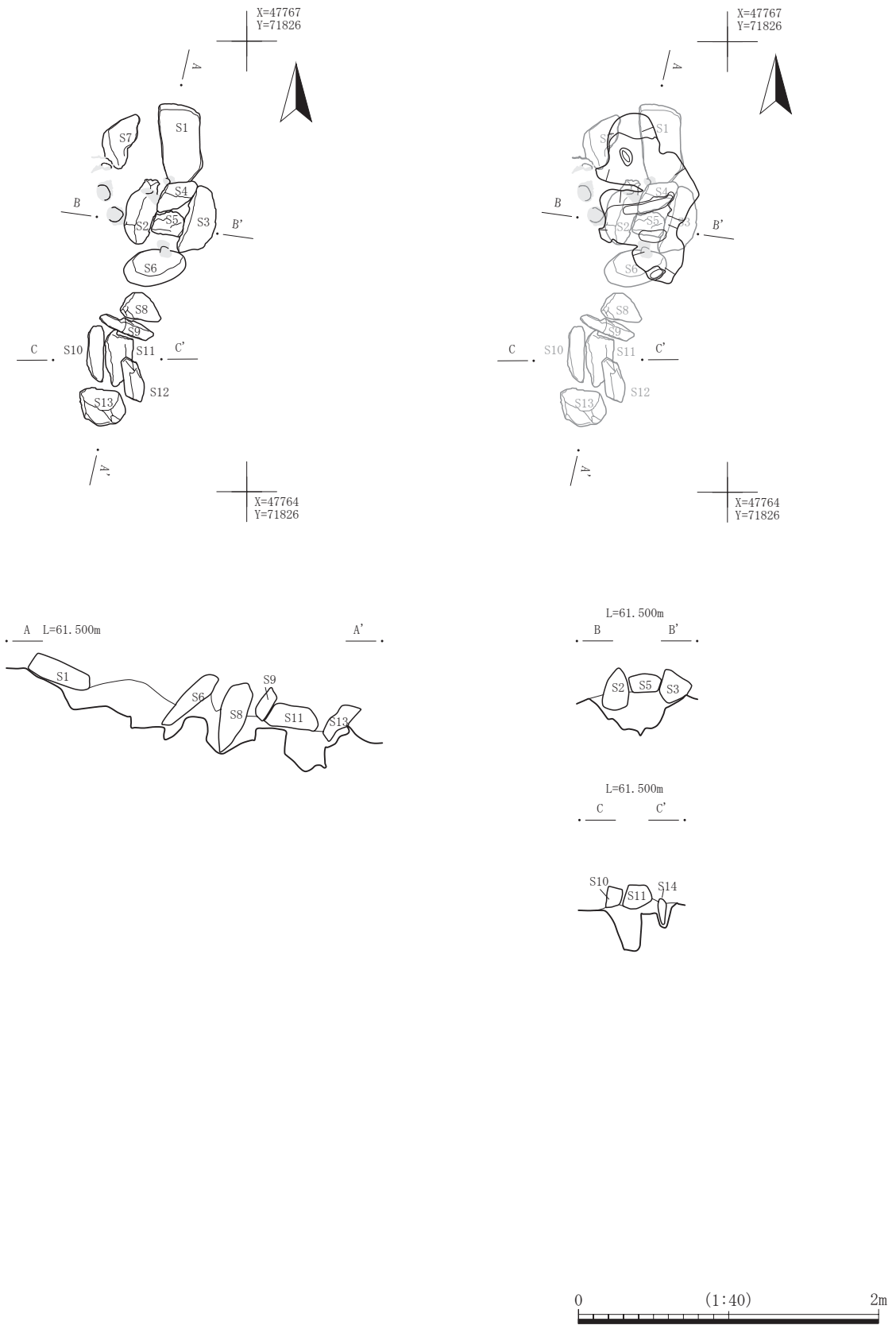
34号集石



35号集石

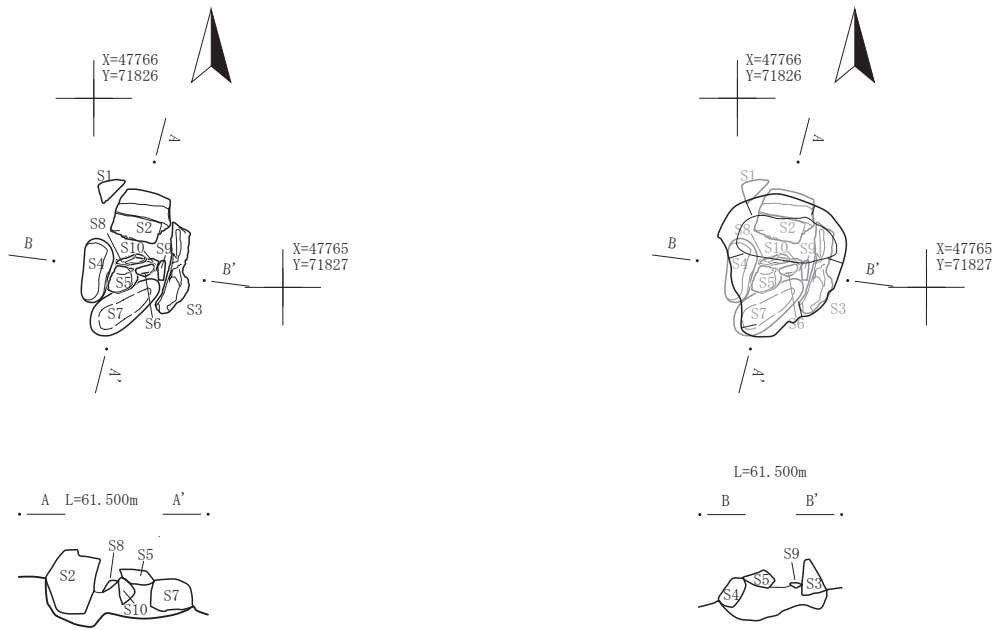


第59図 34・35号集石

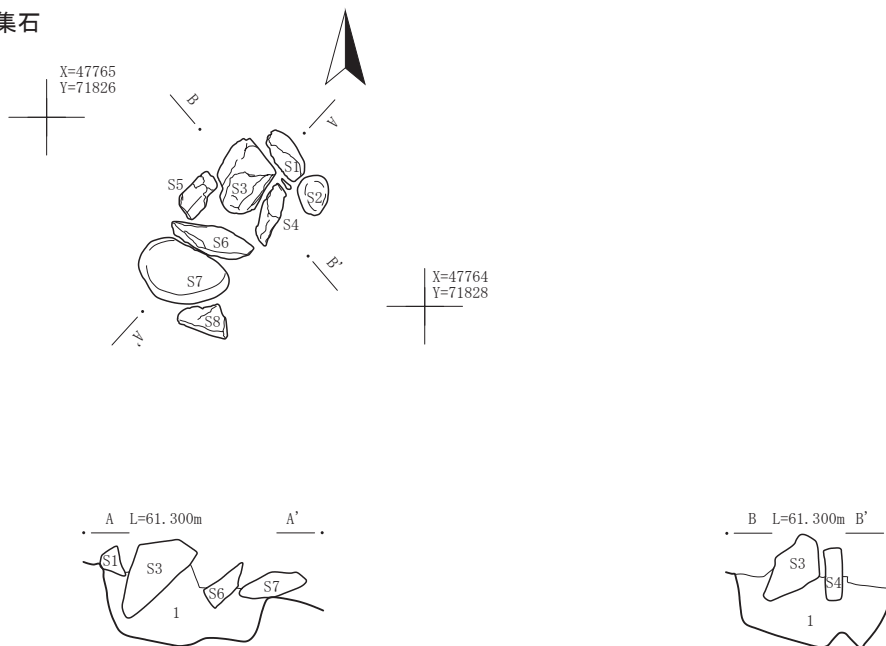


第60图 36-1·2号集石

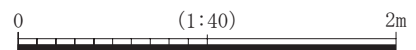
37号集石



38号集石

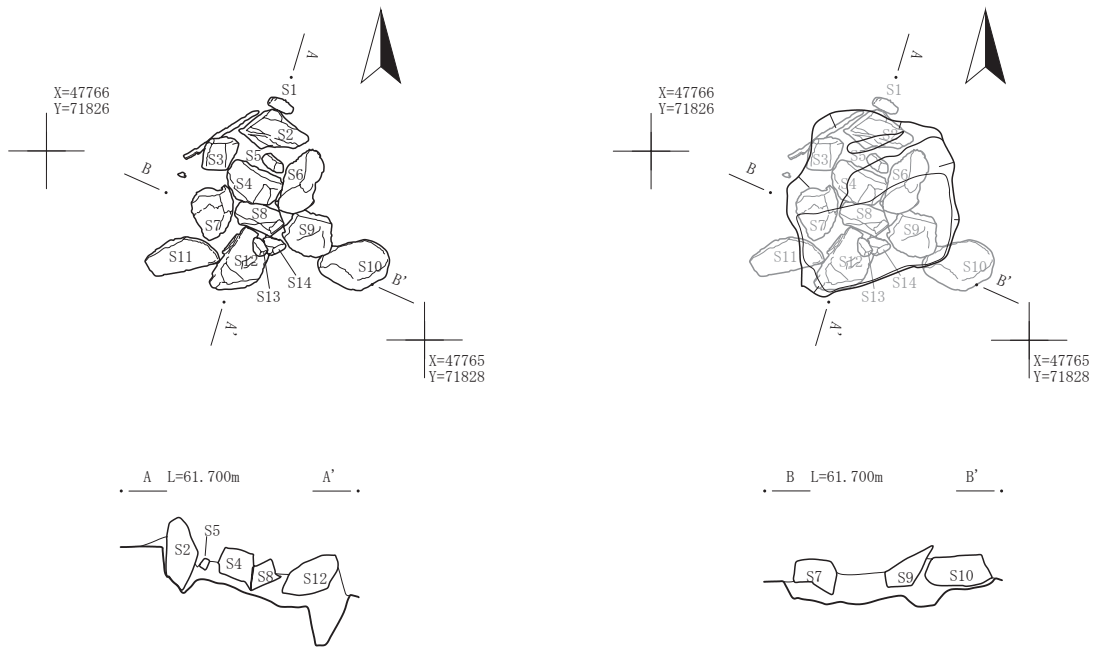


- 38号集石
 1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 フカフカ、かなりやわらかい

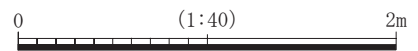
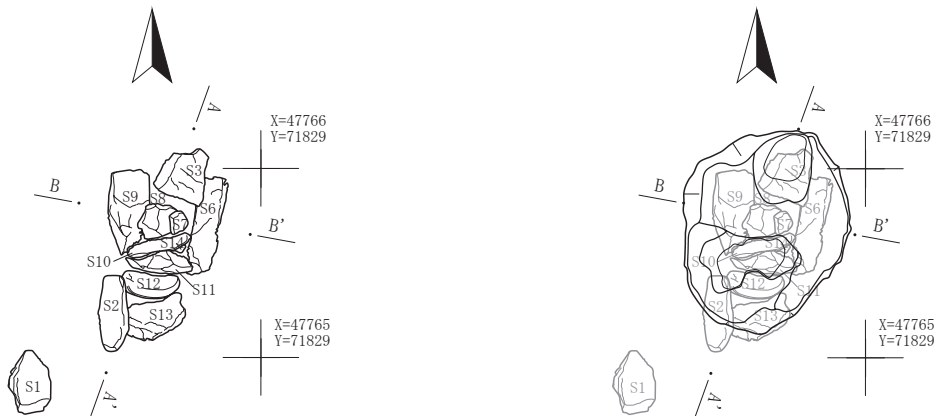


第61図 37・38号集石

39号集石

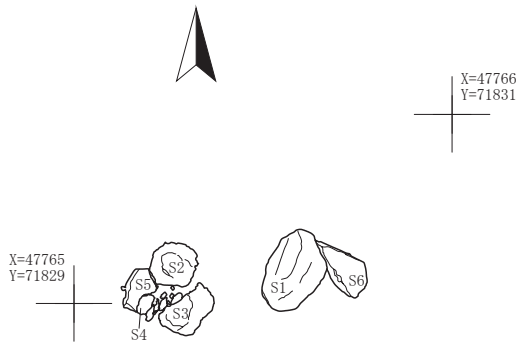


40号集石

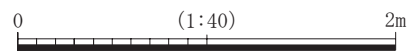
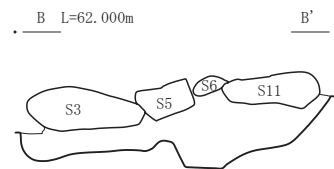
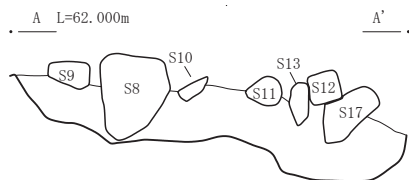
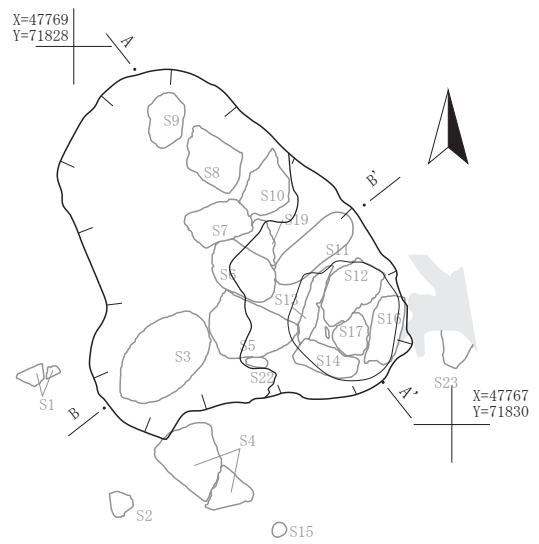
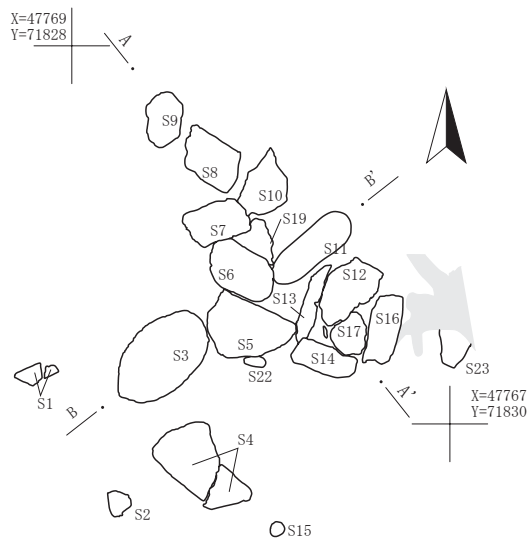


第62图 39・40号集石

41号集石

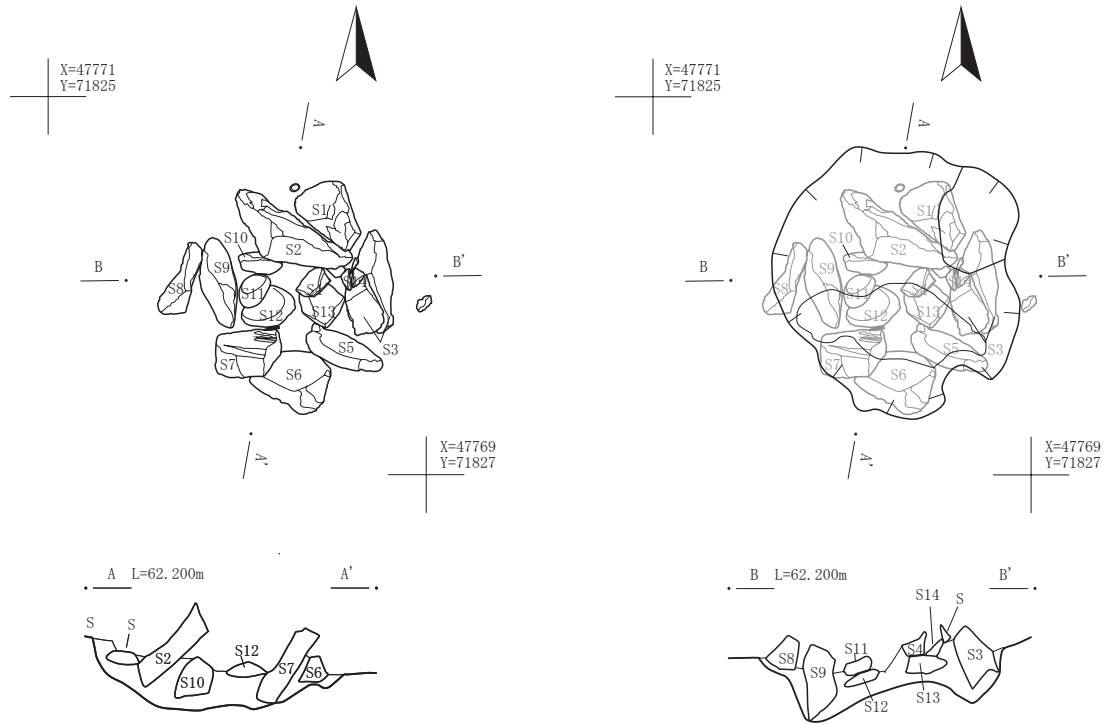


42号集石

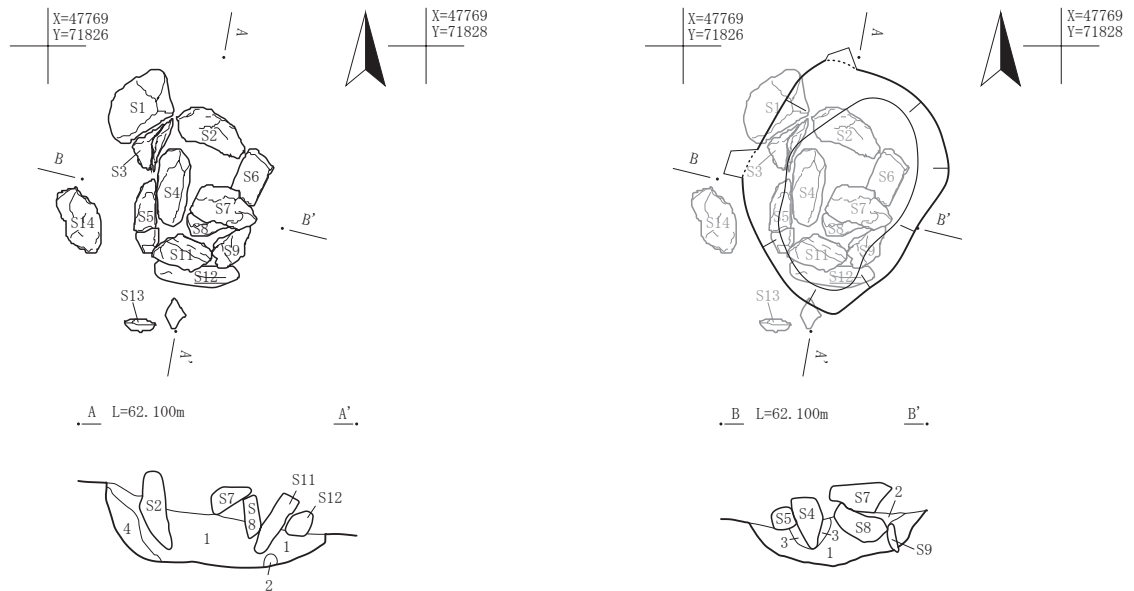


第63図 41・42号集石

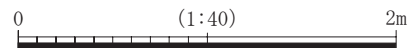
43号集石



44号集石

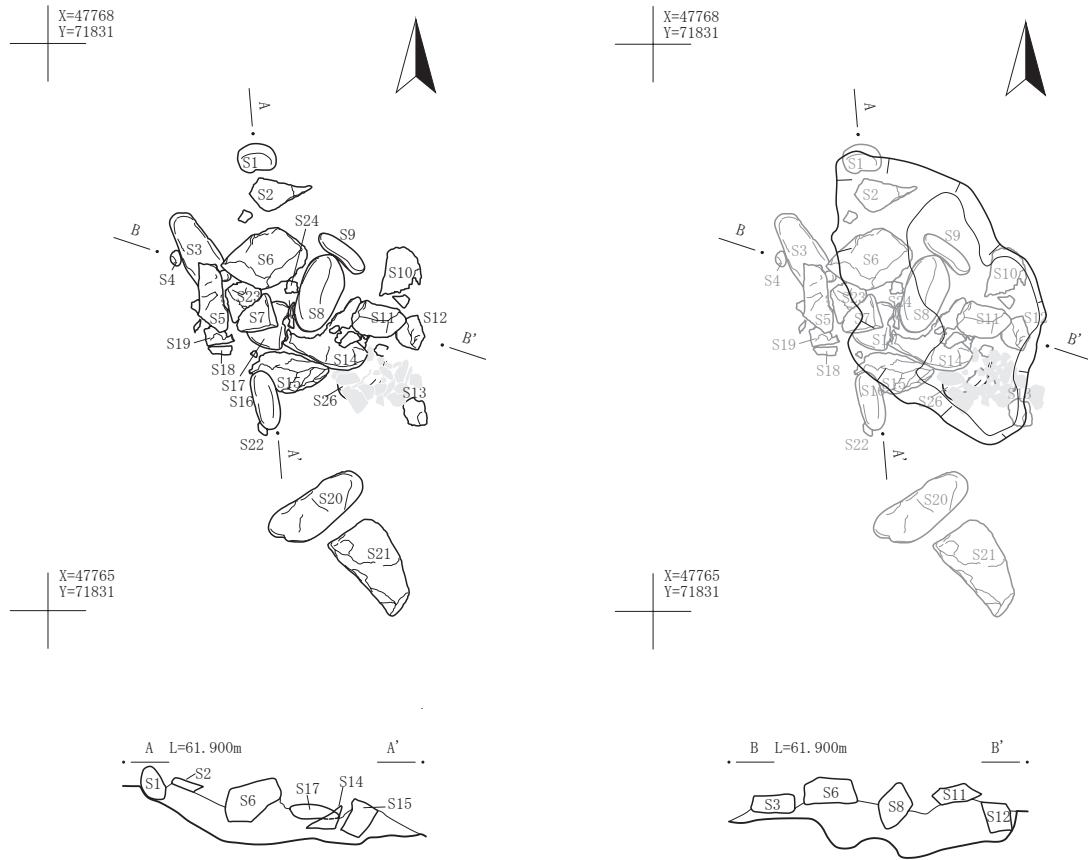


- 44号集石
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|---------------|
| 1. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り | ごくわずかに炭化物粒を含む |
| 2. | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト | しまり有り | 粘性あまりなし | ブロック状 |
| 3. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりなし | 粘性やや有り | S4の掘り方埋土 |
| 4. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り | 地山(Ⅲ層)によく似る |

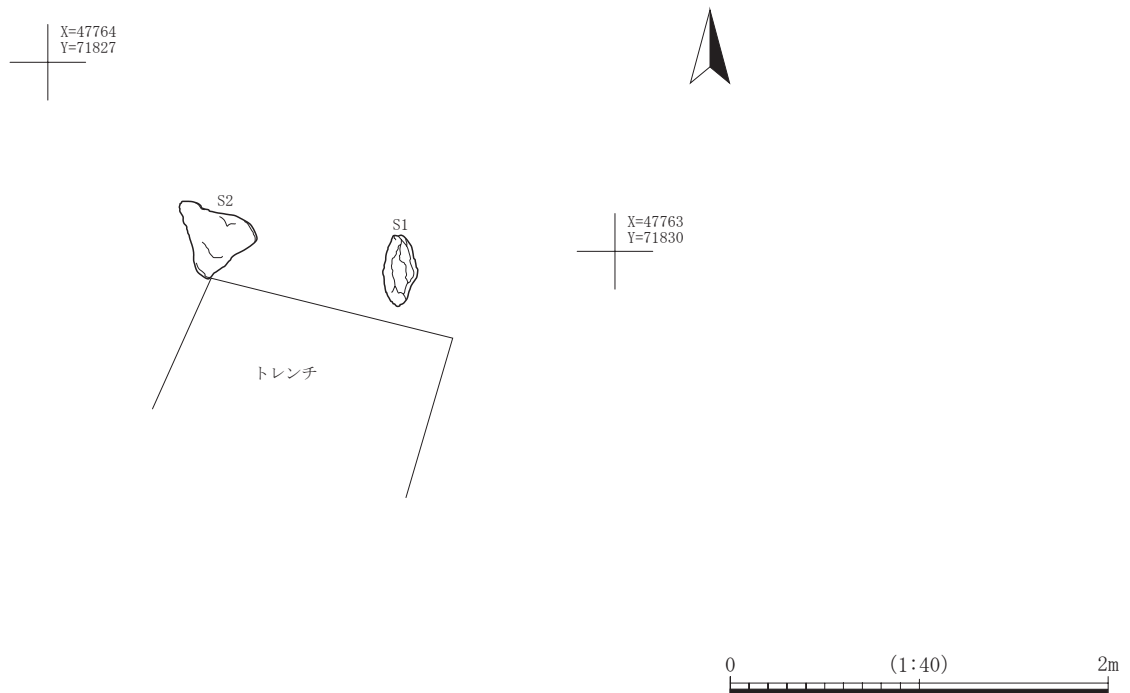


第64図 43・44号集石

45号集石

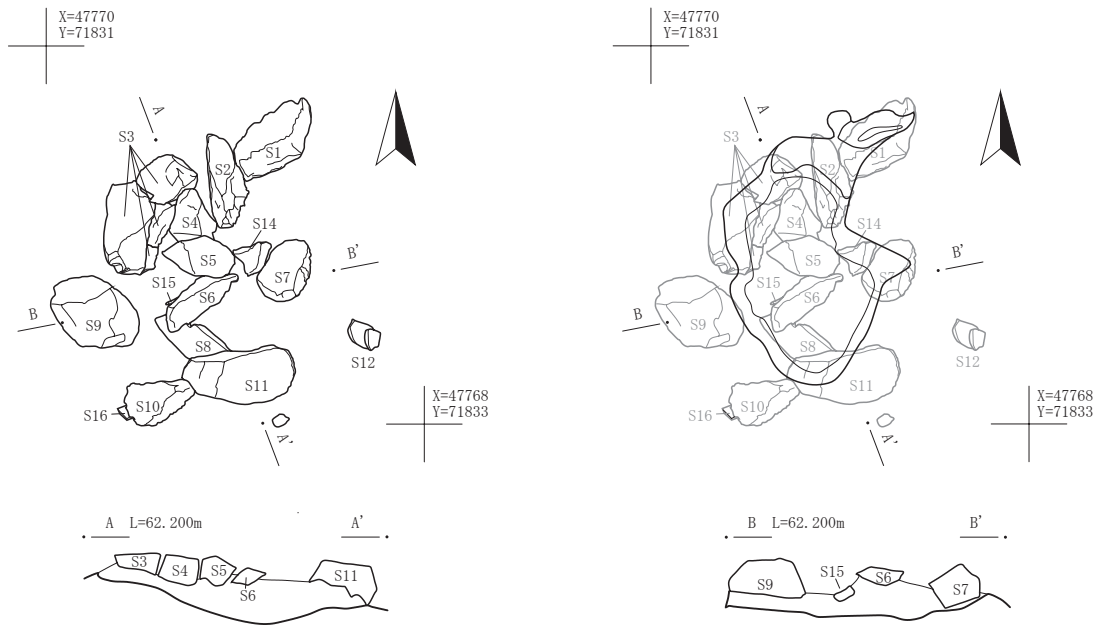


46号集石

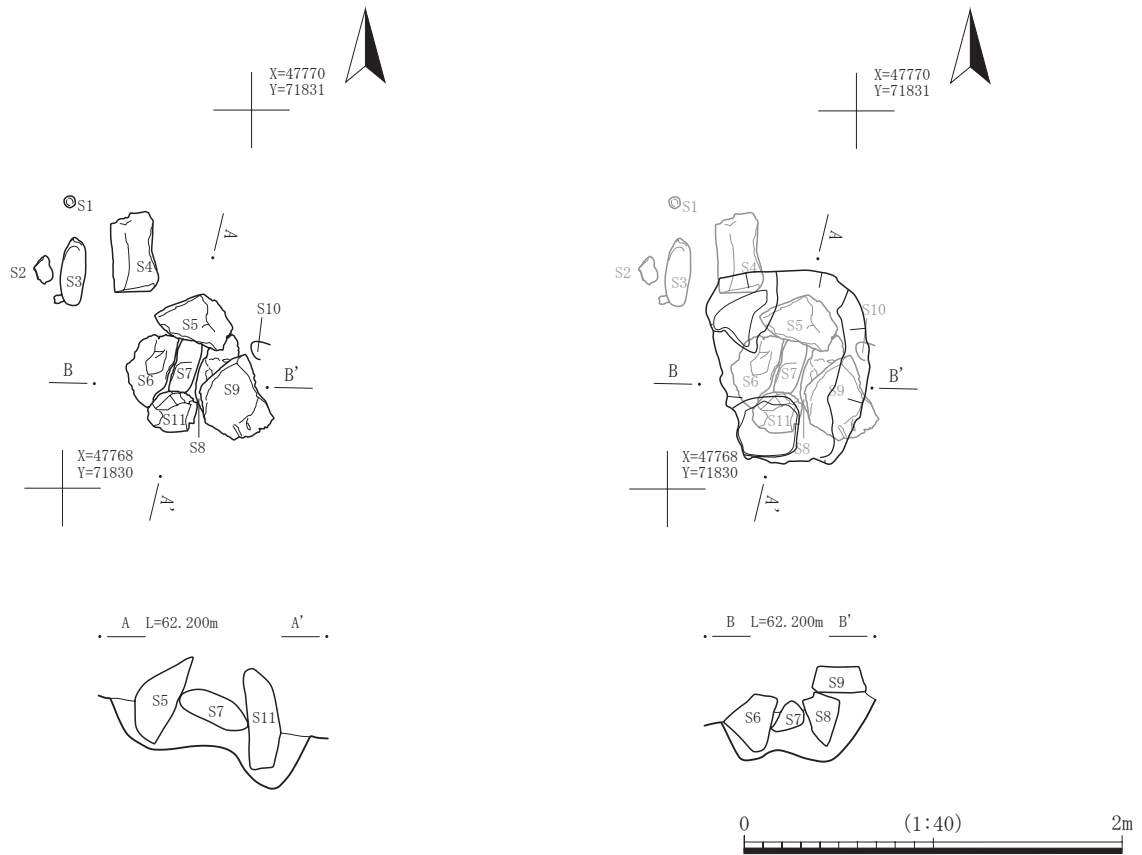


第65図 45・46号集石

47号集石

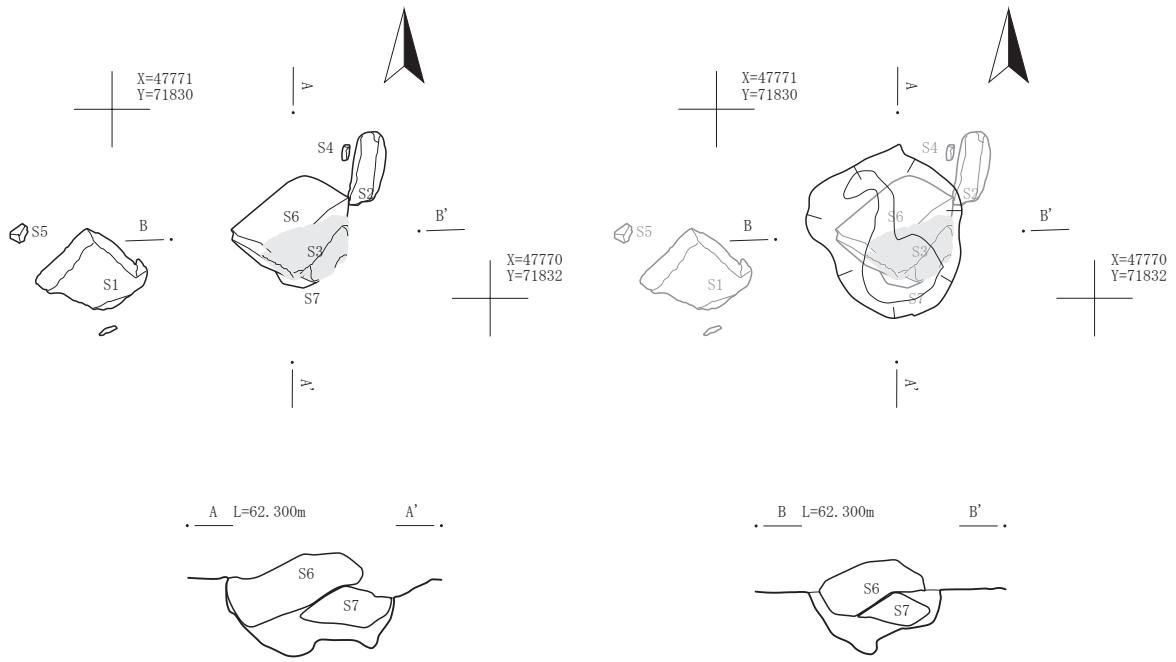


48号集石



第66图 47·48号集石

49号集石

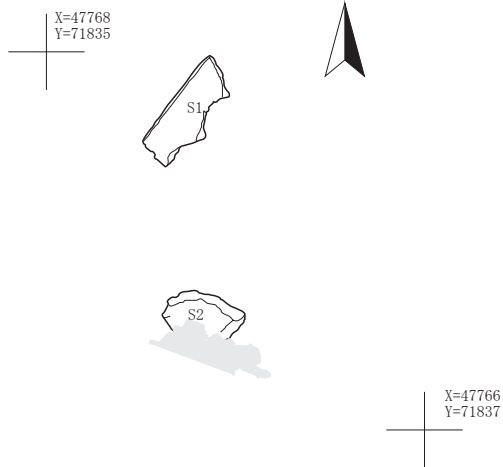


50号集石

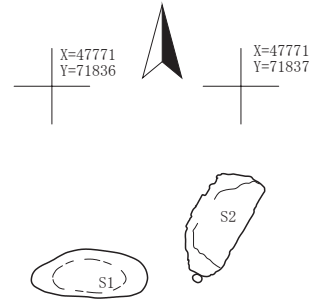


第67図 49・50号集石

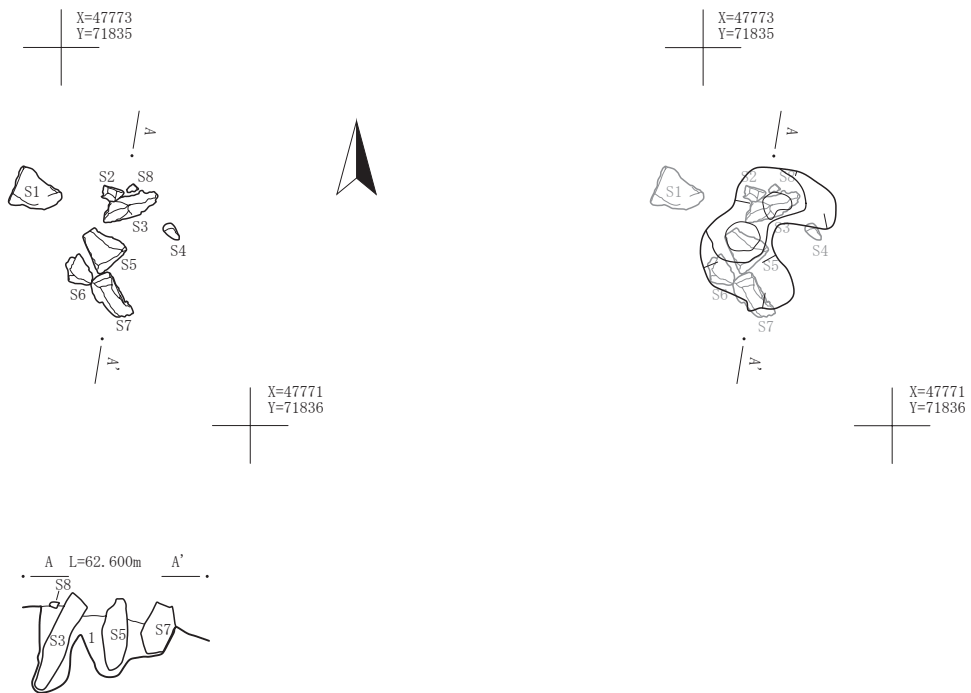
51号集石



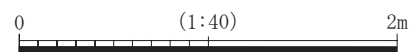
52号集石



53号集石

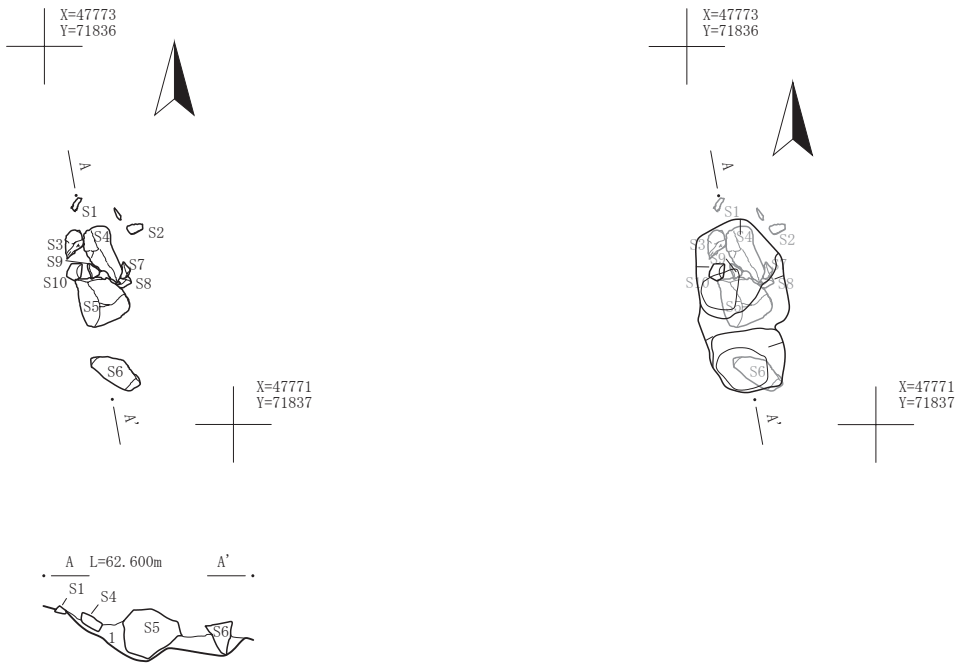


53号集石
 1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り フカフカやわらかい



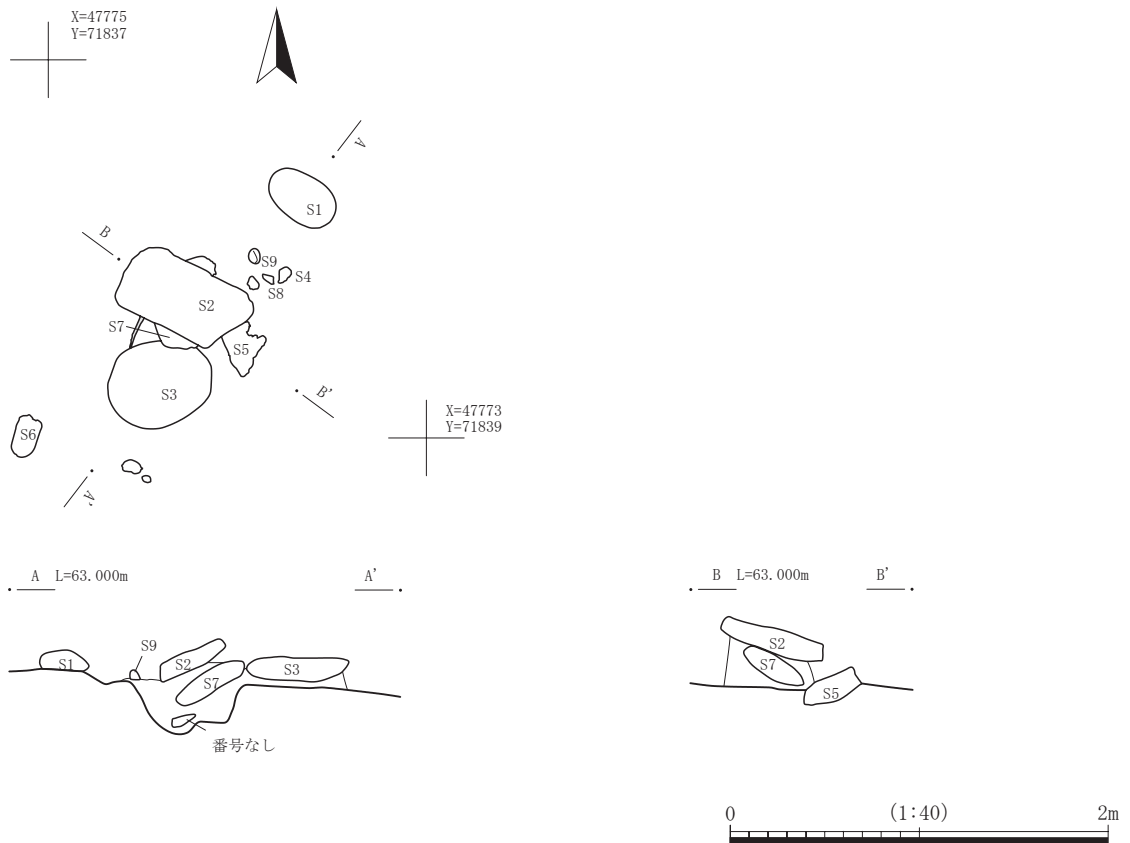
第68図 51～53号集石

54号集石



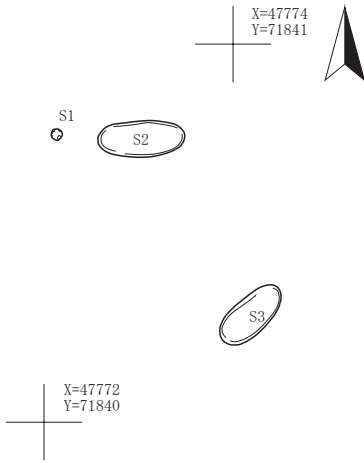
54号集石
 1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 部分的に固い箇所あり

55号集石

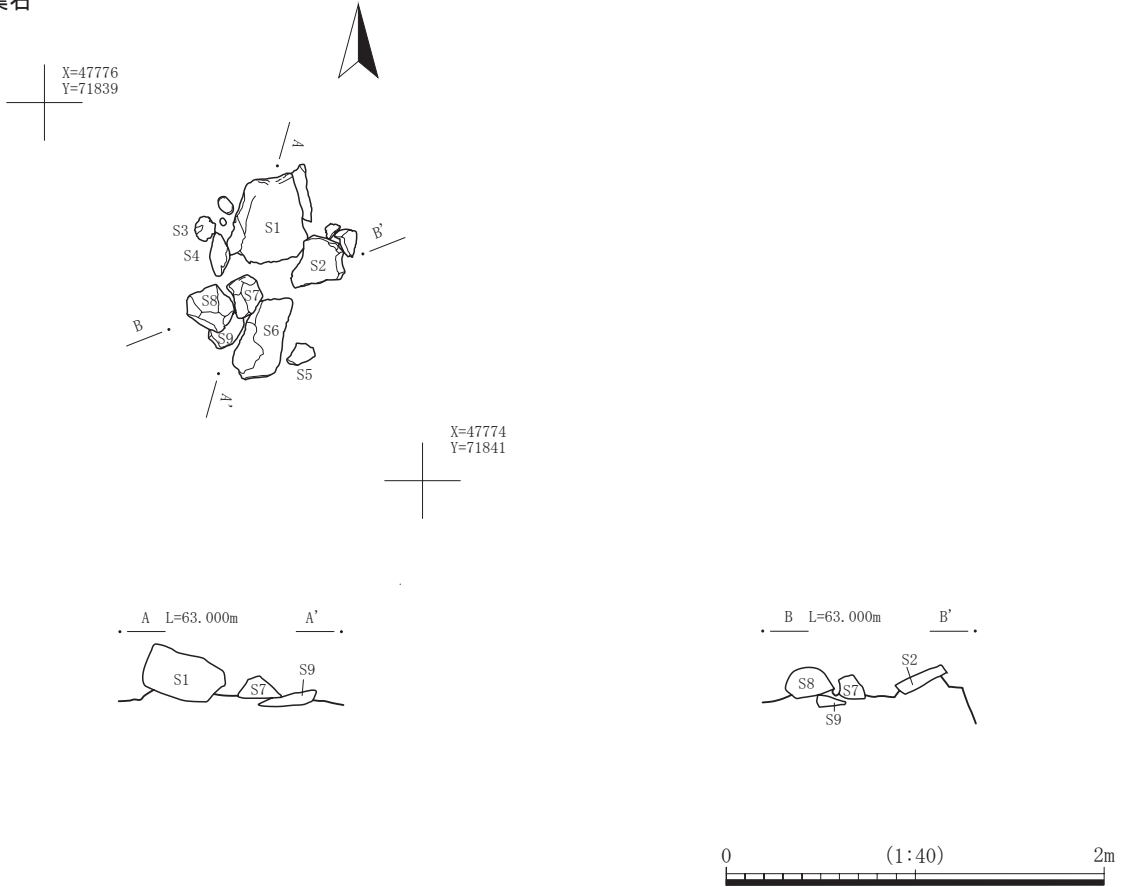


第69図 54・55号集石

56号集石

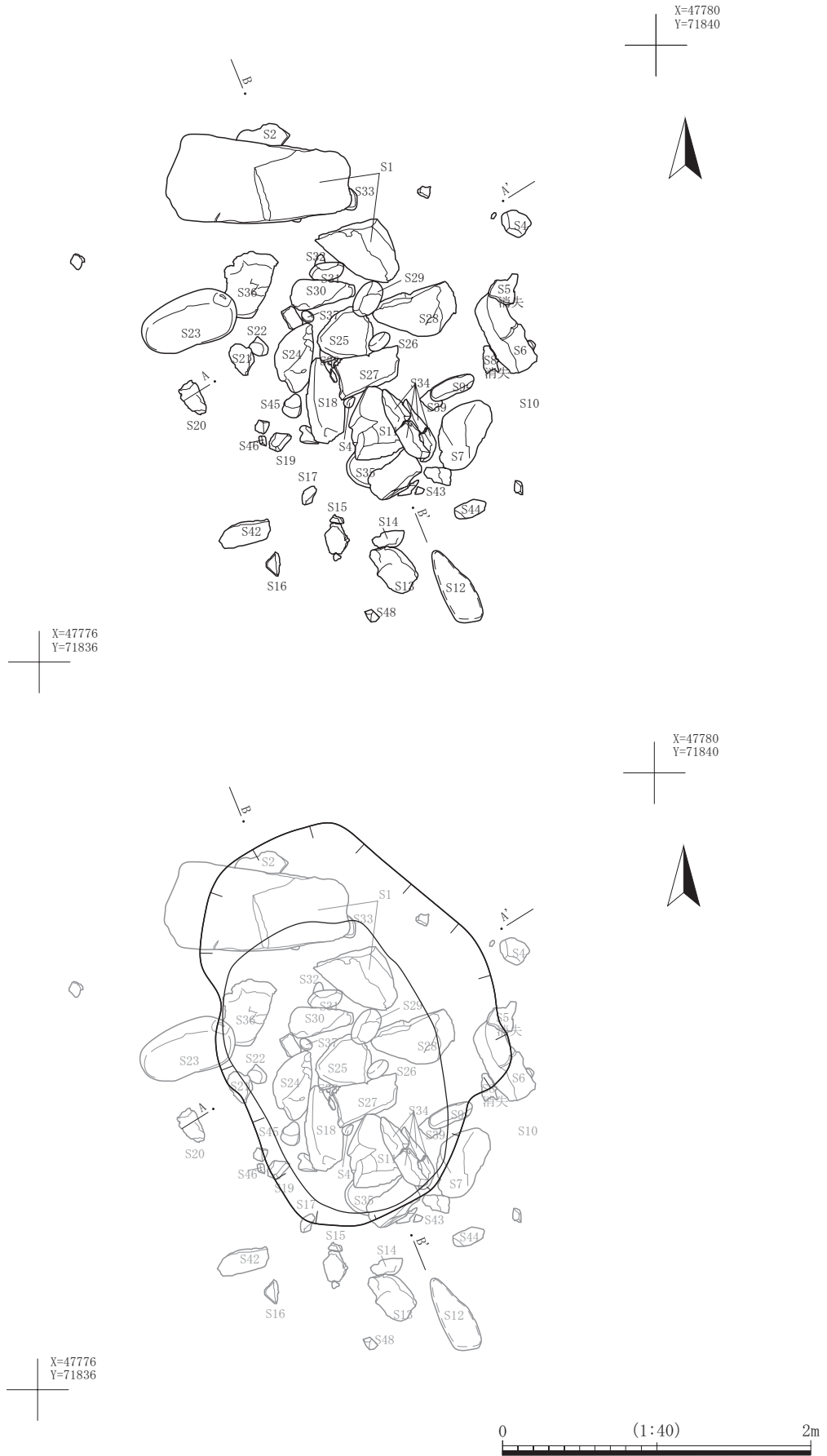


57号集石



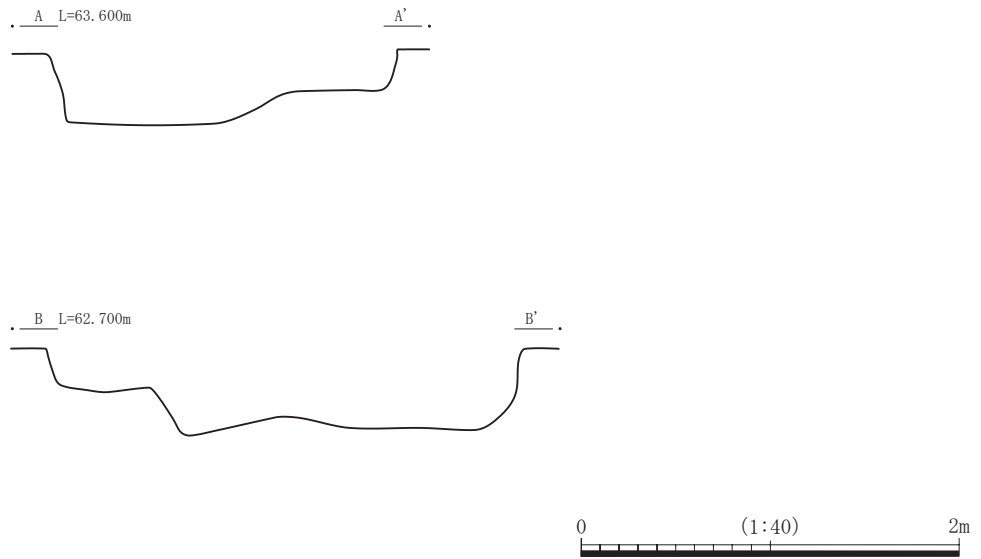
第70图 56・57号集石

58号集石

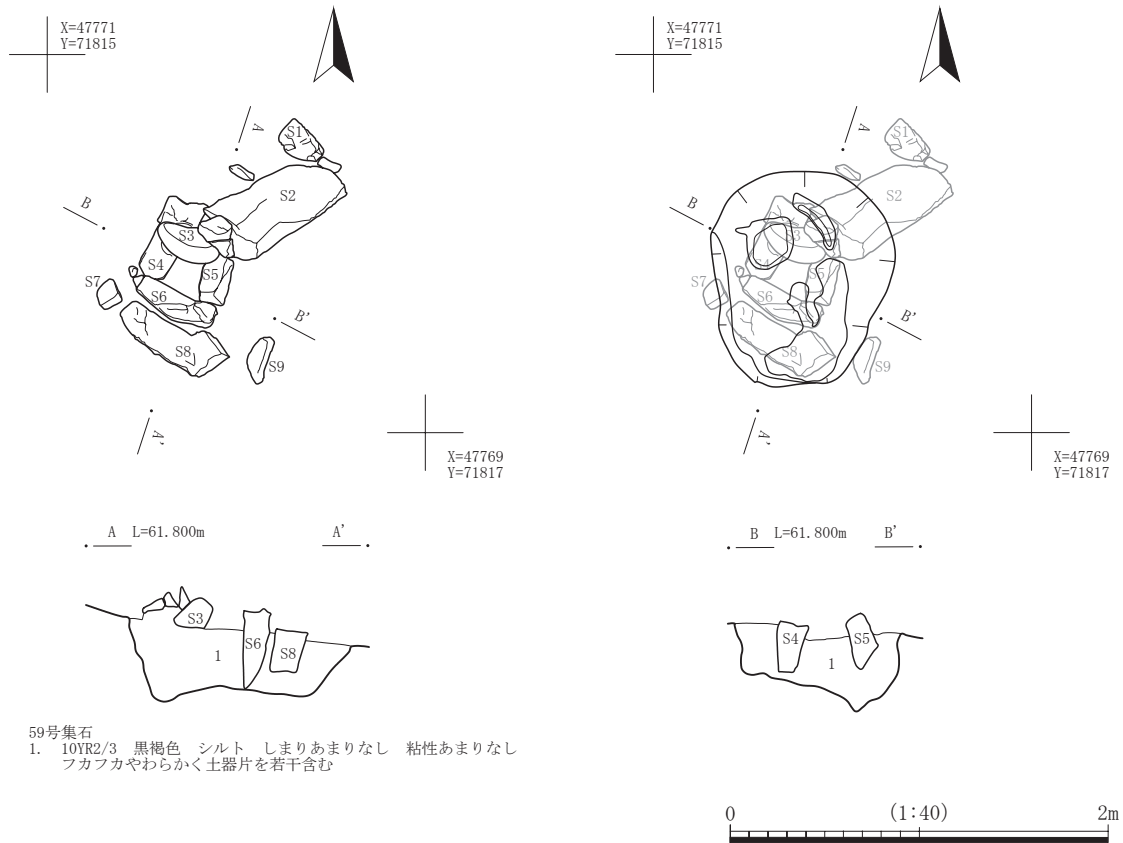


第71図 58号集石(1)

58号集石 A-A'・B-B'断面

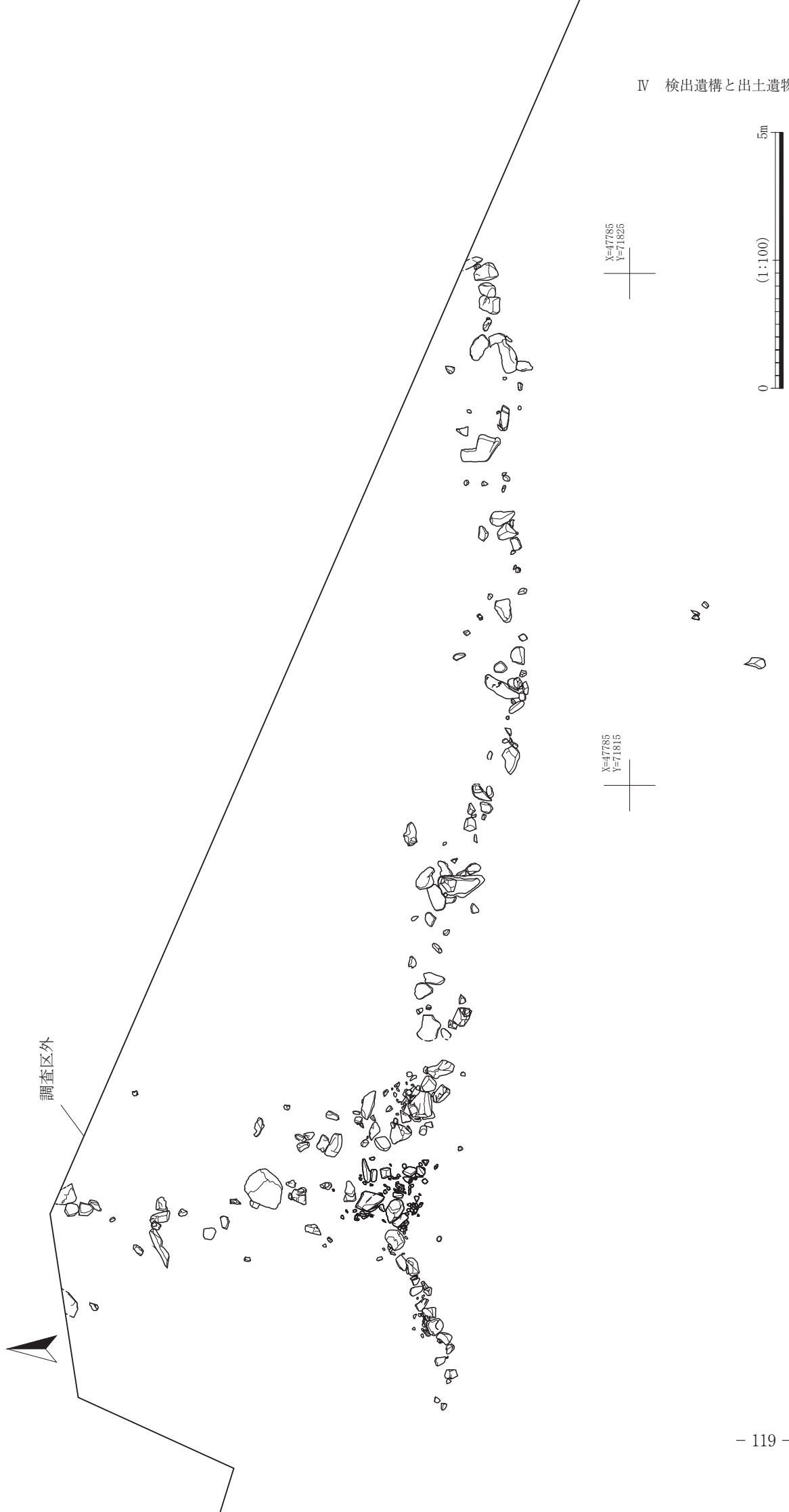


59号集石

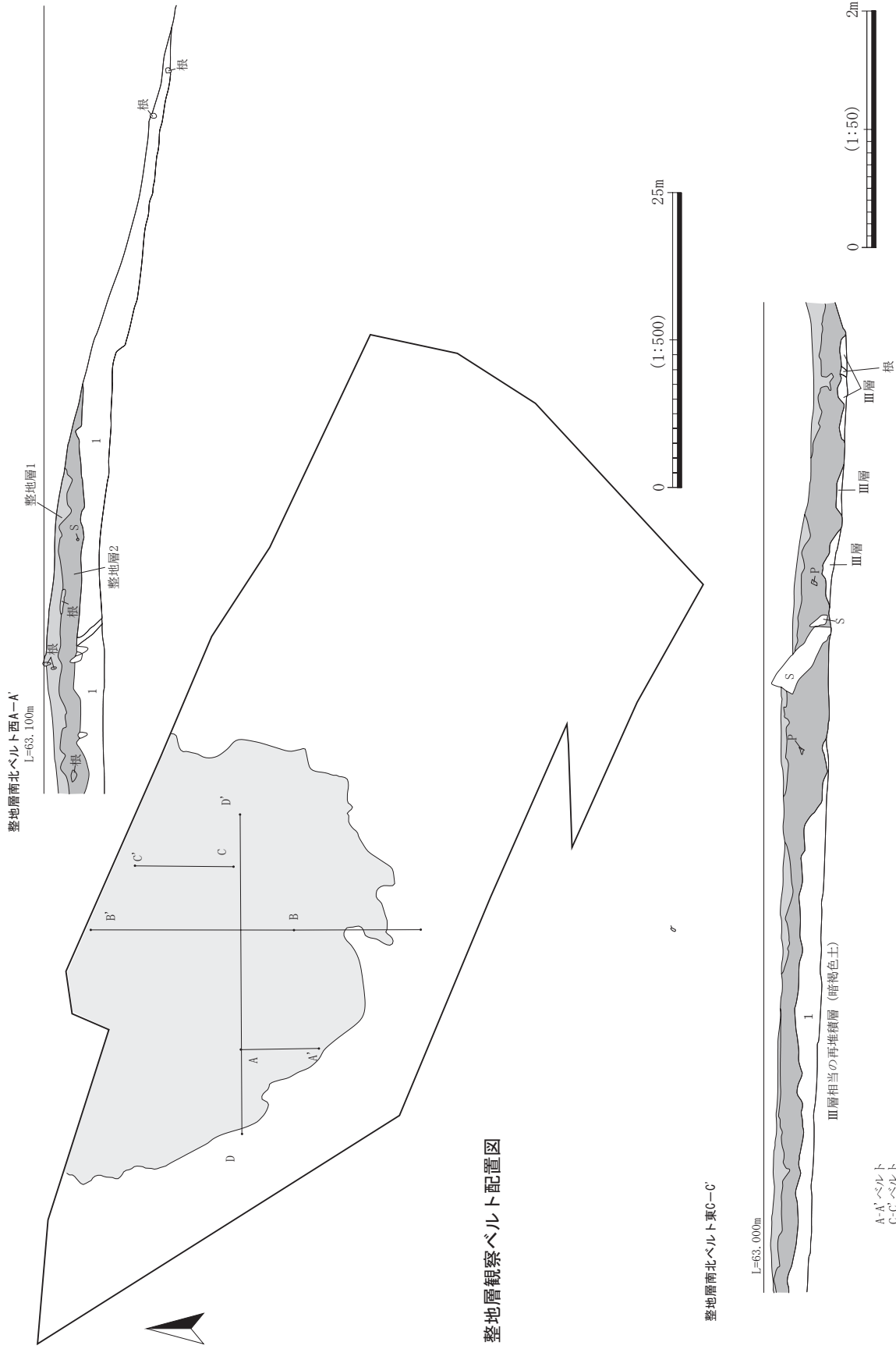


59号集石
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
フカフカやわらかく土器片を若干含む

第72図 58号集石(2)・59号集石



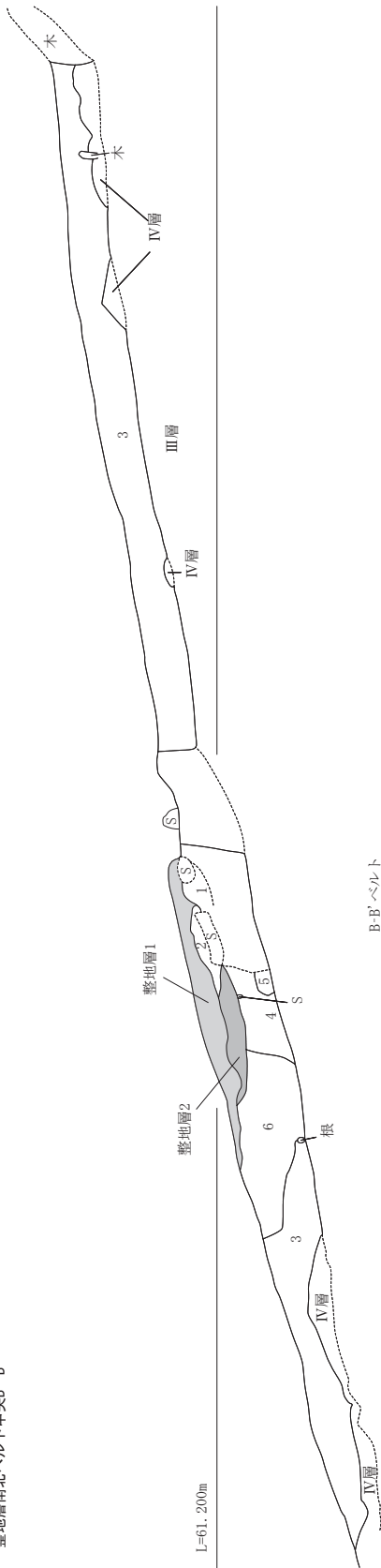
第73図 内帯の石列



整地層観察ベルト配置図

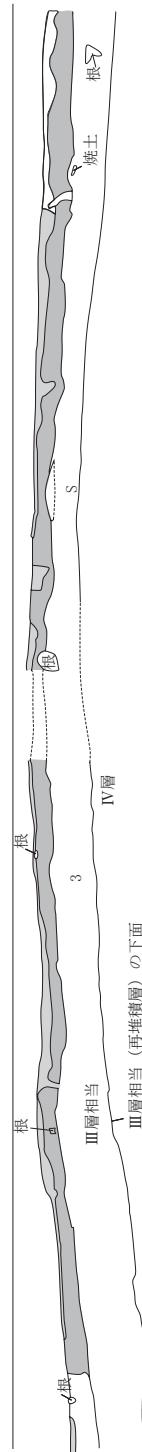
第74図 整地層断面図 A・C

整地层南北ベルト中央B-B'

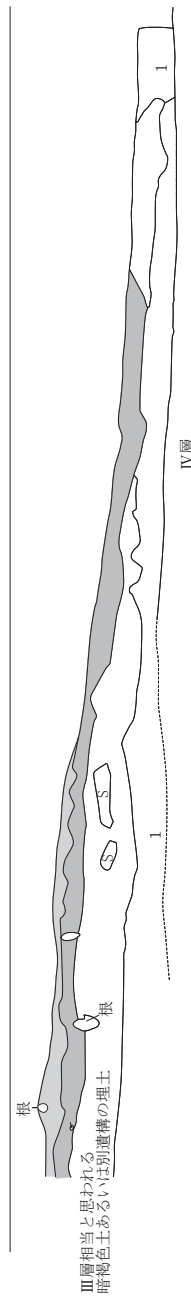


- B-B' ベルト
1. 10VR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 2. 10VR4/3 濃い黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 3. 10VR3/2 黒褐色 シルト これも5号集石の構成層を覆う薄い堆積土で人為堆積
 4. 10VR3/4 暗褐色 シルト 層位的には整地层2になる しまりやや有り 粘性有り
 5. ロームブロック
 6. 新期と思われる炭酸の焼土

L=63.100m



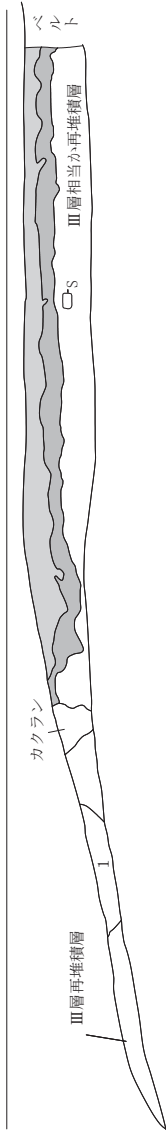
L=63.100m



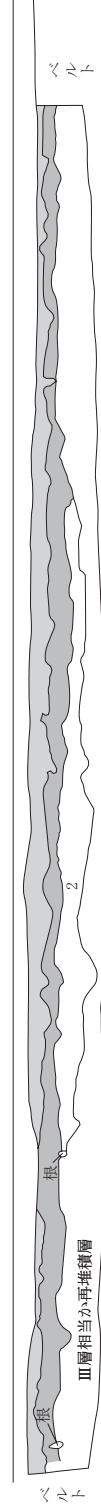
第75図 整地层断面図B

整地層東西ベルトD-D'

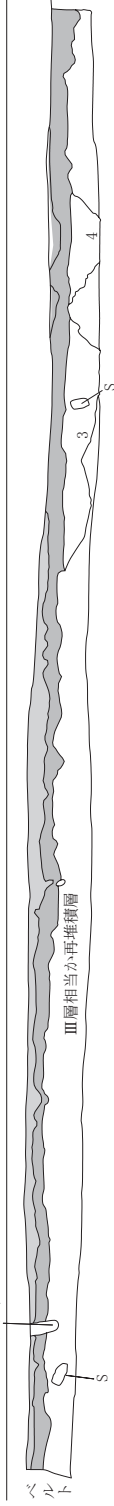
L=63.100m



L=63.100m



L=63.100m



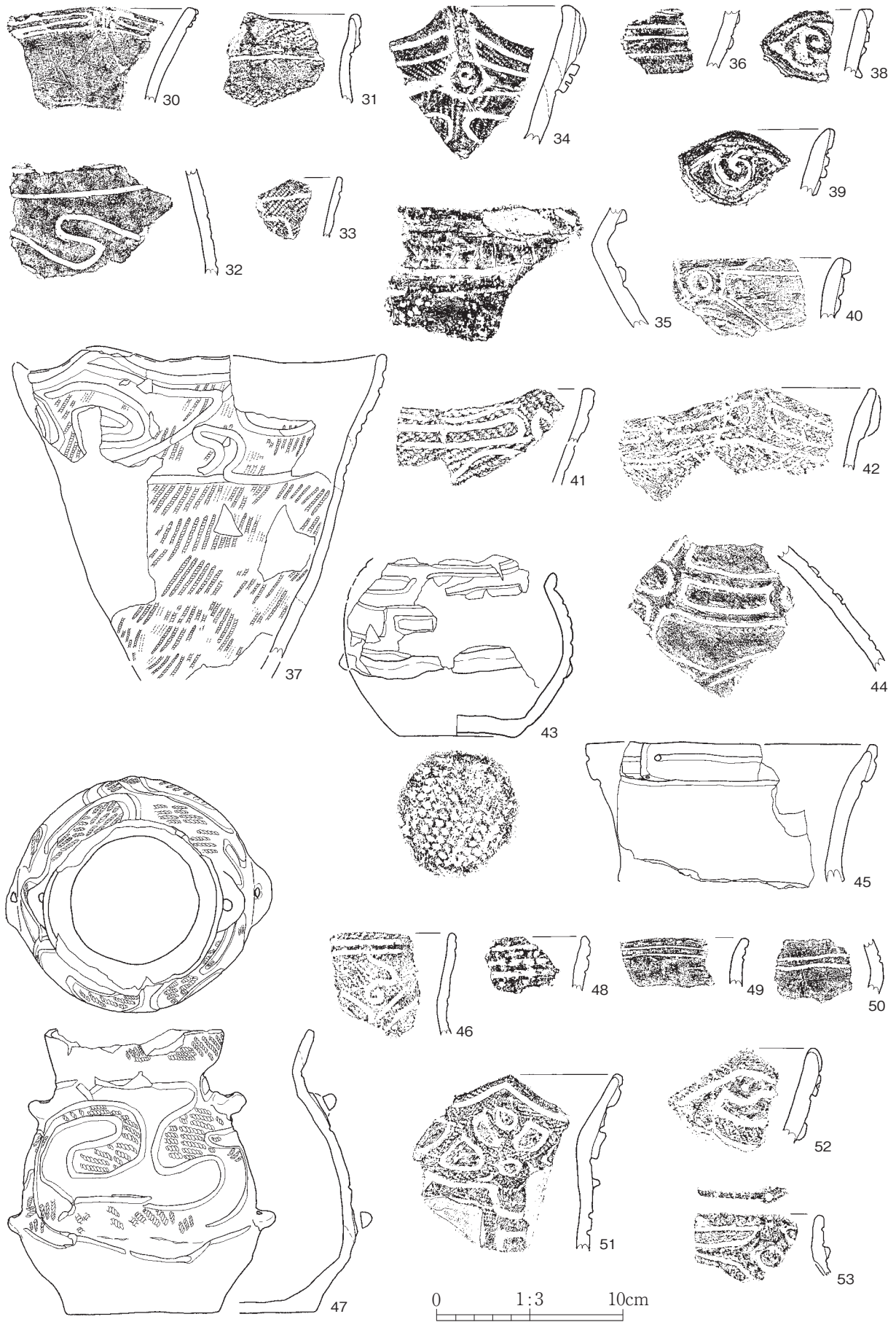
- D-D' ベルト
1. 10YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
 - 検出面は整地層2より下の土坑埋土か；III層面に凹形アランが確認できる
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 - 整地層2よりも黒味が抜け、黄褐色土の小ブロックを全体に含む
 - 基本層序 III層を掘りこむが不明瞭
 3. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 - φ5mm程度の浮石粒を全体に含む
 4. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 - 3層より若干明るい色調、浮石粒混入多い



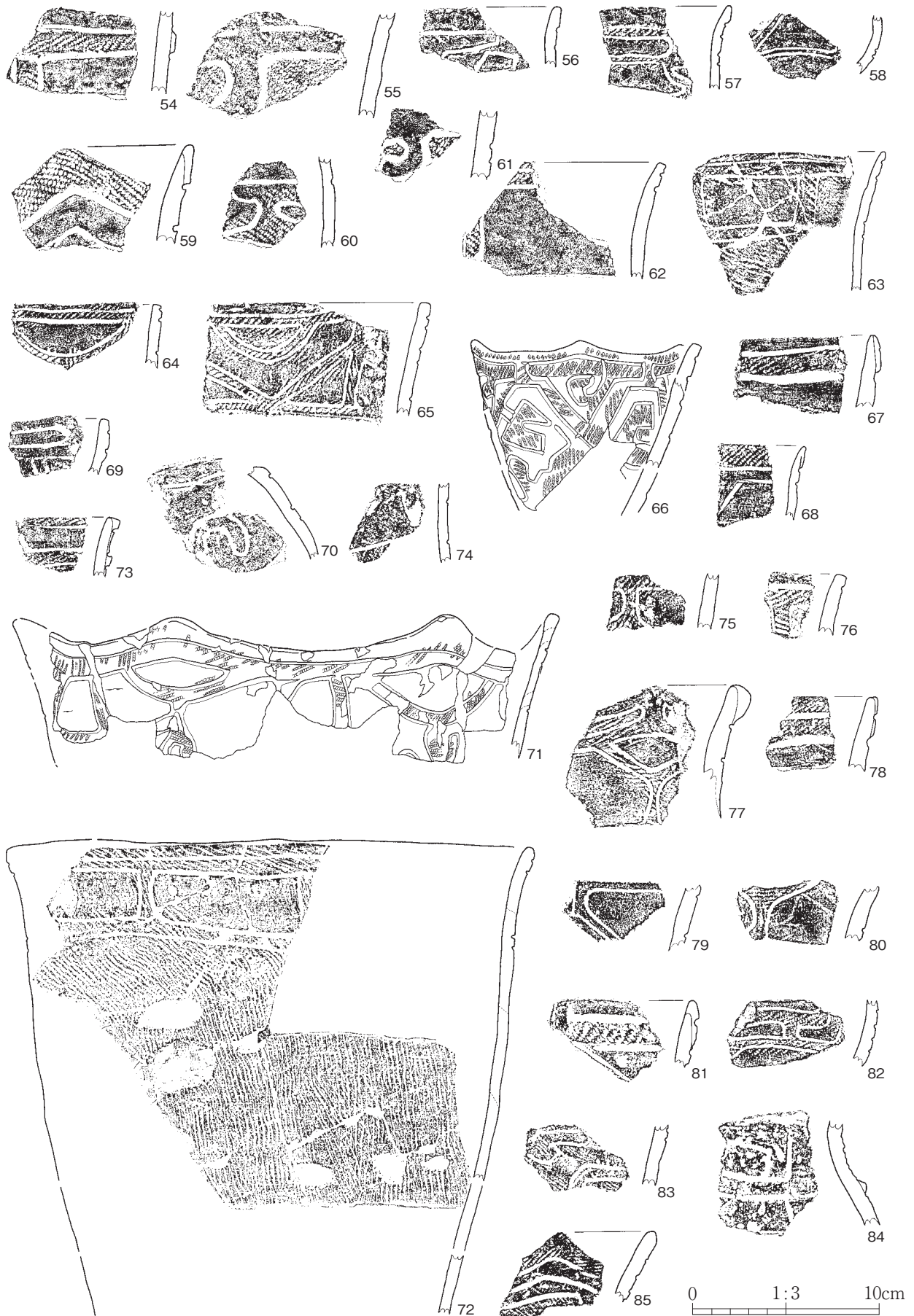
第76図 整地層断面図D



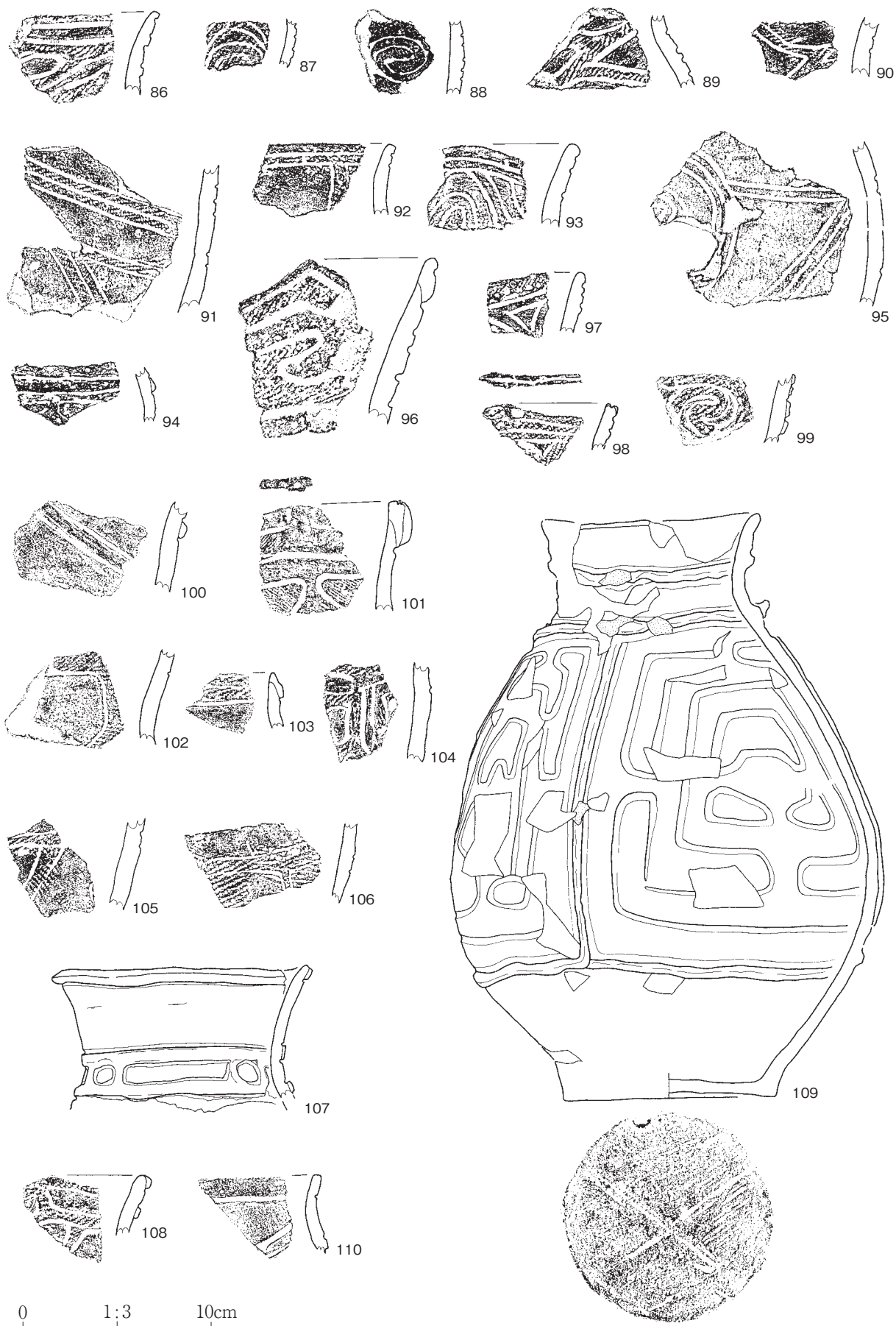
第77図 出土遺物(1)



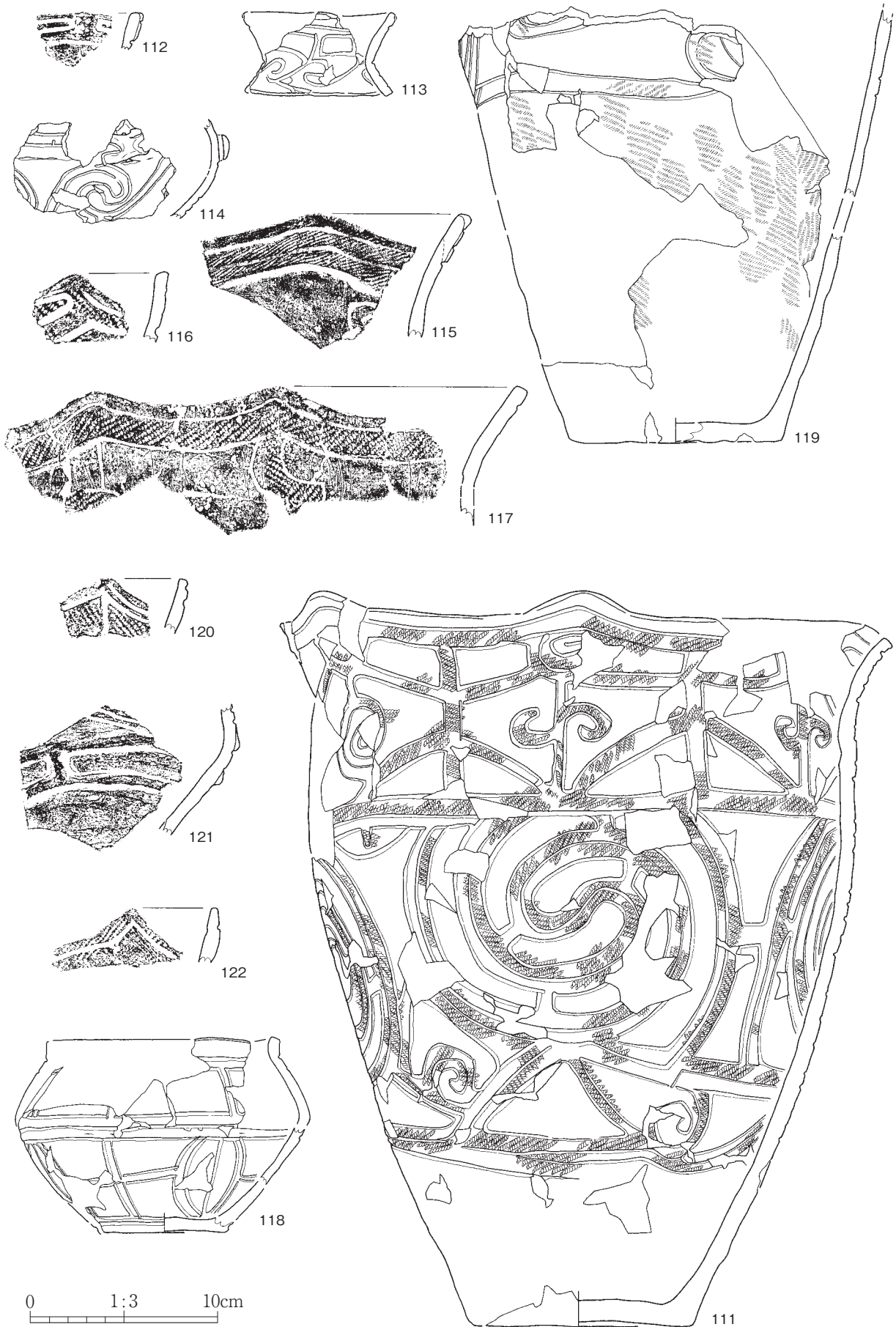
第78図 出土遺物(2)



第79図 出土遺物(3)



第80図 出土遺物(4)



第81図 出土遺物(5)



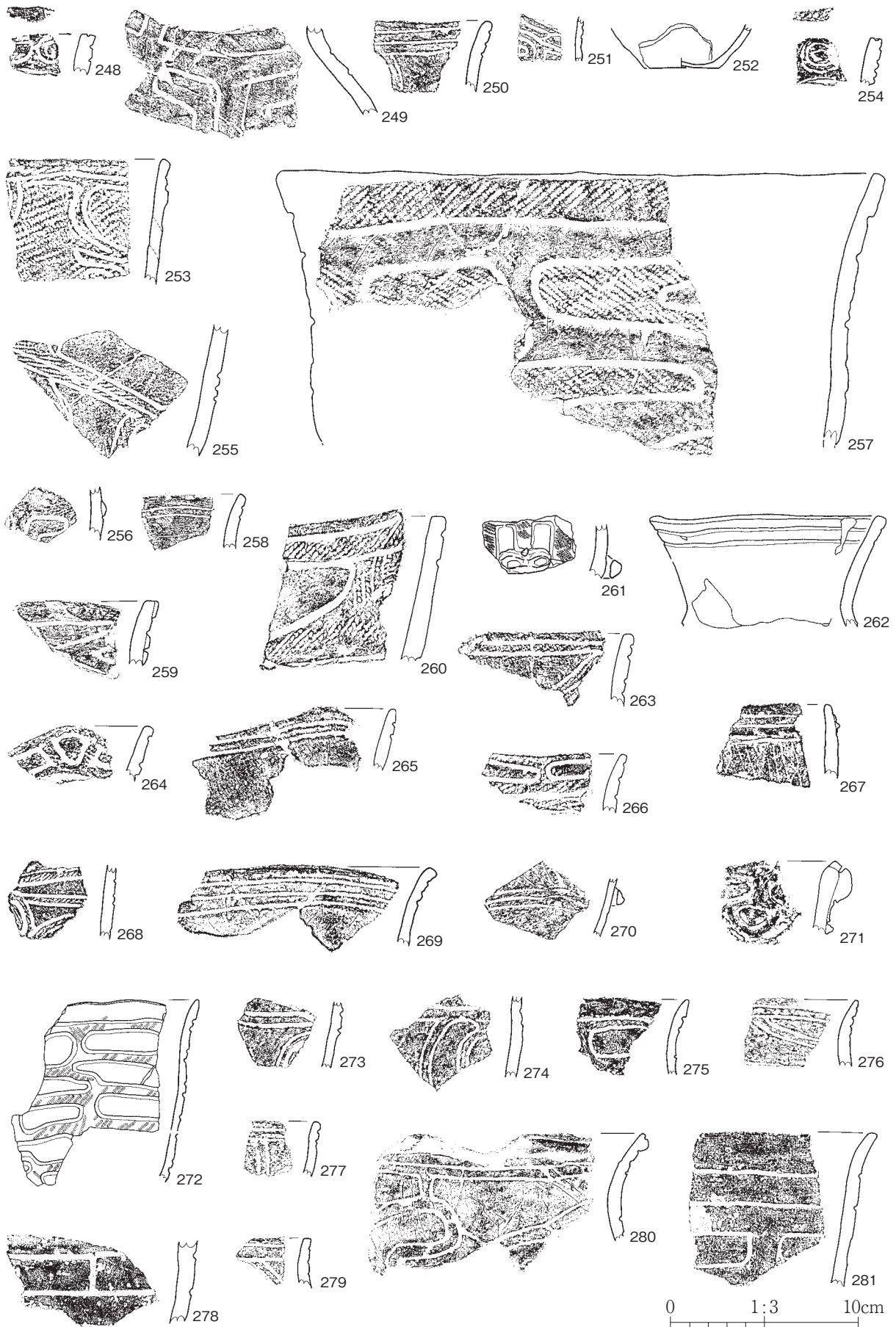
第82図 出土遺物(6)



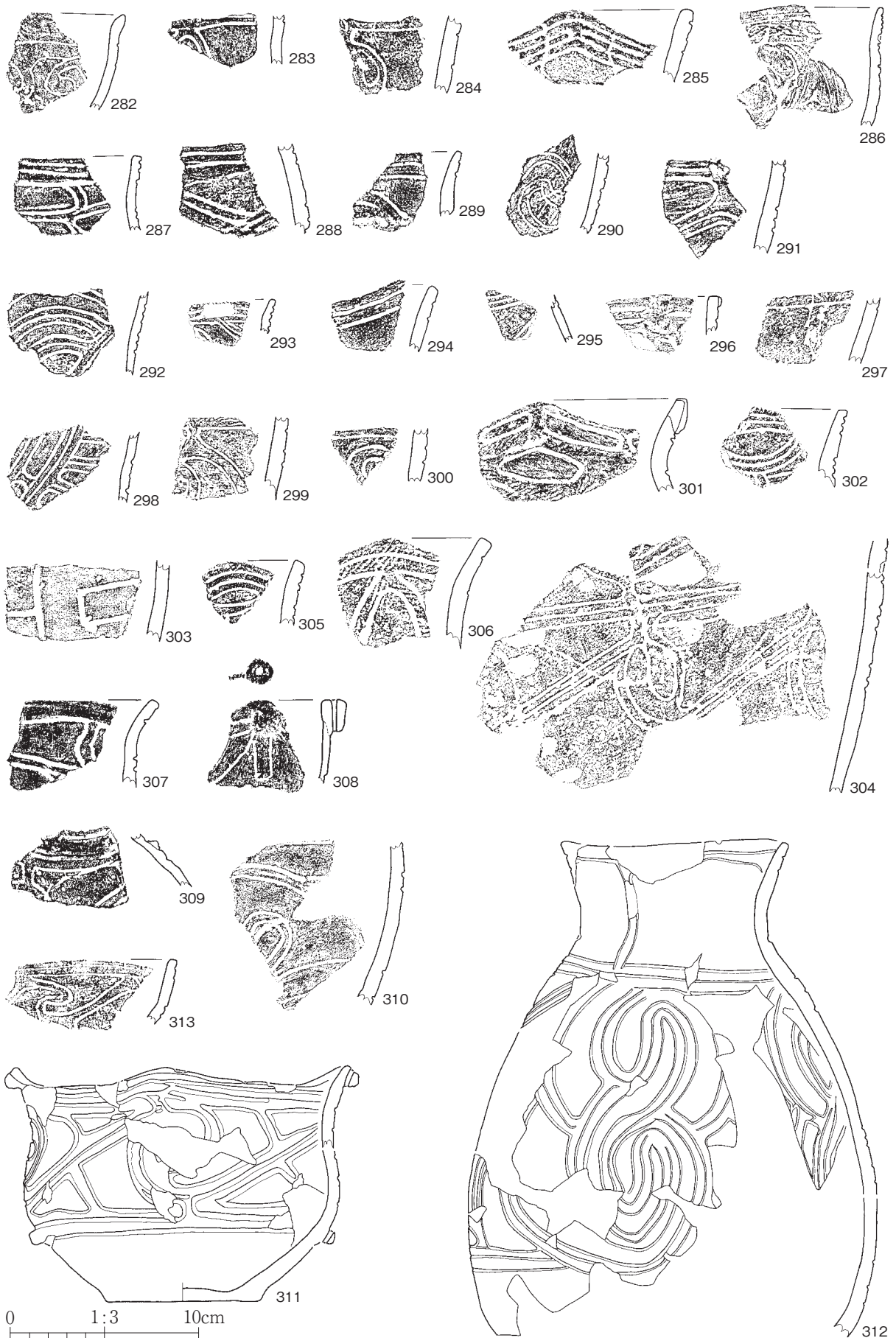
第83図 出土遺物(7)



第84図 出土遺物(8)



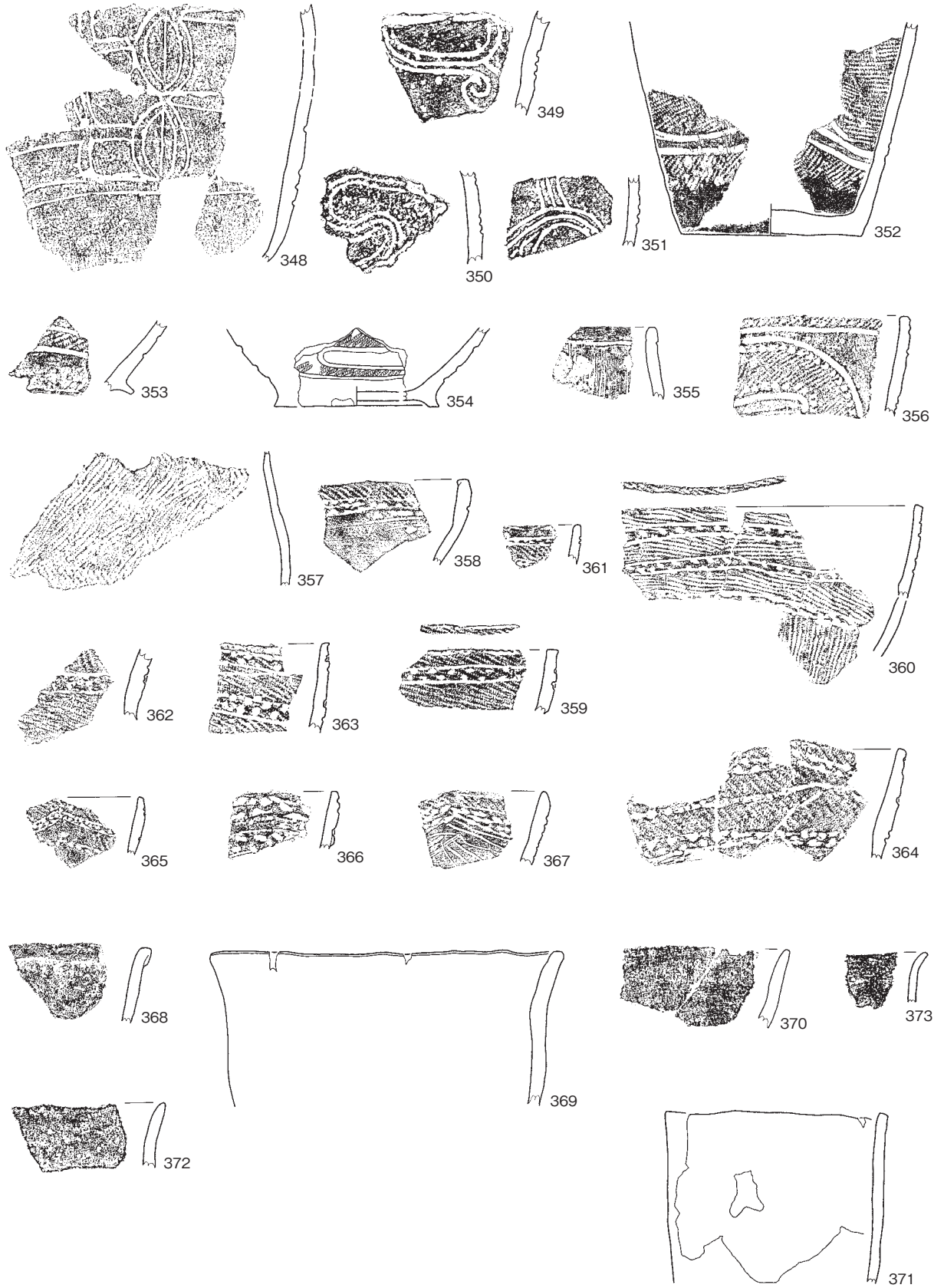
第85図 出土遺物(9)



第86图 出土遺物(10)

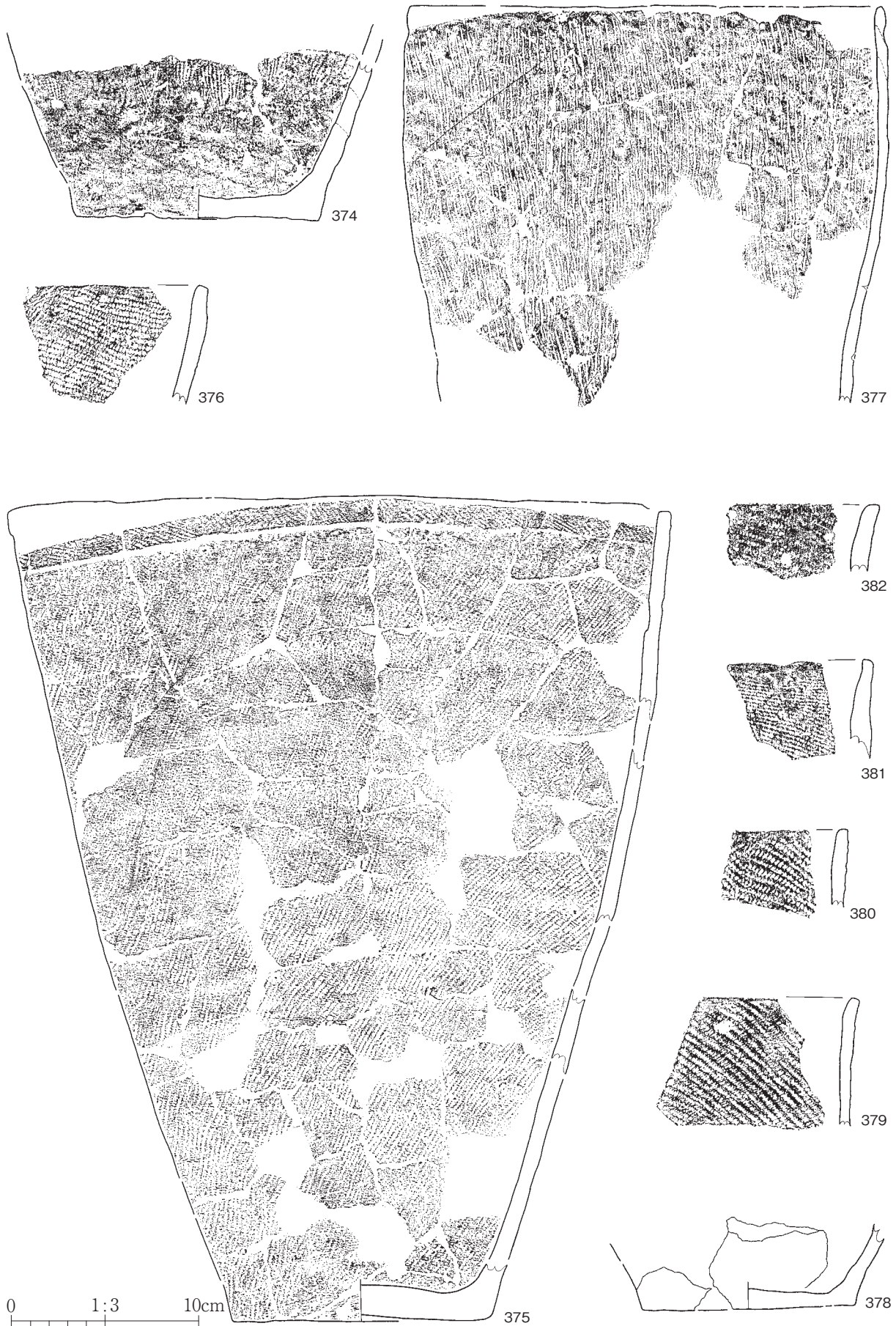


第87図 出土遺物(11)

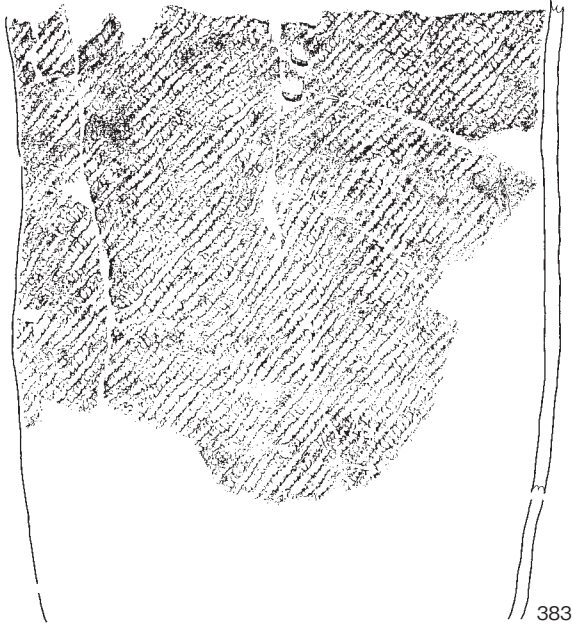


0 1:3 10cm

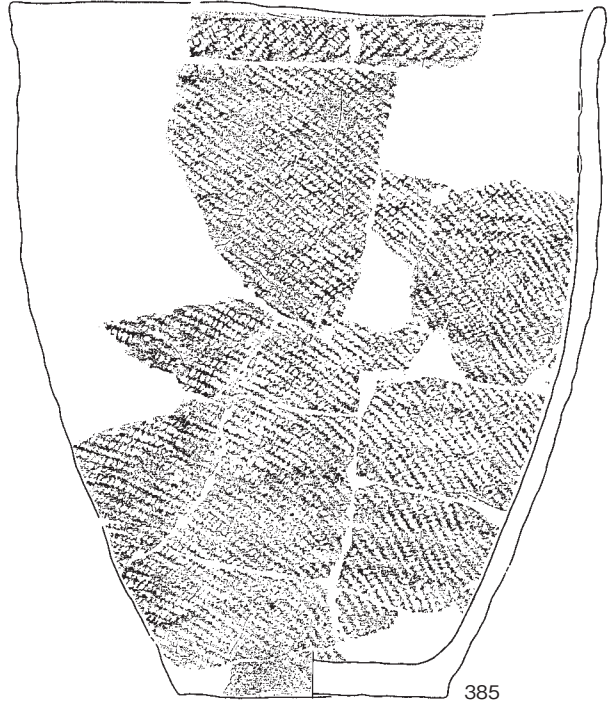
第88図 出土遺物(12)



第89図 出土遺物(13)



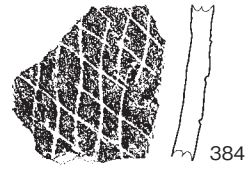
383



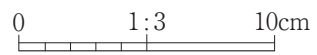
385



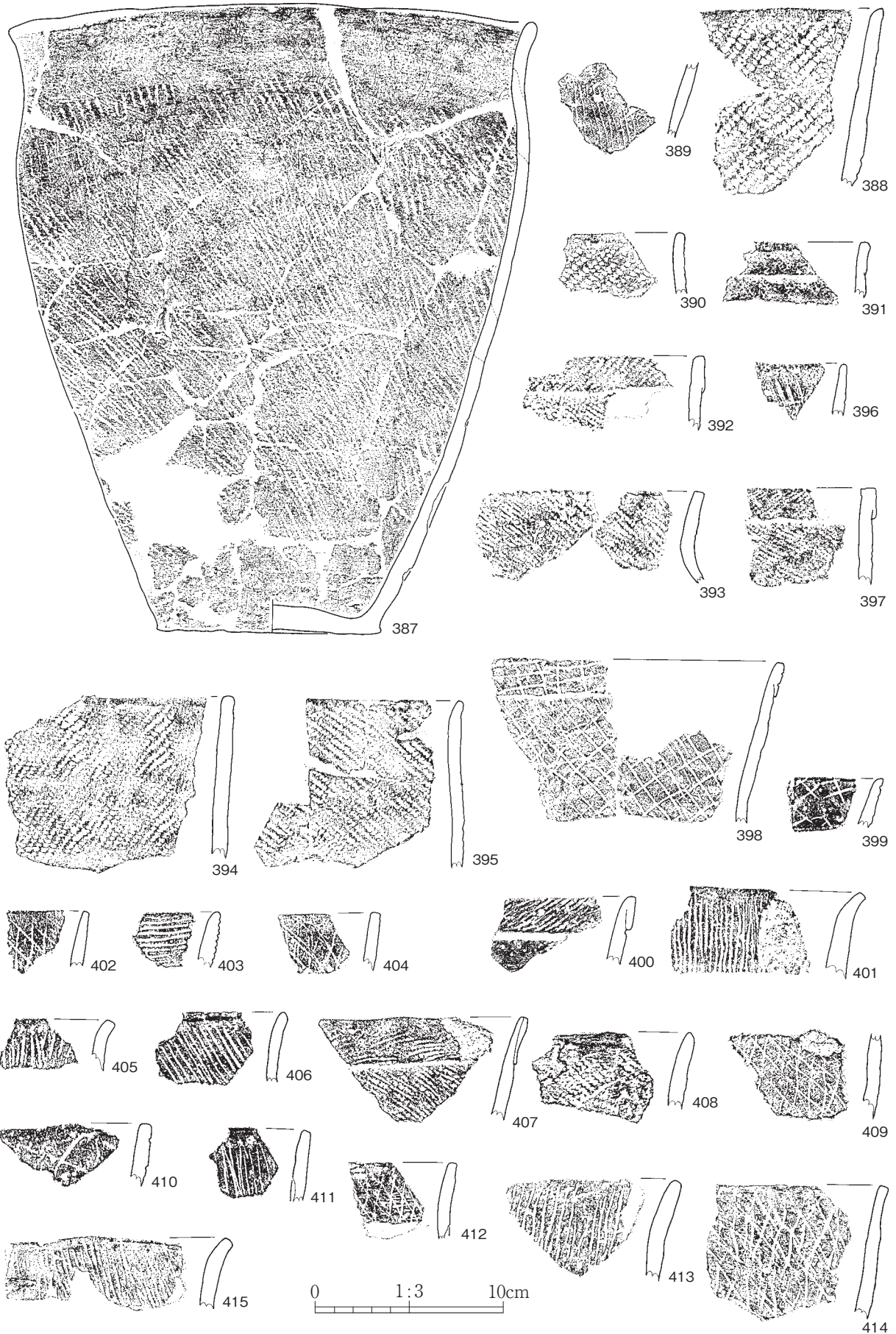
386



384



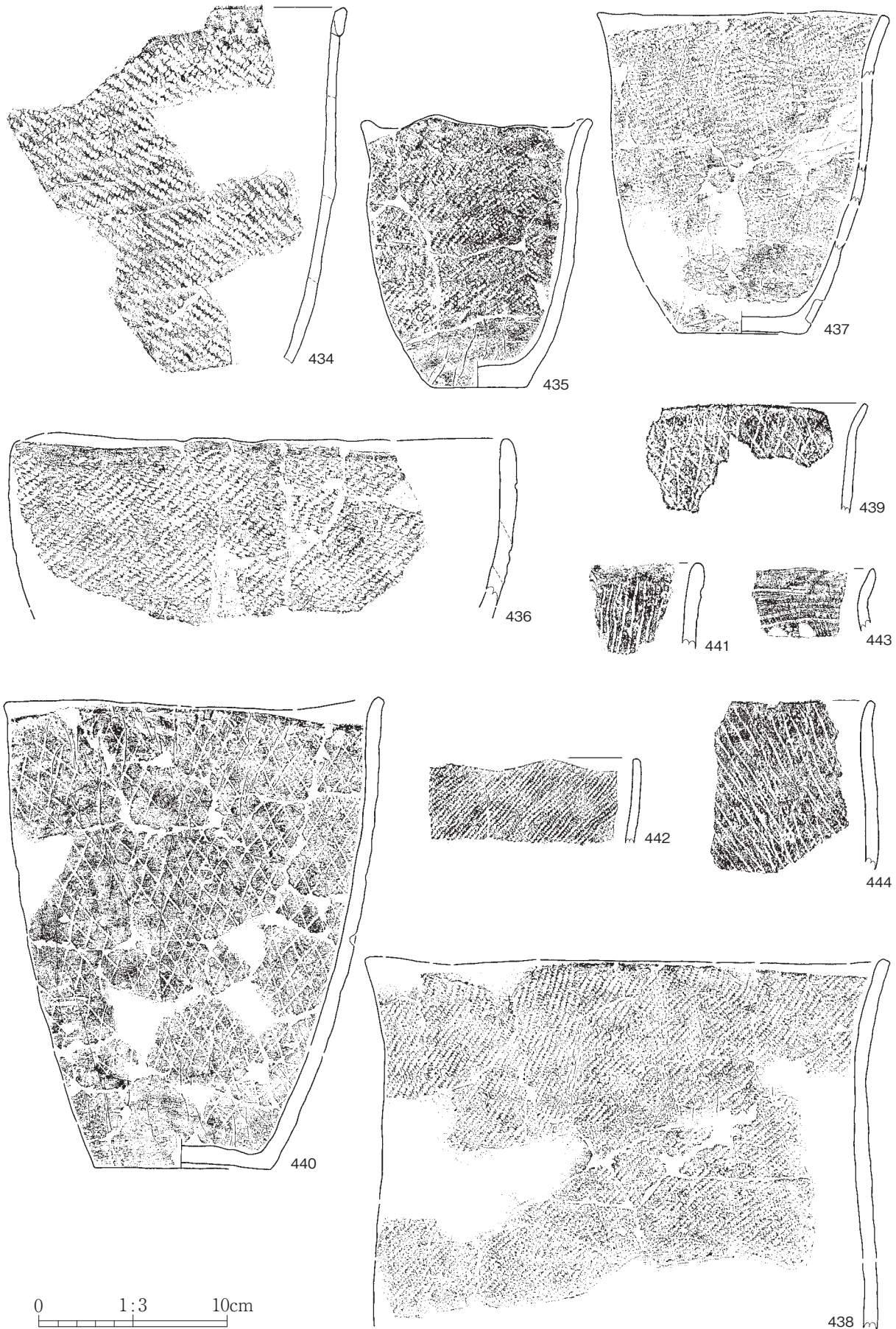
第90図 出土遺物(14)



第91図 出土遺物(15)



第92図 出土遺物(16)



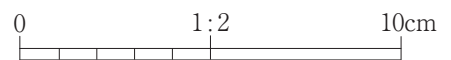
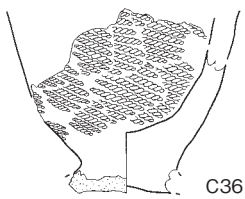
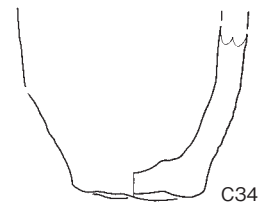
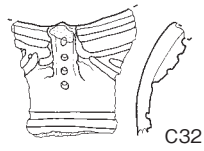
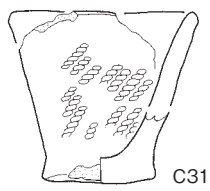
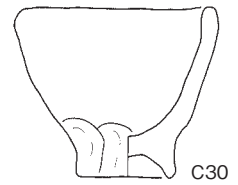
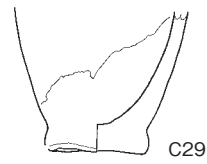
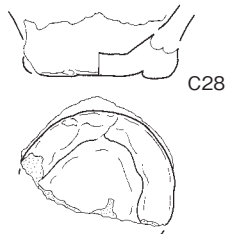
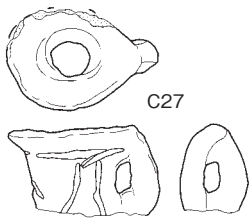
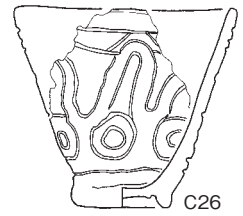
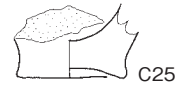
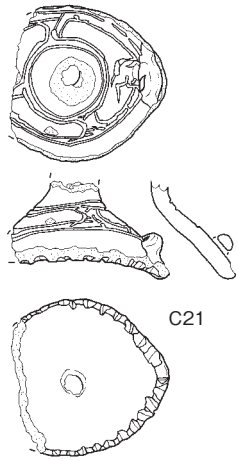
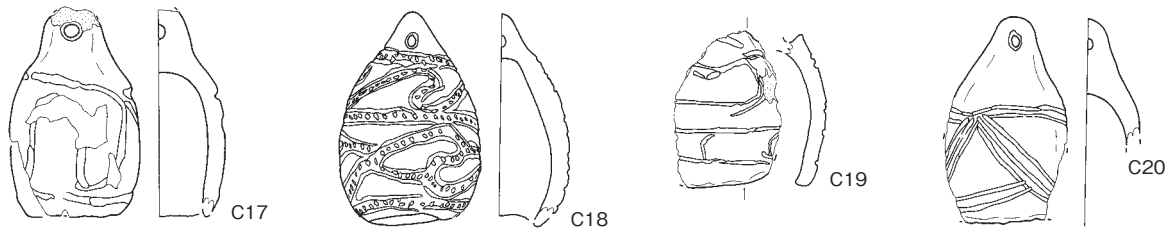
第93図 出土遺物(17)



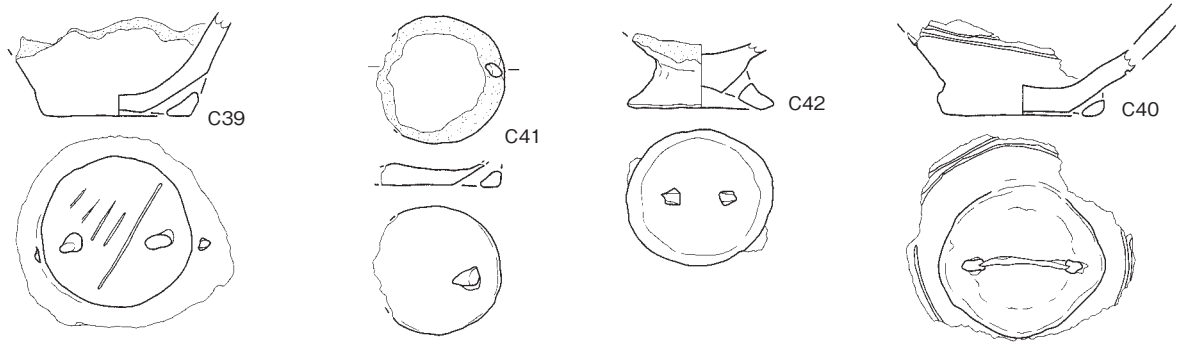
第94図 出土遺物(18)



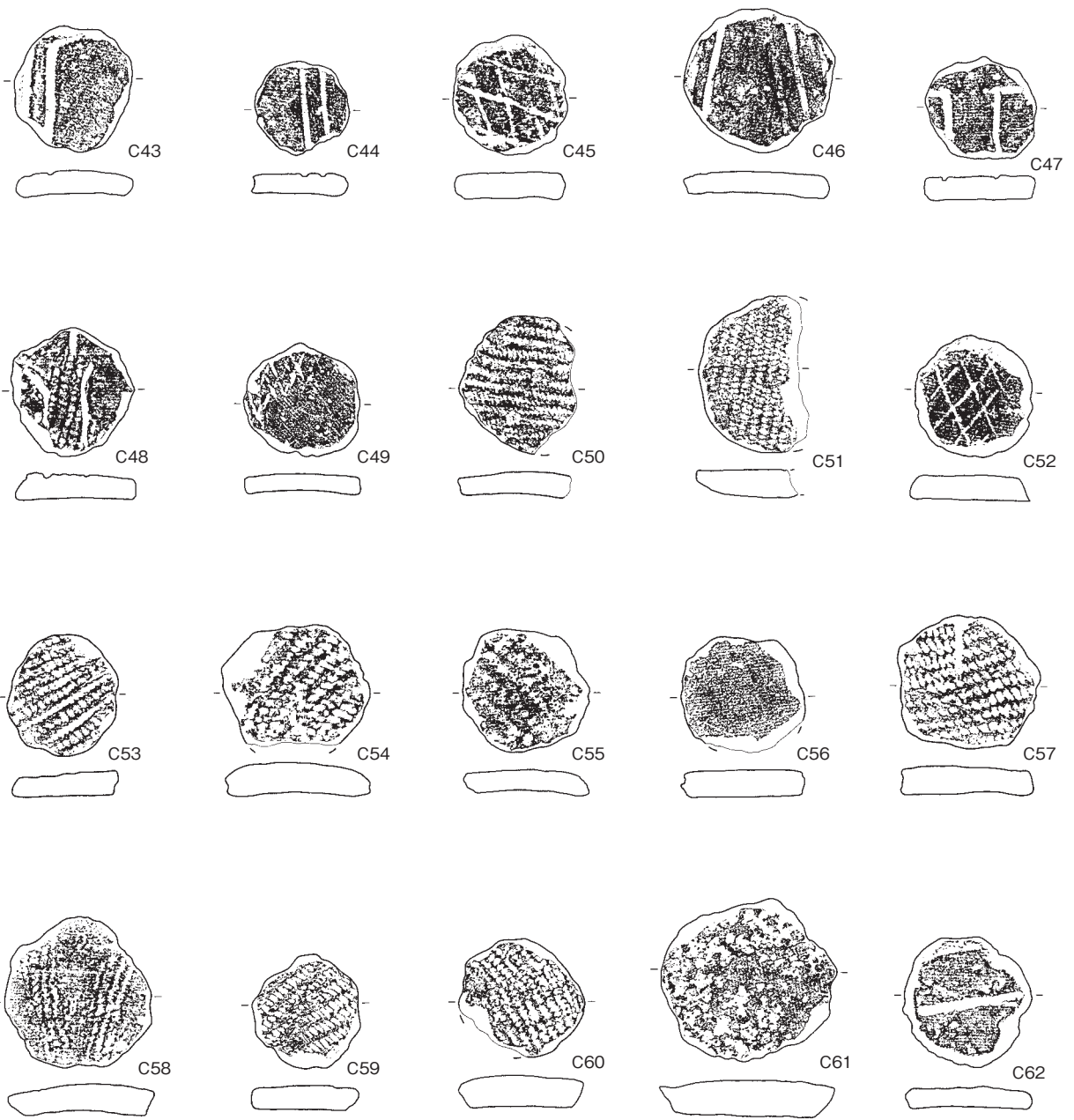
第95図 出土遺物(19)



第96図 出土遺物(20)



0 1:2 10cm



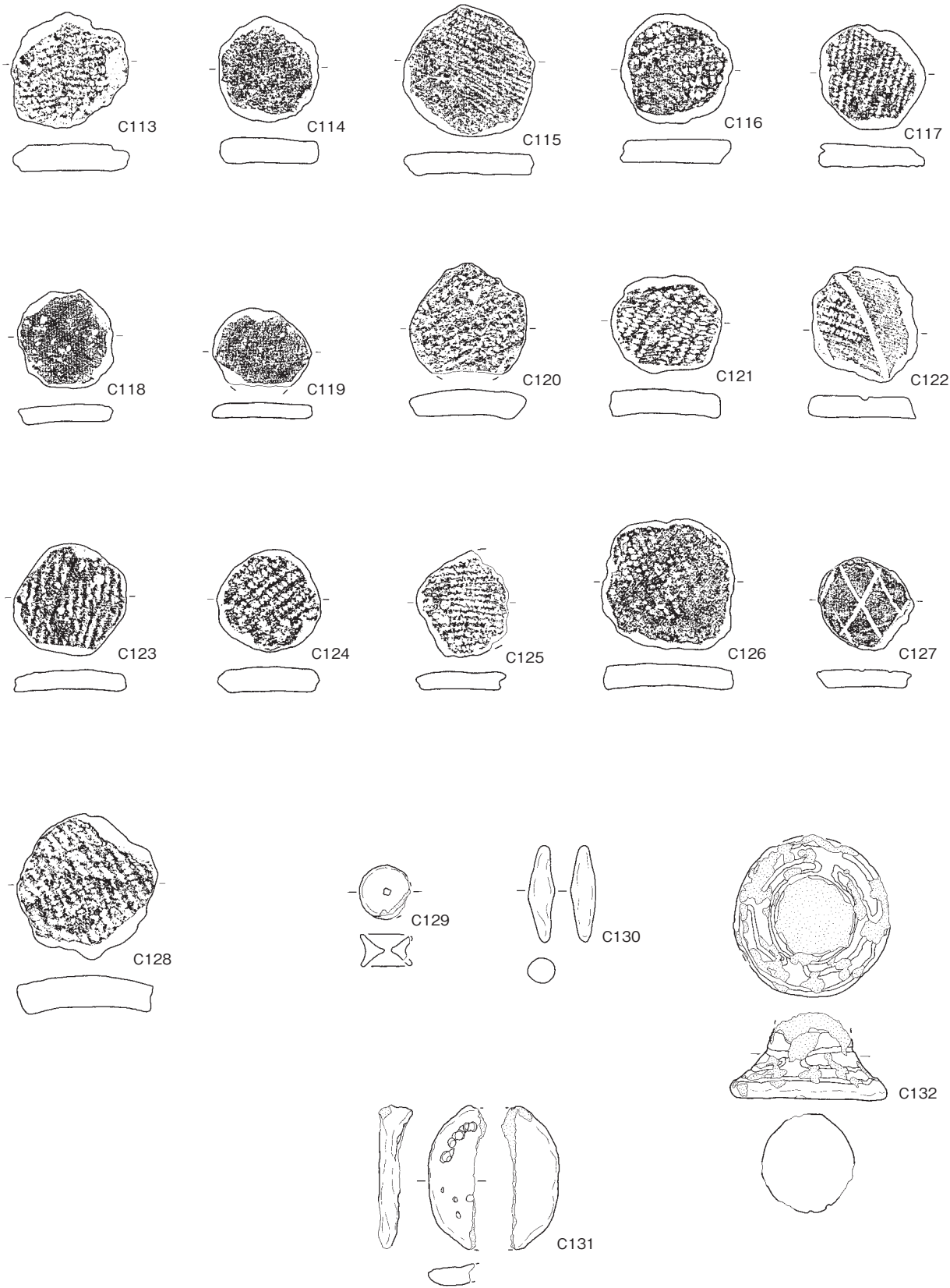
第97図 出土遺物(21)



第98図 出土遺物(22)

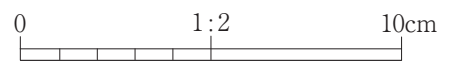
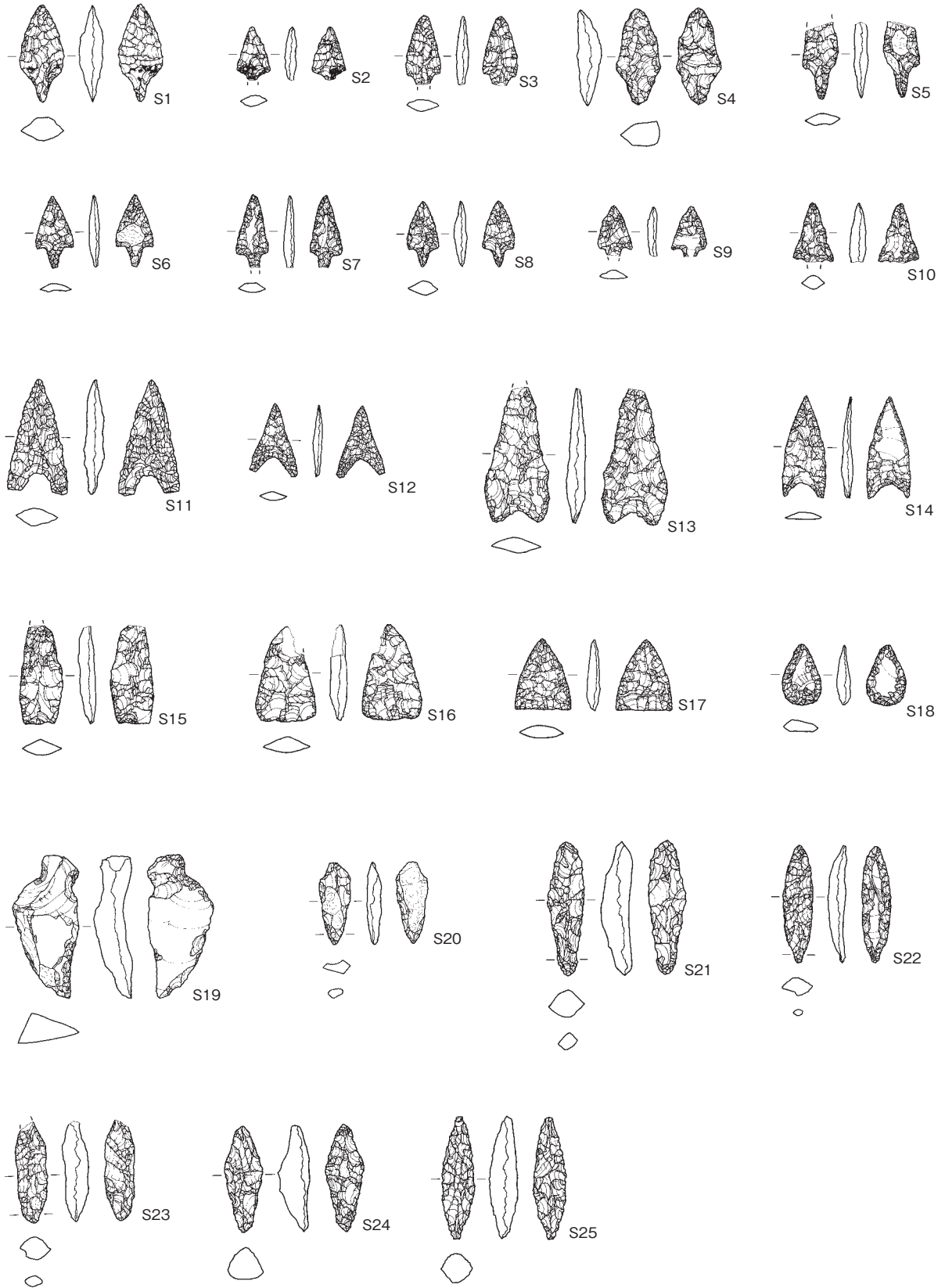


第99図 出土遺物(23)

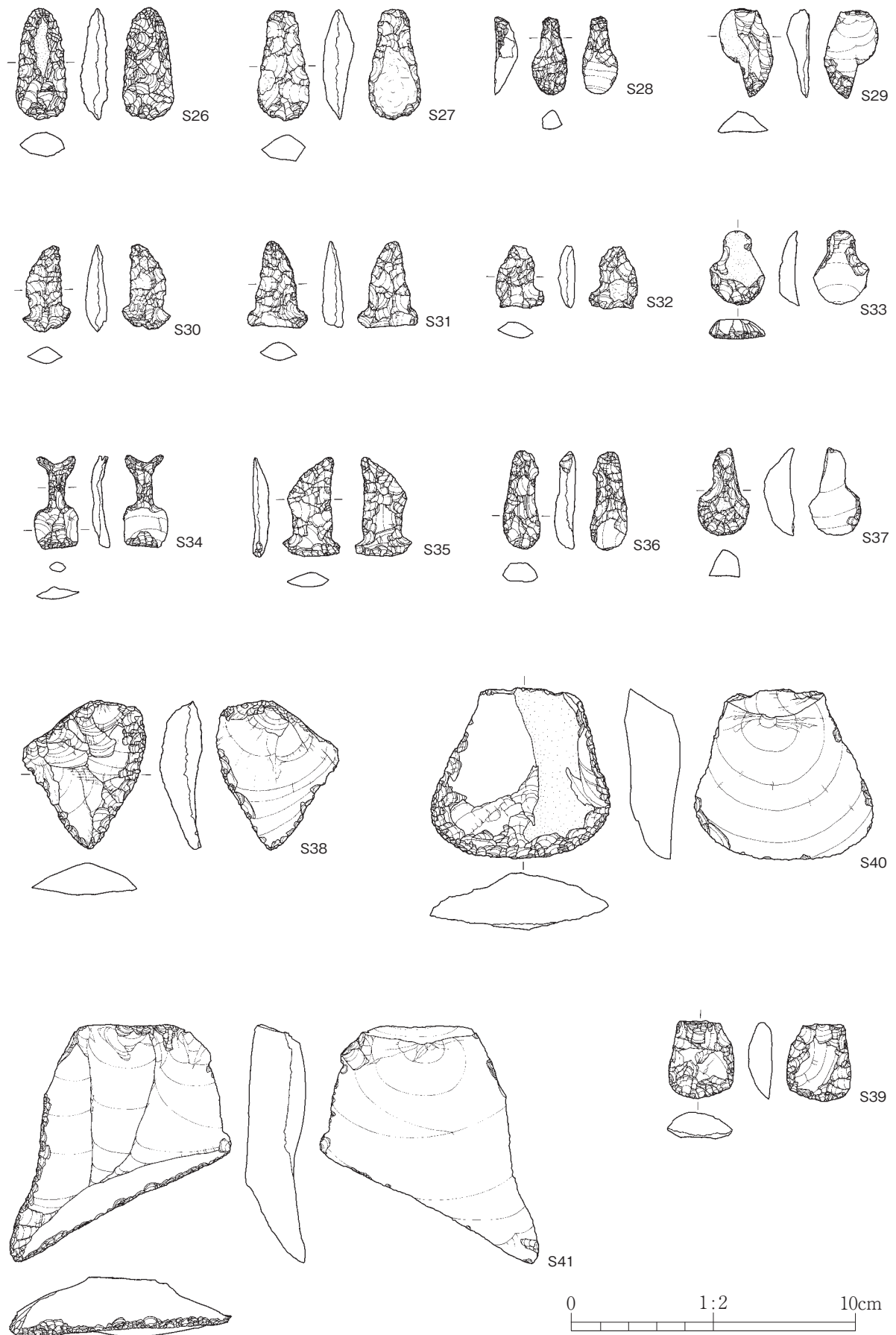


0 1:2 10cm

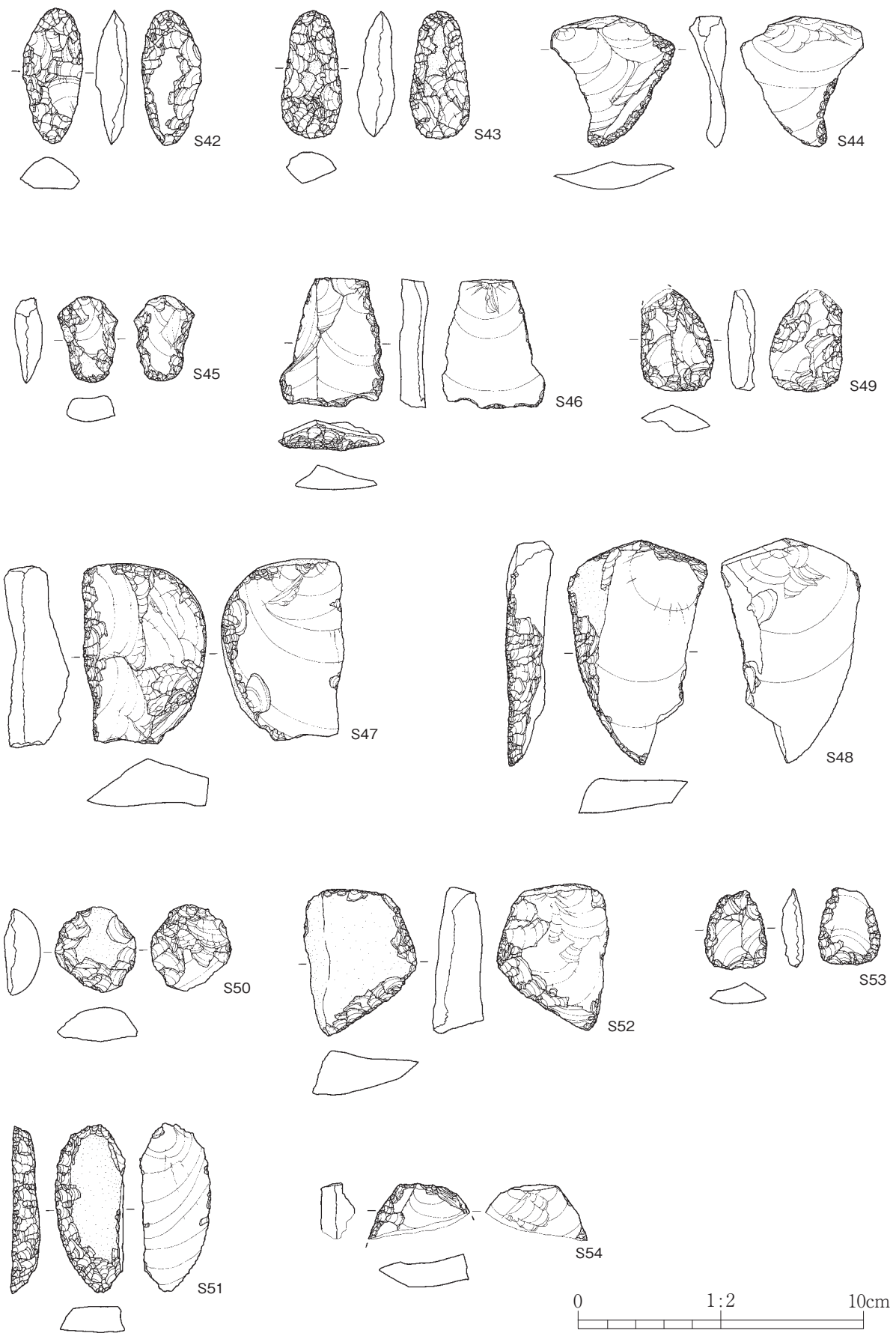
第100図 出土遺物(24)



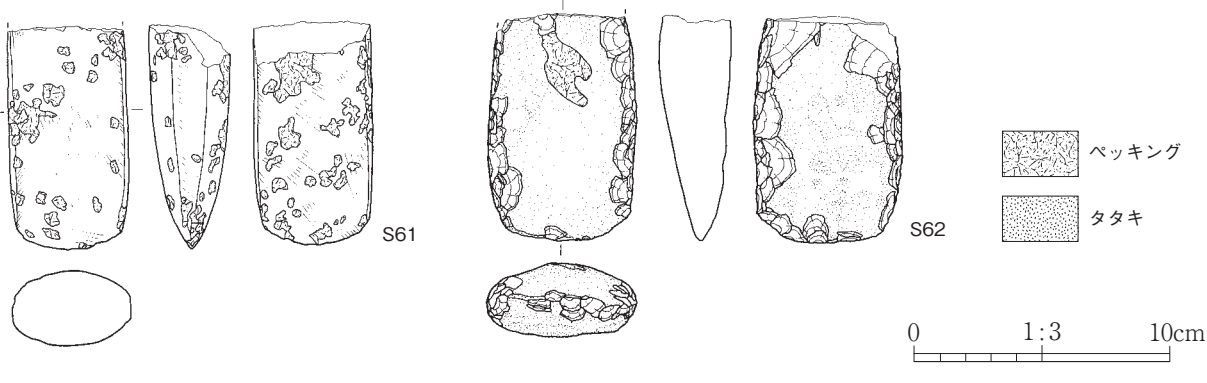
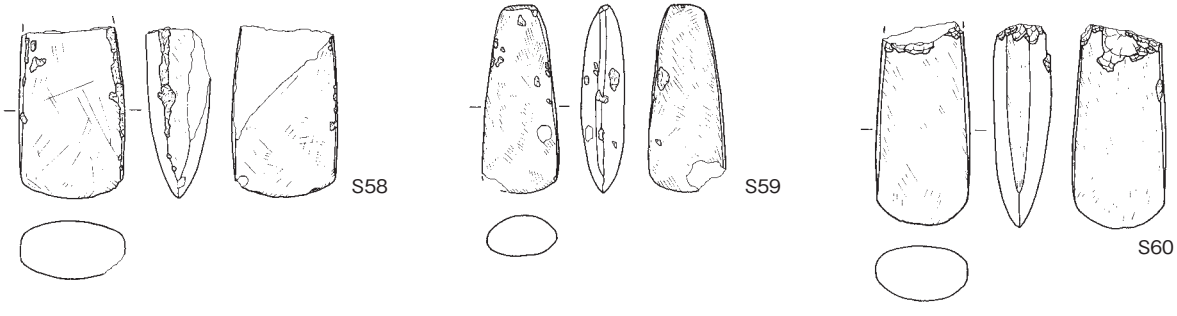
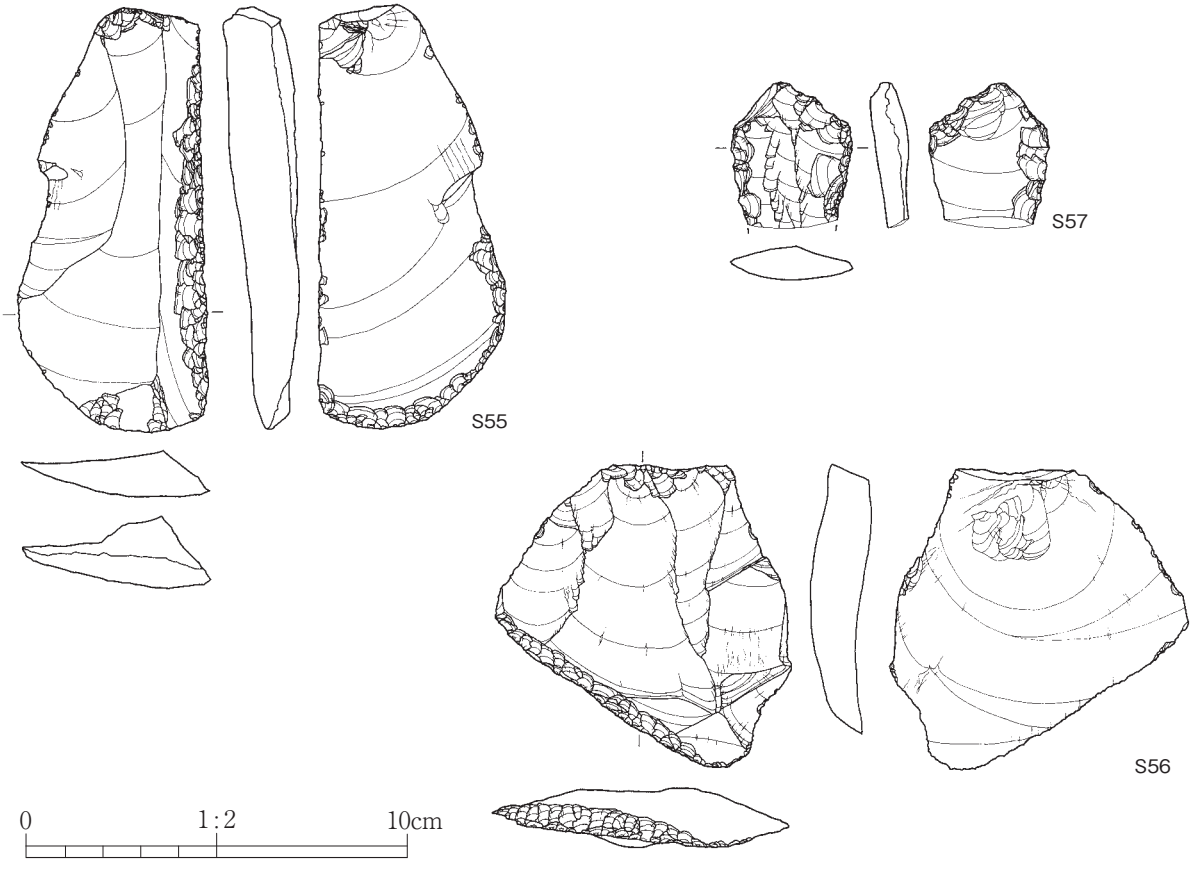
第101図 出土遺物(25)



第102図 出土遺物(26)



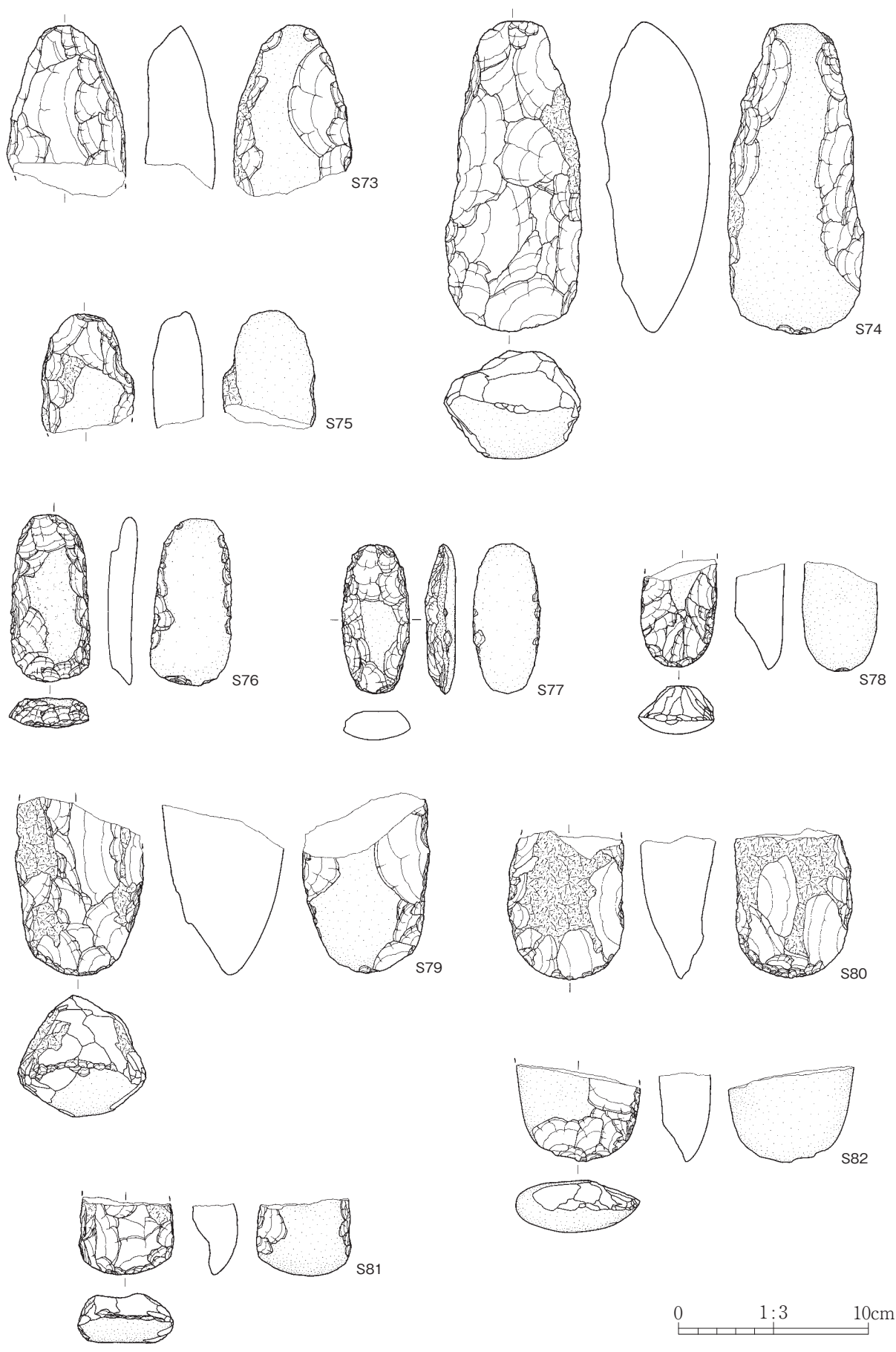
第103図 出土遺物(27)



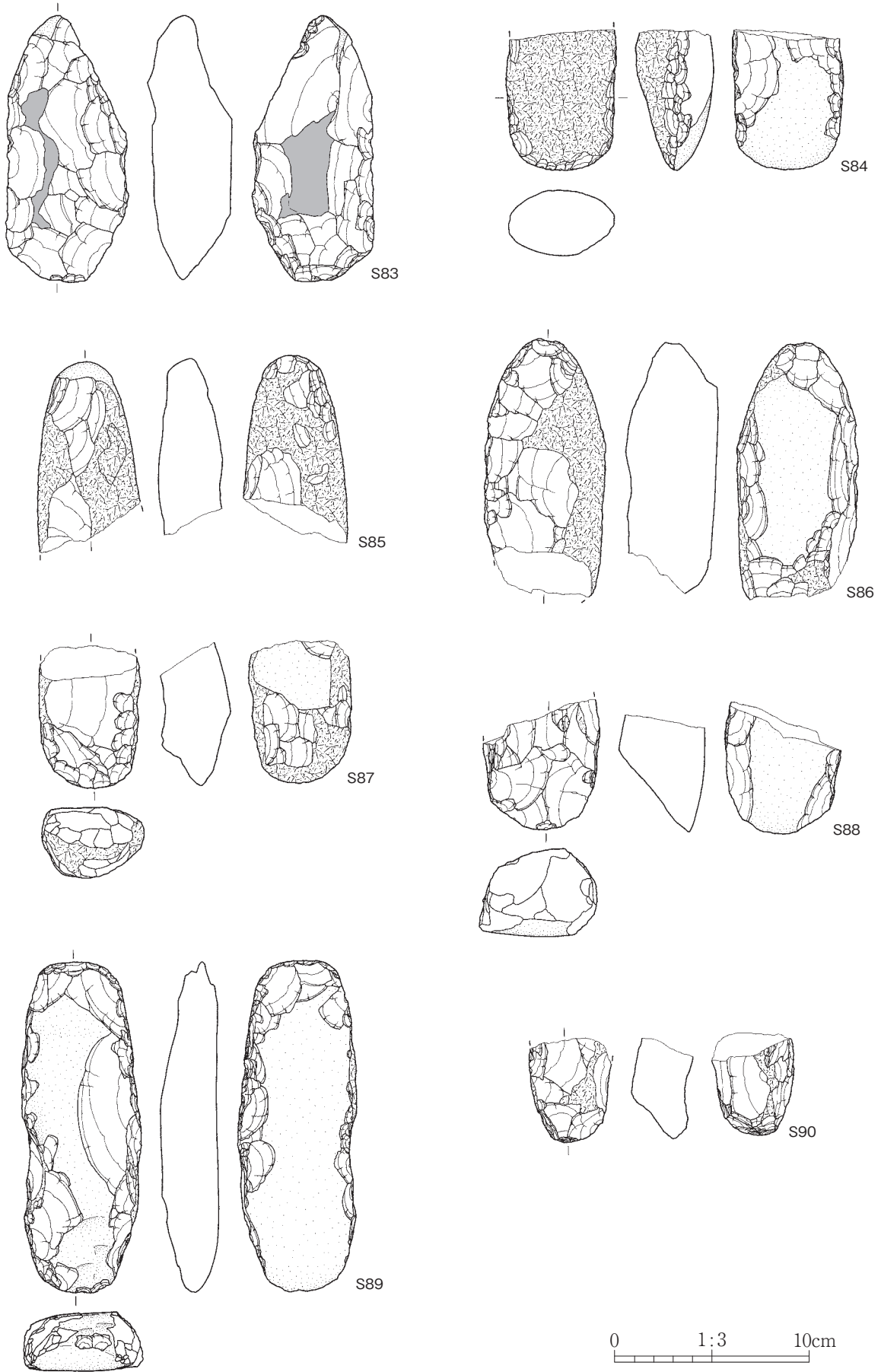
第104図 出土遺物(28)



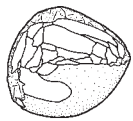
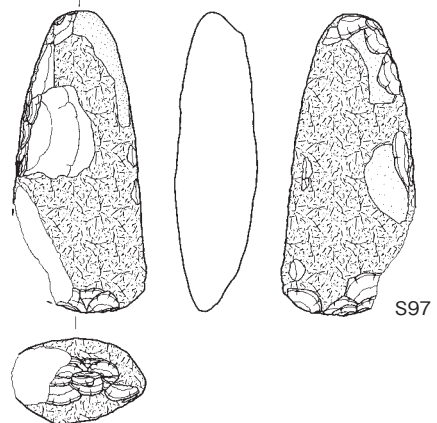
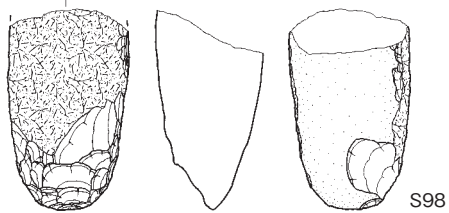
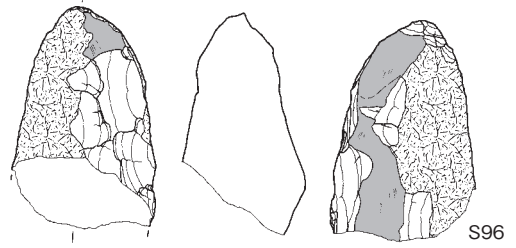
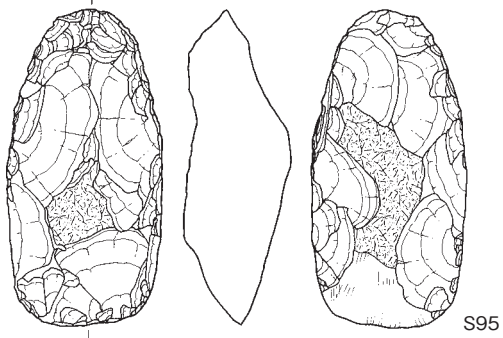
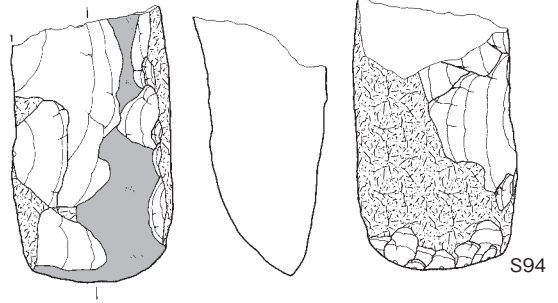
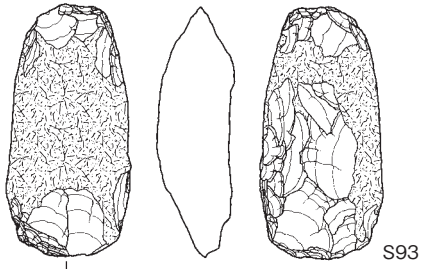
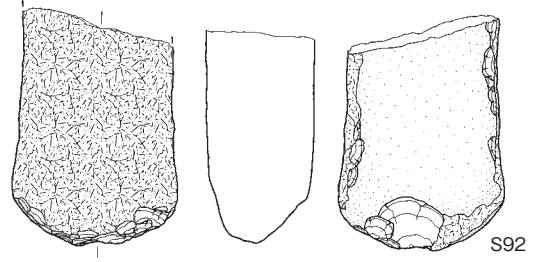
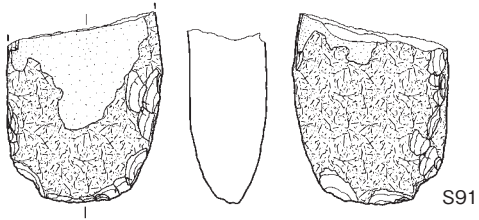
第105図 出土遺物(29)



第106図 出土遺物(30)

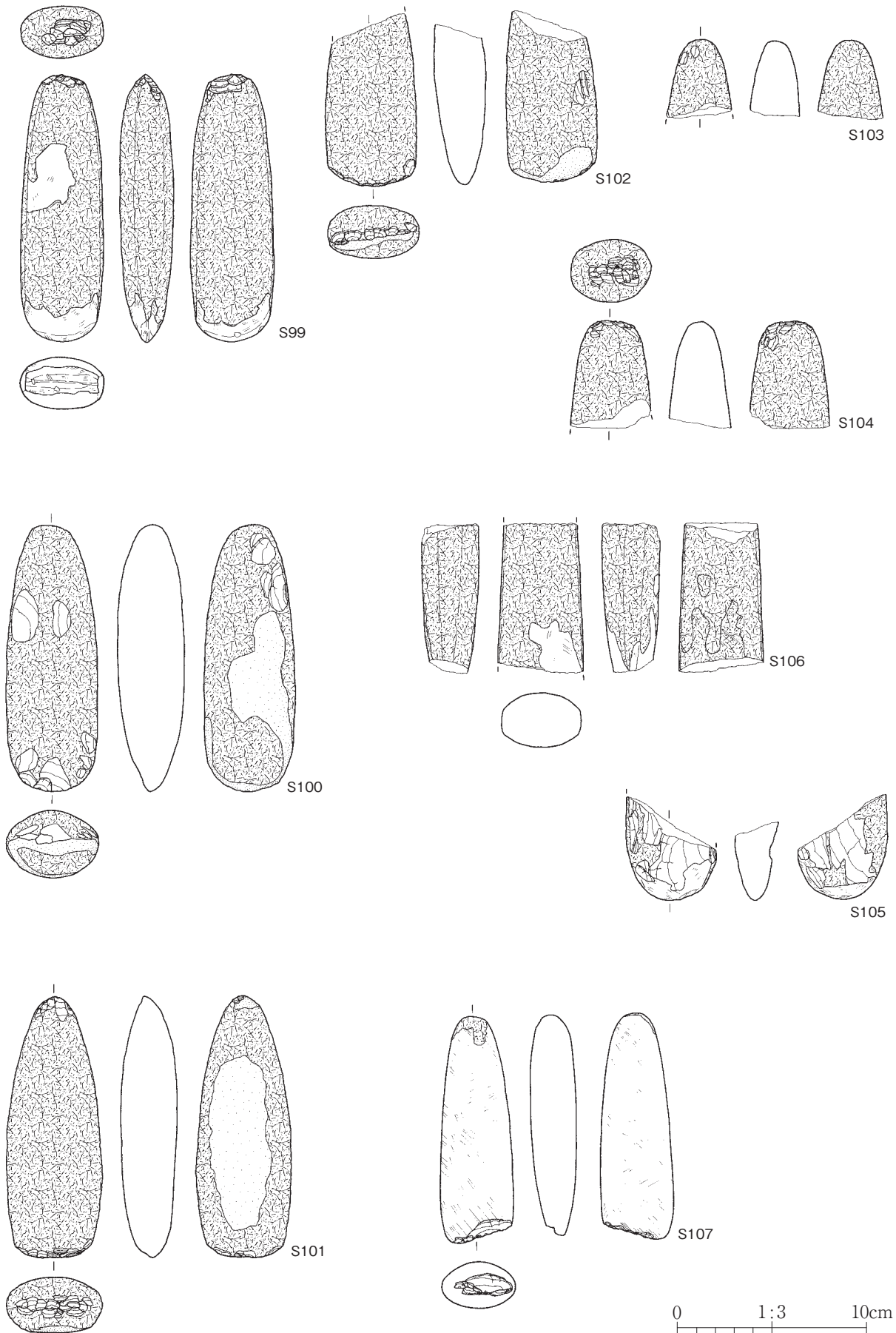


第107図 出土遺物(31)

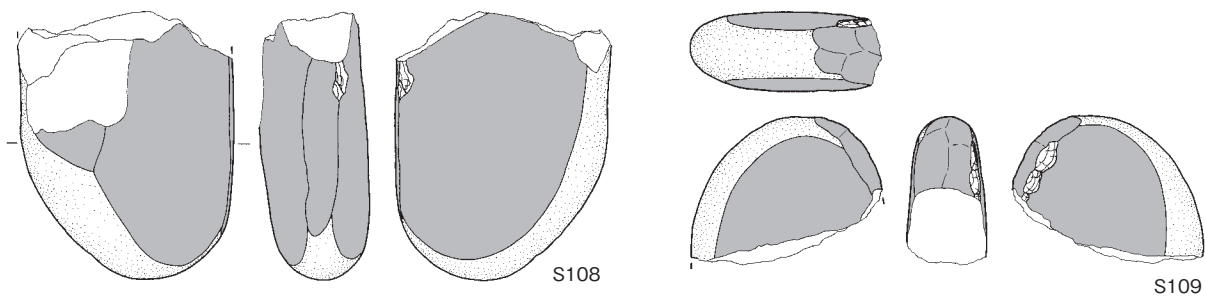


0 1:3 10cm

第108図 出土遺物(32)

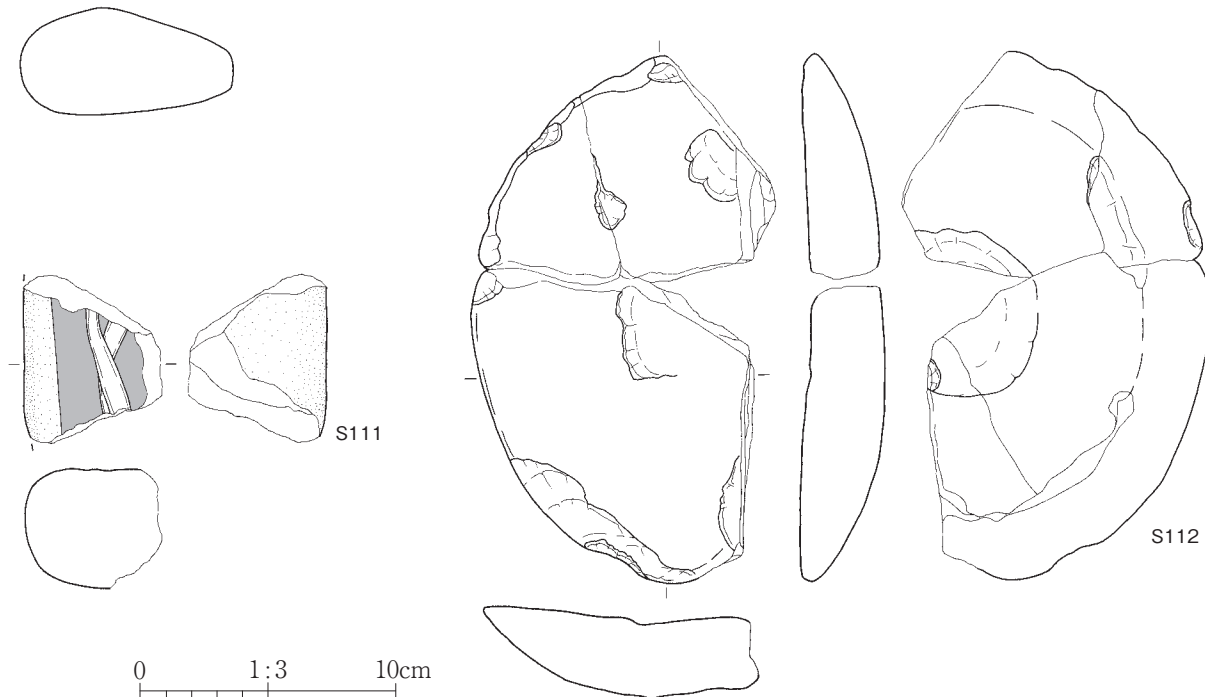


第109図 出土遺物(33)



S108

S109



S111

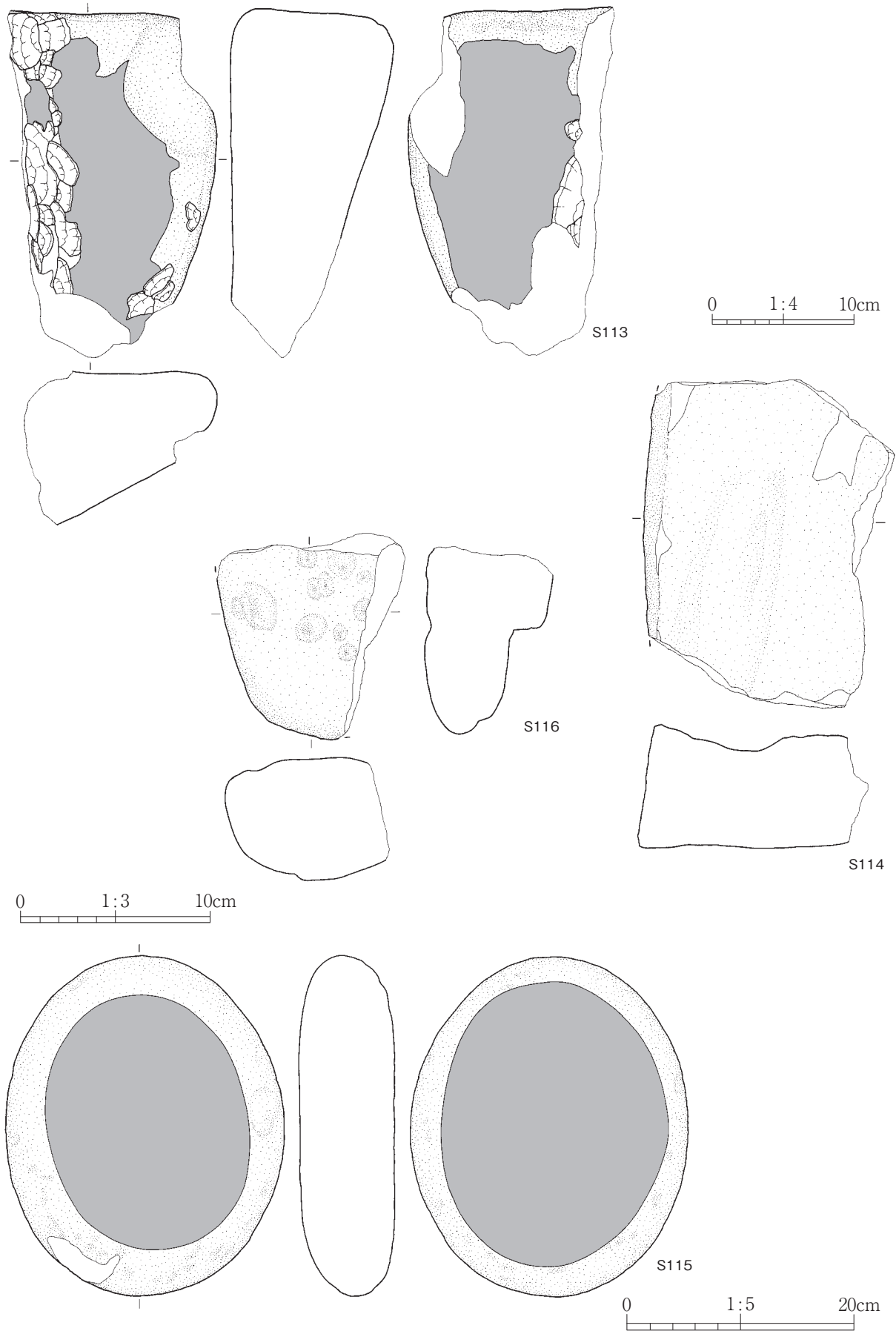
S112



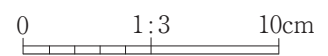
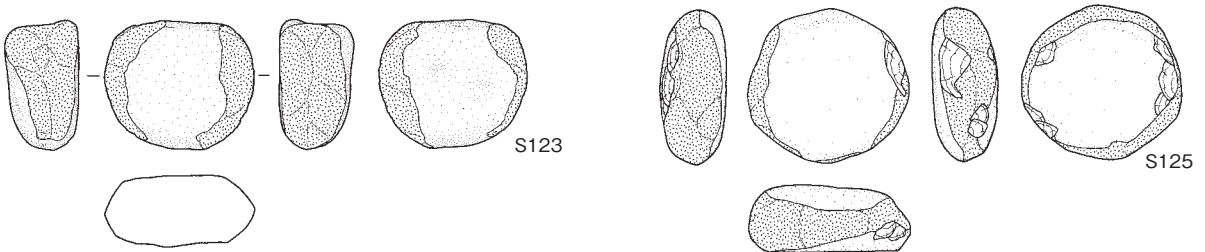
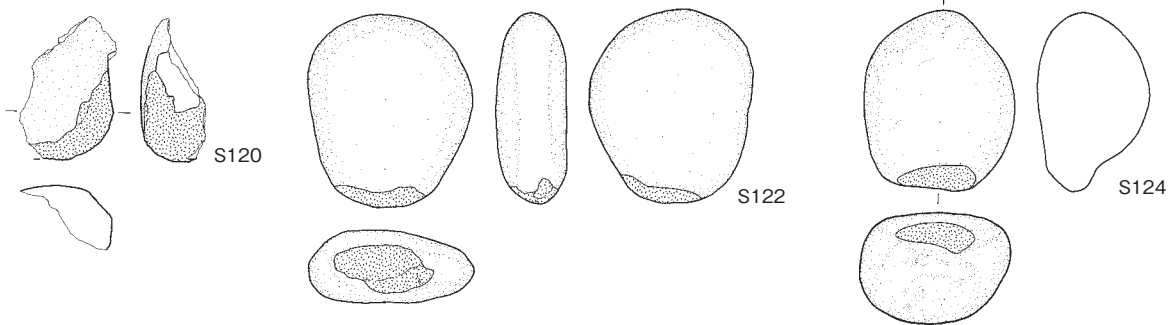
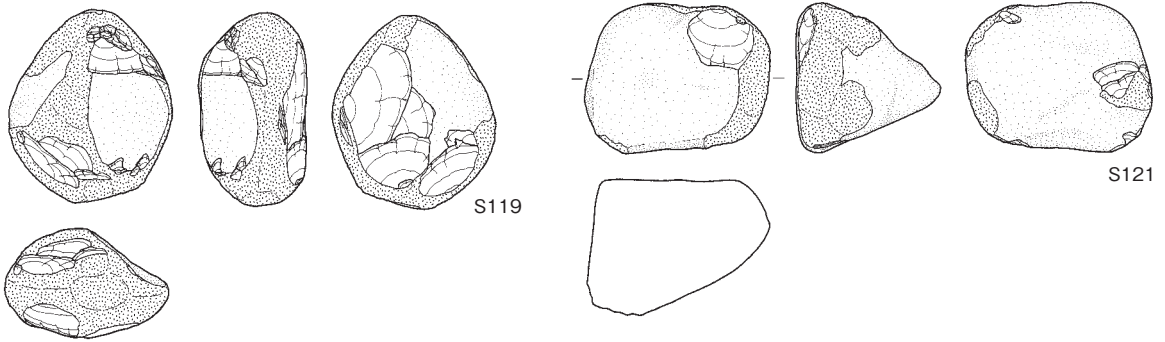
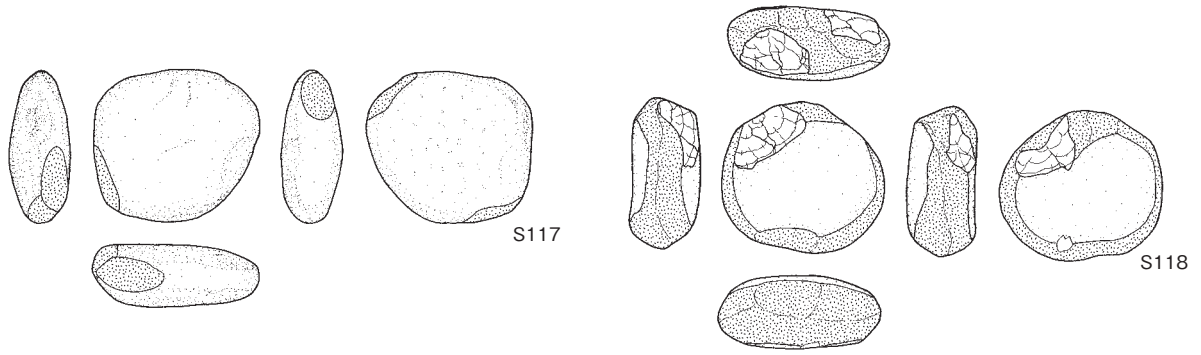
S110

0 1:4 10cm

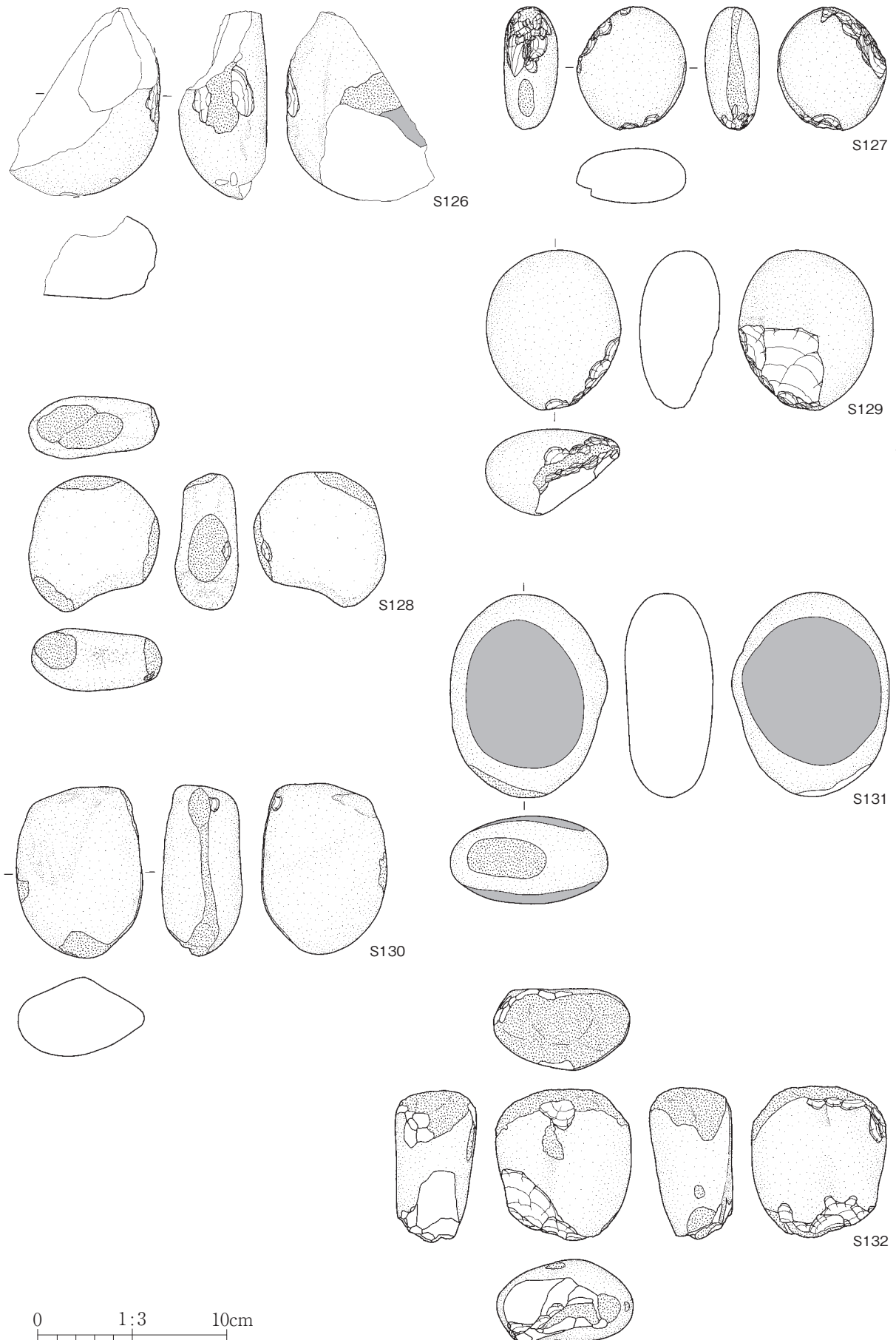
第110図 出土遺物(34)



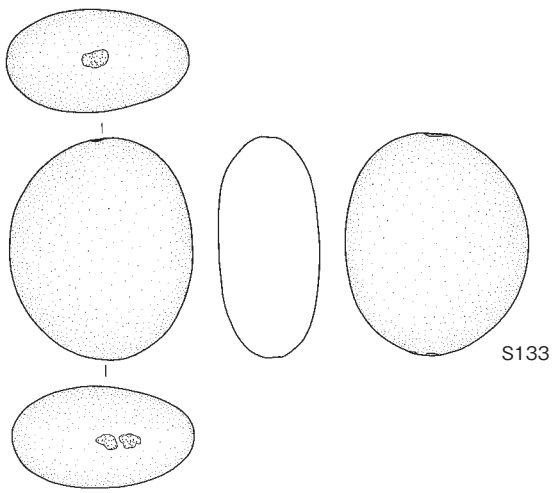
第111図 出土遺物(35)



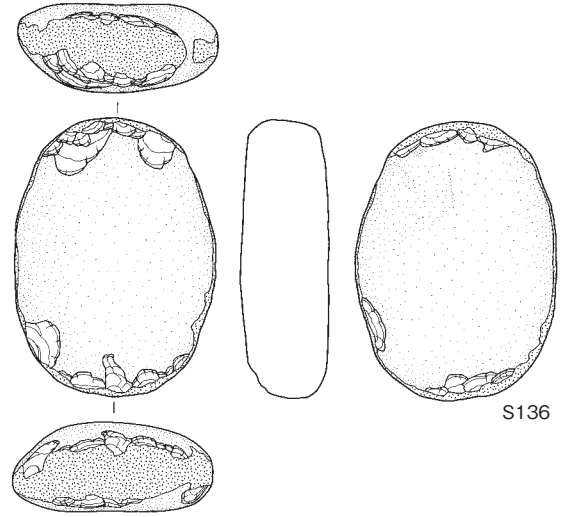
第112図 出土遺物(36)



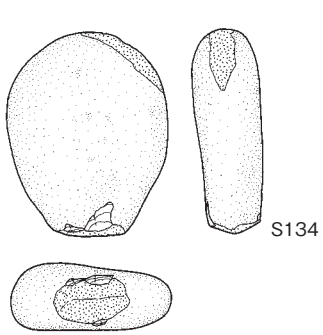
第113図 出土遺物(37)



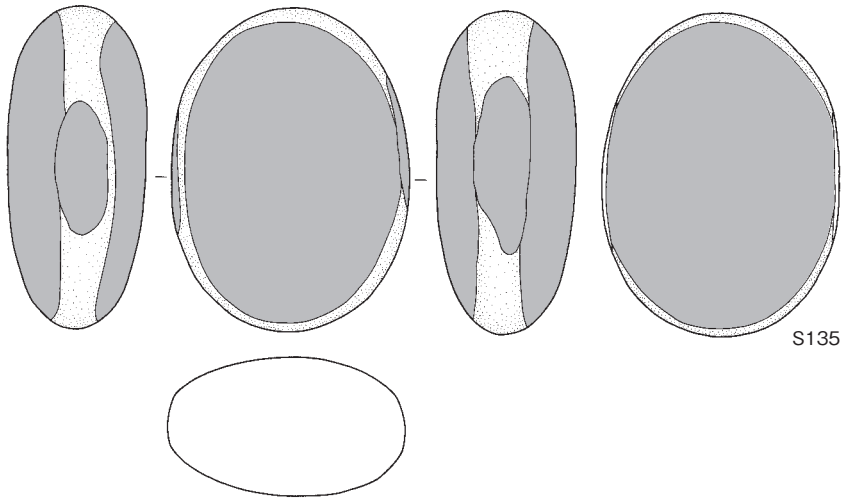
S133



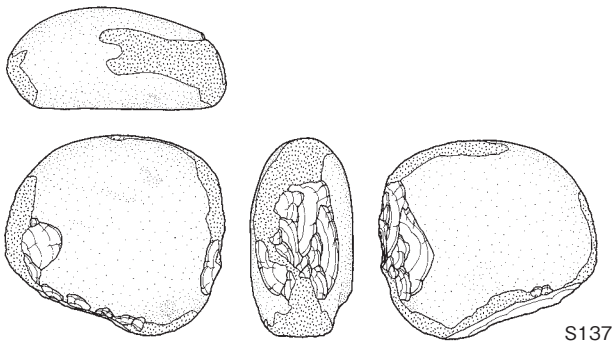
S136



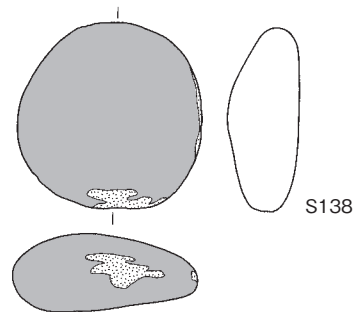
S134



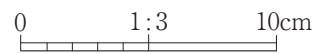
S135



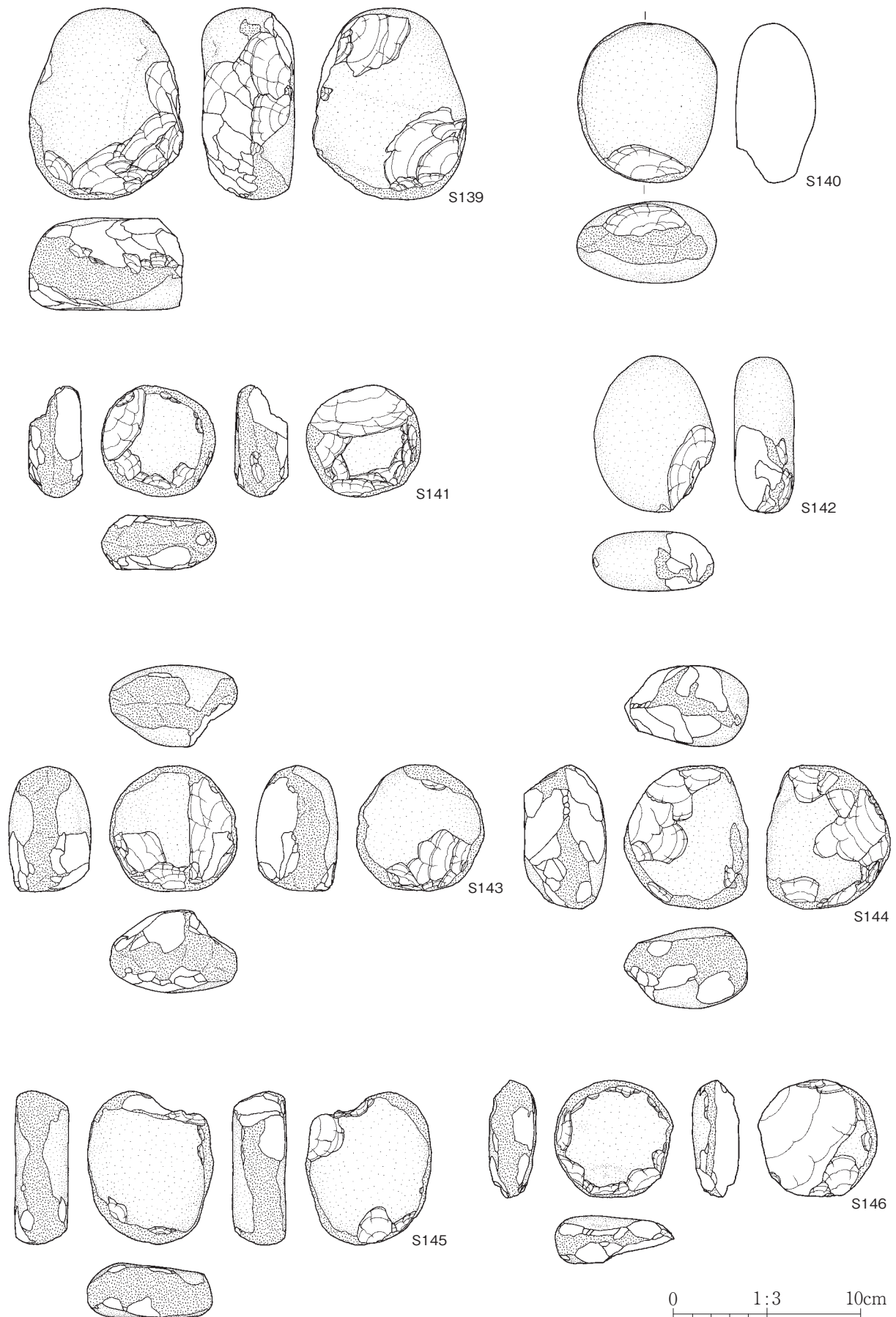
S137



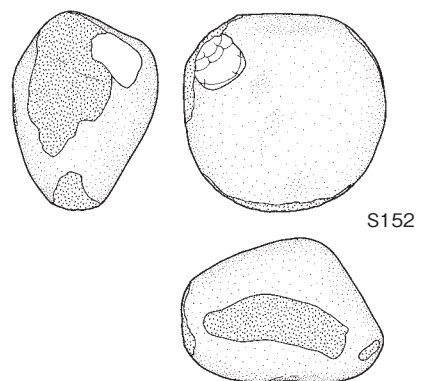
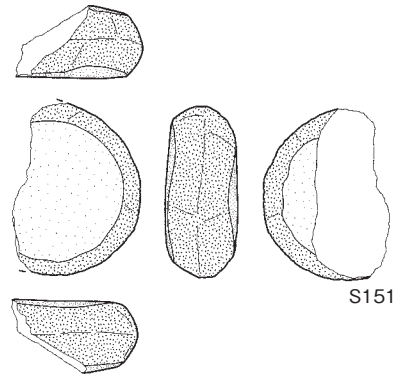
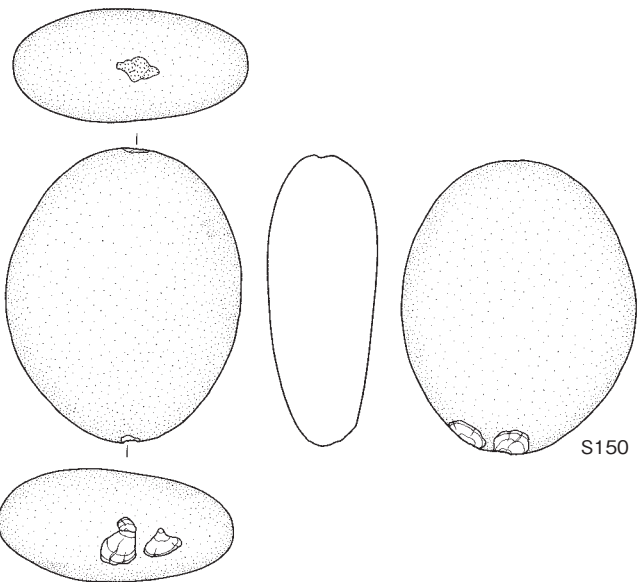
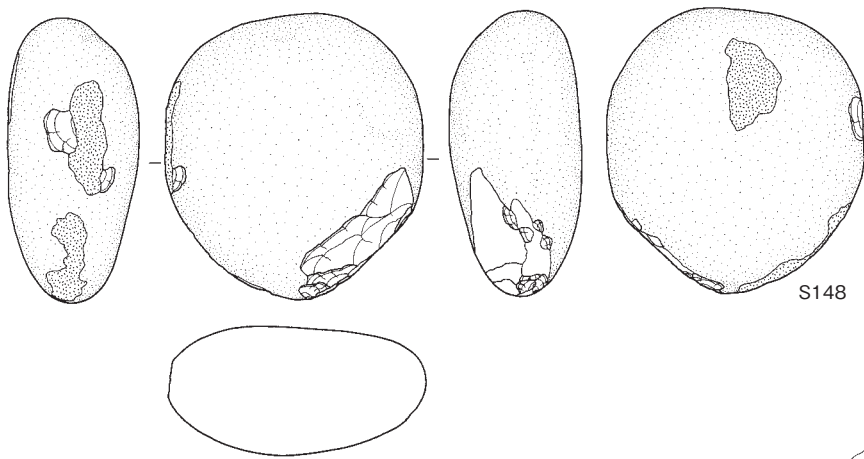
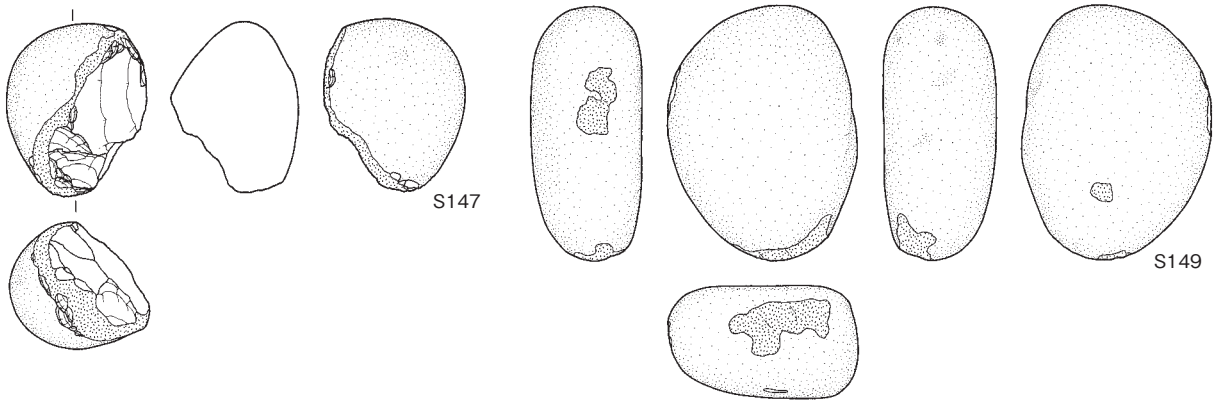
S138



第114図 出土遺物(38)

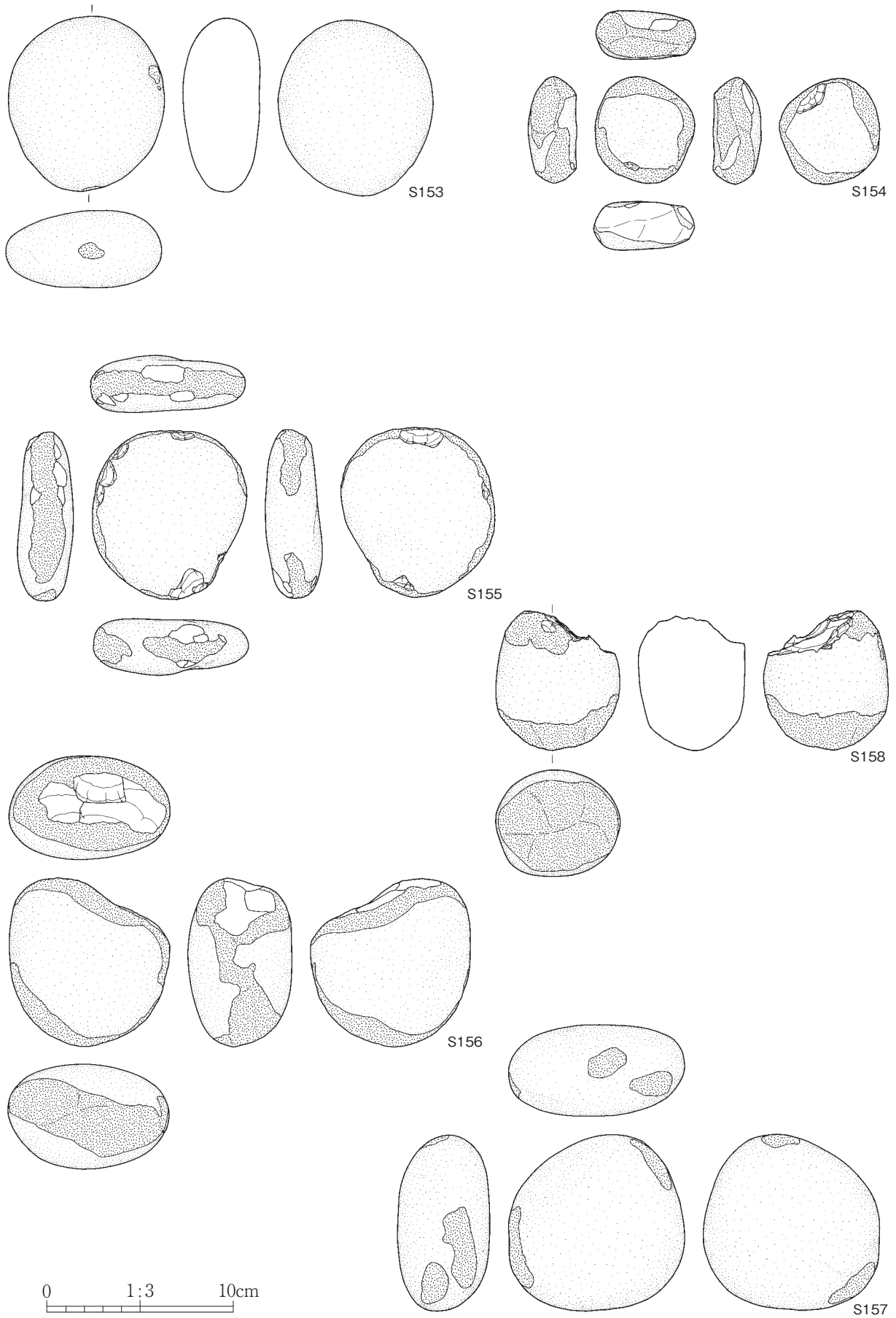


第115図 出土遺物(39)



0 1:3 10cm

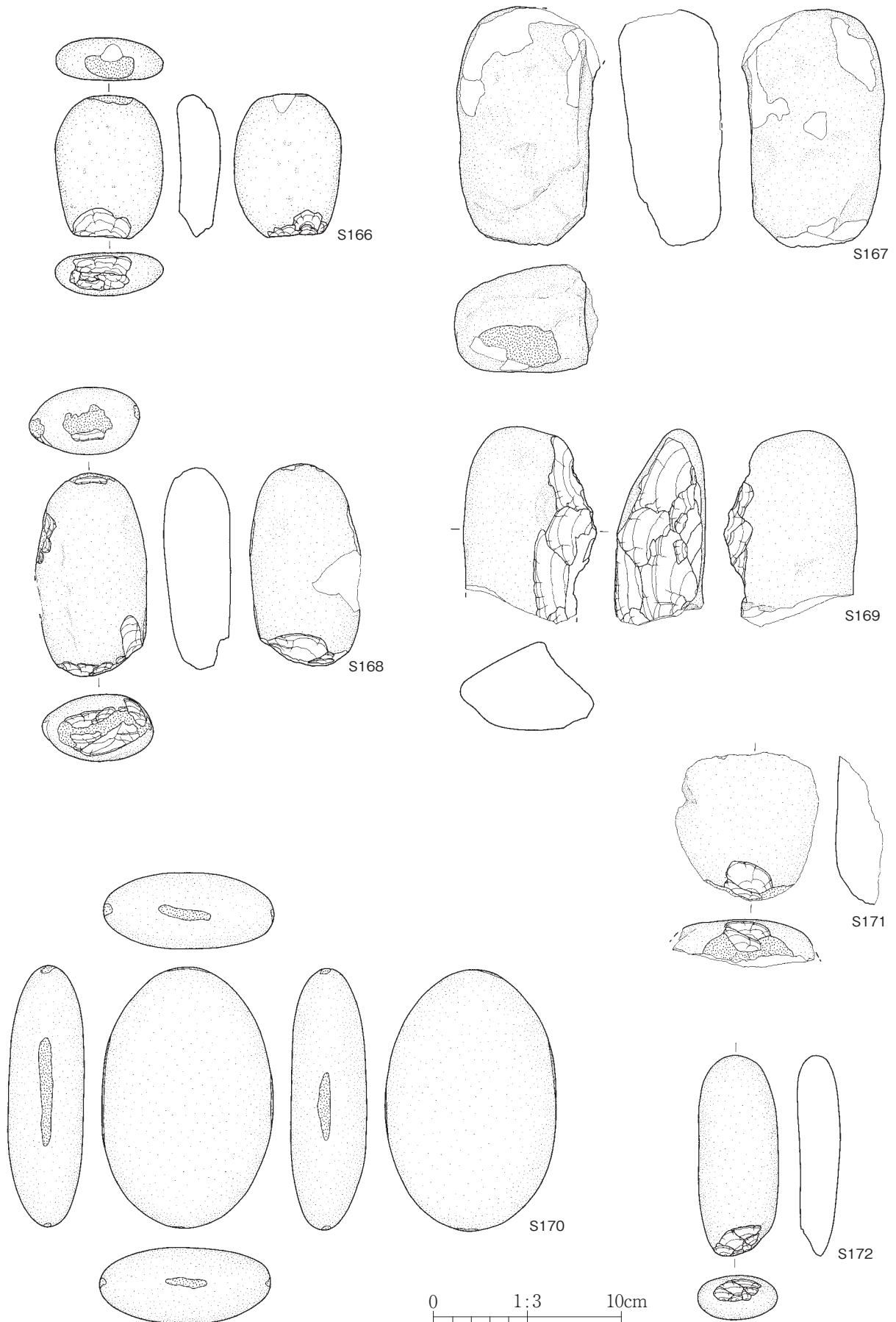
第116図 出土遺物(40)



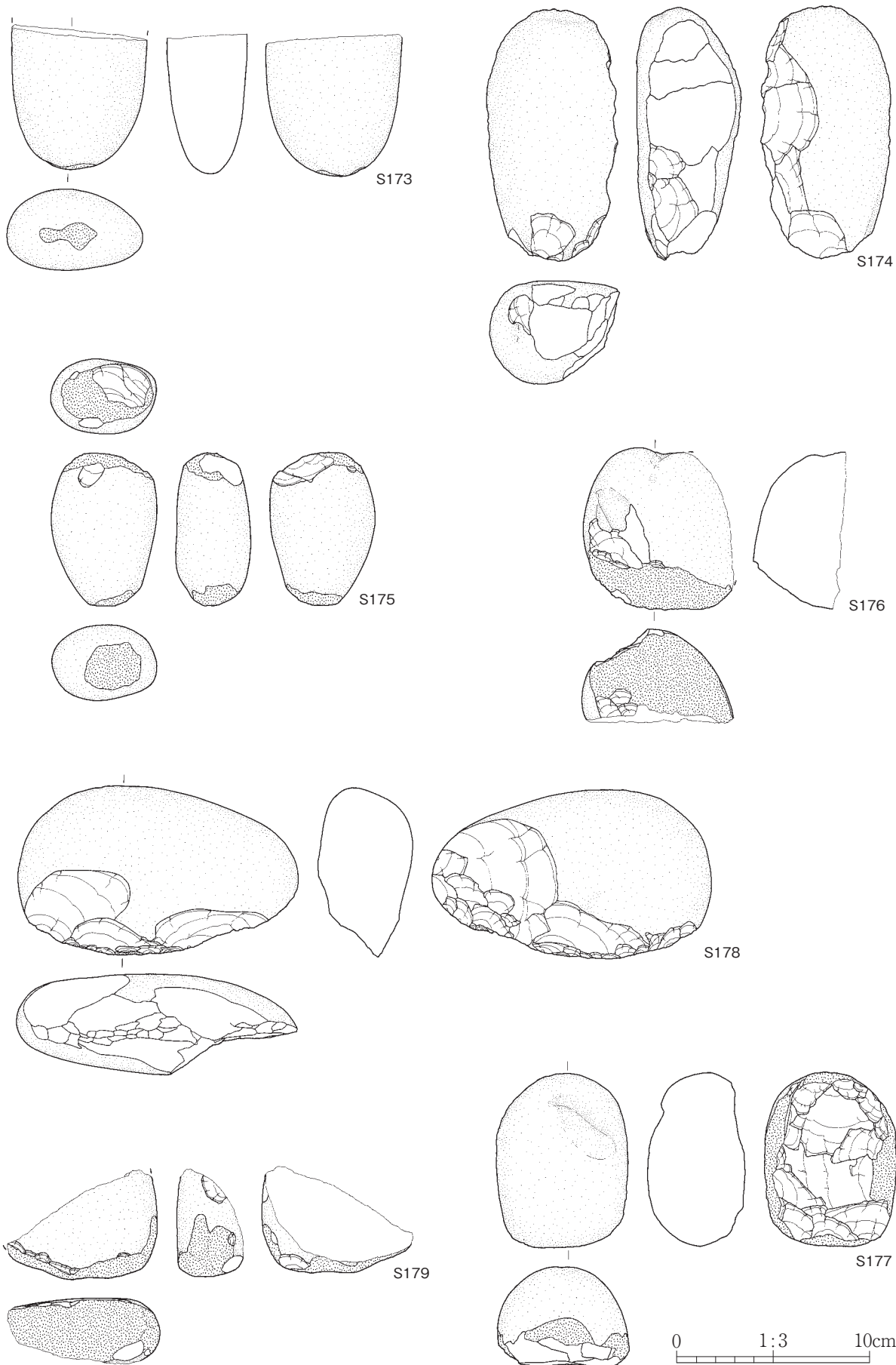
第117図 出土遺物(41)



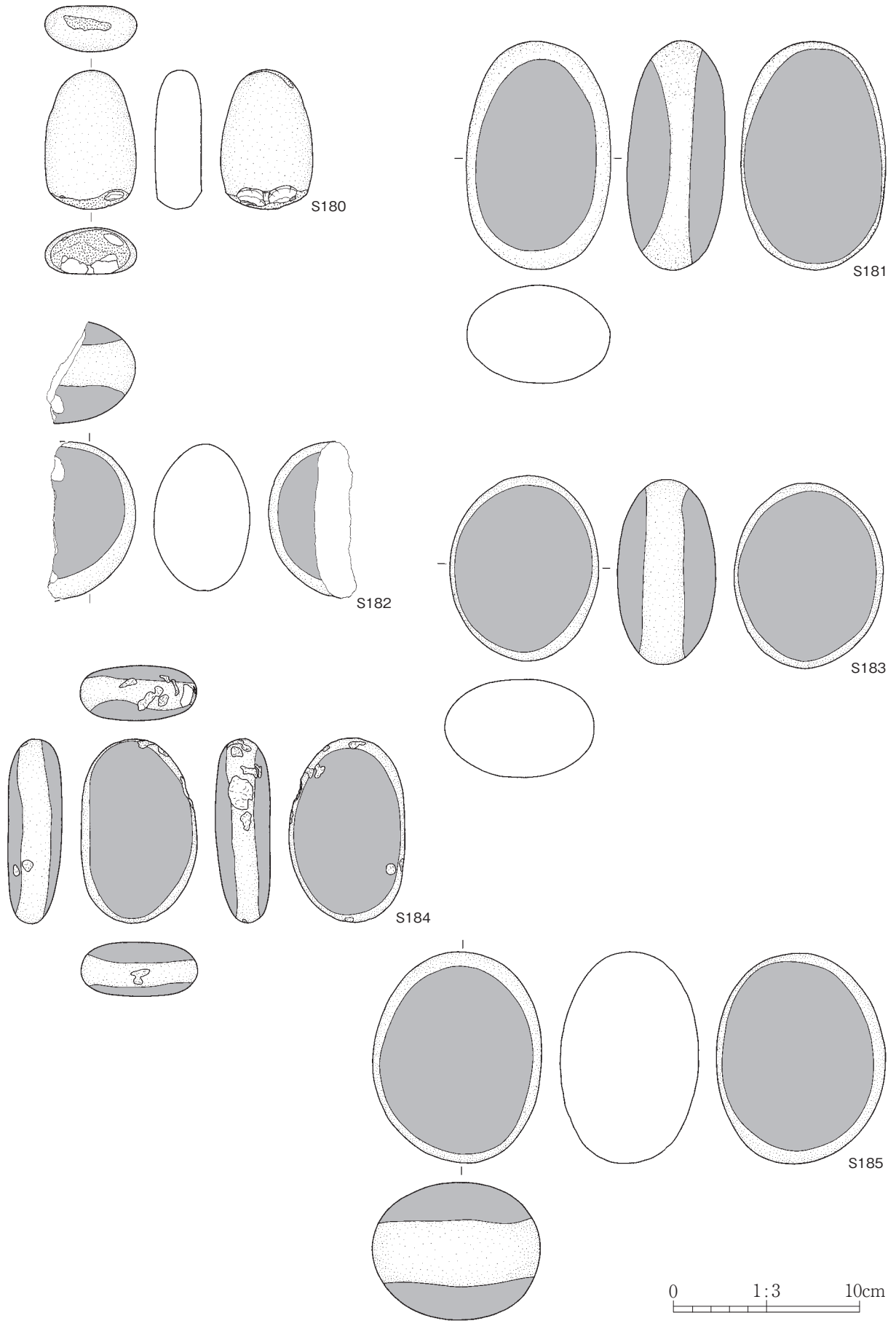
第118図 出土遺物(42)



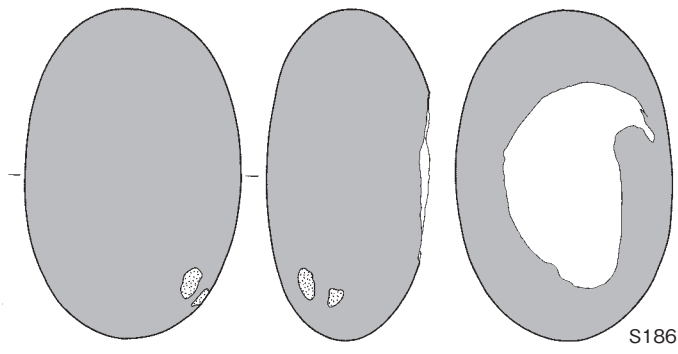
第119図 出土遺物(43)



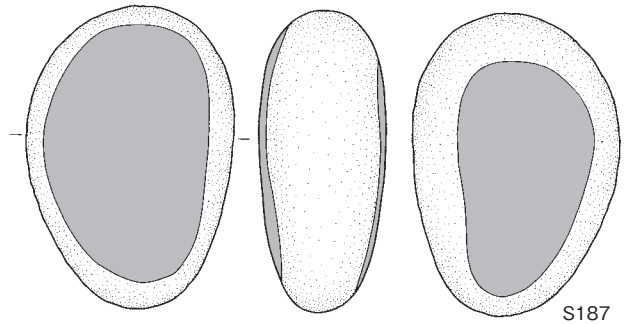
第120図 出土遺物(44)



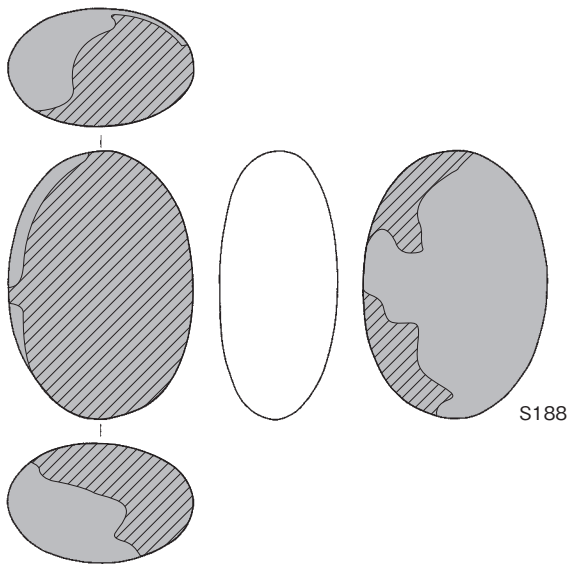
第121図 出土遺物(45)



S186



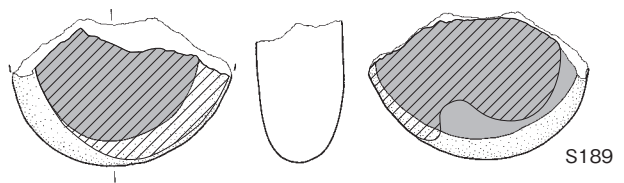
S187



S188

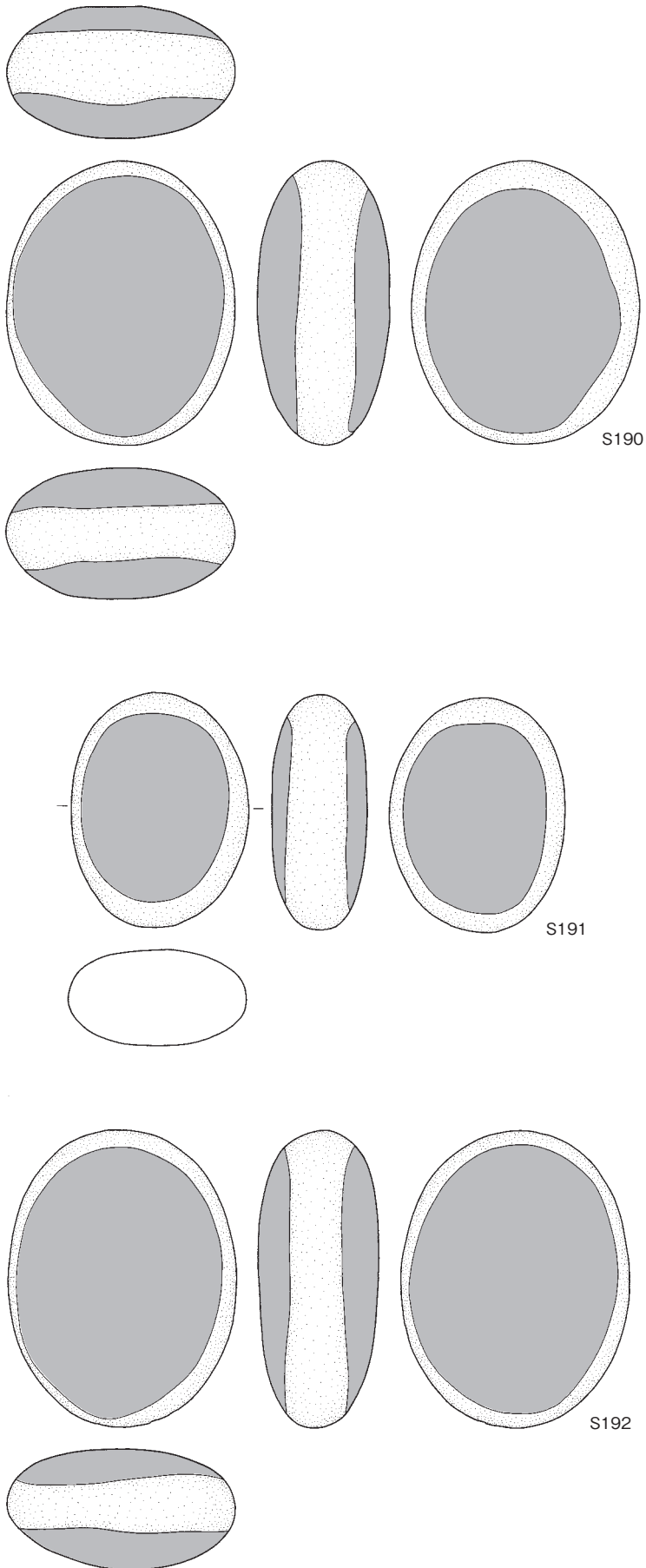
スス附着

0 1:3 10cm

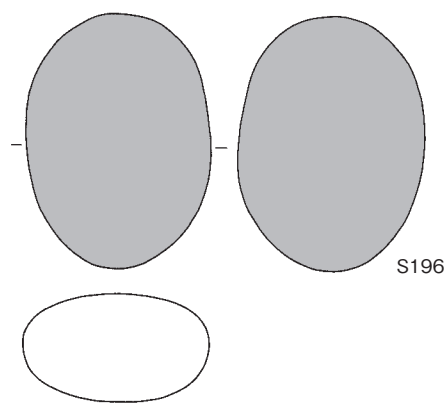
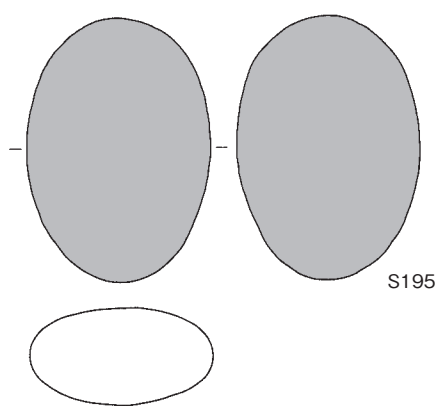
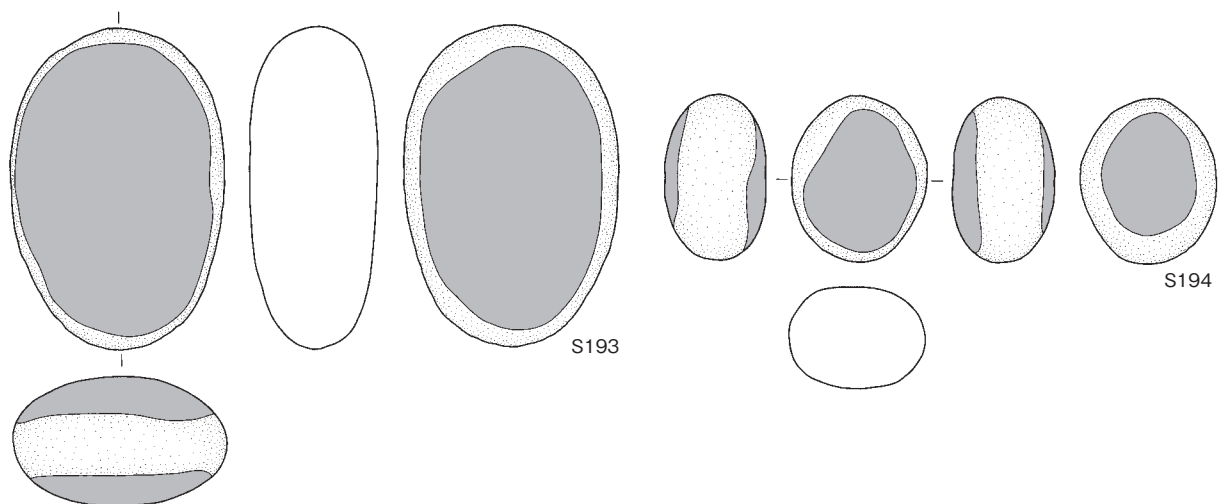


S189

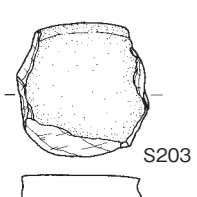
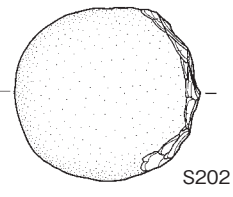
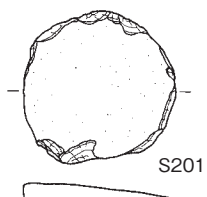
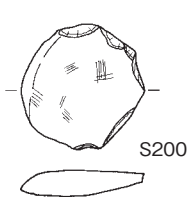
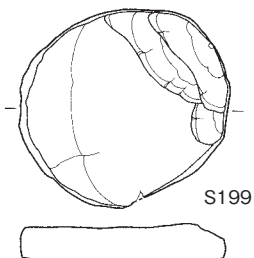
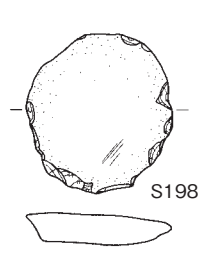
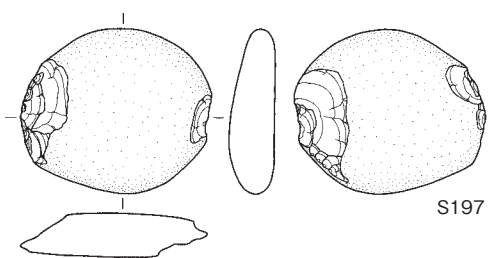
第122図 出土遺物(46)



第123図 出土遺物(47)

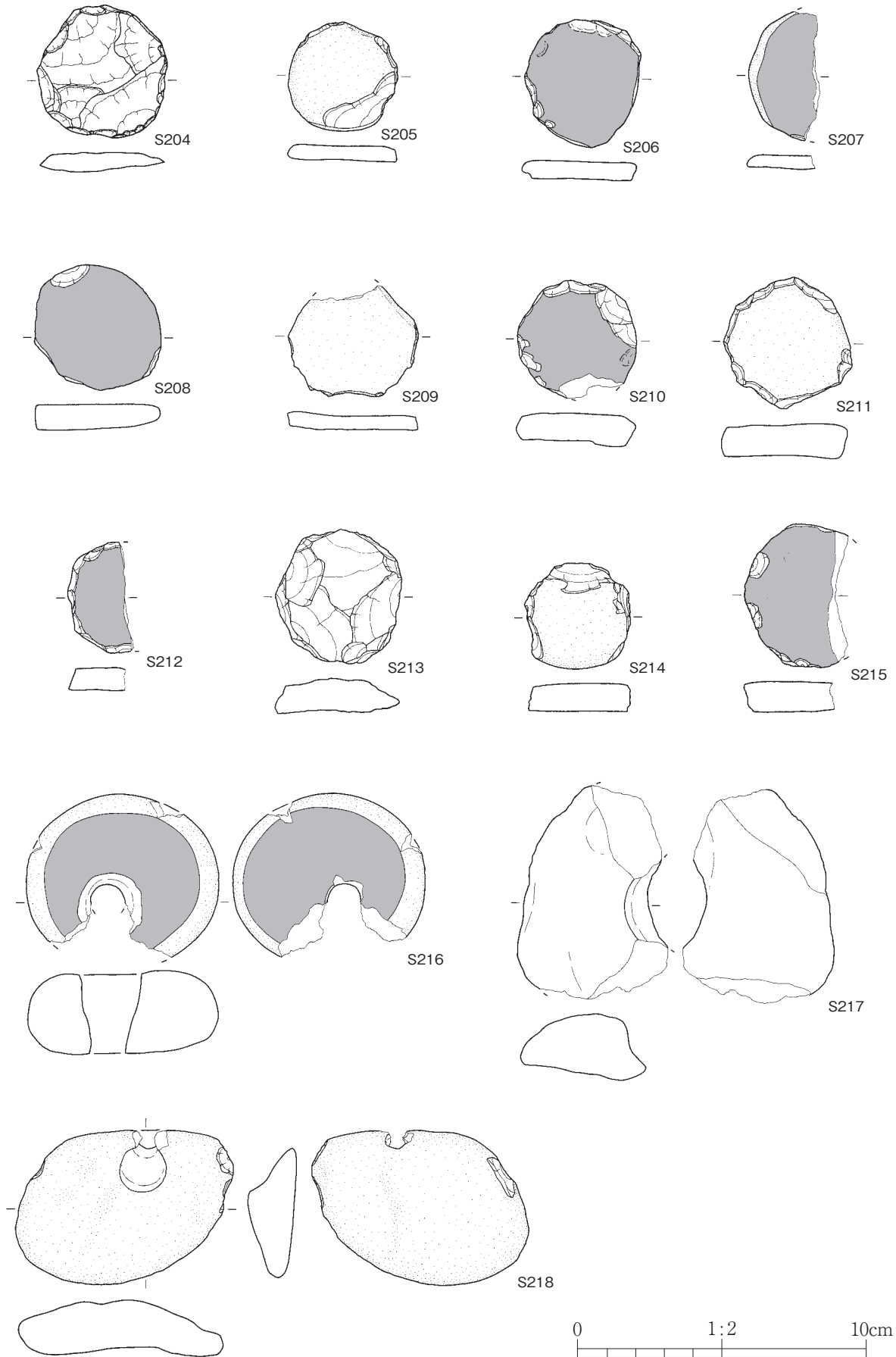


0 1:3 10cm

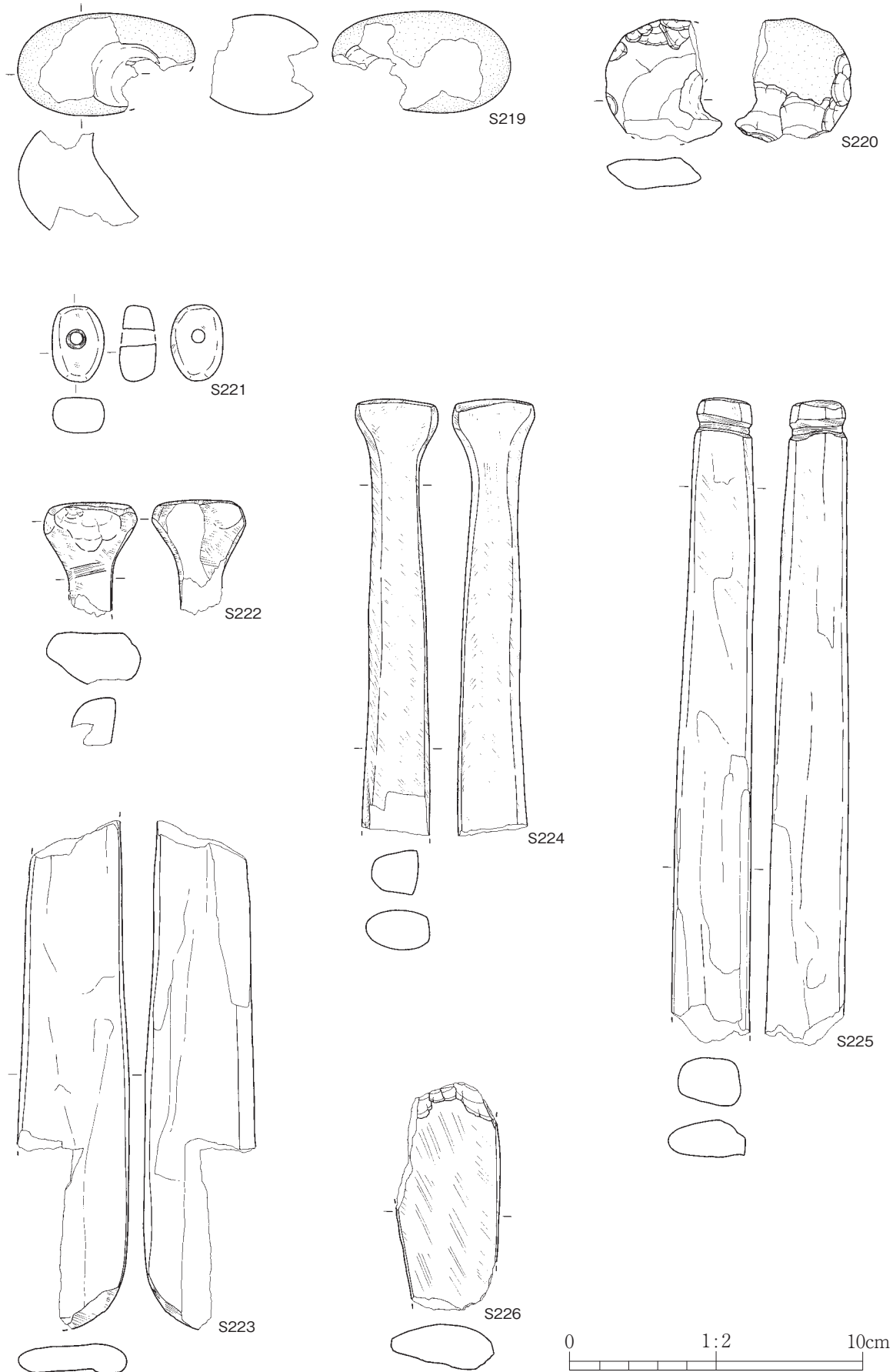


0 1:2 10cm

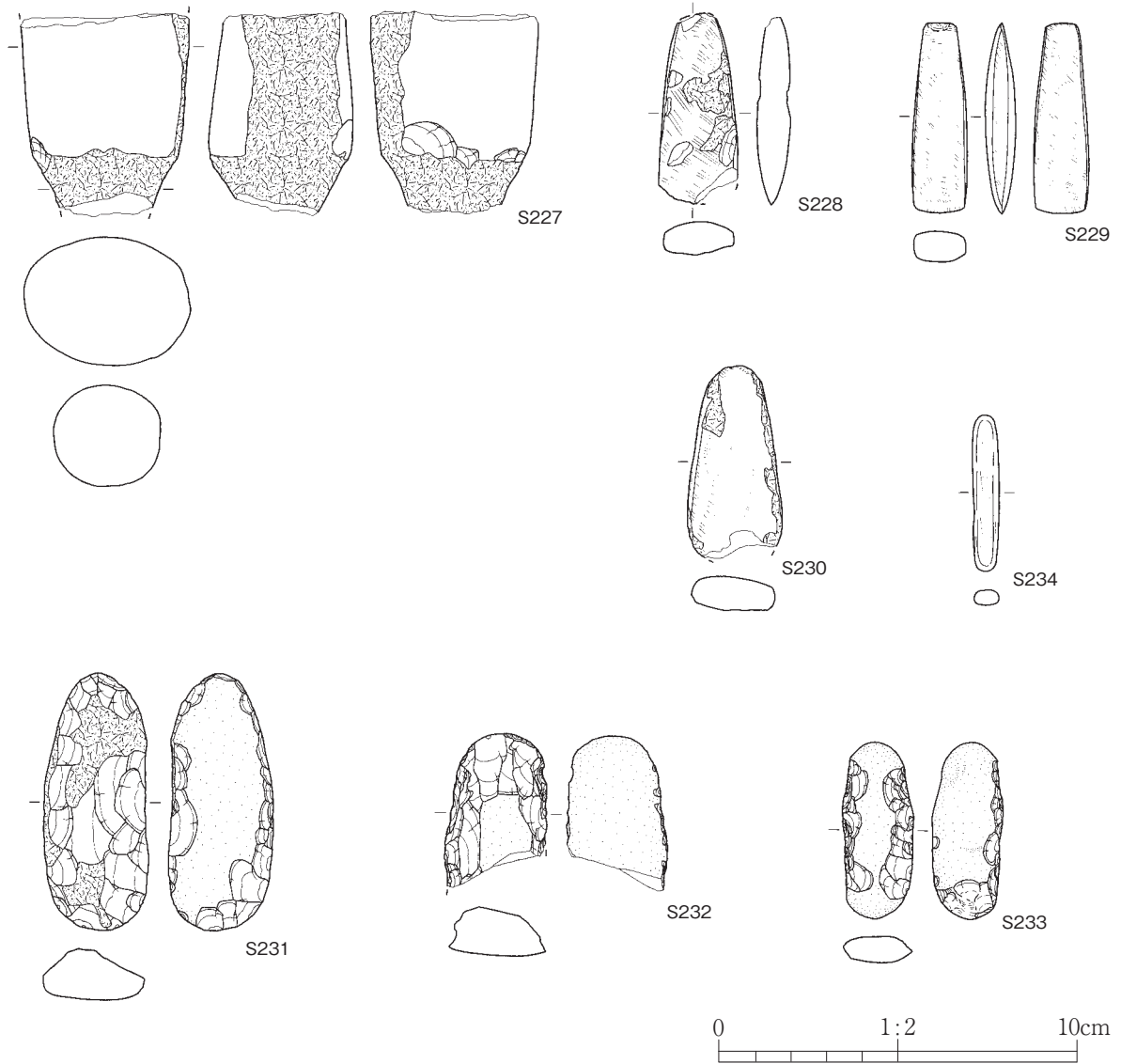
第124図 出土遺物(48)



第125図 出土遺物(49)



第126図 出土遺物(50)



第127図 出土遺物(51)

第3表 土器観察表

No	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
1	77	54	20号集石、I A12l	深鉢	胴	貝殻腹縁文		A	早期
2	77	54	46号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁に沿う貝殻腹縁文、胴部は斜位		A	早期
3	77	54	I A11l 構築面～IV層	深鉢	胴	貝殻腹縁文(縦に3条や斜位などランダムな施文)		A	早期
4	77	54	I A17p II層下	深鉢	口～胴	貝殻腹縁文		A	早期
5	77	54	I A17p II層下	深鉢	胴下	貝殻腹縁文		A	早期
6	77	54	I A15n III～IV層	深鉢	底	貝殻文尖底部		A	早期
7	77	54	42号集石 検出面	深鉢	口	結節羽状縄文、繊維混入	RL	B	前期
8	77	54	I A5f 整地層2下暗褐色土	深鉢	胴	尖底、繊維混入、単軸絡条体	LR+RL	B	早期末～前期初
9	77	54	6号集石	小型深鉢	口	単節→原体圧痕2条	LR	C	中期末～後期初?
10	77	54	7号集石 検出面	小型深鉢	口	単節→原体圧痕2条	LR	C	中期末～後期初?
11	77	54	7号集石 検出面	小型鉢	口	口縁と胴部を沈線で区画	無節R	C	後期
12	77	54	7号集石 クリーニング時	小型深鉢	口	小波状口縁、平行沈線	駒板?	C	後期末?
13	77	54	8号集石	小型鉢	口	単節→原体圧痕1条	LR?	C	中期末～後期初?
14	77	54	26号集石 クリーニング時	台付鉢	胴～脚	胴部に連続する円形刺突2列	無節L?	C	中期末～後期?
15	77	54	38号集石 検出面	深鉢	胴	単節→連続する円形刺突2列	LR	C	中期末～後期初
16	77	54	I A10l 構築面～IV層上	深鉢	口	単節→口縁部との境に原体圧痕1条	LR	C	中期末～後期初?
17	77	54	I A12n トレンチI II層	深鉢	口～胴	幅広口縁(平行沈線間)、内外面アバタ	無節R?	C	中末～後期初
18	77	54	生文課トレンチNo49	深鉢	胴	隆帯に沿う円形刺突、内外面アバタ	LR	C	後期初頭
19	77	54	I A11j 整地層2下暗褐色土	深鉢	胴	隆帯を挟み円形刺突列2列、単節	LR	I	後期初
20	77	54	I A13l 層位不明	吊手土器	口	単節→隆沈線、入組文、口唇上突起に上から刺突	LR	I	後期初～前
21	77	54	1号住P2 埋土	深鉢	口	山形口縁、単節→沈線区画、沈線伴う隆帯	LR?	IかII	中期末～後期初
22	77	54	1号住P2・ベルト内 埋土(46と同一)	深鉢	口	山形口縁、隆沈線、隆帯上に無節→縦位の円形刺突列	無節L	IかII	中期末～後期初
23	77	54	6号土坑 埋土(19と同一)	深鉢	口	山形口縁部、隆帯上に無節→縦位の円形刺突列	無節L	IかII	中期末～後期初
24	77	54	17号土坑 埋土	鉢	口	単節→平行沈線、ボタン状貼付上に円形刺突、口唇上部に刺突	LR	IかII	中期末～後期初
25	77	54	34号土坑	深鉢	口	山形口縁、隆沈線、隆帯上に単節→円形刺突、口唇上部に沈線	RL	IかII	中期末～後期初
26	77	54	20号集石 検出面	深鉢	口	折り返し山形口縁、刺突のあるボタン状貼付、沈線区画文、内面アバタ		IかII	中期末～後期初
27	77	54	20号集石 検出面	深鉢	胴	羽状縄文、隆帯ハガレ、横位の円形刺突列、内面アバタ	LR+RL	IかII	中期末～後期初
28	77	54	57号集石	深鉢	口	隆帯上に単節(沈線の縁取り)	LR	IかII?	中期末～後期初
29	77	54	I A7i	深鉢	口	波状口縁、隆帯・沈線による方形区画文(口唇部に隆沈線)		IかII	後期初
30	78	54	I A8g 整地層2下暗褐色土	壺	口	平行沈線(交差部の突起剥落)、内面ミガキ		IかII?	後期初
31	78	54	I A11m II層	深鉢	口	口縁部肥厚(突起)、単節、沈線の縁取り		IかII?	後期初?
32	78	54	1号住 東側埋土	深鉢	胴	S字状入組文		II	後期初～前
33	78	54	1号住ベルト内 埋土	小型鉢	口	小波状口縁、単節→区画文	LR	II	後期初
34	78	54	1号住ベルト内 埋土	深鉢	口	折り返し山形口縁、単節→隆帯・ボタン状貼付、沈線区画文	RL	II	後期初
35	78	54	4号集石 検出面	大型壺	肩	隆沈線、内外面アバタ多い		II	後期初～前
36	78	54	10号集石下部土坑 埋土	鉢	胴	隆沈線、内面アバタ		II	後期初～前
37	78	54	20号集石下部土坑 埋土	深鉢	口～胴	山形口縁、単節→入組文、胴部単節、内面アバタ	RL	II	後期初
38	78	54	26号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁、隆帯による渦巻文		II	後期初
39	78	54	27号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁、隆沈線による渦巻文、内面アバタ		II	後期初
40	78	54	47号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	隆沈線と三角形?区画文、ボタン状の円文、内外ミガキ		II	後期初
41	78	54	I A4f 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	小波状口縁、単節→口縁に沿う沈線区画文		II	後期初～前
42	78	54	I A5g 整地層2上面	深鉢	口	波状口縁に沿う区画文、内・外面アバタ	LR?	II	後期初～前
43	78	54	I A10i 整地層2下暗褐色土	鉢	口～底	平行沈線、胴部中央に隆帯、底部に網代痕		II	後期初
44	78	54	I A9i 暗褐色土上面	大型壺	胴	隆沈線による区画文、内外面ミガキ		II	後期初
45	78	54	I A9i 整地層2下暗褐色土	大型壺	口	隆沈線、突起に上下左右から穿孔、赤色顔料付着、ミガキ		II	後期初
46	78	54	2号集石 検出面	深鉢	口	S字状入組文、内外面アバタ	?	II～III	後期初～前
47	78	55	I A9g 内帯石列付近	吊手土器	略完形	単節→入組文、胴部2段に穿孔突起、胴部下端ケズリ	RL	II～III	後期初～前
48	78	55	6号集石 検出面	深鉢	口	沈線3条、内外面アバタ多い		IIかIII	後期初～前
49	78	55	58号集石	小型鉢	口	平行沈線、内外面ミガキ		IIかIII	後期初～前
50	78	55	59号集石 検出面	壺	胴	平行沈線		IIかIII	後期初～前
51	78	55	I A8j I～III層	深鉢	口～胴	山形口縁、隆沈線(内彫的)による区画文	LR	IIかIII	後期初
52	78	55	I A9h 整地土下トレンチ	深鉢	口	山形口縁、隆沈線、隆帯上に単節縄文、ボタン状	RL	IIかIII	後期初～前
53	78	55	I A11h III～IV層	鉢	口	隆沈線、突起に上から刺突、入組文		IIかIII	後期初～前
54	79	55	1号住 北側クリーニング時	深鉢	胴	隆沈線、隆帯上に単節、方形区画文	LR	III	後期初～前
55	79	55	1号住 西側埋土	深鉢	胴	単節→方形区画文?	LR	III	後期初～前
56	79	55	1号住 西側埋土	小型鉢	口	沈線区画文		III	後期初～前
57	79	55	18号土坑 埋土	鉢	口	無節→連続する入組文	無節L	III	後期初～前
58	79	55	24号土坑 埋土中位	壺	胴	平行沈線(三角文)、外面ミガキ		III	後期初～前
59	79	55	24号土坑	深鉢	口	山形口縁、単節→平行沈線、磨消、内面ミガキ	LR	III	後期初～前
60	79	55	32号土坑 埋土	深鉢	胴	単節→沈線による区画文	LR	III	後期初～前
61	79	55	34号土坑	深鉢	胴	入組文	LR	III	後期初～前
62	79	55	35号土坑	深鉢	口	単節、口縁部の無文帯と一部方形区画文?	LR	III	後期初～前
63	79	55	4号集石 クリーニング時	深鉢	口～胴	単節→方形区画文	RL?	III	後期初～前
64	79	55	4号集石 検出面	深鉢	口	無節→平行沈線、弧状文(横)	無節L	III	後期初～前
65	79	55	4号集石 検出面	深鉢	口	無節→三角文・弧状文	無節L	III	後期初～前
66	79	55	4号集石下部土坑 埋土、I A9iほか	小型鉢	口～胴	口縁突起4単位、巴状入組文	LR	III	後期初～前
67	79	55	5号集石	深鉢	口	平行沈線、内面ミガキ	無節L	III	後期初～前
68	79	55	6号集石 検出面	鉢	口	単節→区画文	LR	III	後期初～前
69	79	55	7号集石 検出面	吊手土器	口	上下方向の穿孔突起、沈線区画		III	後期初～前
70	79	55	7号集石 検出面	深鉢	胴	巴状入組文、内面アバタ		III	後期初～前
71	79	55	7号集石 検出面・クリーニング時	深鉢	口～胴	波状口縁、弧状文、内面アバタ	LR	III	後期初～前
72	79	55	7号集石、I A9k・10j III～IV層ほか	深鉢	口～胴	単軸絡条体、内面アバタ、口縁部に曲線文	無節L	III	後期初～前
73	79	55	8号集石 検出面	深鉢	口	隆沈線(内彫的)、内外面ミガキ	LR?	III	後期初～前

IV 検出遺構と出土遺物

No.	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
74	79	55	8号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	単節→区画文	LR	Ⅲ	後期初～前
75	79	55	9号集石 検出面	深鉢	胴	入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
76	79	55	12号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単節→区画文(方形?)	LR	Ⅲ	後期初～前
77	79	55	13号集石 検出面	深鉢	口	山形口縁(山形部分に突起)、単節→三角文	LR?	Ⅲ	後期初～前
78	79	55	16号集石	深鉢	口	平行沈線2条	無節L	Ⅲ	後期初～前
79	79	55	18号集石	深鉢	胴	入組文、内外ミガキ		Ⅲ	後期初～前
80	79	55	19号集石 クリーニング時	深鉢	胴	単節→入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
81	79	55	20号集石 検出面	深鉢	口	単節→隆沈線、隆帯上に単節、口唇から垂下する突起	LR	Ⅲ	後期初～前
82	79	55	20号集石 検出面	小型鉢	胴	単節→入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
83	79	55	20号集石 検出面	小型鉢	胴	無節?→入組文	無節L	Ⅲ	後期初～前
84	79	55	20号集石 検出面	壺	肩	隆沈線による方形区画、内外面アバタ		Ⅲ	後期初～前
85	79	55	23号集石下部土坑	深鉢	口	波状口縁、山形突起、単節→口唇に沿う平行沈線	RL	Ⅲ	後期初～前
86	80	55	24号集石	深鉢	口	山形口縁とそれに沿う平行沈線、単節→入組文	LR?	Ⅲ	後期初～前
87	80	55	24号集石 検出面	深鉢	胴	単節?→連弧文		Ⅲ	後期初～前
88	80	55	24号集石 検出面	鉢	胴	巴状入組文		Ⅲ	後期初～前
89	80	55	24号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	単節→入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
90	80	55	24号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	単節→入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
91	80	55	25号集石 検出面	深鉢	胴	単節→三角文	LR	Ⅲ	後期初～前
92	80	55	26号集石 検出面	深鉢	口	単節→平行沈線(区画文)	LR	Ⅲ	後期初～前
93	80	55	26号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁、単節→連結入組文	RL?	Ⅲ	後期初～前
94	80	56	27号集石 検出面	小型鉢	胴	隆沈線と方形区画文		Ⅲ	後期初
95	80	56	29号集石 検出面	深鉢	胴	弧状入組文、赤色顔料付着		Ⅲ	後期初～前
96	80	56	30号集石	深鉢	口	山形口縁、単節→巴状入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
97	80	56	40号集石	深鉢	口	単節→円形刺突、沈線区画、磨消	LR	Ⅲ	後期初
98	80	56	41号集石 検出面	鉢	口	小波状口縁、口唇上に沈線、単節→平行沈線	LR	Ⅲ	後期初～前
99	80	56	42号集石 検出面	深鉢	胴	単節→隆沈線による渦巻文	LR	Ⅲ	後期初
100	80	56	45号集石	深鉢	胴	隆沈線		Ⅲ	後期初～前
101	80	56	45号集石 検出面	深鉢	口	無節→沈線と突起、突起部口唇上から刺突	無節L	Ⅲ	後期初～前
102	80	56	47号集石 検出面	深鉢	胴	単節→方形区画文	LR	Ⅲ	後期初～前
103	80	56	53号集石 検出面	深鉢	口	隆沈線、隆帯上に単節	RL	Ⅲ	後期初～前
104	80	56	53号集石 検出面	深鉢	胴	無節→隆沈線、方形区画?	無節L	Ⅲ	後期初～前
105	80	56	55号集石 検出面	深鉢	胴	単節→入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
106	80	56	58号集石	深鉢	胴	単節→方形区画文	LR	Ⅲ	後期初～前
107	80	56	58号集石 検出面ほか	小型壺	口～胴	隆帯による区画文、内外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
108	80	56	59号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	山形口縁、単節→隆沈線、隆帯上に単節	LR	Ⅲ	後期初～前
109	80	56	内帯P1 整地層2下暗褐色土～IV層	壺	口～底	縦位の隆帯で4分割の区画、方形区画文		Ⅲ	後期初～前
110	80	56	2号焼土内	深鉢	口	三角形区画文、内外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
111	81	56	10号炉跡埋設、I A7整地層2内ほか	深鉢	口～底	巴状入組文、内面アバタ	LR	Ⅲ	後期初～前
112	81	56	I A3e II層	小型鉢	口	平行沈線の交差部分に突起、外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
113	81	56	I A3e II層	切断壺	口～肩	巴状入組文		Ⅲ	後期初～前
114	81	56	I A4e・5e	吊手土器	胴	巴状入組文		Ⅲ	後期初～前
115	81	56	I A4e・5e	深鉢	口	波状口縁、単節→平行沈線、弧状区画文?、内面アバタ	RL	Ⅲ	後期初～前
116	81	56	I A4e・5e	深鉢	口	単節→沈線による区画	RL	Ⅲ	後期初
117	81	57	I A4e・5eほか Ⅲ～IV層上面	深鉢	口	波状口縁、磨消縄文(平行沈線)、内面アバタ	LR	Ⅲ	後期初～前
118	81	57	I A5f Ⅲ層相当上面・整地層中	鉢	口～底	平行沈線による弧状文		Ⅲ	後期初～前?
119	81	57	I A5f 整地層2下暗褐色土	深鉢	胴～底	無節→波状入組文?	無節L	Ⅲ	後期初～前
120	81	57	I A5g 整地層2下暗褐色土	小型深鉢	口	山形突起、波状口縁、無節→口縁に沿う平行沈線	無節L	Ⅲ	後期初～前
121	81	57	I A5g 整地層2下暗褐色土	壺	胴	隆沈線による方形区画文、内外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
122	81	57	I A6f 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	山形突起、単節→それに沿う沈線	LR	Ⅲ	後期初～前
123	82	57	I A6g 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	波状口縁、巴状入組文、内面アバタ	LR?	Ⅲ	後期初～前
124	82	57	I A6g・7g 整地層2下暗褐色土ほか	吊手土器	口～底	肉彫的な方形区画文、内面アバタ、口唇2箇所と胴部下半部に尖孔突起	LR	Ⅲ	後期初～前
125	82	57	I A7g 整地層2中	深鉢	口	隆沈線による区画文、外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
126	82	57	I A7i 整地層2下暗褐色土	小型鉢	胴	隆・沈線による区画文、内面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
127	82	57	I A7k 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	単節→平行沈線、波状入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
128	82	57	I A8g 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	隆沈線による弧状文		Ⅲ	後期初～前
129	82	57	I A8g 内帯外側 整地層2内ほか	鉢	口	小波状口縁、口唇上に尖孔、隆沈線による区画文		Ⅲ	後期初～前
130	82	57	I A8i 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	波状口縁に沿う区画文	RL	Ⅲ	後期初～前
131	82	57	I A9g 内帯外側整地層2下暗褐色土	吊手土器	口～胴	突起に上下から穿孔、単節→方形文、隆帯上に単節縄文	RL	Ⅲ	後期初～前
132	82	57	I A9h 整地土2下暗褐色土ほか	吊手土器	口	連結する入組文、突起に上下から穿孔		Ⅲ	後期初
133	82	57	I A9j 構築面～IV層	深鉢	口	単節→平行沈線、沈線間無文、内面アバタ	LR	Ⅲ	後期初～前
134	82	57	I A9i 南北バット 整地層1・2内	深鉢	口	小波状口縁、隆沈線による区画、隆帯上に単節縄文	LR	Ⅲ	後期初～前
135	82	57	I A9j 整地層上面	深鉢	口	山形口縁、三角文	無節L	Ⅲ	後期初～前
136	82	57	I A10g・10h 整地層内	大型壺B	胴	巴状入組文(468と同一)		Ⅲ	後期初～前
137	82	57	I A10h 南北トレンチ 整地層2下	大型壺	肩	隆沈線、入組波状文		Ⅲ	後期初～前
138	82	57	I A10j 構築面～IV層	壺	口	隆沈線、隆帯上に単節?	LR?	Ⅲ	後期初～前
139	82	57	I A10k 構築面～IV層	鉢	口	隆沈線、隆帯上に単節、内外面ミガキ	LR	Ⅲ	後期初～前
140	82	57	I A10k 整地層2内	深鉢	口	山形口縁に沿う隆沈線、隆帯上に単節、内外面ミガキ	LR	Ⅲ	後期初～前
141	82	58	I A10k II層下 土器片集中箇所	深鉢	口～底	巴状入組文、縦位展開の弧状文、内面ミガキ	LR	Ⅲ	後期初～前
142	82	58	I A11i 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	山形口縁、隆沈線、隆帯上に単節、入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
143	82	58	I A11k 構築面～IV層	小型鉢	口～胴	細い沈線による巴状入組文、内外面ミガキ		Ⅲ	後期初～前
144	83	58	I A11m II～III層	深鉢	口	突起に伴う山形口縁、無節→平行沈線、内面アバタ		Ⅲ	後期初～前
145	83	58	I A11m II層	深鉢	口	単節→平行な隆沈線、隆帯上に単節、内面アバタ		Ⅲ	後期初～前
146	83	58	I A12l 構築面～IV層	深鉢	口	単節→平行する隆沈線、入組文	LR	Ⅲ	後期初～前
147	83	58	I A13j II層	深鉢	口	山形口縁、単節→磨消、平行沈線間単節残る	RL	Ⅲ	後期初～前
148	83	58	I A14i・58号集石周辺	深鉢	口	区画文(連結部に突起)	LR	Ⅲ	後期初～前

No.	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
149	83	58	I A14l 層位不明	深鉢	口	山形口縁、単節→平行沈線(波状入組文)	L R	Ⅲ	後期前
150	83	58	I A15i	深鉢	胴	三角形区画文、内面アバタ	無節L	Ⅲ	後期初～前
151	83	58	I A15l・16l Ⅱ層下	深鉢	口	山形口縁、沈線区画		Ⅲ	後期初～前
152	83	58	4号住付近 Ⅳ層面クリーニング時	深鉢	口～胴	弧状文		Ⅲ～Ⅳ	後期前
153	83	58	48号集石 検出面	小型鉢	胴～底	沈線区画文		Ⅲ～Ⅳ	後期初～前
154	83	58	49号集石 検出面	深鉢	口	山形口縁、無節→口縁に沿う平行沈線	無節L	Ⅲ～Ⅳ	後期初～前
155	83	58	I A8g 南東列石内 整地層2	壺	肩	隆沈線の方形区画文		Ⅲ～Ⅳ	後期初～前
156	83	58	I A9f 集石検出面	吊手土器	口	山形口縁、入組文、突起に上下から穿孔		Ⅲ～Ⅳ	後期前
157	83	58	I A15i	深鉢	口	単節→平行沈線(入組文)	L R ?	Ⅲ～Ⅳ	後期初～前
158	83	58	I A18k Ⅱ層上	深鉢	口	単節→平行沈線(方形区画文)	R L	Ⅲ～Ⅳ	後期初～前
159	83	58	1号住 東側埋土	鉢	胴～底	単節→方形区画文	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
160	83	58	1号住 西側埋土	小型鉢	胴	沈線で連結する入組文		ⅢかⅣ	後期初～前
161	83	58	1号住 西側埋土	壺	肩	平行沈線、弧状文?		ⅢかⅣ	後期初～前
162	83	58	1号住 西側埋土	小型深鉢	口	無節→方形区画文	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
163	83	58	1号住 西側埋土	深鉢	胴	単節→方形区画文	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
164	83	58	3号住 埋土下部・P1、4号住	壺	口～底	2条の沈線による三角文		ⅢかⅣ	後期初
165	83	58	3号住 埋土下部	深鉢	胴	隆帯、沈線の連結		ⅢかⅣ	後期初～前
166	83	58	5号住Pit1	深鉢	胴	平行沈線、外面赤色顔料付着?		ⅢかⅣ	後期初～前
167	83	58	5号住遺構上部 整地層2内	深鉢	胴	弧状文?		ⅢかⅣ	後期初～前
168	83	58	17号土坑 埋土	小型鉢	胴	曲線文		ⅢかⅣ	後期初～前
169	83	58	22号土坑 埋土下位	鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期
170	83	58	26号土坑	鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期
171	83	58	26号土坑	深鉢	口	山形口縁に沿う沈線		ⅢかⅣ	後期
172	83	58	34号土坑	小型鉢	口	平行沈線区画、外面側に低い突起		ⅢかⅣ	後期初～前
173	83	58	1号集石 検出面	深鉢	胴	入組文、内面アバタ		ⅢかⅣ	後期初～前?
174	83	58	2号集石 検出面	小型深鉢	口	平行沈線	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
175	83	58	3号集石 検出面	深鉢	口	区画文	L R	ⅢかⅣ	後期初～前?
176	83	58	3号集石 検出面	小型鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期初～前?
177	83	58	3号集石 検出面	深鉢	胴	区画文		ⅢかⅣ	後期初～前?
178	83	58	3号集石	深鉢	胴	入組文	L R	ⅢかⅣ	後期初～前?
179	83	58	4号集石	鉢	胴	隆沈線による区画文、内面アバタ		ⅢかⅣ	後期初～前
180	83	58	4号集石 検出面	鉢	口	平行沈線、方形区画文、内外面アバタ		ⅢかⅣ	後期初～前
181	83	58	4号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	波状口縁、単節→平行沈線	L R	ⅢかⅣ	後期初～前
182	83	58	5号集石	小型鉢	胴	平行沈線		ⅢかⅣ	後期初～前
183	83	58	5号集石 検出面	小型鉢	口	平行沈線、入組文?		ⅢかⅣ	後期初～前
184	83	58	5号集石 検出面	深鉢	胴	沈線区画、内外面アバタ多い		ⅢかⅣ	後期初～前
185	83	58	5号集石 クリーニング時	壺?	胴	入組曲線文		ⅢかⅣ	後期初～前
186	83	58	6号集石下部土坑	深鉢	胴	曲線文		ⅢかⅣ	後期初～前
187	83	58	7号集石 検出面	吊手土器	口	上下方向の穿孔突起、沈線		ⅢかⅣ	後期初～前
188	83	58	8号集石下部土坑 埋土	鉢	胴	平行沈線、入組文		ⅢかⅣ	後期初～前
189	83	58	8号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	入組文		ⅢかⅣ	後期初～前
190	84	58	9号集石 検出面	深鉢	口	単節→平行沈線	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
191	84	58	9号集石 検出面	鉢	胴	平行沈線		ⅢかⅣ	後期初～前
192	84	58	9号集石	鉢	胴	三角文		ⅢかⅣ	後期初～前
193	84	58	9号集石	深鉢	口	小突起、単節→平行沈線	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
194	84	58	10号集石下部土坑 埋土	鉢	口	隆沈線、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
195	84	58	11号集石	小型鉢	口	平行沈線3条		ⅢかⅣ	後期
196	84	59	13号集石 クリーニング時	深鉢	口	平行沈線、入組文		ⅢかⅣ	後期前
197	84	59	18号集石、I A10l 構築面～Ⅳ層	鉢	口	波状口縁、無節→平行沈線、入組文?	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
198	84	59	20号集石 検出面	鉢	口	小波状口縁、平行沈線3条		ⅢかⅣ	後期初～前
199	84	59	20号集石 検出面	壺	口下～肩	平行する隆沈線、入組文、内外面ミガキ、胎土緻密		ⅢかⅣ	後期初～前
200	84	59	20号集石 検出面	深鉢	胴	沈線3条(入組文)		ⅢかⅣ	後期初～前
201	84	59	20号集石 中層	小型鉢	口	口縁に沿う沈線、ベンガラ付着	列島展	ⅢかⅣ	後期初～前
202	84	59	20号集石 検出面	壺	肩	橋状把手の内部に隆帯2条		ⅢかⅣ	後期前
203	84	59	22号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁、単節?→口唇に沿う沈線		ⅢかⅣ	後期初～前
204	84	59	22号集石 検出面	小型鉢	胴	連続する入組文、弧状文		ⅢかⅣ	後期前
205	84	59	25号集石 検出面(北側)	深鉢	胴	弧状区画文		ⅢかⅣ	後期初～前
206	84	59	27号集石下部土坑 埋土	壺	口～肩	平行沈線、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
207	84	59	31・33号集石	小型鉢	口～胴	単節→口縁部磨消	L R	ⅢかⅣ	後期初～前
208	84	59	31号集石	深鉢	胴	弧状区画文		ⅢかⅣ	後期初～前
209	84	59	36号集石	深鉢	胴	平行沈線による区画文		ⅢかⅣ	後期初～前
210	84	59	40号集石下部土坑 埋土	鉢	胴	単節→平行沈線	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
211	84	59	41号集石 検出面	吊手土器	口	単節→平行沈線、上下方向に穿孔のある突起	R L	ⅢかⅣ	後期初～前
212	84	59	41号集石 上層	小型鉢	口	平行沈線3条、ベンガラ付着	列島展	ⅢかⅣ	後期初～前
213	84	59	42号集石 検出面	深鉢	胴	単節→弧状入組文	L R	ⅢかⅣ	後期初～前
214	84	59	44号集石 検出面	深鉢	口	山形口縁、単節→口縁に沿う平行沈線	L R	ⅢかⅣ	後期初～前
215	84	59	44号集石下部土坑 埋土	小型鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期初～前
216	84	59	47号集石 検出面	深鉢	口	単節→平行沈線	L R	ⅢかⅣ	後期初～前
217	84	59	49号集石 検出面	鉢	口	平行沈線、内面アバタ		ⅢかⅣ	後期初～前
218	84	59	49号集石 検出面	深鉢	胴	平行沈線、内外面アバタ	?	ⅢかⅣ	後期初～前
219	84	59	50号集石 検出面	小型鉢	口	平行沈線、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
220	84	59	50号集石 検出面	深鉢	胴	隆沈線、隆帯上に単節、内面アバタ	R L(0段多糸)	ⅢかⅣ	後期初～前
221	84	59	50号集石 検出面	深鉢	胴	単節→平行沈線	L R	ⅢかⅣ	後期
222	84	59	52号集石 検出面	鉢	胴	隆沈線、隆帯上に単節	L R ?	ⅢかⅣ	後期初～前
223	84	59	53号集石 検出面	深鉢	胴	単節→入組文	L R	ⅢかⅣ	後期初～前

IV 検出遺構と出土遺物

No.	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
224	84	59	55号集石 検出面	深鉢	胴	単節→弧状区画文	LR?	ⅢかⅣ	後期初～前
225	84	59	56号集石 検出面	深鉢	胴	無節→平行沈線	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
226	84	59	56号集石 検出面	鉢	胴	無節→方形区画文	無節L?	ⅢかⅣ	後期初～前
227	84	59	58号集石 検出面	深鉢	口	山形口縁上に刺突、単節→口縁に沿う平行沈線	LR?	ⅢかⅣ	後期初～前
228	84	59	58号集石	鉢	胴	単節→入組文、外面ベンガラ付着	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
229	84	59	59号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	単節→平行沈線3条	LR	ⅢかⅣ	後期前
230	84	59	内帯P1 整地層2下暗褐色土～Ⅳ層	鉢	口	平行沈線、内面アバタ	LR?	ⅢかⅣ	後期初～前
231	84	59	1号炉跡	深鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期
232	84	59	1号炉跡	鉢	口	平行沈線		ⅢかⅣ	後期
233	84	59	10号炉跡	深鉢	胴	入組文	LR	ⅢかⅣ	後期初～前?
234	84	59	P020 埋土	深鉢	胴	入組文	無節L?	ⅢかⅣ	後期初～前?
235	84	59	4号陥 底面付近	脚付土器	器台部	貫通孔		ⅢかⅣ	後期
236	84	59	6号陥 埋土	深鉢	胴	区画文	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
237	84	59	6号陥 埋土	深鉢	口	平行沈線	RL	ⅢかⅣ	後期
238	84	59	6号陥 埋土	深鉢	胴	弧状文		ⅢかⅣ	後期初～前
239	84	59	11号陥 埋土上位	深鉢	胴	平行沈線	RL?	ⅢかⅣ	後期初～前
240	84	59	I A3e Ⅱ層	壺	肩	平行沈線、外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
241	84	59	I A3e斜面部 Ⅱ層相当	深鉢	口	単節→波状区画文	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
242	84	59	I A3f 1号焼土周辺 層位不明?	鉢	口	波状口縁、平行沈線、内面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
243	84	59	I A3f 1号焼土周辺 層位不明?	小型鉢	胴	平行沈線による入組文、ミニチュア?		ⅢかⅣ	後期初～前
244	84	59	I A3f 1号焼土周辺 層位不明?	鉢か壺	胴	弧状文?内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
245	84	59	I A4f Ⅲ層相当上面	小型鉢	口	沈線区画(三角文?)		ⅢかⅣ	後期初～前
246	84	59	I A4f 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	磨消縄文(平行沈線区画)	RL	ⅢかⅣ	後期初～前
247	84	59	I A4f 整地層2下暗褐色土	鉢	口	単節→平行沈線(区画文)	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
248	85	59	I A4i 整地層2下暗褐色土	鉢	口	口縁上部に円形刺突、沈線による渦巻文		ⅢかⅣ	後期初～前
249	85	59	I A5f 整地層中	壺	肩	方形区画文?		ⅢかⅣ	後期初～前
250	85	59	I A5g 整地層2下暗褐色土	壺	口	平行沈線、弧状文?、内面アバタ、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
251	85	59	I A5g 整地層2下暗褐色土	小型鉢	胴	弧状文、内外面ベンガラ付着		ⅢかⅣ	後期初～前
252	85	59	I A7f 整地層2下暗褐色土下層	小型鉢	胴～底	無文、外面ベンガラ付着		ⅢかⅣ	後期初～前
253	85	59	I A7f Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口	単節→波状入組文?、内面アバタ	RL	ⅢかⅣ	後期初～前
254	85	59	I A7g 層位不明	深鉢	口	渦巻文		ⅢかⅣ	後期初～前
255	85	59	I A7k 整地層2下暗褐色土	深鉢	胴	入組文(波状?)	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
256	85	59	I A8g 整地層2下暗褐色土	鉢	胴	単節→円形刺突のある突起、隆沈線、内外面ベンガラ付着	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
257	85	59	I A8h-9h 整地層2下暗褐色土ほか	深鉢	口～胴	方形区画文	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
258	85	59	I A9g 内帯 整地層2下暗褐色土	小型鉢	口	平行沈線、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期
259	85	59	I A9j 構築面～Ⅳ層	壺	口	隆沈線、入組文、内外面ベンガラ付着		ⅢかⅣ	後期初～前
260	85	59	I A10g 内帯 整地層2下暗褐色土～Ⅳ層	深鉢	口	単節→平行沈線(区画文・弧状文?)、内面ミガキ	LR	ⅢかⅣ	後期前
261	85	59	I A10g 内帯 整地層2下暗褐色土～Ⅳ層	吊手土器	胴	単節→方形区画文、上下方向の穿孔突起	LR	ⅢかⅣ	後期前
262	85	59	I A10l 構築面～Ⅳ層ほか	壺	口	平行沈線、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
263	85	59	I A10l Ⅰ～Ⅲ層	深鉢	口	単節→平行沈線、区画文、内外面ミガキ	RL	ⅢかⅣ	後期初～前
264	85	59	I A10l 構築面～Ⅳ層	深鉢	口	山形口縁に沿う隆沈線、隆帯上に単節	LR?	ⅢかⅣ	後期前
265	85	59	I A10l 構築面～Ⅳ層	壺	口	小波状口縁、平行沈線2条、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期前
266	85	59	I A10l 構築面～Ⅳ層	深鉢	口	緩い波状口縁、無節→入組沈線、隆帯上に無節残る	無節L	ⅢかⅣ	後期初～前
267	85	59	I A12i Ⅱ層	深鉢	口	隆沈線、単軸絡条体(一部網目)、内外面アバタ		ⅢかⅣ	後期
268	85	59	I A12l Ⅲ層	鉢	胴	単節→入組文(弧状?)	LR	ⅢかⅣ	後期初～前
269	85	60	I A13h Ⅱ層	壺	口	平行沈線3条、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
270	85	60	I A13k	吊手土器	胴	穿孔突起、平行沈線3条、外面ベンガラ付着、内外面ミガキ		ⅢかⅣ	後期初～前
271	85	60	6号集石 クリーニング時	深鉢	口	隆沈線、口唇上部から穿孔		Ⅳ	後期前
272	85	60	6号集石、I A9j 整地層2下暗褐色土ほか	小型深鉢	口～胴	無節→連結する入組文	無節L	Ⅳ	後期前
273	85	60	14号土坑 埋土	深鉢	胴	弧状文		Ⅳ	後期前
274	85	60	14号土坑 埋土	鉢	胴	弧状文(縦)		Ⅳ	後期前
275	85	60	17号土坑 埋土	小型鉢	口	沈線による方形区画文		Ⅳ	後期前
276	85	60	17号土坑 埋土	鉢	口	平行沈線、入組文、内外面ミガキ、外面ベンガラ付着		Ⅳ	後期前
277	85	60	29号土坑	小型鉢	口	平行沈線、方形入組文、外面ベンガラ付着		Ⅳ	後期前
278	85	60	31号土坑	大型壺	肩	方形区画文、赤色顔料付着?(335と同一)		Ⅳ	後期前
279	85	60	4号集石 クリーニング時	小型鉢	口	平行沈線、入組文、内外面ベンガラ付着		Ⅳ	後期前
280	85	60	4・7号集石、I A9i	大形壺	口	連結する入組文、隆沈線		Ⅳ	後期前
281	85	60	7号集石 検出面	深鉢	口	平行沈線、内面アバタ		Ⅳ	後期初～前
282	86	60	7号集石 検出面	小型鉢	口～胴	連結する入組文		Ⅳ	後期前
283	86	60	9号集石	鉢	胴	平行沈線、入組文		Ⅳ	後期初～前
284	86	60	13号集石 検出面	壺?	胴	弧状入組文		Ⅳ	後期前
285	86	60	17号集石、I A10l Ⅳ層	深鉢	口	波状口縁、口縁に沿う平行沈線		Ⅳ	後期前
286	86	60	19号集石 検出面	小型鉢	口～胴	沈線、巴状入組文、胎土緻密		Ⅳ	後期前
287	86	60	23号集石下部土坑	鉢	口	平行沈線、連続入組文		Ⅳ	後期前
288	86	60	26号集石 検出面	深鉢	胴	平行沈線(三角形文?)		Ⅳ	後期前
289	86	60	27号集石 検出面	深鉢	口	平行沈線(弧状文?)		Ⅳ	後期前
290	86	60	27号集石 検出面	小型鉢	胴	連結する入組文		Ⅳ	後期前
291	86	60	28号集石 検出面	深鉢	胴	平行沈線(三角形文?)		Ⅳ	後期前
292	86	60	39号集石 検出面	深鉢	胴	弧状入組文		Ⅳ	後期前
293	86	60	41号集石 検出面	小型鉢	口	入組文、内外面ミガキ		Ⅳ	後期前
294	86	60	41号集石 検出面	深鉢	口	波状口縁、平行沈線		Ⅳ	後期前
295	86	60	45号集石	小型鉢	胴	平行沈線3条、入組文、外面ベンガラ付着		Ⅳ	後期前
296	86	60	45号集石	鉢	口	平行沈線、弧状文、突起剥落、外面ベンガラ付着		Ⅳ	後期前
297	86	60	46号集石 検出面	深鉢	胴	入組文?、内面アバタ		Ⅳ	後期前
298	86	60	47号集石 検出面	壺	胴	連結する入組文		Ⅳ	後期前

No.	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
299	86	60	48号集石 検出面	深鉢	胴	単節→入組文、内面アバタ		IV	後期初～前
300	86	60	55号集石 検出面	深鉢	胴	弧状文		IV	後期前
301	86	60	57号集石 検出面	深鉢	口	山形口縁に沿う平行沈線、頂部から下がる突起、区画文	LR	IV	後期前
302	86	60	57号集石 検出面	小型深鉢	口	弧状文(横)		IV	後期前
303	86	60	59号集石下部土坑 埋土	大型壺	胴	方形区画文、赤色顔料付着? (66と同一)		IV	後期前
304	86	60	内帯 整地層2下暗褐色土～IV層	深鉢	胴	連結する入組文、内面アバタ		IV	後期前
305	86	60	10号炉跡内土器	深鉢	口	波状入組文		IV	後期前葉
306	86	60	I A3f 1号焼土周辺 層位不明	深鉢	口	山形口縁、単節→弧状文(縦)	LRかRL	IV	後期前
307	86	60	I A4e・5e	壺	口	内外面ミガキ、入組文		IV	後期前
308	86	60	I A4e・5e	吊手土器	口	突起上下方向の穿孔、沈線区画文		IV	後期前
309	86	60	I A4e・5e	壺	肩	隆沈線、連結する入組文?、赤色顔料付着		IV	後期前
310	86	60	I A4f II～III層	深鉢か壺	胴	連結する入組文?		IV	後期前
311	86	60	I A6g・7g 整地層2下暗褐色土ほか	鉢	口～底	平行沈線による巴状入組文、口縁に尖孔突起		IV	後期前
312	86	60	I A6g・7gほか 整地層2下暗褐色土ほか	壺	口～胴	縦位展開の弧状文、内外面ミガキ		IV	後期初～前
313	86	60	I A7f 整地層2下暗褐色土	小型鉢	口～胴	連結する入組文		IV	後期前
314	86	60	I A7f 整地層2内ほか	吊手土器	口～胴	連結する入組文、口唇部と胴部に尖孔突起		IV	後期前
315	87	60	I A7h 整地層2上面	壺	肩	弧状文(縦・横)		IV	後期前
316	87	61	I A7j 整地層2下暗褐色土	壺	口～胴	橋状把手、内面アバタ		IV	後期前
317	87	61	I A7k 整地層2下暗褐色土	壺	口下	方形区画文、外面ベンガラ付着		IV	後期前
318	87	61	I A7k 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	山形口縁(口唇上部穿孔)、口縁に沿う沈線、内外面ミガキ		IV	後期初～前
319	87	61	I A7k III層中	壺?	胴	平行沈線、弧状文、内外面ミガキ、外面アバタ		IV	後期初～前
320	87	61	I A7k III層中	壺	胴	巴状入組文、内外面ミガキ		IV	後期初～前
321	87	61	I A8f 内帯内側黒色土	深鉢	口	波状口縁、弧状文(横)		IV	後期前
322	87	61	I A8h 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	波状口縁、弧状文(縦)		IV	後期前
323	87	61	I A8j I～III層	小型深鉢	口～胴	平行沈線、弧状文?		IV	後期初～前
324	87	61	I A8j IV層クリーニング時	深鉢	口	小波状口縁、弧状文(横)		IV	後期前
325	87	61	I A8k 新規炭窯上暗褐色土内	鉢か壺	胴	巴状入組文		IV	後期初～前
326	87	61	I A9g 内帯レキ検出面	小型鉢	口～胴	内外面ミガキ、入組文		IV	後期前
327	87	61	I A9i・9j 整地層2下暗褐色土ほか	吊手土器	口～胴	連結する入組文、突起に上下から穿孔		IV	後期前
328	87	61	I A9j 整地層2下暗褐色土	吊手土器	口	口唇上から穿孔、沈線による入組文		IV	後期前
329	87	61	I A9j 構築面～IV層	深鉢	口	山形口縁、隆沈線による入組文、内外面ミガキ		IV	後期初～前
330	87	61	I A9j 整地層2下暗褐色土	小型鉢	口	平行沈線3条、外面ベンガラ付着		IV	後期前
331	87	61	I A9j 構築面～IV層	小型壺	肩	沈線区画文、外面ベンガラ付着		IV	後期前
332	87	61	I A9k 構築面～IV層上面	深鉢	口	単節→平行沈線、方形区画文	LR	IV	後期初～前
333	87	61	I A9l	台付鉢	底	入組文?		IV	後期前
334	87	61	I A9h・10h 整地層2内ほか	鉢	口～底	波状口縁、胴部に吊手状突起、巴状入組文		IV	後期前
335	87	61	I A10g 整地層2	壺	胴	連結する入組文、内外ベンガラ付着		IV	後期前
336	87	61	I A10hトレンチ東西方向 整地層2下	壺	口～肩	連結する入組文	無節L?	IV	後期前
337	87	61	I A10i 整地層2下暗褐色土	小型鉢	胴	弧状文、内外面ベンガラ付着		IV	後期前
338	87	61	I A10k 構築面～IV層	小型鉢	口	平行沈線、入組文?、内外面ミガキ		IV	後期前
339	87	61	I A11j 整地層2下暗褐色土	小型鉢	胴	連結する入組文		IV	後期前
340	87	61	I A11k・20・22・23号集石 III層	深鉢	口	山形口縁、入組文		IV	後期前
341	87	61	I A11k 構築面～IV層	深鉢	口	山形口縁、平行沈線(三角文?)		IV	後期前
342	87	61	I A11l 構築面～IV層	深鉢	口	山形口縁に沿う沈線区画文3条、区画文		IV	後期前
343	87	61	I A11m II層	大型壺	肩	弧状文(横)、外面ミガキ		IV	後期前
344	87	61	I A12l 構築面～IV層	深鉢	口	平行沈線による区画文		IV	後期前
345	87	61	I A13i III～IV層上	鉢	口	波状口縁、平行沈線と区画文、内面アバタ		IV	後期前
346	87	61	I A13k 整地層2下暗褐色土	壺?	口	平行沈線3条、入組文、外面ベンガラ付着、内面アバタ		IV	後期前
347	87	61	I A13m II層	深鉢	口	山形口縁、平行沈線、区画文		IV	後期前
348	88	61	地点不明	深鉢	胴	弧状文(縦)		IV	後期前
349	88	61	22号集石 検出面	深鉢	胴	3条の沈線による入組文、内外面アバタ		V	後期前
350	88	61	24号集石下部土坑 埋土	深鉢	胴	沈線による3条の帯状文、内外面アバタ		V	後期前
351	88	61	I A13i II層中位	深鉢	胴	平行沈線3条による入組文		V	後期前
352	88	61	II A1m II層	深鉢	胴～底	磨消縄文(曲線文)、網代痕	LR	V	後期前
353	88	61	3号集石 クリーニング時	台付鉢	胴～底	底部台付風、平行沈線文、412と同一個体か	LR	VI	後期前
354	88	61	I A8g 整地層2内	鉢	胴～底	底部脚付風、平行沈線文、114と同一個体か	LR	VI	後期前
355	88	61	I A11k 構築面～IV層	小型鉢	口	縦位の櫛歯状文、内面ナデ		VI	後期前
356	88	61	I A17j II層	深鉢	口	沈線に沿う連続刺突(刻目列)、内面アバタ	RL?	VI	後期前
357	88	61	1号・2号集石	深鉢	胴	結節羽状縄文	RL	E	弥生後期?
358	88	61	I A6h 整地層2	甕	口	単節(RL)→沈線間に交互刺突、口唇部上に単節(LR)、浅い沈線数条	RL・LR	E	弥生後期
359	88	61	I A7g 整地層2下暗褐色土	甕	口	単節(RL)→沈線間に交互刺突、口唇部上に単節(LR)	RL・LR	E	弥生後期
360	88	61	I A7j	甕	口	単節(RL)→口縁部の沈線間に交互刺突列3条、口唇部上に単節(LR)、胴部縦位の単節縄文	RL・LR	E	弥生後期
361	88	61	I A8g 内帯外側 整地層2下暗褐色土	小型甕	口	小波状口縁、交互刺突	RL	E	弥生後期
362	88	61	I A8g南北バット 整地層1～2	甕	胴	平行沈線間に交互刺突	RL	E	弥生後期
363	88	61	I A8h 整地層2	深鉢	口	口唇上部にも単節縄文、平行沈線間に交互刺突(2列)	LR	E	弥生後期
364	88	61	I A9g 整地層2	甕	口	単節→交互刺突、口唇上に単節縄文	RL	E	弥生後期
365	88	61	I A9g 整地層2	小型甕	口	山形口縁、単節→沈線間に交互刺突2列	RL	E	弥生後期
366	88	61	I A9g 整地層2	甕	口	交互刺突、口唇上に単節縄文	RL	E	弥生後期
367	88	61	I A9g 内帯外側整地層2下暗褐色土ほか	甕	口	波状口縁に小突起、単節→交互刺突、浅い沈線	RL	E	弥生後期
368	88	61	1号住 東側埋土	鉢	口	折り返し口縁		F	後期
369	88	62	22号土坑 下部、I A17k III～IV層	深鉢	口	無文、内面ナデ		F	後期前
370	88	62	6号集石 検出面	鉢	口	無文、内外面ミガキ		F	後期
371	88	62	8号集石、I A9k 構築面～IV層	小型深鉢	口～胴	小形、無文		F	後期前
372	88	62	25号集石 検出面(北側)	小型鉢	口	無文、小突起		F	後期

No.	図版	写図	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・原体	分類	時期
373	88	62	28号集石 検出面	小型鉢	口～胴	無文		F	後期
374	89	62	1号住 西側埋土・P3	深鉢	胴～底	単節、内面アバタ	RL	G	後期
375	89	62	1号住、14・32号土坑埋土ほか	深鉢	口～底	大きさにしては幅の狭い折り返し口縁、単節	RL	G	後期
376	89	62	1号住P2 埋土	深鉢	口	単節	LR	G	後期
377	89	62	1号住P2、14号土坑 埋土	深鉢	口～胴	単軸絡条体、内面ナデ	無節L	G	後期
378	89	62	2号住 床面	深鉢	底	不明		G	後期前?
379	89	62	3号住 東側埋土	深鉢	口	単節	LR(0段多糸)	G	後期
380	89	62	5号住 西側埋土	深鉢	口	単節	LR	G	後期
381	89	62	6号土坑 埋土	深鉢	口	無節	無節L	G	後期
382	89	62	19号土坑 埋土	深鉢	口	単節?、内面アバタ	RL?	G	後期
383	90	63	21号土坑 埋土・底面直上	深鉢	胴	単節	LR+RL	G	後期
384	90	63	29号土坑	深鉢	胴	単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	無節L	G	後期
385	90	63	1号埋設土器	深鉢	口～底	折り返し口縁、単節、内面アバタ	LR	G	後期
386	90	63	2号埋設土器	深鉢	口～胴	単軸絡条体、内面ナデ、輪積み痕	無節L	G	後期
387	91	63	4号埋設土器	深鉢	口～底	単軸絡条体、上半部にスス付着、内面ナデ	無節L	G	後期
388	91	63	8号炉跡	深鉢	口	単節	RL	G	後期
389	91	63	9号陥 埋土上～中位	深鉢	胴	単軸絡条体、内面ナデ	無節L	G	後期
390	91	63	1号集石 クリーニング時	深鉢	口	口縁部肥厚、単節	RL	G	後期
391	91	63	1号集石 検出面	深鉢	口	折り返し口縁		G	後期
392	91	63	2号集石 検出面	深鉢	口	折り返し口縁、内面アバタ	LR	G	後期
393	91	64	2号集石 検出面	深鉢	口	単節、内外面アバタ	LR	G	後期
394	91	64	2号集石 検出面	深鉢	口	単節、内面アバタ	RL	G	後期
395	91	64	3号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単節、内面アバタ	LR	G	後期
396	91	64	3号集石	小型鉢	口	単軸絡条体、内面ナデ	LR	G	後期
397	91	64	3号集石 クリーニング時	深鉢	胴	折り返し口縁	LR	G	後期
398	91	64	4号集石 検出面、I A9j	深鉢	口～胴	折り返し口縁、単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	無節L	G	後期
399	91	64	6号集石 検出面	深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	LR	G	後期
400	91	64	7号集石 検出面	深鉢	口	折り返し口縁→単節	LR	G	後期
401	91	64	11号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単軸絡条体(縦)	LR	G	後期
402	91	64	11号集石下部土坑 埋土	小型深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
403	91	64	11号集石下部土坑 埋土	小型深鉢	口	単軸絡条体(横)	LR	G	後期
404	91	64	13号集石 クリーニング時	小型深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
405	91	64	19号集石 クリーニング時	鉢	口	原体圧痕、単軸絡条体(縦)	無節L	G	後期
406	91	64	23号集石下部土坑	小型深鉢	口	単軸絡条体(斜め)	無節L	G	後期
407	91	64	23号集石下部土坑	深鉢	口	折り返し口縁、無節(口縁部と胴部は別方向施文)	無節L	G	後期
408	91	64	25号集石	深鉢	口	単節	LR	G	後期
409	91	64	25号集石 検出面(北側)	深鉢	胴	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
410	91	64	29号集石	深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	無節L	G	後期
411	91	64	41号集石 検出面	小型鉢	口	単軸絡条体	無節L	G	後期
412	91	64	45号集石 検出面	小型深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
413	91	64	45号集石 検出面	深鉢	口	単軸絡条体、内面アバタ	無節L	G	後期
414	91	64	48号集石 検出面	深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
415	91	64	52号集石 検出面	深鉢	口	単軸絡条体、内面アバタ	LR	G	後期
416	92	64	53号集石 検出面	深鉢	口	折り返し口縁、単節	LR	G	後期
417	92	64	54号集石	小型深鉢	口	単軸絡条体、内面アバタ	無節L	G	後期
418	92	64	58号集石	小型深鉢	口	単節	RL	G	後期
419	92	64	59号集石 検出面	小型鉢	口	単軸絡条体、内面アバタ	無節L	G	後期
420	92	64	59号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単節、内面アバタ	LR	G	後期
421	92	64	P011 埋土	小型深鉢	胴	単軸絡条体、内面ナデ	無節L	G	後期
422	92	64	I A3e・3f・4e II層相当	鉢	胴～底	単軸絡条体、内面アバタ	無節L	G	後期
423	92	64	I A3e・3f・4e II層相当	小型鉢	口	単軸絡条体、内面ナデ	無節L	G	後期
424	92	64	I A3e・4e II層相当	小型深鉢	胴～底	単節、内面アバタ	RL	G	後期
425	92	64	I A3e・4e II層相当	深鉢	口～胴	単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	無節L	G	後期
426	92	64	I A3f 1号焼土周辺 層位不明?	深鉢	口	折り返し口縁、単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
427	92	64	I A4e・5e	深鉢	口～胴	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
428	92	64	I A4e・5e	小型深鉢	口	単軸絡条体、口唇断面三角形(ミガキ)	無節L	G	後期
429	92	64	I A4eほか	深鉢	口～胴	折り返し口縁、単軸絡条体(口唇部と胴部方向別)	無節L	G	後期
430	92	64	I A4f	深鉢	口	折り返し口縁、単軸絡条体	無節L	G	後期
431	92	65	I A4f II～III層	深鉢	口～胴	単節、内面ミガキ	LR	G	後期
432	92	65	I A6h・6i 整地層2下暗褐色土	深鉢	口	単軸絡条体(網目状燃糸文)	RL?	G	後期
433	92	65	I A7f・8 f・8g 整地層2下暗褐色土	小型鉢	口～	単軸絡条体→平行沈線2条	無節L	G	後期
434	93	65	I A8h	小型深鉢	口～胴	折り返し口縁、単節	LR	G	後期
435	93	65	I A8h 整地層2下暗褐色土ほか	小型深鉢	口～底	単節、波状口縁4単位	LR	G	後期
436	93	65	I A8h 整地層2下暗褐色土ほか	深鉢	口～胴	単節、胎土に砂粒多い	RL	G	後期
437	93	65	I A8h 整地層2内ほか	深鉢	口～底	単節、内外面アバタ	RL	G	後期
438	93	65	I A9f・9j 石列検出面ほか	深鉢	口～胴	単節	LR	G	後期
439	93	65	I A13k 構築面～IV層	鉢	口～胴	単軸絡条体(網目状燃糸文)	無節L	G	後期
440	93	65	I A13k・14k 構築面～IV層	深鉢	口～底	単軸絡条体(網目状燃糸文)、内面アバタ	無節L	G	後期
441	93	65	I A14i	深鉢	口	小波状口縁、単軸絡条体	無節L	G	後期
442	93	65	I A15i・16i III～IV層	小型深鉢	口	小波状口縁、単節	LR	G	後期
443	93	65	I A19k・19l II層	深鉢	口	平行沈線→単軸絡条体、内面ナデ	無節L	G	後期
444	94	65	II A1m II層	深鉢	口～胴	単軸絡条体	無節L	G	後期
445	94	66	III B9 f付近 II～III層上	深鉢	口～底	上半無節L、下半単節RL、折り返し口縁	無節L+RL	G	後期
446	94	66	III B9 f付近 II～III層上	深鉢	口～胴	折り返し口縁、単節、内面アバタ	LR	G	後期
447	94	66	III B9 f付近 II～III層上	深鉢	口～底	単節、内面アバタ	RL	G	後期

第4表 土製品観察表

No.	図版	写図	出土地点	種類	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	文様等
C1	95	67	I A5g 整地層2下暗褐色土	土偶	板状	(4.4)	5.85	1.35	22.12	
C2	95	67	I A9f 内帯内側黒色土	土偶	板状	(6.55)	(5.25)	2.2	53.30	
C3	95	67	I A10g 内帯内側黒色土	土偶	板状	(5.60)	(2.50)	1.2	17.18	
C4	95	67	I A10g 内帯内側整地層2下暗褐色土下位	土偶	板状	(4.20)	(4.10)	1.65	21.00	
C5	95	67	I A6f II層黒色土	土版?		(4.25)	(2.80)	1.05	11.00	
C6	95	67	58号集石	鐸形土製品		2.90	(2.40)		7.75	
C7	95	67	1号住 P1	鐸形土製品		(4.35)	3.05		10.51	
C8	95	67	I A5f	鐸形土製品		(5.55)	4.70		22.68	
C9	95	67	I A4f	鐸形土製品		5.40	4.10		35.44	
C10	95	67	I A3e・4e II層相当	鐸形土製品		(2.90)	(2.30)		3.68	
C11	95	67	I A4f	鐸形土製品	完形品	3.40	2.60		9.64	
C12	95	67	I A5f 整地層2下暗褐色土上面	鐸形土製品	完形品	5.00	3.80		28.75	
C13	95	67	I A6h 整地層2下暗褐色土~IV層	鐸形土製品		(2.75)	(2.10)		3.21	
C14	95	67	I A7h 1号焼土付近	鐸形土製品		(3.80)	(2.20)		9.16	
C15	95	67	I A8g 内帯内側 整地層2内	鐸形土製品		(2.40)	(2.65)		3.60	
C16	95	67	I A9i 整地層1上面	鐸形土製品		(3.90)	(2.30)		6.59	
C17	96	67	I A10j 構築面~IV層	鐸形土製品		(5.55)	3.40		22.64	
C18	96	67	I A10k 構築面~IV層	鐸形土製品	完形品	5.60	3.70		36.60	
C19	96	67	I A13j III~IV層	鐸形土製品		(4.10)	(2.85)		6.08	
C20	96	67	整地層2下暗褐色土層	鐸形土製品		5.45	(3.20)		18.21	
C21	96	67	2号集石	ミニチュア	肩部	器高2.60			48.34	切断壺のミニチュア
C22	96	67	2号集石クリーニング時	ミニチュア	口~胴	器高2.35	口径4.2		4.60	ペンガラ付着
C23	96	67	3号集石 整地層2下暗褐色土	ミニチュア	胴~底	器高2.40			19.43	
C24	96	67	3号集石	ミニチュア	胴~底	器高3.50			4.92	
C25	96	67	6号集石	ミニチュア	底	器高1.90	底径2.90		8.40	
C26	96	67	7号集石 整地層2下暗褐色土	ミニチュア	口~底	器高5.20	口径5.80	底径2.60	19.14	
C27	96	67	内帯 整地層2上面	ミニチュア	口?	器高2.40			13.00	
C28	96	67	24号集石	ミニチュア	胴~底	器高1.95	底径1.95		14.60	
C29	96	67	24号土坑 埋土下位	ミニチュア	胴~底	器高4.00	底径2.70		20.29	
C30	96	68	I A5f・8i	ミニチュア	完形品	器高4.50	口径5.40	底径2.60	48.34	
C31	96	68	I A4g	ミニチュア	胴~底	器高4.50	口径5.00	底径4.00	24.10	
C32	96	68	I A3e II層相当	ミニチュア	口~胴	器高3.35			6.41	
C33	96	68	I A5f	ミニチュア	底部	器高2.30	底径3.50		19.36	
C34	96	68	III区土器No1	ミニチュア	胴~底	器高5.00	底径3.50		35.97	
C35	96	68	I A7f 整地層2内	ミニチュア	胴~底	器高1.30	底径1.50		3.05	極小品
C36	96	68	I A7h 整地層2下暗褐色土下層	ミニチュア	胴~底	器高5.10			44.16	脚部欠損
C37	96	68	I A9f 内帯内側	ミニチュア	胴~底	器高1.30			3.35	
C38	96	68	I A13j III~IV層上面	ミニチュア	口~胴	器高2.80	口径3.60		8.50	
C39	97	68	I A14k II下~III層	ミニチュア	胴~底	器高2.70	底径4.00		36.19	底部に穿孔2つ、底部外面に2つ
C40	97	68	I A5g 整地層2下暗褐色土	ミニチュア	胴~底	器高2.90	底径4.20		60.70	底部に穿孔4つ
C41	97	68	I A12n II層	ミニチュア	底部	器高0.60	底径3.4		6.69	底部に穿孔1つ
C42	97	68	地点・層位不明	ミニチュア	底部	器高2.00	底径3.90		16.10	底部に穿孔2つ、底部外面に2つ
C43	97	68	2号集石	土製円盤	完	3.40	3.80	0.75	10.80	完形
C44	97	68	6号集石	土製円盤	完	2.80	2.85	0.60	5.70	完形
C45	97	68	11号集石下部土坑 埋土	土製円盤	完	3.40	3.55	0.7	11.80	完形
C46	97	68	23号集石下部土坑内 埋土	土製円盤	完	4.30	4.40	0.65	15.52	完形
C47	97	68	27号集石	土製円盤	完	3.00	3.20	0.65	9.20	完形
C48	97	68	58号集石	土製円盤	完	3.60	3.80	0.65	9.94	完形
C49	97	68	59号集石	土製円盤	完	3.35	3.50	0.5	8.48	完形
C50	97	68	1号住 トレンチ南西側埋土	土製円盤	欠	4.10	-	0.6	10.88	欠
C51	97	68	1号住 埋土	土製円盤	欠	4.65	-	0.8	15.22	欠
C52	97	68	5号住 検出面	土製円盤	完	3.40	3.60	0.70	11.20	完形
C53	97	68	15号土坑 埋土	土製円盤	完	3.20	3.60	0.70	10.57	完形
C54	97	68	18号土坑 埋土	土製円盤	欠	4.40	-	0.9	16.85	欠
C55	97	68	25号土坑 埋土	土製円盤	完	3.70	3.80	0.6	10.47	完形
C56	97	68	3号陥 埋土中位	土製円盤	完	3.40	3.70	0.80	12.66	完形
C57	97	68	内帯内側 I A7g 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.90	4.10	0.70	13.99	完形
C58	97	68	内帯内側 I A8g 整地層2内	土製円盤	完	4.40	4.40	0.80	16.86	完形
C59	97	68	I A3e II層相当	土製円盤	完	3.20	3.40	0.70	8.99	完形
C60	97	68	I A3e・4e	土製円盤	完	3.60	3.80	0.85	13.62	完形
C61	97	68	I A3e・4e	土製円盤	完	5.30	4.50	1.10	31.54	完形
C62	97	68	I A4e・5e・5f	土製円盤	完	3.80	3.90	0.60	14.49	完形
C63	98	68	I A4e・5e・5f	土製円盤	完	3.55	3.70	0.80	11.93	完形
C64	98	68	I A5f 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.20	-	0.7	8.29	欠
C65	98	68	I A5f 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	4.15	4.70	0.85	20.20	完形
C66	98	68	I A5f 層位不明	土製円盤	完	3.75	4.05	0.80	14.75	完形
C67	98	68	I A6f 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.10	-	0.60	9.40	欠
C68	98	69	I A6g 整地層1	土製円盤	欠	3.40	-	0.75	4.70	欠
C69	98	69	I A6h 整地層2下位	土製円盤	完	4.00	4.10	0.6	13.80	完形
C70	98	69	I A6h 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.50	-	0.95	20.05	欠
C71	98	69	I A6h・6i III~IV層上	土製円盤	完	2.90	3.40	0.70	8.50	完形
C72	98	69	I A7f 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.70	3.90	0.75	12.40	完形
C73	98	69	I A7f 整地層2下暗褐色土~IV層	土製円盤	完	2.60	3.15	0.5	6.60	完形

IV 検出遺構と出土遺物

No.	図版	写図	出土地点	種類	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様等
C74	98	69	I A7f 整地層2内	土製円盤	欠	(3.70)	-	0.70	7.30	欠
C75	98	69	I A7g Ⅲ～Ⅳ層	土製円盤	完	3.70	3.90	0.75	13.40	完形
C76	98	69	I A7g 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	3.40	-	0.70	7.41	欠
C77	98	69	I A7h 整地層2下暗褐色土下層	土製円盤	完	4.50	4.65	0.95	21.20	完形
C78	98	69	I A7h 整地層2内住居検出面	土製円盤	完	3.75	4.40	0.70	13.97	完形
C79	98	69	I A7j	土製円盤	欠	(3.50)	-	0.50	5.25	欠
C80	98	69	I A7k 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.95	4.00	0.75	15.00	完形
C81	98	69	I A7k 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	3.65	-	0.50	6.50	欠
C82	98	69	I A8g 整地層2下暗褐色土～Ⅳ層	土製円盤	完	3.20	3.35	0.75	10.88	完形
C83	98	69	I A8g 整地層2内	土製円盤	完	3.30	3.40	0.60	9.60	完形
C84	98	69	I A8h 3号集石周辺 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	3.8	-	0.80	11.97	欠
C85	98	69	I A8h 9号焼土南側 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.50	4.15	0.80	12.31	完形
C86	98	69	I A8i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.65	4.00	0.90	13.04	完形
C87	98	69	I A8i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	2.90	3.30	0.5	10.01	完形
C88	99	69	I A8i 整地層2下暗褐色土 クリーニング時	土製円盤	欠	3.90	-	0.50	9.03	欠
C89	99	69	I A8j	土製円盤	完	3.45	3.80	0.80	12.91	完形
C90	99	69	I A8j Ⅳ層クリーニング時	土製円盤	欠	4.50	-	0.80	13.51	欠
C91	99	69	I A9g 整地層1か2	土製円盤	完	4.25	4.40	0.65	18.28	完形
C92	99	69	I A9g 整地層2	土製円盤	完	3.70	3.95	0.6	11.05	完形
C93	99	69	I A9h 整地層2	土製円盤	完	3.25	3.30	0.55	10.00	完形
C94	99	69	I A9i Ⅲ層相当	土製円盤	完	4.55	4.70	1.00	10.56	完形
C95	99	69	I A9i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	4.10	4.15	0.90	19.90	完形
C96	99	69	I A9i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	3.35	-	0.90	14.04	欠
C97	99	69	I A9i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	4.25	4.50	0.95	18.84	完形
C98	99	69	I A9i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.45	-	0.70	11.54	完形
C99	99	69	I A9j 構築面～Ⅳ層	土製円盤	完	3.45	3.80	0.7	10.62	完形
C100	99	69	I A9j 構築面～Ⅳ層	土製円盤	欠	3.50	-	0.65	7.42	欠
C101	99	69	I A9j 構築面～Ⅳ層	土製円盤	欠	3.55	-	0.55	9.15	欠
C102	99	69	I A9j 構築面～Ⅳ層	土製円盤	欠	4.30	-	0.60	6.72	欠
C103	99	69	I A9k	土製円盤	完	3.80	4.00	0.60	13.80	完形
C104	99	69	I A9k 構築面～Ⅳ層	土製円盤	完	3.00	3.20	0.80	8.18	完形
C105	99	69	I A9k 構築面暗褐色土～Ⅳ層	土製円盤	完	2.90	3.20	0.75	7.92	完形
C106	99	69	I A9k 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.50	-	0.9	10.88	欠
C107	99	69	I A10g 整地層1内	土製円盤	完	3.20	3.30	0.70	10.99	完形
C108	99	70	I A10g 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.70	3.75	0.85	17.53	完形
C109	99	70	I A10g 整地層南北バルト	土製円盤	欠	4.10	-	0.80	12.10	欠
C110	99	70	I A10h 整地層2	土製円盤	完	3.25	2.95	0.5	6.15	完形
C111	99	70	I A10i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	完	3.70	3.95	0.85	15.24	完形
C112	99	70	I A10i 整地層2下暗褐色土	土製円盤	欠	4.20	-	0.55	9.90	欠
C113	100	70	I A10k	土製円盤	完	3.85	4.00	0.85	13.16	完形
C114	100	70	I A10k 構築面～Ⅳ層	土製円盤	完	3.30	3.55	0.80	12.27	完形
C115	100	70	I A11k 構築面～Ⅳ層	土製円盤	完	4.40	4.45	0.70	15.74	完形
C116	100	70	I A11m Ⅱ層	土製円盤	完	3.70	3.70	0.75	12.42	完形
C117	100	70	I A12h Ⅱ層	土製円盤	完	3.50	3.60	0.70	11.75	完形
C118	100	70	I A12k 構築面～Ⅳ層	土製円盤	完	3.10	3.15	0.50	0.67	完形
C119	100	70	I A12n Ⅲ～Ⅳ層	土製円盤	欠	3.30	-	0.45	5.55	欠
C120	100	70	I A13h Ⅲ～Ⅳ層クリーニング時	土製円盤	完	3.80	3.95	0.85	12.89	完形
C121	100	70	I A13i Ⅱ～Ⅲ層上面	土製円盤	完	3.15	3.75	0.70	11.06	完形
C122	100	70	I A13m Ⅱ層	土製円盤	完	3.50	3.70	0.7	12.50	完形
C123	100	70	I A14m Ⅱ層	土製円盤	完	3.75	3.80	0.50	11.10	完形
C124	100	70	I A16j Ⅱ層	土製円盤	完	3.45	3.50	0.8	11.43	完形
C125	100	70	I A12n付近 Ⅱ層	土製円盤	欠	3.60	-	0.60	7.84	完形
C126	100	70	I A12n付近 Ⅱ層	土製円盤	完	4.30	4.40	0.75	20.98	完形
C127	100	70	I A12n付近 Ⅱ層	土製円盤	完	3.10	3.20	0.50	6.60	完形
C128	100	70	I A12n付近 Ⅱ層相当	土製円盤	完	4.70	5.00	1.05	26.83	完形
C129	100	70	I A3e-4e Ⅱ層	耳飾り		1.8	(1.7)	1.1	1.81	略完形
C130	100	70	I A5g 整地層2下暗褐色土	棒(紐)状土製品		3.25	0.9	0.85	1.58	完形
C131	100	70	7号集石	不明土製品		4.80	(2.00)	1.15	6.09	
C132	100	70	I A8g 整地層2内	不明土製品		高さ2.90	底径5.30		52.70	中実

第5表 石器・石製品観察表

No.	図版	写図	出土地点1	層位	器種	石質・産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
S1	101	71	15号集石		石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.30	1.50	0.80	2.77	凸基有茎
S2	101	71	14号土坑	埋土	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(1.80)	1.15	0.40	0.62	凸基有茎
S3	101	71	26号土坑	埋土上層	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(2.35)	1.15	0.40	0.88	凸基有茎
S4	101	71	1A3e-4e	埋土	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.25	1.55	0.85	3.31	凸基有茎
S5	101	71	1A5f	整地層～Ⅱ層	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(2.55)	1.25	0.50	1.06	凸基有茎
S6	101	71	1A5g	整地層褐色土	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	2.45	1.30	0.40	0.60	凸基有茎
S7	101	71	1A7k	整地層下	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(2.45)	1.10	0.40	0.80	凸基有茎
S8	101	71	1A7k	層位不明	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	1.20	1.05	0.50	0.70	凸基有茎
S9	101	71	1A10k	構築面～Ⅳ層	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(1.70)	1.15	0.30	0.52	凸基有茎
S10	101	71	1A17j	Ⅱ層	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(2.00)	1.35	0.55	1.02	凸基有茎
S11	101	71	1A5f	整地層上面	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.90	2.00	0.75	3.10	凹基無茎
S12	101	71	1A9k	整地層下位褐色土	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	2.45	1.65	0.35	0.70	凹基無茎
S13	101	71	1A11g	整地層下黒色土Ⅱ層	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	4.60	2.20	0.65	4.87	凹基無茎
S14	101	71	1A18l	Ⅱ層中	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.50	1.50	0.40	1.40	凹基無茎
S15	101	71	1A8h	整地層下黒褐色土	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(3.30)	1.45	0.60	2.48	平基無茎
S16	101	71	1A14l	Ⅱ下～Ⅲ上	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	(3.25)	2.00	0.60	3.09	平基無茎
S17	101	71	1A14l	Ⅱ層下	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	2.40	1.90	0.45	1.90	平基無茎
S18	101	71	1A3e	Ⅱ層(整地層中)	石鏃	頁岩 中生代 北上山地	2.00	1.35	0.50	1.30	凹基無茎
S19	101	71	44号集石		石匙	頁岩 中生代 北上山地	4.80	2.25	1.30	9.16	縦型
S20	101	71	1号住	トレンチ南 西側埋土	石錐	頁岩 中生代 北上山地	2.75	1.10	0.50	1.06	
S21	101	71	6号集石	最終クリーニング時	石錐	頁岩 中生代 北上山地	4.50	1.30	1.10	4.80	
S22	101	71	11号集石	埋土中	石錐	頁岩 中生代 北上山地	4.00	1.00	0.60	2.14	
S23	101	71	1A3e-4e	埋土	石錐	頁岩 中生代 北上山地	(3.40)	(1.05)	0.85	2.87	
S24	101	71	1A8h	整地層黒褐色土	石錐	頁岩 中生代 北上山地	3.60	1.30	1.10	3.70	
S25	101	71	地点・層位不明		石錐	頁岩 中生代 北上山地	4.10	1.10	0.90	3.60	
S26	102	71	56号集石		石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.90	1.80	1.00	6.10	
S27	102	71	1A3e-4e		石鏃	頁岩 中生代 北上山地	3.90	1.80	1.10	5.47	
S28	102	71	57号集石	整地層下暗褐色土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	2.75	1.25	0.85	2.13	異形
S29	102	71	1A9j(5号集石周辺)	層位不明	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.10	1.90	0.80	3.10	異形
S30	102	71	1A5g	整地層2下の暗褐色土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.05	1.75	0.80	2.80	異形
S31	102	71	1A5g	整地層2下の暗褐色土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.10	2.15	0.75	3.20	異形
S32	102	71	1A5f	整地層～Ⅱ層	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	2.20	1.70	0.60	1.74	異形
S33	102	71	5号集石	整地層1内(炭窯付近)	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	2.65	1.95	0.70	3.19	異形
S34	102	71	40号集石	掘り方 埋土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.30	1.55	0.60	1.56	異形
S35	102	71	1A5f	整地層2下暗褐色土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.50	2.00	0.55	3.09	異形
S36	102	71	1A5g	整地層2下暗褐色土	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.50	1.30	0.70	3.37	異形
S37	102	71	1A12n	Ⅱ層中位	異形石器	頁岩 中生代 北上山地	3.10	1.85	1.10	4.28	異形
S38	102	71	7号集石		撿削器	頁岩 中生代 北上山地	5.30	4.35	1.50	25.30	
S39	102	71	14号土坑		撿削器	頁岩 中生代 北上山地	2.75	2.30	0.90	6.54	
S40	102	71	1A3e-4e	Ⅱ層相当	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	6.10	6.35	2.00	66.50	
S41	102	71	1A3e	Ⅱ層(黒褐色土)	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	8.40	7.85	2.10	92.70	
S42	103	71	1A3e-4e		撿削器	頁岩 中生代 北上山地	4.80	2.10	1.10	10.10	
S43	103	71	1A3e-4e	Ⅱ層相当	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	4.50	2.10	1.35	11.40	
S44	103	72	1A5f	整地層中	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	4.60	4.40	1.30	13.50	
S45	103	72	1A5f	整地層～Ⅱ層	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	3.00	2.20	1.00	5.52	
S46	103	72	1A7f	Ⅰ～整地層まで	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	4.50	3.70	1.05	15.50	
S47	103	72	1A5f	整地層中	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	6.40	4.35	2.20	54.90	
S48	103	72	1A7g	整地層下黒褐色土	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	7.90	5.00	1.70	52.40	
S49	103	72	1A7g	整地層下位褐色土	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	3.60	2.60	1.00	8.91	
S50	103	72	1A7k	整地層下暗褐色土	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	3.05	2.80	1.30	10.20	
S51	103	72	1A8h	整地層下黒褐色土	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	5.90	2.50	1.05	19.10	
S52	103	72	1A9e	Ⅰ～Ⅲ層	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	5.15	4.00	1.85	34.30	
S53	103	72	1A9k	Ⅰ～Ⅲ層	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	2.80	2.20	0.80	4.50	
S54	103	72	1A10h	整地層黒褐色土	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	(3.60)	(2.00)	1.20	6.74	
S55	104	72	1A13n		撿削器	頁岩 中生代 北上山地	11.10	5.00	1.90	91.50	
S56	104	72	1A13n		撿削器	頁岩 中生代 北上山地	8.00	7.85	1.60	82.10	
S57	104	72	9号集石	覆土上層暗褐色	撿削器	頁岩 中生代 北上山地	(3.85)	3.20	1.00	22.00	
S58	104	72	1号住	S1	石斧	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.75)	4.10	2.30	106.29	5(製品)
S59	104	72	1号住	S2	石斧	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	7.45	3.05	1.60	51.82	5(製品)
S60	104	72	2号住	S1	石斧	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.00)	3.60	2.25	114.15	5(製品)
S61	104	72	4号住	東壁下部	石斧	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.80)	4.70	2.95	214.60	5(製品)
S62	104	72	54号集石		石斧	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.90)	5.90	2.85	215.85	1～2段階
S63	105	72	22号土坑	床面直上	石斧	頁岩 中生代 北上山地	7.65	3.25	1.20	52.41	5(製品)
S64	105	73	1A7g	整地層1下黒褐色土	石斧	蛇紋岩 古生代 オルドビス紅 早池峰山周辺	12.40	3.90	2.10	168.70	5(製品)
S65	105	73	1A7g	整地層1下黒褐色土	石斧	頁岩 中生代 北上山地	9.95	2.95	1.70	74.80	5(製品)
S66	105	73	1A8f	内帯 整地層2下暗褐色～Ⅳ層	石斧	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.50)	(4.70)	2.70	198.46	1～2段階
S67	105	73	1A8f	内帯 整地層2下暗褐色～Ⅳ層	石斧	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(4.80)	(4.50)	(2.45)	68.86	1～2段階
S68	105	73	1A8f	内帯 整地層2下暗褐色～Ⅳ層	石斧	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	7.40	3.30	1.35	51.15	5(製品)
S69	105	73	1A8f	内帯 整地層2下暗褐色～Ⅳ層	石斧	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.05)	(4.15)	(3.35)	137.33	1～2段階
S70	105	73	11号集石	下部土坑埋土中	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.50)	4.65	3.10	165.50	1か以前
S71	105	73	39号集石		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	13.20	6.35	4.20	530.68	1か以前
S72	105	73	9号土坑西側木根付近		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.90)	(8.80)	(5.70)	444.60	1か以前
S73	106	73	50号集石内		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.10)	(6.30)	(3.90)	270.80	1か以前
S74	106	73	1A7h	暗褐色土上面	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	16.45	7.25	5.75	799.60	1か以前
S75	106	73	1A3e-4e	Ⅱ層相当	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.30)	(4.95)	(2.80)	126.20	1か以前
S76	106	73	1A6h	整地層下位黒色土	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	8.90	4.30	1.50	77.20	1か以前
S77	106	73	1A8f	内帯 整地層2下暗褐色～Ⅳ層	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	7.90	3.60	1.65	67.83	1か以前
S78	106	73	1A9j	暗褐色土上面	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.80)	(4.00)	(2.50)	71.10	1か以前
S79	106	73	1A9j	整地層下暗褐色土	石斧未製品	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.55)	(6.80)	(6.50)	450.70	1か以前
S80	106	73	1A9j	整地層下暗褐色土	石斧未製品	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.00)	(6.20)	(3.95)	247.50	1か以前
S81	106	73	20号集石	整地層下覆土1層	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.50)	(4.15)	(2.60)	70.80	1段階
S82	106	74	1A15i	Ⅱ下～Ⅲ上	石斧未製品	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.60)	(5.10)	(2.75)	122.80	1か以前
S83	106	74	1A15i		石斧未製品	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	13.80	6.30	4.35	430.70	1段階
S84	107	74	1A6g	Ⅱ層下位	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.30)	(5.75)	(4.00)	221.50	1～2段階
S85	107	74	1A9g	Ⅲ層上面	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.80)	(5.40)	(3.35)	220.10	1～2段階

IV 検出遺構と出土遺物

No.	図版	写図	出土地点1	層位	器種	石質・産地	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
S86	107	74	I A17k	II層	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(13.35)	6.20	4.80	620.70	1～2段階
S87	107	74	I A19l	II層中	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.40)	(5.30)	(3.65)	194.00	1～2段階
S88	107	74	不明	不明	石斧未製品	砂岩 中生代 北上山地	(6.80)	(6.00)	(4.60)	195.40	1～2段階
S89	107	74	I A9g	整地層1下黒褐色土	石斧未製品	ホルンフェルス 中生代(変成は中生代白亜紀)北上山地	17.10	6.15	3.05	532.20	1～2段階
S90	107	74	45号集石		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.40)	(4.30)	(3.40)	92.70	2段階
S91	108	74	I A4f	II層下位	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.55)	(6.15)	(3.20)	224.60	2段階
S92	108	74	I A8g	II層下位	石斧未製品	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.40)	(6.55)	(4.50)	457.50	2段階
S93	108	74	I A10k	層位不明	石斧未製品	デイサイト 中生代白亜紀 原地山層	9.55	4.90	3.05	186.70	2段階
S94	108	74	I A13m	II層	石斧未製品	デイサイト 中生代白亜紀 原地山層	(10.85)	(6.35)	(5.60)	477.70	2段階
S95	108	74	I A13n	層位不明	石斧未製品	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	12.50	6.10	4.40	395.60	2段階
S96	108	74	I A15p	II層	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.70)	(5.70)	84.95	265.90	2段階
S97	108	75	I A18m	II層黒色土	石斧未製品	砂岩 中生代 北上山地	11.90	(5.75)	3.40	277.70	2段階
S98	108	75	III B区		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.90)	(4.80)	(4.35)	208.40	2段階
S99	109	75	I A4f	II層下位	石斧未製品	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	14.30	4.40	2.80	287.70	3段階
S100	109	75	I A4e9j	暗褐色土	石斧未製品(155と接合)	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	14.20	4.90	3.60	353.50	3段階
S101	109	75	I A10g10h	整地層下暗褐色土	石斧未製品(156と接合)	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	13.95	5.10	3.00	330.60	3段階
S102	109	75	I A13n		石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(9.20)	(4.85)	(2.80)	187.70	3段階
S103	109	75	不明	不明	石斧未製品	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	(4.20)	(3.50)	(2.60)	49.00	3段階
S104	109	75	不明	不明	石斧未製品	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.70)	(4.25)	(3.30)	116.80	3段階
S105	109	75	4号集石		石斧未製品	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.60)	(4.80)	(2.60)	65.46	3～4段階
S106	109	75	I A6g	II層下位	石斧未製品	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.00)	(4.55)	(3.00)	206.70	4段階
S107	109	75	I A9g	整地層下黒褐色土	石斧未製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	12.10	3.90	2.45	173.80	4段階
S108	110	75	I A13h	II層	半円状扁平打製石器	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(10.50)	(8.60)	(4.35)	619.80	
S109	110	75	I A18m		半円状扁平打製石器	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.50)	(5.80)	(3.15)	197.50	
S110	110	75	2号集石		砥石	砂岩 中生代白亜紀～新生代古第三紀 久慈層群・野田層群	30.70	17.90	9.00	5258.13	
S111	110	75	58号集石		砥石	凝灰岩 中生代白亜紀～新生代古第三紀 久慈層群・野田層群	(6.70)	(5.45)	(4.70)	185.80	
S112	110	75	5号住	SI(床面)	石皿	砂岩 中生代白亜紀～新生代古第三紀 久慈層群・野田層群	27.80	(16.20)	44.90	2409.70	
S113	111	76	59号集石		石皿	砂岩 中生代白亜紀～新生代古第三紀 久慈層群・野田層群	(24.70)	(14.80)	11.50	4369.20	
S114	111	76	I A11m	II～III層	石皿	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	(17.40)	(13.20)	(8.10)	2432.90	
S115	111	76	I A7j	I～III層	台石	花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	30.30	24.70	8.80	10000.50	
S116	111	76	I A3e・4e		凹石	凝灰岩 中生代白亜紀～新生代古第三紀 久慈層群・野田層群	(10.90)	(10.00)	(6.90)	660.80	
S117	112	76	3号住	西側半分 埋土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.00	6.50	2.45	177.51	敲円
S118	112	76	3号住	西側半分 埋土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	5.90	6.35	2.65	183.35	敲円
S119	112	76	7号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.65	6.45	4.30	311.10	敲円
S120	112	76	19号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.65)	(3.80)	(2.55)	47.80	敲円
S121	112	76	23号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.35	5.90	5.70	362.30	敲円
S122	112	77	30号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.60	6.40	2.85	259.35	敲円
S123	112	77	52号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	5.90	5.10	2.90	169.10	敲円
S124	112	77	58号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.00	5.90	4.35	307.43	敲円
S125	112	77	内帯	整地層2下暗褐～IV層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.10	6.30	2.60	184.81	敲円
S126	113	77	6号土坑	埋土	敲石	はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(10.10)	(7.95)	(4.70)	398.00	敲円
S127	113	77	9号土坑西側	木根付近	敲石	頁岩 中生代 北上山地	6.55	5.80	2.90	156.20	敲円
S128	113	77	25号土坑	埋土下部	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.00	6.85	3.30	277.94	敲円
S129	113	77	I A3e	II層	敲石	砂岩 中生代 北上山地	8.55	7.20	4.60	337.00	敲円
S130	113	77	I A3e・4e		敲石	砂岩 中生代 北上山地	9.10	6.70	4.30	346.60	敲円
S131	113	77	I A5f	整地層下黒色土中	敲石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	10.90	8.35	4.65	576.30	敲円
S132	113	78	I A6g	整地層2内	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.05	7.25	4.35	428.70	敲円
S133	114	78	I A6i	III層相当暗褐色土	敲石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	8.80	7.20	4.05	366.90	敲円
S134	114	78	I A7k	整地層下暗褐色土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.10	6.35	2.70	250.40	敲円
S135	114	78	I A7l	I～III層	敲石・磨石	砂岩 中生代 北上山地	12.85	9.35	5.50	964.80	敲円
S136	114	78	I A8h	整地層下黒褐色土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	11.00	7.90	3.50	605.90	敲円
S137	114	78	I A8h	整地層下黒褐色土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.65	7.90	4.05	493.60	敲円
S138	114	78	I A9g	整地層下黒褐色土	敲石	細粒花崗閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	7.40	7.30	3.10	241.00	敲円
S139	115	78	I A9l	暗褐色土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	10.25	8.25	4.95	792.20	敲円
S140	115	79	I A10k	I～III層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.60	7.50	4.40	490.70	敲円
S141	115	79	I A10l	III層検出面	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.10	6.00	2.90	163.70	敲円
S142	115	79	I A11m		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.40	6.55	3.25	326.60	敲円
S143	115	79	I A11m		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.90	6.80	4.40	334.60	敲円
S144	115	79	I A13i	III層上	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.75	6.65	4.40	361.70	敲円
S145	115	79	I A13j	III層上	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.25	6.80	2.95	321.00	敲円
S146	115	79	I A13j	II層	敲石・磨石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.40	6.30	2.55	148.40	敲円
S147	116	79	I A13l	II下～III上	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	6.80	5.55	5.00	256.50	敲円
S148	116	79	I A13o	II層上	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	11.25	10.20	5.20	1037.40	敲円
S149	116	80	I A15k	II層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	10.05	7.50	4.45	654.10	敲円
S150	116	80	I A15k	II層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	11.60	9.25	4.50	804.50	敲円
S151	116	80	I A15k		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.80)	(5.00)	(2.85)	138.20	敲円
S152	116	80	I A15m		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.95	7.80	5.70	580.70	敲円
S153	117	80	I A16l	II層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	9.50	8.40	4.20	597.10	敲円
S154	117	80	I A16l		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	5.75	5.40	2.60	140.40	敲円
S155	117	80	I A16p	II層下	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	9.15	8.35	3.05	407.40	敲円
S156	117	80	I A17p	II層(黒色土)	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	9.15	8.70	5.60	740.50	敲円
S157	117	81	I A18k	II層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	9.55	9.50	5.00	814.70	敲円
S158	117	81	I A19k	II層黒色土	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.50	6.70	5.75	483.90	敲円
S159	118	81	II A1m	II層(黒色土)中位	敲石	砂岩 中生代 北上山地	8.70	7.60	4.50	449.40	敲円

No.	図版	写図	出土地点1	層位	器種	石質・産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
S160	118	81	I A15m		敲石・磨石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.00	8.00	3.45	360.90	敲円
S161	118	81	ⅢB区		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.20	6.80	2.15	202.70	敲円
S162	118	81	I A3f付近		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	9.25	8.65	3.10	402.50	敲円
S163	118	81	19号集石		敲石	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.65)	(4.85)	(2.85)	117.80	敲長
S164	118	81	22号集石		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	11.80	6.25	5.70	680.30	敲長
S165	118	81	9号土坑検出面	Ⅱ層中位	敲石	頁岩 中生代 北上山地	9.65	5.60	3.20	233.40	敲長
S166	119	81	24号土坑	埋土中位	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.70	5.75	2.30	188.95	敲長
S167	119	82	I A3e・4e	Ⅱ層相当	敲石	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	12.30	(7.65)	(5.80)	794.40	敲長
S168	119	82	I A3e・4e		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	10.90	5.90	3.60	405.80	敲長
S169	119	82	I A3e・4e	Ⅱ層相当	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(10.60)	7.15	4.80	503.00	敲長
S170	119	82	I A3e	Ⅱ層(黒褐色土)	敲石・磨石	砂岩 中生代 北上山地	13.95	9.15	4.10	771.00	敲長
S171	119	82	I A7i	I～Ⅲ層	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.00)	(7.60)	(2.55)	211.70	敲長
S172	119	82	I A12l	Ⅲ層上	敲石	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	10.75	4.25	2.35	174.60	敲長
S173	120	82	I A14j	Ⅲ層上	敲石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.50)	(7.10)	(4.20)	334.10	敲長
S174	120	82	I A15k	Ⅱ層	敲石	礫岩 中生代 北上山地	13.20	6.80	5.45	672.10	敲長
S175	120	82	I A15k		敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	8.00	5.50	3.95	323.90	敲長
S176	120	83	I A15m		敲石	安山岩 新生代第四紀 奥羽山脈	8.50	(7.90)	(4.95)	386.20	敲長
S177	120	83	I A15n	Ⅱ層	敲石	安山岩 新生代第四紀 奥羽山脈	9.10	6.90	5.20	475.50	敲長
S178	120	83	I A18o	Ⅱ～Ⅲ層上	敲石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	14.70	8.85	5.20	863.00	敲長
S179	120	83	I A14l	Ⅱ下～Ⅲ上	敲石・磨石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	(7.90)	(5.65)	(3.45)	179.30	敲長
S180	121	83	ⅢB8e付近	検出面	敲石	細粒はんれい岩 中生代白亜紀 北上山地	7.50	5.00	2.50	187.40	敲長
S181	121	83	1号住	床直	磨石	デイスait 中生代白亜紀 原地山層	12.30	7.80	5.30	756.03	
S182	121	83	7号集石		磨石	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.50)	(4.80)	(5.50)	215.80	
S183	121	83	9号土坑西側	木根付近	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	10.05	8.10	5.35	610.05	
S184	121	83	I A4e	暗褐色土	磨石(被熱)	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	10.00	6.30	2.95	285.40	
S185	121	83	I A5f	整地層下黒色土中	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	11.40	9.95	7.50	1110.10	
S186	122	84	I A5f	整地層下黒色土中	磨石・敲石	砂岩 中生代 北上山地	13.00	8.55	6.50	1056.70	
S187	122	84	I A6g	整地層2内	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	11.95	8.20	5.00	694.00	
S188	122	84	I A8j	Ⅲ層	磨石(スス付着)	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	10.55	7.30	4.65	505.90	
S189	122	84	I A8k	Ⅲ層上	磨石(スス付着)	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	(8.70)	(5.80)	(3.50)	232.80	
S190	123	84	I A8l	Ⅱ～Ⅲ層	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	12.90	10.30	6.00	1161.00	
S191	123	84	I A9j	暗褐色土上面	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	10.60	8.05	4.40	545.50	
S192	123	84	I A13i	Ⅲ層上	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	13.45	10.35	5.45	1139.40	
S193	124	85	I A14l	Ⅱ下～Ⅲ上	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	12.65	8.50	5.10	810.30	
S194	124	85	I A18m	Ⅱ層	磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	6.50	5.35	4.05	201.70	
S195	124	85	ⅢB区		磨石	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	10.40	7.25	3.85	412.60	
S196	124	85	ⅡA1m	Ⅱ層下	磨石	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	10.05	7.35	4.30	467.00	
S197	124	85	1号住	床面	石錘	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	5.05	4.85	1.20	35.46	完形
S198	124	85	2号集石		石製円盤	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	4.20	3.90	0.80	20.40	完形
S199	124	85	1号集石+33号土坑		石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	5.55	5.25	1.10	17.95	完形
S200	124	85	12号集石		石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	3.30	3.30	0.70	7.40	完形
S201	124	85	13号集石		石製円盤	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	4.10	4.10	0.90	19.90	完形
S202	124	85	19号集石		石製円盤	砂岩 中生代 北上山地	4.90	4.60	1.00	28.93	完形
S203	124	85	I A3e・4e		石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	3.50	3.50	1.20	18.80	完形
S204	125	85	I A5f	整地層～Ⅱ層	石製円盤	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	4.70	4.50	0.70	20.10	完形
S205	125	85	I A5f	整地層2下暗褐色土	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	3.80	3.80	0.60	9.83	完形
S206	125	85	I A6f	整地層2下暗褐色土	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	4.45	4.05	0.75	10.65	完形
S207	125	85	I A6g	整地層2	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	(4.50)	(2.50)	(0.50)	5.62	1/2欠
S208	125	85	I A7k	整地層2下暗褐色土	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	4.40	4.35	0.95	18.82	完形
S209	125	85	I A7k	整地層下の暗褐色土	石製円盤	デイスait 中生代白亜紀 原地山層	4.55	(3.90)	0.65	14.65	石錘?
S210	125	85	I A8f	内帯外側 整地層2下暗褐色土	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	4.20	(4.10)	1.10	13.49	略完形
S211	125	85	I A8i	整地層2下暗褐色土	石製円盤	花崗岩 中生代白亜紀 北上山地	4.60	4.50	1.20	35.86	完形
S212	125	85	I A9k	構築面～Ⅳ層上部	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	(3.90)	(2.30)	(0.80)	7.84	1/2欠
S213	125	85	I A10k	配石墓検出面	石製円盤	砂岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	4.70	4.40	1.25	25.22	完形
S214	125	85	I A10k	構築面～Ⅳ層	石製円盤	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	3.70	3.70	1.00	21.62	完形
S215	125	85	I A17o	Ⅱ層黒色土中	石製円盤	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	5.00	(3.60)	1.10	21.13	1/3欠
S216	125	85	13号集石		有孔石製品	花崗斑岩 中生代白亜紀 北上山地	6.75	(5.70)	3.00	112.70	欠け有り
S217	125	85	1号住	埋土	有孔石製品	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	(7.45)	(5.25)	(2.45)	47.57	1/3欠
S218	125	86	59号集石		有孔石製品	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	7.60	5.40	2.20	110.92	完形
S219	126	86	I A7g	整地層2下暗褐色土	有孔石製品	安山岩 中生代白亜紀 北上山地	(6.10)	3.50	(4.50)	69.02	1/5欠
S220	126	86	I A5f	整地層2下暗褐色土	有孔石製品	凝灰岩 中生代白亜紀-新生代古第三紀 久慈層群-野田層群	(4.20)	(3.95)	(1.15)	12.12	2/3欠
S221	126	86	I A11 j	7号集石付近 構築面～Ⅳ層	翡翠製有孔石製品	ヒスイ 古生代前期 新潟県糸魚川	2.60	1.80	1.25	10.83	完形
S222	126	86	I A9j	構築面～Ⅳ層	石刀	頁岩 中生代 北上山地	(3.90)	(3.20)	(1.85)	25.34	先端部
S223	126	86	I A10k	構築面～Ⅳ層	石刀	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	(17.40)	(3.80)	(1.35)	99.62	上下欠損
S224	126	86	I A10k	構築面～Ⅳ層	石刀	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	(14.95)	(2.85)	(1.55)	90.17	一部欠損
S225	126	86	15号集石		石剣	ホルンフェルス 中生代(變成は中生代白亜紀)北上山地	(22.10)	2.70	1.60	152.59	一部欠損
S226	126	86	I A8h	整地層下暗褐色土	石刀か石剣	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	(7.85)	(3.60)	(1.55)	64.83	上下欠損
S227	127	86	不明	不明	石剣	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.70)	(4.75)	(4.05)	182.02	上下欠損
S228	127	86	I A7i	東西内側 整地層2下暗褐色土	石斧(ミニチュア)	蛇紋岩 古生代オルドビス紀 早池峰山周辺	(5.40)	(2.25)	(0.95)	14.16	5(製品)
S229	127	86	I A17p	Ⅱ層下位	石斧(ミニチュア)	頁岩 中生代 北上山地	5.35	1.55	0.85	11.60	5(製品)
S230	127	86	6号集石	下部土坑埋土中	石斧未製品(ミニチュア)	ヒン岩 中生代白亜紀 北上山地	(5.40)	2.70	0.95	21.69	3～4段階
S231	127	86	I A9g	整地層下暗褐色土	石斧未製品(ミニチュア)	細粒閃緑岩 中生代白亜紀 北上山地	7.25	2.95	1.45	46.50	1～2段階
S232	127	86	I A12h	Ⅱ層	石斧未製品(ミニチュア)	頁岩 中生代 北上山地	(4.35)	(2.85)	(1.40)	20.10	1～2段階
S233	127	86	I A12h	整地層2黒色土	石斧未製品(ミニチュア)	頁岩 中生代 北上山地	4.95	2.00	0.80	10.82	1～2段階
S234	127	86	24号土坑	埋土	棒状石製品	凝灰岩 中生代 北上山地	4.40	0.70	0.50	2.46	完形

V 自然科学分析

1 平成26年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内 (北緯40° 25' 38"、東経141° 40' 45") に所在する。測定対象試料は、焼土や土坑、整地層等から出土した炭化物10点である (表1)。

試料の時期は、いずれも縄文時代後期初頭から前葉及びそれ以前と推定されている。ただし、試料1、2については、表土下10~20cmから出土し、上位からの混入の可能性も指摘される。また、試料8~10は、整地層1の中 (8と10は上面から5cm下、9は上面から7cm下) より採取された。

(2) 測定の意義

遺構の年代を把握する。

(3) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- 4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

10点の測定結果には、明らかな年代差が認められる。このため、以下では推定される時期より新しい年代を示し、一部は上位から混入した可能性も指摘される試料1～3、8～10と、推定される時期に整合する結果となった試料4～7の2つに分けて記述する。

1) 試料1～3、8～10の年代

試料1の ^{14}C 年代は $80 \pm 20\text{yrBP}$ 、2は $180 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、1が1700～1916cal AD、2が1668～1950cal ADの間に各々複数の範囲で示され、さらに新しい年代となる可能性がある (表2下の注参照)。近世以降に相当し (佐原2005)、縄文時代後期初頭から前葉及びそれ以前とする推定よりも大幅に新しい年代となった。このため、調査所見として指摘されているように、

上位から新しい炭化物が混入した可能性を考慮する必要がある。

試料3の ^{14}C 年代は $870 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は $1156 \sim 1215\text{cal AD}$ の範囲で示され、古代末から中世初頭頃に相当し (佐原2005)、これも推定より新しい年代が示された。

試料8～10は整地層1内から採取された試料で、 ^{14}C 年代は8が $1640 \pm 20\text{yrBP}$ 、9が $990 \pm 20\text{yrBP}$ 、10が $2790 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、8が $386 \sim 426\text{cal AD}$ の範囲、9が $999 \sim 1118\text{cal AD}$ の間に3つの範囲、10が $976 \sim 904\text{cal BC}$ の範囲で示され、8は古墳時代中期頃、9は平安時代後半頃、10は縄文時代晩期中葉頃に相当する (小林編2008、佐原2005)。同じ層内から出土したにも関わらず、3点の間には大きな年代差があり、整地層1の表土下から浅い箇所から採取され、上位からの混入の可能性が指摘される試料1も合わせれば、さらに大きな年代の変異が認められることになる。整地層1の年代については、これらの年代値を手がかりにしながら、周辺の状況も考慮して層の形成過程を吟味し、判断する必要がある。

2) 試料4～7の年代

試料4～7の ^{14}C 年代は、 $3640 \pm 30\text{yrBP}$ (試料7) から $3610 \pm 30\text{yrBP}$ (試料6) の間にあり、すべて誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致する。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い7が $2031 \sim 1956\text{cal AD}$ の範囲、最も新しい6が $2020 \sim 1933\text{cal AD}$ の間に2つの範囲で示される。いずれも縄文時代後期前葉頃に相当し (小林編2008)、推定される時期の範囲内である。

以上、試料10点の測定結果を検討した。これらの試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

佐原真 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学
上 ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-141005	1	3号焼土 整地層1内	炭化物	AAA	-27.63 ± 0.56	80 ± 20	98.99 ± 0.28
IAAA-141006	2	2号焼土内	炭化物	AAA	-24.13 ± 0.25	180 ± 20	97.78 ± 0.28
IAAA-141007	3	5号焼土付近 整地層2上面	炭化物	AAA	-28.34 ± 0.52	870 ± 20	89.69 ± 0.28
IAAA-141008	4	6号焼土 整地層2上面	炭化物	AAA	-24.70 ± 0.60	3,630 ± 30	63.66 ± 0.22
IAAA-141009	5	内帯S14付近 遺構埋土	炭化物	AAA	-24.19 ± 0.40	3,630 ± 30	63.61 ± 0.22
IAAA-141010	6	2号焼土下炉跡脇 焼土内	炭化物	AaA	-25.20 ± 0.53	3,610 ± 30	63.80 ± 0.21
IAAA-141011	7	7号土坑 埋土中位	炭化物	AaA	-26.70 ± 0.52	3,640 ± 30	63.58 ± 0.21
IAAA-141386	8	整地層1内 上面から5 c m下	炭化物	AaA	-26.14 ± 0.55	1,640 ± 20	81.54 ± 0.25
IAAA-141387	9	整地層1内 上面から7 c m下	炭化物	AaA	-24.63 ± 0.49	990 ± 20	88.37 ± 0.26
IAAA-141388	10	整地層1内 上面から5 c m下	炭化物	AAA	-25.06 ± 0.62	2,790 ± 30	70.67 ± 0.23

[#6764,6849]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-141005	120 ± 20	98.46 ± 0.26	81 ± 22	1700calAD - 1720calAD (18.5%)** 1818calAD - 1833calAD (13.0%)** 1880calAD - 1916calAD (36.7%)**	1694calAD - 1728calAD (24.8%)** 1812calAD - 1919calAD (70.6%)**
IAAA-141006	170 ± 20	97.96 ± 0.28	180 ± 22	1668calAD - 1681calAD (14.1%)* 1738calAD - 1755calAD (15.4%)* 1762calAD - 1782calAD (21.3%)* 1798calAD - 1803calAD (4.3%)* 1937calAD - 1950calAD (13.1%)*	1661calAD - 1690calAD (18.4%)* 1728calAD - 1810calAD (56.0%)* 1925calAD - ... (20.9%)*
IAAA-141007	930 ± 20	89.08 ± 0.26	874 ± 24	1156calAD - 1215calAD (68.2%)	1047calAD - 1088calAD (16.0%) 1122calAD - 1139calAD (3.7%) 1148calAD - 1222calAD (75.8%)
IAAA-141008	3,620 ± 30	63.70 ± 0.21	3,627 ± 27	2026calBC - 1951calBC (68.2%)	2121calBC - 2094calBC (5.3%) 2042calBC - 1907calBC (90.1%)
IAAA-141009	3,620 ± 30	63.72 ± 0.21	3,633 ± 27	2029calBC - 1954calBC (68.2%)	2127calBC - 2090calBC (9.0%) 2045calBC - 1917calBC (86.4%)
IAAA-141010	3,610 ± 20	63.77 ± 0.20	3,610 ± 26	2020calBC - 1993calBC (22.8%) 1983calBC - 1933calBC (45.4%)	2031calBC - 1896calBC (95.4%)
IAAA-141011	3,670 ± 20	63.36 ± 0.20	3,637 ± 26	2031calBC - 1956calBC (68.2%)	2129calBC - 2089calBC (10.9%) 2046calBC - 1923calBC (84.5%)
IAAA-141386	1,660 ± 20	81.35 ± 0.23	1,639 ± 24	386calAD - 426calAD (68.2%)	342calAD - 433calAD (84.1%) 490calAD - 532calAD (11.3%)
IAAA-141387	990 ± 20	88.43 ± 0.25	993 ± 23	999calAD - 1002calAD (1.9%) 1012calAD - 1043calAD (57.5%) 1106calAD - 1118calAD (8.8%)	990calAD - 1049calAD (71.7%) 1085calAD - 1125calAD (19.2%) 1137calAD - 1150calAD (4.5%)
IAAA-141388	2,790 ± 20	70.66 ± 0.21	2,788 ± 26	976calBC - 904calBC (68.2%)	1008calBC - 892calBC (88.9%) 878calBC - 848calBC (6.5%)

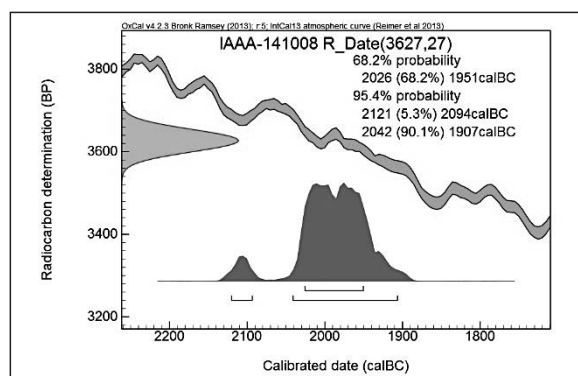
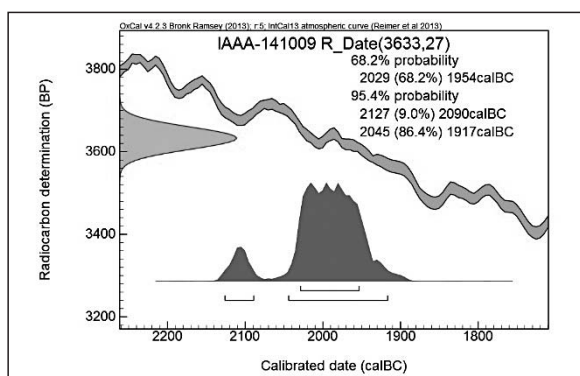
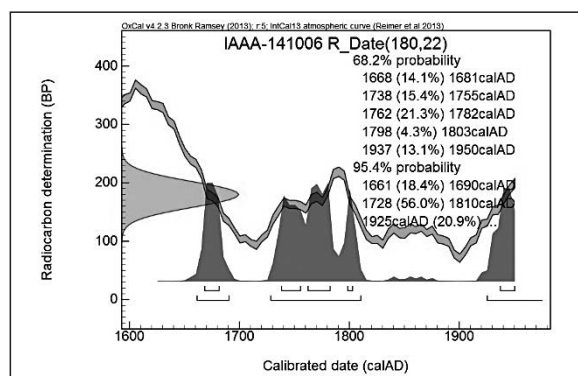
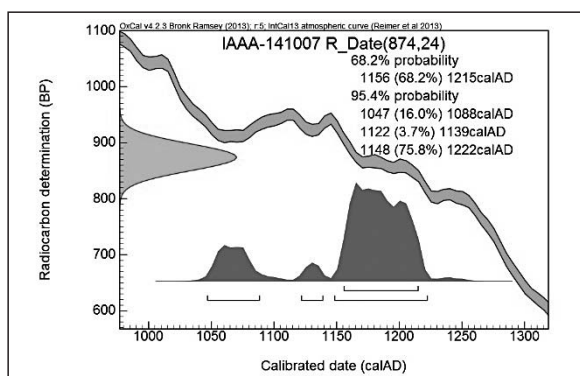
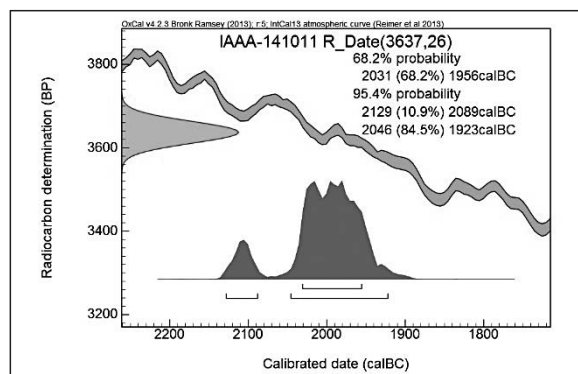
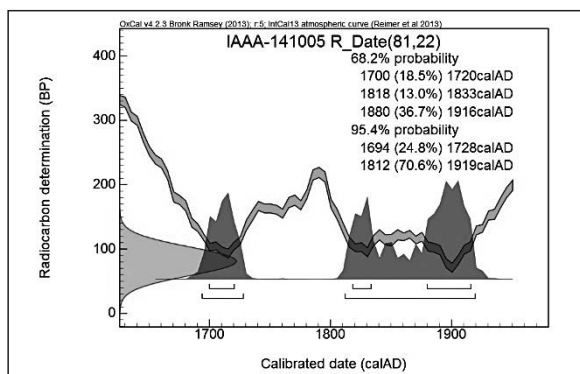
[参考値]

*Warning! Date may extend out of range

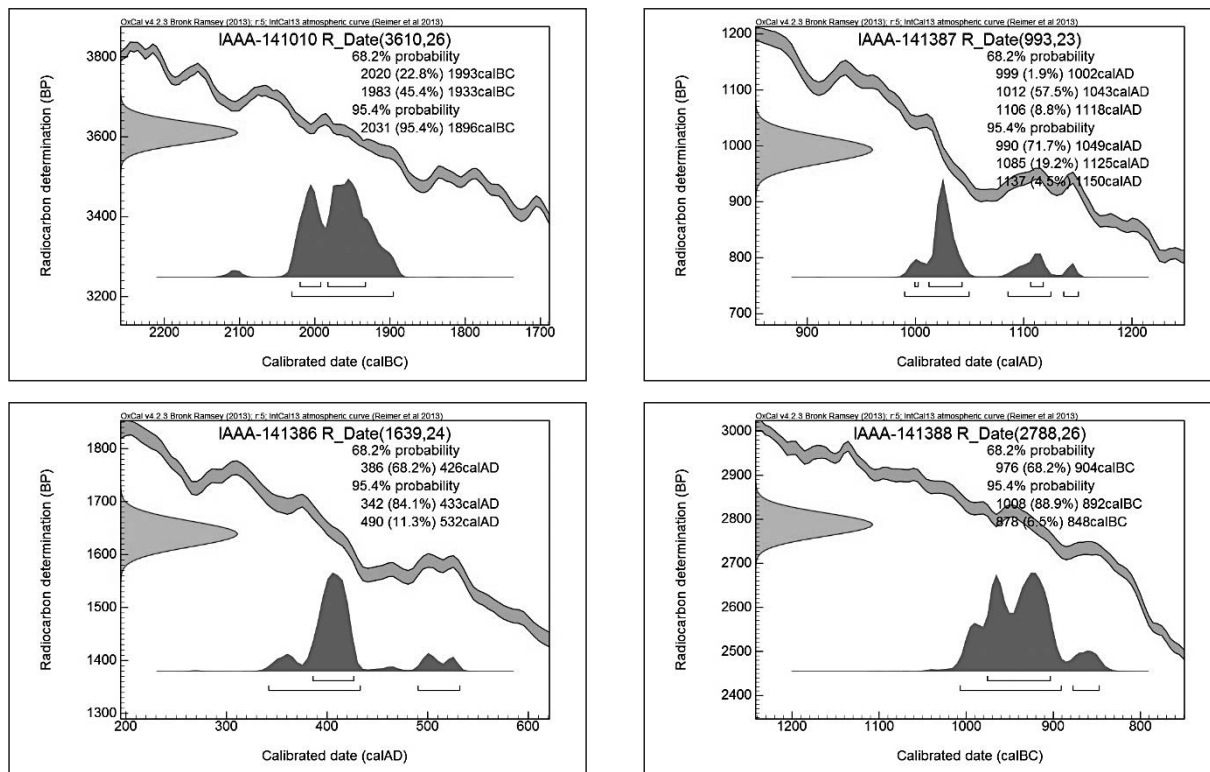
Warning! Date probably out of range

**Warning! Date probably out of range

(これらの警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の¹⁴C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*、**の順にその可能性が高くなる。)



1 平成26年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

2 平成27年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割(北緯40° 25' 38"、東経141° 40' 45") に所在する。測定対象試料は、竪穴状遺構、柱穴、土坑から出土した炭化物10点である(表1)。いずれも縄文時代後期前葉頃と推定されている。

2~5、文献は省略

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10点のうち⑤を除く9点の¹⁴C年代は、3930±30yrBP(試料⑥)から3670±30yrBP(試料⑦)の間にまとまる。暦年較正年代(1σ)は、最も古い⑥が2473~2349cal BCの間に3つの範囲、最も新しい⑦が2129~1981cal BCの間に3つの範囲で示され、全体として縄文時代後期初頭から前葉頃に相当する(小林編2008)。推定される時期におおむね一致するか、若干古いと見られる。

試料⑤の¹⁴C年代は900±20yrBP、暦年較正年代(1σ)は1046~1167cal ADの間に3つの範囲で示され、推定される時期より大幅に新しい値となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C(‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-151922	①	1号竪穴状遺構 埋土	炭化物	AAA	-26.48 ± 0.25	3,770 ± 30	62.53 ± 0.22
IAAA-151923	②	P007(柱穴) 埋土中位	炭化物	AAA	-28.20 ± 0.26	3,720 ± 30	62.93 ± 0.23
IAAA-151924	③	14号土坑 埋土中位	炭化物	AAA	-27.36 ± 0.29	3,800 ± 30	62.29 ± 0.23
IAAA-151925	④	15号土坑 埋土	炭化物	AAA	-26.38 ± 0.24	3,780 ± 30	62.47 ± 0.22
IAAA-151926	⑤	18号土坑 埋土中位	炭化物	AAA	-26.92 ± 0.28	900 ± 20	89.36 ± 0.28
IAAA-151927	⑥	21号土坑 埋土	炭化物	AaA	-29.74 ± 0.29	3,930 ± 30	61.34 ± 0.21
IAAA-151928	⑦	24号土坑 底面直上	炭化物	AAA	-27.51 ± 0.25	3,670 ± 30	63.35 ± 0.21
IAAA-151929	⑧	25号土坑 埋土底面近く	炭化物	AAA	-29.51 ± 0.26	3,730 ± 30	62.86 ± 0.21
IAAA-151930	⑨	26号土坑 埋土上位	炭化物	AAA	-25.56 ± 0.30	3,700 ± 30	63.10 ± 0.20
IAAA-151931	⑩	34号土坑	炭化物	AAA	-25.42 ± 0.28	3,730 ± 30	62.83 ± 0.22

[#7665]

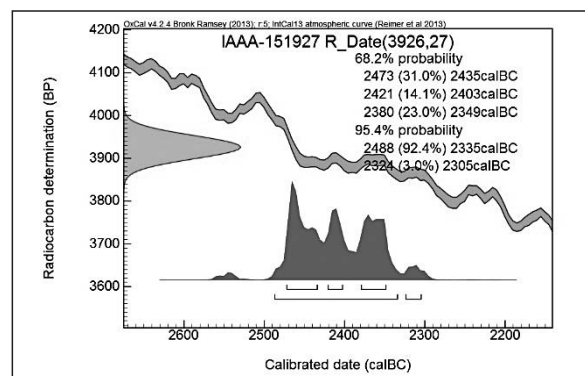
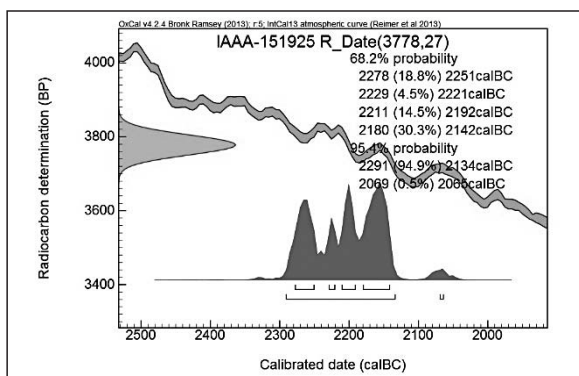
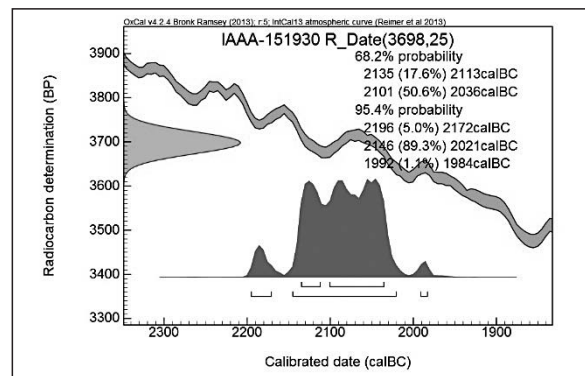
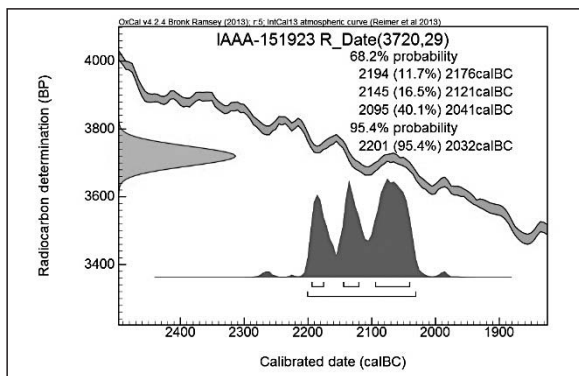
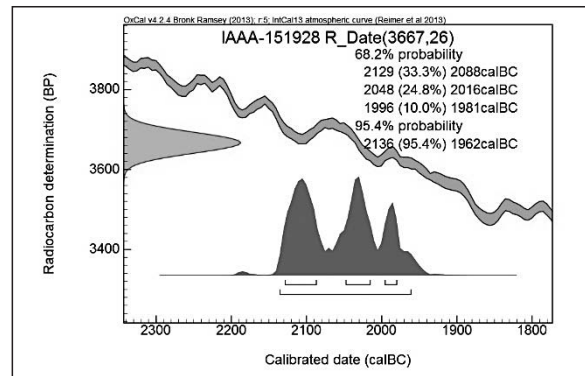
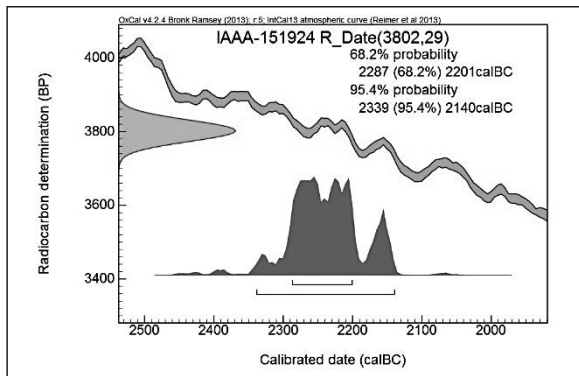
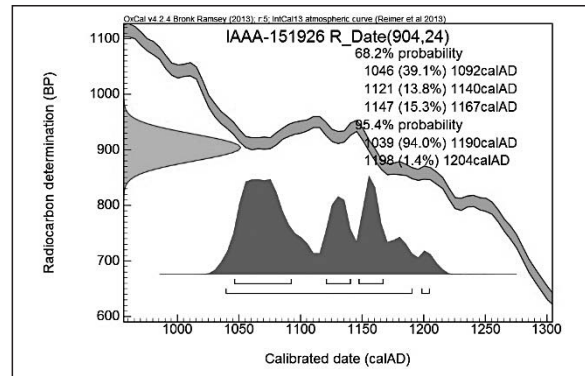
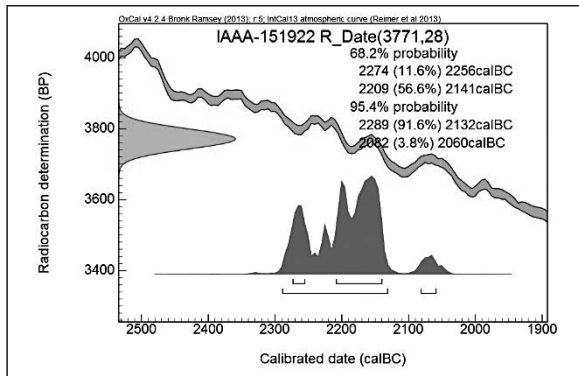
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151922	3,800 \pm 30	62.35 \pm 0.22	3,771 \pm 28	2274calBC - 2256calBC (11.6%) 2209calBC - 2141calBC (56.6%)	2289calBC - 2132calBC (91.6%) 2082calBC - 2060calBC (3.8%)
IAAA-151923	3,770 \pm 30	62.52 \pm 0.23	3,720 \pm 29	2194calBC - 2176calBC (11.7%) 2145calBC - 2121calBC (16.5%) 2095calBC - 2041calBC (40.1%)	2201calBC - 2032calBC (95.4%)
IAAA-151924	3,840 \pm 30	61.99 \pm 0.22	3,802 \pm 29	2287calBC - 2201calBC (68.2%)	2339calBC - 2140calBC (95.4%)
IAAA-151925	3,800 \pm 30	62.30 \pm 0.21	3,778 \pm 27	2278calBC - 2251calBC (18.8%) 2229calBC - 2221calBC (4.5%) 2211calBC - 2192calBC (14.5%) 2180calBC - 2142calBC (30.3%)	2291calBC - 2134calBC (94.9%) 2069calBC - 2065calBC (0.5%)
IAAA-151926	940 \pm 20	89.01 \pm 0.27	904 \pm 24	1046calAD - 1092calAD (39.1%) 1121calAD - 1140calAD (13.8%) 1147calAD - 1167calAD (15.3%)	1039calAD - 1190calAD (94.0%) 1198calAD - 1204calAD (1.4%)
IAAA-151927	4,000 \pm 30	60.74 \pm 0.20	3,926 \pm 27	2473calBC - 2435calBC (31.0%) 2421calBC - 2403calBC (14.1%) 2380calBC - 2349calBC (23.0%)	2488calBC - 2335calBC (92.4%) 2324calBC - 2305calBC (3.0%)
IAAA-151928	3,710 \pm 30	63.02 \pm 0.20	3,667 \pm 26	2129calBC - 2088calBC (33.3%) 2048calBC - 2016calBC (24.8%) 1996calBC - 1981calBC (10.0%)	2136calBC - 1962calBC (95.4%)

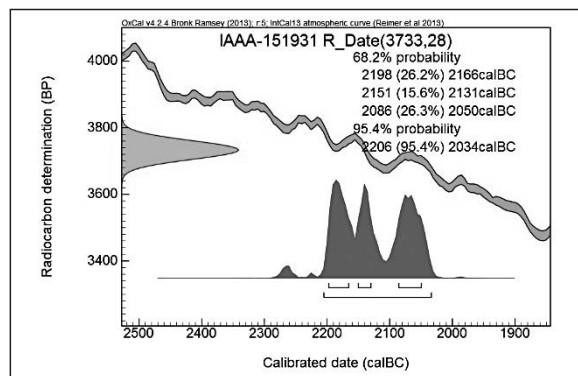
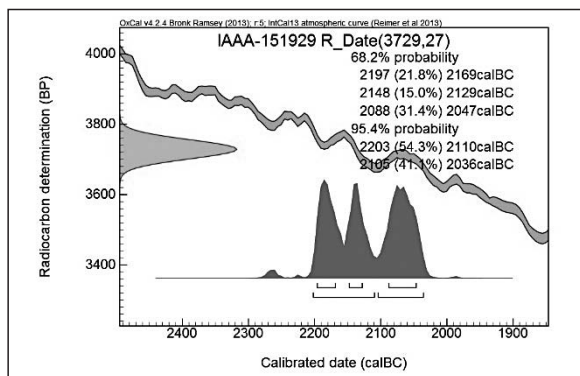
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151929	3,800 \pm 30	62.28 \pm 0.21	3,729 \pm 27	2197calBC - 2169calBC (21.8%) 2148calBC - 2129calBC (15.0%) 2088calBC - 2047calBC (31.4%)	2203calBC - 2110calBC (54.3%) 2105calBC - 2036calBC (41.1%)
IAAA-151930	3,710 \pm 20	63.03 \pm 0.19	3,698 \pm 25	2135calBC - 2113calBC (17.6%) 2101calBC - 2036calBC (50.6%)	2196calBC - 2172calBC (5.0%) 2146calBC - 2021calBC (89.3%) 1992calBC - 1984calBC (1.1%)
IAAA-151931	3,740 \pm 30	62.78 \pm 0.22	3,733 \pm 28	2198calBC - 2166calBC (26.2%) 2151calBC - 2131calBC (15.6%) 2086calBC - 2050calBC (26.3%)	2206calBC - 2034calBC (95.4%)

[参考値]



2 平成27年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)



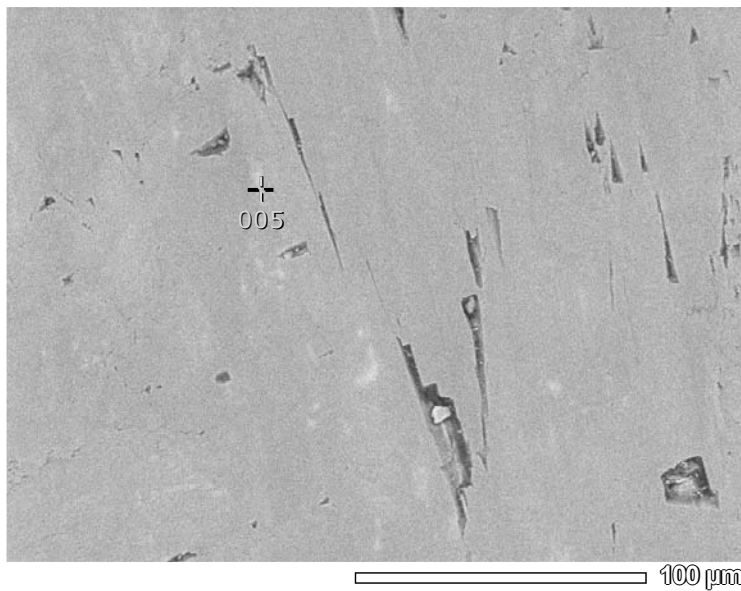
[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

3 ヒスイ製垂飾品の鑑定結果

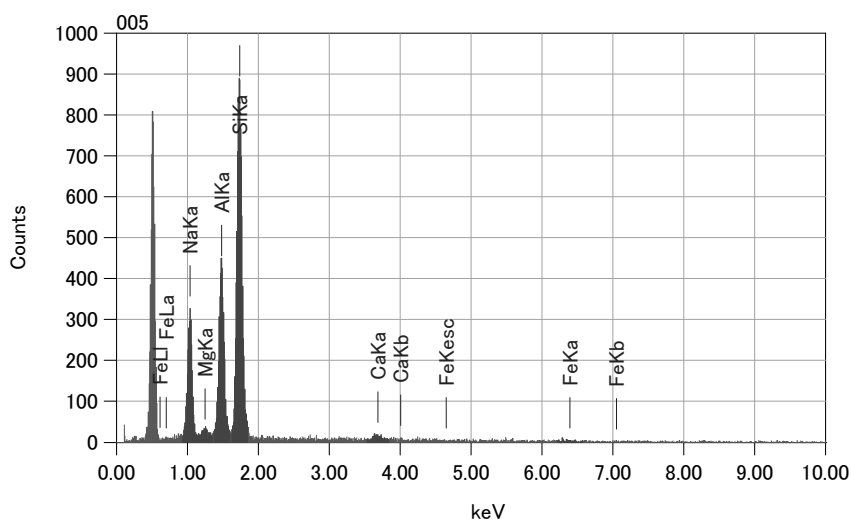
資料の半定量化学分析について

使用した機械	分析走査電子顕微鏡(SEM-EDS)に日本電子製 エネルギー分散型エックス線スペクトロメーターをつけた走査型電子顕微鏡 JSM-6510LV
分析条件	低真空モード
炭素蒸着	なし
加速電圧	15 k V
分析時間(リアルタイム)	120秒
ワーキングディスタンス	10mm
分析範囲	面分析 0.25mm×0.2mm
施設名	糸魚川市フォッサマグナミュージアム
分析年月日	2015年12月13日
分析者	宮島 宏(館長補佐)

視野010



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: x 500
測定日時	: 2014/02/08
画素数	: 1024 x 768



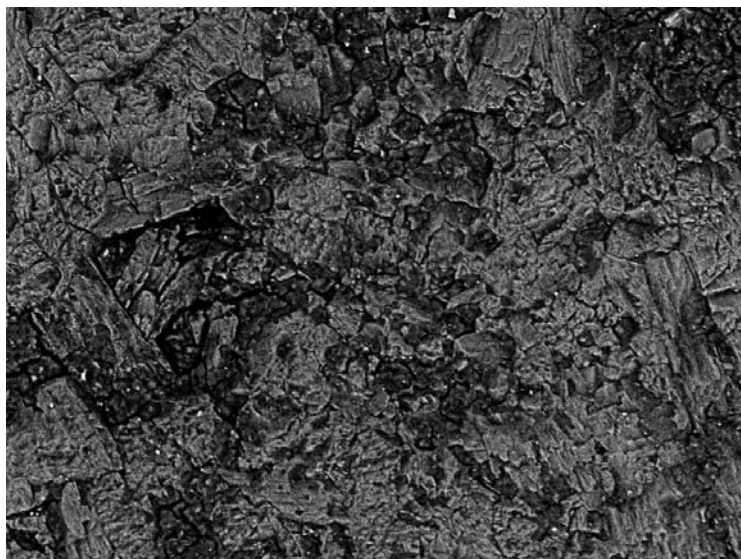
測定条件	: 6510 (LA)
装置名	: 15.0 kV
加速電圧	: 0.18625 nA
照射電流	: T4
PHAモード	: 54.41 sec
経過時間	: 35.61 sec
有効時間	: 34 %
デッドタイム	: 4602 cps
計数率	: 0 - 20 keV
エネルギー範囲	

ZAF法 簡易定量分析 (酸化物)
 フィッティング係数 : 0.5168
 全酸素数 : 6.0

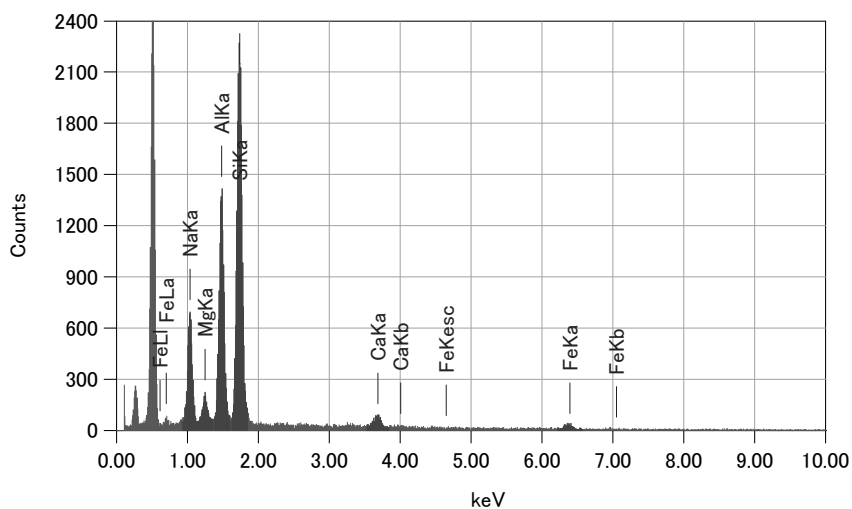
元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		47.51						
Na K	1.041	10.44	0.77	15.06	Na2O	14.08	0.92	20.3306
Mg K	1.253	0.43	0.91	1.18	MgO	0.72	0.04	0.6967
Al K	1.486	12.00	1.04	14.74	Al2O3	22.67	0.90	22.1682
Si K	1.739	28.55	1.37	67.39	SiO2	61.07	2.05	54.3012
Ca K*	3.690	0.76	1.77	1.26	CaO	1.07	0.04	1.8598
Fe K	6.398	0.31	4.65	0.37	FeO	0.40	0.01	0.6434
合計		100.00		100.00		100.00	3.96	

西平内I遺跡石製品

1/1



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: x 500
測定日時	: 2015/12/13
画素数	: 1024 x 768



測定条件	: 6510 (LA)
装置名	: 15.0 kV
加速電圧	: 0.18625 nA
照射電流	: T4
PHAモード	: 257.47 sec
経過時間	: 120.00 sec
有効時間	: 53 %
デッドタイム	: 7837 cps
計数率	: 0 - 20 keV
エネルギー範囲	

ZAF法 簡易定量分析(酸化物)
 フィッティング係数 : 0.5338
 全酸素数 : 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		46.83						
Na K	1.041	8.02	0.87	11.66	Na2O	10.81	0.72	15.0964
Mg K	1.253	1.52	0.99	4.17	MgO	2.52	0.13	2.4598
Al K	1.486	13.66	1.14	16.91	Al2O3	25.81	1.04	25.0499
Si K	1.739	25.96	1.52	61.74	SiO2	55.53	1.89	48.4986
Ca K	3.690	1.54	1.92	2.57	CaO	2.16	0.08	3.7751
Fe K	6.398	2.47	5.06	2.95	FeO	3.18	0.09	5.1202
合計		100.00		100.00		100.00	3.94	

VI 総括

1 調査経過のまとめ

野外調査1年目、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群とそれに囲まれたように存在する2枚の整地層を確認し、当初は「配石遺構に囲まれた整地された広場」と報告した。この中央広場と思われた整地層を除去したところ、弧を描く石の列が現れはじめ、周辺の状況から直径25m前後の弧状をなすものと想定した。このことにより検出された配石遺構群は、石の集合体からなる外側のもの(外帯)と、整地層下から見つかった内側の石列(内帯)という二重構造をなすことが明らかとなった。出土遺物には、当該期の土器や土偶、鐸形・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるものが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数が多いという特徴が見られた。

2年目は、墓と考えた外帯の配石遺構毎の精査と、その内側に弧状に巡る内帯の性格を明らかにすべく調査を実施した。前者では、配石遺構の下部に埋葬施設とも思われる土坑を伴うものと、それを伴わずに礫が据えられた凹みが複数認められるだけの二種が存在することが判明したが、墓とする根拠は得られなかった。一方、内帯の内側からは柱穴状の小土坑が2つ見つかっただけで、これもその性格に関わるものは得られなかった。この調査では、内帯の石列よりも確実に古い竪穴住居が複数棟検出され、配石遺構構築以前から構築時、それ以降の整地造成作業という一連の動きを追うことが出来た。

2 各種遺物の出土状況

調査で出土した土器の時期は、古い方から縄文時代早期中葉の貝殻文土器、縄文中期末～後期、主体となる後期初頭～前葉のいわゆる十腰内I式前後、弥生時代後期赤穴式だけである。既述のとおり、配石遺構群の時期である後期初頭から前葉期のものが大半を占める。その器種には深鉢形、壺形、浅鉢形などがあり、浅鉢や壺形土器には釣手(吊手)がつくものが比較的多く見受けられる。

土器以外の遺物の出土分布は第128～130図に示したとおりである。土偶をはじめ、鐸形土製品・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊などが、石製品では、石刀や石剣類、石製円盤などが出土した。中でも、ミニチュア土器には、胴部下端から底部外面にかけて小さな孔が通されているものがあり、特殊な用途が想定される。また、調査終盤には遺構外からではあったが、ヒスイ製の有孔垂飾品も1点出土し、これが副葬品であった可能性もあろう。このように、祭祀に関連すると言われる遺物が目立つ一方で、石斧や製作途中と思われる未製品、さらにその製作工具であろう敲石の出土点数が多かったことも特徴の一つであった。未製品には、石斧製作工程の各段階のものが見られることから、一連の石斧製作に関わる場であったと考えられよう。近年この地区に増加した発掘調査により、県境を跨いでこの周辺の縄文時代後期の遺跡にも石斧製作を思わせる遺跡が存在することが分かってきている。

また、調査開始当初は余りにかけていなかったが、おはじき程度の大きさの小礫が多く出土していた。いかにも海水で入念に洗われたこれらの石は、調査1年目の途中から意識され、2年目の調査では小判形をした土坑中から大量に発見されるに至った。形状は墓とも思える遺構である。このことに関連して、焼けた粘土の塊も出土した。大きさは先述の小石に近い。粘土の質がきめ細かく、触る

と柔らかめの感触を持つものとかかりかに固いものがある（写真図版70）。小礫ほど多くの出土を見ないが、これらも祭祀に関連した遺物と考えている。

ここで、祭祀関連遺物の特徴を他の同種の遺跡と比較して述べる。土製円盤が多いことは上述したとおりだが、三角状土製品は見られない。土偶も数えるほどで、岩偶は出土していない。赤色顔料が付着する土器片も多数あったが、外帯の配石遺構群からの出土が特別多いというわけでない、などが挙げられる。

3 配石遺構群構成礫の石質

平成26・27年度調査とも、配石遺構群の内帯・外帯すべての礫について、野外調査時に外部機関による石質鑑定を行った。構成礫の総数は845個、うち内帯の構成礫は180個、外帯は665個で、石質は下記に記載したA～Sの19種がある。

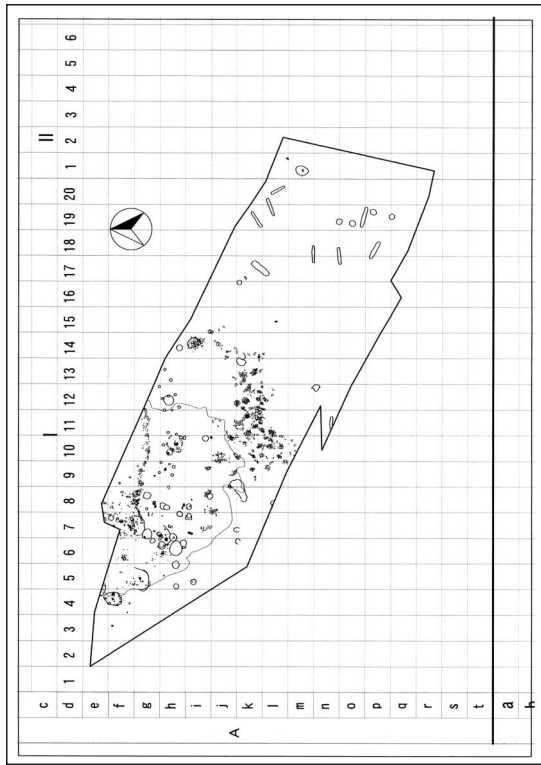
- A 砂岩
- B 花崗岩
- C 花崗閃緑岩
- D 閃緑岩
- E 玢岩（ひんがん）
- F デイサイト
- G 斑糲岩（はんれいがん）
- H ホルンフェルス
- I チャート類
- J 角閃石玢岩
- K 凝灰岩
- L 頁岩類
- M ペグマタイト
- N アプライト
- O 石英斑岩
- P 花崗斑岩
- Q 蛇紋岩
- R 斑岩
- S 溶結凝灰岩

外帯→665個中不明33個 対象632個17種

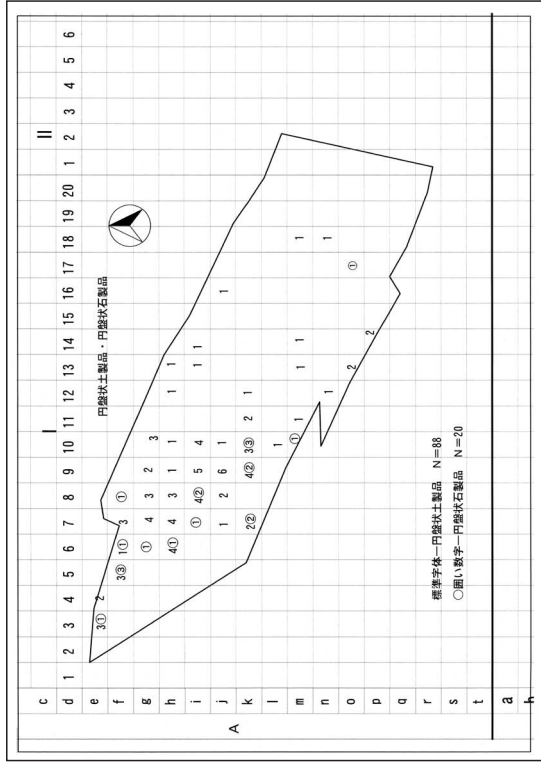
A：233個 B：106個 C：150個 D：7個 E：7個 F：29個 G：17個 H：8個
I：2個 J：2個 K：4個 L：8個 M：1個 N：52個 O：4個 P：1個
Q：1個 R：0個 S：0個

内帯→180個中不明11個 対象169個17種

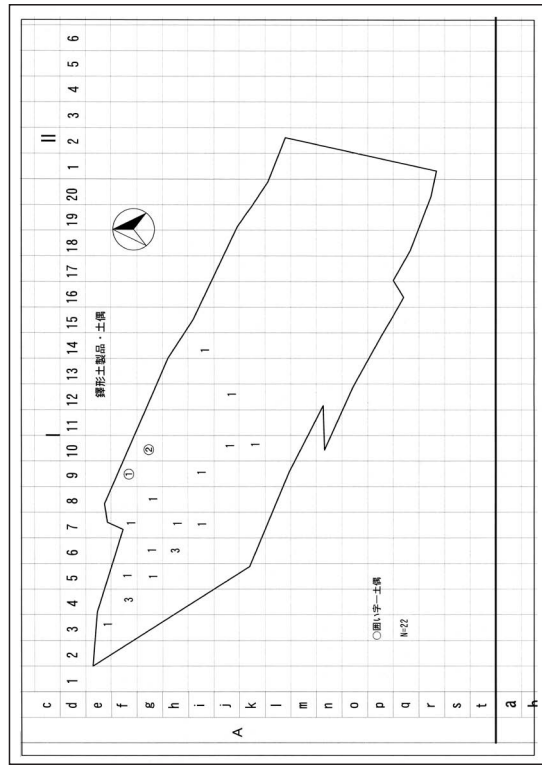
A：2個 B：118個 C：16個 D：1個 E：5個 F：7個 G：2個 H：2個
I：2個 J：1個 K：0個 L：1個 M：3個 N：0個 O：1個 P：6個
Q：0個 R：1個 S：1個



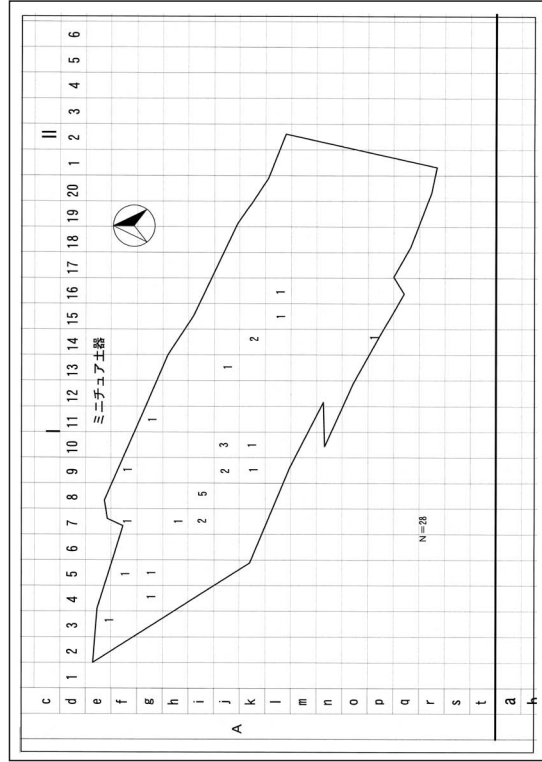
全体図



土製・石製円盤

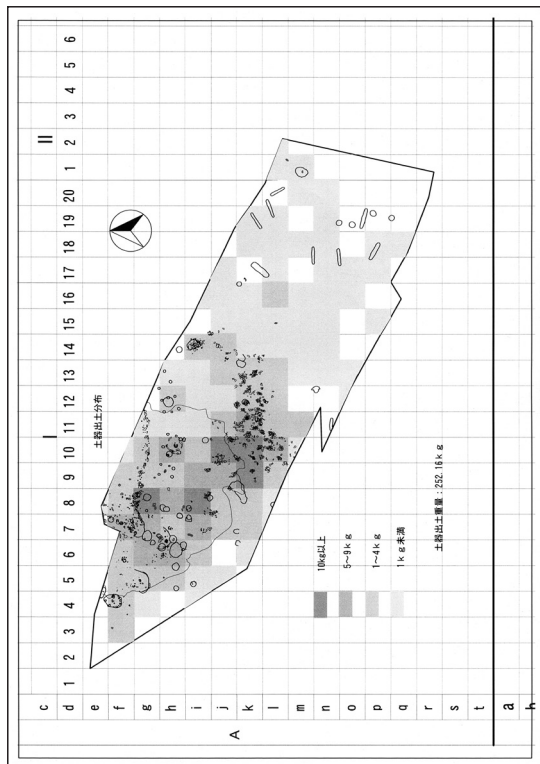


鐔形土製品・土偶

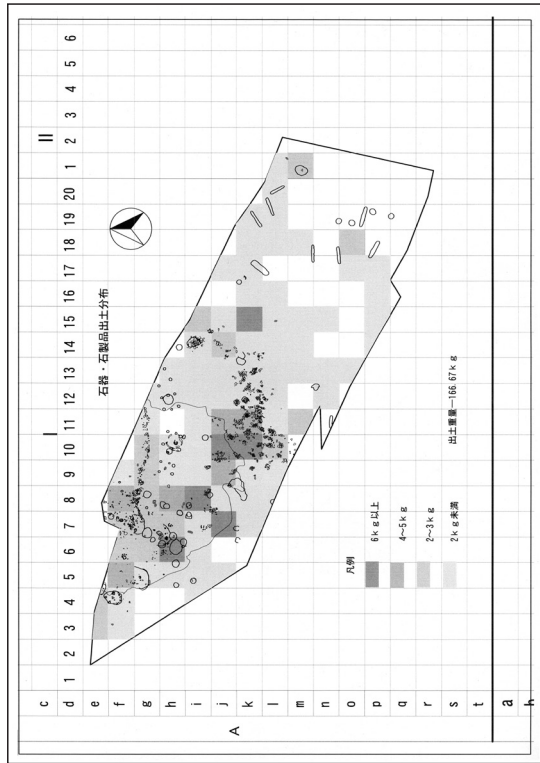


ミニチュア土器

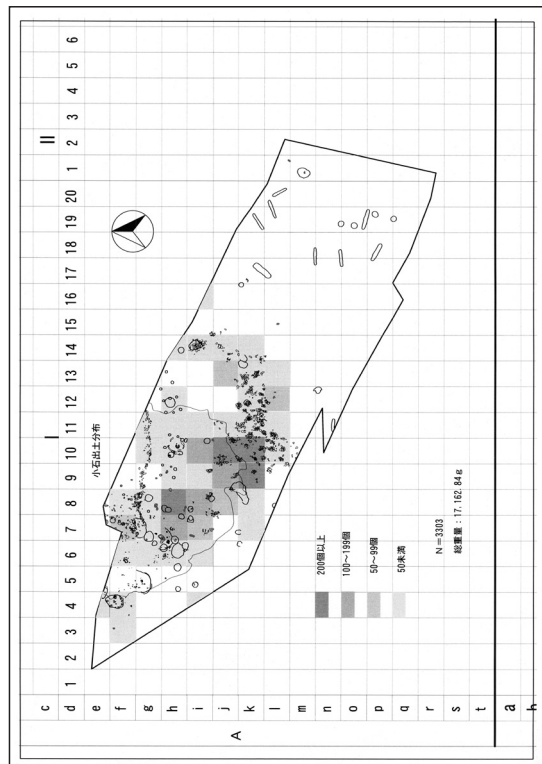
第128図 遺物毎の出土分布(1)



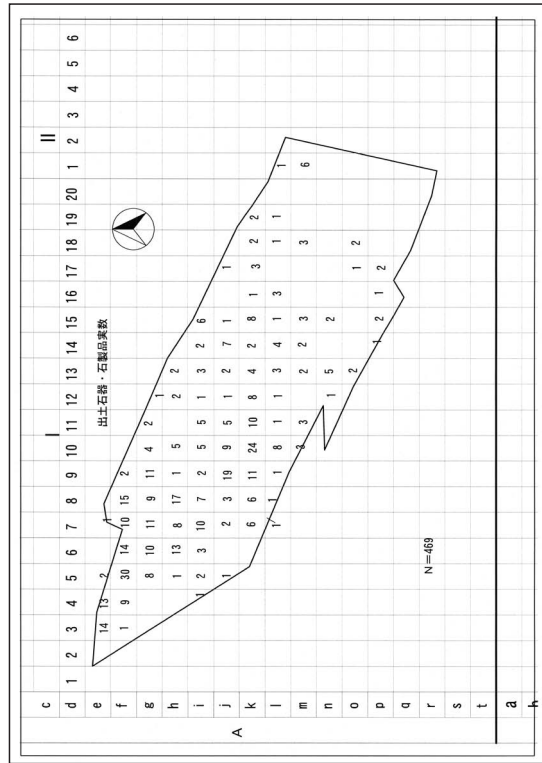
土器の出土分布



石器・石製品の出土分布



小礫(小石)の出土分布



石器類の出土点数

まとめると、砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種で625個、全体の78%を占め、構成礫のほとんどは海岸を含むこの周辺地域から調達した石が使われていたことが判明した。外帯では、礫の集合体の中に円礫ないし垂円礫が全体の1～2割程度混ぜ込まれるような傾向が見られ、特に海岸付近から持ち込まれたと思われる小礫が目立つ。内帯ではそれがあまり見当たらず花崗岩が主となるが、その割合は全体の65%と高い。

4 遺構の重複関係とその内容

巻末の附図に遺構配置図を掲載した。地形的に見ると調査区の中央部はほぼ平坦で、南側に向けて緩やかな傾斜を持つが、配石遺構の外帯はこの平坦部から斜面地にかけて広がり、南東部に集中している。一方、内帯は調査区北側の整地層2枚の下から検出され、その内帯と外帯の間の空間には、竪穴住居や掘立柱建物、土坑、炉跡などが2年目の調査で確認された。中には、内帯よりも確実に古い竪穴住居（5号住居）が存在するなど、注目される重複関係も見られる。これらの遺構群のうち、いくつかをよく観察すると、全体の配置としては、弧状ないし環状をなす可能性が有ることが分かる。内帯とした石列の描く曲線、外帯の集石群の広がり、整地層の残る範囲、掘立柱建物の軸方向とそれらが向く方向。いずれをとっても「環」が意識され、まだ北側の調査区域外にそれぞれの遺構の広がりがあることが予想される。これにあたらぬ遺構としては、陥し穴状遺構と土坑群がある。前者は、調査区東側の埋没沢側に位置するものが大半で、配石遺構群のあるこの空間とは一線を画する。後者は不規則に配置されるように見えるが、部分的に見れば直線状に見えない部分がないわけではない。

ここで、調査で認識できた遺構群の重複事例についてまとめておく。あくまでも、遺構の間での切り合いを見るものであり、ここでは年代測定の結果はこれに反映させていない。初年度の調査開始当初、表土掘削を行っていた際に黄色土が表土直下に現れたが、これが整地層1であった。もっと下から出てくるはずの土であったためとりあえずこの面を残したが、本遺跡ではこれが2番目に新しい遺構となる。最も新しい遺構は、この上面で検出した焼土遺構2基である。よって、この整地層1の下から見つかった遺構のすべてはこれよりも確実に古い。整地層1が各種遺構を覆う範囲は、尾根状の平坦部とそこから西側ないし南側の肩部を廻り、最も標高の高い場所にある58号集石付近まで広がる。この整地層1に被覆されるか否かは、新旧を判断するひとつの目安となるが、これに覆われる集石と覆われない集石があることについては、それが施された時期の差を示すものとはならない。

さて、ここに既述以外の直接切り合いがあって重複関係が判明している遺構について挙げてみる。

- ① 5号住居は内帯の石列よりも古い。
- ② 1号住居に重複する14号土坑群は住居より新しい。
- ③ 3号掘立柱建物は8号炉跡（周溝を伴う住居の炉とみて）より新しい。

上記①から③について、①は住居が内帯に付属するトゲ状の石列下にあることから、②は重複する箇所を断面観察から、③は住居の周溝と掘立柱建物を構成する柱穴との断面観察から判断した。これらをまとめてみると、概ね(1)～(4)のような大まかな流れが掴めるのではないかと。

- (1) 竪穴住居跡の構築・廃棄
- (2) 土坑群の構築
- (3) 配石遺構の構築・掘立柱建物の構築
- (4) 整地土で被覆する造成工事

これに、測定した¹⁴C実年代を当てはめてみる。

- ・ 竪穴住居跡構築と廃棄→縄文時代後期初頭
- ・ 土坑群の構築→縄文時代後期初頭から前葉
- ・ 配石遺構の構築・掘立柱建物の構築→縄文時代後期初頭から前葉
- ・ 整地土で被覆する造成工事→縄文時代晩期中葉か古墳時代中期か平安時代後半かあるいは現代ということになろう。このような新旧関係と年代観からも、突如としてこの地に配石遺構がつけられる訳ではなく、それ以前にベースとなる集落が存在していたことが窺える。

繰り返しになるが、石斧とその未製品、製作工具であるハンマーが数多く見つかっている。剥離・整形→敲打→研磨という製作工程それぞれに属する段階のものが見られ、ここに石器製作工房が存在した可能性は高い。単純に、配石遺構が構築される以前の集落が石器製作に関わっていたと考えたが、根拠はない。また、単独の遺構として精査した炉跡が複数あったが、配石遺構群と同時期のものと考えべきか、あるいはそれ以前の集落の竪穴住居に付属する炉なのかの判断できなかった。住居の何らかの痕跡との組み合わせ、例えば、前述した8号炉跡と住居跡の周溝という明確なパターンがこの他には認められなかった。

最後に、内帯の石列と外帯の集石群についてであるが、これらが同時存在するかしらないかは遺跡の内容を語る上で重要な問題である。

- ① 多くの人々の手によって、まず内帯の石列が環状に出来上がる。
- ② この目標物を目指し、周辺に石の集合体をつくる。これは一斉に出来るわけではなく、徐々に増えていく。あたかも寺院の墓地区画がそうなるかのように。
- ③ 内帯である環状の石列周辺には、だんだんと外側の輪、外帯ができる。自然発生的な増え方であり、きちんとした環状はなさない。
- ④ 最後は役割を終わらせるためか、あるいは人々の目につかないようにするためか、これを覆いつくす必要が生じ、大土木工事を再度行った。但し、いつ誰が行ったかはわからない。

といった、①～④のような経過を辿ったものと考えたい。

本遺跡が「太平洋側初の大規模配石遺構群」であることはほぼ確かであろうし、「配石遺構を覆う整地層」についても事例の少ない新たな成果であった。北東北に突如起こったであろう縄文時代後期初頭から前葉にかけての大きな出来事は、人々の生活に大きな変化をもたらしたことは想像に難くない。単純に「冷涼な気候」であったこともその要因の一つと考えられようが、実際はもっと複雑な状況ではなかったのか。

今回確認された配石遺構のうち、内帯のすべてと外帯の代表的な集石5基については、将来の移設・復元に備えるべく最新の三次元計測を行って、詳細な図面の作製およびデータの保管をしている。また、これらを構成した礫については旧角の浜小学校に保管し、洋野町教育委員会が管理していることを付け加えて、報告を締めくくりたい。

参考・引用文献

- 青森市教育委員会 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書 第30集
- 青森県教育委員会 1984 『一ノ渡遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第79集
- 青森県教育委員会 2016 『下天摩遺跡・大草里窪遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第572集
- 秋田県教育委員会 1990 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ 高屋館跡』 秋田県埋蔵文化財調査報告書 第198集
- 一戸町教育委員会 1993 『御所野遺跡Ⅰ-縄文時代中期の大集落跡』 一戸町埋蔵文化財調査報告書第32集
- 岩手県文化振興事業団 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 岩手県文化振興事業団 2011 『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集
- 岩手県文化振興事業団 2013 『芋田沢Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第604集
- 鹿角市教育委員会 2010 『特別史跡 大湯環状列石ガイドブック』
- 北秋田市教育委員会 2011 『史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書』 北秋田市埋蔵文化財調査報告書 第13集
- 北上市教育委員会 1969 『北上市稲瀬町樺山遺跡緊急調査報告書』 北上市文化財調査報告書 第7集
- 五所川原市教育委員会 2014 「五月蒔遺跡の発掘調査成果について」『平成25年度五所川原市文化財講演会レジュメ』
五所川原市教育委員会文化スポーツ課十三湊発掘調査室
- 滝沢村教育委員会 1991 『湯舟沢Ⅱ遺跡-ストーンサークルの調査概要-』
- 平川市教育委員会 2007 『大師森遺跡発掘調査報告書』 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 田野畑村教育委員会 2001 『館石野Ⅰ遺跡-縄文時代後期の列石遺構の調査-』 田野畑村文化財調査報告書 第14集
- 種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ<角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢)地区>』 種市町埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 種市町教育委員会 2004 『種市町立歴史民俗資料館収蔵資料図録Ⅰ考古編』 種市町立歴史民俗資料館
- 東和町教育委員会 2004 『清水屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書-縄文編-』 東和町文化財調査報告書 第34集
- 平川市教育委員会 2007 『大師森遺跡発掘調査報告書』 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 森町教育委員会 2008 『鷲ノ木遺跡』 森町埋蔵文化財調査報告書 第14集
- 洋野町教育委員会 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 陸前高田市教育委員会 1992 『門前貝塚』 陸前高田市文化財調査報告書 第16集
- 秋元信夫 1990 「環状列石と建物跡」『よねしろ考古』第6号 よねしろ考古学研究会
- 阿部昭典 2008 「縄文後期集落の形成と環状列石」『縄文時代の社会変動論』 未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2008 「文化変化と縄文社会の変容-縄文時代中期から後期への変動-」『縄文時代の社会変動論』
未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2014 「東北北部の環状列石と縄文後期社会」『平成26年度春季特別展 縄文!岩手10000年のたび』
大阪府立弥生文化博物館
- 榎本剛治 2005 「秋田県における湯舟沢A式土器の検討」『北奥の考古学』 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 榎本剛治 2008 「十腰内Ⅰ式土器」『総覧縄文土器』 小林達雄編 (株)UM Promotion
- 鈴木克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4」『縄文時代』9号
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣
- 鈴木克彦ほか 2008 「日本のストーンサークル」『季刊考古学第101号』 雄山閣
- 葛西勲ほか 2003 「切断壺形土器(切断土器)の研究」『市史研究青森』第6号
- 加納 博 1998 「環状列石に見る縄文人の美学(1997)-大湯型と小牧野型-」『石にひかれて-噴火・地震から「どじょっこの唄」まで-』 秋田文化出版
- 熊谷常正 2004 「岩手県北部の配石遺構」『岩手考古学会第31回大会レジュメ』

- 児玉大成 2013 「小牧野遺跡-円形劇場を思わせる環状列石の広場」『別冊太陽』212 平凡社
- 小林 克 2014 「東北部縄文時代祭祀・儀礼遺構のシンボリズムとその変遷-「性的原理」と「擬似的住居」-」『古代 第133号』P1～38 早稲田大学考古学会
- 鈴木克彦ほか 2008 「日本のストーンサークル」『季刊考古学第101号』 雄山閣
- 滝本学 2005 「青森県における縄文時代の組石石棺墓について」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 千田政弘 2013 『平内Ⅱ発掘調査報告書-町有地整備に伴う遺跡発掘調査-』洋野町埋蔵文化財調査報告書 第1集 洋野町教育委員会
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観4 後期・晩期・続縄文』 小学館
- 古屋敷則雄 2005 「環状列石の設計図を求めて」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 三浦孝一ほか 1999 『北日本における縄文時代の墓制資料集』 北海道考古学情報交換会・第20回記念シンポジウム実行委員会
- 山口義伸 2005 「大師森遺跡の立地環境について」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会

写 真 图 版



遺跡遠景（南上空から）



遺跡近景（直上から）



配石墓群全景（南東から）



調査区全景（南東から）

写真図版2 調査区近景



基本層序



整地層の堆積



整地層南北西A-A' (西から)

写真図版3 基本層序・整地層の堆積(1)



整地層東西ベルトD-D' 西側 (南から)



整地層東西ベルトD-D' 中央部 (南から)



整地層南北ベルト中央B-B' (西から)



整地層南北ベルト東C-C' (東から)



整地層東西ベルトD-D' 北面 (西から)



木根下の整地層堆積状況 (西から)

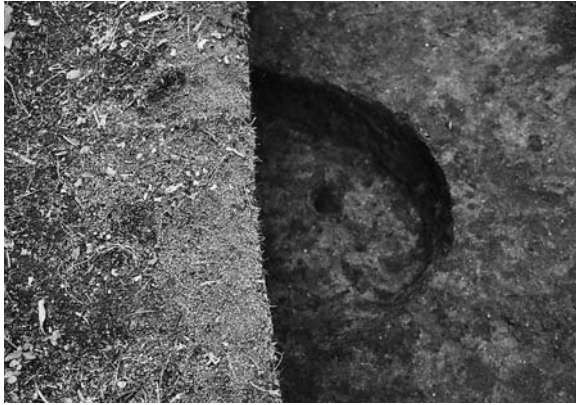


5号集石を覆う整地層 (東から)



内帯にかかる整地層の堆積 (西から)

写真図版4 整地層の堆積(2)



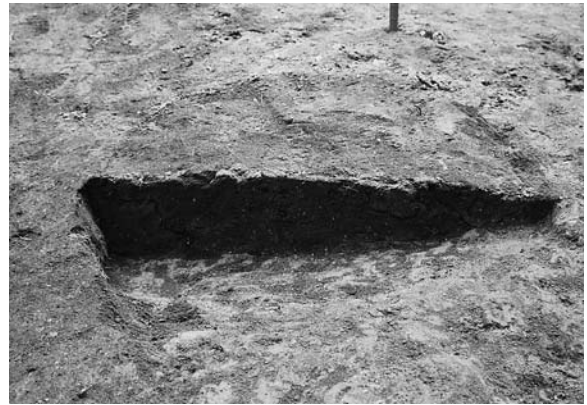
1号土坑 全景 (西から)



2号土坑 全景 (南西から)



1号土坑 埋土 (北から)



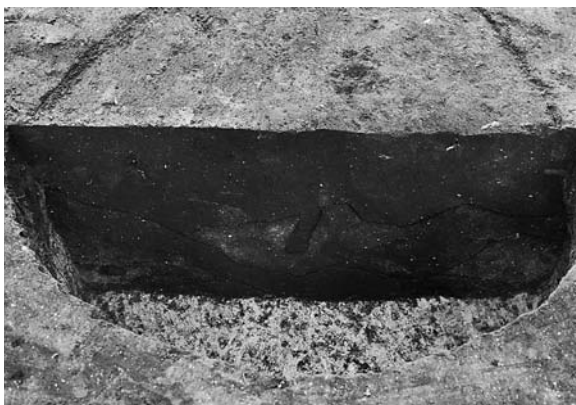
2号土坑 埋土 (西から)



3号土坑 全景 (南東から)



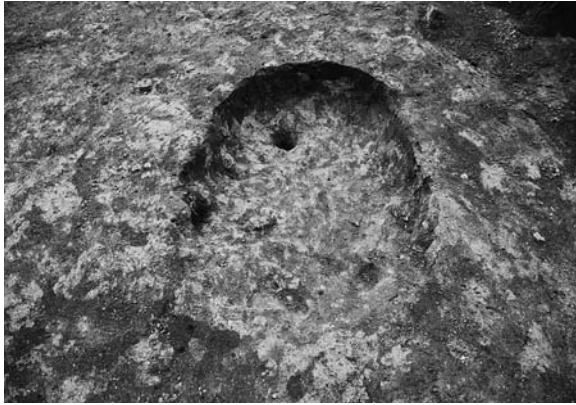
4号土坑 全景 (南東から)



3号土坑 埋土 (東から)



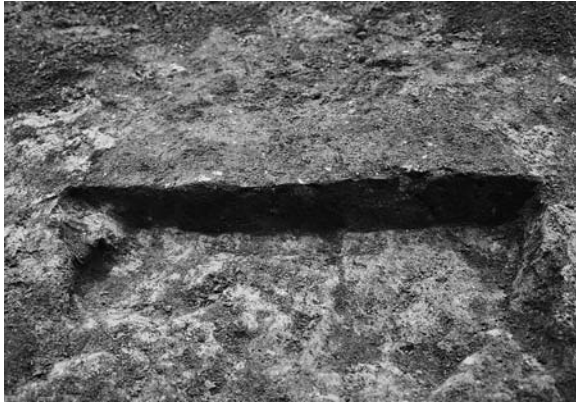
4号土坑 埋土 (東から)



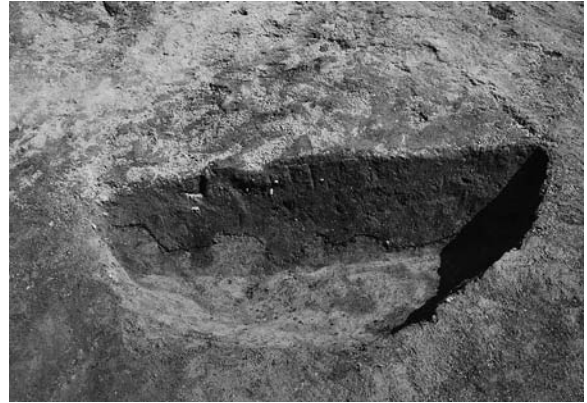
5号土坑 全景 (南から)



6号土坑 全景 (南西から)



5号土坑 埋土 (南から)



6号土坑 埋土 (南から)



7号土坑 全景 (西から)



8号土坑 全景 (南東から)



7号土坑 埋土 (西から)



8号土坑 埋土 (東から)

写真図版6 5～8号土坑



9号土坑 全景 (北西から)



10号土坑 全景 (南東から)



9号土坑 埋土 (南から)



10号土坑 埋土 (東から)



11号土坑 全景 (東から)



12号土坑 全景 (北から)



11号土坑 埋土 (北から)



12号土坑 埋土 (北から)



1号陥し穴 全景 (西から)



2号陥し穴 全景 (西から)



1号陥し穴 埋土 (南西から)



2号陥し穴 埋土 (東から)



3号陥し穴 全景 (東から)



4号陥し穴 全景 (北西から)



3号陥し穴 埋土 (東から)



4号陥し穴 埋土 (南東から)

写真図版8 1～4号陥し穴状遺構



5号陥し穴 全景 (南西から)



6号陥し穴 全景 (西から)



5号陥し穴 埋土 (東から)



6号陥し穴 埋土 (南西から)



7号陥し穴 全景 (西から)



8号陥し穴 全景 (東から)



7号陥し穴 埋土 (東から)



8号陥し穴 検出 (南西から)



9号陥し穴 全景 (東から)



10号陥し穴 全景 (北から)



9号陥し穴 埋土 (北東から)



10号陥し穴 埋土 (南東から)



11号陥し穴 全景 (東から)



12号陥し穴 全景 (南西から)



11号陥し穴 埋土 (南西から)



12号陥し穴 埋土 (南西から)

写真図版10 9～12号陥し穴状遺構



13号陥し穴 全景 (東から)



14号陥し穴 全景 (東から)



13号陥し穴 埋土 (西から)



14号陥し穴 埋土 (西から)



15号陥し穴 全景 (北から)



16号陥し穴 全景 (南東から)



15号陥し穴 埋土 (南から)



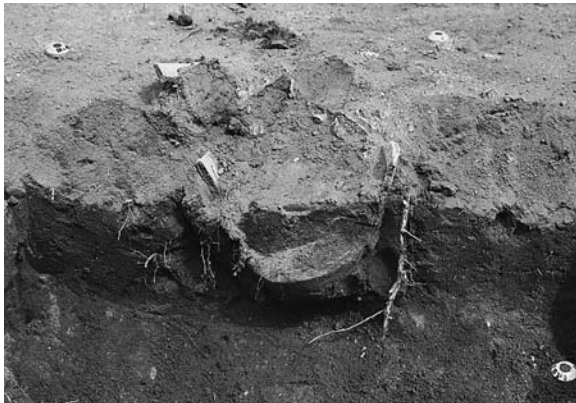
16号陥し穴 埋土 (東から)



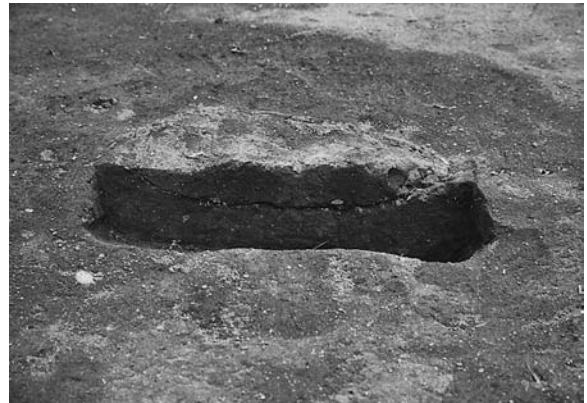
1号埋設土器 検出 (西から)



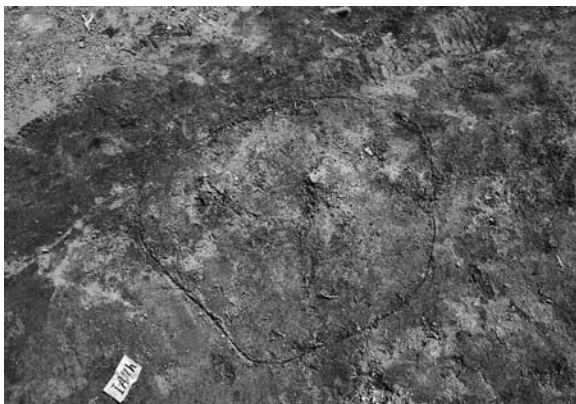
1号焼土遺構 検出 (西から)



1号埋設土器 断ち割り (南西から)



1号焼土遺構 断ち割り (西から)



2号焼土遺構 検出 (西から)



3号焼土遺構 検出 (北西から)



2号焼土遺構 断ち割り (東から)

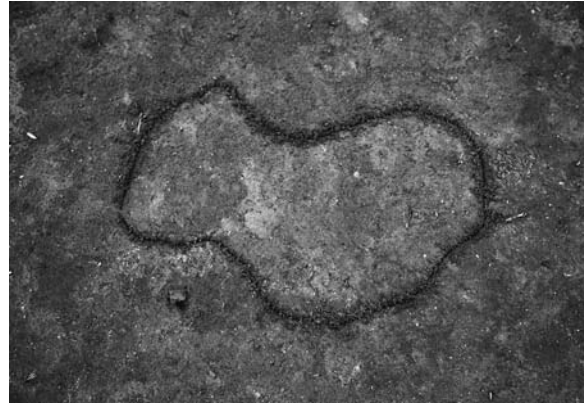


3号焼土遺構 断ち割り (北東から)

写真図版12 1号埋設土器、1～3号焼土遺構



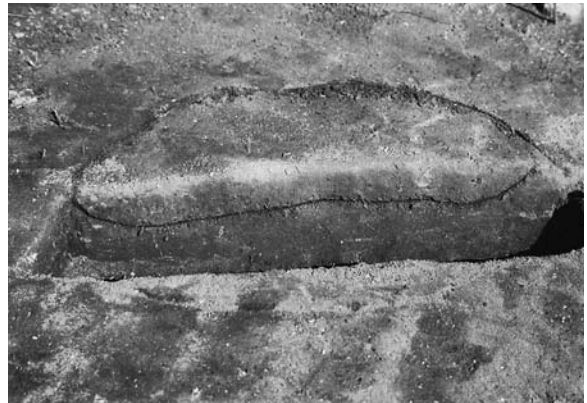
4号焼土遺構 検出 (南西から)



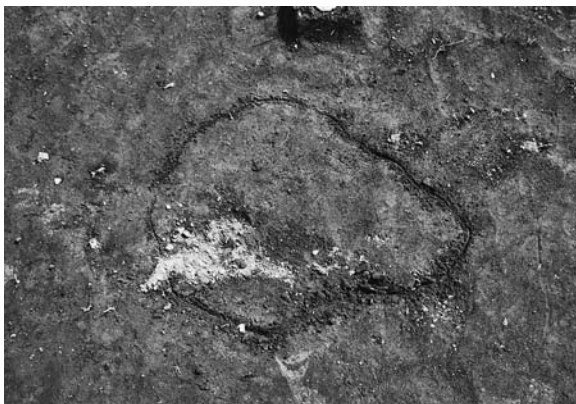
5号焼土遺構 検出 (南から)



4号焼土遺構 断ち割り (北西から)



5号焼土遺構 断ち割り (南から)



6号焼土遺構 検出 (北から)



7号焼土遺構 検出 (東から)



6号焼土遺構 断ち割り (南から)



7号焼土遺構 断ち割り (東から)



調査区近景（東上空から） ※左上は階上岳（種市岳）



内帯全景（東から）

写真図版14 平成27年度調査 調査区近景



内帯全景（東から）



外帯の礫検出状況1（東から）



平成27年度 現地公開の様子



同 検出状況2（西から）



岩手・青森県境付近の海岸



1号竖穴住居跡 全景 (南から)



1号竖穴住居跡 埋土 (北から)



炉跡 全景 (南西から)



炉跡 断ち割り (西から)

写真図版16 1号竖穴住居跡



2号竖穴住居跡 全景（北から）



2号竖穴住居跡 埋土（西から）



炉跡 全景（北から）



炉跡 断ち割り（西から）



3号竪穴住居跡 全景 (南から)



3号竪穴住居跡 埋土 (南西から)



炉跡 全景 (南東から)



炉跡 断ち割り (南東から)



4号竖穴住居跡 全景 (南東から)



4号竖穴住居跡 埋土 (南から)



遺物出土状況1 (壺形土器)



遺物出土状況2 (石斧)



5号竪穴住居跡 全景 (南西から)



5号竪穴住居跡 埋土 (東から)



炉跡 断ち割り (南西から)



作業風景 1



1号竖穴状遺構 全景 (南から)



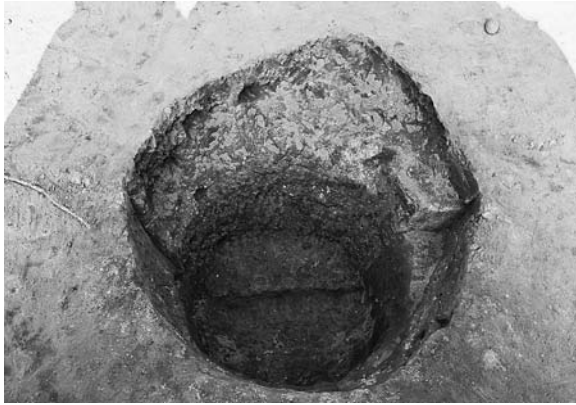
1号竖穴状遺構 埋土 (西から)



作業風景2



作業風景3



13号土坑 全景 (西から)



14号土坑 全景 (南西から)



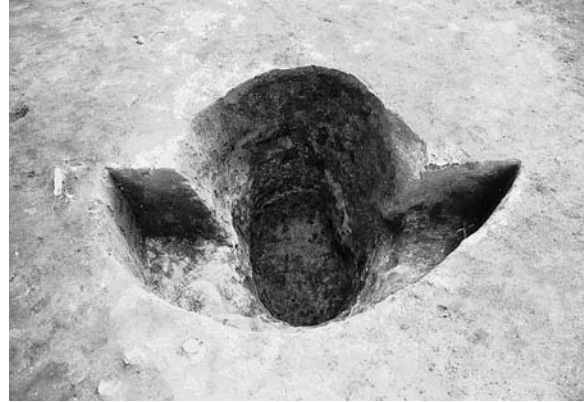
13号土坑 埋土 (西から)



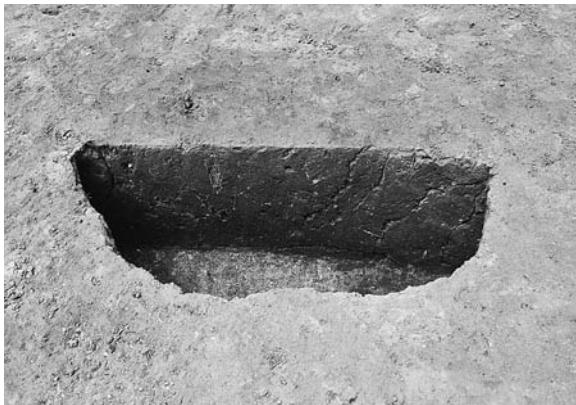
14号土坑 埋土 (西から)



15号土坑 全景 (南から)



16号土坑 全景 (東から)



15号土坑 埋土 (東から)



16号土坑 埋土 (東から)

写真図版22 13~16号土坑



17号土坑 全景 (東から)



18号土坑 全景 (南東から)



17号土坑 埋土 (東から)



18号土坑 埋土 (東から)



19号土坑 全景 (東から)



20号土坑 全景 (東から)



19号土坑 埋土 (北東から)



20号土坑 埋土 (東から)



21号土坑 全景 (南から)



21号土坑 遺物出土状況



21号土坑 埋土 (南から)



作業風景 4



22号土坑 全景 (南から)



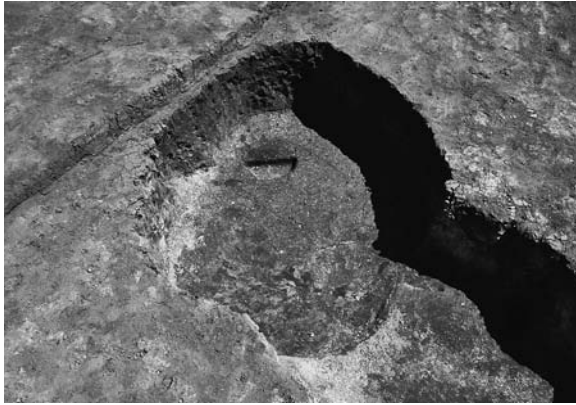
22号土坑 遺物(石斧)出土状況



22号土坑 埋土 (西から)



作業風景 5



23号土坑 全景 (南西から)



24号土坑 全景 (西から)



23号土坑 埋土 (西から)



24号土坑 埋土下位 (西から)



25号土坑 全景 (北から)



26号土坑 全景 (東から)



25号土坑 埋土 (東から)



26号土坑 埋土 (東から)



27号土坑 全景 (南から)



28号土坑 全景 (東から)



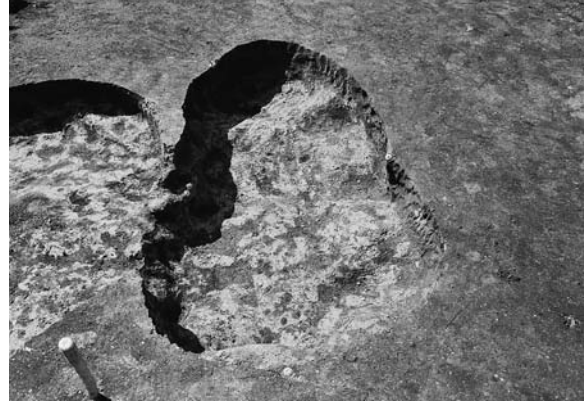
27号土坑 埋土 (東から)



28号土坑 埋土 (北東から)



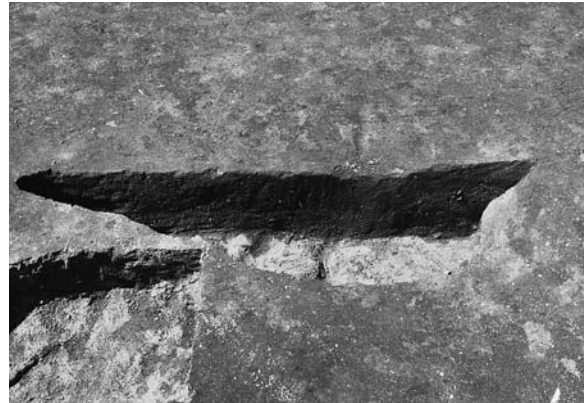
29号土坑 全景 (南から)



30号土坑 全景 (北から)



29号土坑 埋土 (南から)



30号土坑 埋土 (東から)

写真図版26 27～30号土坑



31号土坑 全景 (北から)



32号土坑 全景 (北から)



31号土坑 埋土 (西から)



32号土坑 埋土 (東から)



33号土坑 全景 (北から)



34号土坑 全景 (南から)



33号土坑 埋土 (東から)



34号土坑 埋土 (南東から)



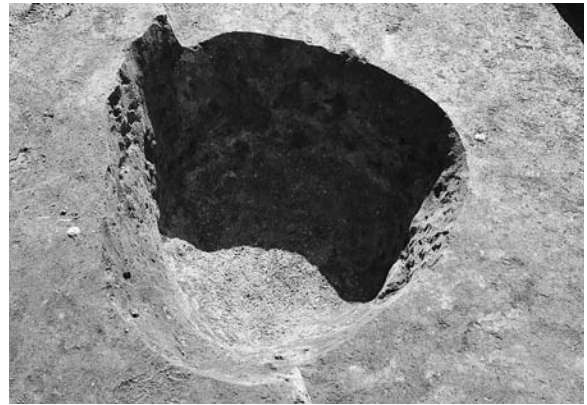
35号土坑 全景 (東から)



36号土坑 埋土 (南東から)



35号土坑 埋土 (東から)



37号土坑 全景 (北西)



1号炉跡 検出 (南から)



2号炉跡 検出 (北から)



1号炉跡 断ち割り (西から)



2号炉跡 断ち割り (西から)



3号炉跡 検出 (北西から)



4号炉跡 検出 (北西から)



3号炉跡 断ち割り (北西から)



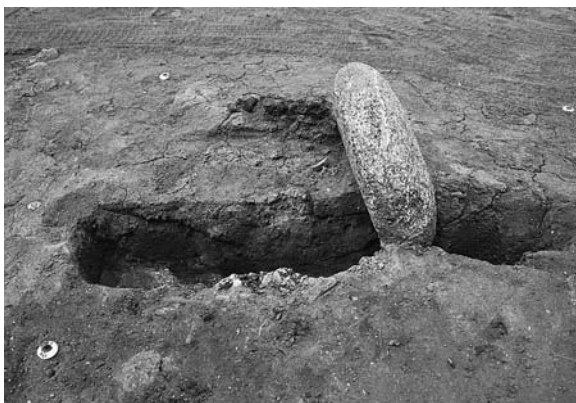
4号炉跡 断ち割り (南西から)



5号炉跡 検出 (南西から)



6号炉跡 検出(北から)



5号炉跡 断ち割り (南から)



6号炉跡 断ち割り (東から)



7号炉跡 断ち割り (東から)



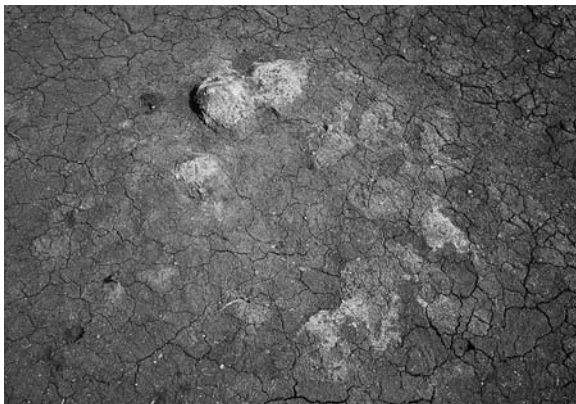
8号炉跡 検出 (東から)



作業風景 7



8号炉跡 断ち割り (西から)



9号炉跡 検出 (北西から)



10号炉跡 検出 (北東から)



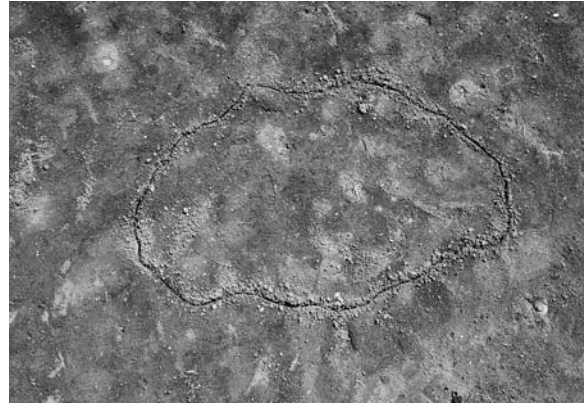
9号炉跡 断ち割り (北から)



10号炉跡 断ち割り (北から)



8号焼土遺構 検出 (南から)



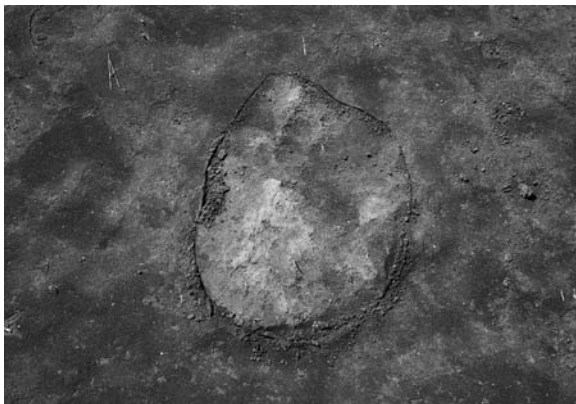
9号焼土遺構 検出 (北から)



8号焼土遺構 断ち割り (南から)



9号焼土遺構 断ち割り (南から)



10号焼土遺構 検出 (北から)



11号焼土遺構 検出 (南から)



10号焼土遺構 断ち割り (西から)



11号焼土遺構 断ち割り (北から)



12号焼土遺構 検出 (南から)



13号焼土遺構 検出 (東から)



12号焼土遺構 断ち割り (西から)



13号焼土遺構 断ち割り (東から)



14号焼土遺構 検出 (東から)



2号埋設土器 検出 (上から)



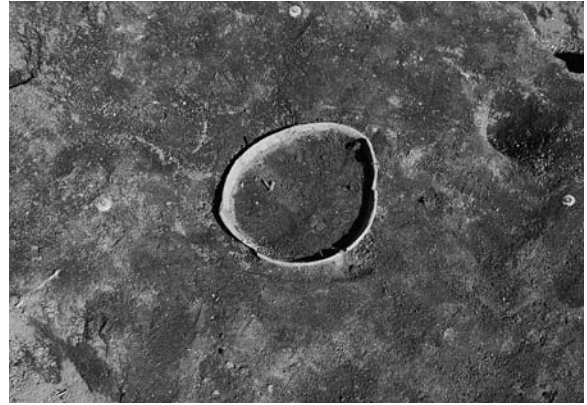
14号焼土 断ち割り (南西から)



2号埋設土器 断ち割り (南西から)



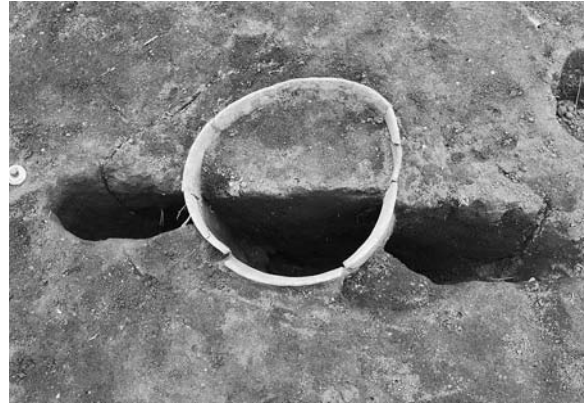
3号埋設土器 検出 (南から)



4号埋設土器 検出 (南から)



3号埋設土器 断ち割り (南東から)

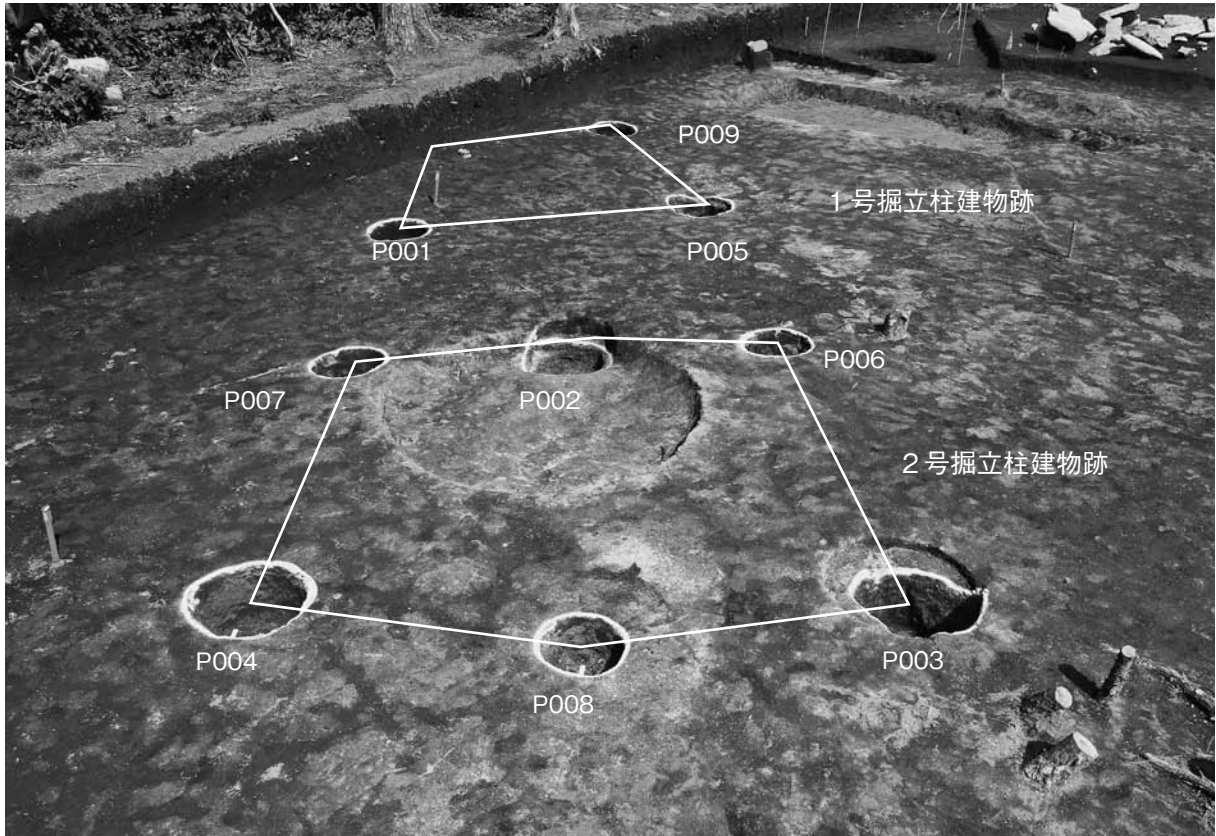


4号埋設土器 断ち割り (南から)



西遠方に階上岳・折爪岳を望む (北東から)

写真図版33 3・4号埋設土器、調査区からの眺望



1・2号掘立柱建物跡 全景（西から）



P001埋土（東から）



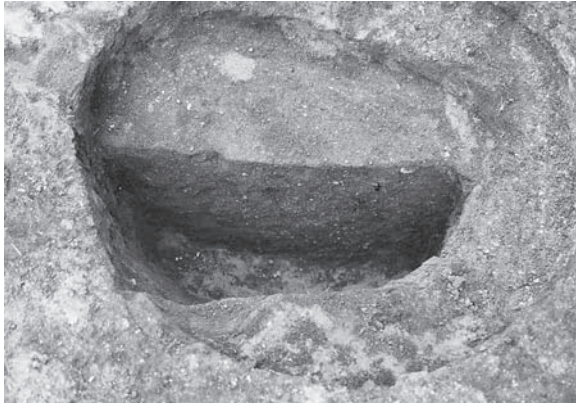
P005埋土（東から）



P009埋土（東から）



P002埋土（南から）



P003埋土 (南東から)



P006埋土 (東から)



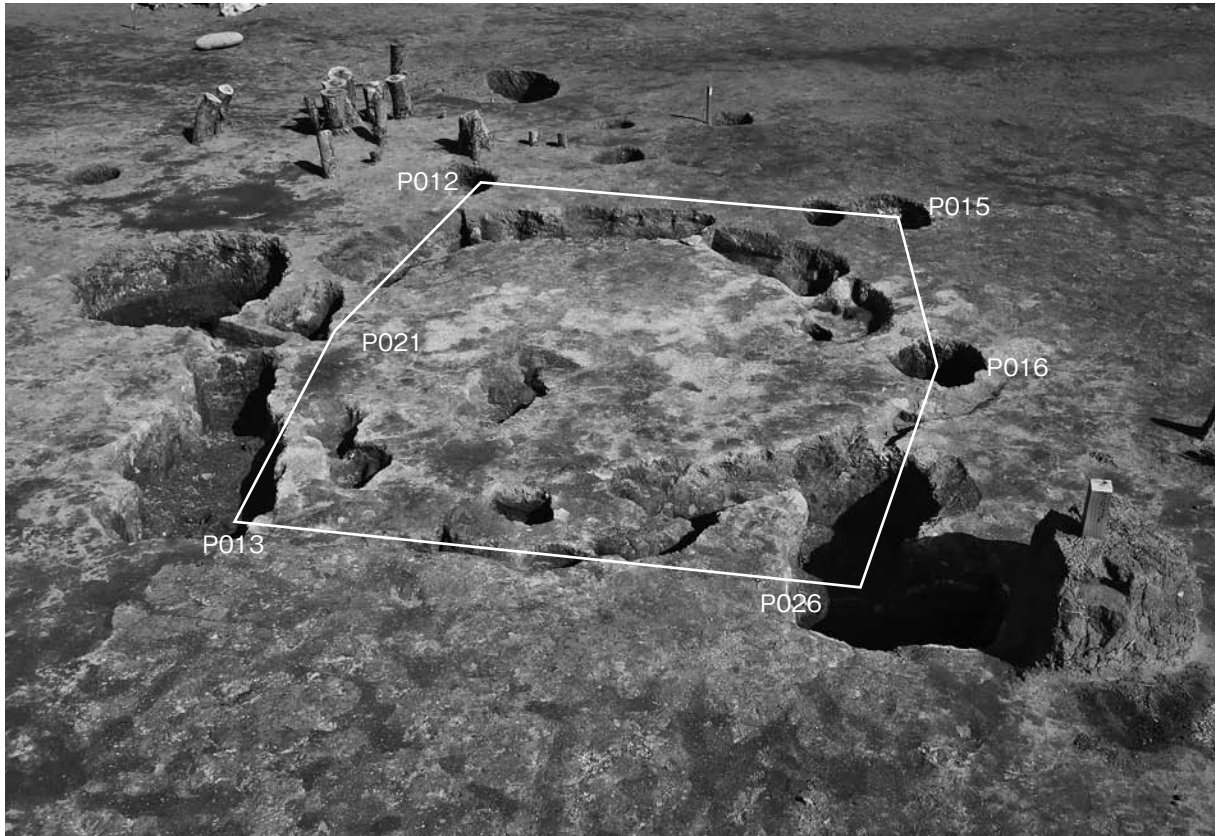
P004埋土 (南から)



P007埋土 (東から)



現地公開の様子



3号掘立柱建物跡 全景（南から）



P012埋土（東から）



P016埋土（東から）

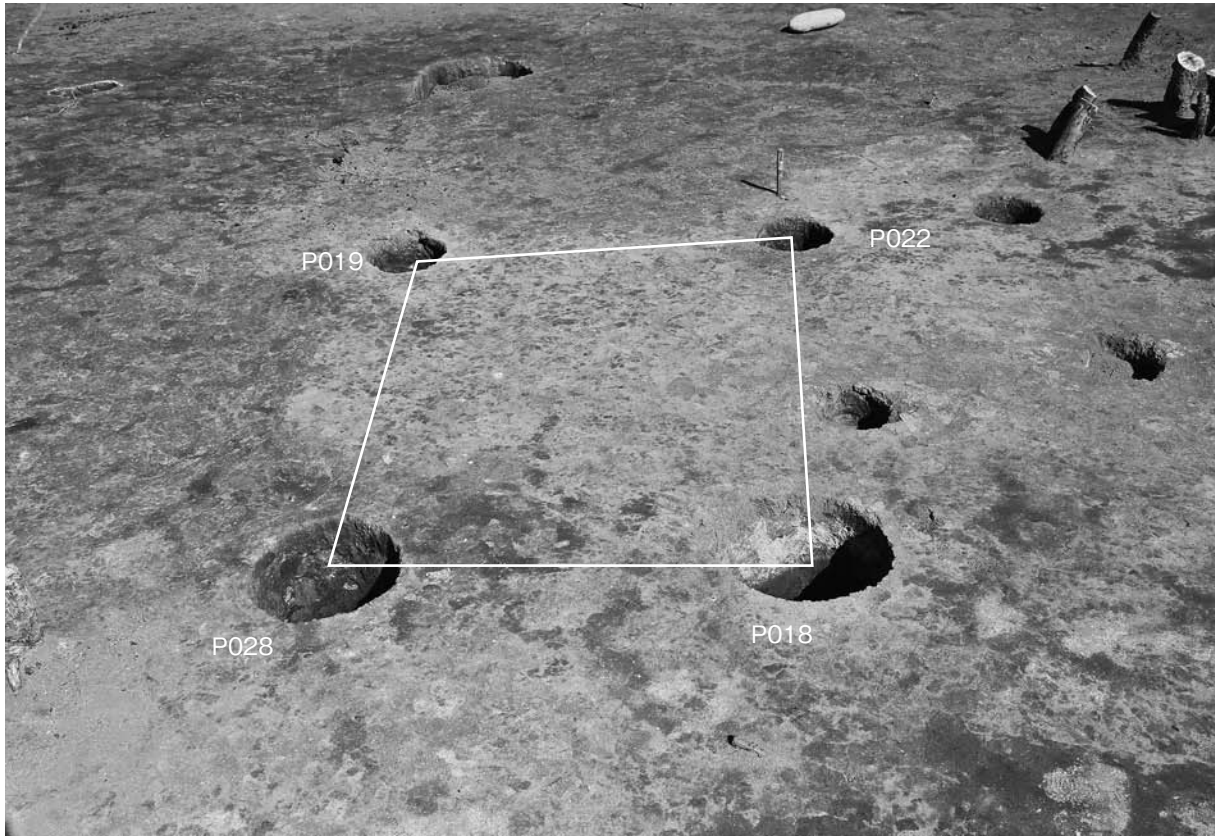


P013埋土（南から）



P026埋土（南から）

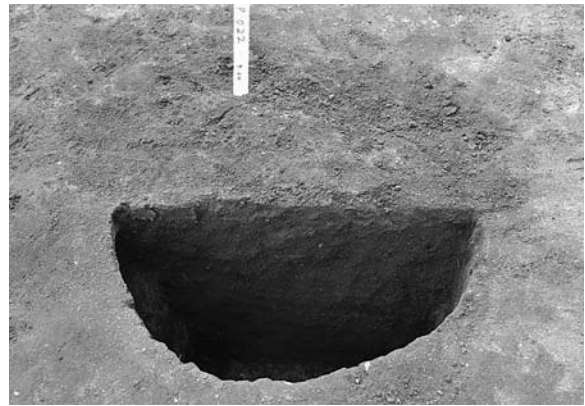
写真図版36 3号掘立柱建物跡



4号掘立柱建物跡 全景（南から）



P018埋土（北から）



P022埋土（東から）



P019埋土（西から）



P028埋土（東から）



1号集石 検出 (南から)



2号集石 検出 (南から)



2号集石 礫の掘り方 (南から)



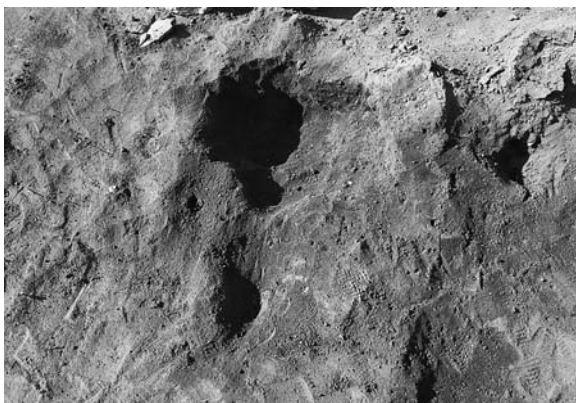
2号集石 断ち割り (南から)



3号集石 検出 (南から)



4号集石 検出 (南から)



3号集石 礫の掘り方 (南から)



4号集石 断ち割り (西から)



5号集石 検出 (南から)



6号集石 検出 (南から)



5号集石 断ち割り (東から)



6号集石 断ち割り (南から)



6号集石下部土坑 埋土 (南から)



7号集石 検出 (南から)



6号集石下部土坑 全景 (南から)



7号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 検出 (南から)



8号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 断ち割り (南から)



作業風景8



9号集石 検出 (南から)



10号集石 検出 (南から)



9号集石 礫除去後掘り方 (南から)



10号集石下部土坑 全景 (南東から)

写真図版40 8~10号集石・作業風景



11号集石 検出 (南から)



12号集石 検出 (南から)



11号集石下部土坑 全景 (西から)



12号集石下部土坑内の礫 (東から)



12号集石下部土坑 全景 (南から)



13号集石 検出 (南から)



13号集石下部土坑 全景 (南から)



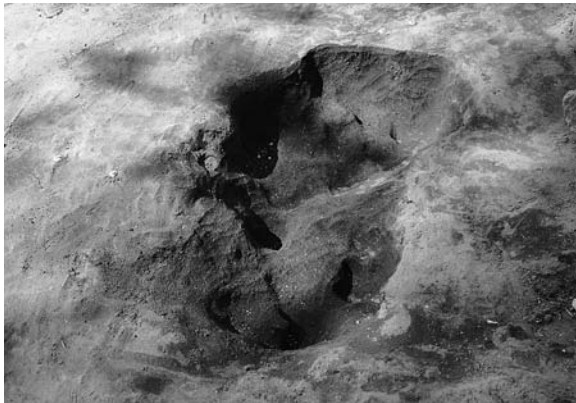
13号集石下部土坑 埋土 (西から)



14号集石 検出 (南から)



15号集石 検出 (南から)



15号集石下部土坑 全景 (南から)



17号集石 検出 (南から)



16号集石 検出 (南から)



17号集石 断ち割り (南から)



16号集石下部土坑 全景 (南から)



17号集石下部土坑 全景 (南から)



18号集石 検出 (南から)



20号集石 検出 (南から)



19号集石 検出 (南から)



20号集石下部土坑 全景 (南から)



21号集石 検出 (南から)



22号集石 検出 (南から)



作業風景 9



22号集石下部土坑 全景 (南から)



23号集石 検出 (南から)



24号集石 検出 (南から)



23号集石下部土坑 全景 (南から)



24号集石下部土坑 全景 (南から)



25号集石 検出 (南から)



26号集石 検出 (南から)



25号集石下部土坑 全景 (南東から)



作業風景10



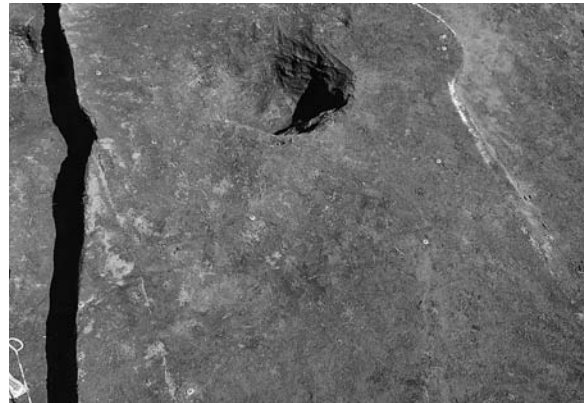
27号集石-1・2 検出 (南から)



28号集石 検出 (南から)



27号集石下部土坑 全景 (南から)



28号集石下部土坑 全景 (南から)



29号集石 検出 (南から)



30号集石 検出 (南から)



29号集石下部土坑 全景 (南から)



30号集石下部土坑 全景 (南から)



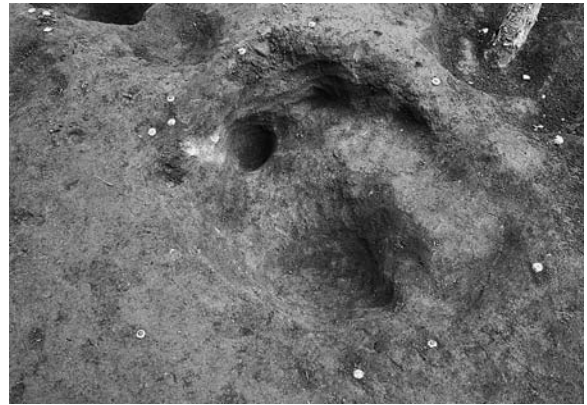
31号集石 検出 (南から)



32号集石 検出 (南から)



31号集石下部土坑 全景 (南から)



32号集石下部土坑 全景 (南から)



33号集石-1・2 検出 (南から)



34号集石 検出 (南から)



33号集石-1・2下部土坑 全景 (南から)



34号集石下部土坑 全景 (南から)

写真図版46 31～34号集石



35号集石 検出 (南から)



36号集石-1・2 検出 (南から)



作業風景11



36号集石-1・2下部土坑 全景 (南から)



37号集石 検出 (南から)



38号集石 検出 (南から)



37号集石下部土坑 全景 (南から)



38号集石下部土坑 全景 (南から)



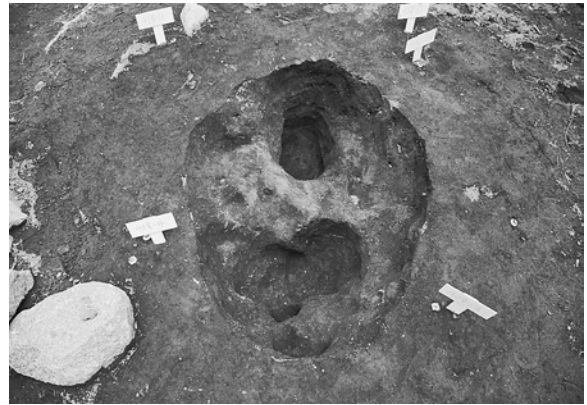
39号集石 検出 (南から)



40号集石 検出 (南から)



39号集石下部土坑 全景 (南から)



40号集石下部土坑 全景 (南から)



41号集石 検出 (南から)



42号集石 検出 (南から)



実測作業



42号集石下部土坑 全景 (南から)



43号集石 検出 (南から)



44号集石 検出 (南から)



43号集石下部土坑 全景 (南から)



44号集石 断ち割り (南から)



44号集石 断ち割り (西から)



45号集石 検出 (南から)



44号集石下部土坑 全景 (南から)



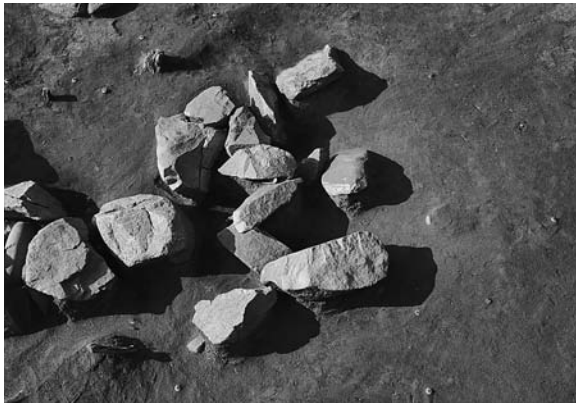
45号集石下部土坑 全景 (南から)



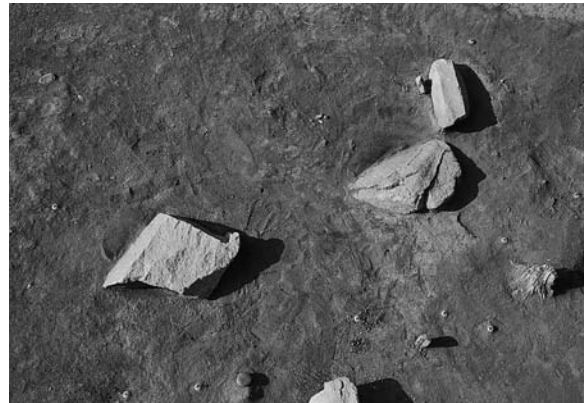
46号集石 検出 (西から)



47号集石下部土坑 全景(南から)



47号集石 検出 (南から)



49号集石 検出 (南から)



48号集石 検出 (南から)



49号集石 断ち割り (南から)



48号集石下部土坑 全景 (南から)



49号集石下部土坑 全景 (南から)



50号集石 検出 (南から)



52号集石 検出 (南から)



51号集石 検出 (南から)



平成26年度の現地説明会の様子



53号集石 検出 (南から)



54号集石 検出 (南から)



53号集石 礫の掘り方 (南から)



54号集石下部土坑 全景 (南から)



55号集石 検出 (南から)



56号集石 検出 (南から)



55号集石下部土坑 全景 (南から)



57号集石 検出 (南から)



58号集石 検出 (南から)



58号集石下部土坑 埋土 (南東から)



58号集石 礫の掘り方 (南から)



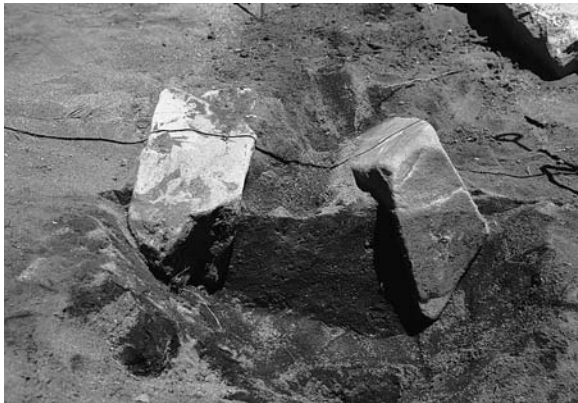
58号集石下部土坑 全景 (南から)



59号集石 全景 (南西から)



59号集石下部土坑 全景 (南から)



59号集石 断ち割り (南から)



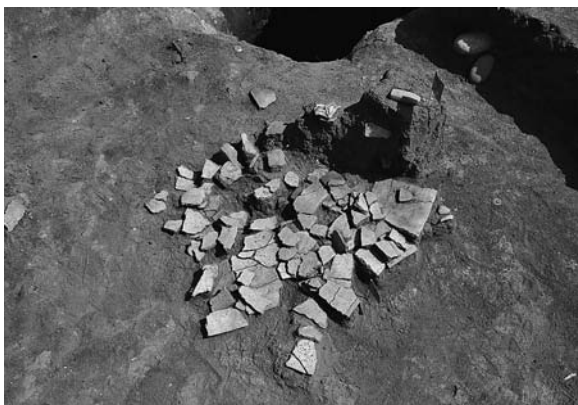
石剣出土状況 1



石剣出土状況 2



土器出土状況 1



土器出土状況 2 (1号住居跡床面出土)



土器出土状況 3



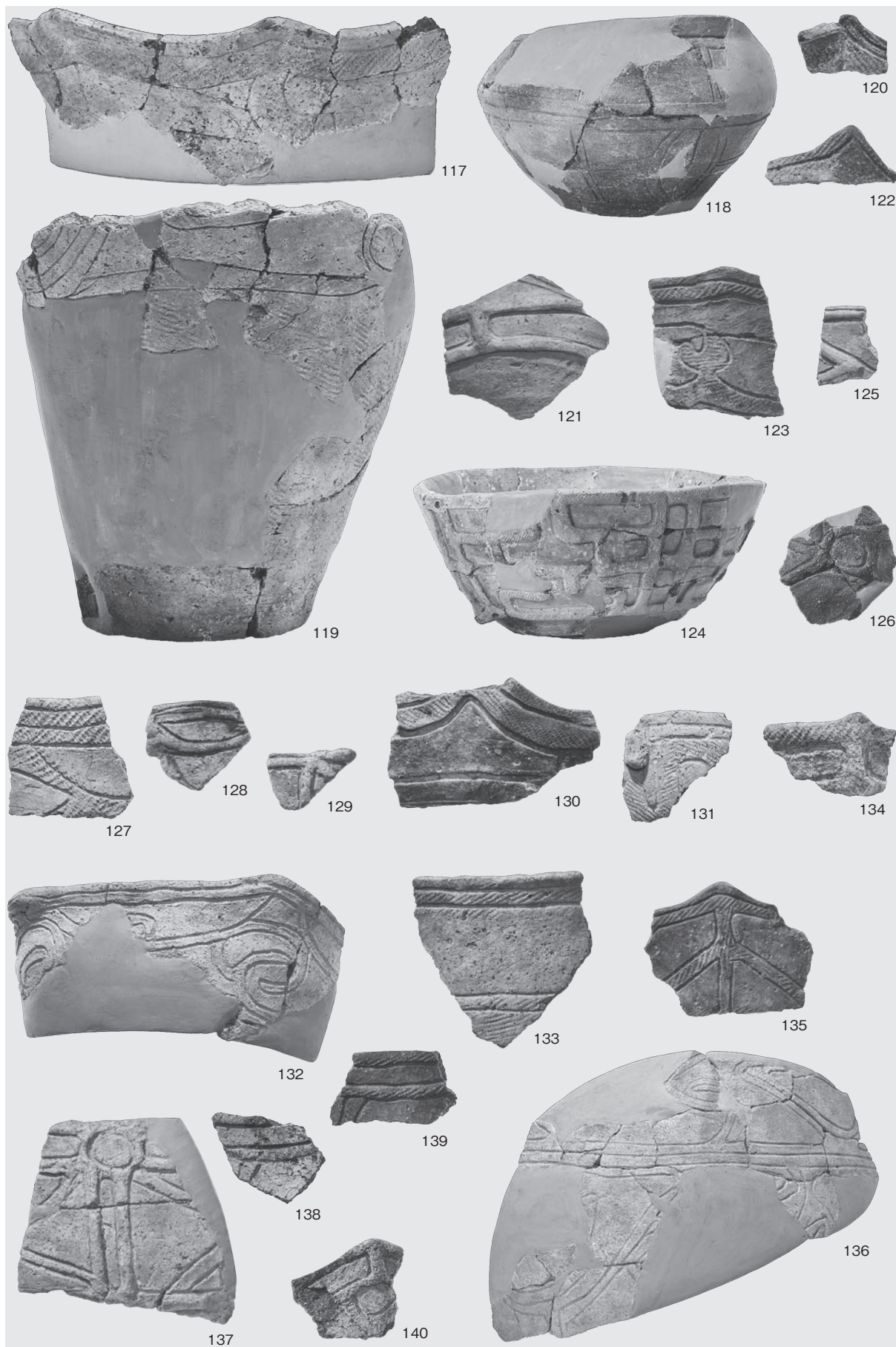
写真図版54 出土遺物(1)



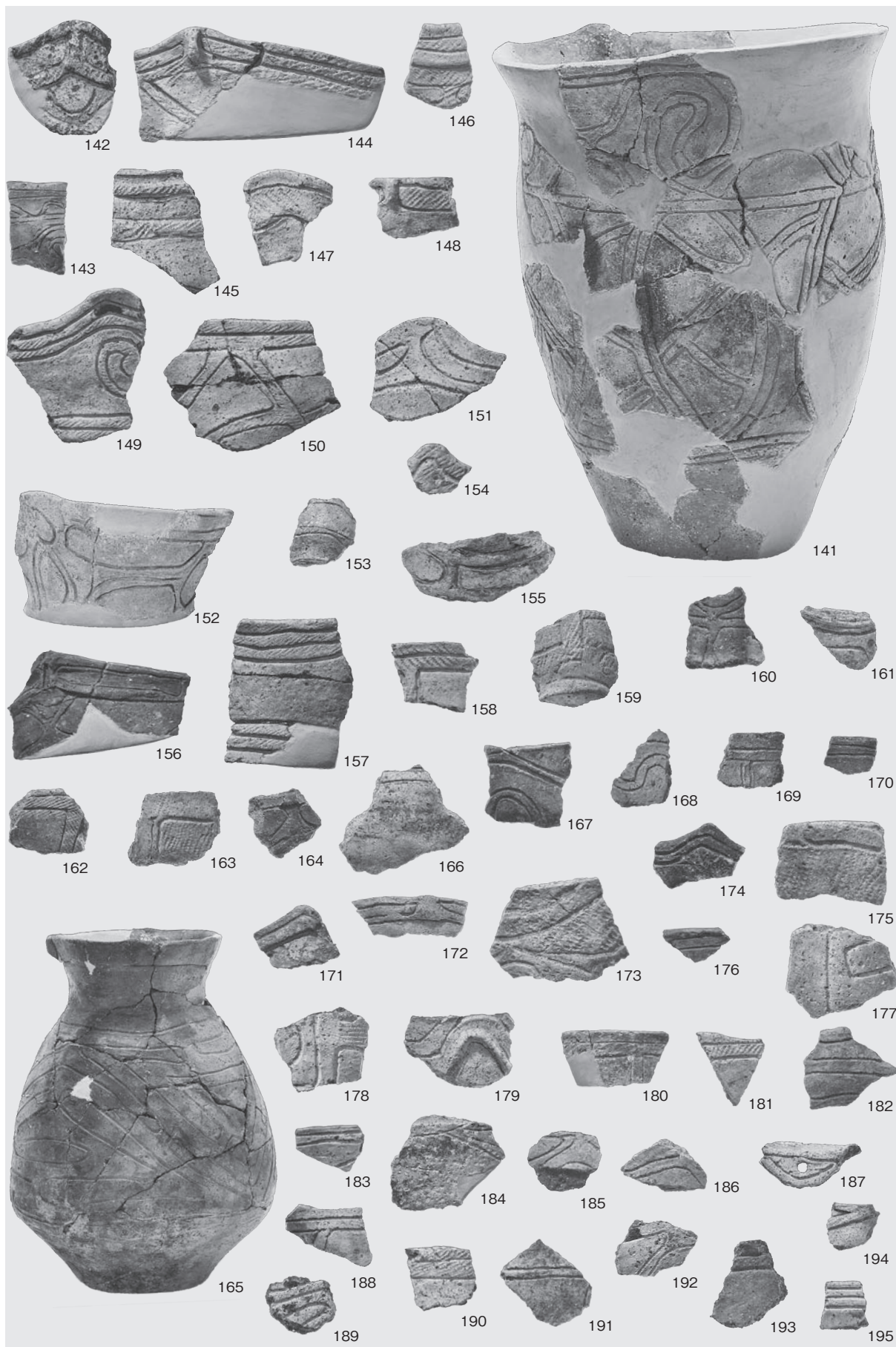
写真図版55 出土遺物(2)



写真図版56 出土遺物(3)



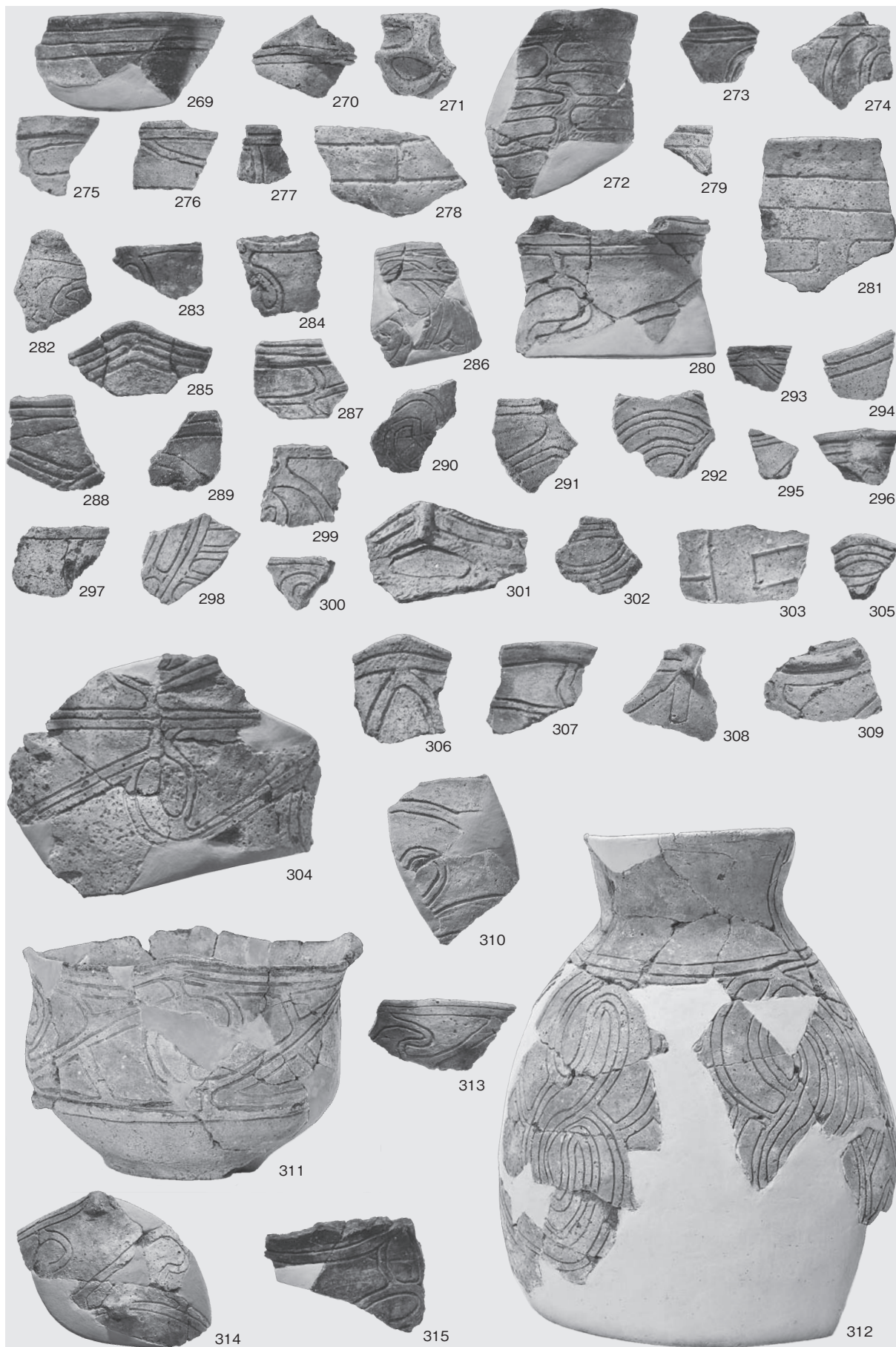
写真図版57 出土遺物(4)



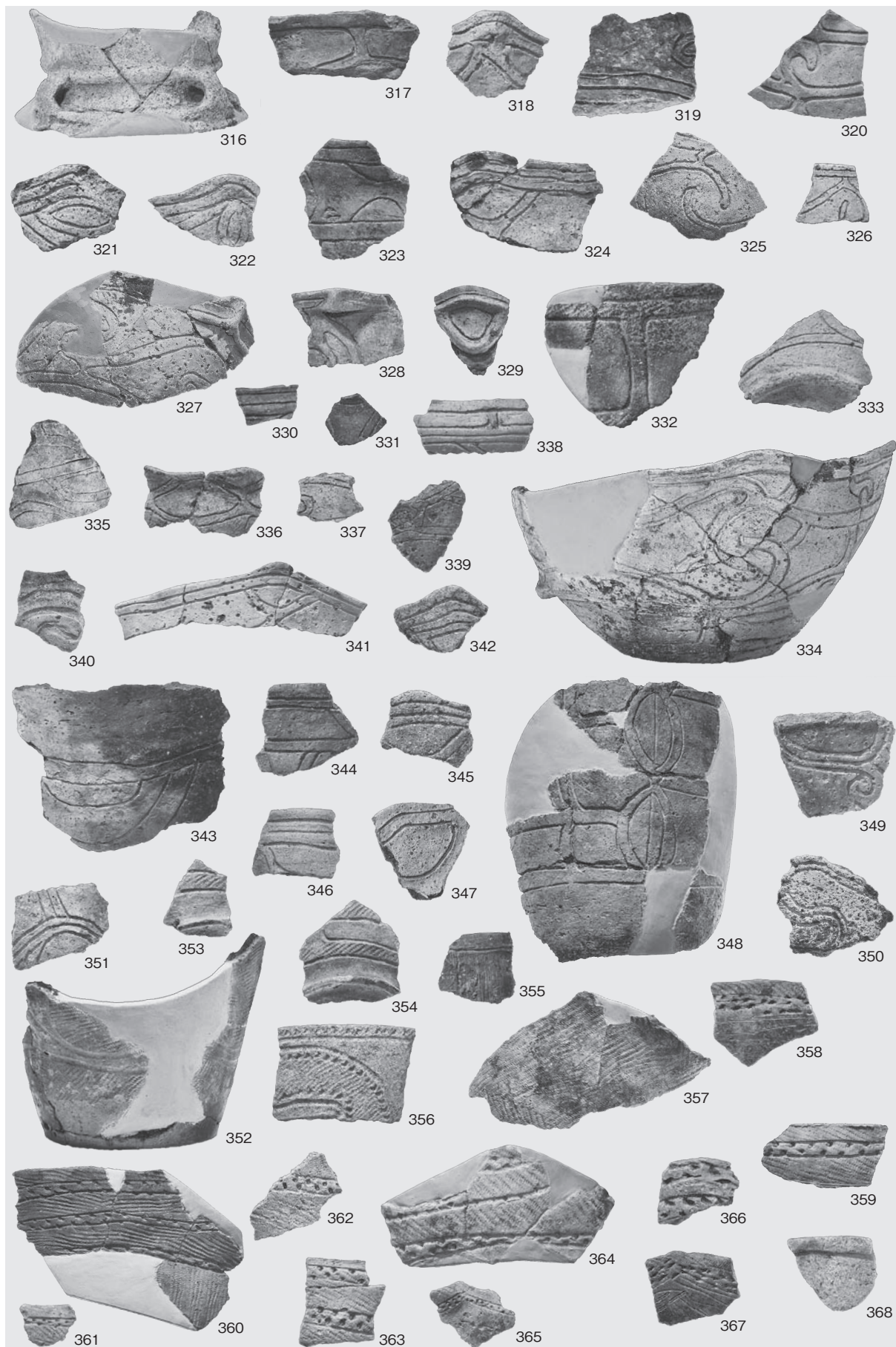
写真図版58 出土遺物(5)



写真図版59 出土遺物(6)



写真図版60 出土遺物(7)



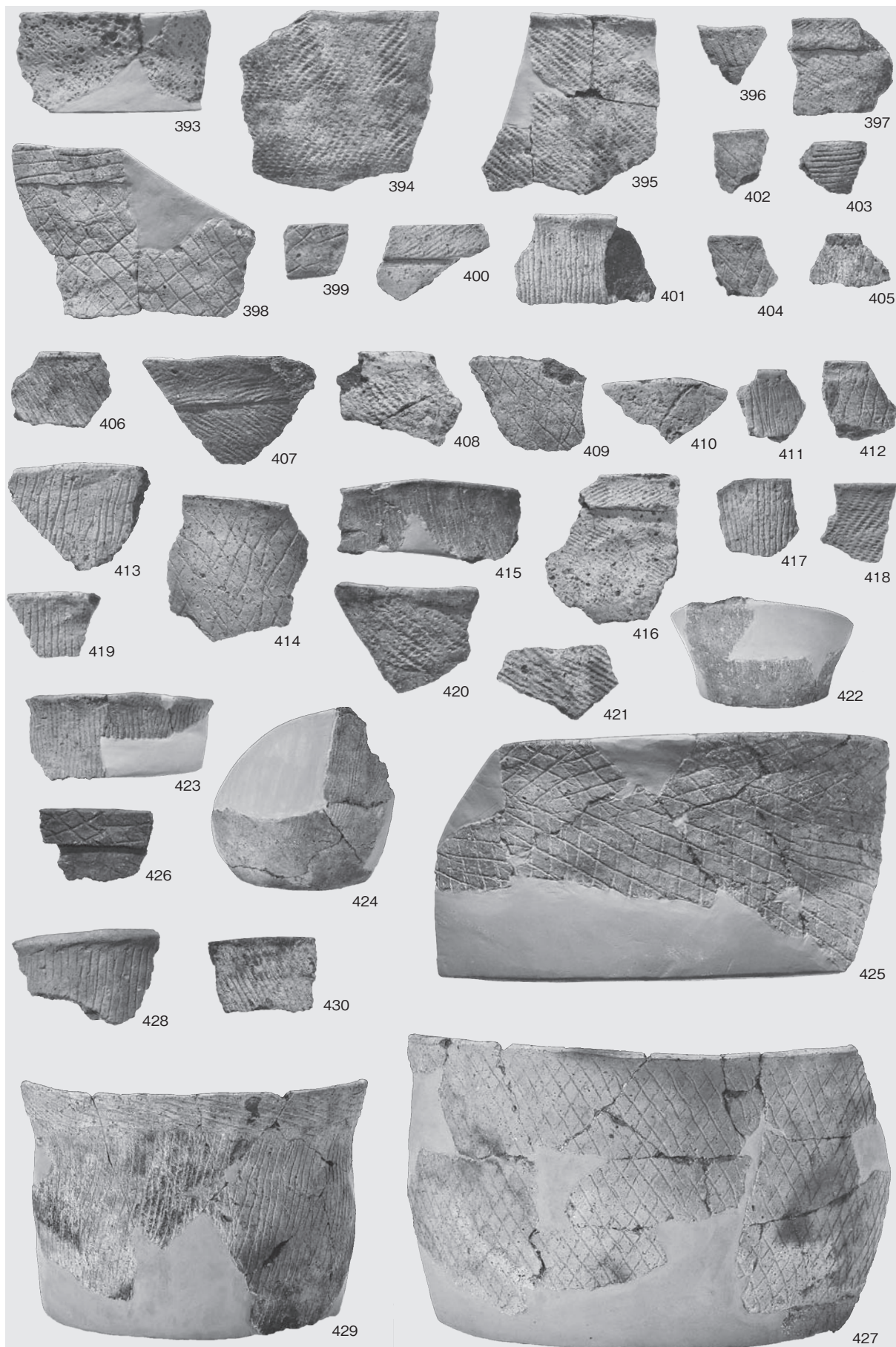
写真図版61 出土遺物(8)



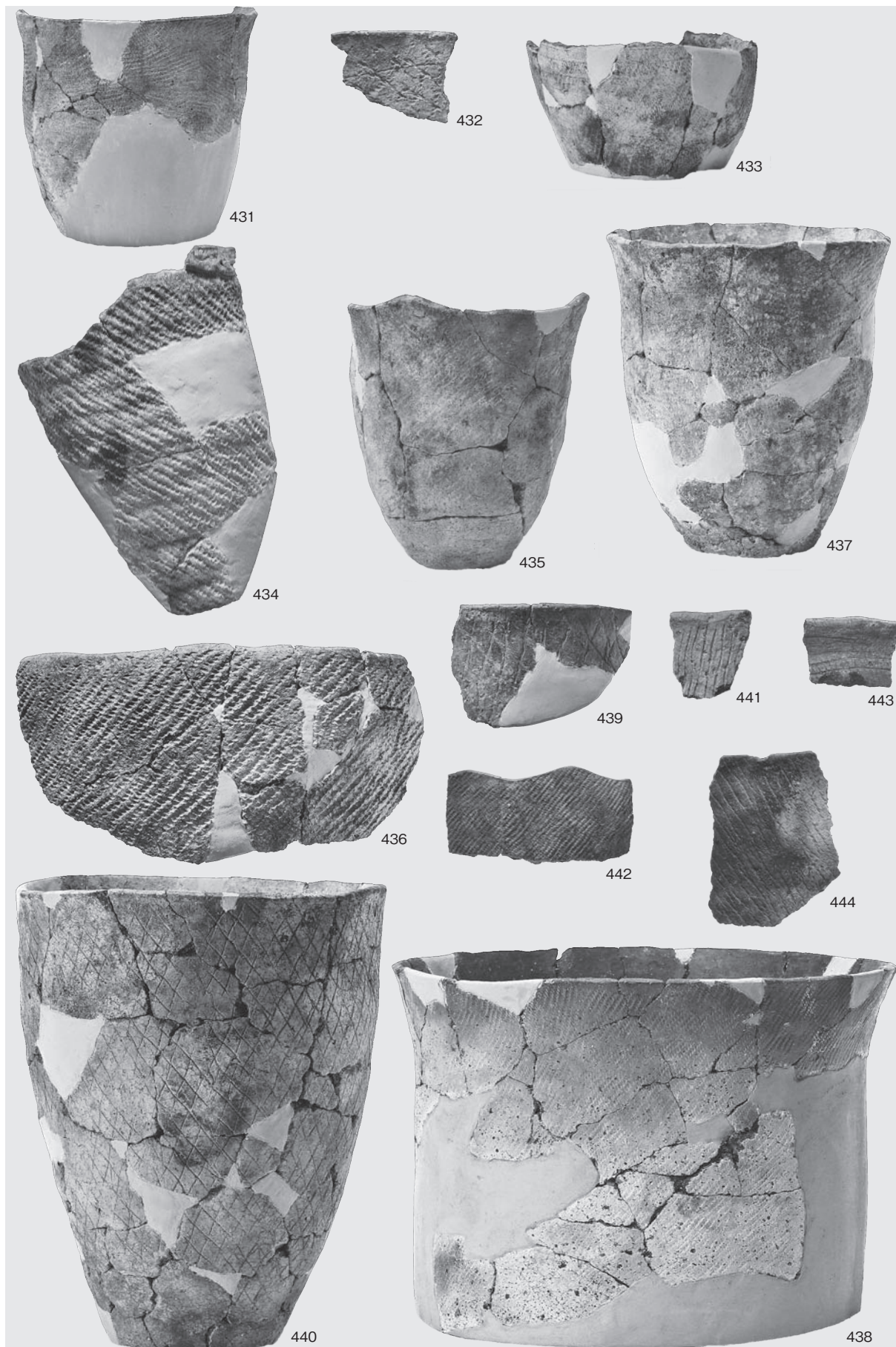
写真図版62 出土遺物(9)



写真図版63 出土遺物(10)



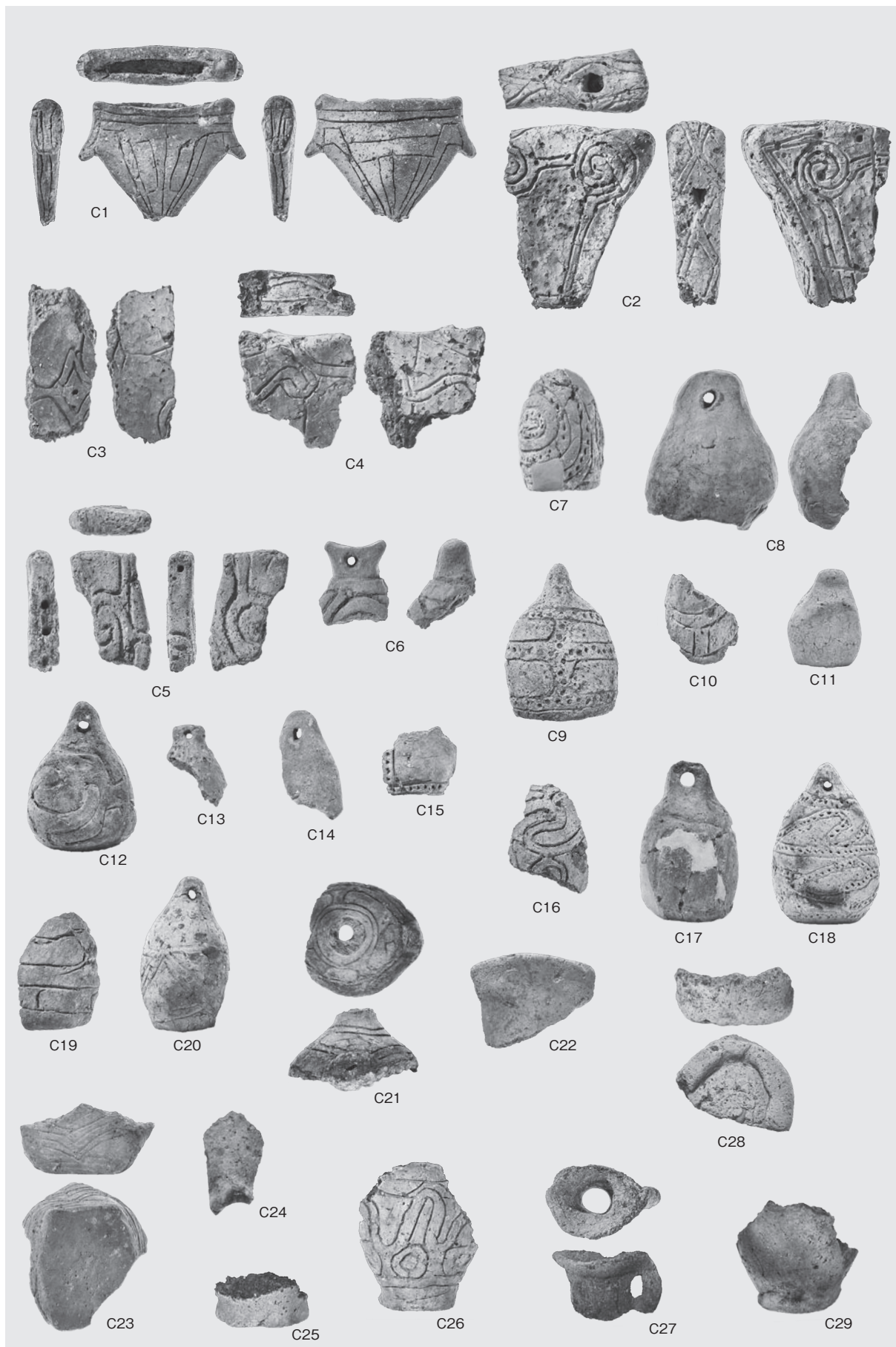
写真図版64 出土遺物(11)



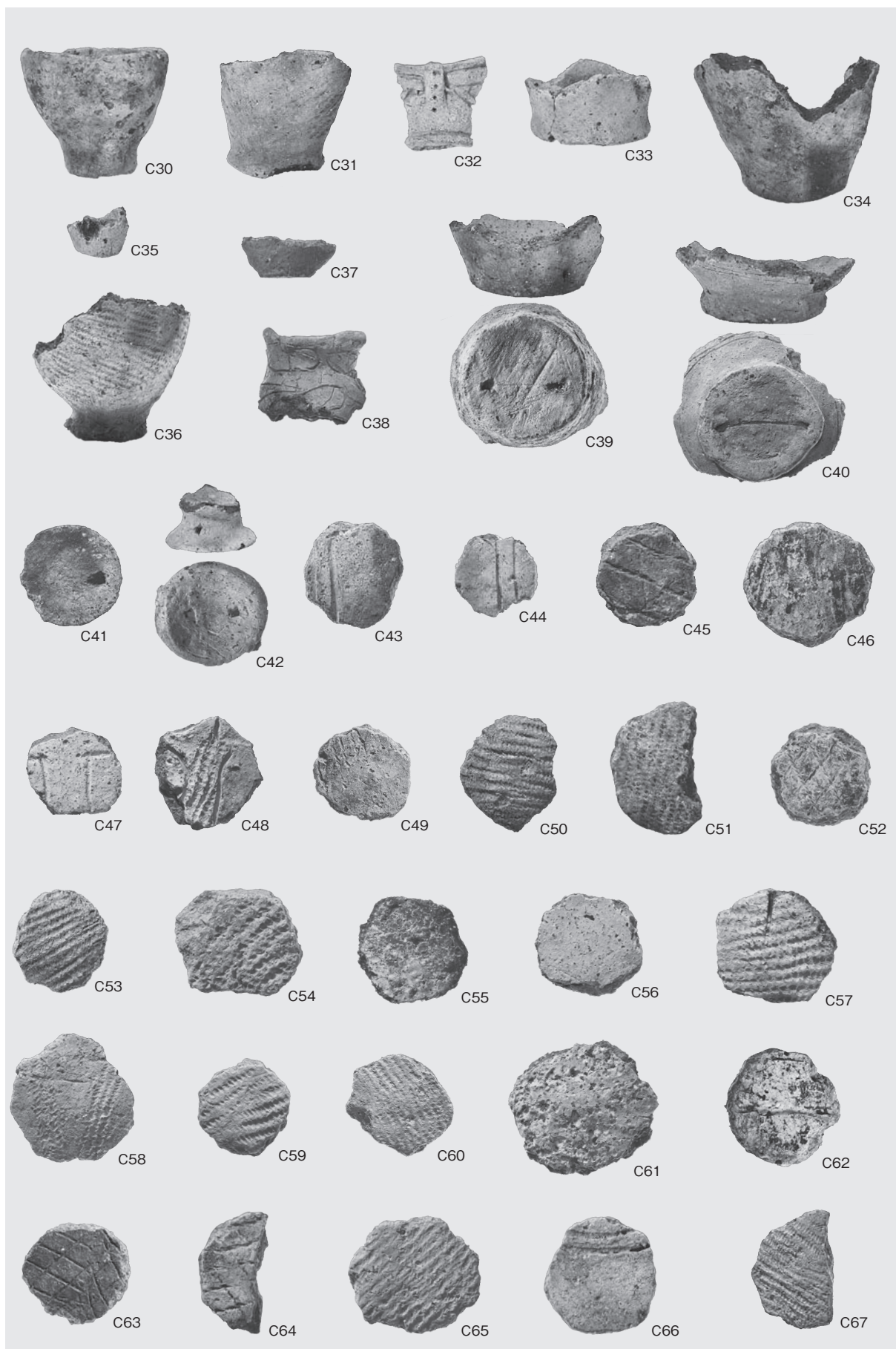
写真図版65 出土遺物(12)



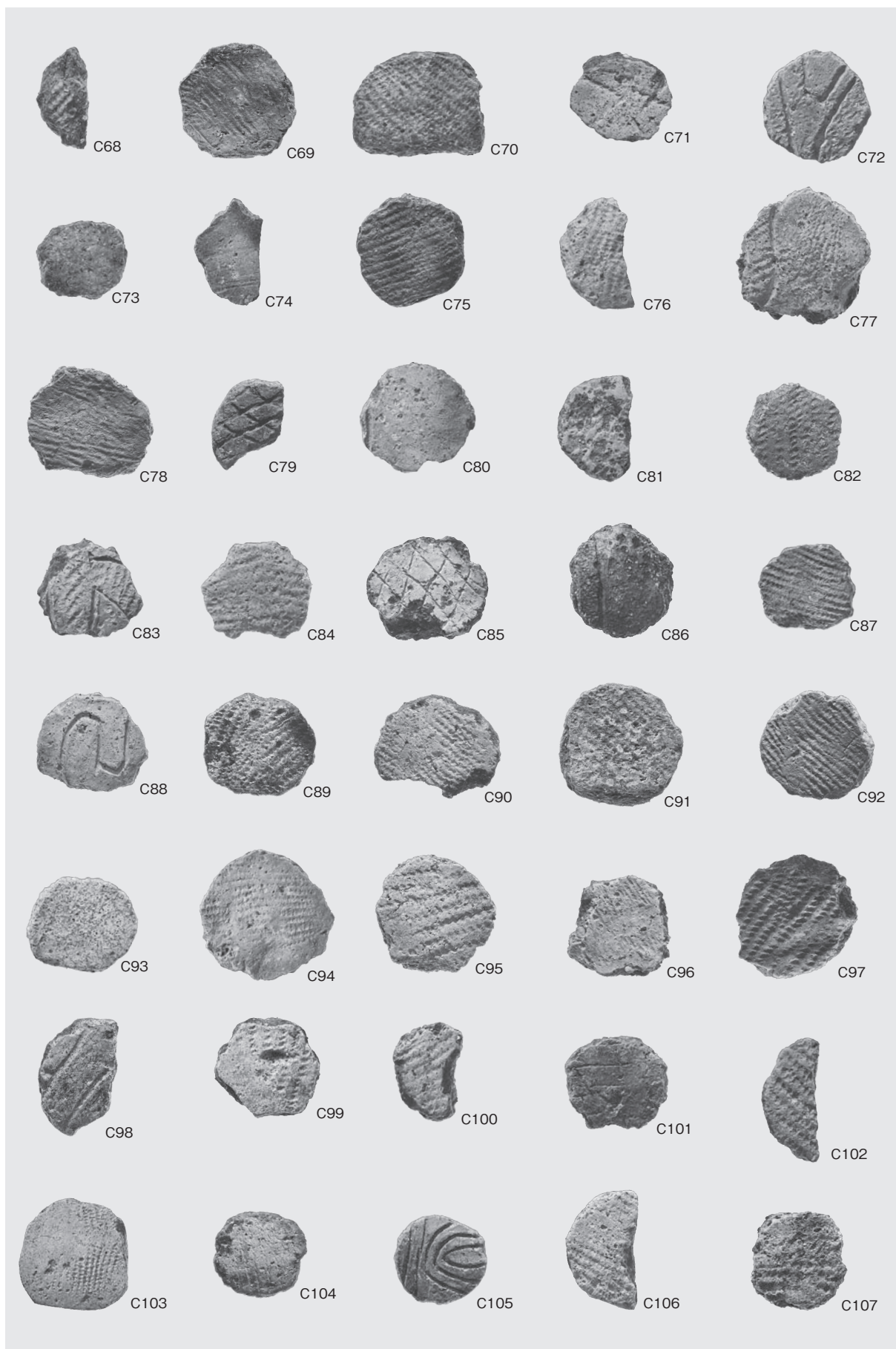
写真図版66 出土遺物(13)



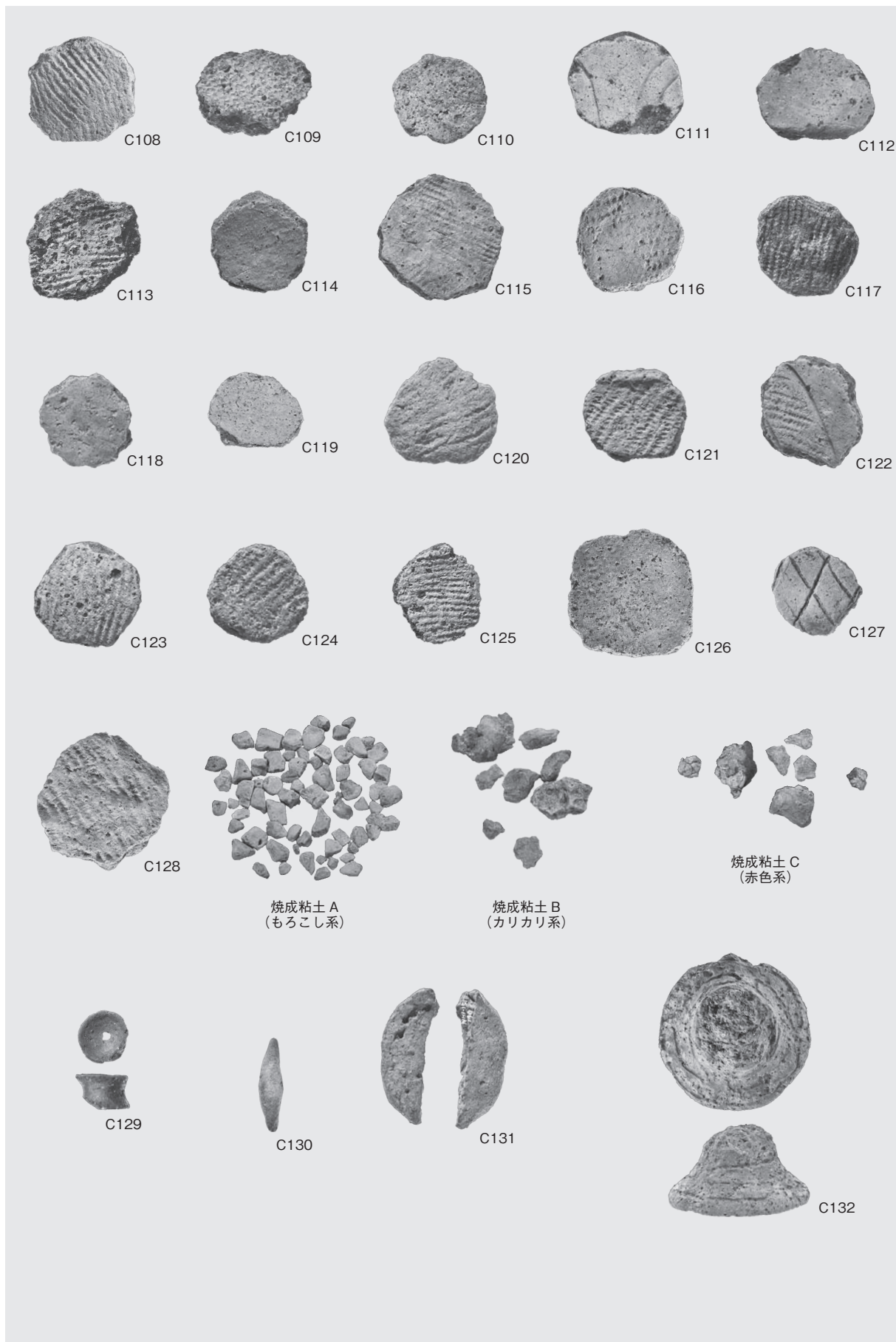
写真図版67 出土遺物(14)



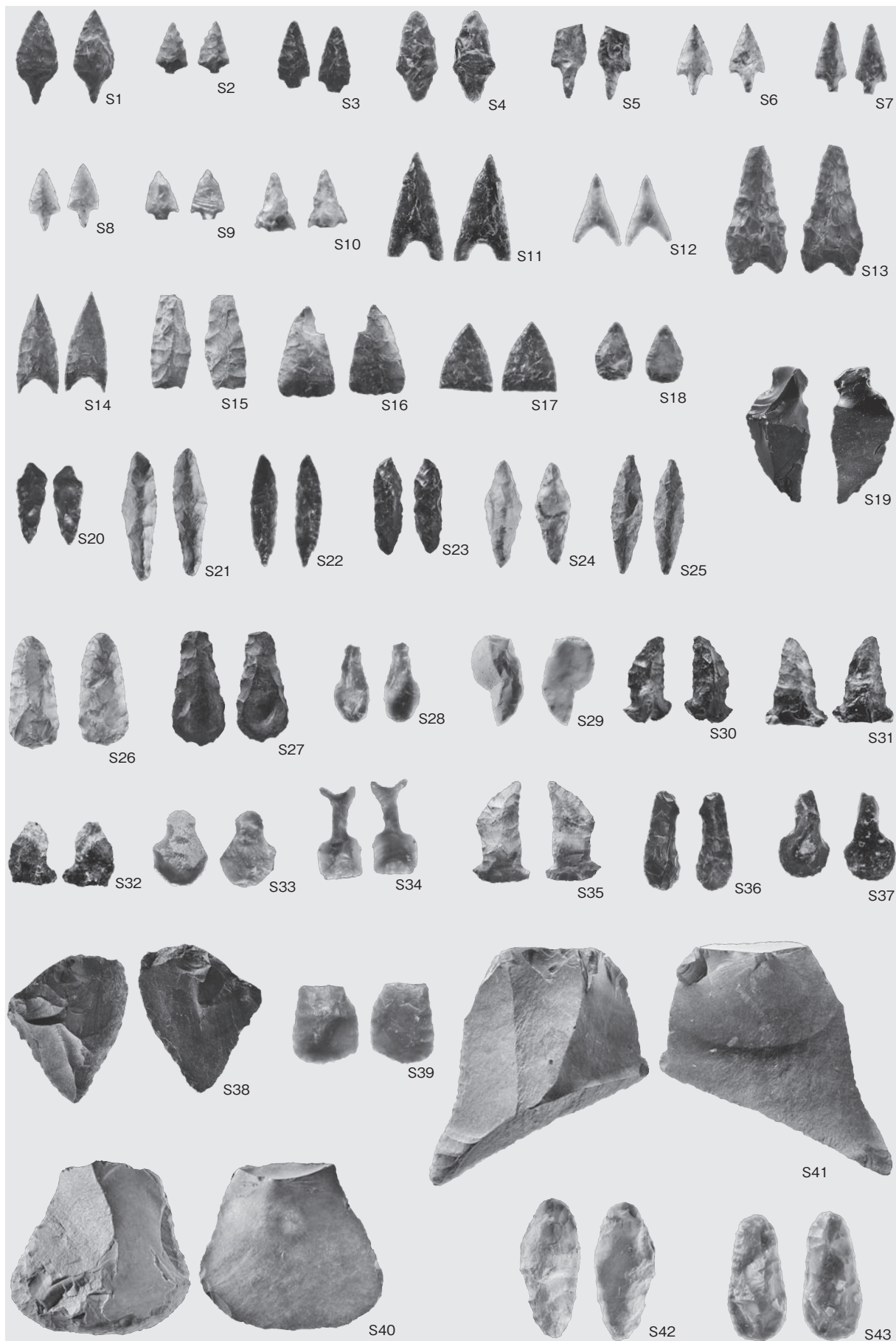
写真図版68 出土遺物(15)



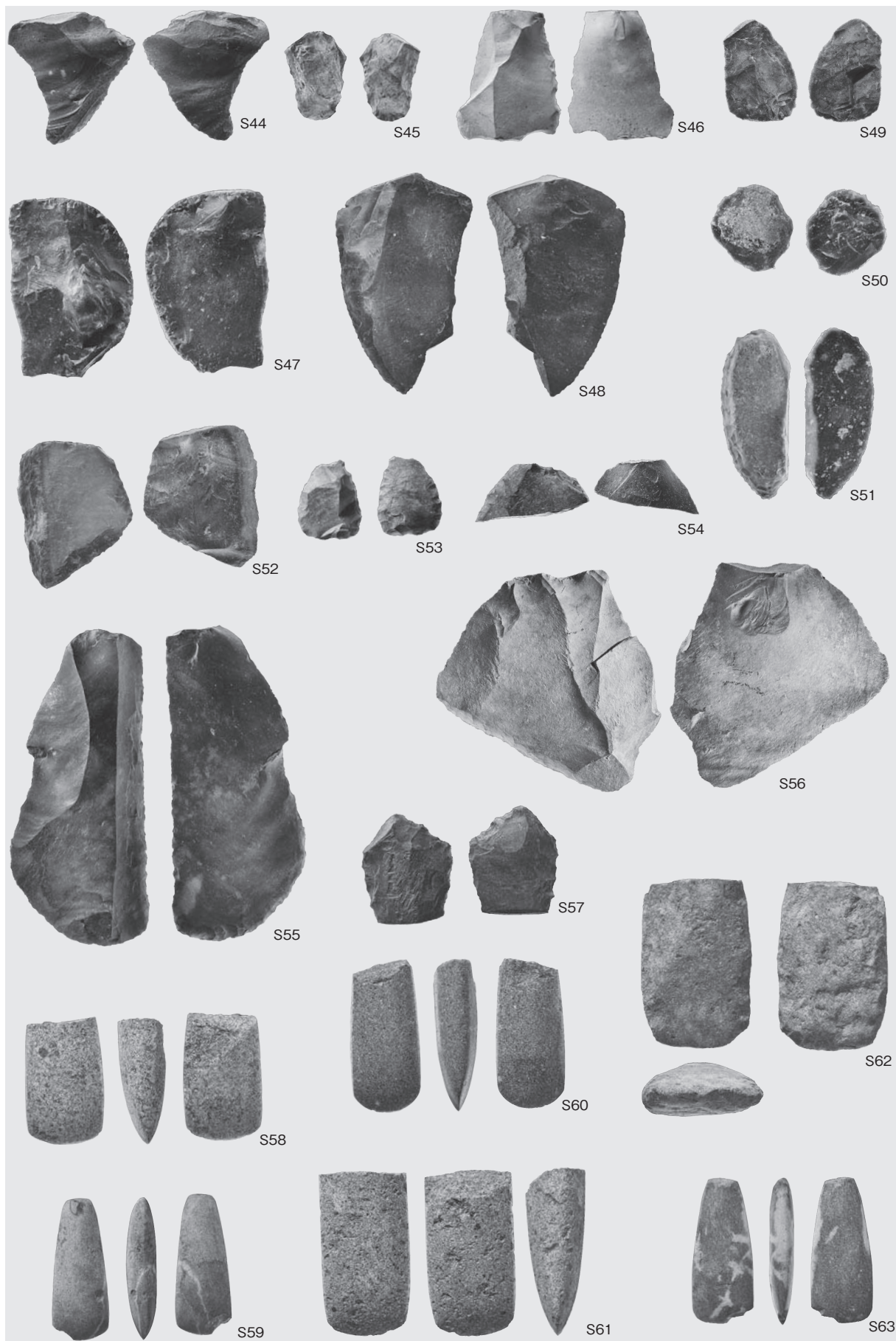
写真図版69 出土遺物(16)



写真図版70 出土遺物(17)



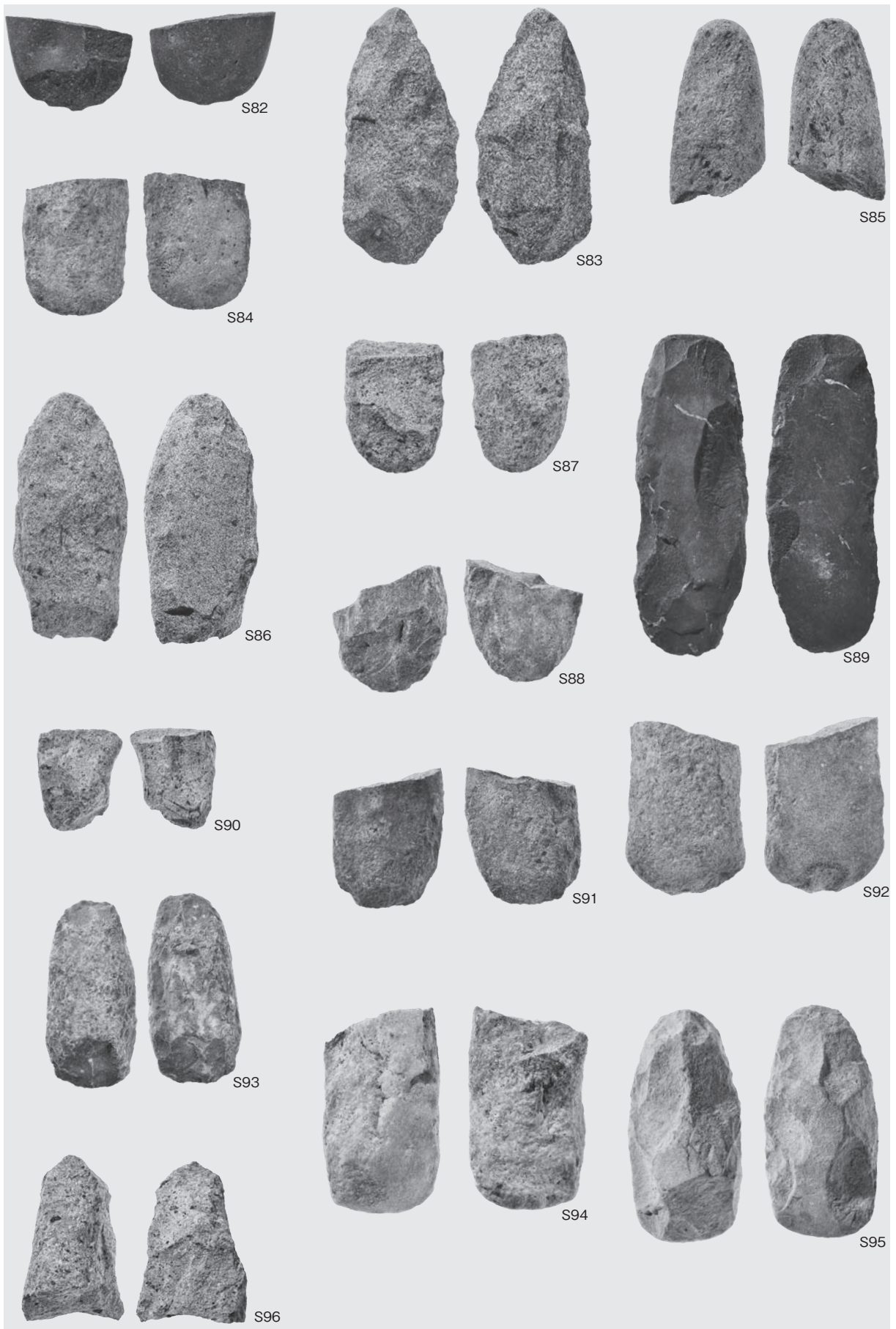
写真図版71 出土遺物(18)



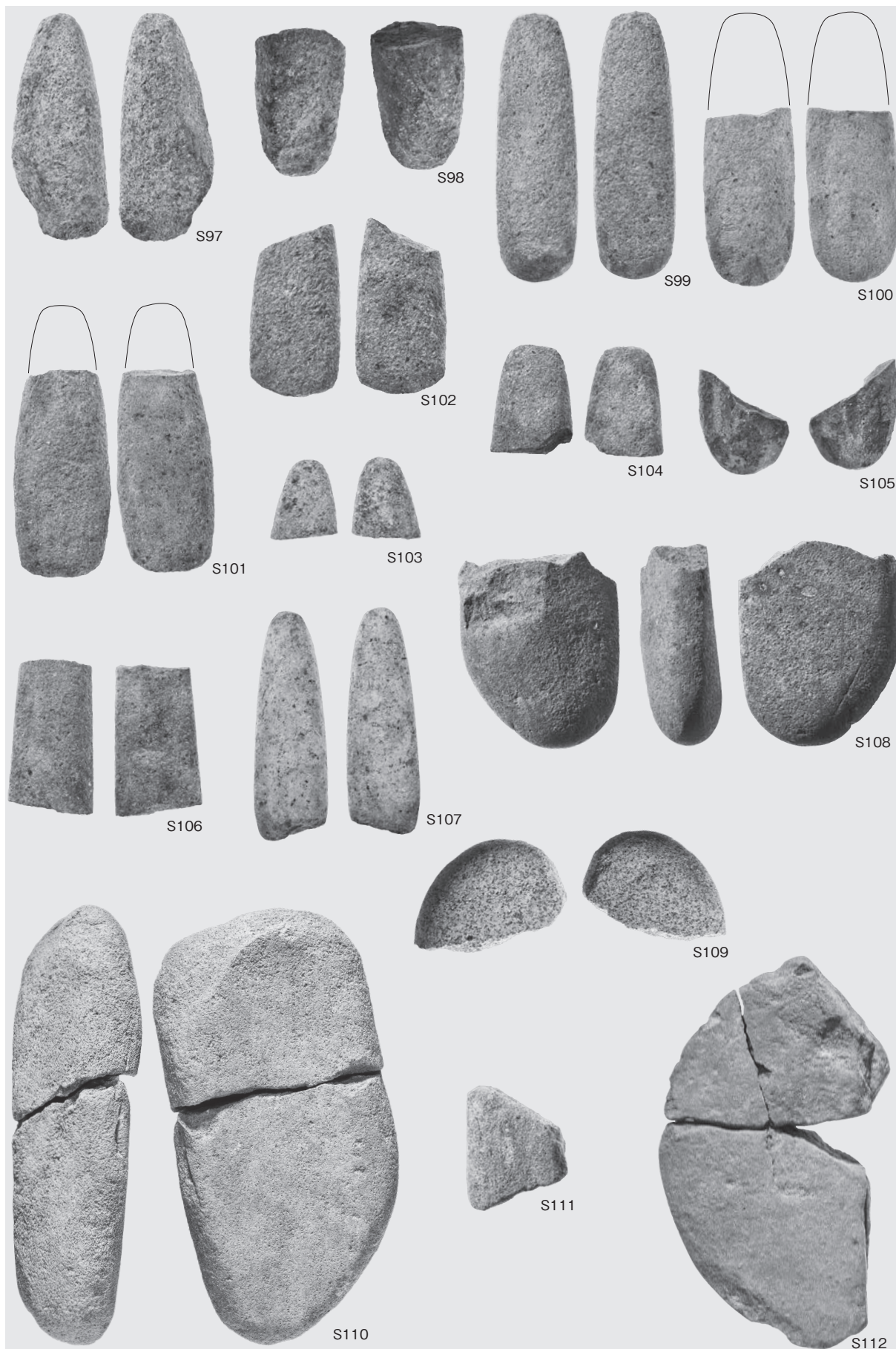
写真図版72 出土遺物(19)



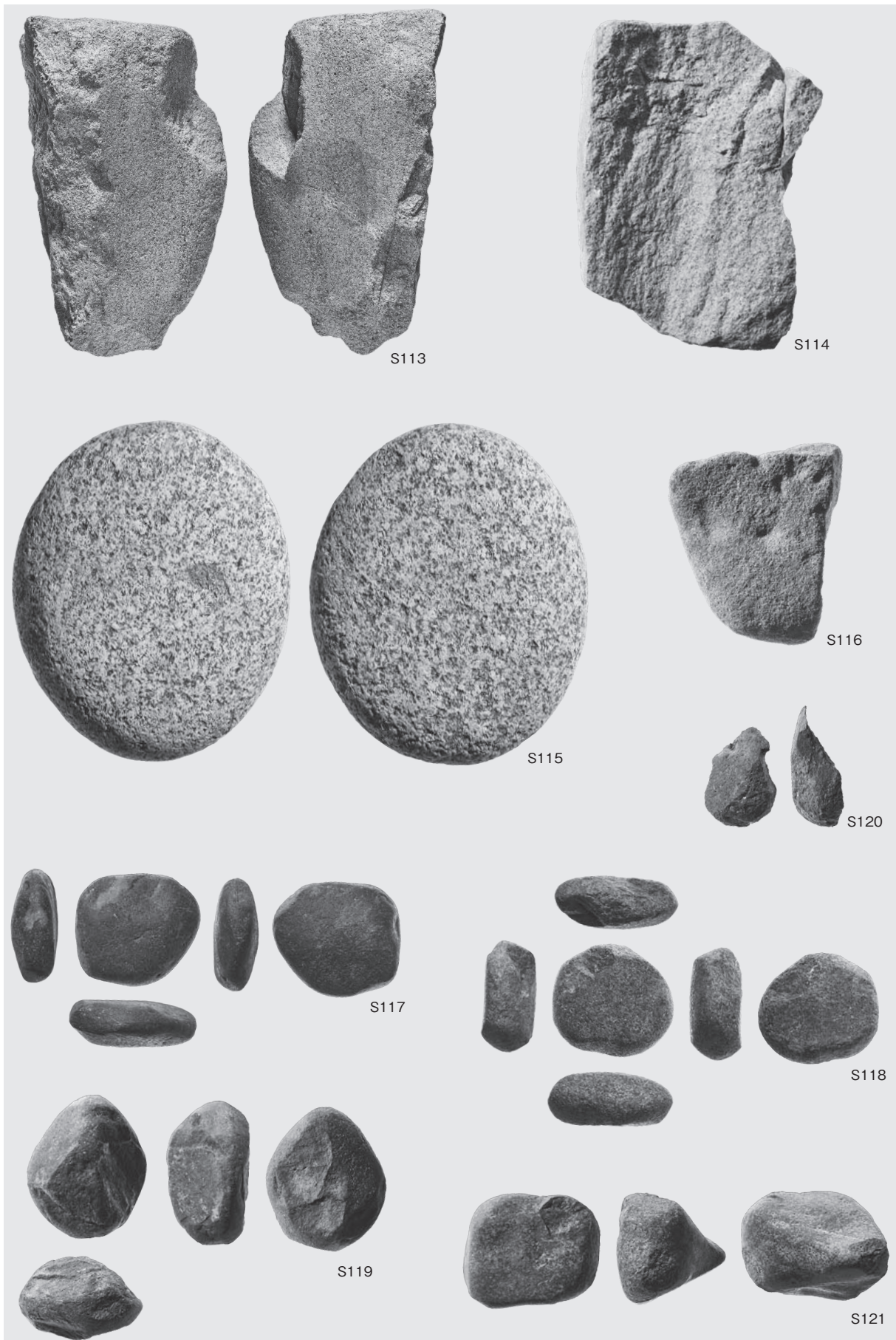
写真図版73 出土遺物(20)



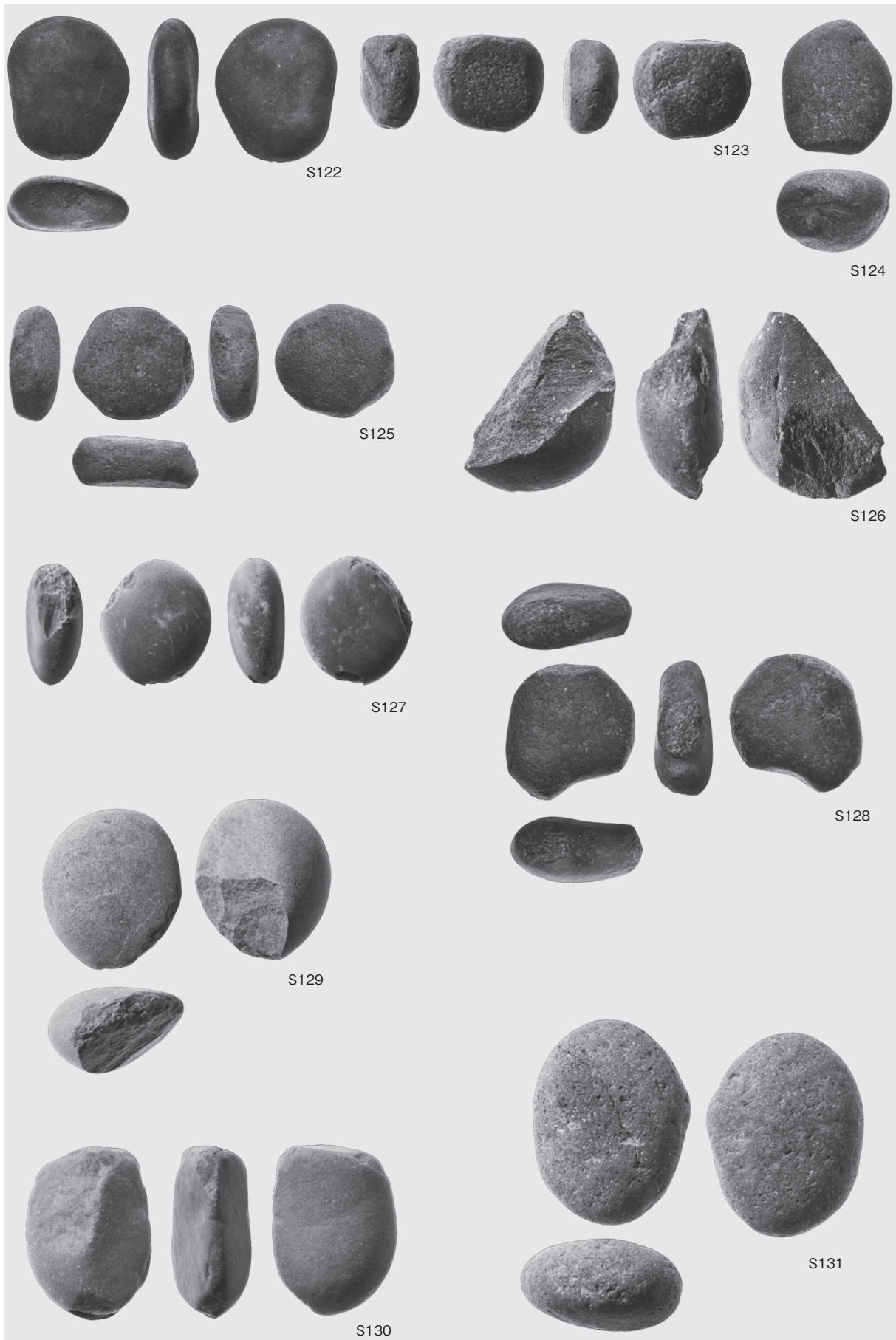
写真図版74 出土遺物(21)



写真図版75 出土遺物(22)



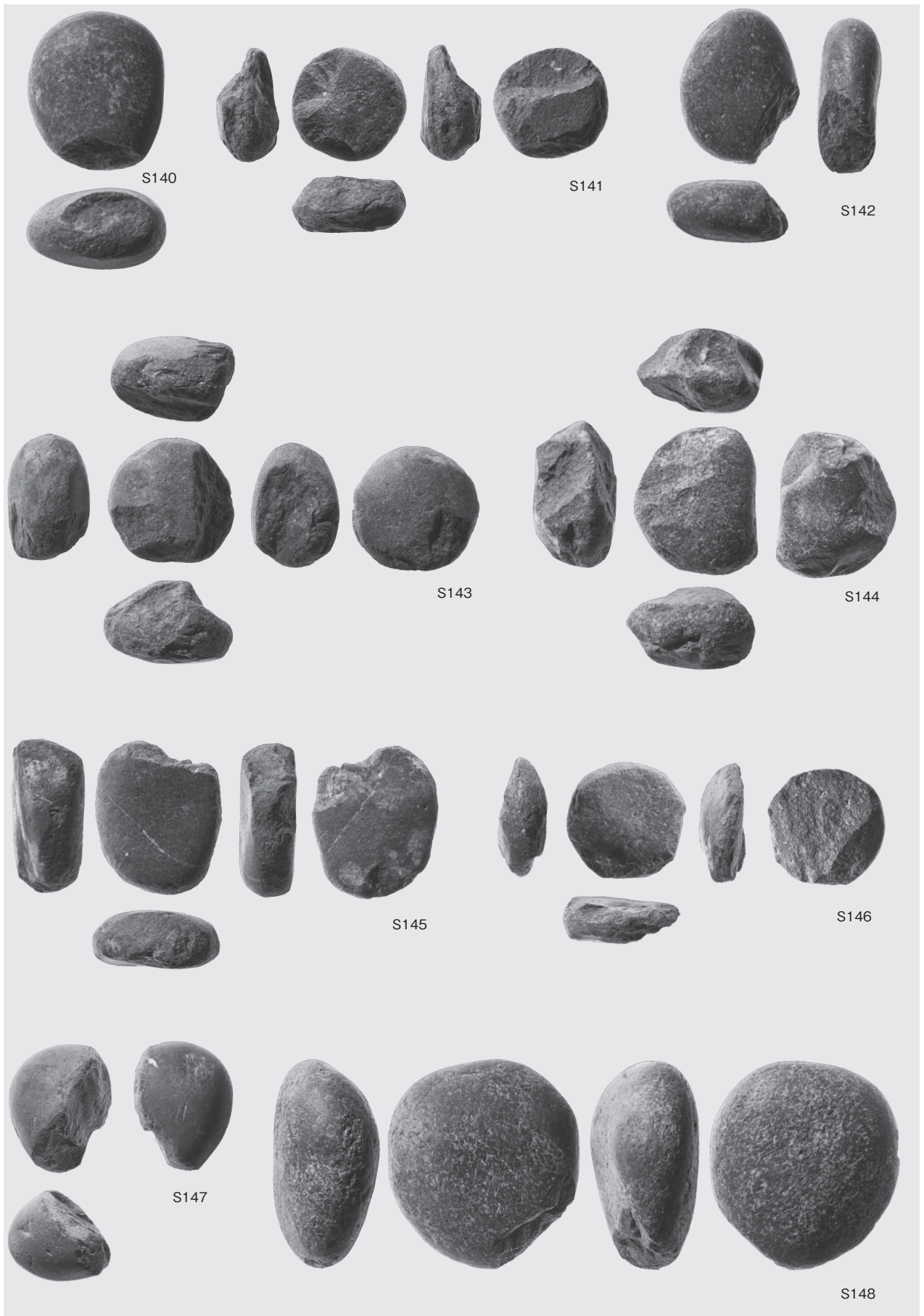
写真図版76 出土遺物(23)



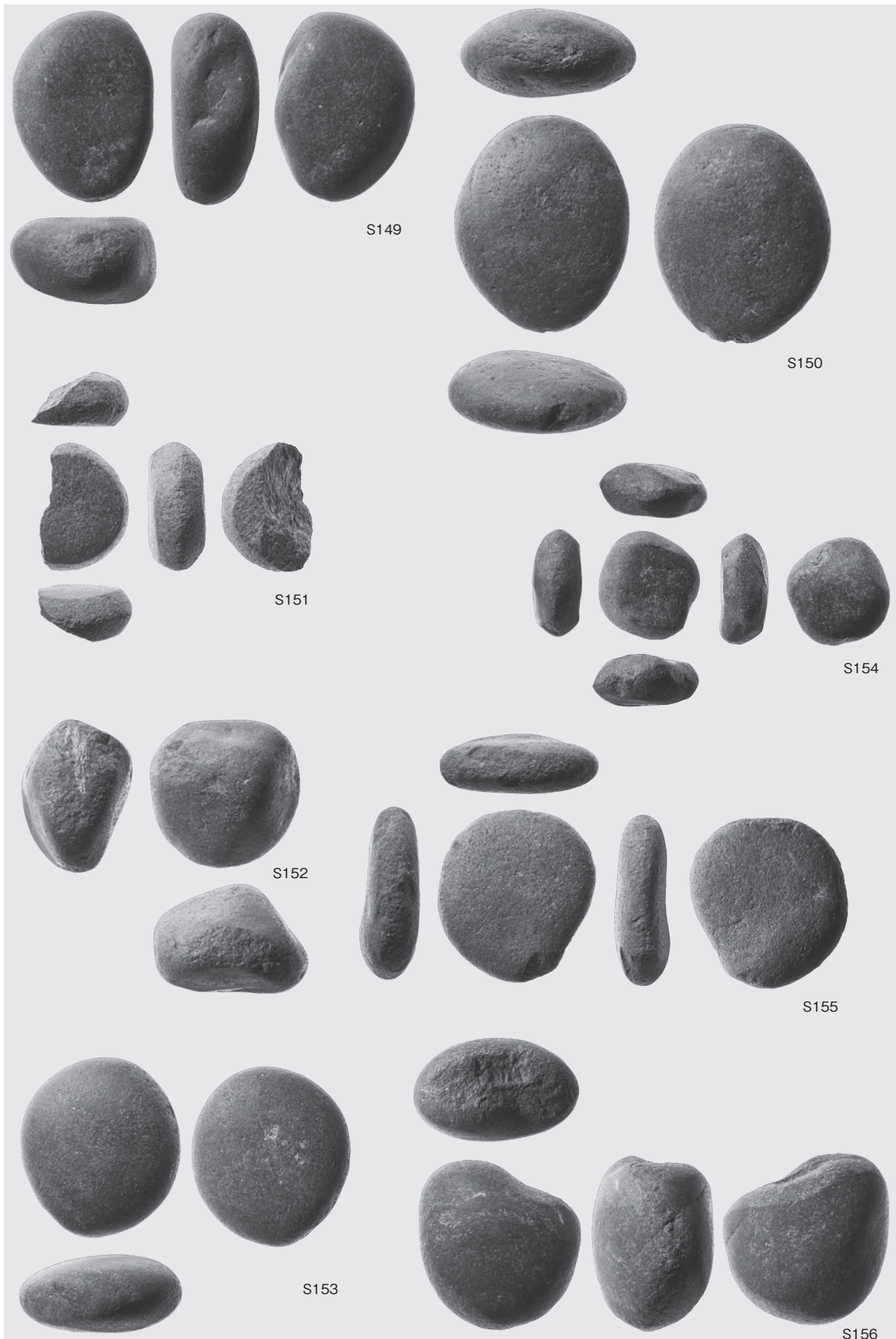
写真図版77 出土遺物(24)



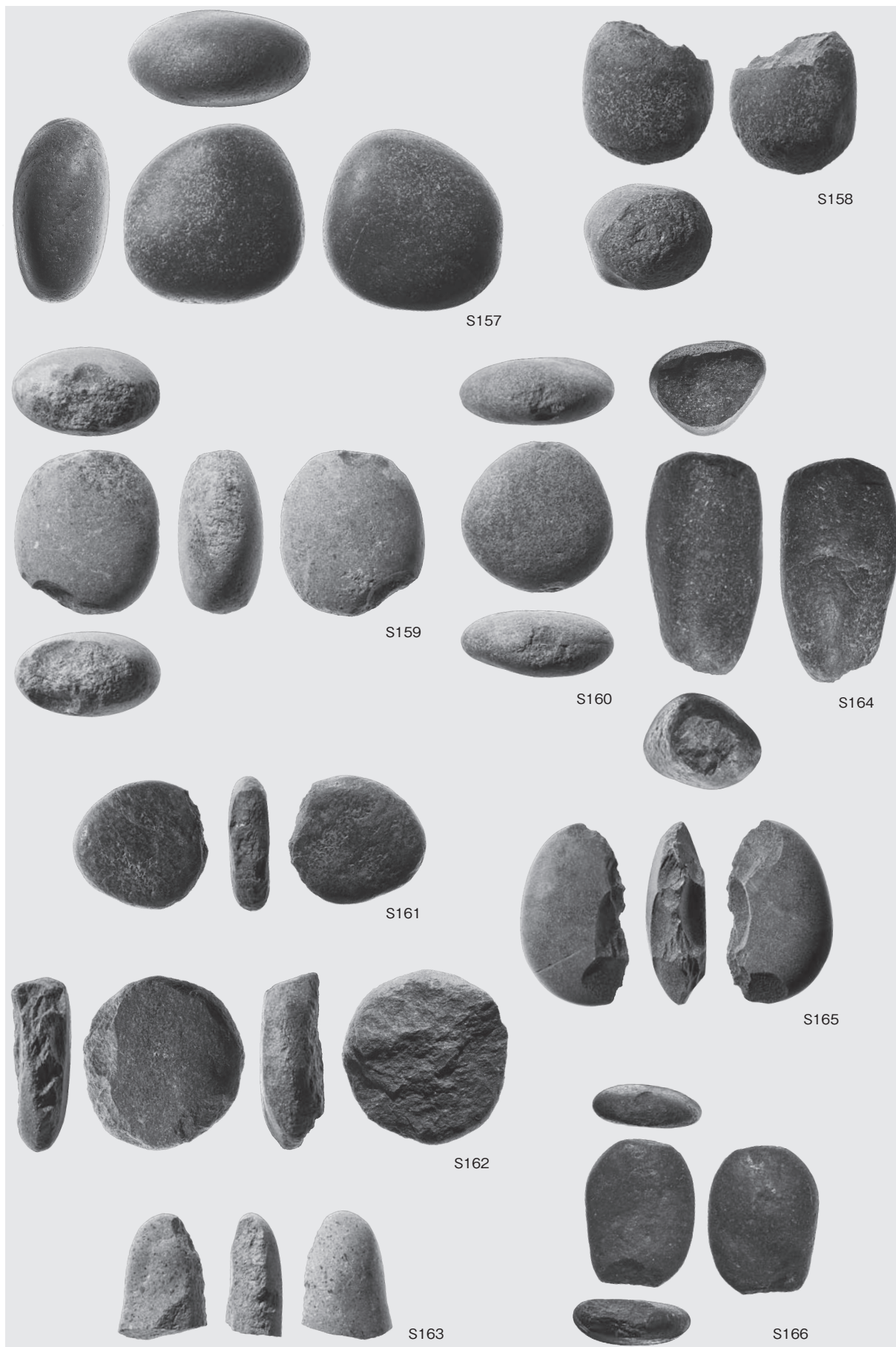
写真図版78 出土遺物(25)



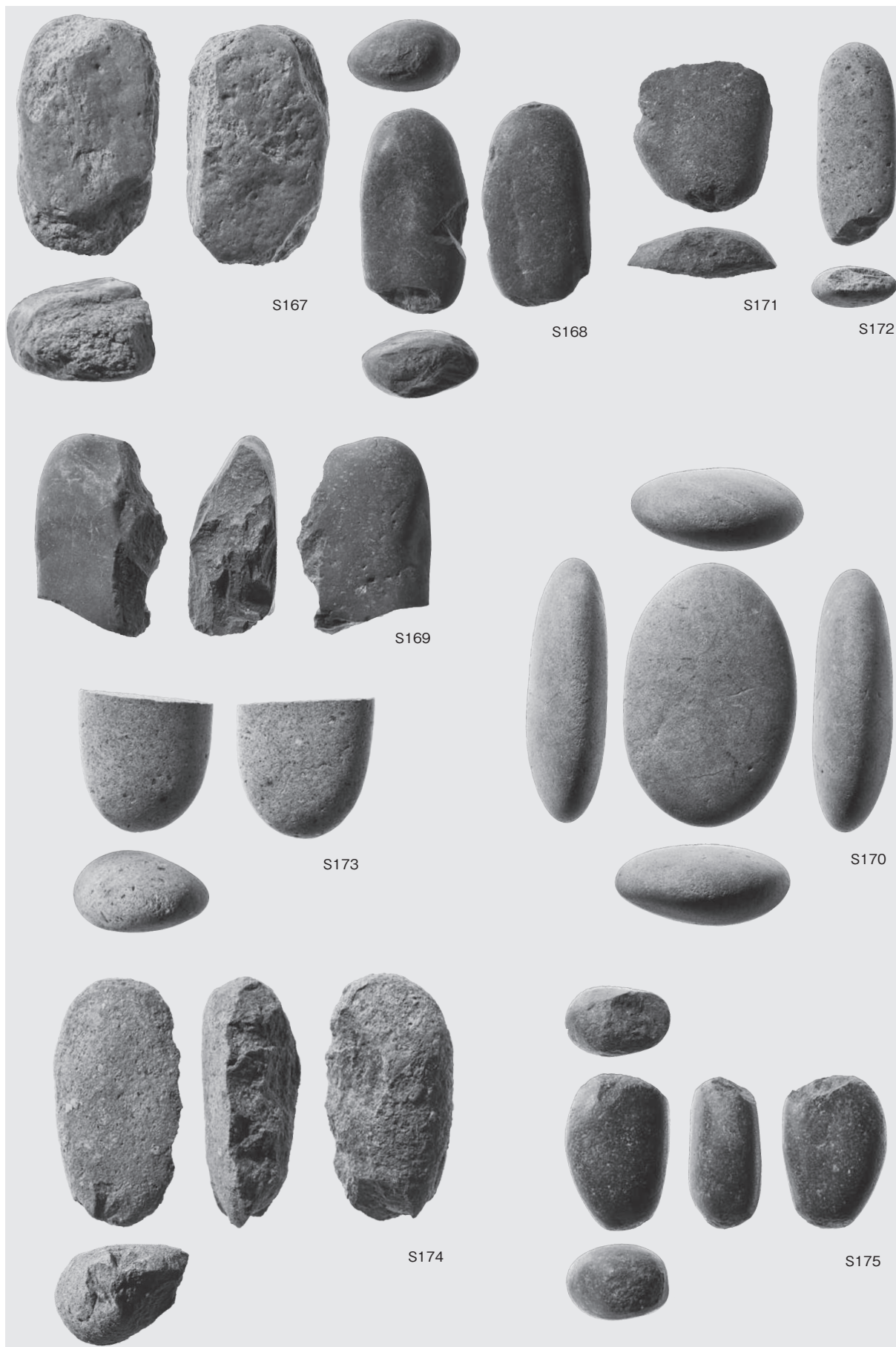
写真図版79 出土遺物(26)



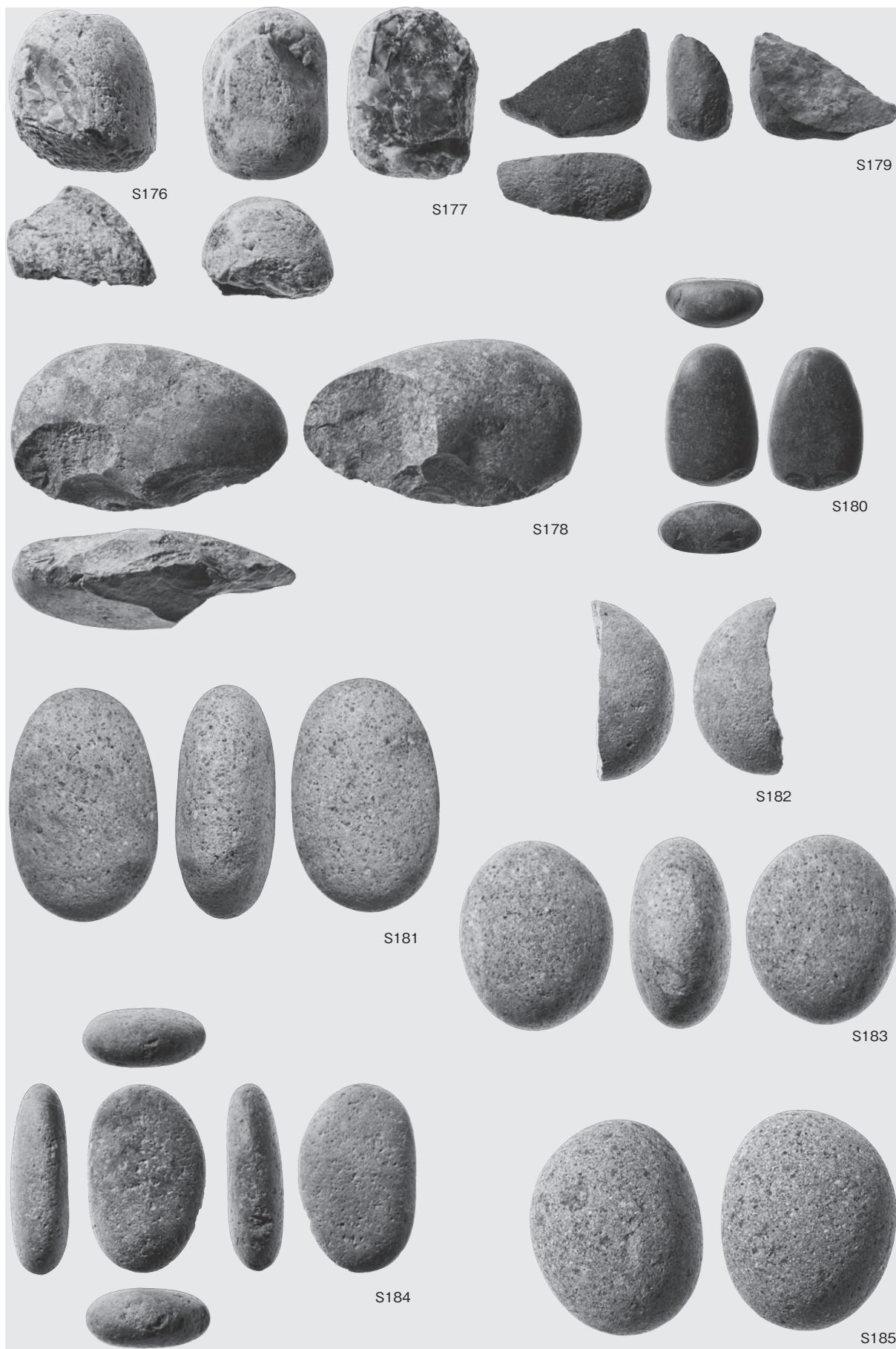
写真図版80 出土遺物(27)



写真図版81 出土遺物(28)



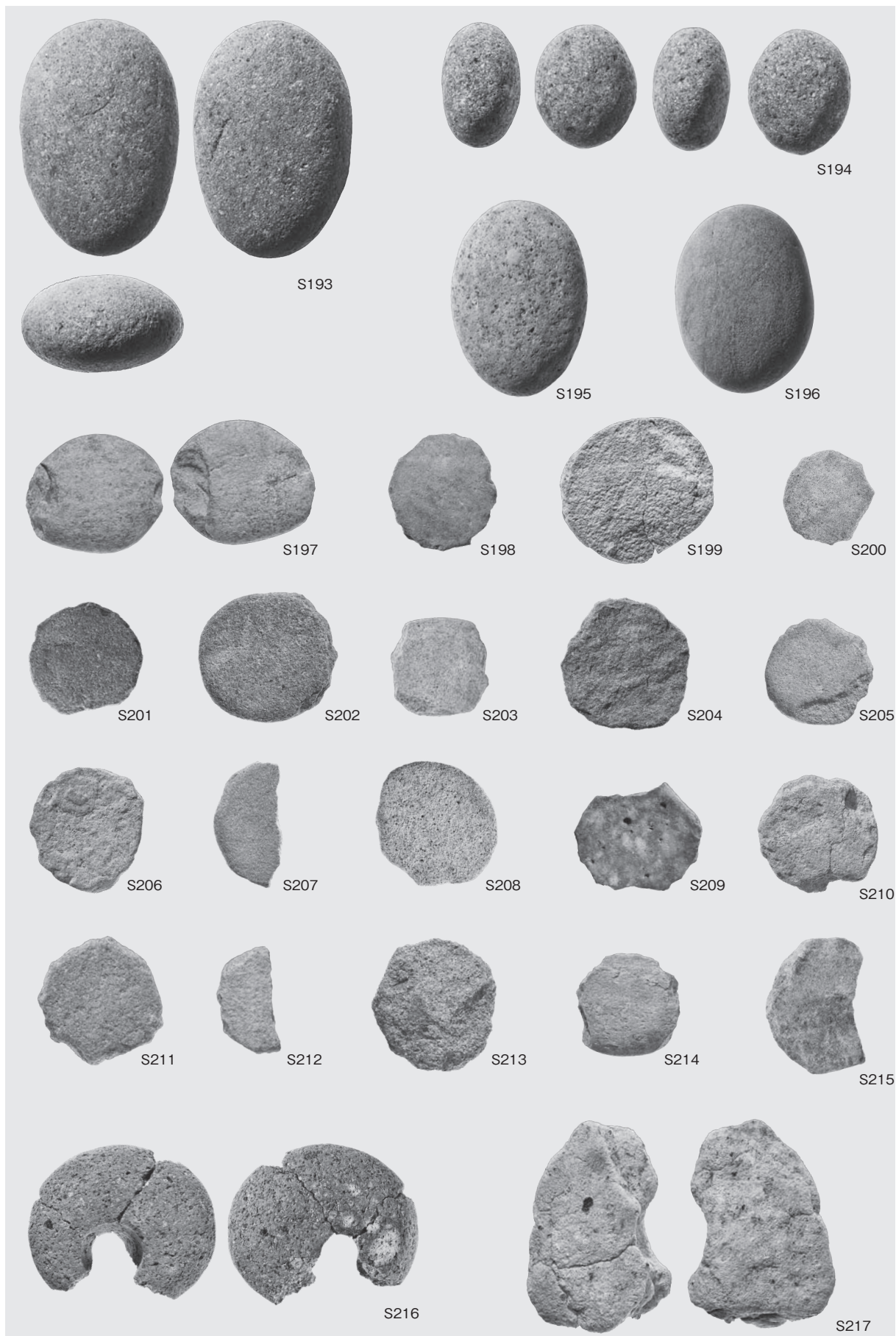
写真図版82 出土遺物(29)



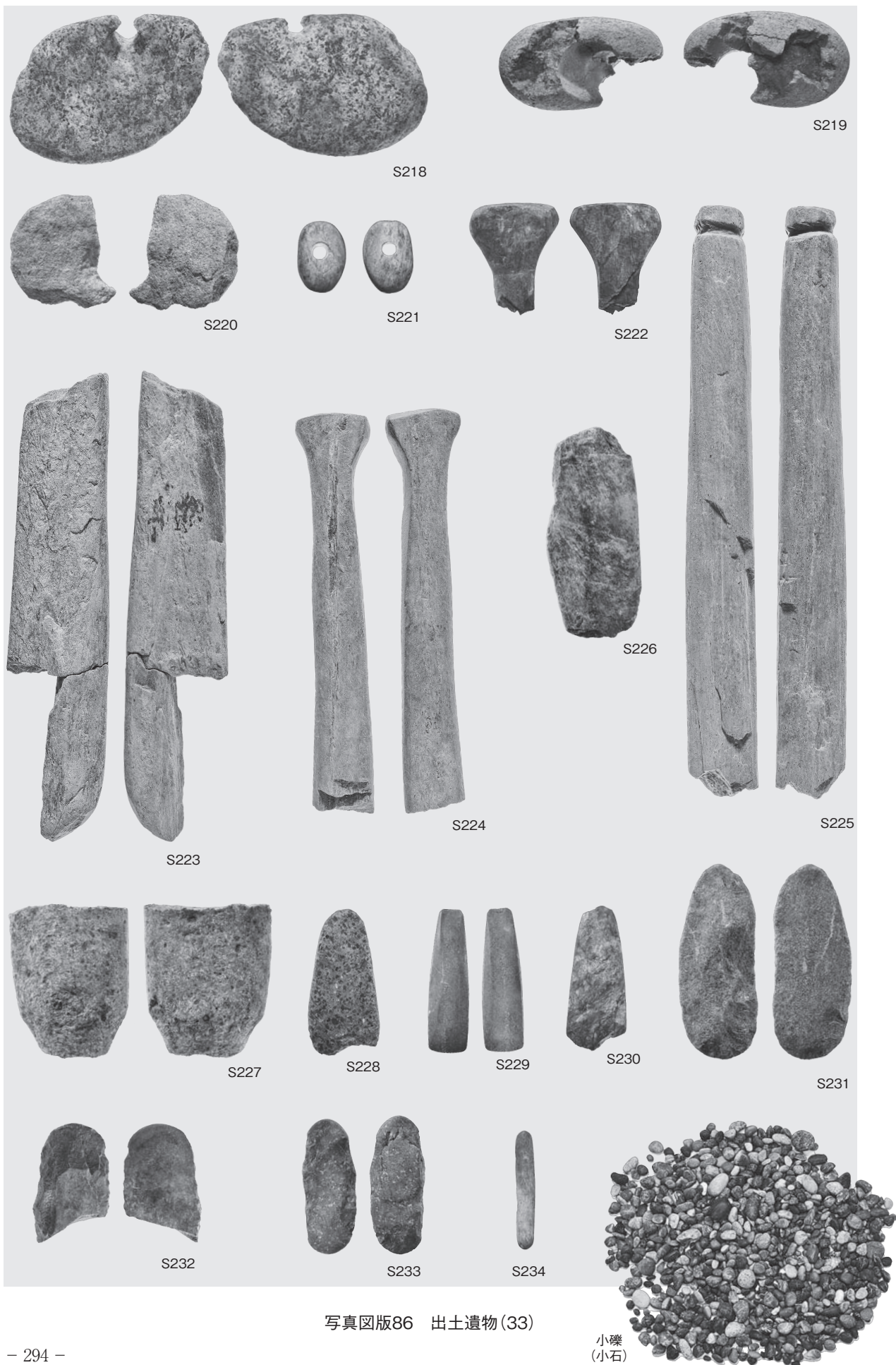
写真図版83 出土遺物(30)



写真図版84 出土遺物(31)



写真図版85 出土遺物(32)



写真図版86 出土遺物(33)

報告書抄録

ふりがな	にしひらない1いせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	西平内I遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第673集							
編著者名	濱田宏・宮内勝巳・藤田崇志・川村均							
調査機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2017年3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしひらない1いせき 西平内I遺跡	いわてけんくのへぐん 岩手県九戸郡 ひろのちょうたねいち 洋野町種市第 37地割地内	03507	IF48-0041	39度 31分 23秒	141度 55分 44秒	2014.06.02 ～ 2014.11.28 2015.04.20 ～ 2015.10.02	5,500㎡	三陸沿岸 道路道路 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
西平内I遺跡	散布地	縄文時代 後期 初頭～前 葉	竪穴住居跡 5棟 竪穴状遺構 1棟 掘立柱建物跡 5棟 陥し穴状遺構 16基 土坑 37基 焼土遺構 14基 炉跡 10基 埋設土器 4基 柱穴 10個 配石遺構(外帯集石群)62基 配石遺構(内帯石列)1基 整地層 2枚			縄文土器 (早・前・ 後期)、石 器、土・ 石製品	石斧の製作に関わ る集落でもあった。	
		弥生時代				弥生土器 (後期)		
要約	岩手県九戸郡洋野町に所在する本遺跡からは、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群と2枚の整地層を確認し、さらにその整地層の下からは直径25m前後の弧状をなす石列を検出した。また、これらは複数の石の集合体からなる外側のものと、整地層下の内側に弧状に巡る石列という二重構造をなすことが判明した。出土遺物には、当該期の土器や土偶、鐸形・円盤状の土製品、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるものが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数がきわめて多いという特徴が見られた。2年目の調査では、内帯の石列よりも確実に古い竪穴住居が複数棟確認され、配石遺構構築以前から構築時までの様相が明らかとなり、貴重な成果となった。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

西平内 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成29年 3月10日

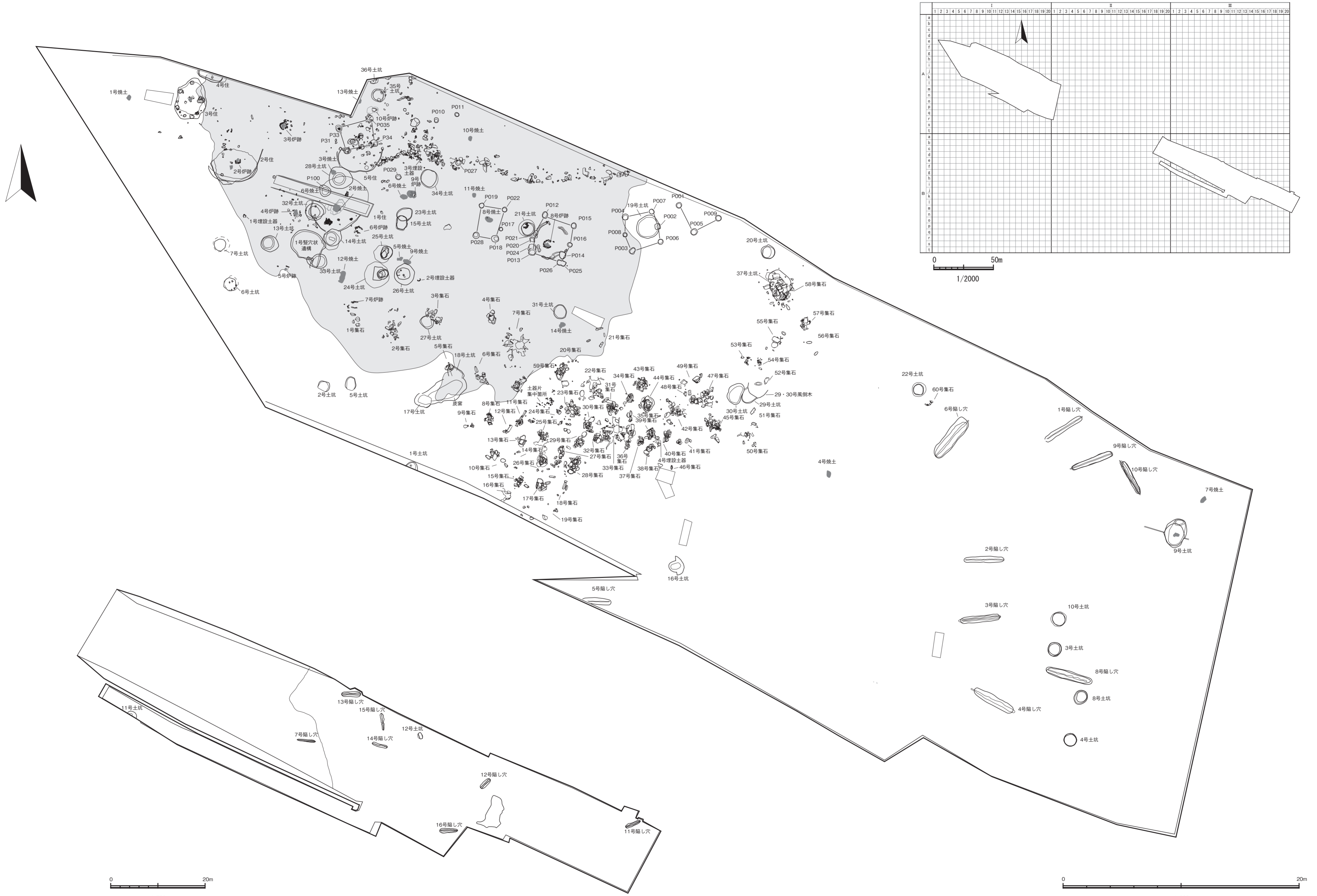
発行 平成29年 3月17日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

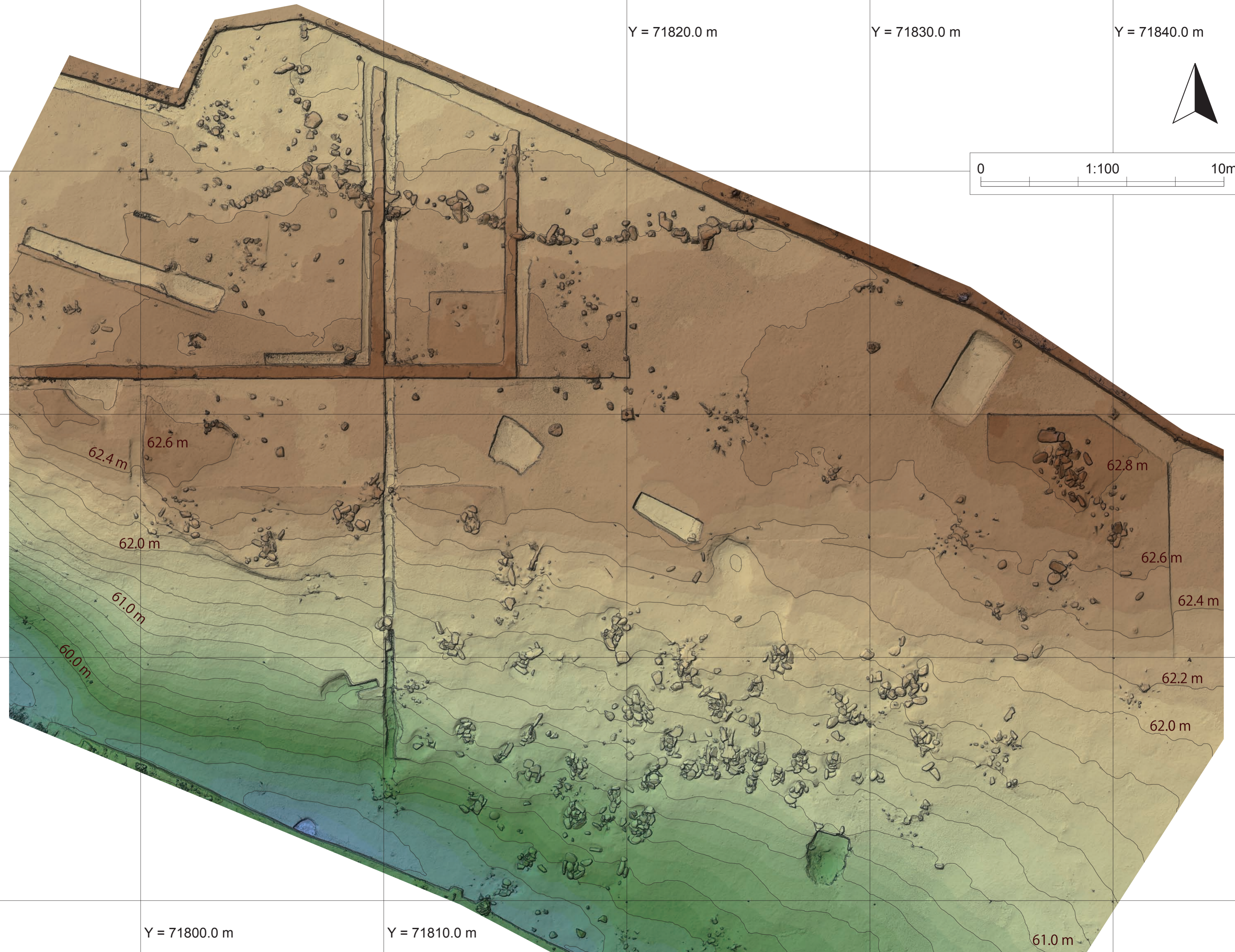
発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193) 71-1716

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印刷 (株)杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目22番地50号
電話 (019) 641-8000



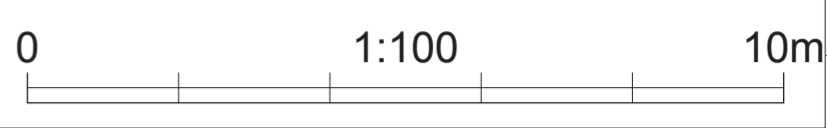
付図1 遺構配置図



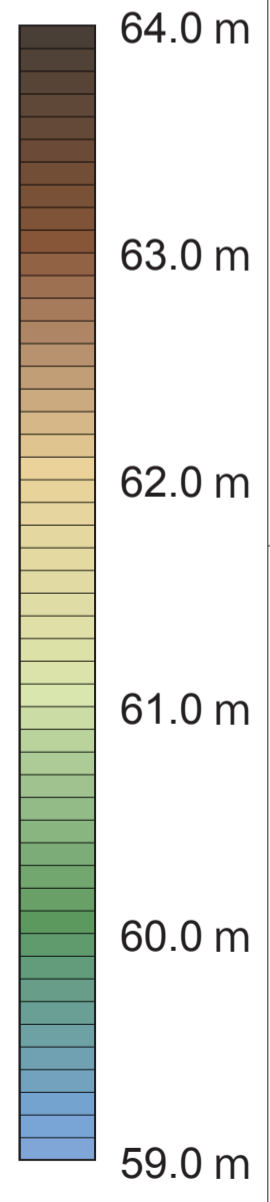
Y = 71820.0 m

Y = 71830.0 m

Y = 71840.0 m



標高



Y = 71790.0 m

Y = 71800.0 m

Y = 71810.0 m

61.0 m

付図2 立体遺構図

